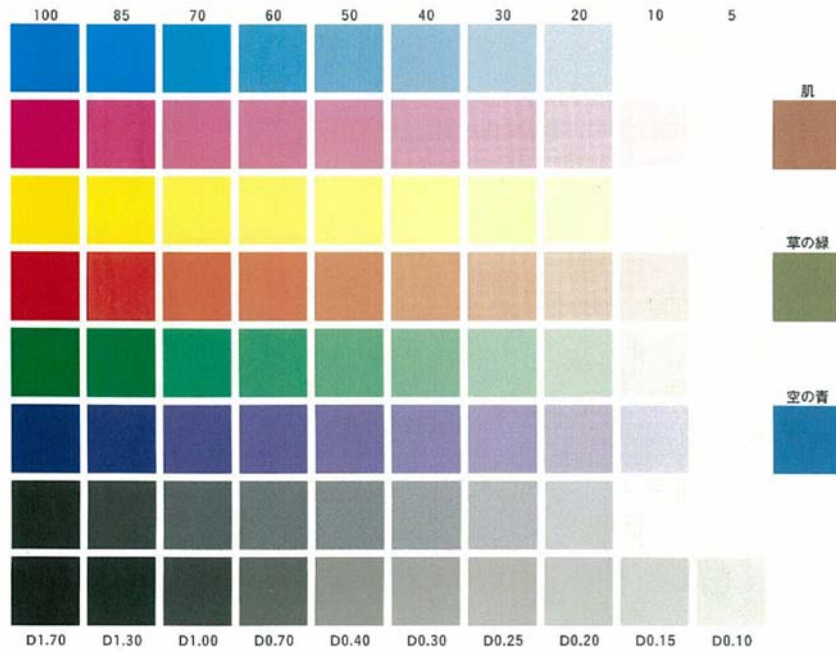


関西大学大学院文学研究科文化交渉学専攻

博士学位論文



## 言語接触による近現代中国語変容の研究



平成 23 年 11 月

関西大学大学院文学研究科文化交渉学専攻

09D2201 稲垣智恵

## 凡例

- 1) 中国語表記、日本語表記共に本文中では原則的に現代日本漢字を用いるものとする。正規表記は典拠とした資料を参照されたい。
- 2) 引用文の句読点は典拠とした資料による。
- 3) 日本語文献及び日本語表記は『』「」を用いて表し、中国語文献及び中国語表記は《》〈〉“”‘’を用いて表す。
- 4) 資料は論文中に初めて用いられた場合、著者・年次・頁数に加え、適宜タイトルを記すが、以降は“傅斯年 (1919: p. 13)”のように初出年、ページ数を括弧内に表す。ページ数は典拠とした資料による。
- 5) 初出年は基本的には雑誌などに初めて掲載された期日より記す。そうでない場合は各自注釈をつける。
- 6) 年号は基本的に西暦を用いる。また、各世紀初めの10年間は、「XX00年代」と表す。例えば1900年から1909年までは「1900年代」と表す。1900年から2000年までを指す場合には、「20世紀」と表す。

## 目次

凡例.....	i
目次.....	ii
<b>序章</b>	
1. 本研究の背景及び目的.....	1
2. 研究内容.....	5
3. 研究の意義.....	11
<b>第1章 形態変化について</b>	
——接尾辞「的」の受容及び“程度副詞+名詞”構造——	
はじめに.....	13
1. 日本における接尾辞「的」の成立.....	14
2. 20世紀初期までの中国における“的”.....	18
3. 日本語接尾辞「的」を巡る論争.....	27
4. 日本語接尾辞「的」の翻訳に関して.....	39
おわりに.....	63
<b>第2章 アスペクトについて</b>	
——経験義を表す“過”——	
はじめに.....	67
1. 先行研究.....	67
2. 伴う動詞に関して.....	72
3. 19世紀以前.....	78
4. 20世紀以降：魯迅の例を中心に.....	89
余論.....	102
おわりに.....	104

### 第3章 修飾構造について

#### ——“定語＋人称代詞”構造——

はじめに.....	107
1. 先行研究.....	107
2. 19世紀以前の用例.....	116
3. 20世紀以降の用例（1）：中国語及び欧米語翻訳における状況.....	123
4. 20世紀以降の用例（2）：日本語翻訳における状況.....	132
おわりに.....	150

### 終章

1. 各章のまとめ.....	153
2. 文化交渉と言語変化：西洋-日本-中国間における「新興語法」.....	156

参考文献目録 .....	159
--------------	-----

### 資料編（別冊）

#### 凡例

#### 第1章例文

資料1：《新青年》における日本語からの翻訳文章

資料2：《現代日本小説集》における日本語からの翻訳文章

資料3：《宣伝、煽動手段としての映画》における日本語からの翻訳文章

資料4：《日本短篇小説集》における日本語からの翻訳文章

#### 第2章例文

資料5：魯迅著作作品における“過”の使用例

資料6：魯迅翻訳作品における“過”の使用例

資料7：今回使用した魯迅著作作品

資料8：今回使用した魯迅翻訳作品

#### 第3章例文

資料9：「連体修飾語＋人称代詞」→他の構造

資料10：他の構造→“定語＋人称代詞”

資料11：「連体修飾語＋人称代詞」→“定語＋人称代詞”

## 序章

### 1. 本研究の背景及び目的

本研究は、19世紀末から20世紀初頭に起こった中国語の変化、そしてそれが如何に受容、淘汰され、現在の中国語を形作っているかについて、言語接触の観点から明らかにしようとするものである。

1917年1月、胡適が雑誌《新青年》第2巻第5号に〈文学改良芻議〉を發表したことをきっかけに広がる白話運動は、近代中国語を考える上で一つの重要な転換点である。この時期、中国語は筆記言語の改革を成し遂げただけでなく、多くの知識人が中国語の「表現」のため試行錯誤を繰り返す、言語的に大きく変化していった。その変化の中には、外国の書物を翻訳することで生じた多くの外来表現の受容、淘汰という過程も含まれる。特に日清戦争後から五四運動期、すなわち1895年から1919年頃にかけて大量に導入されていた日本語からの借用語が、中国語が変化する上で大きな影響を与えていたことは、先行研究で既に明らかにされている。また、当時の知識人が中国語の改革を語る際、度々日本で起こった言文一致運動について言及していることを踏まえても、この時期の中国語の変容を語る上で、日本語との言語接触は避けて通ることのできない大きな問題であると考えられる。

「日本語の影響」という観点も含めた、近代における言語接触・交流の研究は、沈国威(2008)<sup>1)</sup>、朱京偉(2003)<sup>2)</sup>など、語彙研究、特に科学語彙に関する研究が中心に行われている。しかし、近代中国において、異なる文法構造を持つ外国語の書物が多く「直訳」という形で中国語に翻訳されたことは、中国語の文法的表現方法にも大きな影響を与え、その表現力を増やしたと考えられる。近現代の中国語を見る上で、文法の問題から目を逸らすことはできない。

だが、これら中国語の文法的表現に関する言語接触・交流の研究は王力(1943)(1944)<sup>3)</sup>、太田辰夫(1958)<sup>4)</sup>、北京師範学院中文系漢語教研组編著(1959)<sup>5)</sup>、大河内康憲(1962)<sup>6)</sup>、

<sup>1)</sup> 沈国威(2008)『近代日中語彙交流史：新漢語の生成と受容』

<sup>2)</sup> 朱京偉(2003)『近代日中新語の創出と交流：人文科学と自然科学の専門語を中心に』

<sup>3)</sup> 王力(1943)《中国語現代語法》、(1944)《中国語法理論》

<sup>4)</sup> 太田辰夫(1958)『中国語歴史文法』

<sup>5)</sup> 北京師範学院中文系漢語教研组編著(1959)《五四以来漢語書面語言の変遷和發展》

<sup>6)</sup> 大河内康憲(1962)「白話による初期の翻訳文体について」

刁晏斌(1998)<sup>7)</sup>など優れた先達の研究において触れられてはいるものの、「言語接触による文法表現の変容」を主軸に捉えた研究は数が少なく、賀陽(2008)<sup>8)</sup>、Kubler(1985)<sup>9)</sup>など若干の研究が見られるのみであり、まだ研究の余地を残している。さらに、これら研究では、外国語の影響を受けた文法表現のことを多く「欧化語法」と表し、西洋の言語、特に英語との関係から述べようとした研究がほとんどである。王力(1943: p. 300)は、“所謂欧化、大致就是英化、因為中国人懂英語的比懂法德意西等語的人多得多。(いわゆる欧化とは、大体は英化のことである。なぜならば、英語のわかる中国人は、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン語などに比べて数が非常に多かったからである(拙訳))”としており、その後の研究者も、ほとんどが「20世紀初頭に起こった中国語の文法表現の変容は欧米諸語、特に英語が大きく関わっていた」としている。中には、北京師範学院中文系漢語教研组編著(1959)、刁晏斌(1998)のように<sup>10)</sup>、一部日本語の影響を受けた例を挙げた研究もあり、また、沈国威(2011)<sup>11)</sup>のように、日本語の影響を考察する必要性を説いた先行研究もあるが、しかし傅斯年(1919a)(1919b)<sup>12)</sup>など、当時の知識人に指摘されていたにもかかわらず、これまで、言語接触による近現代中国語の文法的な変容に関して、「日本語の影響」はほとんど具体的に言及・研究されてこなかったのである。

照事實看来，中国語受欧化，本事件免不了的事情。十年以後，定有欧化的国語文学。日本是我們的前例。日本的語言文章。很受欧州的影響。我們的說話做文，現在已經受了日本的影响，也可算得間接受了欧化了。

實際のところ、中国語が欧化することは避けられないことである。10年後には、きっと欧化した国語文学が現れるはずである。日本は我々の前例で、日本の言葉や文章は、非常に欧州の影響を受けている。我々の言葉や作文は、現在既に日本の影響を受けており、つまりは間接的に欧化しているのである。

(傅斯年(1919a))(拙訳・下線部筆者)

<sup>7)</sup> 刁晏斌(1998)《初期現代漢語語法研究》

<sup>8)</sup> 賀陽(2008)《現代漢語欧化語法現象研究》

<sup>9)</sup> Kubler(1985)《白話文欧化語法之研究》

<sup>10)</sup> 王力(1944)でも、例えば“定語+人称代詞”構造のように、日本語の影響に若干触れてはいる。

<sup>11)</sup> 沈国威(2011)《現代漢語“欧化語法現象”中的口語因素問題》

<sup>12)</sup> 傅斯年(1919a)〈怎樣做白話文〉、(1919b)〈訳書感言〉

これについて、沈国威（2011: pp. 147-148）は次のように指摘している。

這是因為，一，從語言形態論上看，漢語是 SVO 型語言，而日語則是 SOV 型，分別屬於不同的語系，完全是異質的語言，故產生影響的可能性較小。二，中國需要吸收的是西方的新知識，而不是日本的知識。……尤其是考慮到以下的事實，所謂的“歐化語法現象”中是否存在着大量日語因素也就成了一個必須思考的問題了。即，

1. 日語圖書多為西方書的譯本：
2. 截至五四時期為止東文圖書翻譯的數量遠較西方譯書的數量要多，許多西方的重要書籍其實，首先是從日語轉譯的：
3. 報刊等各類媒体中的日語資源（包括資料來源及編纂人員的日語知識）：
4. 對現代漢語形成產生過重大影響的政治家、啓蒙家、文學家等社會精英層的日本背景：
5. 日語翻譯群體的規模和形成時期：

……我們必須認識到：日語的影響不僅僅限於詞彙的層面。日語在 1890 年代不但完成了詞彙体系的建構，文章体裁也逐漸擺脫了“漢文”的束縛，譯成漢語的日語書更多的是日本人翻譯的西方書，在這書里所謂“洋文脈”，即“歐化語法”比比皆是。

（「歐化語法現象」に関して日本語の要素が考慮されなかった理由は）第 1 に言語形態論的にみると，中国語は SVO 型，日本語は SOV 型の言語であり，異なる語系に属する全く異質な言語であるため，影響が発生する可能性は比較的少ないからである。第 2 に，中国が吸収する必要があったのは西洋の新しい知識であり，日本の知識ではないからである。（中略）しかしながら特に以下の事実を考慮すると，所謂「欧化語法現象」の中に，日本語要素が存在しているかどうかについても考えねばならない問題となるのである。

1. 日本語書籍には西洋の訳本が多かったこと
2. 五四時期に至るまで，日本語圖書の翻訳数量は，西洋の訳本よりも遙かに数量が多く，多くの西洋の重要な書籍は，実のところまず日本語から重訳されたこと
3. 新聞雑誌などの各種メディアにおける日本語資源（資料のソース及び編纂者の日本語知識も含む）
4. 現代中国語の形成について重大な影響を及ぼした政治家，啓蒙家，文学者ら

社会的エリートの背景に日本があること

##### 5. 日本語翻訳グループの規模と形成時期

（中略）日本語の影響は語彙方面だけに限られたことではない。日本語は 1890 年代に語彙体系的構築を完成させただけでなく，文章体裁も徐々に「漢文」の束縛から抜け出した。中国語に翻訳された日本語の書籍の多くは日本人が翻訳した西洋書籍であり，これらの書籍の所謂「洋文脈」は即ち「欧化語法」と同じものである。

（拙訳，要約）

確かに，中国語における新たな文法表現，新興語法の発生は，欧米語語の影響を大いに受けていたことは間違いない。しかし，魯迅，周作人，梁啟超，陳独秀など，当時の知識人の多くが日本に留学し，西洋の書物を訳す際には日本語訳書を介していたことも多かったことを考えると，沈国威（2011）に既に指摘されている通り，文法的な影響についての「外国語」も，語彙と同じく，西洋の言語だけに定義するのは適切ではない<sup>13)</sup>。日本語からのもの，または日本語を介した「間接的な欧化語法」と呼べるものも含め，西洋，日本，中国という 3 点から考えるべきである。特に，口語資料を考察する上では小説や劇本が有用になってくる。近代において日本からの翻訳が最も盛んであったのは，譚汝謙

（1980: p.41）によれば 1912～1937 年の間であり，小説類が大量に翻訳されるのは，1920 年代に入ってからのものであるが，20 世紀初頭の翻訳では，それが重訳であると明記していない場合も多く，これらの数字にも，日本語を介した重訳を含めてはいない。しかし例えば，谷行博（1979）<sup>14)</sup>では魯迅・周作人兄弟の発表した《域外小説集》中に日本語翻訳を参照にした作品があることを指摘しており，また，同じく魯迅の初期の翻訳作品《月界旅行》，《地底旅行》もそれぞれ井上勤『九十七時二十分間 月世界旅行』（1880），三木愛華・高須墨浦『拍案驚奇地底旅行』（1885）からの重訳である。これらの状況を考えると，「日本

<sup>13)</sup> 当時の中国における翻訳・重訳に関しては，傅斯年（1919b）が以下のようにも述べている。

“然而中国人学外文已經很久了，翻譯的效果，何以這樣稀薄呢？論到翻譯的書籍，最好的還是幾部從日本轉販進來的科學書，其次便是嚴譯的幾種，最下流的是小說。”

（しかし中国人は外国語を長らく学んではきたが，翻訳の効果はなぜこんなに希薄なのだろうか。翻訳書籍をいうならば，最もよいものはやはり日本から輸入した科学書で，その次は嚴復訳の何種類か，最も低級なのは小説である。（拙訳）

<sup>14)</sup> 谷行博（1979）『『謾・黙・四日』（上）：魯迅初期翻訳の諸相』

語からの小説翻訳」は「日本人の書いた小説」がほとんど顧みられなかった時期から始まっていたと言える。

また、これらに加え、近代に現れたこれら新しい中国語表現は、現在に至るまで、実際の使用を通じてさらに淘汰、変化していったことを踏まえると<sup>15)</sup>、其時性という横軸だけでなく、通時性という縦軸も視野に入れ、近現代の中国語として研究を行うべきである。

本研究の主眼点及び独創性は以下の3点にまとめられる。

- 1) 近代から現代に至るまでの通時的な研究
- 2) 文法的な表現の変遷に関する研究
- 3) 中国・西洋だけでなく、中国・日本との関係も視野に入れた言語交流の研究

本研究では19世紀末から20世紀初頭、五四時期前後に生じた新たな文法表現を「新興語法」とし、西洋に加え、日本と中国という視点を軸に、近現代における中国語の様相について明らかにする。

## 2. 研究内容

### 2-1. 新興語法について

まず、本研究で言う「新興語法」とは基本的には前項でも述べたように、「欧化語法」と呼ばれる、五四時期前後に外来要因で生じた新たな文法表現のことを言うが、では、「欧化語法」とは何か。「欧化語法」を語る上でのキーワードは「白話」と「翻訳」の二つである。

沈国威(2011: p. 147)では「欧化語法」を次のように述べている。

“欧化語法現象”這一称呼有兩層含意，一是漢語接受了某些西方語言的特點；二是漢語的變化是西方語言影響的結果，而且這種影響是通過西文書籍的翻譯等實現的。

「欧化語法現象」という呼称には二つの意味がある。一つは、中国語がある西洋語の特徴を受け入れたということ。二つは、中国語の變化は西洋語が影響を与えた結果

<sup>15)</sup> 大原(1993「〈研究ノート〉白話文の欧化」)(1995「〈研究ノート〉白話文の欧化(承前)」)では、近代に行われたこれら新興語法の一部について、「1920年代に定着し始め、1930年代にはかなり広い範囲に広まり、中国語の中に溶け込んでいった」としている。

であり、これらの影響は西洋書物の翻訳などを通じて実現したものであるということ。

(拙訳)

本研究における「欧化語法」はこれに準じたい。またさらに賀陽(2008: pp. 32-34)では、「欧化語法の特徴」として王力、Kublerらの先行研究の視点を以下の3点にまとめ、「いくらかの問題はまだ残されているものの、これらの認識は中国語欧化の重要な特徴を反映している」としている。

- 1) 欧化語法現象が生まれる主要なルートは文章翻訳
- 2) 欧化はほとんどが英化である
- 3) 欧化は文章語にのみ限られる

(拙訳)

本研究は近代中国語の文法変容には、日本語も重要な影響を与えたという立場にたっており、2)に関しては、完全に同意することはできないが、1) 3)の点に関してはどうか。大河内(1962: p. 2)は「中国における語文運動の特殊事情は、語文運動がそれだけであるのではなく、つねに文学運動の一翼として行われることにある」とし、五四初期から新文学運動が安定期に入り、大量に外国文学が翻訳紹介されはじめ、外国語をどのような白話で翻訳するか、という問題が起こってきた1921～1923年頃の状況を《小説月報》の〈通信〉欄(語体文欧化的討論)を引用し、以下のようにまとめている。

当時の白話文はヨーロッパ語の緻密な表現との間に大きな差があった。新しく大量に中国に紹介される外国文学を同じ密度をもって中国語になおすことはほとんど不可能に近かった。しかしこのような翻訳工作をとおして論理的な言語と、白話文の表現力の貧しさをあらためて知った当時の人々は、ヨーロッパ語の緻密な表現をぜひとも白話文に写せるよう工夫しなければならぬと考えた。その結果一部の外国語に通じた知識人の間で、ともかくわかったようなわからないような欧化文体を書くことが流行する。しかし受け取る側は、少くとも外国語を読めない読者にとって、これはまったく理解しがたい白話文であった。原語が読めなければ訳文の読めない翻訳は一体なんのための翻訳かと疑われるが、ともかく創生期の白話による外国語の翻訳はそのよ

うなものであった。(要約)

実際、「1) 欧化語法(本研究では新興語法と呼ぶ)現象が生まれる主要なルートは文章翻訳である」という意見は、疑う余地がない事実であろう。新興語法は、1900~1910年代の梁啓超、陳独秀らの文章に見られる形容詞標示としての“的”の運用など<sup>16)</sup>、細かな事象としては五四以前にも発生していた。しかしこの問題が盛んに議論されるようになるのは、1920年前後からであり、白話による大量の翻訳が小説を中心に行われるようになった時期からである。そして、これら翻訳の際に用いられた幾らかの新興語法は同時に中国人自身の著作物にも現れるようになった。新興語法は白話、翻訳の二つと切り離せない関係にあると考えて間違いない。では、「3) 欧化(新興語法)は文章語のみに限られる」ものかどうか。ここで賀陽が言う「文章語」<sup>17)</sup>とは、口頭語に対する、文字で表される文章上の中国語のことであろうと思われる。王力(1943: p. 299)は次のように述べている。“(欧化)它往往只在文章上出現，還不大看見它在口語裏出現(欧化は往々にして文章上に現れるのみであり、口語にはあまり現れない)”。王力は「欧化現象」として以下の通り挙げているが、中には多音節語の増加、など語彙的な変化も含まれる。

- 1) 多音節語の増加
- 2) 主語と繫辭(判斷動詞, “是”)の増加
- 3) 文の延長。文形式や述語形式を用い二次語或いは三次語<sup>18)</sup>を構成する。

例：“那些自偏自的相信不會把他們自己的人格混到著作裏去的人們，正是被那最謬誤的幻見所欺的受害者。”“我信生活決不是我們大多數人僅僅從自身經驗推得的那樣暗慘。”

<sup>16)</sup> “的”の運用に関して、詳しくは第1章に述べる。

<sup>17)</sup> 賀陽は“書面語”と表しているが、これは文言文のことではなく、文字で書かれた文章における言語のことを指していると思われる。

<sup>18)</sup> 二次語(“次品”), 三次語(“末品”): イェスベルセンが提唱した Rank 説に基づく。王力(1943(上冊): pp. 31-44) 参照。

「人や物のどんな複合名称にも、必ず、最高に重要な語が一つあり、それに、ほかの語が從属語として連結されていることがわかる。この主要な語は、べつの語によって規定(制限、修飾)され、こんどは、この語が第三の語によって規定(制限、修飾)されることもある、という具合である。こうして、規定されるか、規定するかという相互関係に応じて、語の異なった「ランク」(rank)が確立されることになる。」  
(イェスベルセン著・安藤貞雄訳(2006: pp. 233-275)『文法の原理』)

- 4) 可能・受身表現、記号(“們”“的”“着”“化”“上”“性”)の欧化  
例：“將來的命運可以是好的，也可以是壞的(“可”が“或者如此”“未必不如此”の意味を持つ)“他沒有回家的必要。(“可能”“必要”が「首品」として用いられる)“他被選為會長。(プラス評価の出来事にも“被”が用いられる)”
- 5) 接続詞の増加  
例：“A、B 和 C”“我過去是，現在是，而且將來也還是你的忠實的朋友。”“他每天早晨吃麥片粥或麵包。(“或”を名詞に対して用いる)”その他、“因”“若(如果，如)”“雖(雖然)”の多用。“If”に対応する形で“若”，“in”“on”に対応する形で“在”，“when”に対応する形で“当”を用いるなど。“關於”“就……就……”“對於”を用いて範囲を限定する用法。
- 6) 代詞、或いはその機能をもつ語の変化・数量詞  
例：三人称“他”の書き分け及び使用の増加，事物・動物を指す“它(牠)”の使用，“為了他的名譽，史可法犧牲了他的生命。”のように代詞がそれに変わる名詞より前に来る用法，“前者”“後者”の用法，新たな数量詞の用法，“一個”“一種”などの多用，“……之一”の用法など

王力の言う「1) 多音節語の増加」など、語彙的な問題を除いても、例えば「4) 可能表現の欧化」の“他沒有回家的必要”などのような例や、「5) 接続詞の増加」の“A、B 和我”などのような王力が当時「欧化」であるとして挙げた例は現在では口語でも用いられる頻度が高い。またこの他、さらに沈国威(2011: pp. 145-146)では「欧化現象」を詳しく整理して以下のようにまとめている。

- 1) N 的結構(父親的教訓)
- 2) NV 結構(空氣污染)
- 3) PP 的 V 結構(對於電腦的迷恋)
- 4) 代詞的欧化
- 5) 第三人称代詞書面形式的性別(他 vs. 她)
- 6) 指物第三人称(它)
- 7) 指物第三人称的複數形式(它們)
- 8) 指物第三人称作主語

- 9) 人称代詞受定語修飾（聡明的我）
- 10) 区別詞的發展
- 11) 複合量詞的產生
- 12) “一+量词”的用法
- 13) “之一”用法的發展
- 14) 複合介詞的使用（關於、對於）
- 15) 在N的V（之下）
- 16) 介詞使用範圍的擴大和頻率的增加
- 17) 連詞的歐化
- 18) 助詞的歐化
- 19) 被字句的歐化
- 20) 語序的歐化現象
- 21) 并列連詞和選取連詞的語序變化
- 22) 主從複句的語序變化

毫無疑問，這個清單需要繼續充實、確定。例如我們可以在語音、詞彙、語法形式、語言使用等各方面補充一下的事實：

- a. 新詞訳詞的發生、新的造詞模式的出現
- b. 科技術語体系的建構
- c. 詞彙的多音節化
- d. 同素近義詞群的產生：改、改革、改善、改良、改變、改進
- e. 新詞綴、類詞綴的出現与頻繁使用：性、化、手、品……
- f. 形式動詞的使用：開始、進行、結束、加以、給予、施加……
- g. 複合型介詞的出現：對於、關於、作為、由於、基於

これらの例から見ると、所謂「欧化」が文章上で多く用いられる構造だとは言えるが、「五四時期における一時的なものであり、「現在において」「口語で行われない」ものと捉えるのは問題がある。当時書面語に現れた新興語法が、書面語で用いられるうちに、実際に口語として発話されるようになる可能性もあるのではないか。口語として用いられるまでに至ると、それはもはや異質な外来の文法ではなくなり、違和感のない「中国語」として運用されていると考えられる。逆に言えば、現在ではすでに違和感のない中国語表

現の中にも、これまで先行研究が挙げってきた例以外の新興語法が残っている可能性はまだあるのではないか。本研究ではこの点を踏まえ、今まで述べられて来なかった、或いは述べられてはきたが、特に日本との言語接触についての観点を欠いていた幾つかの問題について、取り扱っていく。

## 2-2. 研究のポイント

本研究のポイントは以下の通りである。

- 1) 近代中国語から現代中国語への移行期である五四白話運動時期前後を時代背景として設定することで、近現代の中国語を通時的に研究する
- 2) 清末から活発になった中国の対外交流という外的要因から、言語の変化を研究する
- 3) 語彙表現だけでなく、近代以降翻訳、白話運動の影響で生まれた文法的表現について主に研究する

以上を踏まえ、本研究では、以下3点について具体的に研究を行う。

- 1) 形態変化について——接尾辞「的」の受容及び“程度副詞+名詞”構造——
- 2) アスペクトについて——経験義を表す“過”——
- 3) 修飾構造について——“定語+人称代詞”構造——

まず、第1章では、「形態変化」という観点から、日本語の形容詞化接尾辞「的」の中国への受容・淘汰の過程を考察する。ここでは、これまで日中対照という観点からは、用法の違いなどについては多く述べられてきているが、近現代における日中言語接触を視野にいたれた研究はほとんど行われて来なかった日本語の「的」と中国語の“的”について、述べる。

次に、第2章では、アスペクトという観点から、現代中国語で「経験を表す」とされる助詞“過”について、その用法が近代以降現れた「新興語法」の可能性について探る。同じくアスペクトの“着”に関しては、これを近現代の新興語法とした先行研究が多いが、“過”に関して、新興語法との関係を指摘した研究は管見の限り見当たらないため、アスペクト及び新興語法の双方に関しての新たな見解といえるであろう。



そして、第3章では、「修飾構造」の変化という観点から、人称代詞が定語の修飾を受ける構造について述べる。本構造については、以前からこれを外国語、特に日本語からの影響を受けた新興語法であるとする意見があった。しかしながら、具体的な研究は少なく、近年では中国語固有の構造であるとする反論も現れ始めている。“定語+人称代詞”は果たして日本語由来のものか、或いは英語を主とする欧米語由来のものか。これについて例を提示しながら具体的に述べたい。

### 2-3. 研究方法

本研究では、次の作業を用いて、言語接触による近現代中国語の変容を解明していきたい。

- 1) 辞書や雑誌における翻訳作品を用い、異なる言語同士が如何に表されているか、対照・比較の方法を用いて共時的な状況を把握する。
- 2) 当該表現の変化が問題となる前後の時代の文献も参照し、その表現が外来のものか、固有のものかを確認した上で、その変化がその後受容されたかどうか、通時的に調査する。
- 3) 当該表現が受容された、或いは受容が検討された言語的背景を把握する。

また、新興語法についての知識人の見解、用法分類などからは、当時それら表現方法がどの程度受容され、または疑問視されていたかといった背景も伺い知ることが出来る。これら当時の議論も参照しながら、考察を進めていく。

### 3. 研究の意義

ことばや文字は思考を表現するためにあるが、この三者は完全に同じものではない。中国において展開された五四白話運動及び言文一致運動は、思考・ことば・文字の距離をゼロに近いものにしようと奮闘するものであった。しかしそのために現れた外来影響を大いに受けた新興語法は、却ってことばと文字表現の距離が大きく開いたものであった。しかし、その後1940年代ごろまでには、両者がお互いに歩み寄り、現代的な中国語へと姿を成したのである。この間に起こった受容と淘汰の変遷を「表現方法の変遷」という観点で考

察することで、近現代の中国語の様相が明らかにすることができるだけでなく、ヒトが思考を表現する際、どのようなパターンが最も豊かに、適切に、精密に表現できるのかについても、資料を提供できる。本研究はこれまで見落とされがちであった日本・中国・西洋間の言語表現方法の交流を解明、提示することで、文化交渉が言語に与える影響について、一つの体系を提示したいと考えている。

## 第1章：形態変化について

### ——接尾辞「的」の受容及び“程度副詞＋名詞”構造——

はじめに

「悲劇的な一生」「科学的方法」「平和的に解決する」などのような、「名詞、特に抽象的な意味を表す漢語の名詞や体言的な語および句について、体言、または形容動詞語幹をつくる」<sup>1)</sup>漢字接尾辞「的」の用法は、形態変化を持つ西欧語の形容詞を翻訳するため、日本において明治初期から使用されたとされている。近代日本ではこの他にも「現代化」の「化」や、「社会性」の「性」などのように、様々な漢字接尾辞が生み出され、多くの近代訳語と共に中国へ渡って行った。一般に中国が多く日本の近代語彙を取り入れた時期は日清戦争以降五四運動以前、1895から1919年の間とされており<sup>2)</sup>、接尾辞もこれらの新語と共に中国語に受容され、1919年から起こる白話運動の中でその用法を確立させていったと考えられる。しかし、「化」「性」などのような漢字接尾辞が現代中国語でも語に付いてその品詞を変化させる機能を持つのに比べ、接尾辞「的」は、現代中国語にも助詞“的”は存在するが、これに日本語の「的」のような品詞変更を行う機能は一般的でない。例えば、日本語で「女性的な服」といえば、「女性のような、女性らしい服」という意味であり、ここで「的」は「女性」に形容性を持たせたり、或いは「女性」という概念を抽象化している。しかし、中国語で“女性的衣服”と言った場合、これは一般に「女性の服＝女性の着る服、女性用の服」と解され、“的”は“女性”に付着し“衣服”を修飾する役目しかない。この二者の用法の差は大きく、日本語の「女性的」の主体は真に女性でなくともよいのに対し、中国語の“女性的”の主体は必ず女性でなければならないのである。両者は文脈上、近いものを指すことが可能な場合もあるが、日本語では、男性の服装を指して、「今年は（男性の）女性的な服が流行している」と表すことが可能だが、中国語では一般的には“今年流行（男人穿）女性的衣服”という「男性が女性の服を着ることが流行している」と捉えられるであろう。このような場合、“的”を使って表そうとするならば、通常は“像女性穿的衣服”など何らかの語を補ったり、語によっては“名詞＋‘化’”、“名詞＋‘風’”、“名詞＋‘式’”、“名詞＋‘性’”と表すこともある。日本語では「彼の所作は日本的だった」

<sup>1)</sup> 『日本国語大辞典』、9巻（2001: p. 604）

<sup>2)</sup> 沈国威（2008）

「精神的に落ち着かない」と言うことが可能だが、このような場合も中国語では“他的動作は日本人習慣的動作”“精神上放鬆不下来”などと訳し、直接“名詞＋‘的’”で表すことは難しい。

このように「的」と“的”は現代日中語で大きな用法のずれを持つ。もし、形容詞化接尾辞としての「的」が日本で生み出されたものだとすれば、近代中国に日本語の接尾辞「的」が渡ることにはなかったのであろうか。或いは、一旦は中国に渡ったが生き残らなかったのであろうか。それとも、近代以前の中国語の“的”には日本語の「的」のように形容詞化接尾辞としての用法があったが、その後なくなったのであろうか。

結論からいえば、接尾辞としての「的」は日本で生み出され、中国に渡り、近代中国において一度は「形容詞化の接尾辞」に近い用法を得ながらも、その用法が現代まで完全に生き残ることはなかったのである。

本稿では日本語の接尾辞「的」が、近代中国において如何に理解され、受容され、そして廃れていったのか、その変遷に考察を加え、ある言語が異なる構造を持つ言語と接触した際に起こる言語変化に対する研究の一部としたい。

なお、本稿では日本語の「的」は「」で括り、中国語は“”で括ることとする。

## 1. 日本における接尾辞「的」の成立

### 1-1. 接尾辞「的」の誕生

「平和的解決法」「社会的な問題」「文学的に見る」などのような接尾辞「的」は、現代日本語で前置される語に形容性を持たせ、「～に関する」「～のような性質をもったもの」などの意味を表すことができる。これは一見中国語の助詞“的”と似通っているようであるが、現代中国語の“的”は名詞を修飾する語を作る機能はあっても、日本語のように前置される語句に形容性を持たせたり、曖昧化したりする機能は一般にないといわれる。

明治以前の日本における「的」は、「泥的（盗賊）」「幸的（幸次郎・人名）」「猿てき（猿坂・人名）」「源てき（源七・人名）」のような中国の白話小説を真似た俗語としての用法がほとんどであった（前田（1960）<sup>3)</sup>）。これが明治以降、西欧諸語を翻訳する際、例えば“science（科学）”“democracy（民主）”“economy（経済）”などという名詞を、“scientific（科学的な）”“democratic（民主的な）”“economic（経済的な）”などという形容詞へと容易に変更

<sup>3)</sup> 前田勇（1960）『『てきや』という語——俗語学者に物申す——』

することが可能な接尾辞が日本語に必要となったことから生み出され、広まったのである。例えば 1872、3 (明治 5、6) 年頃の西周『政略論』には以下のような例が見える。

(1) 今政事学ト政略トノ関係ハ此兵家ノ戦法ト戦略トノ関係トモ異ナリテ、全ク**観**的ト**実**行的トノ区別ナリトシ、…… (明治五六年頃稿)

(西周『政略論』(下線部筆者))

ここでの用法は、「的」が 2 字漢語に付着し「～すること」を表している。また、1881 (明治 14) 年に井上哲次郎らが編纂した『哲学字彙』では、多くの哲学語彙が「的」を付けて翻訳されている。『哲学字彙』で語尾に「的」がとられている例は以下の通り。

「説正的、正面的 (Affirmative)」「拡充的 (Ampliative)」「自用的 (論) (Categorematic)」「合式的 (Categorical)」「合接的 (論) (Conjunctive)」「弁証的 (Dianoitic)」「弁証的 (Discursive)」「離接的 (論) (Disjunctive)」「解説的 (Explicative)」「不可転換的 (論) (Inconvertible)」「不用明証的 (論) (Indemonstrable)」「不可鑑別的 (論) (Indiscernibles)」「可知的 (Knowable)」「世間的 (Mundane)」「説不的、反面的 (Negative)」「直覚的 (Noetic)」「客観的 (Objective)」「受動的 (Passive)」「表現的 (Presentative)」「原始的 (Primitive)」「原本的 (Pristine)」「合理的、弁理的 (Rational)」「可覚的 (Sensible)」「普有可覚的 (Common sensibles)」「固有可覚的 (Proper sensibles)」「主観的 (Subjective)」「自生的 (Sui generis)」「副用的 (論) (Syncategorematic)」「超絶的 (Transcendental)」

これらの「的」が付く語の原語はどれも形容詞であり、形容詞化接尾辞“-ive”, “-tic”, “-al”, “-able”, “-ine”などに相当する部分が「的」として訳されていると解釈することができる<sup>4)</sup>。

## 1-2. 接尾辞「的」の由来

近代日本において、名詞から形容詞へ品詞変更を行う接尾辞になぜ「的」が用いられたかについては、2通りの理由が考えられる。

まず第 1 に、中国語の白話を真似たものである可能性。前述したように、江戸時代、日本において中国白話小説が大いに流行し、中国白話の助詞を真似た「レ」左的」「ニヤンの」(山田 (1961)<sup>5)</sup>)、「泥的 (盜賊)」「幸的 (幸次郎・人名)」「猿てき (猿坂・人名)」「源て

<sup>4)</sup> しかしながら、『哲学字彙』でのこれら訳語は、一つの単語としては不安定であり、これだけで「的」が日本語に形容詞化の接尾辞として定着したとは言えない。これはどちらかというとな成分的には中国語の助詞“的”に近い用法と考えられる。

<sup>5)</sup> 山田巖 (1961)「発生期における的ということば」

き (源七・人名)」「(前田 (1960)) などの用法が日本においても行われていた。このような例から見るに、白話小説に触れていた明治初期までの日本人が、中国語の助詞“的”自体に「付着する名詞の特徴や性質を持つ何か (特に人物)」を表す性質があると理解するようになっていたのは十分に考えられることであり、このことが土台になって、近代的な形容詞化の接尾辞「的」が現れた可能性は高いであろう。

第 2 に、音訳の可能性が挙げられる。大槻 (1901: p.251)<sup>6)</sup>では接尾辞「的」を英語の“-tic”の音訳として以下のように述べている。

(2) 其時、一人が、不凶、かやうな事を言ひ出した。System を組織と訳するはよいが、Systematic が訳し悪くい。tic といふ後加へは、小説的の的の字と、声が似て居る。何んと、組織的と訳したらば、どうであらう。皆々、それは妙である、ヤッて見やう。やがて、組織的の文で、清書させて、藩邸へ持たせて、金を取りにやる。君、実行したのか。うゝ、それは、ひどいではないか。何に、気がつきはせぬよ、などといふ戯れであったが、扱此の的の字で、度々、むづかしい処が切り抜けられるので、遂に、嘘から真事といふやうな丁合で、後には、何んとも思はず、遣ふやうになって、人も承知するやうになったが、其根を洗へば tic と的が、声が似て居るからといふ事で、洒落に用ゐた丈の事で、実に捧腹すべき事である。是れが、的の字のそも一の原因である。

(下線部筆者)

ここで大槻氏が言う「小説」とは、白話小説のことであろう。英語の“-tic”に音が似ていることから「的」をあてたということが真実だとしても、それをわざわざ「小説的の」字に音が似ているから」としたということは、当時の白話小説の流行、そしてその中に現れる中国語の助詞“的”が特に日本の知識人の間で周知されていたことを物語るものであり、その意味ではこの「音訳」説も中国語の影響により行われたとしてもよいだろう。

ともかく、接尾辞「的」が白話由来であろうと、音訳由来であろうと、この「的」字を用いて語に形容性を持たせる方法は、日本語に元々形容詞および名詞を形容詞化させる手段が乏しかった<sup>7)</sup>こともあり、日本において多川され、川法も安定していく。

<sup>6)</sup> 大槻文彦 (1901)「文字の誤用」

<sup>7)</sup> 柳田国男 (1936)「十五 形容詞の欠乏」

1925 (大正 14) 年発行の『明治奇聞』には 1889 (明治 22) 年 11 月の雑誌記事を引用し、次のようにのべている<sup>8)</sup>。

的の流行

支那の俗調文に倣つて熟語に的を加へ、文学的野蛮的婦女的など書くに至つたのは、明治十年後の哲学者が西洋訳語に積極的傍系的抽象的など使つたのに基くのであるが、これが一般に流行したのは明治二十二年頃であつた

これにつき同年十一月美濃の大垣で発行した『花の友』といふ雑誌に左の一記事がある

○的の流行 一日某活版所を訪ふ、雑談の末、主人曰く頃る文章界に於いて的流行甚く、一語の裡、一行の間、二三の的字あらざるなく、其活字も他の活字の一倍を備るも猶ほ足らざるを愁ふ、(中略)

此時には流行的でムヤミに「的」の字を用ゐたが、其後は語訳の際、何々式、何々調、何々上など書くよりは「的」の方が便宜であり、イヤ味がなく、又学者らしいとされ、流行的でなく恒久的に使用される事になつた (以下略)

(下線部筆者)

この記事からは、明治 20 年代に「的」が流行し、濫用されたが、その後「語訳の際、何々式、何々調、何々上など書くよりは」と、「～という性質をもった、～のような」という用法で定着していくに至ったこと、そして大正期に入ると現代とほぼ変わらず大衆的に使用されていることが見て取れる。以下、当時の使用例を二三挙げる。

(3) ……唯被動的、器械的の人物となりて自ら悟らざりしが今、二十五となりて既に久しくこの自由の大学の風にあたりたればにや心の中、何となく穏やかならず、……

(森鷗外 (1890 (明治 23) : p. 48) 『舞姫』, 連体修飾)

(4) 校長は一つ咳拂ひして、さて器械的な改つた調子で、敬之進が退職の件を報告し

<sup>8)</sup> 宮武外骨 (1925: p. 22) 『明治奇聞』

た。

(島崎藤村 (1906 (明治 39) : p. 44) 『破戒』, 連体修飾)

(5) 「かう何も彼も一時になつて来ては、連も手のつけやうがありませんな。何なら大学へでも入れて御覧になりますか。」医者は絶望的に言断つた。

(徳田秋声 (1910 (明治 43) : p. 116) 『足迹』, 連体修飾)

(6) 其上先生の態度は寧ろ非社会的であつた。一定の時刻に超然として来て、また超然と帰つて行つた。

(夏目漱石 (1914 (大正 3) : p. 8) 『こころ』, 述語)

(下線部筆者)

当時日本語において形容詞化の接尾辞としてこのように「的」が多用されたということは、書物や人間を介し、中国へと渡った可能性が非常に高いということである。中国に渡ったこれらの「的」はどのように理解されたのか。或いは近代以前に西欧諸語との接触によって、中国語が何らかの形容詞化の接尾辞を手に入れることはなかったのか。次章では、中国語が外国語と接触した際、形容詞を如何に書き表そうとしたか見る。

## 2. 20 世紀初期までの中国における“的”

### 2-1. 近代以前における“的”

そもそも中国が積極的に外国語と接触する以前、つまり 19 世紀末に至るまでの中国語の“的”はどのような語であつたのだろうか。先行研究によれば、“的”字が助詞としての用法で用いられるようになったのは、発音の変化に伴つてのことで、宋、或いは元代以降のことであるとしている<sup>9)</sup>。劉敏芝 (2008) では、“的”字に関して、宋代には姿を表し始めるとしているが、《朱氏語類》に至るまでは“底”との表記が多く、金代の文献《古本董解元西廂記》の中で初めて“底”より多く用いられ、元代以降、“的”との表記が大多数を占めるようになったのだという<sup>10)</sup>。

以下、近代以前の用例と“的”の役割を記す。

<sup>9)</sup> 太田辰夫 (1958: pp. 351-368)

<sup>10)</sup> 劉敏芝 (2008) 《漢語結構助詞『的』の歴史演變研究》, 語文出版社

<sup>11)</sup> 劉敏芝 (2008: p. 66, 102)

- (7) 婆子道：『敗花枯柳，如今那箇要我了？不瞞大娘說，我也有箇自取其樂，救急的法兒。』([明]《古今小説》，第1卷)<sup>12)</sup>(名詞との修飾関係を表す)
- (8) 高俅道：“你那厮便是都軍教頭王昇的兒子？”([明]《水滸伝》，第2回)<sup>13)</sup>(名詞との修飾関係を表す)
- (9) 子牙問曰：『你是那裏來的？』([明]《封神演義》，36回)<sup>14)</sup>(“是……的”で述語を作る)
- (10) 猴王搖手道：“不好說！不好說！活活的虛殺人！……”([明]《西遊記》，4回)<sup>15)</sup>(動詞や形容詞との修飾関係を表す(現在では“地”を用いる))
- (11) 合族中雖有許多妯娌，也有言語鈍拙的，也有舉止怪浮的，……([清]《紅樓夢》，14回)<sup>16)</sup>(被修飾名詞を省略し名詞句の代わりとなる)  
(下線部筆者)

これらの用法は現在に通じるものではあるが、しかし、近代以前の“的”は小説や語録、つまり「俗文」を記したものの以外では使用されておらず、また、名詞から形容詞へと品詞を変更するような機能はない。

## 2-2. 外国語との関係における“的”

19世紀から20世紀初頭にかけて出版された英華辞典は、中国が外国語と接触した際、どのように概念を変換したのかをみる良いツールである。中国が積極的に日本から語彙を輸入したのは、1895年の日清戦争に敗北して以降のことと考えられるが、それ以前、西欧諸語と接触した際、“-tic”などの形容詞化接尾辞はいかに訳されていたのだろうか。

- (12) Scholastic, Scholastical, a. Scholarlike, 儒教的, 内学的, 実学的; Scholastic learning, 实学, 内学, 内才; Scholastic education, 儒教, 教為真儒; Pedantic, 書獃子, 書癡的
- (13) Democratic, Democratical, a. 民政的, 民政嘅

<sup>12)</sup> 馮夢龍 [明]《古今小説》(許政揚校注(1958)《古今小説》，人民出版社，p. 19)

<sup>13)</sup> 施耐庵・羅貫中 [明]《水滸伝》(李慶年・陳敏杰校点(1989)《水滸伝》，江蘇古籍出版社，p. 18)(容与堂百回本底本)

<sup>14)</sup> 許仲琳 [明]《封神演義》(1973《封神演義》，人民文学出版社，p. 331)(清代四雪草堂本底本)

<sup>15)</sup> 吳承恩 [明]《西遊記》(1980《西遊記》，人民文学出版社，p. 45)(明代世德堂本底本)

<sup>16)</sup> 曹雪芹・高鶚 [清]《紅樓夢》(1964《紅樓夢》，人民文学出版社，p. 162)(乾隆程乙本底本)

- (14) Close-bodied, a. 緊身的  
(*An English and Chinese Vocabulary, in the Court Dialect, 1844*)<sup>17)</sup>
- (15) SHINING 光亮的  
(*English and Chinese Dictionary, 1866-1869*)<sup>18)</sup>
- (16) Scientific, 有学問的.  
(《字典集成 (*AN ENGLISH AND CHINESE DICTIONARY*)》1875 (光緒元))<sup>19)</sup>
- (17) Scientific, 有学問的.  
(《增新華英貿易字典》1901 (光緒 27))<sup>20)</sup>

これによると、日本で近代西欧語の翻訳に「的」を用いるより早い時期に、中国語で西欧諸語を翻訳する際、「的」を用いて形容詞の接尾辞を表しているようにも見える。しかし上記中国の例には、(12)“Scholastic learning, 实学, 内学, 内才”のように、英語では形容詞である箇所が接尾辞で訳されていない語もあること、そして同じく(12)の“Pedantic, 書獃子, 書癡的”などの例を見ると、ここでの“的”は「形容詞化の接尾辞」というより、名詞を修飾する助詞であり、後置名詞を省略した形であると考えられる。特に(16)(17)のような例は分かりやすい。これらの例を見る限り、『哲学字彙』での翻訳と似ていると言えるが、翻訳が原因で“的”に接尾辞機能が付与されたとは言いがたい。その上、日本での「的」例と異なり、当時の辞書以外の中国の書物に、実際このように“的”を用いて形容詞的用法を記している例は管見の限りほとんど見当たらない。

では、日本から間接的に実際運用を伴った形容詞化接尾辞「的」が入ってきた当初、中

<sup>17)</sup> Williams, S. W. (1844). *An English and Chinese Vocabulary, in the Court Dialect*. (維三畏《英華韻府歷階》，香山書院)

<sup>18)</sup> Lobscheid, W. (1866-1869). *English and Chinese Dictionary* Daily Press Office. (羅不存德原著・井上哲次郎増訂《訂增英華字典》(藤本氏藏版))

<sup>19)</sup> Kwong, Ki-Chiu. (1875). *An English and Chinese Dictionary Compiled from Different a authors and Enlarged by the Addition of the Last Four Parts*, The Chinese Printing and Publishing Company (鄭其照《字典集成》)

<sup>20)</sup> 卓岐山 (1901)《增新華英貿易字典》，循環日報(香港)(*Mercantile Dictionary a Complete Vocabulary of the Technicalities of Commercial Correspondence, Name of Articles of Trade. In English and Chinese Languages*, Cheuk, Ki-Shan.)

国ではどのように訳出していたのだろうか。次項では清末に日本語の「的」がどのように中国語に映されていたのか見る。

### 2-3. 日本語接尾辞「的」の進出

《時務報》<sup>21)</sup>は、19世紀末、1896年8月9日(光緒22年7月1日)から1898年8月8日(光緒24年6月21日)の2年間<sup>22)</sup>に黄遵憲、呉德瀛、鄒凌瀚、汪康年、梁啓超らが関わり上海で発刊された旬刊誌であり、当時の知識人に多大なる影響を与えた<sup>23)</sup>。第3冊目以降は〈東文報訳〉として日本人漢学者古城貞吉が中国語に翻訳した『東京日日新聞』『読売新聞』『大阪朝日新聞』など日本の新聞記事を記載している。

今回、当時如何に「的」が中国語に訳出されていたか考察するため、筆者は『東京日日新聞』1896(明治29)年7月1日～1897(明治30)年8月11日の記事、『読売新聞』1896(明治29)年7月1日～1898(明治31)年8月8日の記事から、《時務報》〈東文報訳〉の中で取り上げられていた記事を探し出した。この期間中の記事で《時務報》〈東文報訳〉で取り上げられたものは全99(『東京日日新聞』75、『読売新聞』24)タイトル。うち接尾辞「的」が使用されている記事は、全18(『東京日日新聞』15、『読売新聞』3)タイトル、「的」の使用数は35回見られた。これを、〈東文報訳〉の該当部分と比較すると、以下のようになる。

#### (18) (表1)

表から分かるように《時務報》〈東文報訳〉は細かに訳をしていたわけではないようで、要約といった方がいい記事もある。日本語の箇所が該当する訳が見当たらなかった記事も多く、一つの訳出法にまとめることは難しいのだが、「的」をそのまま用いた例は一切みつからず、どれも適当な中国語に意識している。(18)⑨「革命的現状」を「妖氛」と訳すなど現代からすると意識の程度が甚だしいものもある。或いはかなり少ないが、(18)⑧「地方的利益」を「地方之利」のように「之」を以て「的」に代えている訳もあるが、これは中国訳文では「シベリア地方の利益」という意味に解しているのであり、「之」によって「地方」に形容性を持たせているとは考えにくい。また《時務報》では、「主義」「世界」「国際」「革命」など、原文で近代概念を持つ語を使用している箇所はほとんど

別の語に置き替えており、当時の中国ではこれらはまだ一般的な語ではなかったと推測される。

表1:《時務報》における「的」の訳訳状況

番号	新聞名	年	日	タイトル	「的」用例	該当箇所
1	東京日日新聞	1896(明治29)年	8月7日	台湾の経緯(四)	……但々 <b>重稅</b> の稅法を新設して更に人民の不信を乘さざることを望まざるを得ず、……	……似宜酌量節制。不可造次以捐人民之疑慮耳。……
2	東京日日新聞	1896(明治29)年	8月23日	銀地低落の原因	……財産少なき中等以下の人物多し或は <b>越或的</b> の土器の發售も少なきに非ざれば……	……類皆中等之人。各習不其益。習不其積。習不其厚。時不負有相附之象。聲氣雖倍。……
3	東京日日新聞	1896(明治29)年	9月27日	歐洲近時の外交方針	……此原因たる重に歐洲に存在する同盟は其勢力を列國の <b>世界的</b> の關係に及ぼさざるが故なり……	……蓋歐人所當重者。在審國家之利害。凡美國聯盟。外交戰爭。靡不兼其同異。……
4	東京日日新聞	1896(明治29)年	10月22日	東歐遊記 八月卅一日於■奧府薩亞生 東歐列國の形成 (一) 土耳其	……歐洲の極西に侵入して遠々回教を擴張し其日 <b>逐漸的</b> 非他一體の教信に感化せられて……	……侵入歐洲極西。遠邁回教。被其感化。……
5	東京日日新聞	1896(明治29)年	11月11日	露國太平洋汽船会社設立の計画	……該鐵道を國際上の企業及び <b>地方的</b> の企業として十分に之を發達するの策を講ずること目下の急務なり……	……該鐵道能南接東西之陸隔矣。……
……又西北利便鐵道を太平洋に須する高麗の <b>地方的交通</b> より觀察すれば……					……接隣之國。惟中國與日本。行旅往來。貨物駁駁。……	
……此の計画成らざれば西北利便鐵道の <b>國際的</b> 價值も地方的利益も充ちたりと云ふ能はず、……					……苟此業未興。則俄國交際。與西北利便地方之利。亦未可謂完成也。……	
……此の計画成らざれば西北利便鐵道の <b>國際的</b> 價格も <b>地方的利益</b> も充ちたりと云ふ能はず、……					……苟此業未興。則俄國交際。與西北利便地方之利。亦未可謂完成也。……	
9	東京日日新聞	1897(明治30)年	2月17日	大隈外相の演説	顧くは外務大臣大隈伯演説下は其答辭に就き政府従来の慣例を <b>可及的</b> に答辭の旁を取り答辭する時は……	該当なし
10	東京日日新聞	1897(明治30)年	2月23日	幣制改革論(上)(中)(下)	……且人文進歩し交通發達するに従て貨幣の <b>世界的性質</b> たるの實際々明ならんぞ	……及人文進歩。四方交通。日盛一日。貨幣之用。至理於環球。而其性質。亦將漸形明也。
……夫此貨幣制度は本来 <b>世界的性質</b> を有するものなり					……何則。幣制之當出於畫一。因彼都人士所夙稱。其幣制同盟之與。	
……且此の如き <b>人為的作用</b> の外に於て金銀の移動を攷するの道あり……					該当なし	
13	東京日日新聞	1897(明治30)年	2月23日	幣制改革論(上)(中)(下)	……今日の急務は貨幣の設置を止め先づ適當の方法を以て委しく金銀の <b>自然的及經濟的</b> の現象を研究し事務の變遷。本有用於自然者。又有由於人為者。則宜研究二者之關係。務内外之情勢。以定其比例率矣。……	……今日之急。在通斥林樹築壘之論。而施設合宜之方。夫金銀其價值之變動。本有用於自然者。又有由於人為者。則宜研究二者之關係。務内外之情勢。以定其比例率矣。……

<sup>21)</sup> 全69冊。毎冊約20頁からなる。

<sup>22)</sup> 中華書局発行の影印本前書きによる。

<sup>23)</sup> 《時務報》影印版前書き及び《中国報刊詞典(1815-1949)》(1992)王檉林・朱漢國篇、書海出版社、p.9

14				……諸国の労働者が既に <b>国際的運動</b> を為さんと計画しつつある事を相互に調査せん事は諸国政府の幸く望む所なるは取の確信する所なり	……列国方格 <b>格差</b> 労働工等。欲為聯合力同訂同盟之精神。取所確信也。	
15	東京日日新聞	1897(明治30)年	2月23日	鉄道皇帝の社会政策	…… <b>国際的一致</b> の爲義を鉄道政府と相俎にするの意なきを以てせんと欲す。	……以興諸國一律。其憂念勞工也如此。
16				……其他の <b>社会政策的立法</b> にして能く其目的を達せしもの果して幾何があるか……	該当なし。	
17	東京日日新聞	1897(明治30)年	4月30日	日本の経済国地(上)	……然れども既に世界各國と和親通商の道を開き <b>世界的市場</b> に立て世界の商業を爲すに至れる今日に於いては……	……與地球各國。互市貿易。已非復前日可也。然則当今之時。……
18				……然れども既に世界各國と和親通商の道を開き世界的市場に立て <b>世界的商業</b> を爲すに至れる今日に於いては……	……與地球各國。互市貿易。已非復前日可也。然則当今之時。……	
19				……希臘政府は決してクリームの <b>革命的現状</b> を一掃する能はざるを得ず	(a)……竊恐未盡一掃革命之妖氣也。	
20	東京日日新聞	1897(明治30)年	5月6日	希臘政府の回答	……島内無政府の現状は之を除去するを得ずして積弊なる狂瀆は若■と火を携へて <b>激動的行動</b> を継続し高に成るは即ち遂に滅滅せらるゝに至らん	……若恐其狂瀆。手執砲火以行復讐之事。又復如今日耳。
21				……故に希臘政府にして沈黙を是れ事とし敢て諸大強國の強行せんとする目的制約に反對するをなき <b>若強的強國</b> を形成せる他の州郡が嘗て自由を得て希臘に合併せし時に	……依諸諸大強國所為。則恐強國以外人以外也。諸大強國不者強敵國之害。欲以強自治制度。功績未嘗。	
22				……又國家財政の尊嚴を防乱し <b>社会的活動</b> を妨害せんとす……	該当なし。	
23	東京日日新聞	1897(明治30)年	6月13日	露英德の新三四同盟	……暗に之に <b>政治的意味</b> の存せることを察せんと試み……	……如出一轍。故德皇之行。固匪始於此也。……
24	東京日日新聞	1897(明治30)年	7月7日	布帛合併に関する米國大統領の教書	……米布交際の現象なるは <b>歴史的に</b> 進りたるものにして……	……米布之親交。非始於今日。其所由来遠矣。……
25	東京日日新聞	1897(明治30)年	7月22日	外交家の機敏強硬	……我軍筋を得て今日 <b>歴史的勝利</b> を結ぶを要せず……	……謂勝敗兵家之常。今日之勝。俄供解解極矣。……
26				……それから第三には <b>比較的</b> に資金が減却し尚ほ減却しつつあると云ふのは……	該当なし。	
27	東京日日新聞	1897(明治30)年	7月25日	経済事情	……因麻に輸入したものは再び民間に出で而も多くは <b>不生産的に消費</b> せられ社会の増産以上の手に落ちると云有様であるそう云有様だからして……	該当なし。

28	東京日日新聞	1897(明治30)年	7月16日	18	朝鮮の金(西和兩氏の談話)(西和兩氏の談話承前)	……然れども従来那人の朝鮮の事をめぐむるの事に政治の一面面に偏し <b>學術的の眼光</b> を以て広く諸般の事物を觀察するもの客々鳥星の如くなるは弊に假擬すべきの正りにあらずや	該当なし。
29						日本人が始めて <b>文明的施設</b> を応用せし朝鮮の創山は……	該当なし。
30	読売新聞 朝刊	1898(明治31)年	3月10日		露国船期口借入に就ての觀察	……之とて以上二國の膠着を得ば強も <b>絶対的に抗議を</b> もなさざるべしとの考えより我々の公然たる要求をなして押らざるに至りたるものなるべし……	……惟日本為可關心耳。雖然。苟為英法德二國所許。則日本亦必不抗哉。……
31						……台政の <b>根本的革新</b> の大方針に就いてハ疑を認する迄ありしが今や信原田玉總督及成廉民生局長等の間に臺灣勸議を了したる内閣規定方針の綱領とも云ふべきものを聞くに左の如し	……思日本國家台台政策。不当如此乎。
32						……一官吏の能才を擢擇し <b>可及的議員</b> の方針を採りて人民を詢試する事	……二日大減價。卒賢才而能不能。三日大變色也行政之法。須參酌法制。以收獲民心為第一義。
33	読売新聞 朝刊	1898(明治31)年	3月8日		台政刷新の綱領	……一下級行政機關の組織を改正すること 即ち前時代に於ける <b>自治的制度</b> に依るの利なるを認めたるを以て <b>自治的組織</b> を成し職務の敏捷を計ると同時に人民を收服する一策となすと云ふにあり……	該当なし。
34						……一下級行政機關の組織を改正すること 即ち前時代に於ける自治的制度に依るの利なるを認めたるを以て <b>自治的組織</b> を成し職務の敏捷を計ると同時に人民を收服する一策となすと云ふにあり……	該当なし。
35	読売新聞 朝刊	1898(明治31)年	3月22日		韓廷及韓民の遊兵鐵路借上の大集会	露國政府が今回の機会をなしたる其良志果して如何一般の讀者間に之を以て <b>滿蒙</b> の十分の決心なく置かば一時 <b>示威的の運動</b> に止まるが如しと認められつゝあれど……	俄國駐韓總領事公使。當命其共回國。送公文於露國回國。且韓島萬民。實願以事。萬望不為感所。知譯得休。

《時務報》(東文報訳)の中国語には接尾辞「的」の訳出を確認できないばかりか、一般的助詞としての「的」も使用が見られなかった。これは接尾辞「的」の使用不使用以前に当時中国では未だ言文一致が成し遂げられておらず、口語由来の助詞「的」字が新聞のような翻訳文章に表れる可能性が極めて少ないからだと言える。

だが、これよりやや時代を下った20世紀初頭には、以下のような表現がみられる。

(19) 欲研究此問題之真相。不可不取**狹隘的**的民族復仇主義。

(梁啓超(1903:p.76)《政治学大家伯倫如理之学説》)

(20) 彼曷為而致滅亡。夫既已自棄**歴史上**之權利。自傷政權之神聖。一旦得志。而欲以我新獲之權利。造成**歴史的**之根柢。

(同上, p. 83)

(21) 伯氏以為盧氏之説。欲易**專制的**君主主權。而代以**專制的**國民主權也。

(同上, p. 87)

(22) 美国古士李者现代著名之哲学家也著「人生哲学」一書為景教詒直原書於一八九三年出版現已再版四十餘次云今擬訳其數段李氏曰『軌近物質の文明日以進化質力不滅之説既有定論而其蔽也…… (中略) ……若以応用諸精神界則大不可質而言之則形而上的與形而下的截然不同物未可糅雜以自乱其例也…… (中略) ……凡人類皆有客觀之我有主觀之我…… (中略) ……故吾人一生數十寒暑其客觀的非我之我刹那剎那變遷以去至七八十歲時身上所含之原質迥非復童稚時之遺物矣』  
(梁啓超 (1904: p. 5) 《余之死生觀》)

(23) 我箇体所含物質の全部是也。何謂小彼。我箇体所含物質之各分子是也。  
(同上, p. 9)

(24) 而社会的の觀念與将来的の觀念。兩不發達。夫社会的の觀念與将来的の觀念。正人之所以異於禽獸者也。(同上, p. 9)

(25) 真苦真樂。必不在唯物的。而在唯心的。至易明也。(同上, p. 11)

(26) 故嚴氏之學風非哲學的而實科學的也

(27) 我中國之思想同為入世間的非如印度之出世間的

(28) 況中國之民固實際的而非理論的

(王国維 (1905a) 《論近年之學術界》)

(29) 抑我國人之特質實際的也通俗的也西洋人之特質思弁的也科學的也

(30) 則以具體的知識為滿足

(王国維 (1905b) 《論新學語之輸入》)

(下線部筆者)

梁啓超 (1903) (1904), 王国維 (1905a) (1905b) では、それぞれ“国家之目的”“私人之幸福”“自由之権理”、“無形之性格”“有形之肢体”“今世之科学”、“科学家之本分”“由日本之介紹”“未有顯著之影響”などのように現代中国語で“的”と表わされる連体修飾の助詞は基本的に“之”を以て表しているが、文中に (19) ~ (30) のように何度か“的”が使用されている。これらの“的”は大きく以下の特徴を持っている。

- 1) 抽象名詞や近代語彙に付着することが多い
- 2) 述語になることが多い。
- 3) “的”字句は、後ろに名詞を伴う場合、後置名詞の性質を表すことが多く、所有・所属を表す場合にはほとんど用いない

特に 2) に関しては、一般に「文の前に“是”がなく、“…的”が単独で述語となるには一定の制約がある」とされ、「“名詞/代詞+的”は所属関係もしくは原料を表すもののみ」「“形容詞+的”の形容詞は単音節」「“形容詞+的”の形容詞は強調形」「“形容詞+的”の形容詞が2音節だと前に“怪・挺・够”などの副詞か一部の助動詞を付けなければならぬ<sup>24)</sup>」などの制約があるが、上述の20世紀初頭の例は、これらの制約を受けず、述語を作っている。

さらに特筆すべきなのは例(20)“造成歴史的之根柢”のように「“的”+助詞“之”」構造を作る構造である。この構造で、“的”は、日本語と同じく形容詞化の接尾辞のように用いられている。このような用法は、現代中国語の“的”には見られない。つまりこの時期において“的”は現在とも異なる用法をされていたのである。このように、接尾辞の機能を果たす標記を用いて名詞を形容詞化するような構造は、この後、1920~1930年代にもみられる。詳しくは後述する。

王国維は《論新學語之輸入》において「使える日本の新語は進んで使うべきである」と述べており、意識的な使用かどうかは定かではないが、これらの例にみられる“的”は、日本の形容詞化の接尾辞「的」の影響を受けたものである可能性は大いにある<sup>25)</sup>。しかしながら、1900年前後の中国においてこのような近代的な表現はまださほど問題になっていなかったようだ。しかしこの後、西欧諸語や日本語の翻訳が大量になされるにつれて、品詞変更機能をもつ接尾辞や“的”字の用法は重大な問題の一つとなっていき、1919年以降起こった言文一致運動で、大いに議論されることとなるのである。次章では、近代以降白話運動の中で“的”がどのように議論されたか述べる。

<sup>24)</sup> 呂叔湘主編・牛島徳次・菱沼透監訳 (2003) 『中国語文法用例辞典』, 東方書店 (《現代漢語八百詞増訂本》, 日本語版) 以下, 《八百詞》と略す。

<sup>25)</sup> また, 王国維 (1905a) (1905b) では, “的”の他, “政治上之意見”“科学上之引証”“思想上之事”や“知識上之要求”のように連体修飾語となるときは“上”を抽象語句に付けて場所化することで語句の概念を形容詞的に運用している。



### 3. 日本語接尾辞「的」を巡る論争

#### 3-1. 《晨报》における“的”論争

特に1910年代から1920年代初期の小説を見ると、人称代詞の使い方、标点符号などが作者によってまちまちであるどころか、同じ作者の同じ作品の中でも使用が定まっていなことが多々ある<sup>26)</sup>。この時期の“的”や“之”に関する使用も統一しておらず、《新青年》《小説月報》などを見ると、“的”“得”“地”“底”の混用、“的”の多用、といった状況が指摘できるだけでなく、基本的に助詞として“之”を使用している作品中、一部“的”を用いるなど“之”“的”の使い分けをした作品も存在する。前項に述べた20世紀初頭の例も考慮すると、1900～1920年代、“的”が単なる助詞とは異なる位置づけにあったことは確実といえよう。

(31) 人之動作。必有其的。其生也亦然。洞明此的。斯真吾人最後之覺悟也。(一) 政治的的覺悟……此其所以莫敢侮之也是為吾人政治的的覺悟之第一步。……吾国欲因世界的生存必棄數千年相傳之官僚的專制的個人的政治而易以自由的自治的國民政治也是為吾人政治的的覺悟之第二部 所謂立憲政体 所謂國民政治 果能實現與否 純然以多數國民能否對於政治 自覺其居於主人的主動的地位為唯一根本之條件 自居其居於主人的主動的地位 則應自進而建設政府……以其於多數國民之思想人格無變更 與多數國民之利害休戚無切身之親感也是為吾人政治的的覺悟之第三步

(二) 倫理的的覺悟……國人所懷疑莫不決者。當為倫理問題。詞而不能覺悟 則前之所謂覺悟者 非徹底之覺悟 蓋猶在惛迷迷離之境 吾敢斷言曰。倫理的的覺悟 為吾人最後覺悟之最後覺悟

(陳独秀 (1916b) 《吾人最後之覺悟》)<sup>27)28)</sup>

<sup>26)</sup> 中国語における近代と現代の区切りは、1919年に設定されることが多いが、1920年代の白話はやはり現代文とは異なる様相を呈している。例えば潘垂統(1921: p. 19 (一個確實的消息))には、“伊告訴他，說她死了。他平常很相信伊所說的話的，他沒有發見過伊對他或別人說一個字的謊。這一次伊或者會被例：他神經質的想。但伊對他說：『系齷可憐啊！她死的時候很痛苦；婦人為分嫉而死，是很可憐的。……』”のような“他”“她”“伊”という3つの三人称を用いた文章がみられる。

<sup>27)</sup> なお句読点は引用文献による。スペースは、文章中で用いられている符号などを元に筆者が挿入した。

(32) 争奪一種金屬圓餅以贖化学的元素 而補体内之缺

(廷陵訳 (1918a) 《哲學家言 柯南達利山窗碎墨之一》)<sup>29)</sup>

特に(31)の例では、陳独秀が当時、名詞を形容詞的に用いる際には“的”，そうでない場合には“之”を用いていたことが明らかである。“政治的覺悟”“倫理的覺悟”などは、現在では“政治上的”“倫理上的”などとする方が自然であろう。また、“人之動作”のように所属・所有を表す場合は“之”を用いて“的”と区別していることから、“官僚的政治”“個人的政治”のような例も、“的”に前置される名詞は形容詞的に用いられており、「官僚的政治」「個人的政治」を意味していると考えられる。しかし、これら前置名詞は人を表す名詞であるため、現代の(或いは五四時期以前の)一般的な中国語として考えると、「官僚的政治」「個人的政治」というように『前置名詞』の所有・所属する『後置名詞』という関係に解されるのが普通であろう。陳独秀らの川法は1910年代半ば～後期のものであるが、恐らく当時このような用法はかなり増え始め、これまでの中国語における“的”と同形ながらも用途が異なることから、混乱が生じるようになっていったと考えられる。そこで、このような“的”字及びその用法に関する論争がその後活発に行われるようになっていくのだが、その中でも最も初期のものに、1919年から1920年にかけて《晨报》紙上で行われたものがある。

《晨报》上での論争は、管見によると1919(民国8)年11月12日、胡適が《晨报》紙上の通訳欄に(“的”字的用法)というタイトルで“的”に関する疑問を提示したことにより起こる。この文章は、止水氏が“的”字は『術語(専門用語)』<sup>30)</sup>のみに用い、“底”字は『助詞』<sup>31)</sup>に用いる。」「日本の『的』字は、時には形容詞のように用い(“理想的公園”)、

<sup>28)</sup> 同じく陳独秀(1915《敬告青年》)にも大量にこのような例が見られる。“自主的而非奴隸的”“進歩的而非保守的”“進取的而非退隱的”“世界的而非鎖國的”“实力的而非虛文的”“科学的而非想像的”などが本文の各項タイトルにつけられている。

<sup>29)</sup> 木小説は樽本照雄(2001)「漢訳ドイル『荒磯』物語——山県五十雄、周作人、劉延陵らの訳業」によれば、コナン・ドイル *The Man from Archangel* (“London Society,” 1885. 1.)を翻訳したものである。

<sup>30)</sup> ここで止水が言う「術語」とは“理想”“科学”のように日本から輸入された学術にかかわる言葉を指すようだ。しかし止水によるこの「術語」という分類は、胡適らによって品詞分類ではなく、「助詞」という品詞分類と共に分類範疇とするのはおかしいと指摘される。

<sup>31)</sup> 胡適(1919b《再論『的』字》《晨报》, 11月25日)において、胡適は「術語」と「助詞」の分類について問題を提起した際、「『助詞』は中国が以前文法学の専門用語がなかった時に用いた曖昧な名詞であり現在存在する価値がない」としているが、『晨报』上に記載された他の“的”論にも“助詞”という言葉は使われており、文脈から今日と同じ「助詞」の意味

時には副詞のように用いる(“利他的運動”)。だからこれらは『術語用』という類に分類し、本家の面目を立ててそのまま“的”を用いることにする。』<sup>32)</sup>などとした“的”論に問題を提起したものであり、胡適は“的”の当時行われていた用法を9つに分けて分類分析した上で、以下の様に述べた。

…… (“的”字の書き分けに関しては) 其實一個的字僅夠了。不得已的時候、可加一個『之』字。如『美国之民治的發展。』依我看来、『底』字僅可不必用。如必欲用『底』字、應該規定詳細的用法、決不是『術語』『助詞』兩種區別就夠了。

(“的”字は分類する必要がないが、文章が分かりにくいときは“美国之民治的發展”のように<sup>33)</sup>、“之”を使用してもいい。見たところ“底”字はなるべく使わないほうがいいとは思いますが、もし(止水の言うように)“底”字を使用したいならば細かな用法を決めるべきである。)

(拙訳)

これがきっかけで《晨報》上で様々な意見が交換されることとなる。ここで述べられている“的”字は分類する必要がないが、文章が分かりにくいときは“美国之民治的發展”のように、“之”を使用してもいい。」というの、上述の例(19)～(32)に用いられているのと同じ“的”の用法であろう。

これら“的”論は大体が、

- 1) “的”の字義と来歴
- 2) 現在使用されている“的”の用法

を含む範疇であると考えられるが、止水の原文未見のため、ここでの範疇が分からない。孟真(1919a)〈討論『的』字的用法〉《晨報》、11月29-30日)で孟真是、止水のいう「助詞」とは「位詞 (prepositional phrase, 前置詞句)」のことであろうとしている。これは当時“的”が「特別「介詞 (preposition, 前置詞)」と理解されていたことを考えると、妥当である。「介詞」に関しては注36参照。

<sup>32)</sup> 原文未見。《晨報》内で胡適らが引用した文章による。

<sup>33)</sup> 止水が提示した例か。“美国的民治的發展”は「アメリカ的な民権的發展」なのか「アメリカの民権の發達」なのか分かりにくいという問題であろう。なおこの例はよく引用され、陳望道(1920a)〈“的”字底新用法〉《浙江省立第一師範學校校友會十日刊》、第11号(1980)《陳望道語文論集》上海教育出版社、pp.19-21)では夏丐尊〈“的”字的用法〉(《浙江省立第一師範學校校友會十日刊》第6号)において提起された問題と記されている。

- 3) 日本語の「的」について
- 4) “的”を書き分けるか否か、書き分けるとすればどのように書き分けるか

の4点から議論されている。中でも中心となるのは「“的”を書き分けるか否か」、書き分けるとすれば「形容詞の接尾辞「的」と、中国語の名詞を修飾する助詞“的”をどう書き分けるか」についてであり、「書き分けるか否か」については、以下のような意見に分かれた<sup>34)</sup>。

- A) 書き分けの必要なし(必要なときのみ対処する)
- B) 二つに書き分ける
- C) 三つに書き分ける

以下、それぞれの知識人が最終的に行き着いた“的”書き分けに関する意見をまとめた。

- A) 書き分けの必要なし(必要なときのみ対処する)<sup>35)</sup>

胡適:

- ① 全てに“的”を用いる。(だが例えば“平民的衣食住”のように「平民の衣食住」なのか「平民のような衣食住」なのか分かりにくい時は、前者のような名詞の後ろの“的”が「所有」の語尾を表す例には、“的”の代わりに“之”を用いてもいい。)

邵西:

- ① 全てに“的”を用いる。(“平民的生活”のように「平民的生活」なのか「平民の

<sup>34)</sup> 北京師範學院中文系漢語教研組編著(1959: pp.143-144)によれば「細かな書き分けに関しては、「散動」と「散動」が作る形容詞、文の後ろの“的”は全て“這+的”とする」という書き分けもあったというが、「当初から社会で認められなかった」らしく、例文は未見。

<sup>35)</sup> また、この“的”論争よりも後になるが、黎錦熙(1924)《新著國語文法》、商務印書館、p.16)において、「書き分けの必要なし」の態度をとっている。

“本書正文中對於「底」「的」「地」和「他」「她」「牠」等用字新法，有時採用，有時混淆；因為著者對於漢字底文法的分法，認為不關重要，當以將來的新拼音字制為斷；至少也要將漢字“詞類連書”，才可以表現文法，才可以說到字形底分化。但此意也並非反對目前的分化，不過認為非必要罷了，所以序文和引論中也就完全採用了。”

ような生活」なのか分かりにくい時があったとしても、前者は“世界平民的生活”のように必ず文脈があるはずであるし、後者も文脈で推し量れる。もし後者が文脈で分からないならば“平民式的生活”と記せばいい。

B) 二つに書き分ける

止水：

- ① “底”……「助詞」に用いる。
- ② “的”……「術語」に用いる

錢玄同：

- ① “底”……「介詞（現在で言う助詞）」<sup>36)</sup>に用いる。
- ② “的”……形容詞の語尾と副詞の語尾、代名詞の所有格に用いる。

孟真：

- ① “底”……形容詞句と形容詞節に用いる。
- ② “的”……形容詞の語尾と副詞の語尾に用いる。

沈兼士：

“底”“的”“地”の中から2字を決めて、用法を定めるべきである。

C) 三つに書き分ける

周建侯：

- ① “底”……「介詞」に用い、文言で記すときは“之”を用いる。上声に読む。
- ② “的”……日本語の「的」に用い、入声に読む。
- ③ “地”……副詞に用いる。去声に読む。

陳独秀：

<sup>36)</sup> ここでの「介詞」は、現在の「助詞」の範疇にはいる。止水の「助詞」と同じものを指すと考えられるが、原文での表記が異なるためこの様に記した。黎錦熙（1924: pp. 197-215）では介詞を“時地介詞”“原因介詞”“方法介詞”“領攝介詞”に分類し、“領攝介詞”は“特別介詞”とも表し、“領攝介詞”以外の介詞は全て結びつける語の前に置かれるため“前置的介詞（前置詞）”と呼ばれるが“領攝介詞”は結びつける語の後ろに置かれることから「後置介詞」ともいう。これは中国語に特有のものなので特別介詞とも言う。英文の of も“領攝介詞”だが、前置なのでほかの介詞（前置詞）と同じである」としている。また、台湾では現在でも助詞“的”は所有格を表す際は“介詞”として分類される（《国語活用辞典》（2004）周何主編，五南図書出版，pp. 1406-1407）。以後、本文中で「介詞」とした場合は、当時の分類を指すこととする。

- ① “底”……「介詞」に用いる
- ② “的”……形容詞の語尾に用いる（文言文では「之」「者」「具」を用いていた例及び日本語の名詞性形容詞）。

- ③ “地”……副詞の語尾に用いる。

抱影：

- ① “底”……「介詞」に用いる。
- ② “的”……形容詞の語尾に用いる。
- ③ “地”……副詞に用いる。

これに加えて、将来中国語がピンイン表記されるようになれば、形容詞、副詞、代名詞の語尾を作る“的”（≒「的（テキ）」）は“kexuede yanjiu（科学テキ研究）”，「介詞」を作る“的”は“kexue de yanjiu（科学ノ研究）”と区別をすればよいと付した知識人もいた<sup>37)</sup>。

これらの議論は1919年11月から12月にかけて紙面上で行われ、その議論は国語統一籌備委員会常会で取り上げられたことから“的”に関する問題が当時如何に重要なこととされていたかが分かる<sup>38)</sup>。陳望道（1920a）<sup>39)</sup>（1920b）<sup>40)</sup>によるとこれらは結局以下の通り分

<sup>37)</sup> 錢玄同（1919）〈我現在對於『的』字用法底意見〉《晨报》，12月2日

“我以為中国国語改用音標文字之後、應該把現在的「的」字和「的」字上面那個字連成一字、「底」字則獨立。例如  
（形）大的 tati；理想的 lisiangti。  
（副）活潑潑的 huopopoti。  
（代）你們的 nimentì。  
（介）“的”字問題底討論 “tì” tsii wenti ti taolun。

所以如

病的狀態当作 Pingti chuangtai  
病底狀態当作 Ping ti chuangtai  
科學的研究当作 Kohsiiti yenchiu  
科學底研究当作 Kohsiia ti yenchiu

……形容詞、副詞、代名詞底「的」字是個語尾、所以連着形容詞、副詞、代名詞寫。介詞底「底」字是介于兩詞間底一個獨立的字、所以單獨寫。在講話的時候、也有點分別、說形容詞、副詞、代名詞、與「的」字一氣連說、說介詞底「底」字、則與前詞之間微頓。……”（本文中のピンイン表記は筆者が現在通用のものに改めた）。

<sup>38)</sup> “今天過於統一籌備委員會常會。第四案就是討論「的」字問題。……” 邵西（1919b）

<sup>39)</sup> 陳望道（1920a）〈“的”字底新用法〉

<sup>40)</sup> 陳望道（1920b）〈“的”字底分化——化作“的”、“底”、“地”〉

化すると決着がつき、《新青年》7巻2号から実践使用していくことになった<sup>41)</sup>。

“的”	①代詞	(A) “者”の字に代える (EX. “殺人的”)
		(B) “所”の字に代える (EX. “天殺的”)
	②形容詞	(A) 本來的 (EX. “紅的花”)
(B) 名詞的 (EX. “理想的”)		
(C) 動詞的 (EX. “吃的東西”)		
“地”	③副詞語尾	EX. “孤孤淒淒地坐在門前”
“底”	④「介詞」	(A) 名詞の後 (EX. “ <u>民國日報底覺悟欄</u> ”)
		(B) 代名詞の後 (EX. “你底書”)

(下線部筆者)

陳望道は (1920b: pp. 26-27) において、以下のように述べている。

我們再看這分化，是不是妥当？要解決的疑難，有沒有解決？這又兩点最主要：

第一、(A) 代詞和形容詞底語尾，何以同用“的”？(B) 同用“的”，会不会發生疑難？——這一点很重要，但已不成問題。因為 (A) 代詞不過是形容詞省略了被形容詞的狀況，像“殺人的”無非是“殺人的”底省略式。所謂代詞和形容詞，性質上並沒有甚麼差別。(B) 同用一個字，實際上也不至于發生疑難。所以可以同用“的”字。

第二、要解決的，有沒有解決？——這一点也很重要，但已不成問題。因為最容易混淆的，是第二 (B) 和第四 (A)，現在已經分屬“的”“底”兩字了，再也不会發生甚麼疑難。從這最主要的兩点看来，已經沒有什麼疑難，這個問題總算完全解決了。

(このような“的”字の使い分けは果たして妥当だろうか。解決すべき困難は解決したであろうか。この2点は最も重要なことである。

第1に…… (中略) ……

第2に、解決すべきことは全て解決したかについてだが、これも既に解決している。なぜならば、最も混同しやすいものは「“的”②形容詞 (B) 名詞的 (EX. “理想的”)」の用法と、「“底”④「介詞」(A) 名詞の後 (EX. “民國日報底覺悟欄”)」の用法であり、これらは既に“的”“底”という二つの文字で使い分けをしているため、もう混

<sup>41)</sup> 陳望道 (1920a)

同することはないであろう。)

(拙訳) (筆者要約)

ここから見るに、当時“的”論に対する最終的な結論は、「形容詞の標示には“的”，關係を表す助詞には“底”を用いる」という使い分けを行うことで、一部受容され、「科学的」と「科学の」の表現方法を区別することになったと考えられる。“的”について、形容詞を作る語、形容詞の語尾であると考えている点で、この段階で“的”は一種の接尾辞であったと考えられるが、この段階で問題なのは、《晨报》で議論されたこれらの分類の“的”はほとんど“語+‘的’+語”の關係しか想定していないことである。日本語の「的」を伴った言葉は、「この公園は日本的だ」のように、抽象名詞以外の語に付き、さらに述語を作ることが可能である。しかし、当時盛んに議論された“的”については“這是日本的公園”のような例は想定されているが、“的”がどんな文章構造中に現れても形容詞として用いることが出来るかどうか、例えば“這個公園是日本的”のような用法は可能かどうかについて述べられていない。当時の中国語における“的”は、あくまで“語 (それも特に抽象語) + ‘的/底’ + 語”に対しての問題であるとすれば、その意味で当時書き分けが行われた“的”と“底”も、「標示」というに過ぎず、これを強い品詞変化の機能を持った「接尾辞」と言い表すのが、適当かどうか、これら議論からは分からない。そこで、当時のこのような形容詞を表す“的”を本稿では「形容詞の標示」としたい。

### 3-2. 日本語接尾辞「的」に関する理解

そもそも以上のような「“的”を書き分けるか否か、どのように書き分けるか」という議論が持ち上がったのは、日本語から大量に接尾辞「的」の用法が輸入されたことで、中国語既存の助詞の用法“的”と混同され、日本語「的」を巡って理解の混乱が起こったからである。この混乱は、例 (19) ~ (32) も参照されたい。これら例は1900~1910年代の知識人の用法の一部に過ぎないが、1910年代後半から1920年代初頭にかけて行われた“的”に関する論争の中では、当時の知識人が「日本語の「的」をどのように理解していたか」について詳しく述べられている。

我想為甚麼想起把『的』『底』兩字、在白話文裏『分職』呢？就因為『日本文輸入』我們已經用得熟而又熟底一個『的』字、這個『的』字用法在日本是因為翻譯西

文底需要、才創出来底、不但在中国『大可補文言之缺点……文言所不及』就在中国白話裏和其他一切習用底『的』字、意味迥然不同、例如『自然的』『理想的』『利己的』『利他的』『紳士的』『平民的』……

(私がなぜ“的”“底”の二つの字を白話の中で「分業」すべきと考えたかと言えば、それは「日本語の輸入」によって“的”という字について、よく使用し、またよく知るところとなったからである。この“的”字の用法は、日本で西欧語を翻訳する必要から生み出されたもので、中国で「文言の欠点、文言の及ばないところを補う」、つまり中国白話の中のその他常用される“的”字とは全く異なる意味である。例えば「自然的」「理想的」「利己的」「利他的」「紳士的」「平民的」……のように。)

(止水 (1919) 〈答『適之』君『的』字〉《晨報》，11月13日)

陳独秀は、これら多くの日本語由来の「的」の用法を、中国語の助詞“的”の用法と混同していたと考えられる文章を記している。

……例如「科学的研究」、這意思是說研究科学、還是說■科学的方法来研究別的呢？又如「病的狀態」、這意思是說病狀經過底狀態、還是拿病■形容別的東西底狀態呢？(中略)……「科学的研究」、「病的狀態」、所以會發生誤解底緣故、就是一個「的」字可以作「介詞」和「形容詞底語尾」兩樣解法、意思便大不相同。又像「哭的声音」這句話、也有兩樣意思、「哭的声音」、「哭的」兩字是一個形容声音底形容詞、說一種声音和哭一般；若『哭「底」声音』乃是「哭声」底意思。這樣分別開來、才不致發生誤會。

(例えば“科学的研究”は、科学を研究することなのか、それとも科学の方法で別のものを研究することなのか。また、“病的狀態”というのは、症状が経過する状態なのか、あるいは症状で別のものの状態を形容しているのか。(中略)……“科学的研究”“病的狀態”という用法が誤解を生み出す原因は、“的”字が「介詞」と「形容詞の語尾」の二つに解釈ができるからであり、意味も大いに異なるからである。“哭的声音”にしてみても二つの意味がある。“哭的声音”の“哭的”という二つの字は声を形容する形容詞であり、ある声が泣いているようであることを表す。もし“哭底声音”ならば、それは「泣き声(哭声)」の意味である。この様に分類すれば誤解は発生しないであろう。)

(陳独秀 (1919) 「論的」字底用法』《晨報》，1919年11月22日)

陳独秀のこのような意見は、“的”が形容詞の語尾、標示であるという考えが先立ってしまい、“哭的声音”という「動詞+“的”+名詞」の用例すらも、“的”が付くことから、動詞に「～的な」「～のような」という意味の形容詞化が起こると解したものである。これは、「～的な」「～のような」を表す日本語の「的」が、中国語が元々持っていた“的”を用いて名詞を修飾する用法と同形であるために起こった混乱であろう。日本語では「的」が多用されるようになって、何か他の用途と混用されることはなかったことと比較すると対照的である。

無論、この「的」を中国語が元々持っている用法と考えた知識人もいた。

……簡單一句話、這種的並沒有什麼特別性、也不是日本化底、是中国白話本來有的。  
(端的に言うと、この種の「的」字は決して特別なものでも、日本的なものでもなく、中国白話が本来持つものである。)

(胡適 (1919b) 〈再論『的』字〉《晨報》，11月25日)

……所以這種ノ字和的、都是由中文轉成日文的、並不是日本輸入西洋文法以後才有的。

(つまりこれらの「ノ」や「的」字は、みな中国語が日本語になったものであり、決して日本が西洋文法を受容して以降現れたものではない。)<sup>42)</sup>

(抱影 (1919) 〈的」字用法底問題〉《晨報》，11月27日)

しかし管見を述べると、胡適や抱影の意見は、やはり「～のような」「～という特質を持った」「～らしい」のような意味を生じさせ、前置成分を「曖昧化」する日本語の接尾辞としての「的」の用法をはっきりと理解していないように思われる。どちらにしてもこの日本語の接尾辞「的」が、中国の近代における言文一致運動と、近代語を受容していく過程で関わっていたことは間違いない。さらに「的」の用法が論議される中で、「文章をさらに西欧語に近づけた」<sup>43)</sup>日本語の「文法」を西欧語とは関係のないところで中国語に取り入れ

<sup>42)</sup> 抱影は日本語の「ノ」と「的」の差を俗語と文語の差であると考えていたようである。

<sup>43)</sup> 孟真 (1919a) 〈討論『的』字的用法〉

ることを検討した知識人もいた。

在日本人訳西文、其於前置詞（介詞）『of』、則訳為『ノ』、重訳漢文、則為『之』、白話作『的』、非日本訳文中之『的』字也、日本文中自有的字如『理想的』『自然的』『利己的』『利他的』……等皆以理想、自然、利己、利他、……等為準的、此為形容字而非介字也、與英文 Like 字相似、如 Gentleman-like 訳為『紳士的』、此訳可解作以『紳士』為準的、如日『The man is gentleman like』、訳以漢文則為『其人為紳士的』此『的』字白與『之』字転来之『的』『底』字異、日本文中、往往有『紳士的ノ人（The gentleman-like man）若『ノ』字訳作『之』則為『紳士的之人』、似乎不詞、然意義自屬明瞭、謂『似紳士之人』也、訳作『似……』字、又不足以該全体、如利己的、『自当的』理想的……不可曰『似利己』『似自然』『似理想』……也、凡西文中之品質形容字、日文多訳作『……的』如『The ideal park』訳作『理想的ノ公園』、此種『的』字皆為準的之的『ノ』字方為『之』字、如白話以『之』字為『的』、前諸例均為『紳士的的人』、（中略）……『理想的的公園』殊多不便、（中略）……如『社会的底科学』『理想的底公園』……、字義皆有分別、問答亦均無滯礙、最便利者莫過於是矣、（日本人は西歐語を訳する際、西歐語の前置詞“of”を“ノ”と訳した。これをさらに漢語に訳すれば「之」となり、白話では「的」とする。これは日本語訳文中の「的」字とは異なる。日本語中には「理想的」「自然的」「利己的」「利他的」のような語があり、これは皆「理想」「自然」「利己」「利他」などを基準にしたもので、形容詞であり「介詞」ではない。これは英語の“Like”と似ており、“Gentleman-like”を「紳士的」と訳するように、この訳は「紳士」を基準にしていると理解できる。例えば“The man is gentleman like”は、中国語で訳せば“其人為紳士的”となり、ここでの“的”は“之”“底”から転化した字ではない。日本語ではよく「紳士的ノ人（The gentleman-like man）」というような表現があるが、もし「ノ」を“之”に訳し、“紳士的之人”にするとまともな言葉でないようであるが、意味は明確になる。“似紳士之人”のように“似……”とすると、「利己的」「自当的」「理想的」が“似利己”“似自然”“似理想”とすることができないことから分かるように、全体を表すことができない。凡そ西歐語の中の形容詞は、日本語では多く「……的」と訳される。“The ideal park”が「理想的ノ公園」と訳されるように。これらの「ノ」字は“之”と表すことができ、“之”は白話では“的”である。そうなると、前述した例は“紳士的的人”“理想的的人”

となり、非常に不便である。（中略）……“社会的底科学”“理想的底公園”とすれば、字義も書き分けしており、最も便利である。）

（周建侯（1919a）『的』字《晨报》，11月13日）

（以上引用箇所拙訳）（下線部筆者）

周建侯のこのような意見は日本語の「的」が単なる形容詞の標示ではなく、大変広い意味を持たせることが出来る接尾辞であると指摘しており、日本語の「的」に関する現状を正確に言い表している。これを翻訳するには、「的」と共に日本語の格助詞を中国語で置き換えてしまうのが便利であると述べている。つまり、中国語の“的”も「形容詞の標示」ではなく、他の“底”や“地”の助詞とは明らかに異なる文法性質を持ったものとし、日本語の「的」と同じく接尾辞的に運用しようと考えたものである。これは胡適によって“這是日本笨伯『屋上架屋』的笨法子、我們何必学他！”“都是借日本文来替中国改造文法。這個並不是我們研究文法的人的事業。”<sup>44)</sup>と指摘されたが、完全に行われなかった方法というわけではない。“的”を巡る用法がまだ混沌としていた時期にあつては、梁啓超（1903）が記した例（20）“造成歴史的之根柢”の様に、1900年代初頭に「接尾辞+助詞」と取れる使用例がすでにみられる。さらに1930年代頃にも、日本語の「的」を翻訳する際、このような方法を取った文章が多くみられる。

以下、本項で述べたことをまとめる。

1910年代後半から1920年代初頭、日本語の「的」について、議論が起り、それによって中国語の助詞に書き分けが生じた。当時の知識人の多くは日本語の「的」を中国語に元々用いられていた助詞“的”とは異なるものであり、「形容詞を作る語」であると考えた。そして、中国語でも助詞の用法“底”と形容詞の標示“的”を書き分けるべきであるとして“的”の書き分けをはじめた。この議論に参加した知識人は、陳独秀、錢玄同、周建侯など、日本留学経験者が多かったことから、中国語の近代における“的”問題と、日本語、日本語の「的」は密接な関係にあることが分かるであろう。しかしこの段階で特に述べられていたのは“語+「的」+語”の構造を取る例についてであり、“的”が付着した場合、全てが形容詞と出来るかどうかについてははっきりしていない。そのため、当時の形容詞を作る“的”を本稿では「形容詞の標示」とする。

では、実際に日本語の「的」が中国語に翻訳される際には、どのような形をとっていた

<sup>44)</sup> 胡適（1919b）〈再論『的』字〉

のだろうか。次項では、翻訳という観点から、《新青年》(1915-1922)、周作人《現代日本小説集》(1923)、魯迅《現代電影與有産階級》(1930)、高汝鴻《日本短編小説集》(1934)を資料に用い、日本語「的」が中国語で如何に訳出されていたのか具体的に見て行こうと思う。

#### 4. 日本語接尾辞「的」の翻訳に関して

本稿では日本語「的」の訳出方法について、以下のように分類する。

- ① 「的」→“之”
- ② 「的」→“的”
- ③ 「的」→“底”
- ④ 「的」→“地”
- ⑤ 「的」→“底的”
- ⑥ 「的」→“底地”
- ⑦ 「的」→“的地”
- ⑧ 「的」→日本語の単語から「的」を取る
- ⑨ 「的」→意識及び書き換え(“上”, “性”など異なる接尾辞や、動詞等を補った例を含む)

また、この他にも該当箇所が翻訳文中で省略されており日本語と対照できない例があるが、これらの例は省略することとする。

##### 4-1. 《新青年》(1915-1922)

1915～1922年間に発刊された《新青年》の中、日本語から翻訳された作品は全部で27作品。このうち、今回は以下の13作品を対象に調査を行った。(表2)<sup>45)</sup>

《新青年》にこれら作品における接尾辞「的」の訳出方法は次の通りである。数字は、(中国語翻訳中該当訳をとった箇所/日本語原文中に現れた「的」の数)の通り。

- ① 「的」→“之”: 3/371 (「～的」の日本語原文中での文法性質; 連体2・述語1)

- ② 「的」→“的”: 163/371 (連体140・連用17・述語6)
  - ③ 「的」→“底”: 0/371
  - ④ 「的」→“地”: 4/371 (連用4)
  - ⑤ 「的」→“底的”: 0/371
  - ⑥ 「的」→“底地”: 0/371
  - ⑦ 「的」→“的地”: 0/371
  - ⑧ 「的」→日本語の単語から「的」を取る: 30/371 (連体23・連用6・述語1)
  - ⑨ 「的」→意識及び書き換え: 74/371 (連体43・連用27・述語4)
- (該当箇所省略の為訳出なし: 97/371)

表2: 今回用いた《新青年》からの作品

番号	翻訳発表年	翻訳タイトル	収録雑誌	巻	号	翻訳者	原文初出年	原文タイトル	著者
1	1915	女性與科学(人生科学一)	青年雜誌	1	4	孟明	1915	人生科学(1): 女性と科学	小酒井光次(小酒井不木)
2	1916	青年與性欲(人生科学二)	青年雜誌	1	5	孟明	1915	人生科学(2): 青年と性欲	小酒井光次(小酒井不木)
3	1916	人口問題與医学(人生科学三)	青年雜誌	1	6	孟明	1915	人生科学(3): 人口問題と医学	小酒井光次(小酒井不木)
4	1917	中国学研究者之任務	新青年	3	3	J.H.C.生	1917	支那学研究者の任務	桑原隲蔵
5	1918	貞操論	新青年	4	5	周作人	1915	貞操に対する疑ひ	与謝野晶子
6	1919	選挙権理論上の根柢	新青年	6	4	高一涵	1919	選挙権拡張問題	吉野作造
7	1919	文芸の進化	新青年	6	6	朱希祖	1912	非物質主義の文芸(其一): 2 文芸の進化	厨川白村
8	1919	啓蒙托爾斯泰的兩個農夫	新青年	6	6	鄒詒	1917	晩年の活動、その死	界曙夢
9	1920	一個青年的夢	新青年	7	2-5	魯迅	1916	或る青年の夢	武者小路実篤
10	1920	深夜の喇叭	新青年	8	4	周作人	1916	深夜の喇叭	千家元麿
11	1921	劳農俄国底労働聯合	新青年	8	5	陳望道	1921	労働組合の組織と職分(1,2,3,7,8...)	山川均
12	1921	劳農俄国底婦女解放	新青年	9	3	李達	1921	婦人の解放	山川菊栄
13	1922	馬克斯主義上所謂「過渡期」(録覚悟)	新青年	9	6	光亮	1921	マルクス主義に謂ふ所の過渡期について	河上肇

<sup>45)</sup> なお、今回《新青年》(《青年雜誌》)は大安影印本を用いた。

①「的」→“之”：3/371（連体2・述語1）

ここで見られる3例は以下の通り。

(33) 両性之人類学的研究は寧ろ個体發生の研究即ち胎生学的研究で足るもので、（小酒井光次（1915a: p.13, 1段目, 1.18）

両性之人類学的研究。寧ろ個体發生之研究。即胎生学之研究足矣。（孟明訳（1915: p.1）

(34) 人類学生理学上の知見よりして婦人に性的生活の肝要なことは、極めて自然的な合理的な事柄であらうと思ふ。（原著同上, p.13, 5段目, 1.46）

由人類学生理学之見地觀之婦人之性的生活為重要且合乎自然之事理焉（訳本同上, p.3）

(35) 然し乍ら上記は実にはゞ症候的の治療法で決して根本的ではない。（小酒井光次（1915b: p.14, 5段目, 1.20）

然根本之救済法。在……（孟明訳（1916a: p.2）

(33) (34) は連体修飾, (35) は述語からの翻訳である。これらは全て同一人物によって翻訳が行われ、1917年以前に掲載されたものである。見ての通り訳文もどちらかと言えば文言文的であり、それが「的」が“之”へと訳出された原因とも考えられる。しかし、同じ文章中に、(33)「人類学的研究」→“人類学的研究”, (34)「性的生活」→“性的生活”などのように、日本語の「的」を“的”で訳出している箇所がある所から見ると、翻訳者の孟明は何らかの使い分けをしていた可能性もあり得る。可能性としては、原文中の「的」が形容詞化の接尾辞ととれる例は“的”を用い、それ以外は“之”を用いていたことが考えられる。しかし(33)「人類学的研究」→“人類学的研究”, 「胎生学的研究」→“胎生学之研究”というように、「～という領域で」「～方面の」の意味を取ると考えられる接尾辞「的」がそれぞれ“的”と“之”の両方で翻訳されている例も見られることから、ここで“之”や“的”の使い分けは、システムティックなものではなく、翻訳者個人の理解によるものであろう。

②「的」→“的”：163/371（連体140・連用17・述語6）

ここで使用されている“的”は“歧義”であり、

A) “的”が形容詞の標示として用いられている場合。

B) “的”が現代中国語の助詞と同じ用法として用いられている場合。

の2通りの可能性が考えられる。さらに非常にわかりにくい例として日本語と同じく接尾辞的に“的”を用いている例も見られる。

例えば、

(36) 之を利用する前に、先づ科学的方法で十分に整理を加へ、かく整理した材料を、科学的方法によつて、研究せなければならぬと思ふ。（桑原隲蔵（1917: p.506）  
欲利用之。必先以科学的方法細密整理之。整理之後。再以科学的方法研究之始可。（J.H.C.生訳（1917: p.4）

のような例の“的”は日本語の「的」に影響され、中国語「形容詞の標示」として“的”を用いたものか、現代の“的”と同じく単に関係を表す助詞としての用法なのか、判断しがたい。この例においては、例えば他の箇所“有由莫大之費用、與時日得來之地下基礎。”  
“日本人之缺点”のような助詞“之”の用法が認められるため、恐らくこれら“的”はA)形容詞化の接尾辞である日本語の「的」を写したもので、何らかの使い分けがあったのではないかと推測できる。

また、以下のような用例がある。

(37) 私は人間がまだ人類的にまで生長しきらない内は戦争がやまないものだと思つてみます。（武者小路実篤（1916: p.304）

我想倘若人間還未生長到人類的，戰爭是不会停止；（魯迅訳（1920: p.99）

このような例では、“的”の後ろに後置された語がないことから、“的”が「形容詞の標示」というよりも、むしろ日本語の「形容詞化の接尾辞」として、使用されていると言えよう。本来の中国語では、このように“的”を使う方法は不自然であるため、括弧付きで表現されている。

作品によっては「形容詞の標示」である用法と、「助詞」の用法の表記分けをしていない



ものがあり、“的”が A)「形容詞の標示」として理解されているのか、B) 単なる助詞として理解されているのか、非常に曖昧である。

②「的」→“的”の訳出法が用いられているのは、原文が連体形であるものが 140 例と最も多く、次に連用形が 17 例、述語が 6 例である。用いられる前置語は「科學」「階級」など抽象名詞がほとんどであるが、「比較」などの副詞、「痙攣」などの動詞も存在する。とくに抽象名詞の場合、作者が“的”を用いた意図はさらにわかりづらいものとなっている。

### ③「的」→“地”：4/371（連用 4）

この訳出法を取る 4 例は、以下の通り。

(38) 斯くて出来上つた二十五個の全露的産業組合は、更に全露労働組合大会によつて、全労働階級的に集中せられて居る。(山川均 (1921: p.139))

最後、更將這組織起來的三十個全國職業聯盟全労働階級地集合起來，組成個最後的機關，(陳望道訳 (1921: p.16))

(39) 一旦過渡期に這入ると、多數の無産者が少數の有産者を圧服するのだから、それは比較的容易なことで、(河上肇 (1921: p.154))

但是一旦進入過渡期裏，就變做多數的無産階級壓服少數的有産階級了，所以就比較地容易，(光亮訳 (1922: p.109))

(40) 社会はさういふ政治形式を採ることにより、意識的に社会主義の実現に必要な經濟的、物質的の條件の完成を急ぐことが出来る。(原文同上，p.156)

社会如果採用這種政治形式，就能夠意識地使那為實現社会主義所必需的經濟的物質的條件，很快地完成。(訳文同上，p.111)

(41) 過渡期に這入ると云ふことによつて、其の社会は意識的に社会主義を日かけて進むことになる。(原文同上，p.156)

由進入過渡期這件事，那個社会，就能夠意識地向社会主义進行。(訳文同上，p.111)

これらはどれも 1920 年代に入ってから例であり、全て原文は連用形を取っており、翻訳した際は状語の機能を果たしている。また、(38)「全露的産業組合」→“全國職業聯盟”，(40)「經濟的、物質的條件」→“經濟的物質的條件”，「完成を急ぐ」→“很快地完成”の

ような例から見ると、単純に「的」を“地”に訳出したのではなく、状語を“地”でマークするという現在の用法に近い<sup>46)</sup>。しかし、“全労働階級地集合起來”のように、現在ではあまり見られない「名詞+“地”+動詞」のような例もあることから、これら例にみられる当時の“地”は、「動詞・形容詞を修飾する形容詞的名詞の標示」という効果を持っていたのではないかと考えられる<sup>47)</sup>。なお、このような“地”の用法は、北京師範学院中文系漢語教研組編著 (1959: pp.148-151) など、先行研究において、五四以降に外国語の影響を受けて生じた変化として挙げられる特徴の一つである。

### ④「的」→日本語の単語から「的」を取る：30/371（連体 23・連用 6・述語 1）

この訳出法を取る原文は連体修飾が 23 例で最も多く、連用修飾は 6 例、述語は 1 例である。連体修飾を取る場合、そのほとんどが定語へと訳されている。この場合原文で使用されている名詞は、“分析”“綜合”“財産”“絶対”“政治”“新浪漫派”“一時”“宗教”“共濟”など、抽象的であり、名詞というよりも形容詞的、副詞的に用いられている場合が多い。ここで“的”を付けるか付けないかということに関しては、日本語の「的」の関係というより、中国語内部での定語に“的”が必要なものとそうでないもの、という問題に発展し、議題から逸れるため、ここで深く触れることは避ける。

### ⑤「的」→意識及び書き換え：74/371（連体 43・連用 27・述語 4）

原文が連体修飾であるもの 43 例、連用修飾であるもの 27 例、述語 4 例。これは詳細に分類すると以下の 2 通りある。

A) 単語自体の書き換え、逐語訳でなく文全体の意味をとった翻訳、つまり意識の割合が大きいもの。この場合日本語の「N 的」は中国語文として自然に読めるよう

<sup>46)</sup> なお、“很快地”のような用法は、「欧化語法」であるとの指摘がある。

“作為壯語的標示的‘地’的活用  
如：very quickly = 很快地（本来的漢語只有“快快地”  
更快地，較快地（程度副詞+形容詞+地）  
鼓足幹勁、力爭上游、多快好省地建設他態度激昂地說”  
(内田慶市 (2011: p. 38) 〈關於語言接觸和“新興語法”〉)

<sup>47)</sup> 《八百詞》では、「名詞は普通動詞・形容詞を修飾しないが、いくつかの抽象名詞は……地の形にして動詞を修飾できる」として“科學地論証”“歷史地考察”“部分地解決”“不能形式主義地看問題”の例を挙げている。《八百詞》(2003: p. 90)

に翻訳することに重点を置いていると考えられる。

B) 単語は日本語と同じものを使用し、接尾辞「的」に当たるものを異なる構造や、動詞、名詞で訳出しているもの。

Bのような場合には“属(於)N”“N性”“(在)N上”“(在)N方面”“照N的思想”“N時代的”“用N力”“用N的方法”“趨N”“有N趨向”等で「的」を訳出している。

(42) 貞操は精神的のものですか、肉体的のものですか、愛情のものですか、性交のものですか、また精神的であると同時に肉体的のもの、謂ゆる靈肉一致的のものですか(与謝野晶子(1915: p. 133))

貞操は屬於精神的の呢? 屬於肉体的の呢? 屬於愛情的の呢? 屬於性交的の呢? 還是又屬精神、又屬肉体、所謂靈肉一致的の呢? (周作人訳(1918: p. 376))

(43) 又、国家の方から言つても、国家を組織する各員を物質的に且つ精神的に充実にしむるのみならず、(吉野作造(1919: p. 25))

從国家方面説來，不但應該叫組織国家的個人，物質上精神上都要滿足；(高一涵訳(1919: p. 391))

(44) 更に彼等をして国家のために意識的に行動せしむる様にする事が得策であり又必要である。(原文同上，p. 25)

并且要叫他們為国家作有意識的行動。這是頂好的事，也是頂重要的事。(訳文同上，p. 391)

(45) そして此積年の鬱勃たる元氣は、政治的にはソヴィエットの組織となつて現はれ、(山川均(1921: p. 134))

多年蘊積着的元氣，一時迸發；在政治方面，就顯出蘇維埃底組織；(陳望道訳(1921: p. 15))

(46) あれば法律をつくつてそんな国のことを思はない、亡国的な人間は牢屋に入れてやります。(武者小路実篤(1916: p. 445))

有果竟有，便立了法律，將這種不念国家，亡国性的東西，都關到監獄裏去。(魯迅訳(1920: p. 3))

(47) その研究の結果は、餘りに専門門的で、(桑原隲蔵(1917: p. 518))

其結果逐過趨專門。(J.H.C.生訳(1917: p. 10))

これらは、「的」が含んでいる「～のような性質をもった」「～に関する」「～方面の」という意味を別の形で訳出した例である。(42)のように「精神的なもの」「愛情のもの」のように「的」のあるなしに関わらず“属于N”としているような例もある。

これらの例と、(37)のような“的”を形容詞化接尾辞として用いている例が同時期、同じ作品内にも混在することから、当時の接尾辞「的」に関する状況は整理されていなかったことが分かるであろう。

全体的にみると、《新青年》(1915-1922)における「的」の翻訳方法は、第3巻(1917年)以前には“的”と“之”で対応、訳し分けることが多く、それ以降になると、“的”“地”，そして“屬於N”“在N上”のような構造で対応するようになっていく。“底”を用いた翻訳方法が一つも見当たらないことは、3-1.で見た「所有・所属を表す場合は“底”を用いる」という分類を考えれば当然のことであろう。日本語の場合、後置名詞との所有・所属・所在・行為者などの関係を表す場合は、「的」を用いることがないからである<sup>48)</sup>。ましてこの分類方法は《新青年》上で実践する、と陳望道が述べているのである。この結果は、この“的”分類方法を体現した結果だと考えてよいだろう。

#### 4.2. 周作人《現代日本小説集》<sup>49)</sup>(1923)

《現代日本小説集》に収録されている作品は30作品。今回は以下の29作品を用いて調査を行った。(表3)<sup>50)</sup>

《現代日本小説集》における接尾辞「的」の訳出方法は次の通りである。

- ① 「的」→“之”：0/48
- ② 「的」→“的”：40/48(連体21・連用17・述語2)
- ③ 「的」→“底”：0/48
- ④ 「的」→“地”：0/48
- ⑤ 「的」→“底的”：0/48
- ⑥ 「的」→“底地”：0/48

<sup>48)</sup> 「泥的」のような中国語白話を真似た用法が江戸時代に流行してはいたが、明治期以降の専門書などでこれが使われる可能性は皆無に近いであろう。

<sup>49)</sup> 周作人編訳・胡適校(1923)《世界叢書：現代日本小説集》，商務印書館(1923年12月再版)

<sup>50)</sup> 『三浦右衛門の最後』の初出は《新青年》であるが、翻訳者は「魯迅」と記されている。《現代日本小説》での翻訳者は「周作人」となっているが、内容は同じものである。また、『少年の悲哀』の初出も《新青年》である。

- ⑦ 「的」→“的地”：0/48
- ⑧ 「的」→日本語の単語から「的」を取る：2/48（連体1・述語1）
- ⑨ 「的」→意識及び書き換え：6/48（連体3・連用3）

表 3：今回用いた《現代日本小説集》からの作品

番号	翻訳タイトル	原文タイトル	原文初出	著者
1	少年的悲哀	少年の悲哀	1902	国木田独步
2	巡察	巡察	1902	国木田独步
3	掛幅	懸物	1909	夏目漱石
4	克來喀先生	クレイグ先生	1909	夏目漱石
5	遊戲	あそび	1910	森鷗外
6	沈黙之塔	沈黙の塔	1910	森鷗外
7	金魚	金魚	1911	鈴木三重吉
8	黄昏	たそがれ	1909	鈴木三重吉
9	照相	写真	1911	鈴木三重吉
10	第二的母親	第二の母	1914	武者小路実篤
11	久米仙人	久米仙人	1921	武者小路実篤
12	與幼小者	小さき者へ	1918	有島武郎
13	阿末的死	お末の死	1916	有島武郎
14	亡姉	亡き姉に	1912	長與善郎
15	山上的觀音	山の上の觀音	1920	長與善郎
16	網走まで	網走まで	1908	志賀直哉
17	清兵衛與蘆葦	清兵衛と蘆葦	1913	志賀直哉
18	深夜的喇叭	深夜の喇叭	1916	千家元麿
19	蔷薇花	蔷薇の花	1916	千家元麿
20	小小の一個人	小さい一人	1917	江馬修
21	二浦右衛門の最後	二浦右衛門の最後	1916	菊池寛
22	復讐的話	ある敵打の話	1918	菊池寛
23	鼻子	鼻	1916	芥川龍之介
24	羅生門	羅生門	1915	芥川龍之介
25	我的父親與父親的鷓的故事	私の父と父の鷓との話	1920	佐藤春夫
26	「黄昏的人」	「たそがれの人間」	1921	佐藤春夫
27	形影問答	形影問答	1919	佐藤春夫
28	雉鷓的烧烤	雉子の炙肉	1919	佐藤春夫
29	郷愁	郷愁	1918	加藤武雄

- ② 「的」→“的”：40/48（連体21・連用17・述語2）

全体的に訳出法の基本的な傾向は《新青年》と変わらず、「的」から“的”への訳も、同じく“歧義”と考えられる。原文で「的」がつく単語が抽象的なものが多いので、A) 形容詞の表示として用いているのか B) 助詞的用法のとして用いているのか分かりにくい。さらに、

(48) 従つて、合理的には、それを善悪の何れに片づけてよいか知らなかつた。(芥川龍之介『羅生門』(1915: p. 9))

所以照「合理的」的説，是善是惡，也還沒有知道應該屬於那一面。(《羅生門》p. 324)

のような例も見られる。これは、“的”に関する議論でも一部意見に存在した“接尾辞+助詞”の構造をとっている例であり、“的”が形容詞化の接尾辞として用いられていると考えてよいであろう。また、全体の訳出方法からも分かるように、周作人(1923)においては、動詞を修飾する場合にも“地”ではなく“的”を用いている。

(49) 下人は、手段を選ばないといふ事を肯定しながらも、この「すれば」のかたをつける為に、当然、その後に来る可き「盗人になるより外に仕方がない」と云ふ事を、積極的に肯定する丈の、勇気が出ずにゐたのである。(芥川龍之介『羅生門』(1915: p. 5))

家將一面固然肯定了不揀手段這一節了，但對於因為這「則」有著落，自然而然的接上來的「只能作強盜」這一節，却還沒有足以積極的肯定的勇氣。(《羅生門》p. 321)

#### ⑧「的」→日本語の単語から「的」を取る：2/48（連体1・述語1）

この例を取るの、以下の2例のみ。

(50) 木村が文芸欄を読んで不公平を感じるのが、自利的であつて、(森鷗外『あそび』(1910: pp. 705-706))

倘說木村看了文芸欄，覺得不公平是因為自利，(《遊戯》p. 38)

(51) そんな風に穿鑿をすると同時に、老伯が素食をするのは、土地で好い牛肉が得ら

れないからだ、何十年と継続してゐる伯の原始的生活をも、猜疑の目を以て視る。(森鷗外『沈黙の塔』(1910: p. 759))

這樣穿鑿下去，便覺得老伯爵的喫素，也因為鄉下得不到好牛肉；對於伯爵幾十年継続下來的原始生活，也要用猜疑的眼睛去看了。(《沈黙之塔》p. 63)

この2例で“的”に前置する語は、どちらも抽象的な語であり、“原始”に至っては《現代漢語詞典：第5版》(2005)においては形容詞としてしかとられていない語である。しかしこの2例と、“的”を付けた例との明確な差は不明である。

#### ⑨「的」→意識及び書き換え：6/48（連体3・連用3）

A) 単語レベルでの意識を取るの1例のみで、残りはすべて B) 単語はそのままでも何らかの語で補う例である。《新青年》では A の場合、かなりの割合で文全体の意を汲んで訳していたが、《現代日本小説集》では A の例でも、

(52) 二人は社交的の為に、名誉看護婦とか、有志看護婦とか云ふものになつて負傷兵を見舞つたのだらうと思ふ。(武者小路実篤『第二の母』(1914: p. 122))

這大約因為社会交際的關係，二人当作什麼名譽看護婦或有志看護婦，曾去訪問過負傷兵士，在那時候所照的罷。(《第二的母親》p. 115)

のように、なるべく原語に近い語を使い訳している。また、「N的」が連体修飾語であるときは定語として、連用修飾であるときは状語として訳すなど、文章構造も原文に忠実に訳している。これは時代的なものというより、周作人の方針なのかもしれない。B) なんらかの語を補う例で用いられているのは「上」「方面」「用」の3種類であり、原文の「的」が表す意味をこのような形で置き換えている。

#### 4-3. 魯迅《現代電影與有産階級》(1930)<sup>51)</sup>

《現代電影與有産階級》は、魯迅が1930年に翻訳したものである。原作は岩崎昶『宣伝、煽動手段としての映画』<sup>52)</sup>(1929)。本作品における接尾辞「的」の訳出方法は次の通りで

<sup>51)</sup> 魯迅(1981)『魯迅全集』、4巻、人民文学出版社、pp.389-413(『二心集』収録(初出『萌芽月刊』第1巻、第3期)1930年)、

<sup>52)</sup> 岩崎昶(1929)「宣伝、煽動手段としての映画」『新興芸術』、創刊号-第2号、芸文書院

ある。

- ① 「的」→“之”：0/127
- ② 「的」→“的”：4/127（連体4）
- ③ 「的」→“底”：63/127（連体60・連用1・述語2）
- ④ 「的」→“地”：0/127
- ⑤ 「的」→“底的”：32/127（連体29・述語3）
- ⑥ 「的」→“底地”：8/127（連用8）
- ⑦ 「的」→“的地”：0/127
- ⑧ 「的」→日本語の単語から「的」を取る：5/127（連体2・連用2・述語1）
- ⑨ 「的」→意識及び書き換え：14/127（連体5・連用8・述語1）

（該当箇所省略の為訳出なし：1/127）

この翻訳文章は他の文章と訳出傾向が異なっている。全体的に日本語の接尾辞「的」を“底”，連体修飾の助詞「ノ」や「ナ」を“的”，連用修飾の助詞「ニ」を“地”で訳出しているのである。このようにして接尾辞と格助詞を訳出する訳出法は，例（48）でも見られたが，《五四以来漢語書面語言的變遷和發展》<sup>53)</sup>によれば魯迅や茅盾が日本語から翻訳をする際に行ったという。

- (53) 因此你就知道，如果你弁証的地处理問題……（斯密斯取出記事册，写了幾個字）。  
你干涉麼？斯：記下來呀：“弁証的地”。（西蒙諾夫：俄羅斯問題，矛盾訳）
- (54) 遊戲一是時間底地比它先行的勞動的孩子呀。（蒲力汗諾夫：再論原始民族的藝術，魯迅訳）  
（下線部筆者，原文は黒点で表記，これらの文章は日本語からの重訳と考えられる）

では《現代電影與有産階級》では実際どのように翻訳されているか。以下，詳細な分析を行う。

<sup>53)</sup> 北京師範学院中文系漢語教研組編著（1959: pp. 149-150）

## ②「的」→“的”：4/127（連体4）

日本語の「的」が基本的に“底”で置き換えられているためか、「的」を“的”と訳出したものは全4件と少ない。これらは全て連体修飾語を訳出したものである。日本語の連体助詞「ナ」「ノ」を概ね“的”と訳出していることから考えると，ここでこの“的”は接尾辞「的」ではなく，前置のNと中心語を関係させる助詞に過ぎず，前置のNが形容詞として用いられていると考えたほうが適切であるように思う。しかしながら，

- (55) 何故ならば，この種の映画は，その外形上の差違こそあれ，究局に於ては帝国主義戦争への意識的準備であり，鼓舞である点で，そのショーヴィニズムに於て，その好戦性に於て，戦争映画と本質的に聯関してゐるものなのであるから。（岩崎昶（1929）『新興芸術』，第2号，p. 33）

為什麼呢？因為這種電影，雖有外形上的差違，但終極之点，是在向帝國主義戰爭的意識的準備，鼓舞，在那君權主義上，在那好戰性上，和戰爭影片是本質底地相關聯的。（魯迅訳〈現代電影與有産階級〉《魯迅全集》，4卷<sup>54)</sup>，p. 398）

- (56) そして，作者が意識的なアクセントをそこに集中した時，優秀な作品が生れ得る。（『新興芸術』，第2号，p. 40）  
倘作者將意識底的強音（Акцент）集中於此的時候，是可以產生優秀的作品的。（參照資料，p. 403）

（下線部筆者）

のように，同じ名詞を定語に用いていても，“的”と“底的”の2通りに訳していることもある。（55）の例には格助詞「ナ」がなく，（56）の例にはあるので，それぞれ（55）“意識的”（56）“意識底的”とした可能性もあるが，

- (57) 何故ならば，それに続く國內的な争ひや，また彼の退隱や，は曇つた思ひ出を呼び起こして，観客を結合せず，却つて離反させ，この映画全体の祖國的な目的にそむくものであるから。（『新興芸術』，第2号，p. 35）  
為什麼呢？就因為跟着發生的國內的紛争，以及他的退隱，是惹起陰沈的回憶，不使觀者結合，却使之乖離，有違於這電影全体の祖國底的目的的緣故。（參照資料，

<sup>54)</sup> 以下，「參照資料」と記す。

(57) のように、「国内的な争ひ」を“国内的紛争”と訳した例もあるため、単純には言えない。当時盛んに言われていた「テキ」と「ノ」をどう中国語で表現するかといった問題に対応するため<sup>55)</sup>、日本語の意味を(55)「意識的準備」は「意識を準備すること」、(56)の「意識的なアクセント」は「意識を用いて行うアクセント」のように理解し、このように訳したとも考えられる。

③「的」→“底”：63/127（連体 60・連用 1・述語 2）

⑤「的」→“底的”：32/127（連体 29・述語 3）

⑥「的」→“底地”：8/127（連用 8）

“底”が形容性を付加する接尾辞，“的”が定語，“地”が状語を作る助詞として用いられている例であり、本作品に特徴的な翻訳方法である。

(58) ブルジョワの社会的勃興、宗教改革、等の重大な歴史的契機がそれによつて結果せしめられた。（『新興芸術』、創刊号、p. 19）

有産者底社会的勃興、宗教改革、那些重大的歷史底契機、由此得了結果了。（参照資料、p. 389）

(59) そして遂に、フィルムの七巻目に至つて、ブルジョワジーは蜂起し、極めて映画的なクライマックスと、壮大なモブ・シーンをそこに展開する、といふのがその典型的な段取りである。（『新興芸術』、第 2 号、p. 39）

到影片的第七卷、而有産階級終於蜂起、將電影底的極頂（Climax）和壯大的群集（mob scene）、在這裡大行展開、這是那典型底的結構。（参照資料、p. 402）

(60) そこに、世界大戦といふ重大な歴史的の事件を、国民的叙事詩の姿に於て、芸術的に再現する欲望が生じて来るのは自然である。（『新興芸術』、創刊号、p. 28）

於是發生一種欲望、要符世界大戦這一個重大的歷史底事件、在國民底叙事詩的形態上、藝術底地再現出來、正是自然的事。（参照資料、p. 396）

“的”が日本語格助詞「ナ」「ノ」，“地”が「ニ」に対応している訳が多いが、上述した

<sup>55)</sup> 北京師範学院中文系漢語教研組編著（1959: pp. 142-144）

例(57)のように「国内的な争ひ」を“国内的紛争”と訳していることから、必ずしも「N的」と「N的ナ」「N的ノ」が完全に“N底”と“N底的”に対応するわけではないと分かる。

また、日本語の連用修飾語を“底”のみで訳した例もあるが、下記のように、謂語として訳出しているため、

(61) その点餘りに常識的に終始したことを、私自身遺憾に思つてあることを附言させてもらふ。（『新興芸術』、第 2 号、p. 46）

在這一端、是全篇過於常識底了。請許我声明我自己頗以為憾的事。（参照資料、p. 408）

《現代電影與有産階級》で“地”が状語を作る助詞として扱われているということには矛盾しない。

⑧「的」→日本語の単語から「的」を取る：5/127（連体 2・連用 2・述語 1）

この方法を取っている例は以下の通り。

(62) アメリカの支配階級は、ドイツの軍隊が如何に兇悪であり、ドイツの潜水艦が如何に非人道的であるか、を描写して、単純なヤンキー達を巧妙に煽動した。（『新興芸術』、創刊号、p. 28）

亜美利加的支配階級便描写出德國軍隊的如何凶殘、德國潛艇的如何非人道、巧妙地煽動了單純的花旗人。（参照資料、p. 395）

(63) ドイツ国権党の領袖の一人であり、アウグスト・シヤール書房の事実上の所有者であるフーゲンベルグは、ドイツ随一の大会社ウーファ社の財政的危機に乗じて、（『新興芸術』、第 2 号、p. 35）

德意志國權黨領袖之一、奧古斯德・霞爾書店的事實上的所有者福干培克、乘德國大公司之一烏發公司的財政危機、（参照資料、p. 399）

(64) それはプロレタリアの勝利に、ことさらに暴虐の假面を被せ、泥を塗り、以て小市民階級を反××的ならしめるための、ブルジョワジーの××であつたのである。（『新興芸術』、第 2 号、p. 41）

那是在無產階級的勝利上，特地蒙上暴虐的假面，塗些污泥，使小市民變成反革命起見而作的有產階級的××。(參照資料，p. 403)

(65) 小市民的家庭劇に特徴的な二つの傾向がある。(『新興芸術』，第2号，p. 43)

在小市民家庭劇中，有兩種特徵的傾向——(參照資料，p. 405)

#### ⑨「的」→意識及び書き換え：14/127 (連体5・連用8・述語1)

A) 単語レベルでの意識，B) 単語はそのままでは何かの語で補うという両方の方法が存在するが，《現代日本小説集》と同じく A) の例でも言語の直訳に近い形に訳出している。

A) の例は，「量的に」→“在分量上”，「質的に」→“在實質上”，「メロドラマ的」→“樂劇式”，「個別的な」→“段落”，「比較的に」→“較”，「要約的に」→“很簡約”，「現実的」→“近視”等となっており，中国語として自然な既存の単語に置き換えている。

(67) 映画は、量的にも、質的にも、大衆の宣伝・煽動のための絶好の容器であることが立証されて来る。(『新興芸術』，創刊号，p. 23)

就証明着電影在分量上，在實質上，都是用於大衆底宣傳，煽動的絕好的容器。(參照資料，p. 392)

(68) メロドラマ的な恋愛による適當の甘さと、(『新興芸術』，創刊号，p. 29)

樂劇式戀愛的適當的甘甜，(參照資料，p. 396)

(69) 二三の個別的な場合に、(『新興芸術』，創刊号，p. 30)

在幾個段落里，(參照資料，p. 397)

(70) 物質文明の發達が比較的に遅れてゐる国々にあつては、(『新興芸術』，第2号，p. 37)

在物質文明發達較遲的国度中，(參照資料，p. 401)

(71) 極めて要約的にはあるが、スケッチしたことがある。(『新興芸術』，第2号，p. 43)

雖然很簡約，却已曾略述過了。(參照資料，p. 405)

(72) それはアメリカの平凡で、現実的で、樂天的な小市民達のための、また平凡で、現実的で、樂天的なロマンティズムである。(『新興芸術』，第2号，p. 44)

這是為了平庸，近視，樂天底的小市民們而設的，也是平庸，近視，樂天底底羅曼主義。(參照資料，p. 406)

B) の方法では，《新青年》《現代日本小説集》と同じ傾向が見られ，「的」に当たる意味を“上”，“對於……”，“近於”などで補っている。

(73) 技術的に非常に卓れた戦争映画「ホテル・インビリアル」Hotel Imperia のプロデューサー、エーリヒ・ポマーの製作した「鉄條網」Barbed Wire (『新興芸術』，創刊号，p. 30)

技術上非常卓拔的戦争影片《帝国旅館》(Hotel Imperial) 的導演者 Erich Pommer 所作的《鉄條網》(Barbed Wire) (參照資料，p. 397)

(74) 映画的に未だ素朴な大衆の目をいきなり眩惑して、その人気に投じたのであつた。(『新興芸術』，創刊号，p. 26)

便忽然眩惑了對於電影還很幼稚的大衆的眼，正合了時尚了。(參照資料，p. 394)

(75) 如何にも実写的である。(『新興芸術』，第2号，p. 36)

真好像近於写実。(參照資料，p. 400)

#### 4-4. 高汝鴻《日本短篇小説集》(1935)<sup>56)</sup>

《日本短篇小説集》に収録されているのは芥川龍之介らの全 19 作品。今回は以下の 13 作品を資料に用いた。(表 4)

《日本短篇小説集》における接尾辞「的」の訳出方法は次の通りである。

- ① 「的」→“之”：0/21
- ② 「的」→“的”：12/21 (連体9・連用1・述語2)
- ③ 「的」→“底”：0/21
- ④ 「的」→“地”：1/21 (連用1)
- ⑤ 「的」→“底的”：0/21
- ⑥ 「的」→“底地”：0/21
- ⑦ 「的」→“的地”：2/21 (連用2)
- ⑧ 「的」→日本語の単語から「的」を取る：0/21
- ⑨ 「的」→意識及び書き換え：6/21 (連体3・連用3)

<sup>56)</sup> 高汝鴻訳 (1935) 《世界文芸名著：日本短篇小説集》，商務印書館

表 4：今回用いた《日本短篇小説集》からの作品

番号	翻訳タイトル	原文タイトル	原文初出	著者
1	南京之基督	南京の基督	1920	芥川龍之介
2	蜜柑	蜜柑	1919	芥川龍之介
3	真鶴	真鶴	1920	志賀直哉
4	正義派	正義派	1912	志賀直哉
5	雪の夜話	雪の夜話	1920	巽見淳
6	馬糞石	馬糞石	1919	葛西善蔵
7	『替市民！』	「市民のために！」	1930	小林多喜二
8	『抹殺』不了的情景	カットされない情景	1929	徳永直
9	色彩	色彩	1930	武田麟太郎
10	小児病	小児病	1927	片岡鉄兵
11	氷結的跳舞場	氷る舞踏場	1925	中河與一
12	現眼的虱子	眼に見えた虱	1928	横光利一
13	拿破崙與疥？	ナポレオンと田虫	1926	横光利一

《現代電影與有産階級》のように“地”を用いた例や，“的地”のように「接尾辞+助詞」として訳出した用法がみられる。“的地”のような例があることから、翻訳者の高氏は中国語の“的”を接尾辞として用いていたことが分かる。一方、《現代電影與有産階級》と異なるのは、《現代電影與有産階級》では日本語の接尾辞「的」に当たる接尾辞に“底”を用いていたが、高氏は“的”を用いているため、《新青年》と同じく“底”を用いた訳用例が現れないという結果になっている。また、本作品に“的底”という用法は現れない。

②「的」→“的”：12/21（連体9・連用1・述語2）

原文は1例のみ述語、残りは連体修飾である。日本語で述語を作る例は、中国語に翻訳された際も以下の様に謂語になっている。

- (67) それは十分に**藝術的だ**。(片岡鉄兵『小児病』(1927: p. 100))  
 那是充分地**藝術的**。(《小児病》p. 214)

例(67)のような用法に用いられる“的”は謂語として用いられているため、形容詞の標示なのか、或いは接尾辞なのか判別し辛い。ここで用いられる語は“芸術”“偽善”“道德”“資本”“戦闘”“常識”“絶望”“熱情”“楽天”。抽象名詞が多い。

④「的」→“地”：1/21（連用1）

⑦「的」→“的地”：2/21（連用2）

日本語で連用形容詞を作る場合、④「的」→“地”，⑦「的」→“的地”，⑨「的」→意識及び書き換え、の3パターンを取る。⑨については後述。

- (68) それとも青森の新聞社へでも送つて先づ**大々に**評判を立てさせてそれから売り込もうと云ふ計画か、どちらかに違ひないときめてしまったのだ。(葛西善蔵『馬糞石』(1919: p. 15))  
 或則是送到了青森の報館裏**大大地**宣伝了之後再來凶売，不管是那一途一定是千真万確的。(《馬糞石》p. 79)

- (69) それらの索漠とした記事から記事へ殆**機械的に**眼を通した。(芥川龍之介『蜜柑』(1919: p. 6))

幾乎是**機械的**地把眼睛在那些索漠の記事上移動。(《蜜柑》p. 23)

- (70) 作中の辰子なる売春婦はあまりに**類型的に**面白くなし。(横溝利一『眼に見えた虱』(1928: p. 69))  
 作中の辰子売春婦，過於**類型的**地沒有趣味。(《現眼的虱子》p. 310)

例が少ないので何とも言えないが、④の例で前置される語は“大大”と本来の形容詞であるが、⑦の例では“機械”や“類型”のように、元は名詞として用いられることの多い語である。この訳出の違いはそこに起因している可能性がある。

⑨「的」→意識及び書き換え：6/21（連体3・連用3）

A) 意識が4例、B) 語で補った例が2例ある。以下、意識を行った例。

- (71) **非人間的**な生活を破るために、もつと**非人間的**な生活を強ひられてゐる彼らに、どうして恋愛といふものの意味が掴めやうぞ。(武田麟太郎『色彩』(1930: p. 134))<sup>57)</sup>  
 在為要打破**非人的**生活而被強迫着不能不過着**更非人的**生活的他們，那有功夫來把握得**戀愛的**意義呢？(《色彩》p. 179)

<sup>57)</sup> 『反逆の呂律』収録の際、作者注にて「これは1926年の挿話です」とあり。



- (72) 武崎はどしどし**実行的**に進んで行つてゐる。(片岡鉄兵『小児病』(1927: p.103)  
 武崎は堂堂地在**向着實踐方面**進行着的。(『小児病』 p. 225)
- (73) それは総ゆる皮膚病の中で、最も頑強な痒さを與へて**輪郭的**に拡がる性質をもつてゐた。(横光利一『ナポレオンと田虫』(1926: p. 355))  
 那在一切皮膚病中、痒得最為頑強、而有**輪狀地**擴展的性質。(『拿破崙與疥癬』 p. 316)

語で補った例は以下の通り。「肉体的に苦痛」→「肉体上の苦痛」, 「熱情的な視線」→「含有熱情的視線」のように“N上”“含有熱情的”であてている<sup>58)</sup>。

- (74) 父を裏切るのは、**肉体的**に苦痛なのだ。(片岡鉄兵『小児病』(1927: p.103))  
 出売父親、是有点**肉体上の**苦痛。(『小児病』 p. 226)
- (75) 若々しい未亡人は心でさう眩きながら、**熱情的な**視線をすぐ近くに立つてゐる青年の上に注いで微笑した。(中河與一『氷る舞踏場』(1925: p. 34))  
 年情情的寡婦在心中那樣自語着、把**含有熱情的**視線投向立在近旁的青年、微笑着。(『氷結の跳舞場』 p. 251)

#### 4-5. 日本語からの翻訳に関するまとめ

以上、四つの文献での接尾辞「的」の訳出方法をまとめると以下のようになる。

- ・原文全体「的」数：567（うち連体修飾 345・連用修飾 100・述語 24・無効 98<sup>59)</sup>）
- ・日本語原文において「的」が作る語の性質：連体修飾 61%>連用修飾 18%>述語 4%（小数点第3位以下切り捨て）（中国語訳文で該当箇所を省略、無効 17%）
- ① 「的」→“之”：3/567（連体 2・述語 1）
- ② 「的」→“的”：219/567（連体 174・連用 35・述語 10）

<sup>58)</sup> また、「的」の翻訳ではないが、『日本短編小説集』には以下のような例もみられる。

それが、熱情的になり、**真理への追慕**になつて来る。(片岡鉄兵『小児病』(1927: p. 100))  
 那改變而為了熱情的、**向着真理的之追慕**。(『小児病』 p. 214)

<sup>59)</sup> ここで言う「無効」とは、日本語原文中に「的」を用いている箇所が、中国語には翻訳の省略などの理由で該当箇所を翻訳していない例である。このような例は口の中の比較対照ができないため、「無効」とした。

- ③ 「的」→“底”：63/567（連体 60・連用 1・述語 2）
- ④ 「的」→“地”：5/567（連用 5）
- ⑤ 「的」→“底的”：32/567（連体 29・述語 3）
- ⑥ 「的」→“底地”：8/567（連用 8）
- ⑦ 「的」→“的地”：2/567（連用 2）
- ⑧ 「的」→日本語の単語から「的」を取る：37/567（連体 26・連用 8・述語 3）
- ⑨ 「的」→意識及び書き換え：100/567（連体 54・連用 41・述語 5）  
 （中国語訳文で該当箇所を省略、無効：98/567）

“之”“的”“底”“地”などを用いた翻訳方法は以下の通り。(表 5)

表 5<sup>60)</sup>: 1915-1930 年代における「的」翻訳方法

「的」の翻訳方法	“之”	“的”	“底”	“地”	“底的”	“底地”	“的地”
《新青年》(1915-1922)	○ (1917年 以前の み)	○	×	○	×	×	×
《現代日本小説集》(1923)	×	○	×	×	×	×	×
《現代電影興有産階級》 (1930)	×	○	○	×	○	○	×
《日本短編小説集》(1935)	×	○	×	○	×	×	○

これらの結果及び用例から、1915年～1930年代の中国における日本語接尾辞「的」の翻訳方法は、以下のような状況にまとめられる。

- 1) “的”や“底”を形容詞の標示として用いる他に、形容詞化の接尾辞として用いている例も少なくない。
- 2) 日本語の述語を“的”を用いて翻訳する際、これが謂語になるような場合は、“的”は形容詞化の接尾辞と取ることができることがほとんどであるが、そうでない場合、“的”が形容詞の標示なのか、形容詞化の接尾辞なのか、単なる助詞なのか、“的”は前置語を曖昧化しているのかそうでないかは判断しにくい。

<sup>60)</sup> 今回用いた文献中、“底”は“底的”などの形で接尾辞として用いられることはあっても、“底的”のように助詞として用いられることはなかった。

- 3) 日本語の連体修飾は“底”“的”を用いて翻訳されることが多い。
- 4) “的”や“底”の用法に比べ、“地”の用法は全文献を通してほとんど一致している。これは“底地”“的地”のように「接尾辞+助詞」翻訳方法を用いる文献でも同じで、“地”が用いられている文献では、日本語の連用修飾を翻訳する際“地”を用いることが多い。
- 5) 日本語の連用修飾は意識や書き換えが行われる割合がかなり高い。
- 6) 日本語の接尾辞「的」を書き換える場合には“(在) ……上”“(在) ……方面”のように名詞を一つの領域、場所として認識させる方法が共通して多く用いられる。

今回用いた1910年代後半から1930年代前半の日本語を翻訳した中国語からは、接尾辞の訳出方法に関して二つの側面が見えてくる。いくつかの例から、特に「照「合理的」的説」「機械的地」「電影所負的任務，就更加積極底，更加意識底了。」のような例からは、当時の中国語の翻訳作品の一部が“X+‘的(底)’”を現在と異なる“X+形容詞の標示”としてだけでなく、“X+形容詞化の接尾辞”として運用しようとしていたことは明らかである。しかしその一方で、全体的に見ると日本語の「X的」の「的」に前置されるXが「肉体」「人間」「映画」のような、抽象性が低い語の場合や、「量」「質」のような単音節語の場合、或いは特に「X的にV.」のような日本語で連用修飾をつくる例は翻訳がしづらかったようで、そのまま翻訳している例もあるが、“上”“方面”などで意味を補うことが多い。“地”が状語を作る助詞として現れ、翻訳に逐語訳を採用している文献でも、連用修飾を作る「的」の翻訳に“地”が完全に当てられているわけではない。これは、“X+形容詞の標示”の構造は、実際運用してみると、中国語においては限界があり、“定語(2音節の語や、抽象性の高い語)+‘的’+語”構造以外で用いようとする、不自然なものであったということ、つまり抽象性が低い語や、状語、或いは謂語を作る時には、“的”“地”を用いて名詞をそのまま形容詞的に変更することが難しかったということの表れである。

現代中国語で“的”は、その書き分けについて「すべての修飾・被修飾構造が文の中で占める位置によって決められる」というのが共通認識であり<sup>61)</sup>、“的”自体が“性”や“化”のように接尾辞として考えられることは一般にない。20世紀初頭の中国人による文献や、日本語からの翻訳文章の中などで用いられたことから、1910～1920年代の中国において活発に討論された“的”字、そして「形容詞の接尾辞「的」と中国語の助詞“的”をどう書

き分けるか」ということに関する議論の中で、一旦は形容詞の標示、或いは、人によっては形容詞化の接尾辞として捉えられていた“的”は、“化”“性”のような接尾辞とは異なり、徐徐に名詞修飾の助詞“的”(陳望道や《新青年》中で用いられる分類では“底”を用いる用法)と「同化」していった。

そして、“平民的生活”“理想的公園”のような例中の“的”は、「的」として用いる場合は“平民般的生活”“合乎理想的公園”、「ノ」として用いる場合は“平民的生活”“理想的公園”のように、接尾辞以外の方法を用いて表されるようになった。また、動詞を修飾する際には、抽象名詞は多く兼類語化し“科学地論証”“歴史地考察”<sup>62)</sup>のように、“地”で関係を表される。《八百詞》(2003)などでは所屬関係に用いていた“底”が現在では用いられなくなった、としているが、20世紀初頭の“的”の用例をみるに、寧ろ現在では“平民的生活”が「平民的生活」と解され、「平民的生活」とするには“平民般的生活”の様にするようになったように、「形容詞の標示、形容詞の語尾」としての用法がなくなったと考えるべきであろう。

“上”“性”“化”と異なり、形容詞化の接尾辞として“的”が現代に存在しない理由は3点考えられる。第1に漢字が表意文字であること。現代に存在する接辞は“的”と異なり、“上”“性”“化”のようにその語自体が比較的強く意味を保っている。また、“女性”“变化”などのような2字語として以前から存在していたため、その使用に違和感がなかった。逆を言えば、近代に接尾辞として用いようとした“的”は、“的”や“底”という漢字が表す意味を含まなかったため、廃れていったと考えられる。接辞が単に品詞を変化させるだけの「標示」として用いる方法は、多くの音訳語と同じく、中国語には定着しにくかったのである。

第2の理由は、発音上の問題である。李振中(2008)は、「底」は実践的使用の中で否定され、1950年代にはほとんど姿を消した」としている。“底”の衰えについて、先行研究は多く「翻訳の中で使用された」が「使用が乱れたので、いっそのこと使用しない方がいいと反対にあった」<sup>63)</sup>としている。当初は“的”について、形容詞変化させる接尾辞は“的”、名詞を修飾する助詞は“底”などと表記上の区別をしていたのかもしれないが、発音上は差異がなく、また一般の人にはそのような文法上の知識もないため、大衆語論争を経て、区別がなくなっていったのであろう。

<sup>61)</sup> 李振中(2008: p. 124)〈現代漢語結構助詞“的”的分合問題研究〉

<sup>62)</sup> 《八百詞》(2003: p. 90)

<sup>63)</sup> 曾毅夫編著・黎錦熙校訂(1957: p. 7)《“的”字底用法與分化》

そして最後に、接尾辞として“的”が現代に存在しない第3の理由は、中国語自体の性質の問題である。1920年代前後に行われた論争の中で何度か問題に出された“理想”“科学”などの抽象名詞は、現代では名詞と形容詞の兼類を取っていることが多いとは前にも述べた。それは名詞の抽象度が高ければ高いほど、或いは名詞の持つ役割性、イメージ性が強ければ強いほど名詞の形容性は強くなるからなのであるが、さらに中国語は語順が品詞決定に重大な影響を及ぼす性質を持つ言語であるため、このような抽象名詞を形容詞の位置に置くことで、形容詞として自然認識させることが可能になるのである。中国語において、当初は“理想的”“理想底”などのように意味分けをしていたが、“理想”という単語の意味が広く知れ渡るにつれ、話者が“理想”に対して共通のイメージを持つようになった。そして“理想”の形容成分が話者の意識の中で認識されることとなり、形容詞としての意味も定着していったのであろう。それに伴い、“理想的”の構造が、「名詞+形容詞化接尾辞」から「形容詞+構造助詞」と認識されるようになり、“底”“的”の区別が不要になったのである。大河内康憲（1961: p. 1）では、「最近（1961年当時）の中国語には語の機能やはたらきという点で多くの新しい特徴が見られる。」として、次のように述べている。

〈科学〉、〈現実〉という語はこれまで主語になったり、動詞の賓語になったり、定語になったりすることが主要な機能であり、いわゆる名詞としての位置づけがなされてきた。しかし最近の書面語では；

他的方法科学，你的方法不科学。

太現実了，太没有一点兒理想了。

といった表現は決して珍しいものではなくなっている。（中略）〈歴史〉、〈芸術〉、〈形式主義〉といった語も従前の中国語では描写性をもたない語であるから、状語となつて動作のあり方を描写するはたらきはもたなかった。乃至はもたないといった方が中国語の常態を説明するものとしてはかまっていた。しかし最近の書面語では；

歷史地落在無産階級的肩土。

這部著作里藝術地再現出來。

他們形式主義地看問題。

現實主義地反映生活。

の様に、ごく日常のものとしてこれらの語が状語としてのはたらきを担っている例が

拾われる。これらの事実は従前の中国語に較べて語の機能が変わってきている。

このような例は、正に抽象名詞が形容詞として認識され、それに伴い“理想的”のような例が“名詞+形容詞化接尾辞”から“形容詞+構造助詞”へと理解されるようになった過程を表しているといえよう。

しかしこの変遷を前提に置くと、現在でも使用される抽象名詞を使用した“理想的工作”のような構造が“形容詞+助詞+名詞”として理解されるのは、“的”が「形容詞の標示」として理解されなくなったからだとも言え、この構造は“形容詞+助詞+名詞”の成分と共に、“名詞+形容詞の標示+名詞”の成分を保ち続けているとするのは間違いではない。その意味では、現在でも“的”に一部形容詞の標示としての機能が残っているとと言える。

#### おわりに

以上の事から、近代中国における日本語の形容詞化接尾辞「的」の中国における受容と変遷は以下のようにまとめられる。

- ・ 日本人が西欧語翻訳の中で作り出した「的」は多くの近代語と共に中国に渡っていた。
- ・ 当時の知識人は日本の「的」は名詞を形容詞化していると理解していた<sup>64</sup>。
- ・ 白話運動の中で、名詞を形容詞的に用いる標示を如何に表すか議論された。
- ・ 一時期、「的」は形容詞の標示として中国語に取り入れられた。
- ・ 「的」と助詞“的”の混同、そして中国語の文法構造上の理由で、形容詞の標示としての“的”は規範上姿を消した。しかし、いくらかの近代抽象名詞に付着する“的”は形容詞の標示としての機能を持つと考えても間違いではない。

《晨报》上での意見からは、当時日本語に見られる形容詞化接尾辞「的」について理解が定まらず、名詞を修飾する“的”と混同しており、中国語で“的”を形容詞化の接尾辞として用いていくことは難しいと予測できる。

我自從見了独秀君的文章之後、才恍然知道那日本派的「……的」、實在和「大的」「小

<sup>64</sup> 特に日本に留学経験のある知識人は日本語の「的」について中国語既存の“的”とは異なるという認識を持っている。

的」「白的」「黑的」沒有什麼不同、並不是一種特別的句法、斷斷乎無須另外用一個字來做語尾。

(私は陳独秀氏の文章をよんで、ようやく日本的な「……的」は、実のところ“大的”“小的”“白的”“黑的”と何の違ひもなく、決して特別な文法ではなく、全く違う字を作つて語尾にあてる必要はないと気付いた。)

(銭玄同 (1919) 〈我現在對於『的』字用法底意見〉《晨報》，12月2日)

(拙訳・下線部筆者)

また、刁晏斌 (1998: pp. 85-87) は、

(76) 你可知一个她丈夫姓李的在广州打死的底婦人的家在那裏麼……你知道她的家麼？

——我知道，她底家是在西村。(柔石《二月》)

(76) のように当時必ずしも、当時“的”の使い分けがはっきりしていたわけではない例を挙げ、以下のように述べている。

到了三四十年代，「底」的用例就很少了，大多数人都只用一個「的」来表示定中關係了。比如，在巴金早期（二十年代末至三十年代初）的作品中，「底」還常見，而在三十年代末以後的作品中，大致就多用「的」了。巴金是這樣，而其他的人的情況基本也是如此。

(3, 40年代になると，“底”の用例は少なくなった。多くは“的”のみで定語＋中心語の關係を表すようになる。例えば、巴金の20年代末から30年代初頭作品では，“底”がよく見られるが、30年代末以降作品では、多く“的”を用いるようになっている。巴金もそうだが、他の人々の状況も基本的にはこの通りであった。)

(拙訳)

だが、接尾辞を用いて言語の品詞を変化させる方法は、中国語においても簡便で効率がよかったことは確かであろう。現に“化”“性”などの品詞変換機能を持つ接尾辞は現代中国語で多用されるようになっている。香坂 (1971: pp. 310-311) では名詞が状語となる用例に、

- ・“事实上”，“形式上”，“實際上”など方位詞をとる例
- ・“有意識地”，“有重点地”，“有計畫地”など“有……”をとる例
- ・“科学地”，“機械地”，“形式主義地”，“片面地”，“歷史地”，“意識地”などの例

が最近多くなっている述べているが、五四時期における日本語からの翻訳文章を見ると、これらの用法が日本語接尾辞「的」と無関係であったとは考えにくい。現代中国語が「名詞はふつう動詞・形容詞を修飾しないが、いくつかの抽象名詞は‘…地’の形にして動詞を修飾できる。」(《八百詞》(2003: p. 90)) というのは、名詞が形容詞性を持っているから、という理由のほかに、五四時期に受容しかけた形容詞の標示という成分の名残なのではないだろうか。当時の知識人が“的”を形容詞の標示だとして使用しようとしたのも、名詞から形容詞への品詞変換機能を持つ接尾辞の有効性に気づいていたからであろう。現在、中国語は名詞と形容詞の兼類語や、或いは“有……性質”などのように形容するところを明確にすることで対処しているが、それは果たして名詞、形容詞間の変換が可能になったと言えるのであろうか。むしろ言語に優劣は存在しない。しかしながら、近年“很女人”のように本来「形容詞」として取られない名詞が程度副詞の修飾を受けて形容詞化する現象が問題となった。この構造は、1960年代初頭には批判を受けているが、1980年代以降、大量に用いられるようになってきている<sup>65)</sup>。このような“程度副詞＋名詞”構造は特に香港・台湾の中国語で用いられることが多いという<sup>66)</sup>。また、接尾辞“性”で作られた語は、普通程度副詞の修飾を受けて形容詞として用いられることはないが、近年、例えば“很歷史性的問題”などのような用法が“程度副詞＋名詞＋‘性’”の例がインターネット上を中心に見られる。これらの「規範的でない」用法は、名詞を形容詞化するのに効率がよい。中国語は現在も名詞から形容詞へと変換させるための新たな表現方法を模索し続けているのではないだろうか。

<sup>65)</sup> 劉平 (2001) 〈淺談現代漢語“很＋名詞”結構式的新流行及語用特徵〉『言語と文化』, 第5号, 愛知大学語学教育研究室, pp. 93-105

<sup>66)</sup> 黄国营 (1988) 〈台湾当代小説的詞彙語法特点〉《中国語文》, 第3期 (総第204期), 中国語文雜誌社, pp. 194-200  
黃麗麗 (1999) 〈港台語詞之異化及其原因与港台外来語之比較〉《中国語言學報》, 第9期, 商務印書館, pp. 161-173  
特に黃麗麗 (1999) は、台湾人の中国語に見られるこのような構造は、日本語の「的」の影響であると推察している。

## 第2章：アスペクトについて ——経験義を表す“過”——

### はじめに

現代中国語の助詞“過”は動詞や形容詞の後ろに用い、アスペクトを表す。さらにこの助詞は完了を表す場合と、経験を表す場合とに分けることができ、先行研究では多く前者を“過1”、後者を“過2”として、その用法や意味を分析している。通時的に見ると、助詞“過”は「過ぎ去る」「超える」などを表す動詞“過”が虚化したものであり、その程度から、“過1”よりも“過2”の方が後になって現れたものと考えられる。しかしながら、これら研究では、助詞“過”を伴う動詞について、それを通時的に研究したものは少ない。筆者の分析によれば、“動作性動詞＋‘過2’”の例に比べ、“状態性動詞＋‘過2’”の例はかなり後の時代にならないと現れない。“過2”の用法にも時代的変遷があるのではないだろうか。

本章では、状態性の動詞や形容詞を伴う“過2”の用例が近代以降多用されるようになったという仮説のもと、これらの用法と外来要素、「新興語法」の関係について述べる。

### 1. 先行研究

#### 1-1. “過”の用法

“過”には大きく分けて以下の用法がある。

- ① 動詞としての用法：時間・場所・範囲などが「超過、通過」など「過ぎる」意を表す

“過了這條街就到了。”（《八百詞》（2003））

“過生日”

“改革開放以來我國出國留學總人數已超過100萬人。”（《新華網》）<sup>1)</sup>

“腦子裏閃過了許多想法。（《八百詞》）”

<sup>1)</sup> 〈改革開放以來我國出國留學總人數已超過100萬人〉《新華網》（2007年02月26日付ニュース記事，2011年11月8日確認，[http://news.xinhuanet.com/edu/2007-02/26/content\\_5775966.htm](http://news.xinhuanet.com/edu/2007-02/26/content_5775966.htm)

- ② 助詞としての用法：アスペクトを表す

1. 動作の完結：“吃過飯再走。”→“過1”
2. 経歴・経験：“我吃過中國菜。”→“過2”

※“過2”は形容詞に付加することも可能。形容詞が“過”を伴う時、一般に時間を明示することが必要である。これは“弟弟的個子高過哥哥了。”などのように、比較で用いられる“形容詞＋‘過’”の例とは異なる。このような比較で用いられる場合の“過”はむしろ動詞的用法である。

経歴：我從來沒有這麼高興過。

比較：“今年的茶還好嗎？”“旧年的茶好過今年的。”（*Dialogues and Detaches Sentences in the Chinese Language.*）<sup>2)</sup>

これら先行研究に倣い、本稿では助詞“過”について「動作の完結を表す」用法は“過1”，「経歴・経験を表す」用法は“過2”と定義する。無標示で“過”と記す場合、特に説明しない限り“過1”“過2”の総称とする。

#### 1-2. “過”の起源・変遷

助詞“過”は、時間・場所・範囲などが「超過、通過」など「過ぎる」の意を表す動詞“過”の虚詞化によって現れた用法と考えられる。助詞“過”を通時的に捉えた先行研究には以下のようなものがあり、その起源を唐、宋代頃とし、変遷を述べている。

太田辰夫（1958: pp. 218-219）：助詞“過”の用法は宋代にできた。

木齋弘（1989）<sup>3)</sup>：“過”の虚化は魏晉南北朝時代に始まり、宋代に成熟、明清時代に白話小説の中で普遍的に使用されるようになったのではないかと、明清時代の“過”は動作の完結（“過1”）を表すほか、経験（“過2”）の用法も表す。

<sup>2)</sup> Morrison, Robert., 1816, *Dialogues and Detaches Sentences in the Chinese Language*, Honorable East India Company's Press. （《中文會話及凡例》）  
該当箇所英訳は以下の通り。

“This year's tea pretty good.” “Last year's Tea was BETTER than that of this year.”

<sup>3)</sup> 木齋弘（1989）〈“過”字虚化的歴史考察〉

伍和忠 (2005a)<sup>4)</sup>: 完成, 完結を表す“過 1”の方が経験を表す“過 2”よりも早く現れたのではないか。唐代には既に完結を表す“過 1”の用例があり, 経験の“過 2”も稀に見られる。多くの学者は経験を表す“過 2”は宋代以降徐々に成熟していったのではないかとしている。

王嬌 (2008)<sup>5)</sup>: “過”が虚詞化し助詞になるのは唐代からである。唐代は“過”の発生時期, 宋代は形成期, 元代は発展期, 明代は“過”の大量使用時期, 清代から現代が“過”の繁栄期である。

孔令達 (2001)<sup>6)</sup>: 動詞“過”から動作の終結を表す“過 1”へ, それから「かつてそのようなことがあった」を表す“過 2”に変遷したと推測できる。というのは動詞“過”と“過 1”の意味的構造が酷似しているからで, “過”の意味が空間から時間へ変わると“過”は“過 1”になる。“過 2”の直接の出自は“過 1”であって動詞“過”ではない。

林新年 (2004)<sup>7)</sup>: “過”も“了”“得”“将”“取”“着”などと同じように, 連動を作る後ろの動詞→述部動詞の結果補語→動相補語→動態助詞という文法化の過程を辿った。しかし, “過”は他の助詞と比較し, その用法の発展が遅かった。“過”が付着する動詞について見ると, 唐宋時代には, “動作動詞+‘過’”の形式しかなく, “心理動詞+‘過’”の形式はない。これが恐らく“過”の文法化を送らせた原因であろう。

伍和忠 (2005b: p. 215)<sup>8)</sup>: “V + ‘過 2’”の形式は清代になってようやく使用頻度が増

えた。

(下線, 要約, 括弧内筆者)

林新年 (2004) では“了”“却”“着”などと比較して“過”の虚詞化が遅れた原因の一つが, 「唐宋代には“動作動詞+‘過’”の用例しか見られず, “心理動詞+‘過’”の例が見られないこと」であり, 「唐宋代の“V. + ‘過 2’”は“通”“潜”“逃”“走”“穿”“透”“吞”“飛”“来”など, 移動の意味を表す動詞のような決まった少量の動詞としか結びつかない」としているが (筆者要約・拙訳), 唐宋以降の変遷については述べられていない。また, 伍和忠 (2005b: p. 215) では, 《紅樓夢》《老殘遊記》《駱駝祥子》《圍城》を用い, “‘曾’+VP.” “V. + ‘過 2’” “‘曾’+V./VP. ‘過 2’” の三つの「経験」を表す形式の出現数・パーセンテージについて調査している。そしてその結果, “V. + ‘過 2’”の形式は清代になって増加し, 清代から現在までにおける経験を表す主な形式となり, また, “‘曾’+V./VP. ‘過 2’”の用例も大幅に増えたとしている。以下表を引用する。

作品	“曾”+VP.	V. + “過 2”	“曾”+V./VP. “過 2”	合計
《紅樓夢》	62	33	46	141
《老殘遊記》	3	15	3	21
《駱駝祥子》	2	29	6	37
《圍城》	8	89	3	100
総計 / パーセンテージ	75 / 25.2	166 / 55.5	58 / 19.3	299 / 100

伍和忠 (2005b) に取り上げられている上記 4 作品のうち, 《紅樓夢》を除いて他 3 作品は全て 20 世紀以降のものである<sup>9)</sup>。それを踏まえてこの結果を見てみると, 「“V. + ‘過 2’”が経験を表す」な形式となった」のは, 20 世紀以降と考えてよいだろう。

また, これら先行研究では, 状態性動詞と結びついた“過”の用法がいつ頃現れたかに

が“曾”と共に起ると, 文全体が表す経験義をさらに浮き立たせることになり, “過 2”の標記性も強化される。(筆者要約・拙訳)

<sup>9)</sup> 伍和忠 (2005b) はこれらの作品について細かくは述べていないが, 《老殘遊記》は樽本照雄編 (1997) 『新編増補清末民初小説目録』, 齋魯書社出版, 2002 年 (香港) によれば, 最も初期の版本で 1903 年発表である。また, 《駱駝祥子》は 1936 年, 《圍城》は 1947 年に発表されている。

<sup>4)</sup> 伍和忠 (2005a) 《漢語表“体”助詞研究述要》

<sup>5)</sup> 王嬌 (2008) 《動態助詞“過”の語法化過程》

<sup>6)</sup> 孔令達著・森宏子・于康訳 (2001) 「言語成分の同一性から見た助詞『過』の帰属問題」

<sup>7)</sup> 林新年 (2004) 《試析唐宋時期的“過”語法化進程遲緩的原因》

<sup>8)</sup> 伍和忠 (2005b: p. 208-215 《“嘗試”、“經驗”表達手段論》) では, 「経験義」の表現方法について以下のようにも述べている。

“曾+VP”形式上古萌生, 中古獲得長足發展, 至近代時期, 在與“嘗+VP”的競争中勝出, 確立了自己的霸主地位。当新生的“V 過<sub>9)</sub>”登場亮相以後, 它未退出歷史舞台, 而是與新生的形式同台演出。這樣我們便看到了“曾/曾經+V./VP 過<sub>9)</sub>”這種混合的形式可謂推陳出新。……“過<sub>9)</sub>”與“曾”同現, 更凸顯出整個句子所表示的“經驗”意義, “過<sub>9)</sub>”的標記性也得以增強。

(“曾+VP.”形式は上古に芽生え, 中古に大きく発展した。近代に“嘗+VP.”との競争を勝ち抜き, 覇権を確立した。新たな“V. 過 2”という用法が現れた後も, “曾+VP.”の用法は廢れず, “V. 過 2”と共に使用されるようになった。“曾/曾經+V./VP. 過 2”のような混合形式は, 古い形式から新たな形式が生まれたのだといってよいであろう。“過 2”

については述べられていない。

### 1-3. “過1”と“過2”の差異

“過1”と“過2”の差異については、以前から多く議論されてきた。認知言語学的には、三宅 (1999)<sup>10)</sup>、朴鐘漢 (2000)<sup>11)</sup>らによって指摘されているように、両者は意味的連続性を持っていると考えられるが、文章構造上では、以下のような差異があるとされる (劉月華 (2001: p. 405)<sup>12)</sup>、《八百詞》(2003: pp. 158-160))。

	“過1”：動作の完結	“過2”：経験
共起	後ろに“了”を伴える。 “已經”と共起可。	後ろに“了”を伴えない。 “曾經”と共起可。 “已經”と共起不可 <sup>13)</sup> 。
否定形式	“没(有) + V.”	“没(有) + V. (or Adj.) + 過”
結合する動詞	少ない。動作性を表す動詞にのみつけられ、以下の動詞には付けることができない。 a. 非動作動詞 (“是” “像” “成為” などの関係動詞)、心理状態 (“害怕” “担心” “感動” など) や態度 (“贊成” “同意” “尊重” “懷疑” など) を表す動詞、認知意識を表す動詞 (“認識” “明白” “懂” など)、能願動詞。 b. 具体的な一つの動作を表さない動詞。 “培養” “依靠” “前進” “進行” “壓迫”	多い。しかしいくらかの動作性の弱い動詞とは結合できない <sup>14)</sup> 。

<sup>10)</sup> 三宅登之 (1999) 「周縁的“過2”について」

<sup>11)</sup> 朴鐘漢著・遠藤雅裕訳 (2000) 「認知文法による現代中国語多義語の研究」

<sup>12)</sup> 劉月華・潘文娛・故韓著 (2001) 《实用現代漢語語法 (増訂本)》

<sup>13)</sup> この意見に対しては、反論もある。劉綺紋 (2006 『中国語のアスペクトとモダリティ』、遊文舎, p. 247) は“這樣的經驗，他已經受過一次了。” (矛盾《子夜》1933年) の例を挙げている。

<sup>14)</sup> しかし、動作性が極めて弱いであろうと考えられる関係動詞に関して、劉月華 (2001: p. 402) は“小張的妹妹以前跟他外婆家姓過工，後來改過來了。”、趙元任《中国語的文法》(1980: p. 165, p. 359) は“我從來沒是過誰的人。”の例の存在を挙げている。とはいえ、これらの例は一定の言語環境がなければ成立しない特殊な用例であろう。

	“侵略” “教学” “变化” “畢業” “發生” “駕駛” など。	
c.	非自目的な動作を表す動詞。“吐 (嘔吐の意味)” “咳嗽” “丟 (失)” “發現” “打雷” “上凍る”, “塌” “出現” “失火” “漏” など。	
d.	書面語のニュアンスが強い動詞。“踏” “埋葬” “責備” など。	

「経験」を表すとされる“過2”がいつ頃、どのように使用されたか、という問題が先行研究ではっきり述べられていない原因の一つは、“過1”と“過2”の見分けが付きにくいためであり、“過”の推移を調査した研究でも、その“過”が“過1”なのか“過2”なのかははっきり述べられていないものが多い。そこで、助詞“過”が表す時間範囲を特定しようと試みる研究も多い。また、“過1”と“過2”を分類しようとしたとき、上記のように「了」と共起するかどうか、「否定の形はどうか」などと言った文章全体の構造から判断することも多い。これは例えば、“吃過”とだけ提示した場合、これが「摂食行為の完結」を表すのか、それとも「過去においてあるものを食べた経験がある」ということを表すのか、判断がつかないためである。そこで“吃過中国菜”なら経験、“吃過飯”ならば食事をするのは恒常的な動作なので完了、などと理解したり、“曾經看過那部电影”なら経験、“已經看過那部电影了”ならば完了と理解したりするのである。

しかし、いくらかの先行研究はまた、“過1”と“過2”が伴う動詞の差異についても言及している。劉月華 (2001)、《八百詞》(2003) のように、“過2”が伴う動詞の範囲が“過1”よりも広いのだとすれば、“過1”が伴わない動詞を伴った“過”は経験義を表す“過2”と理解されることができると考えることができる。

## 2. 伴う動詞に関して

### 2-1. 先行研究

伴う動詞から“過1”と“過2”について研究したものには、前章で述べた劉月華 (2001)、《八百詞》(2003) を筆頭に、以下のようなものがある。

劉綺紋 (2006: p. 270)<sup>15)</sup>では、“過”のアスペクト操作を〈終結点到達〉と〈終結点通過〉があるとした上で、共起する動詞が「動的局面」を持つものである場合と「静的局面」を持つものとの異なる意味が生じているとしている。

動的局面を持つ事態と共起する場合に限って、“過”は完結相機能を担うことができる。一方、静的局面(結果状態)が生じるような動的事態と共起した場合は、“過”は完結相機能を担うことができない

また、孔令達 (1985)<sup>16)</sup>は動詞の「反復性」に着目し、以下のように分類している。

孔令達 (1985) :

- A 類動詞 : + “過 1” + “過 2”  
反復の可能性をもつ、反復性動詞  
看 聽 吃 嘗 拿 抓 拾 抱 打 愛 想 有 …… 參觀 吃飯 休息 睡覺 洗練 刷牙
- B 類動詞 : - “過 1” + “過 2”  
状態を表す動詞、とくに心理状態を表す動詞  
感動 喜歡 佩服 愛護 同情 討厭 恨 氣 害怕 嚇 害羞 滿意 …… 希望 失望
- C 類動詞 : + “過 1” - “過 2”  
極少。一回性の動詞。  
死
- D 類動詞 : - “過 1” - “過 2”  
能願, 判断, 使役, 認知動詞など。判断評価の性質をもった動詞。  
使得 免得 認得 認知 体会 以為 覺得 變成 …… 要 可以 可能 是 像 在 ……  
(拙訳・筆者要約)

孔令達 (1985) は、“想過這些, 他開始想些實際的。” “再說, 我總算有過一輛自行車, 騎過一輛属于自己的自行車了。” などの例に現れる“過”が「動作の完結」を表す“過 1”だということを理由に、動作性の強弱と助詞“過 1”“過 2”の用法の間には直接的、決定

<sup>15)</sup> 劉綺紋 (2006) 『中国語のアスペクトとモダリティ』

<sup>16)</sup> 孔令達 (1985) 〈動態助詞“過”和動詞的類〉

的な作用はないとしているものの、やはり状態を表す動詞は“過 1”と共起しにくいとしている点では他の先行研究と一致している。

## 2-2. 状態性動詞と結びつく“過”について

細かな動詞の分類は諸説あるが、先行研究ではほとんどが「状態性の強い動詞は完結を表す“過 1”とは共起しにくく、“過 2”と共起しやすい」としている。言い換えれば、これら動詞と結びついた“過”は動作の完結“過 1”ではなく、経験義“過 2”と理解されるということである。

これは例えば、“吃”、“走”、“看”などのように具体的な動作そのものを表す動詞は、その動作を行う期間が限られており、ある程度の時間で終了することが見込まれている。また、開始から終了までの変化が生じることが前提である。そのため、これらの動詞と結合した“過”は、動作の終了というプロセスを表すに過ぎない。そこでこれら動詞と“過”が結びついて経験義を表すような場合、それが完結を表すのか、経験を表すのかは文脈から判断されることがほとんどである。

しかし、“喜歡”“醉”“同情”などのような状態性の動詞は具体的な動作を表さず、これらの動詞が表す動作には明確な開始点や終了点がない。動作の開始から終了というプロセスを見込めないのである。もしこれら状態性の動詞の後に“過”を伴うと、本来動作のプロセスや変化を含まない状態を断絶し、状態に始まりと終わりという過程を作り出す。これが経験義であり、これら動詞を伴う“過”は文脈がなくとも経験義“過 2”と判断される<sup>17)</sup>。

Cf. 我問過他。(完了・経験)

我喜歡過他。(必ず経験)

<sup>17)</sup> 劉綺紋 (2006: p. 273) では、以下のように説明している。

「“過”のアスペクト操作は〈終結点到達〉や〈終結点通過〉である。前者は、動的局面のみを持つ事態の終結点に到達する、という操作である。この結果「完了」を表すことになる。また後者は、事態における限界の在り方にかかわらず、その事態における最終局面の終結点を通り過ぎてしまう、という操作である。その結果、終了した時点が近い過去であれば、しばしば『完了』として解釈される。一方、終了した時点が遠い過去であったり、あるいはその終了した事態が当事者にとって何らかの特別な意義を持っていたりすると、しばしば「経験」として解釈されるのである。」



状態性の強い動詞は、形容詞に近い性質を持っている。このため、形容詞が“過”と結びついた時も、経験義を表していると思える事が可能である。このような用法をするようになったのは、紛れもなく“過 1”に「終わる、過ぎる」という実義が含まれていたからであろうが、状態性動詞や形容詞は具体的な動作を表さないため、これらに付着した“過”は「具体的な動作を指し示す機能がなくなり、同類の動作をひとまとめにして指し示し、“過 1”のように純粋に動作進行の状況を表さなく<sup>18)</sup>」になったのではないであろうか。

管見によれば、19世紀以前の白話小説の中で、“状態性動詞+‘過’”の例は極めて稀である。“形容詞+‘過’”の用例についてはほとんどないと言ってよい。香坂(1983: p. 105)<sup>19)</sup>で「旧白話において“過”はまだ経過した→終わった、という実義を保っている」と指摘されているように、近代、19世紀以前の“過”は虚詞化していたとしても、まだ動作の「完了」の意味がほとんどであり、仮にそれが「経験義」を表すと理解されても、それは文脈による所が大きかったのではないかと。或いは、まだ虚化への過渡期にあり、存在や感情を表す動詞や、形容詞のように状態性が極めて強い語に付着することはなかったのではないだろうか。“過”が状態性の強い語に付着し、安定して「経験」を表す事ができるようになったのは、20世紀以降、特に五四白話運動以降のことなのではないだろうか。

### 2-3. 今回用いる動詞分類について

管見の限りでは、伴う動詞の性質から“過 2”の変遷を辿った研究は未だ少なく、特にその変遷に外来要素の影響を提示したものは見当たらない。

本研究で“過 2”の変遷に外国語の影響があった可能性を考慮に入れる理由は二つある。一つには、まず状態性動詞や形容詞は、動作性動詞と比較して“過 2”を付ける必要性が低いと考えられること。例えば、“小時候我喜歡看書。”のように、過去の時間を表す語がある時、“喜歡”は必ず過去の状態であり、現在はその状態に何らかの変化が生じていることを含意しているであろう。また、形容詞の場合も、例えば“他小時候很可愛。”のように、過去の状態を形容することが可能である。これは“小時候我吃中國菜。”が文として安定しにくいことと比較するとその差が明らかである。そこで、例えば「好きだ」「好きだった」のように状態性動詞や形容詞を現在と過去で書き分ける言語を翻訳する際、直訳の過程で

<sup>18)</sup> 孔令達 (2001: p. 241)

<sup>19)</sup> 香坂順一 (1983)『白話語彙の研究』

このような“過 2”の用法が拡大したのではないかと推測できる。

二つには、同じくアスペクトを表す“着”が状態性の強い動詞に付着する用法が近代以降現れた「欧化文法」であるとする先行研究があること<sup>20)</sup>。

三つには、“過”が状態性動詞を持つようになったと推測される時期と、外来表現が多く輸入され、白話運動が盛んになった時期が重なること。

動詞の動作性、状態性に関しては、ヤーホントフ (1987)<sup>21)</sup>や朱継征 (2000)<sup>22)</sup>などに詳しいが、動詞は必ずしも「動作性動詞」と「状態性動詞」の二つに分けられるものではなく、語義によって強弱が異なるといった方がよい。また、一般に動作動詞と考えられる動詞も具体的な動作を表さない場合が多く、このような動詞は動作を表していても“過 1”を伴わないことは注意しておく必要がある(例:「培養」「依靠」「教学」「変化」など)。これら動作動詞の動作性の強弱と経験義の関連性について、本研究では詳しく触れない。

どの動詞を「状態性動詞」として扱うかは先行研究でも揺れがある。本稿では、劉月華 (2001: pp. 152-156) の分類<sup>23)</sup>を基礎に、①生物の精神や心理状態を表す動詞(“想”、“喜

<sup>20)</sup> 王力 (1944)

<sup>21)</sup> ヤーホントフ, С. Е. (Сергей Евгеньевич Яхонтов) 著・橋本萬太郎訳 (1987)『中国語動詞の研究』

<sup>22)</sup> 朱継征 (2000)『中国語の動相』

<sup>23)</sup>

- A) 動作動詞: 表示動作行為。如“吃”“看”“聽”“說”“試驗”“弁論”“收集”等
  1. 一般可以重疊
  2. 一般可以帶動態助詞“了”、“着”、“過”
  3. 可以用“不”和“沒”來否定
  4. 可以帶表示動量、時段的詞語
  5. 可以構成命令句, 如“來!”“走!”
  6. 可以用正反疑問式提問
  7. 不能受程度副詞的修飾。如不能說“很吃”、“非常吃”。
- B) 狀態動詞: 表示人或動物的精神、心理和生理狀態。如“愛”“想”“病”“餓”等。
  1. 大多可以受程度副詞的修飾, 但“病”“醒”等不能受程度副詞的修飾。
  2. 不能構成祈使句。
  3. 表示心理狀態的狀態動詞是及物的, 表示生理狀態的狀態動詞是不及物的。
- C) 關係動詞: 意義比較抽象。主要作用是聯系主語和賓語, 表示主語與賓語之間存在某種關係。大多數關係動詞的賓語基本上是不可缺少的。關係動詞的數目不多, 主要有以下幾種。
  1. “是”
  2. “叫”“姓”“當作”“成為”“像”“等於”此類關係動詞的主要語法特徵是:
    - ① 多用“不”來否定, 偶爾可以用“沒”來否定。
    - ② 除了“像”以外, 一般不能受程度副詞的修飾, 不能省略賓語。

歛”，“同意”など)②存在を表す動詞(“有”，“存在”，“在”など)③認知動詞(“知道”，“認識”，“明白”など)を状態性の動詞としてとり，これら動詞を伴う助詞“過”を，“美麗”“無聊”などの形容詞を伴う例と共に調査する。

以下，注記すべき点を挙げる。

1) 名詞“過”について：

“有過則改”などの“過”は「過ち」を表す名詞なので例としてとらない。

2) 趨向動詞の扱い方：

“走”“躲”“渡”などの語は，後ろについた“過”が助詞なのか，趨向動詞なのか分かりにくい。例えば魯迅の場合，これら動詞に“過”を伴う用法の場合，大体的場合“過”は趨向動詞として用いられているか，あるいは“V. 過 O. 来”“V. 過 O. 去”などの用法であることが多い。しかし，

“忽然，有一条小巷里，他看见墙壁上有一个洞，而且分明的记得：他是曾经走過這地方的。那墙壁上的洞，使他牢牢的记得。”(魯迅(1935)〈表〉《魯迅訳文全集(以下《訳文》)》，6卷，p. 354)

のように動詞なのか，助詞なのか分かりにくい例も多くある。このような例に関しては，その動詞が直接賓語を伴えるかどうかを判断基準にする<sup>24)</sup>。

例えば“走”は後ろに直接賓語を伴うことができず「不及物動詞」とされ，また，“去”“来”のような不及物動詞とは異なり，“走路”“走道”など，一定の決まった範囲内で伴うことができる場合は，場所名詞も直接伴うことが難しい。この場合，“我曾走過。”のように賓語をもたずに不及動詞として用いる例は，この“過”をアスペクト助詞であるとしてとるが，“我曾走過你家門口。”のように目的語を伴って

- ③ 一般不用重疊式
- ④ 后面一般很少用動態助詞“了”“着”。
- ⑤ 不能作“把”字句的謂語動詞。
- ⑥ 不能構成祈使句。

3. “有”

D) 能願動詞

<sup>24)</sup> 《現代漢語動詞大辭典》((1994)北京語言學院出版社)及び《北京大学漢語語言學研究中心語料庫》(北京大学漢語語言研究中心，[http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/index.jsp](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp) (2011年11月9日現在)) 参照。

出てきた場合，ここでの“過”は“走”の補語成分として考え，助詞として例に取らないことにする。だが，会話などの場合，この基準が通じないこともあるので，前後の文脈も判断材料の一つとする。

3) 離合詞の扱い方：

基本的に2語の結びつきが強く，《現代漢語詞典》<sup>25)</sup>『中日大辞典』<sup>26)</sup>など辞書に離合詞として記載されているものは離合詞として処理する。だが，離合詞VO.構造の場合，O.が単独で成立する場合は多くは離合詞としない。(例：“洗臉”)また，離合詞VO.の時，V.やO.を単独で用いた時と異なる意味が出てくる場合，離合詞とする。(例：“会面”，“開口”，“開戰”，“進城”)

だが，例えば“生”が「発生する」という意味で使われるのは，白話では“生病”，“生瘡”“生鏽”などほとんど決まった場合である。このような言葉は辞書上では離合詞だが，本研究では1語としてとった。

以上の点を踏まえ，本稿では，

- 1) “過1”は非動作性の動詞とは結びつかない。
- 2) 非動作性の動詞と結びついた助詞“過”は“過2”(経験義を表す)と認識される。

という2点を前提条件に，状態性動詞と“過2”が結びつくようになったのが20世紀以降であり，その用法変遷に外国語の影響があった可能性を探る研究の初歩として，旧白話小説，英華辞書，五四時期以降の小説などを資料に考察を加える。なお，20世紀以降の資料としては，魯迅の著作及び翻訳作品を中心に見ていく。詳細は後述する。

### 3.19世紀以前

#### 3-1. 白話小説での記述

ここでいう「白話小説」とは，「清代以前に口語体で書かれた小説」を指す。今回近代以前の資料として白話小説を用いた理由は，“過”のように時間表現と関わる語は，新聞記事のように「現在，或いはついさっき発生した」というような時間を限定するようなメディアには現れにくいといった特性を持っており<sup>27)</sup>，白話小説というメディアは時間に対して比較的自由に詳細な記述が許されるからである。

<sup>25)</sup> 《現代漢語詞典》(2005)第5版

<sup>26)</sup> 『中日大辞典』(1987)増訂第2版

<sup>27)</sup> 李凌燕(2009)〈新聞叙事中“着”、“了”、“過”的使用情况——兼談新聞話語的主觀性〉

今回調査に用いた白話小説は《三国演義》(明)<sup>28)</sup>《西遊記》(明)<sup>29)</sup>《水滸伝》(明)<sup>30)</sup>《紅樓夢》(清)<sup>31)</sup>である。

四つの小説を比較すると、《紅樓夢》《西遊記》《水滸伝》《三国演義》の順に助詞“過”の使用範囲が広いように思われる。特に《紅樓夢》での“過”は(8)“上過”，(10)“打過”などのように他の作品ではあまり“過”と結合しない動詞も取る。さらに，(14)“經驗過”のような比較的動作性の弱い動詞と結びついた例も見られる。これは，他の三小説には滅多にない用例である。

しかし，結果から言うと，これら白話小説中に“状態性動詞＋‘過’”の例は極めて稀であった。“形容詞＋‘過’”の用例についてはほとんどないと言ってよい。また，以下(11)～(21)の用例は遠過去を示し，現在に置いてその状態が続いていないことを表しているため，“過2”と理解できるが，このような場合もやはり“曾”やその他時間詞を付けることで，動作の完了を表す“過1”と使い分けをしていることが多い。

- (1) 操見過皇甫嵩、朱儁，隨即引兵追襲張梁、張宝去了。(《三国演義》，第1回，上，p. 8)
- (2) 少年見過關公，即下堂去了。(《三国演義》，第28回，上，p. 244)
- (3) 劉賢急撥馬奔走，背後張飛趕來，活捉過馬，綁縛見孔明。(《三国演義》，第52回，上，p. 448)
- (4) 当下又吃過了五七杯酒，却早月上來了，照見厅堂里面如同白日。(《水滸伝》，第9回，p. 104)
- (5) 武松笑道：“若得嫂嫂這般做主，最好。只要心口相応，却不要心頭不似口頭。既然如此，武二都記得嫂嫂說的話了，請飲過此杯。”(《水滸伝》，第24回，p. 258)
- (6) 便喚該吏商議道：“念武松那厮是個有義的漢子，把這人們招狀從新做過，改作：‘…武松因祭猷亡兄武大，有嫂不容祭祀，因而相爭。婦人將靈床推倒。救護亡兄神主，與嫂斗毆，一時殺死。次後西門慶因與本婦通奸，前來強護，因而斗毆。互相不伏，扭打至獅子橋邊，以致斗殺身死。’”(《水滸伝》，第27回，p. 197)
- (7) 二藏道：“自你去了這半日，我已吃過了二次茶湯，兩齋齋供了。他俱不曾敢慢我。

<sup>28)</sup> 羅貫中 [明]《三国演義》(1973《三国演義》，人民文学出版社)

<sup>29)</sup> 吳承恩 [明]《西遊記》(1980《西遊記》，人民文学出版社)

<sup>30)</sup> 施耐庵・羅貫中 [明]《水滸伝》(1989《水滸伝》，江蘇古籍出版社)

<sup>31)</sup> 曹雪芹・高鶚 [清]《紅樓夢》(1964《紅樓夢》，人民文学出版社)

但只是你還尽心竭力去尋取袈裟回來。”(《西遊記》，第17回，上，p. 219)

- (8) 這薛公子字名薛蟠，表字文起，性情奢侈，言語傲慢；雖也上過學，不過略識幾個字，終日惟有斗鷄走馬，遊山玩景而已；(《紅樓夢》，第4回，第1卷，p. 48)
- (9) 青年姊妹，經月不見，一旦相逢，自然是親密的。一時進入房中，請安問好，都見過了。(《紅樓夢》，第31回，第2卷，p. 377)
- (10) 衆人因問：“幾更了？”人回：“二更以後了，鐘打過十一下了。”(《紅樓夢》，第63回，第3卷，p. 815)  
(下線筆者)
- (11) 閔公于馬上欠身答曰：“閔某前曾稟過丞相。今故主在河北，不由某不急去。……”(《三国演義》，第27回，上，p. 235)
- (12) 那漢道：“酒家是三代將門之後，五侯楊令公之孫，姓楊名志。流落在此關西。年紀小時，曾應過武舉，做到殿司制使官。道君因蓋萬歲山，差一般十個制使，去太湖邊搬運花石綱赴京交納。……”(《水滸伝》，第12回，p. 127)
- (13) 花榮道：“兄長見得極明。來日公廨內見劉知寨時，與他說過救了他老小之事。”(《水滸伝》，第33回，p. 357)
- (14) 行者道：“可曾經驗過麼？”菩薩道：“經驗過的。”(《西遊記》，第26回，上，p. 338)
- (15) 行者道：“你老人家自幼為僧，須曾講過儒書，方才去演經法；文理皆通，然後受唐王的恩宥；門上有那般大字，如何不認得？”(《西遊記》，第36回，中，p. 460)
- (16) 只因他年幼間曾走過西天，認得道路。(《西遊記》，第39回，中，p. 505)
- (17) 行者道：“不是，不是！靈山之路，我也走過幾遍，那是這路途！”(《西遊記》，第65回，中，p. 830)
- (18) 這里尤氏復說：“從前大夫也有說是喜的，昨日馮紫英荐了他幼時從學過的一個先生，医道很好，瞧了說不是喜，是一個大症候。昨日開了方子，吃了一劑藥，今日頭暈的略好些；別的仍不見大效。”(《紅樓夢》，第11回，第1卷，p. 128)
- (19) 宝釵笑道：“真真膏粱紈袴之談！你們雖是千金，原不知道這些事，但只你們也都念過書，識過字的，竟没看見過朱夫子有一篇‘不自棄’的文麼？”(《紅樓夢》，第56回，第2卷，p. 709)
- (20) 那茯苓霽也是宝玉外頭得了的，也曾賞過許多人。——不獨園內人有，連媽媽子們

討了出去給親戚們吃，又軫送人。襲人也曾給過芳官一流的人。（《紅樓夢》，第 61 回，第 3 卷，p. 784）

- (21) 二姐忙說：“今兒既遇見姐姐，這一進去，凡事只凭姐姐料理。我也來的日子淺，也不曾當過家事，不明白，如何敢作主呢？這幾件箱柜拿進去罷。我也沒有什麼東西，那也不過是二爺的。”（《紅樓夢》，第 68 回，第 3 卷，p. 884）  
（下線筆者）

だが，“状態性動詞＋‘過’”や“形容詞＋‘過’”の用例が、全くないといわけではない。《紅樓夢》には“有過”の例が 2 例見られる<sup>32)</sup>。

“有過”

- (22) 賈政写了，道：“這一句不好，已有過了‘口舌香’，‘嬌難拳’，何必又如此？這是力量不加，故又弄出這些堆砌貨來搪塞。”（《紅樓夢》，第 78 回，第 3 卷，p. 1029）
- (23) 他雖是有過功的人，到底主子奴才的名分，也要存点体統兒才好。（《紅樓夢》，第 88 回，第 3 卷，p. 1154）  
（下線筆者）

《紅樓夢》に見られるこうした若干の“状態性動詞＋‘過’”の例は、先行研究で述べら

<sup>32)</sup> また，《紅樓夢》には以下のような例が見られる。

“姉娘，你侄兒雖說年輕，却是他敬我，我敬他，從來沒有紅過臉兒。就是一家子的長輩同輩之中，除了姉子不用說了，別人也從無不疼我的，也從無不和我好的。”（《紅樓夢》，第 11 回，第 1 卷，p. 130）

この用法は一見形容詞“紅”と助詞“過 2”が結合した形にも思えるが、実際は離合動詞“紅臉”に“V. + ‘過 2’ + O.”として用いられているものである。似た用例は不肖生（向愾然）《留東外史》にも見られる。

「要說她是害羞，却又不是。她也一般的和人应酬，從沒見她紅過臉，露出点羞澀樣子。」

この二つを除いて，“紅”が動詞的に常用されている例は管見の限り近代以前に見当たらないため，これらは“紅臉”という単語がなければ成立しない用例と考えてよいだろう。

れている「“V. + ‘過 2’”の例は清代以降増加した<sup>33)</sup>という点と一致する。今回状態性動詞として例にとった動詞だけでなく，“經驗”などのような動作性の弱い動詞を，“曾”などの時間詞を用いず，単独で使用できるようになったのは清代以降のことと考えてよい<sup>34)</sup>。

では，“状態性動詞＋‘過’”の例は清代には頻出していたのであろうか。そこで，上記した《紅樓夢》の他に清代の文献を調査したところ，《紅樓夢》に見られた“有過”の他に，“想過”の例もいくらか見受けられた。

“想過”

- (24) 急得錢小姐燒香拜仏，問卜求医，沒有一件法况沒有想過，那里有什麼用處？不上半個月，把一個王芝字又送到閻王家去了。（《九尾龜》）
- (25) 芬臣讓他到巡捕處坐下，悄悄說到：「卑職再三想過，我們到底說不上去；無奈去找了小眼班祁福，祁福是天天在身边的，說起來希冀容易点。……」《二十年目睹之怪現狀》（八十八回）<sup>35)</sup>
- (26) 飛熊道：“我也想過，除非把福建一省人都綁去砍掉，才得鏟除。（《野叟曝言》）  
（下線筆者）

しかし，“有”“想”以外の状態性動詞を伴う“過”の例は管見の限りほとんど見当たらないことから，清代以前においては“状態性動詞＋‘過’”の用法はかなり限定的なものであったと考えるのが自然ではないだろうか<sup>36)</sup>。

### 3-2. 外国語との関係 (1)：英語

それでは，清代に「經驗義」は外国語との関係上如何に表されていたのであろうか。張秀（2001）<sup>37)</sup>では，「英語の動詞には『アスペクト』という文法範疇は存在せず，「完了や經驗等の意味は前後の文及び動詞の語彙的意味に制約されるのであって，文法範疇ではな

<sup>33)</sup> 伍和忠（2005b）

<sup>34)</sup> 例 (14) に“可曾經驗過麼？”“經驗過的。”という会話文が見られるが，ここで“經驗”は，“効驗；驗証”の意味である。（《漢語大詞典》（CD-ROM 版）2007，商務印書館（香港））ここでは“經驗過的。”と用いられているが，これは問いが“曾”を用いているため，成立したものであろう。《西遊記》で“經驗過”が用いられているのはこの箇所のみである。

<sup>35)</sup> 吳別人〔清〕《二十年目睹之怪現狀》（1984《晚清小説大系：二十年目睹之怪現狀》，廣雅出版（台湾））

<sup>36)</sup> これらの例は方言の可能性もある。詳しくは小結に述べる。

<sup>37)</sup> 張秀著・中川祐三・張勤訳（2001）「中国語動詞の『アスペクト』と『テンス』の体系」

い」としており、中国語の完了義や経験義はどちらも過去形や「have」＋過去分詞を用いて表し、意味の差異は“never”，“often”，“once”などの副詞と共に起るかどうかなど、文脈で理解するとしている。それを踏まえて 19 世紀の中国語教科書を見てみると、助詞“過”を使用した表現には以下のように訳文がつけられている。

(27) O, Ch'hang, the Yu-she. —My good friend, have you visited him yet?

哦。張御史。賢契可曾拜過。

哦 O. 張 Ch'hang 御史 the Yu-she. 賢契 my worthy friend 可曾 have you yet 拜過 visited him.

(*Dialogues and Detaches Sentences in the Chinese Language*, p. 27)<sup>38)</sup>

(28) 這一類現成的飯，何足掛齒、況且你的甚麼東西我沒吃過啊。

What is there worth speaking of in this one ordinary meal? especially as there is nothing of yours of which I have not eaten. (《官話類編》，第 169 課，p.571)<sup>39)</sup>

(29) 先生到過南京沒有、答 我已經去過數次。

Have you ever been at Nanjing, sir? Ans. I have been there several times. (《官話類編》，第 108 課，p. 300)

(下線筆者)

これらの例では“V. + ‘過’”の対訳にいずれも「have」＋過去分詞形が用いられている。なお、これらの資料の中でも“過”が状態性の動詞と結びついた例は稀である。また、(29) のように<sup>40)</sup>英語の中では現在完了形と“ever”，“several”などの副詞が共起しているが、中国語では完了を表す標示であるとされる“已經”が出現している例もある。

<sup>38)</sup> Morrison, R. (1816). *Dialogues and Detaches Sentences in the Chinese Language*, Honorable East India Company's Press. (《中文會話及凡例》)

<sup>39)</sup> Mateer, C. W. (1906) *A course of Mandarin lessons, based on idiom*. American Presbyterian Mission Press. (《官話類編》(初版 1892 年))

<sup>40)</sup> 当時の欧米人による文法書では“過”を動詞からの派生接辞とし、過去標示であるとしている。

“The suffixes may be compared to derivative verbs. ……Past time, 過 kwo', 對過 tui' kwo', I have compared them. ”

(Edkins, J. (1857: pp. 181-182). *A grammar of the Chinese colloquial language, commonly called the Mandarin dialect*, Shanghai: London Mission Press.)

英華辞書では、“曾”，“已經”，“未”などの副詞を用いて英語の現在完了形を解釈している。

(30) HAVE not, I, 我未有

HAVE done it. 已經做；做過；做了

HAVING seen, 既見；曾見；已見

(*An English and Chinese Vocabulary, in the Court Dialect*, (1844))<sup>41)</sup>

(31) ……I have obtained a degree. 我已經進學；I have heard it said. 我聽人說；have you been to Peking or not? 你到過北京沒有；I have been there. 我到過；……have you dined. 你用過飯麼

(*English and Chinese Dictionary*. (1847))<sup>42)</sup>

広東語系統の辞書でも、同じく“V + ‘過’”或いは“曾”を用いた文の対訳にいずれも「have」＋過去分詞形を用いている。

(32) 你去過処來 Where have you been? 我去過書館 I have been at school.

(《字典集成》, p.37)<sup>43)</sup>

(33) ……I have been there. 我曾去彼；我去過個処；我業經到彼；let me have, 俾過我；can you let me have? 你俾得過我有呢；let him have his desert, 俾佢照佢嘅行為，依其行為與；do well and have well, 行善則得善報；I have it from him, 係佢俾過我，他傳之於我；to have a thing be heart, 背過；……；have not yet. 未曾；have me excused, 推辭我；……；have you dined? 你食過飯冇呢；你食飯唔曾；你用過飯麼；have you been to Canton? 你到過省城冇呢；爾曾到廣州否；……；have heard. 曾聞；也曾聽聞；……

(*An English and Chinese Dictionary*. (1883-1884))<sup>44)</sup>

<sup>41)</sup> Williams, S. W. (1844). *An English and Chinese Vocabulary, in the Court Dialect*. (維三崑《英華韻府歷階》，香山書院)

<sup>42)</sup> Medhurst, W. H. (1847). *English and Chinese Dictionary*. The Mission press.

<sup>43)</sup> Kwong, Ki-Chiu. (1875). *An English and Chinese Dictionary Compiled from Different a authors and Enlarged by the Addition of the Last Four Parts*, The Chinese Printing and Publishing Company (鄭其照《字典集成》)

(下線筆者)

以上のことから、次の2点が指摘できる。

- 1) 当時、英語の現在完了形と中国語の“V. + ‘過’”は対応されることが多かったが、これら資料の中にもやはり状態性動詞と結びついた“V. + ‘過’”の例は少なく、さらに“曾”、“已經”、“未”などの副詞と共起することが多い。ここでの“過2”が現在と同じく安定して経験義を表しているとは言い切れない。
- 2) 1) のことから、この段階で英語の構造が中国語の“V. + ‘過’”の構造に何らかの影響を與えたとは言えない。

ここまでの調査で、中国語の“V. + ‘過’”+が外国語(英語)と接触した際何らかの変化が発生したかどうかはまだはっきりさせることができなかった。しかし清代の“過”もやはり状態性動詞と結合することは少ないということは、19世紀の“過2”の用法は現在と完全に同じというわけではなく、その「経験義」は比較的弱かったのだと推測できる。

### 3-3. 外国語との関係(2): 日本語

本項では、日本語の側から近代中国語における“過”について見ていく。中国語の“過”の変遷と直接関係があるかは、現段階では定かではないため、余論としてもよいが、4章で魯迅の“過”と翻訳の関係について述べる際関係してくるのでここに記す。

現在日本で発刊されている辞書や教科書をめくってみると、助詞“過2”は、「～タコトガアル」の形で訳出されることが多いようである。

「ことがある」は、動詞の過去形について、経験があるということを表す。……「ことがある」は、「したことがある」「していたことがある」という形で主語にそうした経験があることを表す。……「以前」「かつて」「1度」のような副詞的成分と共起する。ただし、ごく近い過去や厳密な過去の時点を示す副詞的成分とは共起しにくい。……「したことがある」は、1度ないしひとまとまりの経験を意味するが、「していたことがある」は、1度の経験の場合と反復的な経験の場合とがある。

(日本語記述文法研究会(2007: pp. 59-60)『現代日本語文法: 3』(筆者要約))

これは過去標示「～タ」、形式名詞「コト」、所有を表す動詞「アル」からなる形式だと考えられる。日本語の経験を表す形は、中国語のように「経験相」という形で文法化されてはいない。

現在日本語は一般に「タ」或いは「テイタ」形を用い過去を表す<sup>45)</sup>。しかし、これは近代以降翻訳の影響で現れた形だとし、日本語には元々過去形がないとする意見もある。

日本文の終わりを「た」で止める文体は、蘭学者たちの翻訳から始まっていた。それは、オランダ語文の動詞の過去形、現在完了形を、「～た」と訳することがあったからである。……この翻訳法は、近代になって、英学を引き継がれた。もっとも、オランダ語訳でも英語訳でも、過去形に「た」を用いるのは少数例で、日本語訳での過去形としては、「し」、「けり」、「たり」などを使うのがふつうだった。……「た」じたいは、とくに話し言葉では現在形でも過去形でもなかった。西洋語の完了形とも違う。……この無理な当てはめの理由は、近代以後の翻訳の要請であった。……英文の現在完了形に対しては「た」を使っている例も少数見受けられるが、少なくとも明治三十年代頃までは「し」が普通だった。……ところが、明治三十年代頃になると、おそらく二葉亭などから始まった小説文の影響かと思われるが、過去形に「た」を宛てるようになる。

(柳父章(2004: pp. 81-97)『近代日本語の思想: 翻訳文体成立事情』(筆者要約))

日本の言文一致運動は明治初期(1868年～)から行われ、40年代以降(1907年～)確立したとされているが、タ止めの形が新しい形とすれば、この頃変遷し、確立したと考えてよいだろう。日本語の経験を表す「～タコトガアル」形は、「タ」が過去形の標示と認識されるようになってから生まれた形と考えるのが妥当である。なぜならば、「～コトガアル」が「～タコトガアル」の形を取らない場合、経験を表さないからである<sup>46)</sup>。とすると、「～タコトガアル」の形も発生は明治以降、翻訳の影響である可能性は大いにある<sup>47)</sup>。その可

<sup>45)</sup> 町田健(1989: p. 71)『日本語の時制とアスペクト』

<sup>46)</sup> 藤森弘子(2000)「談話における『コトガアル』の意味と用法」

藤森(2000)では、「～ルコトガアル」を可能性の頻度を表すとしている。

<sup>47)</sup> 『日本国語大辞典』(2001: p. 901)第5巻では「コト」について以下のようにある。

<sup>44)</sup> Lobscheid, W. (1883-1884). *English and Chinese Dictionary*, Daily Press Office. (羅不存徳原著・井上哲次郎増訂《訂増英華字典》(藤本氏蔵版), pp. 580-581)

能性を踏まえながら、今回は、当時中国語の“過”は如何に日本語に訳出されていたか見ていこう。

1882 (明治 15) 年に出版された『総訳並細並言語集 支那官話部』<sup>48)</sup>では“過”は“過”を使わない文と同じくほとんど「～タ」「～マス」の形で訳出している<sup>49)</sup>。(36) のように現代日本語では「～タコトガアル」形で訳した方が自然と思われる例も「～タ」「～マス」形で表している。また、(37)～(40) のように“‘没’ + V. + ‘過’”の例には「～タ」「～マス」形の他に「～タコトガアル (ナイ)」形もある。これらの例は原文の文脈から見ても経験と理解してよい。これは原文が副詞“從來”を使用していることとも関係するのかもしれないが、“從來”を用いていない (40) のような例も「～タコトガアル (ナイ)」形で訳出しているため、それだけが原因とは言えないだろう<sup>50)</sup>。或いは、日本語の「～タ」「～マス」形や「～タコトガアル」形も過渡期にあり、翻訳するにも過去と経験の使い分けをしていないのかもしれないが、管見の限り肯定形の‘V. + ‘過’”は「～タコトガアル」形を用いていないことから、何らかの使い分けがあった可能性はある。

②修飾語句を受けて断定を強めたり、慣用的な表現に用いたりする。……ロ：場合、経験、必要などの意。特に、近代では、この形による表現の幅が狭くなって、一定の類型と一定の表現意図が結び付くようになってきている。たとえば、……「…したことがある (ない) (経験)」……\*開化のはなし (1879) (辻弘想) 初・二回「近日の御政事は、私共の青年間 (わかいとき) には見た的 (コト) も聞た的 (コト) も無い事 (コト) ばかり」

柳父 (2004) によれば過去形に「タ」が用いられるようになったのは明治 30 年代であり、ここで「～タコトガアル (ナイ)」の初出として上がっている例は、これより早い例ではあるが、筆者はこれらの例が明治初年前後 (1868 年前後) から行われ、40 年代以降 (1907 年～) 安定したと考えたい。

また、早稲田大学古典籍データベース公開のデータには、曲肱軒主人という著者が『開化のはなし』上下巻を記しており、この巻の下「第二回 田畝問の政治論」(p.1-a) に該当箇所がある。

<sup>48)</sup> 『総訳並細並言語集』(1882) 広部精訳、青山清吉蔵版、関西大学近代漢語文獻データベースによる。

<sup>49)</sup> “了”の文章も以下のように訳出している。

- 他們来了多少人 他共は幾人来マシタカ (第一巻上, 散語第二章, p. 2-b.)
- 驢驘了他買了多少頭 驢馬ト驢馬ヲ彼ハ幾匹買マシタカ (第一巻上, 散語第四章, p. 5-a)

<sup>50)</sup> さらに『総訳並細並言語集 支那官話部』には以下のような例もある。

- 你找過先生沒有 汝ハ先生ヲ見付シカシタカ●找過了 見付シマシタ (巻一上, 散語第五章, p. 6-a)

「～タ」「～マス」形で訳出：

- (29) ●你看見過沒有 汝ハ見マシタカ●你還沒看見過麼 汝ハ還見マセンカ●看過了 見マシタ (巻一上, 散語第五章, p.5-b)
- (30) ●我請過先生教我。他不肯來 我ハ先生ニ御願モウシテ警古イタソウトシマシタガ。アノ人ハ來テ呉マセン (以下略) (巻一上, 散語第五章, p. 6-b)
- (31) ●字還認得認過四五千字 字ハ識テ居マストモ。識テ居ルノハ四五千字モ有リマシヤウ (巻一上, 散語第六章, p. 7-b)
- (32) ●念過的書 千万不可忘了 汝ノ讀ダ書物ハ決シテ御忘レナサルナ (巻一上, 散語第六章, p. 7-b)
- (33) ●你們倆是在那兒遇見的●オマヘタチ兩人ハ何処デ出遇タノカ●是在上海會過的●へー、上海デ逢タノデス (巻三, 問答第四章, p. 11-b)
- (34) ●這個字我還沒看見過呢 此字ハ私ハマダ見マセンヨ (巻一上, 散語第五章, p. 6-a)
- (35) ●這四五年來你都沒見過罷●コノ四五年來你ハ遇見マセンダロウ (巻三, 問答第五章, p. 17-b)
- (36) ●就是了、我到了店裏頭、叫他們弄甚麼菜好呢●左様カ、私ガ宿屋ノ内ヘ到タラバ、彼等ニ云ヒ付ケテ、何ノ菜ヲ拵エサセルノガ好カ●老爺怕沒吃過我們的菜罷●旦那ハ怕クハ私共ノ菜ヲ吃マスマイ●沒吃過呢●吃マセンヨ●阿、老爺還沒吃過、不如從天津做一點兒好拿的蔡帶着●アー、旦那ハマダ吃マセンカ、ソレナラバ天津カラ持好菜ヲ少シ拵ヘテ持テユクガ善ゴザリマス (巻三, 問答第八章, p. 35-b)

「～タコトガアル (ナイ)」形で訳出：

- (37) ●乍見是一見之初。乍見某人是平素沒見過的人。初次見他 乍見トハ一タビ見タ始メノコトデス○某ニ初メテ遇フタトハ、平素見タコトノ無キ人ニ、初メテ他ニ遇フコトデス〔他ハ、始メテ遇フタ人ヲ指スナリ〕(巻一下, 散語第二十七章, p. 8)
- (38) ●我是南邊來的。從來沒做過車。那起車的到店裏。立刻就要錢。我疑惑從來沒這個理。叫他等一等兒再來 我ハ南邊カラ來タモノダカラ、從來車ニ乗タ

コトハ有リマセンガ、那ノ趕車ハ店裏ヘ到ト、立刻ニ錢ヲ要ウト致シマシタ、私ハ從來此様理ハ無イコトト疑惑マシタカラ、彼ニ少シ待テ後ニ再来ト云ヒマシタ（卷一下、散語第二十九章、p. 10-b）

(39) ●我從來沒見過他●私ハ元ヨリ彼ヲ見タコトハ有リマセン（卷二上、続散語第二章、p. 3-a）

(40) ●沒受過酸甜甜苦辣●難儀ヲ知ラス○酸イモ甘イモ苦モ辛モ受ケタコトノ無キ人ヲ云フ（卷二上、続散語第十二章、p. 18-a）

以上、当時の中国と日本語を対比させると次のことが推測できる。

- 1) 当時助詞“過”はほとんど「～タ」「～マス」形で訳出された。
- 2) “‘没’+V.+‘過’”形は「～タ」「～マス」形の他、「～タコトガアル（ナイ）」形にも翻訳された。

3章で見てきた19世紀以前の例には、“有”“想”のような動詞が若干見られる以外、“状態性動詞+‘過’”“形容詞+‘過’”の例は見られなかった。次章では、魯迅の作品を例に、20世紀以降の“V.+‘過’”の例とその変遷、そして外国語との関係を見ていく。

#### 4.20 世紀以降：魯迅の例を中心に

##### 4-1. 1930年代の用例

現在、“過 2”は“愛”、“喜歡”、“同意”など状態性の比較的強い動詞とも結合することができるが<sup>51)</sup>、1933年に出版された茅盾の《子夜》<sup>52)</sup>には既に“感到”“怕”など、19世紀以前には“曾”など副詞と結びついても成立しにくかった心理状態を表す動詞に“過”をつけた例を見ることができる。

(41) “不是！請三先生明白，我好像沒有怕過什麼！我可以老老實實告訴三先生：我很愛惜我一個月來放在廠里的一番心血，我不願意自己親手推翻一個月來辛辛苦苦的布置！可是三先生是老板，愛怎麼辦，權柄在三先生！我只請三先生立刻准我辭職！我再說一句，我并不是害怕！”（12, p. 367）

<sup>51)</sup> 《北京大学漢語語言學研究中心語料庫》（2010年7月23日確認）

<sup>52)</sup> 茅盾《子夜》（1933年）（人民文學出版社，1977年（1960年北京第3版））

(42) 她隨侍老太爺十年之久，也不曾感到過這樣溫暖的撫愛。（17, p. 520）  
（下線筆者）

同時期、茅盾以外の文章にも以下のような例が見られる。

(43) 第四時期，即清初以後，“田、王，征遼、方腊三伝皆被刪去，前伝亦被刪去七十一回以後的事迹，加了盧俊義的一夢，變作現行的七十回本。這種變化，完全是獨出心裁。他雖假托古本，這個古本却似并未存在過”。  
（胡適（1929: p. 445）<sup>53)</sup>）  
（下線筆者）

これらのことから、“過”が状態性動詞を伴うようになり、安定して経験義を表す事ができるようになったのは、19世紀末から1930年代までの間ではないかと見当がつけられる。

#### 4-2. 魯迅の用法について（1）：資料・方法

では、19世紀末から1930年代の間に“過”の用法は如何に変遷したのであるか。本稿では魯迅の作品から、同時代における“過”の変遷及び外国語との関係を検討したい。魯迅の資料を使用する理由は、以下の2点。

- 1) 魯迅が活躍した年代が、今回“状態性動詞+‘過’”が使用されるようになったと予測する時代が一致するため。
- 2) 魯迅は著作と共に翻訳作品も多く残しており、著作と翻訳における“過”の使用状況を比較することができるため。

今回用いる資料は以下の通り。

- 1) 《魯迅全集》1-8巻（全16巻）（人民文學出版社，1981年）  
第1巻（〈墳〉、〈熱風〉、〈呐喊〉）/ 第2巻（〈彷徨〉、〈野草〉、〈朝花夕拾〉、〈故事

<sup>53)</sup> 胡適（1929）〈百二十回本《忠義水滸伝》序〉

李玄伯（宗桐）の《誑（水滸）記》（1925）第1節を引用。



新編) / 第3巻 (《華蓋集》, 《華蓋集續編》, 《而已集》) / 第4巻 (《三閑集》, 《二心集》, 《南腔北調集》) / 第5巻 (《偽自由書》, 《准風月談》, 《花邊文學》) / 第6巻 (《且介亭雜文》, 《且介亭雜文二集》, 《且介亭雜文末編》) / 第7巻 (《集外集》, 《集外集拾遺》) / 第8巻 (《集外集拾遺補編》)

2) 《魯迅訳文全集》1-8 (全8巻) (福建教育出版社, 2008年)

第1巻 (《月界旅行》, 《地底旅行》, 《域外小説集》, 《工人綏惠略夫》, 《現代小説訳叢》, 《一個青年的夢》, 《愛羅先珂童話集》) / 第2巻 (《現代日本小説集》, 《桃色の云》)<sup>54)</sup>《苦悶的象征》, 《出了象牙之塔》) / 第3巻 (《小約翰》, 《思想・山水・人物》, 《近代美術史潮論》) / 第4巻 (《壁下訳叢》, 《現代新興文學的諸問題》, 《芸術論》, 《文芸與批評》) / 第5巻 (《小彼得》, 《文芸政策》, 《芸術論》, 《毀滅》) / 第6巻 (《堅琴》, 《十月》, 《一天的工作》, 《表》, 《俄羅斯的童話》) / 第7巻 (《死魂靈》, 《壞孩子和別的奇聞》, 《藥川植物》, 《山民牧唱》) / 第8巻 (《訳文補編》)

詳しくは資料7, 8を参照のこと。

これら資料を用い、次の通り分析を行う。

1) 目的:

助詞“過”が伴う動詞・形容詞を分析し、その中から状態性動詞・形容詞を伴う例を抽出し重点的に見ることで、魯迅の著作・訳文に用いられる助詞“過”の用法が如何に変遷したか探る。また、著作物と訳文とでの“過”の用法を比較することで、用法に差異はないか分析し、“状態性動詞+‘過’”“形容詞+‘過’”と外国語との関係を検討する。

2) 予想:

魯迅の訳文における助詞“過”と著作物における助詞“過”の用法を比較すると、訳文の方が早い時期に“状態性動詞+‘過’”や“形容詞+‘過’”を用いているのではないかと推察される。或いは、多様な状態性動詞を用いているのではないかと推察される。外国語が魯迅自身の著作物、ひいては現代中国語の助詞“過”の用法に影響を與えた可能性があるのではないかと推察される。

3) 用法の扱い方:

魯迅が生前残した作品を、本人による著作と翻訳に分け、それぞれ助詞“過”を伴う例を抽出する。用法に関しては、《実用現代漢語語法(増訂本)》「6. 結果意義(四): 表示“完結”。這樣用的“過”與“了”的意義很接近, 但是有一個前提: “過”前的動詞所標示的動作及所涉及的物體, 對聽話人來說一定是已知信息。」(pp. 560-562) 及び同書 pp. 399-406 に沿う。

また、今回の分析の重点は助詞“過”の分類をすることではなく、助詞“過”が伴う動詞・形容詞を分析することにあるので、“過1”“過2”として分けて用法を取るのではなく、共に助詞“過”として用法を扱う。

以上、動詞分類に関しては、詳しくは本章2-3を参照されたい。

#### 4-3. 魯迅の用法について(2): 結果

資料に用いた作品の数と、資料中に見られる助詞“過”の数は以下の通りであった(表1)。文字数は単なる目安として記したものである。1行あたりの文字数に行数をかけ、1頁の文字数を算出、これにその作品の頁数をかけた数字である。挿絵、注の頁は数として数えず、さらに1頁あたりの文字数が少ない場合、頁数を切り上げている。この結果では訳文の文字数と著作の文字数が均等ではないが、それぞれ《魯迅全集》(以下《全集》)1-8巻、《魯迅訳文全集》(以下《訳文》)1-8巻における魯迅によって書かれた箇所を計算した結果である。

魯迅の著作は1898年、訳文は1903年から資料があるが、記述形式が文語であったこともあって、当初は助詞“過”の用例が見られない。実際に用例が見えるのは、訳文では周回小説の形式をとった1903年《月界旅行》以降、著作では1918年5月の《狂人日記》以降である。全体的に年を経過するごとに増えているが、用例数の増加はむしろ作品の数や長さによって左右されることが多い。

<sup>54)</sup> 資料欠。

表 2：使用回数が2桁を超える語

	著作		訳文	
	動詞	数	動詞	数
1	説	139	説	222
2	見	136	見	109
3	看	69	有	82
4	有	62	做	46
5	做	58	聽到	34
6	読	38	看	30
7	吃	21	吃	29
8	聽到	21	読	28
9	看見	18	受	25
10	發表	17	講	24
11	写	17	到	21
12	到	14	想	15
13	受	14	問	15
14	研究	14	住	14
15	出	13	用	14
15	訳	13	喝	13
15	聽	12	聽	13
15	用	12	經歷	10
15	謹	11		
15	開	10		
20	問	10		

表 1<sup>55)</sup>：資料に用いた作品数及び“過”の数

	作出数			助詞“過”の用例数					
	著作作品数/文字数	訳文作品数/文字数	総作品数/文字数	著作中総数	訳文中総数	作品中総数			
1898	2	1250	0	0	2	1250	0	0	0
1900	2	140	0	0	2	140	0	0	0
1901	4	867	0	0	4	867	0	0	0
1902	1	63	0	0	1	63	0	0	0
1903	2	8153	5	102800	7	110953	0	27	27
1905	0	0	1	1980	1	1980	0	0	0
1907	4	45000	1	7920	5	52920	0	0	0
1908	1	7500	1	3960	2	11460	0	0	0
1909	1	625	3	20790	4	21415	0	0	0
1912	6	8285	0	0	6	8285	0	0	0
1913	1	3125	3	36630	4	39755	0	0	0
1914	1	2500	1	990	2	3490	0	0	0
1915	1	625	1	14850	2	15475	0	0	0
1916	1	625	0	0	1	625	0	0	0
1917	4	3125	0	0	4	3125	0	0	0
1918	16	31875	1	3960	17	35835	19	0	19
1919	22	45625	1	127710	23	173335	23	46	69
1920	4	14375	3	93060	7	107435	21	36	57
1921	8	38750	21	159390	29	198140	40	58	98
1922	20	46250	8	44550	28	90800	36	32	68
1923	3	8125	10	94050	13	102175	2	57	59
1924	29	68125	3	68310	32	136435	51	51	102
1925	101	224403	18	151470	119	375873	196	74	270
1926	57	161250	12	145530	69	306780	150	73	223
1927	57	141875	3	19800	60	161675	120	7	127
1928	33	33750	53	587070	86	620820	19	208	227
1929	27	55662	34	640530	61	696192	65	144	209
1930	22	46274	12	97020	34	143294	20	89	109
1931	49	62234	8	61380	57	123614	38	38	76
1932	29	31064	3	29700	32	60764	27	12	39
1933	177	238541	8	75240	185	313781	164	53	217
1934	121	188862	11	53460	132	242322	131	56	187
1935	71	154455	10	375210	81	529665	129	250	379
1936	47	81250	3	104940	50	186190	75	46	121
1937	1	625	0	0	1	625	0	0	0
1938	0	0	8	63385	8	63385	0	52	52
合計	925	1755253	246	3185685	1171	4940938	1326	1409	2735

結果、助詞“過”の使用数は著作が 1326 例（動詞 397 種）、訳文が 1409 例（動詞 412 種）とその差は 80 例程度であった。助詞“過”の使用例は、訳文のほうが著作より若干多いが、文字数を考慮すると、使用例としてはむしろ著作における“過”の使用例のほうが多いといえる。

実際どのような動詞に付着して用いられたかについては、動詞の使用頻度を見る限りでは著作と訳文とでそれほど大きな差異はなく、また、1 例のみしか使用されない動詞が多くを占める。使用回数が 2 桁を超すものはそれぞれ次の通り。(表 2)

<sup>55)</sup> ここでの初出年は、書かれた期口がはっきりしている場合、書かれた期口を採用し、はっきりしない場合雑誌などに初めて掲載された期口を採用した。

特筆すべきなのは、状態性が強いであろう動詞“有”の使用頻度が著作・訳文共にかなり多いことである。また、これら“有過”の例は、共に時間を表す語、否定詞などを伴うことがほとんどである<sup>56)</sup>。

“有”

(45) 阿末雖然被寵愛，比較起來却要算不喜歡母親的，有時從伊有些歪纏，母親便烈火一般發怒，曾經有過抓起火篋，一徑追到店面外邊的事。(《阿末的死》《訳文：2》，1923<sup>57)</sup>: p. 40)

(46) 而且最奇特的是，這大概是只有在俄國才會出現的，——不久之後，他就又和痛打了他的朋友混在一起，大家拆談，彷彿全沒有過什麼事，他這一面，也好像毫未受過侮辱似的了。(《死魂靈》《訳文：7》，1935: p. 79)

<sup>56)</sup> 今回は“未曾有過”の例を“有過”としてとったことも影響している。

<sup>57)</sup> 魯迅の翻訳としての発表年。

(47) 記得先前也曾有過一回，但那時提倡的，是滿清王公大臣，現在却是民国的教育家，位分略有不同。（〈三十七〉《熱風》《全集：1》，1918: p. 309）

“有”の他，清代以前に使用が見られた“想”についても，著作で5例，訳文で15例と，比較的多く用いられている。“想到”“想起”などの例も含めれば，魯迅の作品中で用いられた“状態性動詞＋‘過’”の用例のほとんどの動詞が“有”及び“想”であったことになる。

“想”

(48) 你沒有想過的事，誰也沒有想聽呢。（〈一個青年的夢〉《訳文：1》，1919: p. 331）

(49) 到最後，我再說一遍罷：日本人的生活改造，倘不首先對於從肉向靈的這根本的問題，徹底地想過，是不行的！（〈出了象牙之塔〉《訳文：2》，1925: p. 359）

(50) 他想到這裏，忽然從床上跳起來了。以先他早已想過，須得撈幾文稿費維持生活了；（〈幸福的家庭〉《彷徨》《全集：2》，1924: p. 35）

(51) 但僅印十來幅圖，認真地想過幾回的人却也有，不過自己不多說。（〈論翻印木刻〉《南腔北調》《全集：4》，1933: p. 606）

（以上下線部・太字筆者）

魯迅の作品中に用いられた“状態性動詞＋‘過’”は以下の通り。ゴシック体は存在を表す動詞，ゴシック・イタリック体は形容詞，その他は心理・生理状態を表す動詞及び認知動詞である。“過”全体の使用数から見ると，“状態性動詞＋‘過’”の使用例は著作 110例（動詞 30種），訳文 148例（動詞 34種）と少ない。（表3）

表 3：“状态性動詞＋‘過’”の用例数及び動詞

	著作		訳文	
	動詞	数	動詞	数
1	有	62	有	82
2	想到	6	想	15
3	反对	6	想到	7
4	想	5	存在	6
5	想做	2	愛	5
6	高興	2	餓	3
7	相信	2	感到	2
8	反省	2	苦	2

9	無聊	2	思索	1
10	感慨	1	想做	1
11	相愛	1	在	1
12	猜想	1	感受	1
13	憤慨	1	想起	1
14	感動	1	思量	1
15	浩嘆	1	恋	1
16	動搖	1	感着	1
17	滿足	1	高興	1
18	推想	1	懷//疑	1
19	贊同	1	反省	1
20	細想	1	戀愛	1
21	注意	1	迷	1
22	反对青年 讀古書	1	覺到	1
23	設想	1	豫感	1
24	想像	1	嗜愛	1
25	知道	1	憐憫	1
26	賞識	1	忘記	1
27	餓	1	緊張	1
28	感	1	夢想	1
29	懷疑	1	懺悔	1
30	認識	1	打算	1
31			憂愁	1
32			年青	1
33			美麗	1
34			暖和	1
計		110		148

以下，實際の用例を見ていく。

“存在”

(52) 那最壞的是，他其實就沒有存在着，而且也沒有存在過。（〈小約翰〉《訳文：3》，1926: p. 69）

(53) 反之，在歷史中看不見意義的人們，則即使他怎麼善良，也不過是毫不將人類的特狀提高一點的，單是曾經存在過了的利己主義者，在他死後，是決沒有什麼東西留下的罷。（〈藝術論〉《訳文：4》，1929: p. 274）

(54) 托爾斯泰就這樣地暗示着空想底的，這世上未曾存在過的黃金時代，然而這是空想，他自己却分明白知道的。（〈文芸與批評〉《訳文：4》，1928: p. 317）

(55) 加以這樣的工場產業，這樣的交通路線，都未曾有過，而且在現今的形態上那樣的資本主義，也未曾存在過的緣故。（〈文芸與批評〉《訳文：4》，1929: p. 325）

- (56) 例如，在十七世紀的法國，曾經存在過的關係，便是這，在那時，資產階級很喜歡模倣貴族階級，雖然不能說是非常地成功底的。（《藝術論》《訳文：5》，1929: p. 166）
- (57) 一個潑刺的男孩和一個漂亮的女孩，或者簡直是兩個男孩和兩個女孩，當然，三個也可以，由此給大家知道知道，他的確生活過，存在過，至少是并不像一個幽靈或者影子似的在地上遊蕩了一下——而且他對於祖國，因此也用不着慚愧了。（《死魂靈》《訳文：7》，1935: p. 280）

“在”

- (58) 是一個粗心浮氣的朋友，惡魔似的強橫，凡世界上所有的事，他都做過，在過守衛本部，受過許多分鐘的禁錮。（《死魂靈》《訳文：7》，1935: p. 194）

これらはほとんどが“曾經”などの時間詞と共に起るか、否定形式である。また、訳文中には“愛”を用いた例も比較的多く見られる。

“愛”

- (59) 這是那女人，是他曾經愛過而已經去了，去的地方，如他所想，又是再不歸來的所在了。（《工人綏惠略夫》《訳文：1》，1920: p. 188）
- (60) 我愛過你們了，並且永遠愛你們。（《與幼小者》《現代日本小説集》《訳文：2》，1923: p. 36）
- (61) ……雖然人們責備她，以為她有和一個勇士私通的有罪的戀愛——和她在寂寞中愛過的丹珂勒夫（Tancolf），縱或全然無罪，因為她的嘴唇只有一次當月夜里在沙崗上觸着他的馬的胸脯，——却生了一個孩子。（《小約翰》《訳文：3》，1926: p. 109）
- (62) 雖然是愛過太子時代微行而來的他的巴黎，但對於代表英國政府的元首的他，接受與否，却是一個疑問。（《思想・山水・人物》《訳文：3》，1928: p. 236）
- (63) “人生是可悲的。我自出生以來，只有過一回戀愛。只記得愛過一個女人。這就是我的妻。……（《西班牙劇壇的將星》《壁下訳叢》《訳文：4》，1925: p. 47）

また、変わった例としては、アスペクト“着”にさらに“過”を付けた例も見られた<sup>58)</sup>。

<sup>58)</sup> CCL コーパスによれば、このような例はアンデルセン童話『風車』の翻訳に1例、

“磨坊里曾經活着過的東西，現在仍然活着，並沒有因為這件意外而被毀掉。”

- (64) 当他接着拿起名单來，一看那些確是活着過，操勞過，耕作過，喝過酒，拉過車，騙過他的主人，或者也許是簡單的老實人的農奴們的名字的時候，就起了一種奇特的不舒服的感覺。（《死魂靈》《訳文：7》，1935: p. 136）

訳文ではなく魯迅自身の著作物にも、現在ではほとんど使わない変わった用法がある。認知動詞に“過”を用いた例がそれである。

- (65) 我曾經愛管閑事，知道過許多人，這些人物，都懷着一個人願。（《病後雜談》《且介亭雜文》《全集：6》，1934: p. 162）
- (66) 但是奇怪，我們又很疏遠，例如我，就沒有認識過一個捷克人，看見過一本捷克書，前幾年到了上海，才在店舖里目睹了捷克的玻璃器。（《〈吶喊〉捷克訳本序言》《且介亭雜文》《全集：6》，1936: p. 524）

“形容詞＋‘過’”の例は著作，翻訳共に見られる。1例を除いて否定形で用いられている。

・訳文

- (67) 再沒有人想到，伊也曾經年青過，美麗過的。（《瘋姑娘》《現代小説訳叢》《訳文：1》，1921: p. 287）
- (68) 克拉拉・札德庚教養院里，從來沒有這麼暖和過。到處都熱，竟好像蒸汽浴場似的。（《表》《訳文：6》，1935: p. 389）

・著作

- (69) “唉唉，我從來沒有這樣的無聊過！”伊想着，猛然間站立起來了，（《補天》《故事新編》《全集：2》，1922: p. 345）
- (70) “唉唉，我從來沒有這樣的無聊過。”伊坐在一座山頂上，兩手捧着頭，上氣不接

老舍の《四世同堂》に1例見られる。

“他不能，絕對不能，再想死。他以前並沒有真的活着過；什麼花呀草呀，那才真是象一把沙子，隨手兒落出去。”

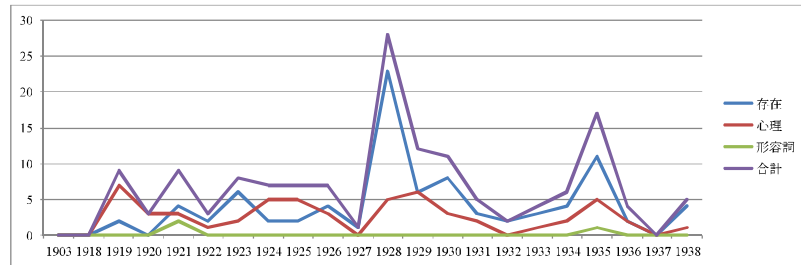
下気の説。(〈補天〉《故事新編》《全集：2》，1922: p. 351)

(以上下線部・太字筆者)

これら用例を時間的に見ると以下のようになる。

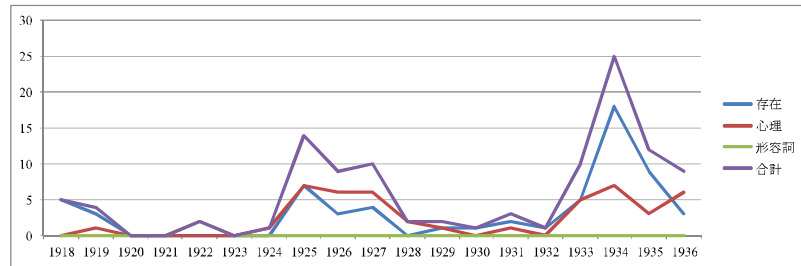
表 4：“状態性動詞＋‘過’”の用例数（時間）

訳文	1903	1918	1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	合計
存在	0	0	2	0	4	2	6	2	2	4	1	23	6	8	3	2	3	4	11	2	0	4	89
心理	0	0	7	3	3	1	2	5	5	3	0	5	6	3	2	0	1	2	5	2	0	1	56
形容詞	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
合計	0	0	9	3	9	3	8	7	7	7	1	28	12	11	5	2	4	6	17	4	0	5	148



著作

著作	1918	1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	合計
存在	5	3	0	0	0	0	0	7	3	4	0	1	1	2	1	5	18	9	3	62
心理	0	1	0	0	0	0	1	7	6	6	2	1	0	1	0	5	7	3	6	46
形容詞	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	5	4	0	0	2	0	1	14	9	10	2	2	1	3	1	10	25	12	9	110



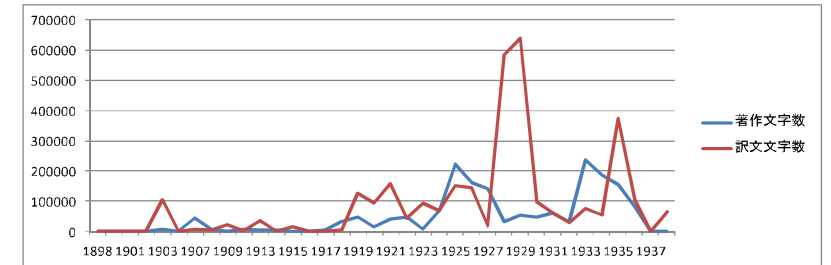
参考までに、今回使用した資料の年別文字数の表も以下に記す。

年別文字数

	1898	1900	1901	1902	1903	1905	1907	1908	1909	1912	1913	1914
著作文字数	1250	140	867	63	8153	0	45000	7500	625	8285	3125	2500
訳文文字数	0	0	0	0	102800	1980	7920	3960	20790	0	36630	990

	1915	1916	1917	1918	1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926
著作文字数	625	625	3125	31875	45625	14375	38750	46250	8125	68125	224403	161250
訳文文字数	14850	0	0	3960	127710	93060	159390	44550	94050	68310	151470	145530

	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938
著作文字数	141875	33750	55662	46274	62234	31064	238541	188862	154455	81250	625	0
訳文文字数	19800	587070	640530	97020	61380	29700	75240	53460	375210	104940	0	63385



総合すると、全体の傾向として、翻訳作品の方が著作と比べて多くの種類の存在を表す動詞及び形容詞を用いている。しかし、今回用いた資料における“状態性動詞＋‘過’”の用例数は、全体的に文字数に比例しており、著作・訳文においての違いと言ったものは、はっきりとは分からなかった。だが、今回の調査の結果から次のことが指摘できる。

まず、1917年以前には著作・訳文共に相当数の資料があるにも関わらず、“状態性動詞＋‘過’”の例が現れないこと。そして、訳文では、“状態性動詞＋‘過’”の例が現れ始めた1919年の段階で、“有”“想”など<sup>59)</sup>のような、19世紀以前にも若干の使用例が見られる動詞以外の状態性動詞を伴う“過”の用例、例えば“餓過”“高興過”などの例が現れており、その後も“愛過”“恋過”などのような様々な状態性動詞を用いた例が続いて見られるが、著作で“有”“想”系以外の動詞を伴う構造が現れるのは、1922年に“無聊過”の例が現れて以降であるということである。(資料5「魯迅著作における“過”の使用例」、

<sup>59)</sup> “想”の用例には“想到過”“想做過”なども含む。

訳文：

- (71) 可是肚子餓了。歷來沒有這樣餓過。(〈一個青年的夢〉《訳文：1》，1919: p. 337)
- (72) 我從來沒有這樣餓過。(〈一個青年的夢〉《訳文：1》，1919: p. 339)
- (73) 說我的兒子戰死是名譽，高興過的村長，從那邊來了。(〈一個青年的夢〉《訳文：1》，1919: p. 374)
- (74) 這是那女人，是他曾經愛過而已經去了，去的地方，如他所想，又是再不帰来的所在了。(〈工人綏惠略夫〉《訳文：1》，1920: p. 188)
- (75) “你可曾恋過誰沒有？”(〈省会〉《現代小説訳叢》《訳文：1》，1921: p. 244)
- (76) 再沒有人想到，伊也曾經年青過，美麗過的。(〈瘋姑娘〉《現代小説訳叢》《訳文：1》，1921: p. 287)

著作：

- (77) “唉，我從來沒有這樣的無聊過！”伊想着，猛然間站立起來了，(〈補天〉《故事新編》《全集：2》，1922: p. 345)
- (78) “唉，我從來沒有這樣的無聊過。”伊坐在一座山頂上，兩手捧着頭，上氣不接下氣的說。(〈補天〉《故事新編》《全集：2》，1922: p. 351)
- (79) 當時就聽說——或者也是時行的“流言”，——一位北京大學的名教授就憤慨過，以為從胡須說起，一直說下去，將來就要說到屁股，則於是乎便和上海的《晶報》一樣了。(〈從胡須說到牙齒〉《墳》《全集：1》，1925: p. 243)

例(77)(78)を除いて、1924年までの魯迅著作における“状態性動詞＋‘過’”の例は、すべて“有”“想”を用いた例である。つまり，“有”“想”などと結びつく“過”の用例と，“状態性動詞＋‘過’”構造は、やはり何らかの違いがあり、訳文のほうが早い段階で“有”“想”以外の“状態性動詞＋‘過’”構造を用いているということは、「状態性動詞に付着して経験義を表す“過”が外来要因で生まれた可能性も考えられるということである。

また、“認知動詞＋‘過’”をはじめ、現在でも助詞“過<sub>2</sub>”と結合しにくい動詞にも“過”が用いられている例も考えると、当時、或いは魯迅作品における“過<sub>2</sub>”の用法は旧白話時代とも、現在とも異なる用法をされていた可能性も考えられる。

## 余論

以下、“状態性動詞＋‘過’”の用法の中で最も多い“有”＋‘過’”について、魯迅の著作・翻訳作品における用法はどのようなものであるか検討したい。

4-3でも触れたように、“状態性動詞＋‘過’”の例の中でも著作・訳文共に、“有”＋‘過’”の使用は飛び抜けて多い。しかし著作・訳文共に多く使用が見られることから、これがそれぞれの特徴であるとは言えない。また、著作・訳文ともに“有”＋‘過’”の主体は無生物であることが多く、これら“有”＋‘過’”は所有・所属ではなく、存在を表すことが多い。

- (80) “五六年前，西边的辛錫那台街上，曾經有過一件出名的犯罪案子。……(〈思想・山水・人物〉《訳文：3》，1928: p. 170)
- (81) 党的指導方針，是以前也曾有過，現今也還存在。(〈關於對文藝的党的政策〉《文芸政策》《訳文：5》，1928: p. 43)
- (82) 假如先前未曾有過這樣的一篇詩，現在的新詩人用這意思做一首白話詩，到無論什麼副刊上去投稿試試罷，我看十分之九是要被編輯者塞進守紙簍去的。(〈門外文談〉《且介亭雜文》《全集：6》，1934: p. 94)

日本語から中国語への翻訳を見てみると，“有”＋‘過’”は「～がある」「～ことがある」「～ことがあった」などと対応することが多い。

- (83) 解決はついてあるのです。耶蘇や釈迦を始めいろいろの人が既に解決はつけてみます。しかし人々はまだその解決を実行する力はないのです。(武者小路実篤(1916: p. 295)<sup>60)</sup>
- 解決も有過的。耶蘇釈迦以来，許多人都下過解決。只是人們還沒有實行這解決的力量就是了。(〈一個青年的夢〉《訳文：1》，1922: p. 330)
- (84) ある年の春、この池がとくにきれいだったことがあります。(エロシエンコ(1959: p. 76)<sup>61)</sup>

<sup>60)</sup> 武者小路実篤(1916)「或る青年の夢」

<sup>61)</sup> エロシエンコ，ヴァスィリー，ヤコヴレヴィチ。(Василий Яковлевич Ерошенко)(1959)「春の夜の夢」

有一年的春天，這池塘曾經有過格外好看的事。（〈春夜の夢〉《愛羅先珂童話集》《訳文：1》，1922: p. 477）

(85) 「君は恋したことがある？」「恋したことはないけど、鯉をたべたことがあるよ。」  
（エロシエンコ（1959: p. 114）<sup>62)</sup>

“你有過戀愛麼？”“並沒有過戀愛，但曾經吃過鯉兒。”（〈小鷄的悲劇〉《愛羅先珂童話集》《訳文：1》，1931: p. 539）<sup>63)</sup>

(86) かういふ話がある。（鶴見祐輔（1924: p. 173）<sup>64)</sup>

曾經有過這樣的故事：（〈思想・山水・人物〉《訳文：3》，1928: p. 173）

しかし、単に、“有”だけで訳していることもある。

(87) かういふことがありましたつけ、（鶴見祐輔（1924: p. 287））

曾經有一件這樣的事——（〈思想・山水・人物〉《訳文：3》，p. 235）

(88) しかし自分でも満足する程、鼻が短く見えた事は、是までに唯の一度もない。（芥川龍之介（1916: p. 19）<sup>65)</sup>

但看見鼻子較短到自己滿意的程度的事，是從來沒有的。（〈鼻子〉《現代日本小説集》《訳文：2》，p. 84）

（以上下線部・太字筆者）

これらの例から見るに、佐和忠（2005b）など言われているように、“曾”と“過”の共起が「経験義を一層突出させる」という説明は、魯迅の“有”＋“過”の用法に関しては、それだけではなく、何か他の原因もあるように思われる。また、翻訳表現が全て原文の形と一致するわけではなく、さらに魯迅の著作と訳文における使用に意味上の差異も見られないため、魯迅の“有”＋“過”体が外国語の表現方法に影響されて現れたとは現在の段階では言えない。

また、“有”は“想”と共に、“過”と結びつく用例が清代にも見られることから、他の

<sup>62)</sup> エロシエンコ、ヴァスィリー、ヤコヴレヴィチ。（Василий Яковлевич Ерошенко）（1959）「ひよこの悲劇」

<sup>63)</sup> この例では「恋したことはない」が“沒有有過戀愛”と訳されており、“有”が「する」という動詞扱いされている。

<sup>64)</sup> 鶴見祐輔（1924）『思想・山水・人物』

<sup>65)</sup> 芥川龍之介（1916）「鼻」

状態性動詞とは異なる分類をした方がよいと考えられる。これらは方言の可能性に加え、孔令達（1985）のように動詞の「反復性」も用法の推移に関わる問題なのかもしれない。

## おわりに

本章では、状態性の動詞や形容詞を伴う“過2”の用例は20世紀以降多用されるようになったという仮説を立て、その用法変遷に外国語の影響があった可能性を探った。

結果、以下のことがわかった。まず、19世紀以前の用法について。

- 1) 19世紀以前には“有”“想”などに若干の使用が見られる以外、“状態性動詞＋‘過’”の例がほとんど見られない。また、“形容詞＋助詞‘過’”の例も見当たらない。
- 2) 19世紀以前、英語の現在完了形と中国語の“V. + ‘過’”は対応されることが多かったが、これら資料の中にもやはり状態性動詞と結びついた“V. + ‘過’”の例はほとんど無い。
- 3) 19世紀以前の資料において、英語の構造が中国語の“V. + ‘過’”の構造に何らかの影響を與えた痕跡は見ることができない。

次に、魯迅で用いられている助詞“過”の用法について。

- 1) 1917年以前には著作・訳文共に相当数の資料があるにも関わらず、“状態性動詞＋‘過’”の例が現れない。“状態性動詞＋‘過’”の例が見られるようになるのは、1918年以降のことである。
- 2) 著作、訳文共に使用頻度が高い動詞はほとんど同じである。
- 3) 動作性動詞ではない“有”や“想”が“過”を伴う例が著作、訳文共にかなり多い。
- 4) “状態性動詞＋‘過’”及び“形容詞＋‘過’”の用例数は著作、訳文を比べて大きな差異はないが、訳文では、1919年の段階で、“有”“想”以外の状態性動詞を伴う“過”の用例が現れ、その後も様々な状態性動詞と結びついて使われているのに比べ、著作で“有”“想”以外の動詞を伴う構造が現れるのは、1922年に“無聊過”の例が現れて以降である。さらにこの“無聊過”の例を除けば、1924年までの著作における“状態性動詞＋‘過’”の例は、すべて“有”“想”を用いた例である。“有”“想”以外の

“状態性動詞＋‘過’”構造が外来要因で生まれた可能性も考えられる。

5) 現在でも成立しにくい“認知動詞＋‘過’”“存在動詞＋‘過’”の例がいくらか見られる。

本研究にはさらにいくつかの問題ものこっている。まず、方言の問題である。3-1で近代以前の例として“想過”を用いた例を挙げたが、《九尾亀》は呉語の小説であり、《野叟曝言》の作者、夏敬渠は江蘇の人間とされている。《二十年目睹之怪現狀》についても、作者吳趸人は元々広東の人で、後に上海で活躍したとされる。これを見ると、当時このような“過”の用法は方言であった可能性も出てくる。《兒女英雄伝》のような他の地方の作者にも“想過”の用例は見られるが、方言が“過”の用法拡大に影響した可能性も考慮しなければならない。また、魯迅の用法の中に見られた“VO. 過”の用法については、本稿では除外して考えたが、これを“過”の変遷に大きな影響を与えたとする先行研究が近年盛んに行われている<sup>66)</sup>。今回は外来影響として外国語を念頭に用法を検討したが、“過”の変遷については、方言の影響も考慮する必要があるであろう。

今回状態性動詞として分類した“想”や“有”は、“過”と結びつく用例が清代以前にも見られ、さらに魯迅の翻訳作品と対照的に著作物には1925年まで“想”“有”以外の状態性動詞がほとんど現れないことから、今後研究を進める上では他の状態性動詞とは異なる分類をした方がよい。“過”のこのような用法が方言だとしても、他の状態性動詞や形容詞を伴った“過”はやはり姿が見られないからである。しかし、これは“想”や“有”が他の状態性動詞とは異なる性質を持っている、とするのが正しいのか、或いは「経験義」の定義の問題なのか、検討する余地があるであろう。例えば、“有過了”は“有了”とどう違うのかという点についてもきちんと定義しておく必要がある。

本研究の今後の可能性については次のことが考えられる。まず、魯迅個人の用法が近代とも現代とも異なるものであった可能性。この可能性にはもちろん彼自身の方言の影響も考えられるが、1910～1930年代当時、新たな中国語を創りだそうとした潮流の中にあつて、魯迅が翻訳の中に「新たな表現」を模索したことはよく知られている<sup>67)</sup>。さらに魯迅の翻

<sup>66)</sup> 楊永龍 (2001) 〈明代以前の“VO 過”例〉、崔山佳 (2001) 〈近代漢語中の“VO 過”、“V 得 O 過”和“V 得 O 着”〉、伍和忠 (2005b)、など

<sup>67)</sup> 魯迅 (1932: p. 250) 〈關於翻譯的通信〉に以下のような記述がある。

這樣的譯本，不但在輸入新的內容，也在輸入新的表現法。中国的文或話，法子實在太

訳作品のほとんどが日本語、或いは日本語経由であること（今回使用した翻訳作品全 251 作品中、日本語作品が 113、重訳底本を日本語とする作品が 71、重訳底本を日本語・ドイツ語とする作品が 2、重訳底本を日本語・ドイツ語・英語とする作品が 6、計 192 作品が日本語経由であった<sup>68)</sup>）を考慮すると、彼の“過”の使用法には方言の可能性だけでなく、外国語、特に日本語の影響があったと考える事は突飛なことでもないであろう。彼の 1917 年以前の文章に“状態性動詞＋‘過’”の用例がないことも考慮すべきである。1900～1920 年代の他の作家の文章も調査し、この現象が魯迅のものなのか、当時の中国語全体のものなのか分析する余地があるだろう。また、日本語という観点から見れば、近代日本の過去標示「タ」が翻訳の影響とする先行研究があるが<sup>69)</sup>、もし日本語の「～タコトガアル」形も翻訳の影響で明治時代以降に広く使用されるようになったのだとすると、この変遷を辿ることも中国語の“過 2”について研究する上で重要な要素となる可能性はある。

---

不精密了，作文的秘訣，是在避去熟字，刪掉虛字，就是好文章（中略），這語法的不精密，就在證明思路的不精密，換一句話，就是腦筋有些胡塗（中略）。要醫這病，我以為只好陸續喫一點苦，裝進異樣的句法去，古的，外省府的，外國的，後來便可以拋為己有。這並不是空想的事情。遠的例子，如日本，他們的文章裏，歐化的語法是極平常了，（以下略）魯迅 一九三一，十二，二八。

そうした翻訳書は、新しい内容を輸入するにとどまらず、新しい表現法をも輸入しているのです。中国の文章や言葉は、じっさい規則があまりにも粗雑すぎます。作文の秘訣は、よく使われる文字は避け、虚字は削ることで、そうすればよい文章だというわけです（中略）。こうした語法の粗雑さは思考の粗雑さを示すもので、換言すれば、頭腦がいささかぼけているのです。この病いを治すには、しばらく苦勞をつづけて、古いもの、よその土地のもの、外国のものなど、違った句法をつめこむしかなく、やがてそれを自分のものにすればよい、とわたしは思います。これは決して空想ではありません。遠い例では、たとえば日本ですが、彼らの文章のなかでは欧化された語法はあたりまえのことで、（以下略）魯迅 一九三一，十二，二八

（以上日本語訳は魯迅著・吉田富夫訳（1985「通訳にかんする通信」『魯迅全集』6、学習研究社、pp. 213-214（原著初出 1932））によるもの）

<sup>68)</sup> 重訳底本不明なものも多く、魯迅がこれらの他に重訳底本を明らかにしているのはドイツ語からの重訳が 19 作品あるのみであることを考えると、魯迅の翻訳はほとんどが日本語からのものであると考えてよいだろう。

<sup>69)</sup> 柳父 (2004) ほか



### 第3章：修飾構造について——“定語＋人称代詞”構造——

#### はじめに

中国語では、一般に“我”“你”“他”などの人称代詞は、定語の修飾を受けないとされてきたが、実際に、現代中国語において“定語＋人称代詞”構造は多く見られるようになってきている<sup>54)</sup>。本構造については、以前からこれを外国語、特に日本語からの影響をうけた「新興語法」であるとする意見があった。しかしながら、外国語の影響に関する具体的な研究は少ない。また、これとは反対に、近代以前にも定語が人称代詞を修飾する構造は普遍的に見られ、文法化していたとする意見も近年見られる。

本章では先行研究で述べられている近代以前の当該構造を再検討した上で、20世紀初頭の、英語を主とする西洋言語からの翻訳中国語文献、日本語からの翻訳文献、中国語を調査し、“定語＋人称代詞”の変遷、日本語を始めとする外国語との影響について研究を行う。

#### 1. 先行研究

##### 1-1. “定語＋人称代詞”構造に対する認識

長く、中国語では一般に人称代詞は定語の修飾を受けないとされてきた。1922年の陳承沢《国文法草創》、1982年の朱徳熙《語法講義》<sup>55)</sup>では人称代詞が名詞と異なる点について、定語の修飾を受けないこととしている。

代名字之用法與名字大略相同、可沿用名字之說明。其與名字異者、即不為被領語、及罕受象字之修飾或限制耳。如「神我」「形我」「小我」「大我」「今吾」「故吾」等例、其我字皆已變為名字、不能仍認為代名字。

(代詞(代名詞)の用法と名詞は大体同じであり、名詞の説明を用いて説明できる。代詞と名詞が異なるのは、被修飾語になれず、滅多に形容詞の修飾、或いは限定を受けないということだけである。例えば、「神我」「形我」「小我」「大我」「今吾」「故吾」等の例は、その「我」「吾」という字はすでに名詞化しており、これを代詞と見做す

<sup>54)</sup> 《北京大学漢語語言學研究中心語料庫》北京大学漢語語言學研究中心

<sup>55)</sup> 朱徳熙は「自己」なども人称代詞としてとっている。

ことはできない。)。

(陳承沢 (1922: p. 40) (日本語訳, 下線部筆者)

人称代詞は体詞性代詞で、主語、目的語、連体修飾語になるが、述語や連述修飾語にはなれず、副詞の修飾を受けないなど、その文法機能は名詞に似ている。人称代詞と名詞の違いは、名詞は前に修飾語をもつことが可能だが、人称代詞は一般には修飾語をもたないということである。

(朱徳熙 (1995: p. 102)

しかしながら実際には、“1995年、32歳の他应邀作為翻譯參加一個貿易代表團到美国。”<sup>56)</sup> “對於誰識 ABC，却不能直接欣賞原文的我，外文圖書就只能說讀本。”<sup>57)</sup> “請善良的人們記住，我們熱愛生命、祖國和親愛的你們。”<sup>58)</sup>などのように、名詞性・動詞性・形容詞性、或いは単語・フレーズを問わず、定語が“我”“你”“他”などの人称代詞を修飾する例は現代中国語に多く見ることが出来る。

この“定語＋人称代詞”構造については、1940～1950年代に王力、呂叔湘らがすでに言及している。

王力 (1944 (下) : p. 327)<sup>59)</sup>:

中国的代詞，除了「者」字之外，前面都不能有修飾品。「故吾」「故我」之類是僅有的例外，而且這種「吾」「我」也近似名詞。至于像魯迅狂人日記裏說的：「有了四千年喫人履歷的我」乃是中國原來語法所沒有的。這種新語法恐怕只是日化，不是歐化。但若說是歐化，也可以說得通。法語裏“moi qui……,” “toi qui……,” 之類也是常說的。英法等語裏，繫詞用於同位時，訳成中文也可以使代詞受修飾。例如“*I thought you would know, being a friend of the family.*”可訳為「當時我以為和那家有交情的你，一定會知道這事的」。又如：“*Having been sick so much, I have learned to take good care of my health*”可訳為：「這樣常常害病的我，已經學會了好好地當心我的健康了」這樣翻譯，

<sup>56)</sup> 徐揚く「小蝦米」的 B2B 馬云企盼阿里巴巴會讓他挖到金子》《人民日報》，2000年7月30日

<sup>57)</sup> 郭強清《莎士比亞的魅力》《人民日報》，2000年1月22日

<sup>58)</sup> 張鈺鋼・張靜寧《為了永不忘記的記憶》《人民日報》，2000年7月28日  
以上注釈 3-5 は『関西大学現代中国語コーパス』(<http://china.fl.kansai-u.ac.jp/>) による。

<sup>59)</sup> 王力 (1944)《中国語法理論 (上下冊)》

可以和原文的結構更相似些，本身的結構也緊湊些。

（中国の代詞は、「者」という字以外、前に修飾語を置くことができない。「故我」「故我」の類は限られた例外であり、しかもこの「吾」「我」も名詞に近い。魯迅の『狂人日記』に見られる「有了四千年喫人履歴的我」のような例は、中国語本来の文法にはなかったものである。これらの新しい文法は恐らく日本語化であり、欧化ではないだろう。しかし欧化といっても通る。……）

（拙訳，下線部筆者）

呂叔湘（1955: pp. 184-185）<sup>60）</sup>：

近人的文章裏頭有在三身代詞前頭上加語的，如：

落在這樣生疏的甚至還有些敵意的環境中的他們倆。（茅盾，大沢郷）

但是囊中很羞涩的我，也不能上什麼地方去旅行一次。（郁達夫，春風沈醉的晚上）

樂園的門關了，將可憐的他開在門外。（冰心，集 233）

這幾位作家也許有意無意的在玩点兒“欧化”。實際上旧時詞曲裏倒也有這樣的例子，（中略）只是散文裏少見。（中略）大約這種語法在口語裏並沒有怎麼通行過。

加語有限制性和修飾性之分，三身代詞本身已經極其確定，無所用其限制，上面這些例句裏的加語都是修飾性的。只有莊子，山子方裏的“忘乎故我”和梁啓超清代學術概論裏的“不惜以今日之我與昨日之我宣戰”，那倒是限制性的例子。

（最近の人の文章中には人称代詞のまえに修飾語を置くことがある。例えば、茅盾、郁達夫、冰心の文章にこのような例が見られる。これらの作家は恐らくなんとなく「欧化」をしてみたのだろう。実は、昔の詞曲にもこのような例は見られる。だが、通常の文章にはめったに現れない。また、このような語法は口語ではそれほど通用したわけではないようだ。修飾語には限定性なものと修飾性のものがあるが、人称代詞自体が極めて確定的なものであるため、限定される必要がない。ここで挙げた例の修飾語はほとんど修飾性のものであり、限定性のは荘子の“忘乎故我”，梁啓超の『清代學術概論』中に見られる“不惜以今日之我與昨日之我宣戰”くらいである。（要約）

（拙訳，下線部筆者）

太田辰夫（1957: p. 96）：

また尺牘などのきまり文句にも《依然故我》（旧態依然たる我）などともいう。しかし以上のような例は例外的なものと認むべきで、一般的には、代名詞は修飾されることがないのがたてまえである。代名詞に修飾語のついたものを欧化語法とする人もあるがそのような表現が古く無かったわけではない。

A. A. ドラグノフ（1958: p. 198）<sup>61）</sup>：

漢語代体詞在句法上的基本特徵跟俄語相同，既不能帶有名詞（或關係形容詞）、數詞或形狀形容詞（指單音節而言）構成的加語。（中略）但是現在現代白話裏（不是在方言裏），人稱代詞完全可以跟由謂詞構成的加語連用，並且是它的重要特徵之一。

例如：

素來不大喝酒的他，（茅盾：子夜）

她是當到交易所的她，（同上）

（中国語の代体詞の文法的特徴は基本的にロシア語と同じで、名詞（或いは關係形容詞）、數詞や形狀形容詞（單音節を指す）で構成された修飾語を持つことができない。しかし、現代中国語では、人稱代詞は完全に、述語によって構成された修飾語と続けて用いることができる。（要約）

（拙訳，下線部筆者）

また、北京師範學院中文系漢語教研組編著（1959: pp. 146-147）では、“定語＋人称代詞”構造について、当初は「欧化」だとして反対にあったが、中国語の表現を豊かにさせるとして、通用するようになったとしている。これらの記述から、“定語＋人称代詞”構造は、知識人がこれに着目した当初より「欧化」或いは「日本語化」だと指摘され、賛否両論あったことが伺える。

本構造の来歴に関しては現在でも盛んに研究が行われており、学界の見解は大きく分けて以下の3通りある。

1) 「欧化」とだけ述べているもの<sup>62）</sup>：

<sup>61）</sup> 龍果夫，A. A. （A. A. Dragunov）著・鄭祖慶訳（1958）《現代漢語語法研究》，第1卷

<sup>62）</sup> 先行研究に言う「欧化」には、広く「外国語の影響を受けたもの」としたものもあるが、これに日本語が含まれているかどうかは定かではない。

<sup>60）</sup> 呂叔湘（1955）《語法札記：五 三身代詞前有加語》《漢語語法論文集》，科學出版社。（原著初出 1944-47）

- ・ 倪宝元《大学修辞》(1994: p. 143)
- ・ 呂叔湘《語法札記》(1944-47)

## 2) 日本語の影響の可能性に触れたもの:

- ・ 王力《中国語法理論》(1944)<sup>63)</sup>
  - ・ 魏志成《論“定語+人称代詞”結構来源》(2007)
  - ・ 刁晏斌《初期現代漢語語法研究》(1998: pp. 61-66)
  - ・ 賀陽《現代漢語歐化語法現象研究》(2008: p. 84-89)
- 3) 中国語が本来持っているもので、外国語の影響ではないとするもの
- ・ 王東明《人称代詞受別類詞修飾古已有之》(2000)
  - ・ 黒維強・王作棟《宋代已見“定語+的+人称代詞”用例》(2008)
  - ・ 崔山佳《近代漢語語法歷史考察》(2004), 《也談“定語+人称代詞”結構的来源》(2008), 《關於“定語+人称代詞”》(2009)

また、洪林(2002)では海外華人作家の本構造使用率が大陸の作家より多い事を理由に、本構造が海外の中国語の影響を受けたのではないかとすることも示唆している。

全体的には、“定語+人称代詞”は外国語の影響を受けた「新興語法」とする意見が多いが、これらの説を取る先行研究も本構造が完全に外來影響と述べたものは少なく、“故我(元のままの自分)”“小我(個人、自己)”などのように、中国語に本来受け入れる素地があり、外來語の影響で盛んに用いられるようになったとするものがほとんどである。崔山佳(2004)(2008)(2009)では3)の意見を強く主張し、“定語+人称代詞”の構造は近代以前にすでに五四以降と変わらない用法で安定して文法化されており、完全に中国固有のものである、としており、多くの例を上げているが、全体的には、“定語+人称代詞”は外国語の影響を受けたとする説が多い。

### 1-2. 先行研究の問題点

以上のように“定語+人称代詞”の構造については多くの先行研究があるが、これら研究には以下の問題点がある。

- 1) まず、これが欧化である、日本語化である、などの意見はあるが、実際具体的に比較した研究は少なく、外国語のどの構造が影響したかなどという文法成分の比較についてもほとんど研究を行っていないこと。近年になって、孫維才(1990)、陳風(2009)、馬燕菁(2010)、楊凱榮(2011)、吳妍(2011)など、日中の本構造を比較した研究は増え始めたが、しかし影響関係に関してはあまり述べられていないのが現状である。賀陽(2008)ではどの言語の影響を受けて発展したかに関して、定論はまだ無いとしている。
- 2) さらに、この構造は外国語の影響を受けていないとする意見に関しても、その根拠として挙げる例に清末、1900年代の例を含むなど、「外国語の影響を受けていない」とする定義が曖昧であること。
- 3) そして、“定語+人称代詞”の構造についても、“定語+‘的(底、之)’+人称代詞”のような“定語+構造助詞+人称代詞”の他に、助詞を挟まない“定語+人称代詞”や、“定語+‘個’+人称代詞”を例として取る研究があること。

いくらかの研究でも指摘されている通り、助詞を挟まない“定語+人称代詞”構造として挙げられる例は修飾成分が1字である場合が多く、これらは“故我”“小我”などのようにむしろひとつの単語として取り扱うべきものである。また、“你是已死我，我是未死你”などのような修飾成分が2字以上のものも若干例に挙げられているが、これらも臨時的な運用であると考えられる。また“現在我”“蕭然我”などのような例に至っては、人称代詞の前置成分が人称代詞を修飾する関係にあるのか曖昧である。どちらにしても、このような例において人称代詞に前置される語句は1字、或いは1語といった短いものであり、特に20世紀以降問題になっている長い定語で人称代詞を修飾する構造とは別物として取り扱うべきである。

さらに、“定語+人称代詞”構造は19世紀以前から存在した」とする根拠として挙げられる例の多くに“況我心里有一个他，他心里有一个我”“泥人兒，好一似咱兩個，捻一個我，塑一個我，看兩下里如何？”<sup>64)</sup>のような“定語+‘個’+人称代詞”構造が挙げられているが、これは必ず数量・動量と関係した構造であるため、「新興語法」として問題になっている“有了四千年喫人履歷的我”のように構造助詞“的”(之)を挟む構造よりも、用途が狭く、また、描写能力に乏しい。汪化雲(1984)では、「こ

<sup>63)</sup> 上述の通り、王力(1944)は英語やフランス語の影響も示唆している。

<sup>64)</sup> 崔山佳(2004: pp. 252-253)

のような“個”は所謂不定冠詞に近いもので、中国語において不定冠詞はなければならぬものではないため、こういった用例の“個”を取り払ってしまっても基本的な意味は変わらない。“個”が不定冠詞に近いということは、“個我”などの例は本当の『人称代詞が修飾を受ける』構造ではない」としている。数量詞を用いる“定語＋人称代詞”と構造助詞を用いる“定語＋人称代詞”は分けて考える必要がある。今回は構造助詞を用いた“定語＋人称代詞”について主に調査する。

- 4) 最初に、先行研究ではほとんどが「人称代詞」や、その前置される定語の性質について、分類はしているものの、詳しく定義していない。例えば呂叔湘(1955)が述べている「修飾語には限定性なものや修飾性のものがあるが、人称代詞自体が極めて確定的なものであるため、限定される必要がない。」という箇所である。氏は本構造には限定性の修飾語は現れにくいとしており、その僅かな限定性修飾の例として“忘乎故我”“不惜以今日之我與昨日之我宣戰”を挙げている。しかし、限定性の修飾語とはなにか。そして、「確定的」で「限定される必要がない」人称代詞がなぜこの例では限定されてしまっているのか。これに対する説明がなされていない。呂叔湘が用いている“忘乎故我”“不惜以今日之我與昨日之我宣戰”のような例における“我”は果たして、“但是藝中很羞澀的我，也不能上什麼地方去旅行一次。”のような例における“我”と同じ性質のものなのだろうか。どちらも「人称代詞」なのであろうか。そもそも何を以て「人称代詞」としているのだろうか。また「中国固有の例」だとして主張される“定語＋人称代詞”構造の性質は、新興語法として問題になった“定語＋人称代詞”構造と全く同じものなのであろうか。これらの点について述べた研究は管見の限りほとんど見当たらない。

本章では、以上の問題点を踏まえ、以下の通り研究を進めたい。まず、ここで扱う“定語＋人称代詞”構造については次のように定義づける。

- ・ 助詞を挟まない“定語＋人称代詞”構造や、“定語＋‘個’＋人称代詞”構造は、“定語＋構造助詞＋人称代詞”構造とは分けて考え、今回は“定語＋構造助詞＋人称代詞”構造のみを調査対象とする。
- ・ 本稿で用いる人称代詞の定義は、「話者との関係を位置づける名詞」であり、「特定」のものであることとする。

時枝誠記(1950: pp. 72-88)<sup>65)</sup>では、代名詞を「話者を基準にした関係概念であることに於いて、他の詞と根本的に相違するものである。」とし、宮下眞二(1985: pp. 69-81)<sup>66)</sup>は「名詞は実体を或る側面で捉えて表現するが、代名詞は実体をその側面ではなくて話者との関係において捉えて表現する。代名詞の語彙は対象と話者との関係しか規定していない。名詞と代名詞を比べると、同じ語彙に媒介される名詞の対象たる実体のあり方は共通であるのに対して、同じ語彙に媒介される代名詞の対象たる実体のあり方は共通ではない(要約)」としている。

では「特定」とはなにか。例えば、“我忘了写日記(私は日記を書くのを忘れた)”の“我”と、“忘我地工作(我を忘れて働く)”の“我”は全く同じ性質のものだろうか。筆者は違う性質を持っていると考える。前者の“我”は「特定」の“我”であり、後者の“我”は「不定」の“我”である。“我忘了写日記”の場合、これを発話したのがA氏だとすれば、“我”=A氏である。しかし、“忘我地工作”といった場合、“我”は「自身」を意味しているが、それは特定の一人を指しているわけではない。自我、自己(ego)を指している。つまりA氏もB氏も人間全てを含む実体の「自己」なのである。これは特定ではなく「不定」であると捉え、名詞的性質が強いとして扱い、本稿では人称代詞として扱わない<sup>67)</sup>。先行研究に言われる“大我”“小我”などの“我”が名詞的であるというのは、これらが「個別」の誰かを指すのではなく、「自己」という普遍的なものを指しているからである。

本稿では、以上に定義した「人称代詞」の“我”“你”“他/她/伊”“咱”に加え、“我們”などこれらの複数形を取る。“人家”“自己”なども個別の人間を指す場合は人称代詞として取るが、例えば「人の家」「本人」などの意味で用いられる場合は名詞と考え、人称代詞としてとらない。

・ 定語(修飾語)の性質分類は劉月華(2001)や陳風(2009)<sup>68)</sup>など諸説あるが、本

<sup>65)</sup> 時枝誠記(1950)『日本文法：口語篇』、岩波書店

<sup>66)</sup> 宮下眞二(1985)『英語はどういう言語か』、季節社

<sup>67)</sup> 《現代漢語大辞典：第5版》(2005年、商務印書館)では、“我”を人称代詞として、その下位分類に特定の“我”(称自己)と不定の“我”(自己)を置いているが(“你”に関しても同じ)。“他”は、下位分類なしに“在性別不明或没有区别的必要时”、“他”只是泛指”と注記)、『中国語辞典』(白水社、2002年)や、『中日辞典』((2002)講談社)などでは人称代詞の“我”とegoを意味する“我”を分けている。これら分類は辞書によって異なる。日本語の「我」、英語の“I”にもこれらの用法はあり、英語では特定ではない名詞的用法の場合“The I”などと言うことが出来る。

<sup>68)</sup> 陳風(2009)『連体修飾の日中対照研究——限定的修飾を中心に』、牧歌舎

稿では主に陳風（2009）の分類により、修飾語の性質を限定的修飾と非限定的修飾に分ける。

陳風（2009）

➤ 限定的修飾：

- ・ 「具体的属性規定の限定修飾」（主名詞が具体的指示対象を持ち、修飾部がその指示対象の属性などを表す。中国語では、その属性などを表す修飾語の前に数量表現を置く。数量表現を使うときは主名詞の属性などに対して選択指示を行わず、数量詞を置かない場合は、選択指示を行う場合がある。）<sup>69)</sup>例：“我昨天買了一台日本進口的最新電腦。”“有一台日本進口的最新電腦和一台美國進口的最新電腦，我買的是日本進口的最新電腦。”
- ・ 「分類・排他的限定修飾」（主名詞は具体的な指示対象を持たず、対応する主題文も考えにくい。中国語ではこの種の限定的修飾に数量表現を使用しない。）例：“同情他們的人能隨便抓一把，可惜，我沒張工的本事。”“即使這樣，她也不做讓兄弟們擔心的事。”<sup>70)</sup>

➤ 非限定的修飾：

- ・ 「一時描写的非限定修飾例」例：“這時又來了幾個穿得花花綠綠的女社員，坐在對面的一條渠埂上。”“他呆立着，張着失神的眼睛，不知下面該做什麼。”
- ・ 「情報付加的非限定修飾」例：“弟弟理解她，到三十八歲才從這里嫁出去的妹妹理解她，都有這個楊佩玉，了解她的經歷却永遠無法給她理解！”“中國女籃在決賽中的對手將是曾經戰勝過自己的美國隊。”

◆ 主名詞：限定的修飾の場合、不特定であることが多いが、非限定的修飾の場合、特定されている。

◆ 修飾部：限定的修飾の場合、主名詞の属性や特徴を表し、非限定的修飾の場合、その時の様子や状況など、いわば「一時的事態」を描写することが多い。

<sup>69)</sup> 陳風は、日本語の「具体的属性規定の限定修飾」ではこうした統語手段は用いられないとする。

<sup>70)</sup> 陳風によれば、この分類は従来「描写的連体修飾（定語）」とされていたものである。

<sup>71)</sup> また、この種の限定修飾は、主名詞が具体的指示対象を持たないためか、数量詞を使用しない場合、非限定的修飾の解釈も可能となる。日本語の場合は、こうした統語手段がないため、限定的修飾が非限定的修飾かが曖昧になる場合が多いという。

◆ 情報焦点：限定的修飾の場合、修飾部を除くと文の基本的な意味が変わり、情報の焦点が不明確になるが、非限定的修飾の場合、修飾部を除いても、情報量は減るが文の基本的意味や情報の焦点は変わらない。

今回は、前提条件として、陳風（2009）のいうところの主名詞が「特定」であるため、必然的に“定語＋人称代詞”構造の定語の性質は非限定的修飾が多くなることが予想される。

また、これに加えて補助的に、修飾部の性質を名詞性・動詞性・形容詞性に分ける。（例：“三年前的他（名詞性）”“三年前在中國住過的他（動詞性）”“三年前很年輕的他（形容詞性）”）構造助詞の種類に関しては、主に劉月華（2001）を基準とするが、“底”“之”も含むなど、適宜対応する。

以上の定義を用い、中国語における“定語＋人称代詞”について、先行研究で述べられている近代以前の当該構造を再検討した上で、20世紀初頭の英語を主とする西洋言語からの翻訳文献、日本語からの翻訳文献、中国語を調査し、“定語＋人称代詞”の変遷、及び外国語、特に日本語との影響について具体的な研究を行う。

また、“定語＋人称代詞”の構造の目的は、第1に一文における情報量の増加にあると考えられる。第2に、言葉のリズムを取るためといった音韻的效果を狙ったものや、対句、倒置的技法のように修辭的目的が考えられる。そのため本構造の多くは小説・戯曲・詩歌に用いられる構造であると推測できる。また、修辭効果を考えることなく発せられるような日常的口語の中では使用されにくい（賀陽（2008: p.88））。そこで、本研究では小説・劇本を主な資料に用いることとする。

なお、本稿では便宜上、人称代詞は一律「人称代詞」として、中国語の術語に統一する。

## 2. 19世紀以前の用例

“定語＋人称代詞”構造を外国語の影響を受けた「新興語法」として扱うことを否定する意見では、本構造が19世紀以前も現在と変わらない川法で用いられていたとして例を挙げている。19世紀末では、全く外国語の影響を受けていないとは言いがたいが、それでも、「欧化」「日本語化」など新興語法が盛んに行われるようになったのが20世紀以降、特

に1910～1920年代であることを考慮すると、19世紀以前の用例は、中国固有のものである可能性が高いであろう。

本節では、19世紀以前の“定語＋人称代詞”構造について調査すると共に、先行研究で挙げられている用例も含めて再検討を行う。

“定語＋人称代詞”に用いられる助詞は、大きく分けて2通りある。“的（底）”を用いる例と、“之”を用いる例である。単純には言い切れないが、前者は白話資料、後者は文語資料に用いられるものと考えられる。

## 2-1. “定語＋‘之’＋人称代詞”構造について

結論から言っても、管見の限り、19世紀以前の“定語＋人称代詞”に用いられる構造助詞は、“的”系は相当数見られるが、“之”を用いて“定語＋‘之’＋人称代詞”構造を取る例は限られている。

- (1) 兩峰居士，為我画像，兩峰以為是我也，兩爭不決。子才子笑曰：『聖人有二我：「母固母我」之我，一我也；「我則異于是」之我，一我也。我亦有二我：家人目中之我，一我也；兩峰画中之我，一我也。人苦不自知，我之不能自知其貌，有兩峰之不能自知其画也。畢竟視者誤耶？或我貌本觉如是，而當時天生之者之誤耶？又或者今生之我，雖不如是；而前世之我，後世之我，焉知其不如是？故兩峰且舍近圖遠，合先後天而画之耶？然則是我非我，俱可存而不論也。雖然家之人既以為非我矣，若藏于家，勢必誤認為竈下執炊之叟，門前壳漿之翁，日拉維摧燒之矣。兩峰居士，既以為似我矣，若藏之兩峰處，勢必推愛友之心，自愛其画，將與《鬼趣圖》，冬心、龍泓兩先生像，共薰奉珍護于無窮，是又二我中一我之幸也。故於其成也，不敢自存，轉托兩峰代存。使海內之識我者，識兩峰者，共諦視之。』(袁枚[清]《戲題小像寄羅兩峰》《小倉山房尺牘》，卷五，p.104<sup>72)</sup>)
- (2) 子弟隨侍父兄宦，不患人事不熟，議論不高，見聞不廣，其如居移氣、養移体何。一但從仕，要當痛斲虛驕之氣。昔之照壁後訾和人物、指摘儀度，見其或被上官詆訶，進退失措者，莫不羣笑，聲聞于外；及今越趨客次，庭揖而陞，回視照壁後竊窺者，

<sup>72)</sup> 袁枚[清]《小倉山房尺牘》，卷5(王英中校点・王英志主編(1993)《袁枚全集》，5，江蘇古籍出版社)(版本は、嘉慶隨園藏版本を底本にしている。主に光緒18(1892)勤餘堂排印本，光緒18位年上海外書集成印書局排印本，宣統2年(1910)上海鴻文書局石印本を参考。また，《小倉山房尺牘》は湖南文藝出版社1987年版の8巻校注本を参考にした。)

即前日之我也。(周輝[宋]《隨侍子弟》《清波雜誌》，卷第5，p.209)

- (3) 熟讀鹿門之文 及鹿門與人論文之書門庭路徑與鄙意殊有契合 雖中間小小異同異日 當白融積不得喋喋也 至如鹿門所疑于我本足欲工文字之人 而不語人以求工文字者 此則有說鹿門所見於吾者 殆故吾也 而未嘗見夫稿形灰心之吾乎 吾豈歎鹿門者哉 其不語人以求工文字者非謂一切抹撥以文字絕不足為也(唐順之[明]《答茅鹿門知縣書》)

これらの例は崔山佳(2009)、張鳳琴・馮鳴(2004)<sup>73)</sup>などの先行研究でも挙げられている。しかし、ほとんど限定性の修飾語をもった構造か、或いは対句的表現をとっており、人称代詞は特定のもではなく、名詞的に用いられている。

(1)にある7例の“定語＋人称代詞”に見える構造中の定語は限定性的のものであり、これら7例の人称代詞“我”は全て「私」という唯一無二の個別の人間を指すのではなく、「自分自身」という広い一般性を持つ意味で用いられている。それは“聖人有二我”“我亦有二我”のように、「～には二つの“我”がある」と述べている表現をみても分かる。また、全てが対句的表現をとっている。

また、(2)の例も、人称代詞を修飾しているのは“前日”を除くと、意図している内容が変化してしまう。具体的な属性を規定する、限定的な定語である。

(3)の例はどうであろうか。“夫稿形灰心之吾”の直前に“故吾”とあることから、これは両者を対比させたものであり、対句的表現であると考えられる。

“定語＋人称代詞”の修飾語が限定性的のものである時や、対句的表現を作る時、本来特定に近い存在であるはずの人称代詞が指す主体が幾つも存在するニュアンスを漂わせる。「全体の中の或る一部」という対比、区別の意味が現れるのである。このような場合、人称代詞はたとえ一人の個人を指していても、その個人を分割的に処理していると考えられる。つまり“我”の下位分類として“前日之我”や“今日之我”が存在すると考えるのである。ここで“我”は幾つもの下位分類“我”(“前日之我”“明日之我”“昨日之我”“今日之我”……)が集まった総称であり、一般名詞的に捉えられる。そのため、比較的容易に定語の修飾を受けることができたのではないか。だが、20世紀初頭のまでのこのような用法はほとんどが特定の“我”を指さず、「自己」などを意味する名詞的に用いられている。どちらにしても、これらの用法は数としても決して多くなく、やはり特殊な用法と取るの

<sup>73)</sup> 張鳳琴・馮鳴(2004)《關於“定語＋人称代詞”》

が普通であろう。

## 2-2. “定語＋‘的’＋人称代詞”構造について

19世紀以前の“定語＋‘的’＋人称代詞”構造も、基本的特徴は“定語＋‘之’＋人称代詞”構造と同じである。つまり、以下の4点の傾向を強く持っている。

- 1) 対句的表現に用いられることが多い
- 2) 限定的修飾語を持つことが多い
- 3) 動詞性の修飾語はほとんど持たない
- 4) 定語は一語からなるような短いものであることが多い

これに加え、19世紀以前の“定語＋‘的’＋人称代詞”構造は、呂叔湘（1955）にも触れられているように、詞曲や詩の中に相当数現れるという特徴を持っている。まず、呂叔湘（1955）で挙げられている“定語＋‘的’＋人称代詞”の例を見てみよう。

呂叔湘（1955: pp. 184-185）

- (4) 有何不可，依旧一枚閒底我。（樵侗，下3）
- (5) 無那，無那，好箇凄惶底我。（向滄，全宋詞 97.6）
- (6) 破寂寞，掩空齋，好一箇無聊底我。（放翁詞 6）
- (7) 我已多情，更撞着多情底你。（金谷遺音 14）

だが、呂叔湘（1955）はこれらの“定語＋人称代詞”構造は特殊なものとする立場をとっており、このような構造は、“只是散文裏少見”（押韻しない普通の文章の中には滅多に見られず），“大約這種語法在口語裏並沒有怎麼通行過”（このような語法は口語ではそれほど通用したわけではないようだ）としている。現に、上述の例は全て詞曲からである。さらに、以下のような例を挙げ、

- (8) 寂寂無依時如何？——寂寂底你。（灯録 24.1）
- (9) 這麼大遠的個道兒，再帶上這麼個我，越發叫他受了累了。（兒 40.23）

(8) は禪家の機鋒で、(9) は「普通の形容詞ではない」として、このような例は新興語法の“定語＋人称代詞”とは別に扱うべきという立場をとっている。

筆者もこの考えに同意する。先行研究で挙げられている例は、ほとんどが前項で述べたような特徴を持っている。以下、先行研究において19世紀以前の“定語＋‘的’＋人称代詞”構造とされている構造を見てみよう。

王東明（2000）

- (10) 然觀世人，窮約的他也混過一生，富貴的他白道受用一生。（高攀龍 [明]《講義：不仁者不可以久処約章》）

張崇（1991）<sup>74)</sup>

- (11) 玳安兒討了符來，貼在房中，晚間李瓶兒還害怕，對西門慶道：“死了的他，剛才和兩個人來拿我，見你進來，躲出去了。”（笑笑生 [明]《金瓶梅》，62回）<sup>75)</sup>
- (12) 孫蘭姬把他看了一眼，過去了。相干庭到了後邊，說：“剛才過去的不是那噴你溺尿的他麼？”（西周生 [明]《醒世姻緣傳》，38回）

張鳳琴・馮鳴（2004）

- (13) 我還是常時的我，他還是常時的他哩麼？（西周生 [清]《醒世姻緣傳》，2回）
- (14) 但是你雖則苦了前身，還虧了這個五兒，才有了今日的你。（逍遙子 [清]《後紅樓夢》<sup>76)</sup>）
- (15) 我只當情人，不由的口兒裡低低低聲地罵，細看他，卻原來不是標標致致的他。（王廷紹 [清]《雜曲》《霓裳統譜》）

崔山佳（2004）（2008）

- (16) 帖）春歸何處歸，春睡何曾睡？氣絲兒怎度的長天日？把心兒捧湊眉，病西施。小姐，夢去知他實實誰？病來只送的個虛虛的你。……〔宋〕《牡丹亭》，第18回）
- (17) 〔上小樓〕壓著衾兒卧，夢里人兩個。猶記的他門兒抵扣，話兒調弄，意見輕摸。醒來時還兀自成拋擲，依旧凄惶的我。（〔明〕《桃花人面》，第2出）

<sup>74)</sup> 張崇（1991）〈人称代詞前加定語的兩條近古用例〉。

<sup>75)</sup> 香港明克書局廣益堂本，p. 490

<sup>76)</sup> 1985年 春風文芸出版社，p. 213

- (18) [羅江怨] ……灯兒和咱麼，影兒和咱麼？好一個淒惶的我！（[明]《紫釵記》，第38出）
- (19) [外、淨] 既說拌他打他的不是，如今只認著我罷。[生笑介] 誰是你的我？（[明]《北邙說法》見《盛明雜劇》）
- (20) 吹打畢，三個小廝連師範，在筵前銀箏象板，三弦琵琶，唱了一套《正官·端正好》……[倘秀才]我只見鉄桶般重門閉上，我將這銅獸面双環扣響。敲門的我是萬歲山前趙大郎。堂中無客伴，灯下看文章，特來聽講。……（笑笑生[明]《金瓶梅詞話》，71回）
- (21) 蔣玉函聽了，只得拿了個手帕，先走了個身式，向宝玉飛了個眼兒，唱道：“……驀地歸來，臊壞了我們的那個他。……”（[清]《紅樓夢》，第24卷）
- (22) 強壯人能使你莫得氣力，肥胖人能使你莫得膚肌；聰明人能使你糊塗到底，勤快人能使你懶得稀奇；有錢的他要你売田当地，淡泊的他要你子散妻離；讀書的他要你金榜落地，富貴的他要你玉樓削簷；婦人家有了他百事不理，姑娘家有了它難夫婿。（劉省[清]《躋春台》，卷三，利集，“申煙槍”）<sup>77)</sup>
- (23) 叫情人：莫嫌醜來可莫嫌大，对人前千萬別說送鞋的話，你可緊緊的收藏，瞞著你家的他。（[清]《紅繡鞋兒三寸大》《霓裳統譜》）
- (24) 傷心煞了我，淚如麻，不知道孩子的“大大”，奴家的他，將來是誰家，落在那一家？（[清]《二月春光實可虧》《霓裳統譜》）
- (25) 恨那月下的嫦娥，天殺的他就把我忘，到多咎才勾了這條子相思帳？（[清]《孤灯閃閃》《霓裳統譜》）
- (26) 細看他，却原不是標，標標致致的他。（[清]《細細的雨兒蒙蒙鬆鬆的下》《霓裳統譜》）
- (27) 外邊叫門，原是俺家的他，是個老亡八。（[清]《偷情》其二《白雪遺音》）
- (28) 細聽他的聲音，不是我那標標致致的他，嚇的奴，不由的心中慌慌張張的怕，嚇的奴，不由的心中慌慌張張的怕。（[清]《細細雨兒》《白雪遺音》）
- (29) 紅繡鞋兒三寸大，天大的人情，送與冤家：“送與你，莫嫌醜來休嫌大，在人前，千萬別說送鞋的話，你可密密的收藏，瞞著你家的他，他若知道了，你受啣奴挨罵。到那時，方知說的知心話。”（[清]《紅繡鞋兒（其一）》《白雪遺音》）
- (30) 自思量，怨爹媽，奴若大年紀少一個他。……傷心煞了我是淚如麻，不知孩子的噁噁

<sup>77)</sup> 1914年成文堂刻本，卷頭に「光緒己亥（1899）」，銅山林有仁の序あり。これが現在最も古い版本と思われる。

奴的他，將來是誰家，哎啣落在那一家？（[清]《二月春光》《白雪遺音》）

これらの他，《兒女英雄伝》にも以下のような例が見られた。

- (31) 張金鳳道[口+外]一樣的人的事你還是當日的你我還是當日的我他還是當日的他怎麼又當別論呢（文康[清]《兒女英雄伝》，26回）<sup>78)</sup>
- (32) 再說一句不是你我不害臊的話若果然是照行樂園兒上的那等一個不言不語的說不清道不明的你或者像長生牌兒似的那等一個無知無識推不動操不動的我正所謂影裡情郎画中愛寵他見這屋裡沒甚麼可風雅的去處少不得也得一心撲到書本兒上去偏偏兒守着這麼個模樣兒的你又來了照你這個樣兒的我一個人能有多人精神要都用在這二間屋子裡還怕他不合脂粉花香日親日近離經濟學問日遠日疎麼所以從來說二日不與士大談則語言無味面目可憎又道是生於憂患死於安樂古人何必無端的作這等危言未必不有見於此（《兒女英雄伝》，30回）<sup>79)</sup>

一見，19世紀以前にも“定語+人称代詞”の例が多くあるようではあるが，詞曲など押韻文における用例が非常に多い。上述の23例のうち，(15)～(19)，(23)～(30)の実に13例が詞曲である。(20)(21)もこれらの動詞が“唱”とあるように，ここでの台詞はいくらリズムをとったものと考えられる。さらに，それを除いても，(10)(13)(22)(31)(32)の5例は対句的表現，(14)も限定的修飾語を用いたものである。これら特徴を持たない例，つまり，非限定的で，人称代詞を描写したり，人称代詞に情報を付加したりする修飾語をもつ“定語+人称代詞”構造は極めて少なく，(11)(12)の2例のみである。この状況を見る限り，19世紀以前の“定語+人称代詞”構造は「ある一定の限られたパターンでのみ用いられた」構造である，と考えられ，これらの例を以て，五四時期に問題になった新興語法とされる“定語+人称代詞”と全く同じように用いられていたとは言えないだろう。なぜならば，少なくとも，王力(1944)や呂叔湘(1955)など，初期の先行研究で挙げられている「欧化文法」の“定語+人称代詞”構造は，これらのパターン以外のものが多いからだ。

また，(11)(12)に用いられている人称代詞に注目すると，この2例は三人称“他”を

<sup>78)</sup> 文康[清]《兒女英雄伝》(1990《兒女英雄伝》，上海古籍出版社，山東大学図書館所蔵聚珍堂初刊本照原大影印)，第26回6葉表，影印本3巻，p.1115

<sup>79)</sup> 同上，第30回4葉裏，影印本3巻，p.1350



用いている。“他”は“我”や“你”に比べ、特定性の弱い人称代詞であると考えられる。

“我”や“你”は、話し手とその相手に言及する事が多く、特定性が高いが、“他”は話し手に言及しないことが多く、共通認識がない場合、「あの人」「その人」のような不特定性が強くなる。この事実が、他の人称代詞と比べ、定語修飾を受けやすくしているのではないだろうか。

### 3.20 世紀以降の用例 (1)：中国語及び欧米語翻訳における状況

では、「欧化文法」として問題になるような、構造はいつ頃現れたのか、外国語の影響は受けているのか。本節では、20 世紀以降の“定語＋人称代詞”構造について、中国語の用例を見るだけでなく、英語を始めとする欧米語から翻訳された中国語を用いて、当該構造が欧米語から受けた影響について探る。資料としては、《小説月報》《新青年》を中心とした小説雑誌を用いる。詳しくは表 1 及び表 2 を参照されたい<sup>80)</sup>。

20 世紀以降の“定語＋人称代詞”構造に用いられる構造助詞も、19 世紀と同じく、“的(底)”を用いる例と、“之”を用いる例がある。19 世紀以前と異なるのは、特に 1910 年代までは、自話文語混合体とも言える文章が多く、口語体・文語体での差異により使い分けるとは単純に言い切れないということである。

#### 3-1. 中国語における状況

魏志成 (2007) では、「近代的な“定語＋人称代詞”構造を初めて用いたのは梁啓超であり、1903 年に書かれた《政治学大家伯倫知理之学説》や、1904 年に書かれた《余之生死観》にその例が見られる<sup>81)</sup>としている。筆者の調査では、以下の 13 箇所での使用が見られた。

<sup>80)</sup> 《小説月報》に関しては、各巻の 1 号から 3 号までを調査対象としたため、それ以外の号に跨って連載している作品については、該当号以外の部分は調査対象外である。

<sup>81)</sup> “根拠個人的考証，我認為梁啓超（1873-1929）是現在意義上使用“M+PP”結構的第一人。說他是第一人，是因為自明代（1368-1644），清代（1644-1911）至梁啓超期間數百年的浩瀚文獻中，除了上面提到的少量的例句之外，人們很難再看到這個語言結構的使用；梁啓超卻是第一個“大規模”使用這個結構的人士。……”

表 1：20 世紀初頭の中国語作品

番号	西暦	作品	初出雑誌名	巻	号	作者
1	1903	政治学大家伯倫知理之学説	新民叢報	38-39		梁啓超
2	1904	余之生死観	新民叢報	59-60		梁啓超
3	1916	一九一六年	新青年	1	5	陳独秀
4	1916	我	新青年	1	5	易白沙
5	1918	電遁	小説月報	9	5	冷観
6	1918	疑	小説月報	9	5	天賦生
7	1918	松柏縁	小説月報	9	1-3	蔣慶影 編
8	1918	社会小説 過眼滄桑記	小説月報	9	2	汪劍虹
9	1918	血禮首	小説月報	9	2	冷観
10	1918	涙	小説月報	9	2	胡寄塵
11	1918	意図	小説月報	9	3	観奕
12	1918	壳齒女郎	小説月報	9	3	嚙盧
13	1918	徐驥	小説月報	9	3	江山淵
14	1918	春華秋実	小説月報	9	3	胡寄塵
15	1918	新年自感	小説月報	9	3	愧農
16	1919	社会小説 均無貧今義	小説月報	10	1	虬吼
17	1919	香花供養	小説月報	10	1-2	松俠
18	1919	断指	小説月報	10	1-2	冷観
19	1919	恩讎	小説月報	10	3	何簡齋
20	1919	玉屏児	小説月報	10	3	梅癩
21	1920	玉面張飛	小説月報	11	1	王梅癩
22	1920	同時罪人	小説月報	11	1	賊齒
23	1920	新旧家庭	小説月報	11	1-3	程瞻盧
24	1920	言情小説 星期六的狂熱	小説月報	11	1-2	慧子
25	1920	二丁奇案	小説月報	11	2	独笑
26	1920	記阿祕	小説月報	11	3	王梅癩
27	1920	一個郷下的女子	小説月報	11	3	石民
28	1921	笑	小説月報	12	1	冰心女士
29	1921	母	小説月報	12	1	葉紹鈞
30	1921	命命鳥	小説月報	12	1	許地山
31	1921	不幸的人	小説月報	12	1	慕之
32	1921	一個確実的消息	小説月報	12	1	潘垂純
33	1921	荷瓣	小説月報	12	1	瞿世英
34	1921	沈思	小説月報	12	1	王統照
35	1921	一個朋友	小説月報	12	2	葉紹鈞
36	1921	低能児	小説月報	12	2	葉紹鈞
37	1921	一個著作者	小説月報	12	2	盧隱女士
38	1921	恐怖的夜	小説月報	12	3	葉紹鈞
39	1921	遺音	小説月報	12	3	王統照
40	1921	萌芽	小説月報	12	3	葉紹鈞

《政治学大家伯倫知理之学説》(1903)

(33) 若夫理論 則吾生平最憤與輿論挑戰 且不憚以今日之我與昔日之我挑戰者也 (p.86)

《余之生死觀》(1904)

(34) 如川逝水, 今日之我, 已非故我. 方見為新. 交臂已故. (p.3)

(35) 美国博士占士李者現代著名之哲学家也著「人生哲学」一書為景教訟直原書於一人九二年出版現已重版四十餘次云今據訳其教段李氏曰『軌近物質的文明日以進化實力不滅之說既有定論而其蔽也……凡人類皆有客觀之我有主觀之我質而言之則主觀者真我也客觀者物也原質也而非我也非我之我雖不滅而常遷真我之我則不滅而並不遷者也真我之我於何見之於其自覺自決自動者見之自覺自決自動之情志常住者也故吾人一生數十寒暑其客觀的非我之我利那利那變遷以去至七八十歲時身上所含之原質迥非復童稚時之遺物矣而其間能常保持一物焉曰「同一之我」比「我」者其知識與經驗日以進其希望與愛情日以富……若夫非我之我則靈魂暫憩之逆旅而已……故以物質界與精神界同一視者吾見其不可通矣一言蔽之則彼輩認物為我而於與口<sup>82)</sup>尊合體之我反蔑之而不有焉其壞社會之道德損人類之資格亦甚矣』此李博士學說之大概也 (pp.5-6)

(36) 庸詎知今日之我. 七日以後. 則已變為松為煤為牛為犬為石為氣也. (p.8)

見ての通り, (33) ~ (36) 全てに用いられている“我”は人称代詞というより「個人」「自分自身」「エゴ」という一般名詞的用法で用いられており, かつ, 対句的ニュアンスがある。また, 修飾成分も限定的である。梁啓超がここで用いている“定語+人称代詞”構造は, まだ19世紀以前に用いられていた構造と同じ性質のものである<sup>83)</sup>。また, これらの例に用いられる定語は多くが名詞性単語であり, 近代以降用いられるような長い動詞性の

<sup>82)</sup> 空白になっている。“帝”か。

<sup>83)</sup> また, (37) 例は, アメリカ人ジェームス・リー (占士李) が書いた『人生哲学』の翻訳引用箇所に見られているが, 梁啓超は日本語翻訳書から重訳したと考えられる。原題は『*The Making of a Man*』(1892)であり, 日本語翻訳は『人生哲学』と題され, 高橋五郎の翻訳により1893 (明治26)年に一二三館より発行。中国語翻訳はBibliothèque de Lyonのサイト (<http://www.bn-lyon.fr/>)によれば, 上海でYong John Allen (林榮知), Van Yi (范?)により1913年『最新哲倫之入学』というタイトルで発刊されている。また『Find A Grave』(<http://www.findagrave.com/cgi-bin/fg.cgi?page=gr&GRid=9376523>)には同じ書誌情報で1903年に発刊とあるが, どちらにせよ梁啓超が参照したのは日本語翻訳書であるとかんがえてよいであろう。だが, 筆者が見たところ, 梁啓超の翻訳は広い範囲を要約しているようで, 梁の文章に現れる“定語+人称代詞”構造は直接日本語から引いたものではない。

定語ではない<sup>84)</sup>。

また, 易白沙〈我〉(1916)<sup>85)</sup>には実に56箇所もの“定語+‘之’+人称代詞”構造が見られるが, ここに用いられる人称代詞は全てが「自己」「自我」などの意味であり, 特定の個人を指す人称代詞ではない。

(37) 我必有以與禽獸戰暴人害我我必有以與暴人戰不獨保虫之我為然非保虫之我亦莫不然角而觸者以角之我而戰也爪而距者以爪之我而戰也螫而毒者以螫之我而戰也 (p.2)

(38) 以死為至樂。然既言至樂。則是無生之我。而有死之我。(p.2)

(39) 儒墨二家之無我論。乃深悉社會對於個人之關係。犧牲自家之我。以愛護他人之我。復假借他人之我。以資助自家之我。(p.3)

(40) 怪重之義天下溺者若我溺之天下飢者若我飢之義也二者相成而不相悖。有目之我然後五色立有耳之我然後五声顯有口之我然後五味生有鼻之我 (p.4)

(41) 愛國者不如愛世界。憂國者不如憂直接。世界者我之我與他人之我所歸宿也 (p.4)

(42) 苟活外來之寇。穿牆越垣。突然侵逼。甚至逆旅主人。暴慢無禮。亂法自肆。奪我幸福。與外寇無殊。宿此逆旅無數之我。將奴隸牛馬。為所葬送。我心惻隱。復懷羞惡。必出死蹈亡。恢復幸福。犧牲個體之我抗衛羣體之我羣體之我個個犧牲個個抗衛 (p.4)

(43) 個體之我亡。世界之我存。何謂也。言去軀殼之我。留精魂之我也。化有數之我。壽此數十年之我。為千百歲無終之我也。(p.5)

(44) 我與世界實未有分。我亡而世界未亡。故我之我亡。世界之我不亡。今試評以歐人之我。哥白尼天文学。創地圓之新論。彼僅七十年之我耳。而後人探殖民地。奉其學說為指針。是皆哥白尼之我也。(p.5)

(45) 倍根笛下兒哲学。倡明窮理。彼一為六十五年之我。一為六十年之我而已。而西方窮

<sup>84)</sup> 刁晏斌 (1998: pp. 61-65) :

能做人称代詞定語的, 主要是動詞性詞組, 其中以動詞性的偏正詞組最為多見, 其次是主謂和動賓詞組, 形容性詞語充當定語的也有一些, 最少的是名詞性的定語, 只有個別的用例。(中略) 一般來說, 定語可以分為修飾性和限制性的兩種。(中略) 但是, 就大多數人称代詞的定語來說, 卻似乎都是一身而兼而任的: 既是对人称代詞的一個限定 (指出其範圍及類別等), 同時又是对它們的修飾 (描繪其性質、狀態及動作等)。比如, 「紅眼睛的他」, 既說明瞭是這樣而不是別樣的「他」, 同時又描述了「他」、「紅眼睛」這種狀態。

本稿では刁晏斌(1998)における“動詞性主謂詞組”“動詞性動賓詞組”も全て「動詞性」として一つにとっている。

<sup>85)</sup> 易白沙 (1916) 〈我〉《青年雜誌 (新青年)》, 第1卷第5号, 群益書社

理之学大明。是借倍根笛卡兒之我也。(p.5)

(46) 孟德斯鳩述方法精理。詆克奴之制。主張人道。虛騷倡人權。申民約。為文明革命之祖。彼向學者。同為六十六年之我而已。而今日孟德斯鳩盧騷之我。且布滿全世界矣。

(p.5)

(47) 佛蘭克林八十四歲之我耳。發明電學。而電氣之用。於今大顯。皆佛蘭克林之我矣。(p.5)

(48) 瓦特八十三歲之我耳。發明汽機。而世界丕變。皆瓦特之我矣。(p.5)

(49) 杯黎制排氣機。奈端創重學。皮里士利明化學。連那士開植物學。彼皆數十年之我而。

而物質文明因以大哲。則杯黎奈端皮里士利連那士之我。猶徘徊於今世界矣。(p.5)

(50) 此外伯倫知語言國家學。……皆為此數子之我精神所鼓蕩而已。此數子之我固在也。

以上所舉。歐人之我。皆有關係於今之世界。今之國家者。彼之我雖亡。彼世界之我猶在。(p.5)

(51) 我之我力既如此其巨。雖造化世界亦覺遊刃有餘。(p.6)

(52) 黃帝堯禹周公孔子之我。假乎國人之我。張其威權耳。國人之我。猶能救國。似可以此為證明。(p.6)

(53) 國人喪我之憲象。觸目皆是。今日之我。為堯舜。明日之我。忽為桀紂口之我。言伯夷之言。手之我。又忽行盜跖之行。我之神。明久不相系矣。(p.6)

このような例は、新興語法としての“定語＋人称代詞”としてはとらない。

次節に詳しく述べるが、今回用いた資料中、日本語から中国語に翻訳した文章中に、19世紀以前のものとは異なる性質を持った“定語＋人称代詞”が初めて現れるのは、1920年1月のことである。そこで、筆者は(表1)の資料を用いて、この時期の中国語で“定語＋人称代詞”構造が用いられていたかどうか用いられていたとすればどのような性質を持っているか調査した。

結果、“定語＋構造助詞＋固有名詞”のような用法は天臥生(疑)(1918)<sup>86)</sup>などに見られるが、“定語＋人称代詞”構造は以下の1例が潘垂統(一個確実的消息)(1921; p.20)に見られるのみであった。

(54) 他的眼前一隱一現的，只是從前印在他的腦上的她的一切化身：

しかしこの例も、定語“從前印在他的腦上”が修飾しているのは人称代詞“她”だけでなく、“她的一切化身”である。このような文の場合、定語が直接修飾しているのが“她”なのか、“一切化身”なのかはわかりづらい。今回は、この“定語＋人称代詞＋名詞”構造のように名詞性の中心語(被修飾語)を二つ以上持つ例は、定語が人称代詞を直接修飾していることが明らかな例のみ、例として取る<sup>87)</sup>。

また、この他にも、以下のような例があるが、

(55) 我第二個丈夫，年紀有二十七八歲，他的前妻，遺下兩個呱呱的孩子，成家日累的我了不得，我丈夫共初和我尚好，後來她一天一天的厭煩起來，

(56) 誰知冤家路狹，一天一天個小冤家病了，嚇的我了不得，趕緊向我婆婆說知。

(石民(1920: p. 23)〈一個鄉下的女子〉(下線部筆者))

これらの“的”は程度補語を導く“得”であると考えられ、今回の調査対象ではない。このような用法は《紅樓夢》など、19世紀以前の文章にも用いられている。

(57) 王夫人收了淚去請賈母只說元妃有病進去請安賈母念佛道怎麼又病了前番嚇的我了不得後來又打聽錯了。(曹雪芹[清]《紅樓夢》)<sup>88)</sup>

以上、今回用いた1921年までの資料に、新興語法としての“定語＋人称代詞”構造は見当たらなかった。当時、中国語の中で新興語法と同じような“定語＋人称代詞”は少なくとも普通の構造ではなかったと言える<sup>89)</sup>。

<sup>87)</sup> 例えば、“極端緊張着的他的神經(緊張し切った彼れの神經)”(有島武郎《実験室》金溟若訳)の場合、“極端緊張着”なのは、“他”の可能性もあるし、“神經”の可能性もある。しかし“非河童的你的面前(河童でないあなたの前)”(芥川龍之介《河童》黎烈文訳)のように、後ろに二つ以上の中心語を持っていたとしても、前方の定語が直接修飾しているのが人称代詞と分かる場合もある。本稿では、前者は例としてとらないが、後者は定語が人称代詞を修飾しているのが明白なので、例として取る。

<sup>88)</sup> 第95回因訛成美元妃薨逝以假混眞宝玉瘋癲(清乾隆56年萃文書屋活字印本(程甲))(劉俊文・北京愛如生數字化技術研究中心《中國基本古籍庫》参照)

<sup>89)</sup> また、これらの資料中に用いられている人称代詞は、一人称に“我”“吾”“咱”，二人称に“你”，三人称に“他”“她”“伊”などがある。そしてこれらの複数形“我們”などがある。一人称“我”“吾”は同じ作家の同じ作品に同時出現したり、口語体文語体問わず用いられたりすることもあり、はっきりとした使い分けがあったわけではない。三人称を性別で分ける用法に関しても、例えば、“伊告訴他，說她死了。”(潘垂統(一個確実的消息))

<sup>86)</sup> 天臥生(1918)〈疑〉《小説月報》，第9巻第5号，商務印書館

3-2. 欧米語翻訳における状況

それでは、当時、欧米語を翻訳した中国語に、“定語＋人称代詞”は用いられていたのだろうか。もし、1921年までの欧米語翻訳作品に新興語法“定語＋人称代詞”の使用が認められれば、同時期の中国語に使用が見られない以上、新興語法としての本構造は欧米語から影響を受けた構造である可能性が出てくる。

今回は、中国語と同じく《小説月報》第9巻から第12巻（1918-1921年）の第1号から第3号における小説及び劇本38作品（表2）<sup>90)</sup>を用い、欧米語からの翻訳中国語に新興語法の“定語＋人称代詞”が用いられているか調査した。

表2：20世紀初頭の欧米語からの翻訳作品<sup>91)</sup>

番号	翻訳 発表 年	翻訳タイトル	収録雑誌	巻	号	翻訳者	原文タイトル	著者
1	1918	難夫難婦	小説月報	9	2	張舎我 訳 / 西神潤 辞	<i>The Gift of the Magi</i>	O. Henry
2	1918	神龍片影	小説月報	9	2	瘦鷗	<i>The Scarlet Pimpernel</i>	Baroness Orczy
3	1918	迷宮 柯南達利山 窗碎墨之二	小説月報	9	3	延陵	<i>The New Catacomb</i>	Arthur Conan Doyle
4	1918	持場凱旋	小説月報	9	3	張舎我 訳 / 西神潤 辞	<i>Victory</i>	M. E. Sangster, Jr.
5	1918	断弦	小説月報	9	3	拜蘭	英語: <i>The Piece of String</i> 原題: <i>La Facelle</i>	G. de Maupassant
6	1918	哲學家言 柯南達利山 窗碎墨之一	小説月報	9	3	延陵	<i>The Man from Archangel</i> (アーカンジェルからの男)	Arthur Conan Doyle
7	1918	嗚呼	小説月報	9	3	張舎我・開野鶴	<i>On the Road to Santa Barbara</i>	
8	1919	泰西占劇	小説月報	10	1-3	林紓・陳家麟	<i>Standard Stories from the Opera</i>	Gladys Davidson
9	1919	十月寒霜記	小説月報	10	1	劉麟生	<i>The October blight</i> <i>Cassel's magazine</i>	
10	1919	魚頭爛額	小説月報	10	1-3	林紓・陳家麟		「美国尼可拉斯」とあり
11	1919	陽曆	小説月報	10-11	1-3 / 1-3	豐宣穎		「英國潛武」とあり

(1921: p.19)) のように、同じ作品に同時出現することもある。男性を“他”，女性を“伊”“她”のように二人称を性別分けするのは、1920年以降盛んに行われるようになっている。構造助詞は，“的”“之”“底”が多く用いられる。しかし、どれもまだ用法が確立していない。

<sup>90)</sup> 欧米語からの翻訳作品は、原題、著者名、そしてどの言語からの翻訳かなどについては明記されていないものが多い。今回はなるべく「欧米語」の版本から翻訳されたものであろうと推測できるものを使用した。

<sup>91)</sup> なお、表中原作者の名前は「ファーストネーム-ファミリーネーム」の順で記す。

12	1919	天外飛鵝記	小説月報	10	2	屏周・瘦鷗	<i>L'Évasion d'Arsène Lupin</i>	Maurice Leblanc
13	1919	紅豆怨史	小説月報	10	2-3	浦薛鳳	<i>Evangeline</i>	Henry Wadsworth Longfellow
14	1919	妄言妄聽	小説月報	10	3	林紓・陳家麟		「英國美森」とあり
15	1920	伊羅理心記	小説月報	11	1-2	林紓・王慶通	<i>LA BOITE D'ARGENT</i>	ALEXANDRE DUMAS, fils
16	1920	大仲馬名著 素郎	小説月報	11	1	張毅漢	<i>Solange</i>	Alexandre Dumas
17	1920	掃	小説月報	11	2	張毅漢	<i>Le Retour</i> (帰宅)	Charles-Louis Philippe
18	1920	兩個小的兵	小説月報	11	2	沢民	<i>Petit Soldat</i>	G. de Maupassant
19	1920	報復	小説月報	11	2	羽		Антон Павлович Чехов (Anton Pavlovich Chekhov)
20	1920	黃華	小説月報	11	2	瘦鷗		Louis-Henri Murger
21	1920	球房記事	小説月報	11	3	林紓・陳家麟	<i>MEMOIRS OF A MARKER</i>	Count Lev Nicolaevich Tolstoy
22	1920	古銀幣	小説月報	11	3	慧子		
23	1920	名家劇本 社会柱石	小説月報	11	3	瘦鷗	<i>The Pillars of Society</i>	Henrik Ibsen
24	1920	伊是誰	小説月報	11	3	雲舫	<i>Who Was She</i>	Антон Павлович Чехов (Anton Pavlovich Chekhov)
25	1921	瘋人口記	小説月報	12	1	歐濟之	<i>Записки сумасшедшего</i> (Diary of a Madman)	N. Gogoli
26	1921	熊旗	小説月報	12	1	孫伏園		「俄国 托爾斯泰」とあり
27	1921	農夫	小説月報	12	1	王劍二		Gomulicki
28	1921	忍心	小説月報	12	1	王劍二	<i>An Enduring Heart</i>	W. B. Yeats
29	1921	名劇 新婚婦的一對	小説月報	12	1,3	冬琴	<i>De Nygffe</i>	B. J. Björnson
30	1921	鄰人之愛	小説月報	12	1	沈思	<i>Любовь к ближнему</i> (隣人の愛)	Леонид Николаевич Андреев (Leonid Nikolaevich Andreev)
31	1921	侯爵夫人	小説月報	12	2	濟之		Антон Павлович Чехов (Anton Pavlovich Chekhov)
32	1921	木筏之上	小説月報	12	2	鄭振鐸		Максим Горький (Maxime Gorky)
33	1921	審判	小説月報	12	2	仲持		Wladyslaw Stanislaw Reymont
34	1921	名節保全了	小説月報	12	2	眞常	<i>L'honneur est sauf</i>	François Coppée
35	1921	婦人鏡	小説月報	12	2	沈民	<i>Puebla de las Mujeres</i>	Alvarez Quintero
36	1921	獵人日記	小説月報	12	3	歐濟之		Иван Сергеевич Тургенев (Ivan Sergeevich Turgenev)
37	1921	一個英雄的死	小説月報	12	3	冰	<i>Heldentod</i>	Andress Latzko
38	1921	阿拉索與巴羅米德	小説月報	12	3	倫斐	<i>Aladina and Palomid</i>	Maurice Maeterlinck

結論から言うと、中国語作品と同じで、今回使用した資料から新興語法の“定語＋人称代詞”構造は見られなかった。

(58) 汝其好白為之 H.P.可於每日遠達俟吾 予必遵命進行親愛之吾友 我輩行相見矣  
(Leblanc, Maurice 著, 屏周・瘦鵬 訳 (1919: p. 4) 〈天外飛鴻記〉)<sup>92)</sup>

(59) 我好似罔知罔覺的走進坑口。探頭去張。只見坑底積水成窪。我腳下一滑。險些掉了  
下去。這一唬。嘔的我汗毛慄慄。(Dumas, Alexandre 著, 張毅漢訳 (1920: p. 13) 〈素  
郎〉)<sup>93)</sup>

(60) 但今日之我。非比昔日之我。我們只能恭恭敬敬。做像朋友的樣子。(原作者名不明,  
慧子訳 (1920: p. 16) 〈古銀幣〉)

(58) の例は定語が直接修飾しているのは、“友”であり、“吾”ではなく、“定語＋人称代詞”構造とは言えない。(59) は“的”＝“得”であり、補語を作る構造である。(60) の例は制限的修飾であり、また対句的である。これは 19 世紀以前の用例と同じ例である。

管見の限り、1921 年までの中国語及び欧米作品の翻訳に用いられている“定語＋人称代詞”構造は、以下五つの特徴を持っている。

- 1) 対句的表現に用いられることが多い
- 2) 限定的修飾語を持つことが多い
- 3) 名詞性の修飾語を用いることが多く、動詞性の修飾語はほとんど用いられない。
- 4) 定語は一語からなるような短いものであることが多い
- 5) 詞曲など、押韻を考慮された文に現れる

欧米作品からの翻訳中に現れるこれらの現象は、欧米語の特徴ではなく、中国語の特徴であろう。

王力 (1944) は“定語＋人称代詞”構造について、日本語由来の他に、英語由来の可能性もあるとして、“I thought you would know, being a friend of the family”が“当時我以為和那家有交情的你，一定会知道這事的”，“Having been sick so much, I have learned to take good care of my health”が“這樣常常害病的我，已經學會了好好地當心我的健康了”と訳せるということを挙げているが、これらは分詞構文を用いた例を挙げているのであろうと考えられる。しかし、分詞構文は主節の主語や目的語を修飾する関係ではないため、これが直接

<sup>92)</sup> 原題は“L'Évasion d'Arsène Lupin”，原作者名に「法国瑪黎瑟勒勃朗原著」とある。

渡辺浩司 (2008) 「『哲理小説 哲学之稿』の原作」

<sup>93)</sup> 原題“Solange”，原作者名を「大仲馬」と記す。

“定語＋人称代詞”構造に置き換えられたとするには構造的に無理がある。どちらにしても、1921 年までの翻訳作品にそのような例が見られないことから、少なくとも、中国語で長い定語を持つような新興語法としての“定語＋人称代詞”が用いられはじめたことに、英語を始めとする欧米語は直接影響があったとは言えない<sup>94)</sup>。

#### 4. 20 世紀以降の用例 (2) : 日本語翻訳における状況

以上のことから、1921 年までに、中国語の著作、英語を始めとする欧米作品の翻訳中には、新興語法としての“定語＋人称代詞”構造はおろか 19 世紀以前に用いられた特殊な“定語＋人称代詞”構造もほとんど見られず、“定語＋人称代詞”構造は決して一般的な用法ではなかったということが分かる。

王力 (1944)、刁晏斌 (1998)、賀陽 (2008) など、中国における“定語＋人称代詞”構造が日本語の影響を受けたものである可能性を指摘した研究は比較的多く、“定語＋人称代詞”構造が外国語の影響を受けたとする意見の中では主流と言ってもいい。その多くは、日本語の「連体修飾語＋人称代詞」構造が中国語の“定語＋人称代詞”構造に影響を与えたと考えている。確かに、この二つの構造は似通っており、日本語が中国語の“定語＋人称代詞”構造に影響を与えたとするならば、「連体修飾語＋人称代詞」構造であろうということに筆者も異存はない。このような研究は、以前はさほど盛んに行われていなかったようであるが、近年、孫維才 (1990)<sup>95)</sup>、馬燕菁 (2010)<sup>96)</sup>、呉妍 (2011)<sup>97)</sup> など、日中の当該構造を比較研究したものが見られるようになってきた。特に、馬燕菁 (2010) や呉妍 (2011) では、それぞれ川端康成作品と《紅樓夢》の日中版本を比較し、具体的な研究を行なっている。馬燕菁 (2010) は旧白話のなかで、人称代詞が定語の修飾を受ける数はかなり限られてるとはしている。しかしこれらの研究の主眼は日中両言語の比較であり、出現頻度や表現上の意義などを仔細に述べてはいるが、この構造の歴史的な変遷についてはほとんど先行研究に述べられていないのが現状である。

<sup>94)</sup> また、この他特筆すべき現象として、欧米作品を翻訳した中国語には、“的”の使用がかなり多いものがある。例：Горький, Максим. (ゴーリキー) 著, 鄭振鐸訳 (1921) 〈木筏之上〉《小説月報》, 第 12 卷第 2 号など

<sup>95)</sup> 孫維才 (1990) 〈日漢語人称代詞的修飾語比較〉《日語學習与研究》第 6 期, 《日語學習与研究》雜誌社

<sup>96)</sup> 馬燕菁 (2010) 〈從《紅樓夢》看漢日語人称代詞差異—基於人称代詞受修飾現象的考察〉《紅樓夢學刊》6 期, 紅樓夢學刊雜誌社

<sup>97)</sup> 呉妍 (2011) 〈漢日人称代詞受修飾現象比較〉《青年文學家》15 期, 青年文學家雜誌社

そこで今回は、表3の通り、1906年～1928年までの日本語から中国語に翻訳された作品39作品を用い、中国語翻訳文及び日本語原文から、それぞれ“定語＋人称代詞”（日本語の場合「連体修飾語＋人称代詞」）構造を抽出して、当時の日中の当該構造を比較、検討を加え、日本語の「連体修飾語＋人称代詞」構造はどのように中国語に訳出されているのか、中国語の“定語＋人称代詞”構造は日本語の「連体修飾語＋人称代詞」構造の影響を受けているのかについて明らかにする。

表 3：20世紀初頭の日本語からの翻訳作品

番号	翻訳発表年	翻訳タイトル	収録雑誌	巻号	翻訳者	原文タイトル	著者	原作初出
1	1906	美人煙草	東方雜誌	3 4-7	吳禱	美人葦	広津柳浪	1905
2	1913	俠女郎	小説月報	3 10-11	吳禱	女俠娘	押川春浪	1911
3	1913	大復讐	小説月報	3 12	吳禱	英雄小説 大復讐	押川春浪	1911
4	1918	小の一個人	新青年	5 6	周作人	小さい一人	江馬修	1917
5	1920	一個青年的夢	新青年	7 2-3	魯迅	或る青年の夢	武者小路実篤	1916
6	1921	郷愁	小説月報	12 1	周作人	郷愁	加藤武雄	1918
7	1921	女難	小説月報	12 12	夏丐尊	女難	国木田独步	1903
8	1922	湯原通信	小説月報	13 2	美子	湯ヶ原より	国木田独步	1902
9	1922	一口菓の一休和尚	小説月報	13 4	周作人	或る口の一休	武者小路実篤	1913
10	1923	Asparagus (喜劇)	小説月報	14 6	楊敏慈	Asparagus	秋田雨雀	1923
11	1923	其夫婦	小説月報	14 11	周作人	或る夫婦	武者小路実篤	1921
12	1924	懶惰老人的來世	小説月報	15 6	張曉天	ものぐさじじいの來世	小川未明	1921
13	1924	牧神與羊群	小説月報	15 11	張曉天	牧神と羊の群れ	秋田雨雀	1918
14	1925	小的紅花	小説月報	16 11	張曉天	小さな赤い花	小川未明	1921
15	1925	魚與天鵝	小説月報	16 12	張曉天	魚と白鳥	小川未明	1924
16	1927	山鴨	小説月報	18 2	湯鶴逸	山鴨	芥川龍之介	1921
17	1927	地獄変相	小説月報	18 9	江鏡百	地獄変	芥川龍之介	1918
18	1927	開化的殺人	小説月報	18 9	鄭心南・梁希杰	開化の殺人	芥川龍之介	1918
19	1927	影	小説月報	18 9	顧寿白	影	芥川龍之介	1920
20	1927	阿富的貞操	小説月報	18 9	謝六逸	お富の貞操	芥川龍之介	1922
21	1927	龍	小説月報	18 9	胡可章	龍	芥川龍之介	1919
22	1927	開通的丈夫	小説月報	18 9	周頌久	開化の良人	芥川龍之介	1919
23	1927	奇譚	小説月報	18 9	夏韃玉	妙な話	芥川龍之介	1921

24	1927	湖南的扇子	小説月報	18 9	夏丐尊	湖南の扇	芥川龍之介	1926
25	1927	南京的基督	小説月報	18 9	鄭心南	南京の基督	芥川龍之介	1920
26	1927	河童	小説月報	18 9	黎烈文	河童	芥川龍之介	1927
27	1927	尾生的信	小説月報	18 9	謝六逸	尾生の信	芥川龍之介	1920
28	1927	女体	小説月報	18 9	謝六逸	女体	芥川龍之介	1917
29	1927	英雄之器	小説月報	18 9	謝六逸	英雄の器	芥川龍之介	1918
30	1927	黃梁夢	小説月報	18 9	謝六逸	黃梁夢	芥川龍之介	1917
31	1927	小説作法十則	小説月報	18 9	詡生	小説作法十則	芥川龍之介	1927
32	1927	僑語集	小説月報	18 9	宏徒	僑儒の言葉	芥川龍之介	1923-1925, 1927
33	1927	接吻	小説月報	18 12	謝六逸	接吻	加藤武雄	1920
34	1928	愛犬故事	小説月報	19 1	謝六逸	愛犬物語	加藤武雄	1919
35	1928	猫的墓	小説月報	19 1	謝六逸	猫の墓	夏目漱石	1909
36	1928	火鉢	小説月報	19 1	謝六逸	火鉢	夏目漱石	1909
37	1928	我也不知道	小説月報	19 2	謝六逸	わたしも知らない	武者小路実篤	1914
38	1928	富美子的脚	小説月報	19 3	沈端先	富美子の足	谷崎潤一郎	1919
39	1928	實驗室	小説月報	19 11	金沢岩	實驗室	有島武郎	1917

#### 4-1. 調査結果

日本語の人称代詞は数が多いが、中国語の人称代詞と同じく、「個別」を指すものとする。主に以下の語がある。

- 1) 一人称：「私」「僕」「わし」「自分」など<sup>98)</sup>
- 2) 二人称代詞：「君」「あなた」など
- 3) 三人称代詞：「彼」「彼女」

今回はこれらの人称代詞に加えて「わたしたち」「あなた方」「彼ら」などの複数表現も含むこととする。基本的には中国語の“我”“你”“他”類と対照できる日本語の人称代詞を例としてとることとし、「その人」のような例は人称代詞としてとらない。また、日本語では「人称代名詞」というのが普通だが、今回は便宜上、「人称代詞」に統一することとする。

<sup>98)</sup> 日本語の一人称代詞は漢字標記、仮名標記、どちらも同じものとして処理する。また、日本語の「自分」は反照代詞のほか、一人称として単独で「わたくし」の意味があることから、個別的に用いられている場合、一人称代詞として取る。

る<sup>99)</sup>。

また、3-1.で述べたように、今回は「連体修飾語（定語）＋人称代詞＋名詞」構造のうち、連体修飾語（定語）が直接人称代詞を修飾しているかどうか曖昧な例は例としてとらない。例えば、「三日も不眠不休であた彼の脳（“三日来不眠不休的他的頭腦”）」（有島武郎『実験室』金溟若訳）のような例は、「三日も不眠不休であた-脳」とも取れるため、今回このような例は除外した。

今回調査した 39 作品中、日本語原文中における「連体修飾語＋人称代詞」構造は 101 箇所見られ、日本語から中国語に翻訳した訳文中における“定語＋人称代詞”構造は 77 箇所の使用が見られた。これらを分類すると、以下のようになる。

- A) 日本語のみに見られる例（日本語の「連体修飾語＋人称代詞」構造が中国語の“定語＋人称代詞”構造として訳出されていない例）：36 箇所
- B) 中国語のみに見られる例（日本語で「連体修飾語＋人称代詞」構造でない箇所が中国語で“定語＋人称代詞”構造を用いて翻訳されている例）：12 箇所
- C) 両方に見られる例（「連体修飾語＋人称代詞」構造が“定語＋人称代詞”構造に訳出されている例）：日中各 65 箇所、計 130 箇所あった。（下記数表 1）

年代別に見てみると、1906～1917 年間（3 作品）に「連体修飾語＋人称代詞」構造が“定語＋人称代詞”構造として翻訳された例は 1 例もなく、1918～1921 年間（4 作品）では、

- A) の例が 4 箇所、B) の例が 2 箇所、C) の例が各 17 箇所（日中双方合計 34 箇所）見られた。1922～1928 年間（32 作品）では、A) 25 箇所、B) 10 箇所、C) 各 48 箇所（双方

<sup>99)</sup> 日本語の三人称代詞が「カレ / カノジョ」のように性別で区別をするようになったのは、明治以降、欧米の言語影響を受けたためと考えられるが、三人称代詞自体は平安時代初期にはすでに存在していたという。李長波（2002『日本語指示体系の歴史』、京都大学学術出版社）は以下のようにまとめている。

当時「カレ」には二人称的役割と三人称的役割が共存しており、以降に現れた「アレ」と共に、中世後期までは非一人称代詞として用いられていたという。また、「カレ」は漢文や白話小説の“彼”“渠・他”を背景にはじめて成立する一種の翻訳語であり、「アレ」は話し言葉において三人称代詞として用いられていたものであるという区別がある。「アレ」は少なくとも明治の中頃まで話し言葉で三人称代詞に転用されつづけていた。（要約）

今回は、20 世紀以降の資料を用いているため、三人称代詞としては「カレ」系を用いることとする。

合計 96 箇所）見られた。年代別に見ると資料とした作品数が不均等ではあるが、1918～1921 年間の 4 作品の中国語訳文中には合計で 19 箇所もの“定語＋人称代詞”構造が見られるということは、中国語や欧米作品の訳文よりも、早い時期に多くの“定語＋人称代詞”構造が現れていると言える。

数表 1

	A) 「連体修飾語＋人称代名詞」 →他の構造	B)他の構造 →“定語＋人称代詞”	C)「連体修飾語＋人称代名詞」 →“定語＋人称代詞”	合計
日本語原文	36		65	101
中国語訳文		12	65	77
合計	36	12	130	178

また、今回使用した日本語の資料で最も初期に書かれたものは、広津柳浪『美人葦』(1905)、国木田独步『湯ヶ原より』(1902)『女難』(1903)であるが、日本語の「連体修飾語＋人称代詞」構造は少なくともこの当時から用いられている。これらは多くが非限定的な修飾語を伴っており、人称代詞に情報を付加する構造をとっている。

- (61) 女に欺されてはならぬとばかり教へられた私が何時か罪もない女を欺すこととなり、女難を免れる積りで女を捨てた時には最早女難にかゝつて居たので、其時の私にはそれが解らなかつたのでムいます。（『女難』p. 126）
- (62) 平生思慮の深い君にも似合んぢやないか、其位な所に注意けなかつたと云ふのは。（『美人葦』p. 112）

しかし、このような日本語の「連体修飾語＋人称代詞」構造が、中国語の“定語＋人称代詞”として初めて訳出されたのは、1920 年になってからのことである。

また、日本語の連体修飾語は、多くが非限定的なものであり、その性質は動詞性 51 例、名詞性 30 例、形容詞性 20 例<sup>100)101)</sup>。翻訳する際にもほとんど同じ性質で訳出しており、中国語訳文における定語も多くが非限定的なもので、動詞性 50 例、名詞性 17 例、形容詞性 10 例であった。異なる性質で訳出されているのは、たとえば「ない」が日本語だと形容詞

<sup>100)</sup> 「かく云ふ僕」など連体詞を伴う例は「形容詞性」としてとった。  
<sup>101)</sup> 詳しい例文及び典拠は、資料 9～11、参考文献目録も参照されたい。

になるが、中国語だと“没有”は動詞となるような品詞分類の違いによるものがほとんどである。

#### 4-2. 分析 (1)

これらの数の上から分かるのは、日本語の方が、人称代詞は連体修飾をうけやすく、また早い時期からこの構造を用いていたということである。特に1919年以前に中国語に翻訳された作品は、日本語原文3作品中に「連体修飾+人称代詞」は8箇所認められるが、そのいずれも“定語+人称代詞”構造に翻訳されていない。

- (63) 夫と頼んでる君にも秘して居たと……では、叔母と云ふ人が、君に給する学資を借してゞも居たのか。(『美人苺』p. 112)  
你是他的丈夫。他也瞞著不説。……恁地時。可是他叔母借給学費與你麼。(『美人煙草』p. 45)
- (64) 平生思慮の深い君にも似合んぢやないか、其位な所に注意けなかつたと云ふのは。(『美人苺』p. 112)  
這件事恁地草率疏忽。实不想似你深謀遠慮的吉見義久。(『美人煙草』p. 46)
- (65) 斯く云はれては、元来好奇心な私の事とて、何も急ぎ旅では無いし、『そんなら見物して行かう。』と、早速車馬を命じて競馬場へと急がせた。(『女侠姫』p. 64)  
意思很為誠懇。恰好遇到俺剛剛是個好奇之人。想俺並沒有要緊事件。何須急急動身。因对僕役說道。既如此。俺便停留一口。前去看来。当下就命僕人趕快喚一輛馬車坐了。向跑馬場疾馳而去。(『女侠姫』p. 2)
- (66) 彼の幽霊城に果たして不思議な事があれば、必ず不思議の原因があるに相違ない、ヨシ其原因を看破つて遣らうと思つたので天性好奇心な私は矢も楯も堪らず、『女侠姫』p.87)  
便是幽霊城当真有什麼怪異。須也有個怪異的原因。斷不能無端憑空出現的。如此一想。俺便悠然神往。心癢難熬。道不得是躍躍欲試。要想勘破那個怪異的原因。前文已經再二表明。俺是天性好奇之人。看官們早已知道著。俺既起了這個情苗。發了這個心願。(『女侠姫』p. 13)
- (67) 爾うです、私は日本人です、左様云ふ貴方も日本人でせう、(『女侠姫』p. 92)  
我原是日本人。如此説来。老兄也是日本人了。(『女侠姫』p. 15)

- (68) 何んでも廊下の左方の一室の扉が半ば開いて、其処から洩れ出る青い様な赤い様な微かな光が、何かの作用で幽霊の様な形となり、廊下の方の壁にポーと映つて居るのであると分つた私は少し可笑しくなり、(『女侠姫』p. 131、動詞性)  
却見迴廊左辺一間屋子的門開了一半。打門裏露出半青半紅微微的光来。不知什麼原因。映照在迴廊牆壁之上。恍似幽靈般形狀。俺不覺暗地好笑。(『女侠姫』p. 32)
- (69) 彼等悪人は、僕の先祖が建てし家を奪ひ、自ら僕の財産を盗みながら、却つて憐れむべき少年なりし僕を盗人の如く罵り、此面を蹴つたのである、此顔を踏んだのである、(『大復讐』p. 39)  
但他們奪了我祖先家宅。謀了我自己財産。将我伶仃孤苦的少年。罵做到賊。剝削我的体面。毀壞我的声明。(『大復讐』p. 19)
- (70) しかしこの子は どうしてこんなに狎々しく人なつつこい風に出るのだらう、まるで知りもしない他人の自分に！(『小さい一人』p. 263)  
但是這孩子怎麼會同我一個面生的人，這般馴熟呢？(『小小的一個人』p. 623)

日本語で「連体修飾語+人称代詞」構造を作る例は、ほとんどが(63)(64)(65)(66)(69)(70)のように人称代詞を主語とする主謂構文に訳されている。その他には(67)のように人称代詞の部分を別の名詞で置き換えた例、(68)のように修飾成分と人称代詞を2文に分けて翻訳した例がある。

1920年代以降、「連体修飾+人称代詞」が“定語+人称代詞”に訳出されない場合は28例あるが、これらもまた、そのほとんどが中国語では主謂構造にされている。

- (71) 今まで熱心に教へることに興味を持つてみた彼は急に不熱心になつた。おちつかなくなつた。学生の質問に、とんちんかんの返辭をすることも多かつた。(『或る大婦』p. 432)  
以前，他熱心於教授，覺得很有趣味的。現在變成不熱心了，不能安靜了。對於學生的質問，也不能屢次不對的答复。(『其夫婦』p. 5)
- (72) 然るに、此の氣違ひじみた心理作用を感ずる人間は単に僕一人ではないと云ふこと、世の中には異性の足を喝仰する拝物教徒——Foot-Fetichistの名を以て呼ばれるべき人々が、僕以外にも無数にあると云ふ事実を、つい近頃になつて或る書物から学んだ僕は、それ以来時分の仲間が何処かに一人くらゐは居さうなものだと、



内々気を付けて捜して居たのでした。(『富美子の足』 p. 382)

一直到了最近，我方纔從一本書上知道有這種瘋狂在心理的人，並不限於我一個，  
在世界上渴仰崇拜異性的腳的拜物教徒——可以叫做 Foot Fetichist 的人們，在我以  
外還有無數，所以我從此暗暗地留心，以為在我的許多朋友中，或者可以找到一個。  
(〈富美子的腳〉 p. 419)

(73) 一時間の時陳彩は、彼等夫婦の寢室の戸へ、盜賊のやうに耳を当てながら、ちつと容子を窺つてゐる彼自身を発見した。(『影』 p. 51)

一点鐘以後，陳彩発見了他自己像賊一樣把耳朵帖在他們夫妻倆的臥室的門上，在那里靜悄悄地偵察的樣子。(〈影〉 p. 76)

(74) これは、これは、御叮嚀な御挨拶で、下賤な私どもの申し上げます話を、一々双紙に書いてやらうと仰有います——そればかりでも、私の身にとりまして、どの位恐多いかわかりません。(『龍』 p. 63)

這太客氣，說把我們這種粗賤人說的話，拿來一一記在書裏一只這個，在我已是惶恐万分。(〈龍〉 p. 87)

(75) 或は又子がパルマルの街頭を歩して、如何に天涯の遊子たる予自身を憫みしか、そは茲に叙説するの要なる可し。(『開化の殺人』 p. 70)

又或脚躑 Pall Mall 的街頭，是怎麼樣的自憐我這天涯遊子的身世喲！(〈開化的殺人〉 p. 67)

(76) が、近づきになつて間もない私も、子爵の交際嫌ひな性質は、以前からよく承知してゐたから、咄嗟の間、側へ行つて挨拶したものかどうかを決しかねた。(『開化の良人』 p. 89)

我和他認識雖不久，但早已知道他的性情，很不喜歡和人应酬，因此，在那一瞬間，很覺躊躇不決，究竟還是去和他招呼的好，或是不招呼的好。(〈開通的丈夫〉 p. 91)

(77) 「三浦の親は何でも下谷あたりの大地主で、彼が仏蘭西へ渡ると同時に、二人とも前後して歿くなつたとか云ふ事でしたから、その一人息子だつた彼は、当時もう相当な資産家になつてゐたのでせう。……」(『開化の良人』 p. 96)

三浦の父親，好像是下谷近辺的一位大地主，当他到法国去的時候，他的父母差不多同時都死了，他是他們的独子，所以就在當時，他已經成了一個很大的資本家。  
(〈開通的丈夫〉 p. 93)

(78) が、友だちはそれで黙つてみても、親戚の身になつて見ると、元來病弱な彼では

あるし、万一血統を絶やしてはと云ふ心配もなくはないので、(『開化の良人』 p. 101)

朋友的一面，雖然灰了心，但親戚的一面，却因為他的身體，本來就不強健，万一決了後代，那還了得，(〈開通的丈夫〉 p. 94)

(79) しかしあの外出する時は、必巴里仕立ての洋服を着用した、どこまでも開化の紳士を以て任じてゐる三浦にしては、餘り見染め方が紋切形なので、既に結婚の通知を読んでさへ微笑した私などは、愈擦られるやうな心もちを禁ずる事が出来ませんでした。(『開化の良人』 p. 103)

不過三浦向來以出門，必定要穿他在巴黎做的洋裝，隨便什麼地方，都以開通自命的人物，看上的却是這麼一個平常的女子，在我接到他的通知當時，已經忍不住要笑了出來，現在既知道了詳細情形，更覺按捺不下。(〈開通的丈夫〉 p. 95)

(80) これは私が新橋停車場でわざわざ迎へに出た彼と久濶の手を握り合つた時、既に私には気がついてゐた事でした。(『開化の良人』 p. 105)

他聽見我回來，特為到新橋車站來接我，我一和他握手，就覺得他成了這個狀況。  
(〈開通的丈夫〉 p. 96)

つまり、中国語では本来、“定語＋人称代詞”構造は受け入れにくいものであり、人称代詞を修飾するには、主謂構文を用いて表したほうが自然であつたと考えられる。

1920年以降、日本語からの翻訳作品には大量に“定語＋人称代詞”構造が現れるようになる。今回使用した資料の中で、最も初期に“定語＋人称代詞”構造を用いたのは、1920年1月～4月に魯迅が〈一個青年的夢〉として《新青年》第7巻第2～5号に発表した翻訳作品である。原作は武者小路実篤の劇本、『或る青年の夢』であり、この翻訳は1919年8月から行われている。

日本語原作中に「連体修飾語＋人称代詞」構造は15箇所見られるが、魯迅はうち14箇所を忠実に“定語＋人称代詞”構造に訳出している。

(81) しかし相手をあなどつてゐた私達は凱旋を夢みてみました。又逢ふ時の欲びを空想してゐました。(『或る青年の夢』 p. 260)

但看不起对手的我們，却只做看凱旋時的夢，並且單空想着再見時的喜歡。(〈一個青年的夢〉《新青年》，第7巻第2号，p. 78)

- (82) しかしあなた達を生命の恩人のやうに思つてゐた私は大変すまない事をしたやうな気がしたのです。男の意地を傷つけられた気もしたのです。(p. 263)  
但自以為救了你們的我，可是很覺得对不起人，覺得傷了男子的体面。(p. 80)
- (83) 自己の生命以上のものをしつかりつかんでゐなかつた私は自分が戦争で死ぬなぞとは考へもつかないことでした。(p. 269)  
自己的生命以上の東西，並沒有切實抓住的我，對於自己死在戰爭裏的事，是万想不到的。(p. 82)
- (84) 少くも無抵抗主義者になり切れない私は、そして戦死の恐ろしさ、無意味さを腹の底から知つた私は、自分でも実行の出来る程度の平和論をもち出さないではゐられないのです。(p. 278)  
還不能做到無抵抗主義的我，但深知戰爭の可怕和無意味的我，要不提倡連自己都能做到的或一程度的平和論，實在覺得不能。(p. 87)
- (85) しかしあなたは、こゝに来ることを命ぜられたあなたは、そんな呑気な仲間に入ることは許されてないわけですね。(p. 286)  
但是你，已經被命到這里的你，却不許進這種悠然党的。(p. 90)
- (86) しかしあなたは、假りにもこゝにいらつしやることの出来るあなたは、戦争がさけられないものにしても、どの位戦争の犠牲になるものは苦しいかを知つてゐらつしやらなければならぬはずですね。(p. 286)  
但是你，竟也能到這里的你，就令不能夠免去戦争，也該知道做了战争的犠牲的苦到怎樣罷。(p. 91)
- (87) しかし生きてゐる我々には当然なことに見えるのです。(p. 301)  
但從活着的我們看来，却是当然的。(p. 97)
- (88) 尊敬すべき、又敬愛すべき諸君は、諸君の血は人類の意志を無視した為に流されたのです。(p. 307)  
可敬可愛的諸君，諸君の血，都因為蔑視人類的意志流掉的。(p. 100)
- (89) あなたはあなたの内に生きてゐる、歪の私を愛してゐる。本当の私を愛してゐない。(p. 393)  
你單愛着活在你的裏面的歪斜的我罷了，沒有愛着真的我。(〈一個青年的夢〉《新青年》，第7卷第3号，p. 4)
- (90) あなたは惨酷に私の傷にふれる。このいゝ齡した私の傷にふれる。(p. 397)

- 你真是很凶的触着我的傷，触了這有了年紀的我的傷。(p. 6)
- (91) さうぢやない。しかし戦争に反対な僕が喧嘩に賛成するわけにはゆかない。(p. 422)  
這却不然。但反对戰爭的我，在理也不能贊成鬧架。(p. 17)
- (92) あんな人間を出してもう安心だと思つてゐたあなたこそお目出たい神様ですな！(p. 444)  
只有以為生出這樣的人們來便可放心的你，纔是恭喜的明神哩！(〈一個青年的夢〉《新青年》，第7卷第5号，p. 2)

これらの例は、

- 1) 対句的表現で用いられず、単独で現れる
- 2) ほとんどの場合非制限的修飾を持つ
- 3) 修飾語の性質は動詞性>形容詞性>名詞性の順に多い
- 4) 一語でなくフレーズという長い定語を持つ
- 5) 押韻を考慮されない文章でも現れる

という性質を持っており、明らかに19世紀以前の中国語における“定語+人称代詞”構造とは異なるものである。特に、魯迅は(94)のように、かなり長い修飾語が人称代詞を修飾する例も、中国語にそのまま“定語+人称代詞”構造で翻訳しており、中国語としてはささか不自然なものとなっているが、しかし、この魯迅の翻訳以降、日本語の「連体修飾語+人称代詞」構造は積極的に“定語+人称代詞”構造として翻訳されるようになっていく。

- (93) 本当に、母の命を奪つて生れた私は、姉の若さを蝕みつゝ生ひ立つた様な私なのでした。(『接吻』p. 231)  
真的，奪了母親的命而生出來的我，又是侵蝕着阿姉的青春而成長了的我了。(〈接吻〉p. 36)
- (94) 私より二三年先に生れたといふ彼等は、もうかなり老犬といつて宜かつた。而して十分に老犬らしい威容と知恵とを具へて居た。(『愛犬物語』p. 5)

比我早生出来而三年的牠們，總說已經是很老的犬也行的，而且充分的具有老犬般的威容和智慧。（〈愛犬故事〉 p. 46）

- (95) 義姉と並んで上り框のところへぐつたりと腰をおろした私は、だしぬけの明るさと賑やかさで、一寸の間ぼうツとする。（『愛犬物語』 p. 16）

同阿嫂並排着倦然地坐在入口的階段上的我，因為這突然的光亮和熱鬧，茫然無所措了。（〈愛犬故事〉 p. 51）

- (96) 先生に一面識もない青書生の僕が、突然かう云ふ手紙を差し上げる失礼を御免して下さい。（『富美子の足』 p. 357）

和先生一面不相識的一個青年学生的我，突然寫這樣的一封信給你，請你恕罪！（〈富美子的脚〉 p. 408）

- (97) 隅の方に坐つて彼女の不幸を悲しみながらも、その病氣のために自分の研究の中挫したのを残念に思ふ程の餘裕を有つてみた彼れは、この有様を見て、そんな事を考へてみた薄情さを悔むと共に、ほんとに眞剣な同情が勃然として湧き起るのを感じた。（『実験室』 p. 165）

坐在一隅，雖然悲嘆着她的不幸，還有餘暇來想到為了這個病挫折了自己的研究而感覺到可惜的他，看了這個情景，一而在懺悔自己在想着這樣念頭的薄情，同時感着勃然湧起了眞摯的同情。（〈実験室〉 p. 1310）

- (98) 手術衣を脱いで床に投げ捨て、繻のやうに疲れ果てゝ放心した彼れは、死んだものゝやうに椅子に身をなげかけた。（『実験室』 p. 168）

把脱下来的手術衣抛在地板上面，疾得同棉花一樣，而心的緊張已經弛放了的他，好像已經死了一樣把身体投倒於椅子裏面。（〈実験室〉 p. 1311）

これらの翻訳文体がどの程度現代中国語で許容されるかは議論があるであろうが、例えば呂叔湘（1955）で挙げられている茅盾の「落在這樣生疏的甚至還有些敵意的環境中的他們倆」などの例は、正しくこの日本語からの翻訳文体とも言える“定語＋人称代詞”の流れにあるもので、少なくとも「欧化文法」だとして問題になった“定語＋人称代詞”構造は日本語翻訳の影響から発生した可能性が高い。

1910年代に日本語の「連体修飾語＋人称代詞」構造が“定語＋人称代詞”で訳出されなかった原因は、第1に翻訳方法の問題が考えられる。1920年代以降の例文は、直訳・逐語訳がとられたため、なるべく日本語原文の「連体修飾＋人称代詞」を映そうとしたが、1910

年代の中国語例文はまだ旧白話小説章回小説の体裁をとっており、翻訳者が文法構造には気を使わなかった可能性がある。しかしながら、今回用いた1900～1920年代の資料で、「連体修飾語＋人称代詞」構造が“定語＋人称代詞”に訳出されない例は、そのほとんどが主謂構造を取ることからみて、中国語では本来人称代詞を修飾する際には、“定語＋人称代詞”構造よりも主謂構造の形を取ることが自然であったと考えられる。非制限的修飾、動詞性の長い定語を伴う“定語＋人称代詞”はやはり新興語法であり、日本語の影響で用いられるようになったものであろう。

#### 4-3. 分析 (2)

それでは、全12例ある日本語原文において「連体修飾＋人称代詞」の構造をとらない例が、中国語に訳される際“定語＋人称代詞”になった例はどういうものか。以下、詳しく見ていきたい。

これらの例を大きく分類すると、以下の3通りある。

- A) 日本語の人称代詞の運用特質に起因するもの（4例）
- B) 原文では「連体修飾語＋人称代詞＋名詞」の構造を取るものを、前置の修飾語は人称代詞を修飾していると解し、後ろの名詞を省いて“定語＋人称代詞”構造に訳出したもの（3例）
- C) 日本語の構造を変えて、翻訳の際自発的に“定語＋人称代詞”構造を用いたもの（5例）

まずA) について。

- (99) 所以打算自今日起，詰路上往来的你們，將古今的故事，每人說一個給我聽，把來編入冊子裏。（〈龍〉 p. 86）

就いては今日から往來のその方どもに、今は昔の物語を一つづつ聞かせて貰うて、それを双紙に編みなさうと思ふ。（『龍』 p. 62）

- (100) 這個女子是良秀的女兒，也不必特別的表明了。但是在那夜的她，與平常簡直像兩個人的樣子，是分分明明看在我的眼睛裏。（〈地獄變相〉 p. 59）  
それが良秀の娘だつたことは、何もわざわざ申し上げるまでもございますまい。

が、その晩のあの女は、まるで人間が違つたやうに、生々と私の眼に映りました。

(『地獄変』 p. 315)

(101) 讓独生女兒先走了黃泉路的他 大概是難以優遊活命在世「啊」(『地獄変相』 p. 65)

一人娘を先立てたあの男は、恐らく安閑として生きながらへるのに堪へなかつたのでございませう。(『地獄変』 p. 339)

(102) 假使不是你先生，一不是我平常崇拜着的你，這個故事裏面的主人公的可憐而奇怪的心理，是沒有人能夠理解的，(『富美子的脚』 p. 408)

先生でなければ、僕が常に崇拜して居る先生でなければ、此の物語の中に出て来る主人公の気の毒な不思議な心理を、理解して下さる方はありさうにもない。

(『富美子の足』 p. 357)

このような例は、特に目上の人間に第二人称や第三人称を使うことができず、「代詞が使いにくく、主語や主語以外の場合でもよく代詞を省く」<sup>102)</sup>という日本語の人称代詞の運用的性質から、原文では人称代詞を用いていないと考えられる。また、これら(99)～(101)の日本語原文で用いられている「その方」「あの女」「あの男」などは、個別の人物を指しているという意味では、人称代詞ともいえるため、これを“他”などで翻訳するのは自然なことである。(102)の例では、原文の「先生」がここでは個別的にある人物を指している上、直前に“先生”という名詞を用いているので、翻訳する際、言い換えとして“你”を用いたのであろう。

また、B)は、

(103) 那時候的我呢，也並非真如長屋所稱贊的誠實漢，不是木石以上，心情也当然覺得異樣了。(『女難』 p. 21)

そして其時の私の心持を言ひますと、決して長屋の者が信じて居たほどの堅固なものでなかつたので、木や石でない限り、矢張り妙な心持がしたのであります。

(『女難』 p. 33)

(104) 父母兄弟都沒有的我，這晚上很不感服，(『湯原通信』 p. 38)

親も兄妹もない僕の身には、こんな晩は頗る感心しないので、(『湯ヶ原より』 p. 222)

(105) 有的悠閑地在吸着紙煙，有的無聊地在室內閑踱着，但是一看見了進來的他，都同他打了招呼。(『実験室』 p. 1304)

あるものはのどかに煙草を煙らし、あるものは所在なげに室の中を歩にまはつてゐたが、這入つて来た彼れの姿を見ると一寸改つて挨拶した。(『実験室』 p. 156)

日本語原文では「連体修飾語-人称代詞」か「連体修飾語-名詞」か曖昧であるため、「連体修飾語+人称代詞」の構造としてとらなかつたものが、中国語では後置名詞を取り払つて“定語+人称代詞”構造になっている例である。

A) や B) のような例は、厳密には日本語原文でも「連体修飾語+人称代詞」的構造をとっているといえるため、翻訳者が自発的に“定語+人称代詞”を用いて訳文を作つた例とは言えない。実際には C) の例のみが、日本語で「連体修飾語+人称代詞」構造でないものを“定語+人称代詞”構造にした例と言えるが、このような例は5例のみであり、全体的に見るとごくまれな例といえるであろう。

(106) 而且說，其中的我，還要被殘酷的虐殺哩。(『一個青年的夢』《新青年》，第7卷4号， p. 15)

そしてわしは中でも殘忍な殺され方をすると云はれた。(『或る青年の夢』 p. 416)

(107) 我感謝上帝不創造依着批評家所希望的我和人類。(『湯原通信』 p. 38)

僕は批評家の御注文に必ず神様が僕及び人類を造つて呉れなかつたことを感謝する。(『湯ヶ原より』 p. 221)

(108) 看到帶着死人般的面龐的我底回來，宿舍裏的人將怎樣驚惶呀；——這天絹姑雖則來但下午便回娘家去了：這事的我底驚惶 却比這驚惶更甚。(『湯原通信』 p. 41)

死人のやうな顔をして僕の帰つて来たのを見て、宿の者は如何に驚いたらう。其驚よりも僕の驚いたのは此日お絹が来たが、午後又実家に帰つたとの事である。(『湯ヶ原より』 p. 232)

(109) 縱令沒有這個介紹，那個時候的我，也早已被子爵的懷古談所感動，(『開通の丈夫』 p. 93)

又、それが無いにしても、その時にはもう私も、何時か子爵の懷古的な詠嘆に釣りこまれて、(『開化の良人』 p. 94)

(110) 既然有了因緣做了我的弟媳的她，無論如何我是覺得不能只任那些像你一樣用冷

<sup>102)</sup> 廣田典夫(1998)「人称代詞——英語と日本語——」

氷の心腸好像对付物品似的对付她的人们处置的。(《実験室》p. 1303)

假にも縁があつて妹となつてくれたものを、お前はじめ冷ややかな心で品物でも取扱ふやうに取扱ふ人達に任せて置く気にはどうしてもなれないんだ。

(『実験室』p. 155)

また、日本語原文において「連体修飾語+人称代詞」の構造をとらない例が、中国語に訳される際“定語+人称代詞”になった例もやはり動詞性の修飾成分を持つものが最も多く、全8例あるが、特徴的なのが、形容詞性の修飾成分を持つものがなく、名詞性の修飾成分を持つものが4例あるということである。そのうち時間詞を伴うものは(100)、(103)、(109)の3例ある。時間や場所を修飾語に用いると、その修飾語は一般に被修飾語を限定していると捉えられる。19世紀以前の“定語+人称代詞”構造に用いられる定語は限定的のものが多くことから、中国語で“定語+人称代詞”を作るときには、“限定的定語+人称代詞”のほうが“非限定的定語+人称代詞”構造よりも許容されやすいのではないだろうか。

#### 4-4. 「間接的欧化」か、「日本語の影響」か

しかし、“定語+人称代詞”構造が、日本語の「連体修飾語+人称代詞」構造の影響を受けているとして、日本語の「連体修飾語+人称代詞」構造は果たして日本語本来の構造なのか、という問題がある。

日本語の「人称代詞」が欧米語の翻訳から多用されるようになったことや、性別によって三人称を分け、「カレ」「カノジョ」とするようになったことはよく知られたことである<sup>103)</sup>。また、森岡健二(2001: p. 34)<sup>104)</sup>では、「日本語には、固有名詞に修飾語をつけることは稀であるが、西欧語では種々の多様な修飾語が習慣的によく用いられる」として、大庭雪斎『訳和蘭文語』後編(1855)から、以下のように例を挙げている。

(111) カラ強キ「フランケレイキ」 het magtige Frankrijk

(112) 能ク貿易スル「ホルランド」 het handeldrijvend Holland

(113) 人民多キ「アムステルダム」 het volkrijk Amsterdam

(114) 善ナル「ピーテル」 de brave Pieter

<sup>103)</sup> 『日本国語大辞典』(2001: p. 904) 第3巻では、「彼女(カノジョ)」が一語の代名詞として使われたのは明治20年頃であるが、一般に普及したのは大正以降としている。

<sup>104)</sup> 森岡健二(2001)『欧文訓読の研究——欧文脈の形成——』, 明治書院

(115) 巧者ナル時計造り人 het kunstige uurwerkmaker

固有名詞や人物を「個別」のものであると考えるならば、日本語の「連体修飾語+人称代詞」構造も欧米語の影響により現れたのではないかと推測できる。しかし、明治時代の欧米語からの翻訳文と、その原文を比較してみると、日本語翻訳文章で、自発的に「連体修飾語+人称代詞」構造を用いていることが明らかになる。また、これらの文章には日本語から重訳した中国語翻訳文もあるので、付記する。

(116) 斯くて男女一同は二週間の後船に乗りサンタウンに向て飛行せり。発見に富め  
る彼等の快樂や如何ならむ。(徳富蘆花訳(1891: p. 33)「世界の末日」『国民之友』, 120号, 民友社)<sup>105)</sup>

A fortnight after their arrival, the explorers, rich in their discovery, embarked on their aerial flotilla and set sail for Suntown. The resurrection of humanity was assured. What a triumph and what rejoicing on their return! (Flammarion, C. (1891: p. 567). “The Last Days of the Earth,” *The Contemporary Review*, April. Leonard Scott Publication Company.)

於是淹留半月。男女相握以向桑達文。彼等探險隊得此美滿之發明。其愉快何如哉。  
(飲氷訳(1902: p. 12)〈世紀末日記〉《新小説》, 第1号)

(117) 齊しく同郷の黒人に生れ、齊しく異域の奴隸に売られながら、エドウアヽドが  
家に養はるゝ彼等を視よ。(尾崎紅葉訳(1893: p. 384)「狭黒児」)

The wretched slaves upon his plantation thought themselves still more unfortunate when they compared their condition with that of the negroes on the estate of Mr. Edwards. (Edgeworth, M. (1802: p. 232).<sup>106)</sup> “The grateful Negro,” *Popular Tales*, Vol. 2, 1832, Printed for Baldwin and Cradock.)

你瞧。一樣生長在同郷の黒人。一樣売做異域的奴隸。那鄰家愛德華家中養下的奴隸。(吳禱訳(1906a: p. 1)〈短編小説 俠男奴〉《東方雜誌》, 第3年第1期)<sup>107)</sup>

<sup>105)</sup> 今回は明治文献資料刊行会編の複製を使用。

<sup>106)</sup> 原作末尾に1802年5月とあることから、1802年作と思われる

<sup>107)</sup> 中国語の翻訳では、直前に“奴隸”という語があるにも関わらず、修飾フレーズの“那鄰家愛德華家中養下”を同じく“奴隸”という語で受けている。表現が重複しているにも関わらず、人称代詞をこの位置に置くことはしていない。当時、“定語+人称代詞”構造が中国

(118) シイザアは怒れる気色も無く、益言葉を和げて、「なるほど、お前の理屈も至当だ。至当には違ねえが、私のいふ言だつて、万更無理でもあるめえぢやねえか。毛唐人に裏斬をしたと、当人でねえお前だから、それはさうと想はうけれど、我はまさか其位の甘口に乗せられるほど、脆い男でもねえ積りだ。然し此処で今更愚痴をいつた所が、始まらねえ話だから、もうへ言ふめえ。ヘクトル、おいヘクトル、狸寝入は無情過ぎやうぜ。もう何も言ひはしねえから、此方を向いてくれ、よ、ヘクトル。何もそんなに腹を立てねえでもぢやねえか。これさ、どう志たものだ。」(『俠黒兎』 p. 400)

Cæsar, unmoved by Hector's anger, continued to speak of Mr. Edwards with the warmest expressions of gratitude; and finished by declaring he would sooner forfeit his life than rebel against such a master. He conjured Hector to desist from executing his designs; but all was in vain. Hector sat with his elbows fixed upon his knees, leaning his head upon his hands, in gloomy silence. (*The Grateful Negro*, p. 243)

二毛子該殺剝。我何嘗和他們講交情。好好。(『俠男奴』 p. 13)

(119) 命は已にエドウアノドに奉げたる我等夫婦が、義は金鉄に比してなほ堅きを、然りとは浅々しくも卑怯なる彼等が所為かな。(『俠黒兎』 p. 410)

When she explained to Cæsar the cause of her dejection, his natural courage resisted these superstitious fears; and he endeavoured to raise Clara's spirits. He endeavoured in vain: she fell at his feet, and with tears, and the most tender supplications, conjured him to avert the wrath of the sorceress by obeying her commands whatever they might be! (*The Grateful Negro*, p.249)

俺夫妻両箇性命早已屬了愛德華。任是千刀万剮那理義依然似金鉄般堅牢不能打破難道就怕那些奸詐的奴才們不成 ((1906a: p. 21) 〈短編小説 俠男奴〉《東方雜誌》, 第3年第2期)

(120) デュラントは頻りに苛立ちて、理非の辨無き彼等に問答は無益なり。望む所は是ならむ、と滅多打に振下す、答の数は知れざりけり。(『俠黒兎』 p. 420)

Durant was not out of hearing. He turned suddenly, and observed that the negro looked at Hector when he pronounced these words, and this confirmed the suspicion that Hector was carrying on some conspiracy. He immediately had recourse to that brutality which he

語としては不自然な構造であったと分かる。

considered as the only means of governing black men. Hector and three other negroes were lashed unmercifully, but no confessions could be extorted. (*The Grateful Negro*, p. 252)

不覺也是怒從心上起。喝令責打。那鞭答不知有多少下。(『俠男奴』 p. 29)

英語は当時最も日本語に大きな影響を与えていただろう欧米語の一つであるが、英語、日本語、中国語の内、日本語の翻訳文にのみ、人称代詞を修飾する構造が現れているのが分かる。日本語は少なくとも明治期には既に「連体修飾語+人称代詞」の構造を独自に運用することができるようになっており、この構造に関する英語からの影響は、それがあつたとしても、中国語が日本語から受けたものよりは直接的ではないと言えよう。また、英語に限って言えば、英語の人称代詞は直接「修飾語-人称代詞」構造を取ることができないという特質を持っている。さらに、『源氏物語』には以下のような例がある。

(121) 「若き人といひながら、心幼くものしたまひけるを知らで、いかで人並並にと、思ひける我こそ、まさりてはかなかりけれ」とて、御乳母どもをさひなみ、のたまふに、聞こえん方なし。(少女、陽明文庫蔵底本)<sup>108)</sup>

この他『万葉集』においても管見の限り一人称代名詞が修飾を受ける例が88例、二人称代名詞「キミ」が修飾を受ける例が196例ある。これらの用法が当時日本語で日常的に行われていたものかどうかは引き続き研究が必要であるが、歌集の中で用いられやすいという、近代以前の中国語における“定語+人称代詞”構造と同じ特徴を持っていることは興味深い。どちらにせよ、日本語の「連体修飾語+人称代詞」構造も、近代以降突如として現れた、全くの欧米語由来のものであると判断を下すのはいささか早計であるように思う。

## おわりに

本章では、中国語における“定語+人称代詞”について、先行研究の見直しを行った上

<sup>108)</sup> 『源氏物語』(源氏物語別本集成刊行会編(2008: pp. 514-515)『源氏物語別本集成続』, 第5巻, おうふう)

底本は源氏物語(陽明文庫蔵)。「連体修飾語+人称代名詞」構造の箇所は、ほとんどの版本で上記の構造をとっているが、穂久瀧文庫本のみ「～思けるわか心こそ」となっている。

で、特に 20 世紀初頭におけるその使用と変遷をまとめ、外国語、特に日本語との影響について具体的な研究を行った。

まず、中国語における“定語＋人称代詞”の用例だが、定語の性質に着目してみると、19 世紀以前の例は次の特色を持っている。

- 1) 対句的表現に用いられることが多い
- 2) 限定的修飾語を持つことが多い
- 3) 名詞性の修飾語を用いることが多く、動詞性の修飾語はほとんど用いられない。
- 4) 定語は一語からなるような短いものであることが多い
- 5) 詞曲など、押韻を考慮された文に現れる

つまり、19 世紀以前の中国語における“定語＋人称代詞”構造は、ごく限られた使用であり、これらの例と新興語法として問題になった長い定語を持つ 20 世紀以降の“定語＋人称代詞”構造は分けて考えるべきものである。

さらに、筆者は 1918～1921 年間の中国語（40 作品）及び中国語に翻訳された欧米作品（38 作品）中における“定語＋人称代詞”構造の使用について調査を行ったが、全 78 作品中に、個別的に用いられている人称代詞を用いた“定語＋人称代詞”構造は、1 例のみ“定語＋人称代詞＋名詞”構造が見られた以外に、1 例も用例が見当たらなかった。

このことから、次の 2 点が指摘できる。まず、中国語において“定語＋人称代詞”構造は 1921 年までの段階で、ごく限られた用法にとどまっていたということ。そして、欧米語からの影響は見られないということである。

しかし、日本語からの翻訳作品中には、最も早い時期で 1920 年には日本語の「連体修飾語＋人称代詞」構造を映す形で“定語＋人称代詞”が多く用いられており、その後もこの訳出方法はほぼ定訳と言っていいほどの対応関係が見られる。

これらの“定語＋人称代詞”構造には以下の特徴がある。

- 1) 単独で現れる
- 2) ほとんどの場合非限定的修飾を持つ
- 3) 修飾語の性質は動詞性＞形容詞性＞名詞性の順に多い
- 4) 一語でなくフレーズという長い定語を持つ

- 5) 押韻を考慮されない文章でも現れる

これらが新興語法として問題になった“定語＋人称代詞”構造であると考えられ、1920 年の段階で日本語からの翻訳文章に多く使用されていることからみても、日本語からの翻訳の影響で現れた可能性が高い。

さらに、1919 年以前の日本語翻訳を含む、日本語の「連体修飾語＋人称代詞」構造が中国語に訳出されない場合には、ほとんどが主謂構造に翻訳されていることから、中国語で人称代詞を修飾するには、本来主謂構造を用いるのが自然であったと考えられる。

日本語の「連体修飾語＋人称代詞」構造が、欧米語の影響を受けているかどうかについては、今後検討していく余地があるが、

- 1) 少なくとも英語では直接「修飾語-人称代詞」という構造を取ることができないということ
- 2) 1800 年代の英語からの日本語翻訳作品では日本語の「連体修飾語＋人称代詞」構造に対応する原文がなく、翻訳者が自発的に「連体修飾語＋人称代詞」構造を用いたと思われること
- 3) 『万葉集』『源氏物語』など古典作品に「連体修飾語＋人称代詞」構造と考えられる構造が見られること

以上の 3 点から、完全に欧米語からの影響であるとは言い難い。これは予想の段階に過ぎないが、もし影響を受けているとするならば、まず欧米語の影響で人称代詞を多用するようになったということ、そして、「連体修飾語＋固有名詞」の構造が増えたこと、この二つの影響で使用が増えたのではないだろうか。また、これは日本語に限ったことではないが、固有名詞が修飾をうけることができ、人称代詞が修飾をうけることができなかった理由についても、再考してみる余地があるだろう。今回は触れなかったが、限定修飾か非限定修飾かという分類を用いれば、19 世紀以前に見られる“定語＋‘個’＋人称代詞”構造と“定語＋人称代詞”の変遷の関係について明らかにすることができる可能性もここに提示しておく。

## 終章

### 1. 各章のまとめ

本研究では、19世紀末から20世紀初頭の中国語に起こった文法の変化を「新興語法」とし、その受容と淘汰という変遷について、言語接触の観点から研究を進めた。これまでは20世紀初頭、中国語の文法は特に英語の影響を受け、「欧化」したと考えられてきたが、本研究では、この変化に日本語も大いに関わっていたとして、新たな観点を設けた。さらにこの変化の背景や現代中国語との関係も視野に入れ、考察した結果、1) 形態変化、2) アスペクト、3) 修飾構造に関して、次のことが明らかになった。

#### 1-1. 形態変化について——接尾辞「的」の受容及び“程度副詞＋名詞”構造——

第1章では、日本語の形容詞化接尾辞「的」が、中国語に受容されたかどうかについて当時の翻訳文章や表記に対する議論から考察を行った。

日本語の「的」は、中国の助詞“的”に由来し、明治初期に英語の接尾辞“-tic”の音訳として使われ始め、明治20年頃には大量に使われるようになった。この用法は大体大正期には安定し、大衆的に用いられるようになったと考えられる。中国において“的”は、近代まで、構造助詞として“底”“之”などと同じように用いられているのが見られるが、これらに日本語「的」のような接尾辞としての機能はない。19世紀末、1890年代に日本語から翻訳された中国語を見ても、日本語の接尾辞「的」は接尾辞として訳出されていない。しかし、20世紀初頭、1900年代には、梁啓超、王国維らの文章に“名詞＋‘的’”の用法が見られるようになる。“造成歴史的之根柢”のような、“名詞＋‘的’＋助詞＋名詞”と取れる構造も出現する。これらの“的”は日本語「的」由来のものと考えられる。これらの用法が増えるのに従い、また、白話運動の機運が高まるに伴い、1910年代末から1920年代初期にかけて、“的”をどのように用いるかに関して積極的に議論が行われた。その結果、“的”は「形容詞の標示」として用いられることになり、「所属を表す“底”とは分けて表記されるようになった。また当時、日本語から翻訳した中国語の中には、“的”を日本語と同じように「形容詞化の接尾辞」として運用していた例も多く見られる。これら一連の出来事から、日本語の接尾辞「的」は、少なくとも1920年代までは、中国において受容しようという流れがあったことが分かる。しかし、“的”の前置語が抽象性の低い語の場合や、

単音節語の場合、また、状語を作る場合、前置語を“的”などを用いて直接形容詞的に運用することが難しく、日本語から翻訳した中国語を原語と見比べてみると、日本語でこれらの構造を取る場合は直訳ではなく、“上”“方面”などを用いて翻訳することが多かった。

1930～40年代になると徐々に“底”と“的”の書き分けが曖昧になり、さらに、近代語の抽象名詞が形容詞としても認識されるようになったことから、“X＋形容詞の標示‘的’”は単に“X＋助詞‘的’”として認識されるようになり、現代中国語の“的”は単に助詞という分類に収まった。しかしながら、近年“程度副詞＋名詞”の構造など、名詞を形容詞化する一定構造が規範的でないとされながらも、多用されるようになってきたことを見ると、今後、中国語に名詞を形容詞化する何らかの構造が現れ、それが規範化される可能性もあるだろう。

#### 1-2. アスペクトについて——経験義を表す“過”——

第2章では、アスペクトを表す“過”のうち、経験義を表すとされる“過2”について、これが外来要因で発生した用法である可能性について考察を行った。

“過2”が副詞などの力を借りずに「経験義」と理解されるには前置成分にいくつかの条件が必要であるが、その中でも大きいのは、「状態性が強いこと」である。しかし、“過2”が状態性の強い動詞や形容詞を伴うようになったのは、ごく最近のことで、管見によれば19世紀以前には“有”“想”などに若干の使用が見られる以外、“状態性動詞＋‘過’”の例はほとんど見られず、“形容詞＋助詞‘過’”の例も見当たらない。19世紀の英語や日本語との対訳資料中にもやはり“状態性動詞＋‘過’”の例はほとんど無い。つまり、19世紀以前の資料においては、“過2”は副詞等の補助がなければ「経験義」を表すことは難しく、さらに英語や日本語の構造が中国語の“動詞＋‘過’”構造に何らかの影響を与えた痕跡を見ることは出来ない。

19世紀末から20世紀初頭にかけての魯迅の著作及び翻訳作品をみると、1917年以前にはやはり“状態性動詞＋‘過’”が現れない。これらの資料で“状態性動詞＋‘過’”が初めて現れるのは1919年であるが、19世紀以前にも用例が見られる“有”“想”の動詞を伴う例が多い。それ以外の状態性動詞・形容詞では、訳文のほうは1919年に“餓”“高興”などを伴う例があり、その後も様々な動詞を伴う例が現れるが、著作で“有”“想”以外の動詞を伴う例が見られるのは、1922年に“無聊”と結びつく例が2例、その他の例が現れるのは1924年以降のことである。また魯迅の著作・訳文には“認知動詞＋‘過’”をはじ



め、現在でも助詞“過 2”と結合しにくい動詞にも“過”が用いられている例が見られる。現段階では断言できないが、以上の結果から、「状態性動詞に付着して経験義を表す“過”」が外来要因で生まれた可能性、そして当時、或いは魯迅の著作・訳文における“過 2”の用法は旧白話時代とも、現在とも異なる使用法をされていた可能性、そして、“有”“想”が“過”を伴う例は他の“状態性動詞+‘過’”と異なる可能性が考えられる。特に“有”に関しては方言の可能性も視野に入れるべきであろう。

また、本研究に関しては課題もある。まずは本研究で用いた中国語の資料と翻訳中国語の資料に限られていたためその比較・対照も精度が落ちてしまっていること。また、今回中国語との比較対照として用いた翻訳資料は日本語・日本語からの重訳がほとんどであり、「状態性動詞に付着して経験義を表す“過”」が外来要因で生まれた可能性を示唆することはできたが、これに日本語の影響があったかどうかを確定するには至っていないということ。今後は特に 1910 年代から 1920 年代初頭の資料を増やし、調査する必要がある。

### 1-3. 修飾構造について——“定語+人称代詞”構造——

第 3 章では、人称代詞が定語の修飾を受ける構造について、これまで発表された先行研究の成果を踏まえつつ、近現代の中国語資料及び翻訳資料を用い、これが日本語翻訳の影響で生じた構造であることを明らかにした。

19 世紀以前の資料にも“然觀世人，窮約的他也混過一生，富貴的他自道受用一生。”のような用例は見られ、これを五四時期に問題になった“定語+人称代詞”構造と全く同じもののだとして、この構造を中国固有のものであるとする意見があるが、19 世紀以前のこれらの構造は、1) 対句的表現に用いられる、2) 限定的修飾語を持つことが多い、3) 動詞性の修飾語はほとんど用いられない、4) 定語は一語からなるような短いものであることが多い、5) 押韻を考慮された文に現れる、という特徴を持っており、限られた用法であったと考えられる。さらにこれらの構造に現れる人称代詞とされる“我”“你”“他”などの語は、特定の個人を指すものではなく、彼我を表す名詞に近い用法で用いられている。

管見の限り、1910 年代末から 1920 年代初頭の中国語資料、及び中国語に翻訳された英語を中心とする欧米作品の中には、1 例のみ“定語+人称代詞+名詞”構造があるほかは、“定語+人称代詞”構造は 1 例も用例が見られない。しかし、日本語からの翻訳作品の中には、最も早い時期で 1920 年には日本語の「連体修飾+人称代名詞」を訳出する形で“定語+人称代詞”構造が多く用いられており、その後も「連体修飾+人称代名詞」と“定語+人称

代詞”はほぼ定訳といっていいほどの対応関係を示している。これら日本語からの翻訳資料に見られる“定語+人称代詞”構造は、1) 対句的表現ではなく単独で現れる、2) ほとんどの場合非限定的修飾を持つ、3) 修飾語の性質は動詞性のものが最も多い、4) 長いフレーズで人称代詞を修飾することが出来る、5) 押韻を考慮されない文章でも現れる、という、19 世紀以前の中国語に見られる“定語+人称代詞”構造とされた例とは全く異なる特徴を持っており、現在用いられる“定語+人称代詞”構造と同じ特質を持っている。このことから、新興語法としての“定語+人称代詞”構造は、日本語の影響であると見てよいであろう。また、少なくとも英語では、人称代詞は直接修飾語を収めることができず、さらに 19 世紀の英語から日本語へ翻訳された作品には、日本語翻訳者が自発的に「連用修飾+人称代名詞」構造を用いていることなどから、現段階では“定語+人称代詞”構造が「間接的欧化」だとも言えない。しかし、日本語において「連体修飾+人称代名詞」構造が多く用いられるようになったのには、恐らく欧米語の影響で小説などにおいて人称代名詞を多用するようになったことの延長上にあると考えれば、これも広い意味では西洋-日本-中国という言語接触の流れの中にあると考えられる。

## 2. 文化交渉と言語変化：西洋-日本-中国間における「新興語法」

### 2-1. 年代

本研究で調査した事象を見てみると、西洋-日本-中国の 3 点をつなぐ新興語法の発生は、1918～1920 年を一つの区切りとすることが出来る。“的”を接尾辞的に用いる用例は 1900 年代には発生しているが、活発に議論されるようになったのは 1910 年代末のことであり、“状態性動詞+‘過’”や“定語+人称代詞”構造の用例が見られるようになるのも 1918、1919 年以降のことである。これは、傅斯年 (1919a) では 1918 年 12 月の段階で、すでに「日本語の影響を受けた『間接的欧化』」が中国の話言葉や作文中において見られることを指摘した記述と一致する。このことは 1917 年、胡適の〈文学改良刍議〉発表により広がるとされる五四白話運動が、1919 年 4 月の国語統一籌備会正式成立、1920 年 1 月の小学校教科書の文言文廃止などによって 1 つの高まりを見せた社会的背景とも関係しているであろう。馬以鑫 (1996)<sup>1)</sup>によれば、1919 年から 1920 年の間には、実に 400 種類余りの雑誌が白話文

<sup>1)</sup> 馬以鑫 (1996) 〈“白話文運動”歴史軌跡の重新考察〉

“1918 年 5 月，《新青年》全部改為白話。白話文運動勢不可擋。從 1919 年至 1920 年間，全國大學生刊物出現 400 多種，全部採用白話文。《每周評論》((1918.12))、《國民》((1919.1))、《新潮》((1919.1))、《晨報副刊》((1919.2 改組的第十版))、《湘江評論》((1919.7))、《星期評

を採用したという。この白話運動の高まりと共に、外国語から語彙のみならず、表現方法を借用すべきという意見は、反対意見も多かったにしろ、盛んに論議されるようになっていった。それが「欧化語法」である。先行研究によれば「欧化語法」は1920～1930年代に盛んに議論、実践されたものとされ、特に1920年代初期の状況は、陳望道が“現在の白話有兩種：一種は純粹的欧化的，雖然合於文法，却是我們本國人看了它，常常的不懂，還有種是純用中国法的，雖然好懂，却與那真正文法，又有不合了。(今の白話は2種類ある。ひとつは全くの欧化語法のものであり、文法に適ってはいるが、我々中国人が見てみると、分からないことが往々にしてある。もうひとつは中国語の文法を用いたもので、わかりよいが、真の文法に適っていない(拙訳))”(1923: p. 139)<sup>2)</sup>と述べているように、「欧化」は隆盛を極めた。しかし、彼らという「欧化」は、先行研究のこのような英化だけでなく、傅斯年(1919a)がというような日本語と関係するものも存在していた。しかもそれは、1910年代末から1920年代初頭というかなり早い段階で起こっており、中国における新興語法発生の一翼を担っていた。

## 2-2. 今後の研究の可能性

本研究結果は、「日本語からの新興語法」が西洋から日本、日本から中国という関係にあることを示唆するものであるが、定語が人称代詞を修飾する構造のように、むしろ日本語の影響が強く、日本語が単なる媒介ではないものもある。また、“的”と「的」の問題のように、日本語からの影響を受けて議論されるようになった問題も考えると、近現代の新興語法に日本語が果たした役割は決して無視することはできない。

これらの影響には、しかしやはり中国語が元々受け入れる土台があったものがほとんどである。“的”に関しては、日本語が江戸時代の小説でそれを真似たように、助詞としての用法が存在し、後にその中に埋もれていったように“名詞+「的」”という構造が元々存在した。“動詞+「過」”も、動詞“過”は唐、宋代には虚化していたとされ、“動作動詞+「過」”もかなり早い段階で存在していた。定語が人称代詞を修飾する構造も、限定的にはあるが、近代以前から行われてきた。20世紀初頭の中国語の変化は、これらの上に築かれたも

のである。しかし、例えば1910年代までは白話で翻訳された作品の中にも現れなかった、定語が人称代詞を修飾する構造が、1920年代に大量に出現しているように、その変化は非常に急激で人為的にもたらされたものである。これらは実際に運用していくに従い、一部は淘汰され、一部は受容された。

今回の研究でさらに着目すべきなのは、これら文法表現の影響が制限的であろうとはいえ、ものによっては日本語と中国語という異なる語系の間でも起こりうるということである。魯迅ら中国の知識人にも既に指摘されているように、欧米語を翻訳する過程で、明治期以降の日本語は大きく「欧化」している。この変化によって得た様々な表現は、形態変化の翻訳、受身表現など、中国語に五四時期前後起こった変化とも共通するものがある。それは日中共に西洋の言葉に影響されたからというだけにすぎないのか、或いは、日中間で何らかの相関があるのか、今後日中間でのこれら表現の変化を比較し調査を進めていくことで、近現代の文化交渉と言語接触に関して、さらに多くの可能性が見えてくるのではないだろうか。そして、その事実から、言語の変遷と社会背景が如何に大きな影響を互いに与えるかについて、明らかにすることができるであろう。

論》((1919.6))、《覚悟》(上海《民国日報》副刊1919.6.16)、《建設》((1919.8))、《少年中国》((1919.7))、《星期日》((1919.7))、《新生活》((1919.8))、《曙光》((1919.11))、《新社会》((1919.11))、《人道》((1920.8))、《覚悟》((1920.1))、《解放與改造》((1919.9)) 相繼問世、它們一方面宣傳新思想，同時主張白話文，採用白話文。”

<sup>2)</sup> 陳望道(1923)〈對於白話文的討論(一)〉《民国日報》副刊《覚悟》，3月9日

## 参考文献目録（著者名順）<sup>1)</sup>

### ■ 単行本

#### ・ 日本語（50音順）

- 1) イェスベルセン著・安藤貞雄訳（2006）『文法の原理：上』，岩波書店（原著初出1924）
- 2) 太田辰夫（1958）『中国語歴史文法』，朋友書店（1981年版）
- 3) 香坂順一（1971）『中国語学の基礎知識』，光生館  
——（1983）『白話語彙の研究』，光生館
- 4) 朱繼征（2000）『中国語の動相』，白帝社
- 5) 朱京偉（2003）『近代日中新語の創出と交流：人文科学と自然科学の専門語を中心に』，白帝社
- 6) 朱德熙著・杉村博文・木村英樹翻訳（1995）『文法講義：朱德熙教授の中国語文法要説』，白帝社，（2009年5刷）（中国語原著1982）
- 7) 沈国威（2008）『近代日中語彙交流史：新漢語の生成と受容』（改訂新版），笠間書院
- 8) 陳風（2009）『連体修飾の日中対照研究——限定的修飾を中心に』，牧歌舎
- 9) 時枝誠記（1950）『日本文法：口語篇』，岩波書店
- 10) 日本語記述文法研究会（2007）『現代日本語文法：3』，くろしお出版
- 11) 町田健（1989）『日本語の時制とアスペクト』，アルク
- 12) 宮下眞二（1985）『英語はどういう言語か』，季節社
- 13) 宮武外骨（1925）『明治奇聞』，半狂堂
- 14) 森岡健二（2001）『欧文訓読の研究——欧文脈の形成——』，明治書院
- 15) ヤーホントフ，C. E. 著・橋本萬太郎訳（1987）『中国語動詞の研究』，白帝社
- 16) 柳文章（2004）『近代日本語の思想：翻訳文体成立事情』，法政大学出版局
- 17) 李長波（2002）『日本語指示体系の歴史』，京都大学学術出版社
- 18) 劉綺紋（2006）『中国語のアスペクトとモダリティ』，遊文舎
- 19) 呂叔湘主編・牛島徳次・秦沼透監訳（2003）『中国語文法用例辞典』，東方書店，（『現代漢語八百詞増訂本』日本語版）

<sup>1)</sup> 辞書など一部著者名を記せない文献は書名順。

#### ・ 中国語（拼音順）

- 1) 北京師範学院中文系漢語教研組編著（1959）『五四以来漢語書面語言的變遷和發展』，商務印書館
- 2) 陳承沢（1922）《国文法草創》，商務印書館（1926年第4版）
- 3) 崔山佳（2004）《近代漢語語法歴史考察》，崇文書局
- 4) 刁晏斌（1998）《初期現代漢語語法研究》，洪葉文化事業（台湾）
- 5) 賀陽（2008）《現代漢語欧化語法現象研究》，商務印書館
- 6) 黎錦熙（1924）《新著国語文法》，商務印書館，（1930年第7版）
- 7) 劉敏芝（2008）《漢語結構助詞『的』的歷史演變研究》，語文出版社
- 8) 劉月華・潘文娉・故韡著（2001）《實用現代漢語語法（增訂本）》，商務印書館
- 9) 龍果夫，A. A.（Dragunov, A. A.）著・鄭祖慶訳（1958）《現代漢語語法研究》，第1卷，科学出版社
- 10) 倪宝元（1994）《大学修辭》，上海教育出版社
- 11) 王力（1943）《中国語現代語法（上下冊）》，中華書局（1959年版）（香港）  
——（1944）《中国語法理論（上下冊）》，中華書局（奥付なし）（香港）
- 12) 吳鈞（2009）《魯迅翻譯文学研究》，齊魯出版社
- 13) 伍和忠（2005b）《“嘗試”、“經驗”表達手段論》，社会科学文献出版社
- 14) 曾毅大編著・黎錦熙校訂（1957）《“的”字底用法與分化》，河北人民出版社
- 15) 趙元任著・丁邦新訳（1980）《中国語的文法》，中文大学出版社（原著初出1968）

#### ・ 欧文（アルファベット順）

- 1) Kubler, C. C. (1985). *A Study of Europeanized Grammar in Modern Written Chinese, Taiwan*: Student Book Co.（顧百里（1985）《白話文欧化語法之研究》，台湾學生書局）

### ■ 雑誌論文（著者名順）

#### ・ 日本語（50音順）

- 1) 大河内康憲（1961）『『最近の書面語から見た五四の白話文』——語の機能の変化という点から——』，『中国語学』，108号，中国語学研究会，pp. 1-6, 17

- (1962) 「白話による初期の翻訳文体について」、『中国語学』, 118号, 中国語学研究会, pp. 1-13
- 2) 大槻文彦 (1901) 「文字の誤用」, 東京市教育会演説 (鈴木広光校注 (2002) 『復軒雜纂 1: 国語学・国語国字問題篇』, 平凡社, pp. 243-255)
- 3) 大原信一 (1993) 「〈研究ノート〉白話文の欧化」、『同志社大学外国文学研究』, 66号, 同志社外国文学研究, pp. 90-106  
—— (1995) 「〈研究ノート〉白話文の欧化 (承前)」、『同志社大学外国文学研究』, 69号, 同志社外国文学研究, pp. 152-172
- 4) 神田一三 (1999) 「魯迅『造人術』の原作」、『清末小説』, 22号, 清末小説研究会, pp. 20-38  
—— (2000) 「魯迅『造人術』の原作・補遺——英文原作の秘密」、『清末小説から』, 56号, 清末小説研究会, pp. 1-12
- 5) 小出慶一 (2004) 「接辞「~的」の新しい用法——「~的には」という用法について——」、『群馬県立女子大学国文学研究』, 第24号, 群馬県立女子大学国語国文学会, pp. (1) - (14)
- 6) 孔令達著・森宏子・于康訳 (2001) 「言語成分の同一性から見た助詞『過』の帰属問題」、『中国語言語学情報 4: テンスとアスペクト 3』, 好文出版, pp. 231-246 (原著初出 1997)
- 7) 谷行博 (1979) 「『謾・黙・四日』(上): 魯迅初期翻訳の諸相」、『大阪経大論集』, 132, 大阪経大, pp. 19-40  
—— (1980) 「『謾・黙・四日』(下): 魯迅初期翻訳の諸相」、『大阪経大論集』, 135, 大阪経大, pp. 139-162
- 8) 樽本照雄 (2001) 「漢訳ドイル『荒磯』物語——山県五十雄、周作人、劉廷陵らの訳業」、『大阪経大論集』, 52, 大阪経済大学, pp. 137-160
- 9) 張秀著・中川祐三・張勤訳 (2001) 「中国語動詞の『アスペクト』と『テンス』の体系」、『中国語言語学情報 2: テンスとアスペクト 1』, 好文出版, pp. 1-38 (原著初出 1957 〈漢語動詞的“体”和“時制”系統〉《語法論集》, 第2集, 中華書局)
- 10) 原由起子 (1986) 「-的——中国語との比較から——」、『日本語学』, 第41号, 明治書院, pp. 73-80
- 11) 朴鐘漢著・遠藤雅裕訳 (2000) 「認知文法による現代中国語多義語の研究」、『中央大学論集』, 第21号, 中央大学, pp. 21-41 (原著初出 1997)
- 12) 廣田典夫 (1998) 「人称代詞——英語と日本語——」、『文化論集』, 第12号, pp. 189-208

- 13) 藤居信雄 (1957) 「的ということば」、『言語生活』, 第71号, 筑摩書房, pp. 71-76
- 14) 藤森弘子 (2000) 「談話における『コトガアル』の意味と用法」、『留学生日本語教育センター論集』, 22, 東京外国語大学, pp. 33-47
- 15) 堀口和吉 (1992) 「助辞『~的』の受容」、『山邊道』, 第36号, 天理大学国語国文学会, pp. 59-76
- 16) 前田勇 (1960) 「『てきや』という語——俗語学者に物申す——」、『言語生活』, 第100号, 筑摩書房, pp. 79-83
- 17) 三宅登之 (1999) 「周縁的“過2”について」、『中国語』, 11月号, 内山書店, pp. 27-32
- 18) 柳田国男 (1936) 「十五 形容詞の欠乏」、『国語史 新語篇』, 刀江書院 (1998 「国語史新語篇」『柳田国男全集』, 第9巻, 筑摩書房, pp. 194-197)
- 19) 山田巖 (1961) 「発生期における的ということば」、『言語生活』, 第120号, 筑摩書房, pp. 56-61
- 20) 楊凱榮 (2011) 「日中連体修飾節の相違に関する考察」、『漢日語言対比研究論叢』第2輯, 北京大学, pp. 1-32
- 21) 魯迅著・吉田富夫訳 (1985) 「通訳にかんする通信」、『魯迅全集』, 6, 学習研究社 (原著初出 1932)
- 22) 渡辺浩司 (2008) 「〈哲学小説 哲学之禍〉の原作」、『清末小説から (通説)』, 88, 清末小説研究会, pp. 7-12 (<http://www.biwa.ne.jp/~tarumoto/km.html>) (2011年11月11日確認)

#### ・ 中国語 (拼音順)

- 1) 抱影 (1919) 〈的字用法底問題〉《晨報》, 11月27日
- 2) 陳独秀 (1919) 〈論『的』字底用法〉《晨報》, 11月22日
- 3) 陳望道 (1920a) 〈“的”字底新用法〉《浙江省立第一師範学校校友会十日刊》, 第11号 (1980) 《陳望道語文論集》, 上海教育出版社, pp. 19-21  
—— (1920b) 〈“的”字底分化——化作“的”、“底”、“地”〉《民国日報》副刊《觉悟》, 4月29日 (同上, pp. 25-27)  
—— (1923) 〈對於白話文的討論 (一)〉《民国日報》副刊《觉悟》, 3月9日 (同上, pp. 139-140)
- 4) 崔山佳 (2001) 〈近代漢語中的“VO過”、“V得O過”和“V得O着”〉《張家口職業技術學院學報》, 第14卷第4期, pp. 19-27

- (2008) 〈也談“定語+人稱代詞”結構的來源〉《中國語文》，第4期（總第325期），pp. 322-323
- (2009) 〈關於“定語+人稱代詞”〉《修辭學習》，第1期（總151期），pp. 39-44
- 5) 傅斯年 (1919a) 〈怎樣做白話文〉《新潮》，第1卷第1號，新潮社（1980《傅斯年全集》，第4冊，聯經出版社（台灣），pp. 71-87）
- (1919b) 〈讀書感言〉《新潮》，第1卷第3號，新潮社（同上，pp. 118-127）
- 6) 黑維強·王作棟 (2008) 〈宋代已見“定語+的+人稱代詞”用例〉《甘肅高師學報》，第13卷第3期，p. 15
- 7) 洪林 (2002) 〈略論人稱代詞帶修飾語的形式〉《佳木斯大學社會科學學報》，第2期，pp. 59-61
- 8) 胡適 (1917) 〈文學改良芻議〉《新青年》，第2卷第5號，上海群益書社
- (1919a) 〈『的』字的用法〉《晨報》，11月12日
- (1919b) 〈再論『的』字〉《晨報》，11月25日
- (1919c) 〈三論『的』字〉《晨報》，11月26日
- 9) 黃國富 (1988) 〈台灣當代小說的詞彙語法特點〉《中國語文》，第3期（總第204期），中國語文雜誌社，pp. 194-201
- 10) 黃麗麗 (1999) 〈港台語詞之異化及其原因與港台外來語之比較〉《中國語言學報》，第9期，商務印書館，pp. 161-173
- 11) 孔令達 (1985) 〈動態助詞“過”和動詞的類〉《安徽師大學報（哲學社會科學版）》，第3期，pp. 104-110
- 12) 李凌燕 (2009) 〈新聞敘事中“着”、“了”、“過”的使用情況——兼談新聞話語的主觀性〉《修辭學習》，第5期（總155期），復旦大學，pp. 20-27
- 13) 李振中 (2008) 〈現代漢語結構助詞“的”的分合問題研究〉《山西師大報》，第35卷第5期，pp. 124-127
- 14) 林新年 (2004) 〈試析唐宋時期的“過”語法化進程遲緩的原因〉《語言科學》，第3卷第6期，pp. 42-50
- 15) 劉平 (2001) 〈淺談現代漢語“很+名詞”結構式的新流行及語用特徵〉《言語與文化》，第5號，愛知大學語學教育研究室，pp. 93-105
- 16) 魯迅 (1932) 〈關於翻譯的通信〉《二心集》，合衆書店（原著初出1932）
- 17) 馬燕菁 (2010) 〈從《紅樓夢》看漢口語人稱代詞差異——基於人稱代詞受修飾現象的考察〉

- 《紅樓夢學刊》第6輯，紅樓夢學刊雜誌社，pp. 227-247
- 18) 馬以鑫 (1996) 〈“白話文運動”歷史軌跡的重新考察〉《華東師範大學學報（哲學社會科學版）》，2期，pp. 79-86
- 19) 孟真 (1919a) 〈討論『的』字的用法〉《晨報》，11月29-30日
- (1919b) 〈再申我對於『的』字用法的意見〉《晨報》，12月5日
- 20) 木靈弘 (1989) 〈“過”字虛化的歷史考察〉《思想戰線》，第2期（總86期），雲南人民出版社，pp. 37-42
- 21) 內田慶市 (2011) 〈關於語言接觸和“新興語法”〉《東アジア文化交渉學研究別冊》，7，關西大學（日本），pp. 35-42
- 22) 錢玄同 (1919) 〈我現在對於『的』字用法底意見〉《晨報》，12月2日
- 23) 邵西 (1919a) 〈『的』字的用法『解紛』〉《晨報》，11月23日
- (1919b) 〈『的』字問題的討論〉《晨報》，12月3日
- 24) 沈國威 (2011) 〈現代漢語“歐化語法現象”中的日語因素問題〉《東アジア文化交渉學研究別冊》，7，關西大學（日本），pp. 141-150
- 25) 沈兼士 (1919a) 〈我對於『的』字問題的意見〉《晨報》，11月19日
- (1919b) 〈關於『的』『得』兩字通用的意見〉《晨報》，12月10日
- 26) 孫維才 (1990) 〈日漢語人稱代詞的修飾語比較〉《日語學習與研究》第6期，《日語學習與研究》雜誌社，pp. 24-32
- 27) 譚汝謙 (1980) 〈中日之間識書事業的過去、現在與未來（代序）〉《中國圖書日本書綜合目錄》（中國語版），中文大學出版社（香港），pp. 30-117
- 28) 王東明 (2000) 〈人稱代詞受別類詞修飾古已有之〉《西安外國語學院學報》，1期，p. 28
- 29) 王嬌 (2008) 〈動態助詞“過”的語法化過程〉《現代語文（語言研究版）》，9期，曲阜師範大學，pp. 34-35
- 30) 魏志成 (2007) 〈論“定語+人稱代詞”結構來源〉《中國語文》，第5期（總第320期），pp. 412-416
- 31) 伍和忠 (2005a) 〈漢語表“體”助詞研究述要〉《廣西師範學院學報（哲學社會科學版）》，第26卷第3期，廣西師範學院，pp. 104-110
- 32) 吳妍 (2011) 〈漢日人稱代詞受修飾現象比較〉《青年文學家》2011年15期，青年文學家雜誌社，pp. 159-161
- 33) 楊永龍 (2001) 〈明代以前的“VO過”例〉《語文研究》，第4期（總第81期），pp. 21-22

- 34) 張崇 (1991) 〈人称代詞前加定語的兩條近古用例〉《中國語文》，第 5 期 (總第 224 期)，pp. 382
- 35) 張鳳琴・馮鳴 (2004) 〈關於“定語+人称代詞”〉《修辭學習》，第 6 期 (總 126 期)，pp. 53-55
- 36) 止水 (1919) 〈答『適之』君『的』字〉《晨報》，11 月 13 日
- 37) 周建侯 (1919a) 〈『的』字〉《晨報》，11 月 13 日  
 —— (1919b) 〈對於『的』字問題再表私見〉《晨報》，11 月 20 日  
 —— (1919c) 〈關於的字用法專答抱影〉《晨報》，11 月 30 日

#### ■ 辭書類・用例引用出典<sup>2)</sup>

##### ・ 日本語 (50 音順)

- 1) 秋田雨雀 (1918) 「牧神と羊の群れ」『赤い鳥』(1979『赤い鳥童話劇集』, 東京書籍)  
 —— (1923) 「Asparagus」(1931『明治大正文学全集』, 第 49 卷, 春陽堂)
- 2) 芥川龍之介 (1915) 「羅生門」『帝国文学』, 第 21 卷 11 号, 帝国文学会 (1927『芥川龍之介全集』, 第 1 卷, 岩波書店)  
 —— (1916) 「鼻」『新思潮』, 第 4 次創刊号 (同上)  
 —— (1917a) 「女体」『帝国文学』, 10 月号 (1921「小品四種」『ヴェストポケット傑作叢書 或日の大石内蔵之助』, 春陽堂)  
 —— (1917b) 「黄梁夢」『中央文学』, 10 月 (同上)  
 —— (1918a) 「英雄の器」『人文』, 1 月号 (同上)  
 —— (1918b) 「地獄編」『大阪日日新聞: 夕刊』, 5 月 1-22 日 (1919『傀儡師』, 新潮社)  
 —— (1918c) 「開化の殺人」『中央公論』, 7 月号 (同上)  
 —— (1919a) 「開化の良人」『中外』, 2 月 (1920『影灯籠』, 春陽堂)  
 —— (1919b) 「私が出遭った事: 一蜜柑 二沼地」『新潮』, 5 月号 (「蜜柑」同上)  
 —— (1919c) 「龍」『中央公論』, 5 月号 (同上)  
 —— (1920a) 「尾生の信」『中央文学』, 1 月号 (1921「小品四種」『ヴェストポケット傑作叢書 或日の大石内蔵之助』, 春陽堂)  
 —— (1920b) 「南京の基督」『中央公論』, 7 月号 (1950『春の夜』, 雄鶏社)

- (1920c) 「影」『改造』, 9 月号 (1922『奇怪な再会』, 金星社)
- (1921a) 「山鳴」『中央公論』, 1 月号 (1958『芥川龍之介全集』, 第 2 卷, 筑摩書房)
- (1921b) 「妙な話」『現代』, 1 月号 (1921『夜来の花』, 新潮社)
- (1922) 「お富の貞操」『改造』, 5 月, 9 月号 (1968『現代日本文学体系 43: 芥川龍之介集』, 筑摩書房)
- (1923-1925, 1927) 「侏儒の言葉」『文芸春秋』(1947『侏儒の言葉』, 小峰書店)
- (1926) 「湖南の扇」『中央公論』, 1 月号 (1932『湖南の扇』, 春陽堂 (1946 復刊))
- (1927a) 「河童」『改造』, 2 月号 (1946『河童』, 細川書店)
- (1927b) 「小説作法十則」『新潮』, 9 月号 (1996『芥川龍之介全集』, 第 16 卷, 岩波書店)
- 3) 有島武郎 (1916) 「お末の死」『白樺』, 1 月号 (1924『有島武郎全集』, 第 2 卷, 叢文閣)  
 —— (1917) 「実験室」『中央公論』, 9 月号 (1980『有島武郎全集』, 第 3 卷, 筑摩書房)  
 —— (1918) 「小さき者へ」『新潮』, 1 月号 (1924『有島武郎全集』, 第 2 卷, 叢文閣)
- 4) 板垣鷹穂 (1927) 『民族的色彩を主とする近代美術史潮論』, 大鑑閣
- 5) 井上哲次郎ほか (1881) 『哲学字彙』, 東京大学三部
- 6) 岩崎昶 (1929) 「宣伝、煽動手段としての映画」『新興芸術』, 創刊号-第 2 号, 芸文書院
- 7) 江馬修 (1917) 「小さい一人」『寂しき道』, 新潮社 (初出は 1916『ラ・テール』か)
- 8) エロシェンコ, ヴァスィリー. ヤコヴレヴィチ. (1959『エロシェンコ全集』, 全 3 卷, みすず書房)
- 9) 小川未明 (1921) 「小さな赤い花」(1950『小川未明童話全集』, 第 1 卷, 大日本雄弁会講談社)  
 —— (1921) 「ものぐさじじいの来世」『時事新報』, 4 月 3 日 (同上)  
 —— (1924) 「魚と白鳥」『童話』(1950『小川未明童話全集』, 第 3 卷, 大日本雄弁会講談社 (1953 第 3 版))
- 10) 尾崎紅葉訳 (1893) 「侠黒児」『少年文学』, 第 19 編 (1904『紅葉全集』, 3 卷, 博文社 (1910 第 7 版))
- 11) 押川春浪 (1911a) 「女侠姫」『英雄小説 大復讐』, 木郷書院  
 —— (1911b) 「大復讐」(同上)
- 12) 葛西善蔵 (1919) 「馬糞石」(1920『馬糞石』, 春陽堂)

<sup>2)</sup> 初出年や著作年が見られるものは、使用資料と併記した。

- 13) 片岡鉄兵 (1927) 「小児病」(1995『片岡鉄兵全集』, 第1巻, 日本図書センター(復刻発行))
- 14) 加藤武雄 (1918) 「郷愁」(1919『郷愁』, 新潮社)  
 —— (1919) 「愛犬物語」『早稲田文学』, 10月号 (1920『夢見る口』, 新潮社)  
 —— (1920) 「接吻」(同上)
- 15) 河上肇 (1921) 「マルクス主義に謂ふ所の過渡期について」『経済論叢』, 第13巻第6号
- 16) 菊池寛 (1916) 「三浦右衛門の最期」『新思潮』, 第4次第1年第9号 (1929『菊池寛全集』, 第2巻, 平凡社)  
 —— (1918) 「ある敵打の話」『恩を返す話』, 春陽堂(同上)
- 17) 曲肱軒主人 (不明) 『開化のはなし』, 上下巻 (『早稲田大学古典籍データベース』([http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/wo01/wo01\\_03483/index.html](http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/wo01/wo01_03483/index.html)) による)
- 18) 国木田独步 (1902a) 「巡査」『小柴舟』, 2月 (1920『縮刷独歩全集』, 博文社 (1927第28版))  
 —— (1902b) 「少年の悲哀」『小天地』, 7月号 (同上)  
 —— (1902c) 「湯ヶ原より」『山比古』, 6月号 (1905『独歩集』, 近事画報社)  
 —— (1903) 「女難」『文芸界』, 12月号 (同上)
- 19) 厨川白村 (1912) 「第9講 非物質主義の文芸(其一): 2 文芸の進化」『近代文学十講』, 大日本図書株式会社  
 —— (1920) 『象牙の塔を出でて』, 福永書店  
 —— (1924) 『苦悶の象徴』, 改造社
- 20) 桑原隲蔵 (1917) 「支那学研究者の任務」『太陽』, 第23巻第3号 (1927『東洋史説苑』, 弘文堂)
- 21) 小西井光次 (1915a) 「人生科学(1): 女性と科学」『第三帝国』, 第52号, 益進会 (1983, 不二出版, 復刻版)  
 —— (1915b) 「人生科学(2): 青年と性欲」『第三帝国』, 第53号, 益進会 (復刻版同上)  
 —— (1915c) 「人生科学(3): 人口問題と医学」『第三帝国』 第54号 (復刻版同上)
- 22) 小林多喜二 (1930) 「市民のために!」『文芸春秋臨時増刊: オール読物号』, 第8年第8号 (1950『小林多喜二全集』, 第5巻, 日本評論社)

- 23) 佐藤春夫 (1919a) 「寓話二つ: 形影問答」『中央公論』, 4月号 (1967「形影問答」『佐藤春夫全集』, 第6巻, 講談社)  
 —— (1919b) 「雉子の炙肉」『読売新聞』, 11月12日, 日曜付録 (1967「雉子の炙肉」『佐藤春夫全集』, 第6巻, 講談社)  
 —— (1920) 「思ひ出のなかから: 私の父と父の鶴との話」『サンエス』, 第2巻第9号 (1921「私の父と父の鶴との話」『幻灯』, 新潮社)  
 —— (1921) 「たそがれの人間」『文章倶楽部』, 第6年第10号, (1921『幻灯』新潮社)
- 24) 里見淳 (1920) 「雪の夜話」『中央公論』, 1月号 (1977『里見淳全集』, 第2巻, 筑摩書房)
- 25) 志賀直哉 (1908) 「網走まで」『白樺』, 創刊号 (1951『志賀直哉作品集』, 第1巻, 創元社)  
 —— (1912) 「正義派」『朱鏡』, 9月号 (同上)  
 —— (1913) 「清兵衛と瓢箪」『読売新聞』, 1月1日 (同上)  
 —— (1920) 「真鶴」『中央公論』, 9月号 (同上)
- 26) 島崎藤村 (1906) 『彼戒』, 上田屋
- 27) リー, ジェームス. 著・高橋五郎翻訳 (1893) 『人生哲学』, 一三三館
- 28) 鈴木三重吉 (1909) 「たそがれ」 (1938『鈴木三重吉全集』, 第1巻, 岩波書店)  
 —— (1911a) 「金魚」(同上)  
 —— (1911b) 「写真」(同上)
- 29) 千家元麿 (1916a) 「薔薇の花」(1920『青い枝』, 以文社)  
 —— (1916b) 「深夜の喇叭」(同上)
- 30) 武田麟太郎 (1930) 「色彩」『叛逆の呂律』, 改造社
- 31) 谷崎潤一郎 (1919) 「富美子の足」『雄弁』, 6-7月号 (1967『谷崎潤一郎全集』, 第6巻, 中央公論社)
- 32) 鶴見祐輔 (1924) 『思想・山水・人物』, 大日本雄弁社
- 33) 徳田秋声 (1910) 『足跡』 (1940『足跡』, 岩波書店)
- 34) 徳富蘆花訳 (1891) 「世界の末日」『国民之友』, 119-120号, 民友社
- 35) 徳永直 (1929) 「カットされない情景」(1930『能率委員会』, 日本評論社)
- 36) 中河與一 (1925) 「氷る舞踏場」『新潮』, 5月号 (1967『中河與一全集』, 第1巻, 角川書店)
- 37) 長興善郎 (1912) 「亡き姉に」『白樺』, 3巻4号 (平澤仲次名義) (1917『結婚の前』,

- 新潮社（1922 第 18 版）
- （1920）「童話三篇：山の上の観音」『孔子の帰国』、以文社（初出不明）
- 38) 夏目漱石（1909a）「永日小品：懸物」『朝日新聞』（1910『漱石近什四篇』、春陽堂）
- （1909b）「永日小品：猫の墓」『朝日新聞』（同上）
- （1909c）「永日小品：火鉢」『朝日新聞』（同上）
- （1909d）「クレイグ先生」『朝日新聞』（同上）
- （1914）『心』、岩波書店
- 39) 西周（1872-1873）「政略論」（麻生義輝編 1933『西周哲学著作集』、岩波書店）
- 40) 昇曙夢（1917）「第三講 晩年の活動、その死」（一部）『トルストイ十二講』、新潮社
- 41) 広津柳浪（1905）「美人苺」『太陽』、第 11 卷 12 号、博文社
- 42) 武者小路実篤（1913）「或る日の一休」『白樺』、第 4 卷第 4 号、洛陽堂（1923『武者小路実篤全集』、第 1 卷、芸術社）
- （1914a）「わしも知らない」『中央公論』、第 29 卷第 1 号（1923『武者小路実篤全集』、第 1 卷、芸術社）
- （1914b）「第二の母」『白樺』、第 5 卷第 4 号、洛陽堂（1923『武者小路実篤全集』、第 5 卷、芸術社）
- （1916）「或る青年の夢」『白樺』、第 7 卷第 3、4、6、8、10、11 号、洛陽堂（1923『武者小路実篤全集』、第 3 卷、芸術社）
- （1921a）「久米仙人」『太陽』、第 27 卷第 1 号（1955「久米仙人」『武者小路実篤全集』、第 10 卷、新潮社）
- （1921b）「或る夫婦」『太陽』、第 27 卷第 11 号（1923『武者小路実篤全集』、第 5 卷、芸術社）
- 43) 紫式部〔平安〕『源氏物語』（源氏物語別本集成刊行会編 2008『源氏物語別本集成続』、第 5 卷、おうふう）
- 44) 森鷗外（1890）「舞姫」『国民之友』、第 69 号付録、民友社（1985『森鷗外集 獨逸三部作』、和泉書院）
- （1910a）「あそび」『三田文学』、8 月号（1927『鷗外全集』、第 5 卷、鷗外全集刊行会）
- （1910b）「沈黙の塔」『三田文学』、11 月号（同上）
- 45) 山川菊栄（1921）「婦人の解放」（山川均・山川菊栄共著 1921『労農露西亜の研究、ア

- ルス）
- 46) 山川均（1921）「勞働組合の組織と職分」（一部）（山川均・山川菊栄共著 1921『労農露西亜の研究』、アルス）
- 47) 横光利一（1926）「ナポレオンと田虫」『文芸時代』、1 月号（1929『新進傑作小説全集』、第 4 卷、平凡社）
- （1928）「眼に見えた武」『文芸春秋』、1 月号（同上）
- 48) 吉野作造（1919）「選挙権拡張問題」『中央公論』、2 月号（1919「第 2 選挙権の理論的根拠」『普通選挙論』、万葉書房）
- 49) 与謝野晶子（1915）「貞操に対する疑ひ」『淑女画報』、12 月号（1980「貞操は道德以上に尊貴である」『定本與謝野晶子全集』、第 15 卷、講談社）
- 50) 魯迅著・相浦果ほか編（1984-1986）『魯迅全集』学習研究社
- 51) 『関西大学近代中国語コーパス』<http://www2.csac.kansai-u.ac.jp:8080/library>（2011 年 11 月 9 日現在）
- 52) 『関西大学現代中国語コーパス』<http://www.ch-texts.org/corpus.html>（2011 年 11 月 9 日現在）
- 53) 『新編増補清末民初小説日録』（1997）樽本照雄編（2002 齋魯書社出版（中国））
- 54) 『総訳亜細亜言語集』（1882）広部精訳（青山清吉蔵版、関西大学近代中国語コーパス <http://www2.csac.kansai-u.ac.jp:8080/library/>）による）
- 55) 『中国語辞典』（2002）白水社
- 56) 『中国訳書日本書綜合日録』（1980）実藤恵秀監修・譚汝謙主編・小川博編集、中文大学出版社（香港）
- 57) 『中日辞典』（2002）2 版、講談社（CANON, wordtankV903 電子版）
- 58) 『中口大辞典』（1987）増訂第 2 版、愛知大学・大修館書店
- 59) 『東京口口新聞』
- 60) 『日本国語大辞典』（2000-2002）第 2 版、第 1-13 卷・別巻、日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部編、小学館
- 61) 『読売新聞』
- ・ 中国語（拼音順）
- 1) 拜蘭訳（1918）〈断弦〉《小説月報》、第 9 卷第 3 号、商務印書館
- 2) 冰心（1921）〈笑〉《小説月報》、第 12 卷第 1 号、商務印書館



- 3) 偷叟訳 (1921) 〈癡拉亭與巴羅米德〉《小說月報》，第 12 卷第 3 号，商務印書館
- 4) 曹雪芹·高鶚 [清]《紅樓夢》(1964《紅樓夢》，人民文学出版社)
- 5) 陳独秀 (1915) 〈敬告青年〉《青年雜誌(新青年)》，第 1 卷第 1 号，群益書社  
—— (1916a) 〈一九一六年〉《青年雜誌》，第 1 卷第 5 号，群益書社  
—— (1916b) 〈吾人最後之覺悟〉《青年雜誌》，第 1 卷第 6 号，群益書社
- 6) 陳望道訳 (1921) 〈勞農俄國底勞働聯合〉《新青年》，第 8 卷第 5 号，新青年社
- 7) 程瞻虛 (1920) 〈新舊家庭〉《小說月報》，第 11 卷第 1-3 号，商務印書館
- 8) 冬芬訳 (1921) 〈名劇：新結婚的一對〉《小說月報》，第 12 卷第 1, 3 号，商務印書館
- 9) 独笑 (1920) 〈三丁奇案〉《小說月報》，第 11 卷第 2 号，商務印書館
- 10) 馮夢龍 [明]《古今小說》(許政揚校注 1958《古今小說》，人民出版社)
- 11) 觀奕 (1918) 〈意凶〉《小說月報》，第 9 卷第 3 号，商務印書館
- 12) 高汝鴻訳 (1935) 《世界文芸名著：日本短篇小說集》，商務印書館
- 13) 高一涵訳 (1919) 〈選舉權理論上的根據〉《新青年》，第 6 卷第 4 号，群益書社
- 14) 耿濟之訳 (1921a) 〈瘋人日記〉《小說月報》，第 12 卷第 1 号，商務印書館  
—— (1921b) 〈瘋人日記〉《小說月報》，第 12 卷第 3 号，商務印書館
- 15) 顧壽白訳 (1927) 〈影〉《小說月報》，第 18 卷第 9 号，商務印書館
- 16) 光亮訳 (1922) 〈馬克斯主義上所謂『過渡期』(録覺悟)〉《新青年》，第 9 卷第 6 号，新青年社
- 17) 何喬齋 (1919) 〈恩譚〉《小說月報》，第 10 卷第 3 号，商務印書館
- 18) 宏徒訳 (1927) 〈偽語集：芥川龍之介雜著兩種〉《小說月報》，第 18 卷第 9 号，商務印書館
- 19) 胡寄塵 (1918) 〈淚〉《小說月報》，第 9 卷第 2 号，商務印書館  
—— (1918) 〈春華秋實〉《小說月報》，第 9 卷第 3 号，商務印書館
- 20) 胡可章訳 (1927) 〈龍〉《小說月報》，第 18 卷第 9 号，商務印書館
- 21) 胡適 (1929) 〈百二十回本《忠義水滸傳》序〉(胡適 2003《胡適全集》，第 3 卷，安徽教育出版社)
- 22) 慧子 (1920) 〈言情小說：星期六的狂熱〉《小說月報》，第 11 卷 1-2 号，商務印書館
- 23) 慧子訳 (1920) 〈古銀幣〉《小說月報》，第 11 卷第 3 号，商務印書館
- 24) J. H. C. 生訳 (1917) 〈中国学研究者之任務〉《新青年》，第 3 卷第 3 号，群益書社
- 25) 濟之訳 (1921) 〈侯爵夫人〉《小說月報》，第 12 卷第 2 号，商務印書館
- 26) 江鍊百訳 (1927) 〈地獄變相〉《小說月報》，第 18 卷第 9 号，商務印書館
- 27) 江山淵 (1918) 〈徐驥〉《小說月報》，第 9 卷第 3 号，商務印書館
- 28) 蒋景影編 (1918) 〈松柏緣〉《小說月報》，第 9 卷第 1-3 号，商務印書館
- 29) 金溟若訳 (1928) 〈史驗室〉《小說月報》，第 19 卷第 11 号，商務印書館
- 30) 愧儂 (1918) 〈新年自感〉《小說月報》，第 9 卷第 3 号，商務印書館
- 31) 冷觀 (1918a) 〈血饑首〉《小說月報》，第 9 卷第 2 号，商務印書館  
—— (1918b) 〈電過〉《小說月報》，第 9 卷第 5 号，商務印書館  
—— (1919) 〈斷指〉《小說月報》，第 10 卷第 1-2 号，商務印書館
- 32) 黎烈文訳 (1927) 〈河童〉《小說月報》，第 18 卷第 9 号，商務印書館
- 33) 李達訳 (1921) 〈勞農俄國底婦女解放〉《新青年》，第 9 卷第 3 号，新青年社
- 34) 梁啟超 (1903) 〈政治学大家伯倫知理之学說〉《新民叢報》，第 38-39 (1932, 1960 (再版))《飲冰室文集之十三》(《飲冰室合集》第 5 冊) 台湾中華書局, pp. 67-89  
—— (1904) 〈余之死生觀〉《新民叢報》，第 59-60 (1932, 1960 (再版))《飲冰室文集之十七》(《飲冰室合集》第 6 冊)，台湾中華書局, pp. 1-12
- 35) 林紓·陳家麟共訳 (1919a) 〈泰西古劇〉《小說月報》，第 10 卷第 1-3 号，商務印書館  
—— (1919b) 〈焦頭爛額〉《小說月報》，第 10 卷第 1-3 号，商務印書館  
—— (1919c) 〈妄言妄聽〉《小說月報》，第 10 卷第 3 号，商務印書館  
—— (1920) 〈球房紀事〉《小說月報》，第 11 卷第 3 号，商務印書館
- 36) 林紓·王慶通共訳 (1920) 〈伊羅埋心記〉《小說月報》，第 11 卷第 1-2 号，商務印書館
- 37) 劉麟生訳 (1919) 〈十月寒霜記〉《小說月報》，第 10 卷第 1 号，商務印書館
- 38) 嚮虛 (1918) 〈宧菌女郎〉《小說月報》，第 9 卷第 3 号，商務印書館
- 39) 魯迅 (1981) 《魯迅全集》，全 16 卷，人民文学出版社
- 40) 魯迅訳 (1920) 〈一個青年的夢〉《新青年》，第 7 卷第 2-5 号，群益書社  
—— (1921) 〈三浦右衛門的最後〉《新青年》，第 9 卷第 3 号，新青年社  
—— (2008) 《魯迅訳文全集》，全 8 卷，福建教育出版社
- 41) 盧隱 (1921) 〈一個著作者〉《小說月報》，第 12 卷第 2 号，商務印書館
- 42) 呂叔湘 (1955) 〈語法札記〉《漢語語法論文集》，科学出版社 (原著初出 1944-47)
- 43) 羅貫中 [明]《三國演義》(1973《三國演義》，人民文学出版社)
- 44) 茅盾 (1933) 《子夜》(1960, 人民文学出版社)
- 45) 美子訳 (1922) 〈湯原通信〉《小說月報》，第 13 卷第 2 号，商務印書館

- 46) 孟明詠 (1915) 〈女性與科學 (人生科學一)〉《青年雜誌》，第 1 卷第 4 号，群益書社  
 —— (1916a) 〈青年與性慾 (人生科學二)〉《青年雜誌》，第 1 卷第 5 号，群益書社  
 —— (1916b) 〈人口問題與醫學 (人生科學三)〉《青年雜誌》，第 1 卷第 6 号，群益書社
- 47) 慕之 (1921) 〈不幸的人〉《小說月報》，第 12 卷第 1 号，商務印書館
- 48) 潘垂統 (1921) 〈一個確定的消息〉《小說月報》，第 12 卷第 1 号，商務印書館
- 49) 屏周·瘦鵝共詠 (1919) 〈天外飛鴻記〉《小說月報》，第 10 卷第 2 号，商務印書館
- 50) 浦薛鳳詠 (1919) 〈紅豆怨史〉《小說月報》，第 10 卷第 2-3 号，商務印書館
- 51) 虬吼 (1919) 〈社會小說：均無貧今義〉《小說月報》，第 10 卷第 1 号，商務印書館
- 52) 瞿世英 (1921) 〈荷癡〉《小說月報》，第 12 卷第 1 号，商務印書館
- 53) 瞿宣穎詠 (1919, 1920) 〈隅屋〉《小說月報》，第 10 卷第 1-3 号，第 11 卷第 1-3 号，商務印書館
- 54) 訥生詠 (1927) 〈小說作法十則：芥川龍之介雜著兩種〉《小說月報》，第 18 卷第 9 号，商務印書館
- 55) 沈冰詠 (1921) 〈一個英雄的死〉《小說月報》，第 12 卷第 3 号，商務印書館
- 56) 沈端先詠 (1928) 〈富美子的脚〉《小說月報》，第 19 卷第 3 号，商務印書館
- 57) 沈民詠 (1921) 〈婦人鎮〉《小說月報》，第 12 卷第 2 号，商務印書館
- 58) 沈思詠 (1921) 〈隣人之愛〉《小說月報》，第 12 卷第 1 号，商務印書館
- 59) 石民 (1920) 〈一個鄉下的女子〉《小說月報》，第 11 卷第 3 号，商務印書館
- 60) 施耐庵·羅貫中 [明]《水滸傳》(李靈年·陳敏杰校点 1989《水滸傳》，江蘇古籍出版社)
- 61) 松俠 (1919) 〈香花供養〉《小說月報》，第 10 卷第 1-2 号，商務印書館
- 62) 瘦鵝詠 (1918) 〈神龍片影〉《小說月報》，第 9 卷第 2 号，商務印書館  
 —— (1920a) 〈黃葉〉《小說月報》，第 11 卷第 2 号，商務印書館  
 —— (1920b) 〈名家劇本：社會柱石〉，第 11 卷第 3 号，商務印書館
- 63) 孫伏園詠 (1921) 〈熊獵〉《小說月報》，第 12 卷第 1 号，商務印書館
- 64) 湯鶴逸詠 (1927) 〈山鳴〉《小說月報》，第 18 卷第 2 号，商務印書館
- 65) 唐順之 [明]〈答茅鹿門知縣書〉(董斯張輯《吳興芸文補》卷 34)(劉俊文·北京愛如生數字化技術研究中心《中國基本古籍庫》)
- 66) 天臥生 (1918) 〈疑〉《小說月報》，第 9 卷第 5 号，商務印書館
- 67) 廷陵詠 (1918a) 〈哲學家言：柯南達利山窗碎墨之一〉《小說月報》，第 9 卷第 3 号，商務印書館  
 —— (1918b) 〈迷宮：柯南達利山窗碎墨之二〉(同上)
- 68) 汪劍虹 (1918) 〈社會小說：過眼滄桑記〉《小說月報》，第 9 卷第 2 号，商務印書館
- 69) 王國維 (1905a) 〈論近年之學術界〉《靜安文集》(1976《王國維先生全集初編》，5，台灣大通書局，pp. 1822-1829)  
 —— (1905b) 〈論新學語之輸入〉《靜安文集》(1976《王國維先生全集初編》，5，台灣大通書局，pp. 1829-1836)
- 70) 王劍三詠 (1921) 〈農夫〉《小說月報》，第 12 卷第 1 号，商務印書館  
 —— (1921) 〈忍心〉《小說月報》，第 12 卷第 1 号，商務印書館
- 71) 王梅癯 (1919) 〈玉屏兒〉《小說月報》，第 10 卷第 3 号，商務印書館  
 —— (1920a) 〈玉面張飛〉《小說月報》，第 11 卷第 1 号，商務印書館  
 —— (1920b) 〈記阿梯〉《小說月報》，第 11 卷第 3 号，商務印書館
- 72) 王統熙 (1921a) 〈沈思〉《小說月報》，第 12 卷第 1 号，商務印書館  
 —— (1921b) 〈遺音〉《小說月報》，第 12 卷第 3 号，商務印書館
- 73) 文康 [清]《兒女英雄傳》(1990《兒女英雄傳》，上海古籍出版社，山東大學圖書館所藏聚珍堂初刊本照原大影印)
- 74) 吳承恩 [明]《西遊記》(1980《西遊記》，人民文學出版社)
- 75) 吳禱詠 (1906a) 〈短編小說：俠男奴〉《東方雜誌》，第 3 年第 1-3 期  
 —— (1906b) 〈美人煙草〉《東方雜誌》，第 3 年第 4-7 期  
 —— (1913) 〈俠女郎〉《小說月報》，第 3 卷第 10-11 号，商務印書館  
 —— (1913) 〈大復讐〉《小說月報》，第 3 卷第 12 号，商務印書館
- 76) 吳研人 [清]《二十年目睹之怪現狀》(1984《晚清小說大系：二十年目睹之怪現狀》廣雅出版(台灣))
- 77) 夏丏尊詠 (1921) 〈女難〉《小說月報》，第 12 卷第 12 号，商務印書館  
 —— (1927) 〈湖南的扇子〉《小說月報》，第 18 卷第 9 号，商務印書館
- 78) 夏韞玉詠 (1927) 〈奇譚〉《小說月報》，第 18 卷第 9 号，商務印書館
- 79) 逍遙子 [清]《後紅樓夢》，春風文芸出版社(1985 年)
- 80) 笑笑生 [明]《金瓶梅》，62 回，香港明亮書局廣益堂本
- 81) 謝六逸詠 (1927a) 〈阿富的貞操〉《小說月報》，第 18 卷第 9 号，商務印書館

- (1927b) 〈芥川龍之介小品四種：尾生的信〉(同上)
- (1927c) 〈芥川龍之介小品四種：女体〉(同上)
- (1927d) 〈芥川龍之介小品四種：英雄之器〉(同上)
- (1927e) 〈芥川龍之介小品四種：黃粱夢〉(同上)
- (1927f) 〈接吻〉《小說月報》，第 18 卷第 12 号，商務印書館
- (1928a) 〈愛犬故事〉《小說月報》，第 19 卷第 1 号，商務印書館
- (1928b) 〈猫的墓〉(同上)
- (1928c) 〈火鉢〉(同上)
- (1928d) 〈我也不知道〉《小說月報》，第 19 卷第 2 号，商務印書館
- 82) 許地山 (1921) 〈命命鳥〉《小說月報》，第 12 卷第 1 号，商務印書館
- 83) 許仲琳 [明]《封神演義》(1973《封神演義》，人民文学出版社)
- 84) 楊敬慈譯 (1923) 〈Asparagus (喜劇)〉《小說月報》，第 14 卷第 6 号，商務印書館
- 85) 葉紹鈞 (1921a) 〈母〉《小說月報》，第 12 卷第 1 号，商務印書館
- (1921b) 〈一個朋友〉《小說月報》，第 12 卷第 2 号，商務印書館
- (1921c) 〈低能兒〉《小說月報》，第 12 卷第 2 号，商務印書館
- (1921d) 〈恐怖的夜〉《小說月報》，第 12 卷第 3 号，商務印書館
- (1921e) 〈萌芽〉《小說月報》，第 12 卷第 3 号，商務印書館
- 86) 易白沙 (1916) 〈我〉《青年雜誌》，第 1 卷第 5 号，群益書社
- 87) 飲冰譯 (1902) 〈世紀末日記〉《新小說》，第 1 号
- 88) 羽譯 (1920) 〈報復〉《小說月報》，第 11 卷第 2 号，商務印書館
- 89) 袁枚 [清]〈小倉山房尺牘〉，卷 5 (王英中校点·王英志主編 1993《袁枚全集》，5，江蘇古籍出版社)
- 90) 雲舫譯 (1920) 〈伊是誰〉《小說月報》，第 11 卷第 3 号，商務印書館
- 91) 沢民譯 (1920) 〈兩個小兵〉《小說月報》，第 11 卷第 2 号，商務印書館
- 92) 賊菌 (1920) 〈同時罪人〉《小說月報》，第 11 卷 1 号，商務印書館
- 93) 張舍我譯 (1918) 〈難夫難婦〉《小說月報》，第 9 卷第 2 号，商務印書館
- (1918) 〈情場凱旋〉《小說月報》，第 9 卷第 3 号，商務印書館
- 94) 張舍我·聞野鶴共譯 (1918) 〈噬臍〉《小說月報》，第 9 卷第 3 号，商務印書館
- 95) 張曉天譯 (1924a) 〈懶惰老人的來世〉《小說月報》，第 15 卷第 6 号，商務印書館
- (1924b) 〈牧羊與羊群〉《小說月報》，第 15 卷第 11 号，商務印書館

- (1925a) 〈小的紅花〉《小說月報》，第 16 卷第 11 号，商務印書館
- (1925b) 〈魚與天鵝〉《小說月報》，第 16 卷第 12 号，商務印書館
- 96) 張毅漢譯 (1920a) 〈大仲馬名著：素郎〉《小說月報》，第 11 卷第 1 号，商務印書館
- (1920b) 〈婦〉《小說月報》，第 11 卷第 2 号，商務印書館
- 97) 眞常譯 (1921) 〈名節保全了〉《小說月報》，第 12 卷第 2 号，商務印書館
- 98) 鄭心南·梁希杰譯 (1927) 〈開化的殺人〉《小說月報》，第 18 号第 9 号，商務印書館
- 99) 鄭心南譯 (1927) 〈南京的基督〉《小說月報》，第 18 卷第 9 号，商務印書館
- 100) 鄭振鐸譯 (1921) 〈木筏之上〉《小說月報》，第 12 卷第 2 号，商務印書館
- 101) 仲持譯 (1921) 〈審判〉《小說月報》，第 12 卷第 2 号，商務印書館
- 102) 周樸撰 [宋]《清波雜誌》(劉永翔校注 (1997)《唐宋史料筆記叢刊：清波雜誌校注》，中華書局)
- 103) 周頌久譯 (1927) 〈開通的丈夫〉《小說月報》，第 18 卷第 9 号，商務印書館
- 104) 周作人譯 (1918a) 〈貞操論〉《新青年》，第 4 卷第 5 号，群益書社
- (1918b) 〈小小的一個人〉《新青年》，第 5 卷第 6 号，群益書社
- (1920) 〈深夜的喇叭〉《新青年》，第 8 卷第 4 号，新青年社
- (1921a) 〈少年的悲哀〉《新青年》，第 8 卷第 5 号，新青年社
- (1921b) 〈鄉愁〉《小說月報》，第 12 卷第 1 号，商務印書館
- (1922) 〈一日裏的一休和尚〉《小說月報》，第 13 卷第 4 号，商務印書館
- (1923) 〈其夫婦〉《小說月報》，第 14 卷第 11 号，商務印書館
- 105) 周作人編譯·胡適校 (1923)《世界叢書：現代日本小說集》，商務印書館 (1923 年 12 月再版)
- 106) 鄒誦 (1919) 〈啓發托爾斯泰的兩個農夫〉《新青年》，第 6 卷第 6 号，群益書社
- 107) 朱希祖 (1919) 〈文芸的進化〉《新青年》，第 6 卷第 6 号，群益書社
- 108) 卓岐山 (1901)《增新華英貿易字典》，循環日報 (香港) (*Mercantile Dictionary a Complete Vocabulary of the Technicalities of Commercial Correspondence, Name of Articles of Trade. In English and Chinese Languages.* Cheuk. Ki-Shan.)
- 109)《北京大學漢語語言學研究中心語料庫》，北京大學漢語語言研究中心  
[http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/index.jsp](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp) (2011 年 11 月 9 日現在)
- 110)《國語活用辭典》(2004) 周何主編，五南圖書出版 (台灣)
- 111)《漢語大詞典》(CD-ROM 版) (2007) 商務印書館 (香港)
- 112)《時務報》(1896-1898) 時務報館 (1991《時務報》，影印版，中華書局)

- 113) 《現代漢語詞典》(2005) 第5版, 商務印書館
- 114) 《現代漢語動詞大辭典》(1994) 北京語言學院出版社
- 115) 《新華網》[http://news.xinhuanet.com/edu/2007-02/26/content\\_5775966.htm](http://news.xinhuanet.com/edu/2007-02/26/content_5775966.htm) (2011年11月8日現在)
- 116) 《中國報刊詞典(1815-1949)》(1992) 王楨林・朱漢國編, 書海出版社
- 117) 《中華民國史大辭典》(2002) 江蘇古籍出版社

・ 欧文 (アルファベット順)

- 1) Edgeworth, M. (1802). "The grateful Negro," *Popular Tales*, Vol. 2, 1832, London: Baldwin and Cradock.
- 2) Edkins, J. (1857). *A grammar of the Chinese colloquial language, commonly called the Mandarin dialect*, Shanghai: London Mission Press.
- 3) Flammarion, C. (1891). "The Last Days of the Earth," *The Contemporary Review*, April, New York: Leonard Scott Publication Company.
- 4) Kwong, Ki-Chiu. (1875). *An English and Chinese Dictionary Compiled from Different authors and Enlarged by the Addition of the Last Four Parts*, The Chinese Printing and Publishing Company. (鄭其照《字典集成》)
- 5) Lobscheid, W. (1883-1884). *An English and Chinese Dictionary*, Daily Press Office. (羅不存德原著・井上哲次郎増訂《訂增英華字典》(藤木氏藏版))
- 6) Mateer, C. W. (1906). *A course of Mandarin lessons, based on idiom*, American Presbyterian Mission Press. (《官話類編》(初版1892年))
- 7) Medhurst, W. H. (1847) *English and Chinese Dictionary*, Printed at The Mission press.
- 8) Morrison, R. (1816). *Dialogues and Detached Sentences in the Chinese Language*, Honorable East India Company's Press. (《中文會話及凡例》)
- 9) Williams, S. W. (1844). *An English and Chinese Vocabulary, in the Court Dialect*. (維三畏《英華韻府歷階》, 香山書院)
- 10) *Bibliothèque de Lyon*, <http://www.bm-lyon.fr/> (2011年11月11日確認)
- 11) *Find A Grave*, <http://www.findagrave.com/cgi-bin/fg.cgi?page=gr&GRid=9376523> (2011年11月11日確認)

謝辞

本論文の作成ならびに研究にあたり、多くの方々にお世話になりました。ここに深く感謝の意を表します。

研究活動全般に渡り、指導教授の関西大学外国語学部 内田慶市教授には終始熱心なご指導、ご鞭撻をいただきました。論文指導はもとより、研究することの楽しさを私が気づき保持することができたのも、ひとえに先生のおかげです。ありがとうございます。博士課程前期における指導教授の関西大学文学部 口下恒夫教授には、大学でのゼミ、博士課程後期課程と合わせて9年の長きに渡りご教授いただきました。真摯に研究をする先生の姿にいつも深く感銘を受けておりました。先生からいただいたお言葉の数々は今も胸に深く刻み込まれております。関西大学外国語学部 沈国威教授、関西大学外国語学部 奥村佳代子教授、同 西川和男教授、関西大学文学部 萩野脩二教授には、貴重な御教示、御助言をいただきました。また、大学、博士課程前期課程、博士課程後期課程と通して、ひとかたならぬお世話になりました。この場をかりて謝意を表します。

また、本論文第一章に関して北京外国語大学日本語学部 宋京偉教授、関西大学文学部 陶徳民教授、関西大学講師 Jenine Heaton 先生、首都東京大学都市教養学部 落合守和教授から、第二章に関して神戸市外国語大学中国学科 佐藤晴彦特任教授、青山学院大学経済学部 遠藤光暁教授から、第三章に関して東京大学大学院総合文化研究科 楊凱榮教授から、論文構成に関して、関西大学文学部 松浦章教授、同 藤田高夫教授から、貴重な御教示をいただきました。心より感謝いたします。

私が所属する研究室は、「東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成——周縁アプローチによる新たな東アジア文化像の創出——」を研究テーマとし、日本学術振興会のグローバルCOEプログラムから御支援いただきました。謹んでお礼申し上げます。

そして、多くの御高見を下された諸先輩方々、充実した研究生活を共に過ごした同窓生、後輩の方々には公私に渡り大変お世話になりました。最後に、私の研究生活を陰から支えてくれた家族に感謝します。

2011年11月

稲垣智恵

## 資料編凡例

- 1) 原則的に、中国語表記、日本語表記共に典拠とした文献に従う。参考資料の詳しい情報に関しては、参考文献目録参照。
- 2) 例文の標点符号は極力典拠とした資料に従う。
- 3) 下線部は筆者によるものである。
- 4) 西洋人名は、「ファミリーネーム-ファミリーネーム」の順に記す。
- 5) 初出年などを調べる際に使用した文献は、参考文献目録も参照されたい。
- 6) 資料 5～8 における差表年は、雑誌などに初めて掲載された期日ではなく、書かれた年を優先基準にしている。

i

## 資料編目次

凡例	i
目次	ii
<b>第 1 章 例文</b>	
資料 1：《新青年》における日本語からの翻訳文章	1
資料 2：《現代日本小説集》における日本語からの翻訳文章	63
資料 3：《宮伝、煽動手段としての映画》における日本語からの翻訳文章	73
資料 4：《日本短篇小説集》における日本語からの翻訳文章	97
<b>第 2 章 例文</b>	
資料 5：魯迅著作作品における“過”の使用例	101
資料 6：魯迅翻訳作品における“過”の使用例	221
資料 7：今回使用した魯迅著作作品	403
資料 8：今回使用した魯迅翻訳作品	501
<b>第 3 章 例文</b>	
資料 9：「連体修飾語＋人称代詞」→他の構造	531
資料 10：他の構造→“定語＋人称代詞”	539
資料 11：「連体修飾語＋人称代詞」→“定語＋人称代詞”	543

ii



資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

14	1916	青年與性慾 (人生科學 一)	第1卷 第5号	孟明	p.1/ p.433	1915	人生科學 (2):青年 と性慾	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14.1 段目, 1.22	精神、柔弱、浮華、等性。皆易 使性慾猖獗之媒。他如癆症、皮 膚症、癩疾症、淋病。無論何 者。皆足以引意志之力。而使性 慾旺盛。	懶惰、柔弱、榮華、これ等は性 慾を激瀾たらしめ、多くの疾患 例へば肺結核、皮膚病、糖尿 病、淋疾などいづれも意志の力 を削ぎ去りて性的エネルギーを旺盛 ならしめる。	①	性
15	1916	青年與性慾 (人生科學 一)	第1卷 第5号	孟明	p.1/ p.433	1915	人生科學 (2):青年 と性慾	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14.2 段目, 1.24	以想像代眞實耗神費精多於實際 且失電磁氣の平衡力	實にこの想像を以て眞實を代表 せしむることには神經を費すこと 夥しく忌憚なくいへば自慙にあ りては電磁氣的平衡を失ふが故 である。	②	電磁 氣
16	1916	青年與性慾 (人生科學 二)	第1卷 第5号	孟明	p.1/ p.433	1915	人生科學 (2):青年 と性慾	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14.2 段目, 1.29	兩親乳母及保母親友等。對於小 兒。喜戯弄其下體以為樂。無罪 之小兒不白知也。亦時日弄下 體。其親不之禁。終必招最堪戰 懼之結果。	ザルツマンは言ふ。『乳母や子 守加之兩親さへも、子供に對し 或は遊戯的に或は淫褻的に、或 は泣きやませたり、早く眠らせ たりする目的を以て、子供の局 所を弄ぶやうなことがあると、 罪ない子供は知らず／＼己が手 を其の方に持ち運ぶ様になり 遂には戦慄すべき結果を招くや うになる』と。	①	遊戯
17	1916	青年與性慾 (人生科學 二)	第1卷 第5号	孟明	p.1/ p.433	1915	人生科學 (2):青年 と性慾	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14.2 段目, 1.29	兩親乳母及保母親友等。對於小 兒。喜戯弄其下體以為樂。無罪 之小兒不白知也。亦時日弄下 體。其親不之禁。終必招最堪戰 懼之結果。	ザルツマンは言ふ。『乳母や子 守加之兩親さへも、子供に對し 或は遊戯的に或は淫褻的に、或 は泣きやませたり、早く眠らせ たりする目的を以て、子供の局 所を弄ぶやうなことがあると、 罪ない子供は知らず／＼己が手 を其の方に持ち運ぶ様になり 遂には戦慄すべき結果を招くや うになる』と。	該当 箇所 省略 の為 翻訳 なし	猥褻
18	1916	青年與性慾 (人生科學 二)	第1卷 第5号	孟明	p.2/ p.434	1915	人生科學 (2):青年 と性慾	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14.3 段目, 1.23	内部精神靈學的緊張血液衝上頭 部	ザルツマンは言ふ。『乳母や子 守加之兩親さへも、子供に對し 或は遊戯的に或は淫褻的に、或 は泣きやませたり、早く眠らせ たりする目的を以て、子供の局 所を弄ぶやうなことがあると、 罪ない子供は知らず／＼己が手 を其の方に持ち運ぶ様になり 遂には戦慄すべき結果を招くや うになる』と。	②	癡癡

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

19	1916	青年與性慾 (人生科學 二)	第1卷 第5号	孟明		1915	人生科學 (2):青年 と性慾	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14.5 段目, 1.5	該當箇所翻訳なし	哲學、文學、是等は何等の具體 的解決を與へては異れぬ。	該當 箇所 省略 の為 翻訳 なし	具體
20	1916	青年與性慾 (人生科學 一)	第1卷 第5号	孟明	p.2/ p.434	1915	人生科學 (2):青年 と性慾	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14.5 段目, 1.9	杜治白慰之法。	自慰に對する醫師の態度就中そ の醫學的治療の方法は、	該當 箇所 省略 の為 翻訳 なし	醫學
21	1916	青年與性慾 (人生科學 二)	第1卷 第5号	孟明	p.2/ p.434	1915	人生科學 (2):青年 と性慾	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14.5 段目, 1.15	禁讀淫書小説及玩春畫	挑發的讀み物を下げ、	①	挑發
22	1916	青年與性慾 (人生科學 一)	第1卷 第5号	孟明	p.2/ p.434	1915	人生科學 (2):青年 と性慾	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14.5 段目, 1.19	然根本之救濟法。在……	然し乍ら上記は實にいはゞ症候 的的治療法で決して根本的では ない。	該當 箇所 省略 の為 翻訳 なし	症候
23	1916	青年與性慾 (人生科學 二)	第1卷 第5号	孟明	p.2/ p.434	1915	人生科學 (2):青年 と性慾	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14.5 段目, 1.20	然根本之救濟法。在……	然し乍ら上記は實にいはゞ症候 的的治療法で決して根本的では ない。	①	根本
24	1916	青年與性慾 (人生科學 一)	第1卷 第5号	孟明		1915	人生科學 (2):青年 と性慾	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14.5 段目, 1.24	該當箇所翻訳なし	ゲルリಂಗもいつて居るやうに 『自慰の救濟を委ねべき適任者 は自教師ではなくて醫師であ る』に迷ひはないが、医師は たとへばこれ等症候的的治療法を述 べたばかりで其任を全うしたと はいはれない。	該當 箇所 省略 の為 翻訳 なし	症候

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

25	1916	青年與性慾 (人生科學 二)	第1卷 第5号	孟明	p.2/ p.434	1915	人生科學 (2): 青年 と性慾	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14, 5 段H, L.46	其間堅持忍耐之力。終生享用無 窮者也。	其間を辛抱すれば永遠に生きる ことが出来るので、時代の所謂 美的生活本能減足の時代はずつ とノ過去に屬することを切に 記憶して貰ひたい。	美	該箇所 省略の為 の翻訳 なし
26	1916	人口問題與 醫學(人生 科學三)	第1卷 第6号	孟明	p.4/ p.246	1915	人生科學 (3): 人口 問題と醫學	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14, 5 段H, L.29	該箇所翻訳なし	グラスルの此の説は果して我が 日本の社態に直ちに適合するや 否やはなほ詳細な研究を要する のであるが兎に角最近急激なる 人口増加によりて、前途に濃厚 なる災害の漂ひ來りたる矢先、 生殖問題の生物學的又は醫學的 的であると思ふ。	生物學	該箇所 省略の為 の翻訳 なし
27	1916	人口問題與 醫學(人生 科學三)	第1卷 第6号	孟明	p.4/ p.246	1915	人生科學 (3): 人口 問題と醫學	小酒井光 次(小酒井 不木)	p.14, 5 段H, L.29	該箇所翻訳なし	グラスルの此の説は果して我が 日本の社態に直ちに適合するや 否やはなほ詳細な研究を要する のであるが兎に角最近急激なる 人口増加によりて、前途に濃厚 なる災害の漂ひ來りたる矢先、 生殖問題の生物學的又は醫學的 的であると思ふ。	醫學	該箇所 省略の為 の翻訳 なし
28	1917	中國學研究 者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.4/ p.246	1917	支那學研究 者之任務	桑原臨藏	p.505	然欲窮本溯源。爲根本的研究。	更に一層溯つて、根本的に支那 を研究するには、是非其支那を 參考せなければならぬ。	根本	②
29	1917	中國學研究 者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.4/ p.246	1917	支那學研究 者之任務	桑原臨藏	p.505	欲利用之。必先以科學的方法細 密整理之。整理之後。再以科學 的方法研究之始可。	之を利用する前に、先づ科學的 方法で十分に整理を加へ、かく 整理した材料を、科學的方法に よつて、研究せなければならぬ と思ふ。	科學	②

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

30	1917	中國學研究 者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.4/ p.246	1917	支那學研究 者之任務	桑原臨藏	p.506	欲利用之。必先以科學的方法細 密整理之。整理之後。再以科學 的方法研究之始可。	之を利用する前に、先づ科學的 方法で十分に整理を加へ、かく 整理した材料を、科學的方法に よつて、研究せなければならぬ と思ふ。	科學	②
31	1917	中國學研究 者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.4/ p.246	1917	支那學研究 者之任務	桑原臨藏	p.506	以歐皇所及。我國(日本)之於 中國學研究上。似尚未能十分利 用科學的方法。	若し吾が審の見る所に大なる誤 がないならば、我國に於ける支 那學研究には、この科學的方法 が、まだ十分に利用されて居ら ぬ様である。	科學	②
32	1917	中國學研究 者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.4/ p.246	1917	支那學研究 者之任務	桑原臨藏	p.506	長有近於慶祝科學的方法者。	我しきはこの科學的方法を無程 して居る様に、疑はれる點もあ る。	科學	②
33	1917	中國學研究 者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.4/ p.246	1917	支那學研究 者之任務	桑原臨藏	p.506	詎知所謂科學的方法。並不僅可 應用於西洋學問。	科學的方法は西洋の學問のみに 應用すべきものでない。	科學	②
34	1917	中國學研究 者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.4/ p.246	1917	支那學研究 者之任務	桑原臨藏	p.506	採掘中國礦山。以用最新科學的 方法。收益爲最大。	支那の礦山を採掘するには、矢 張り最新の科學的方法によるの が、一番利益が多人である。	科學	②
35	1917	中國學研究 者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.4/ p.246	1917	支那學研究 者之任務	桑原臨藏	p.506	敷設中國鐵路。亦以本科學的方 法。奏功爲最偉。	支那に敷設する鐵道でも、大張 り科學的方法に本づくのが、一 番奏功が確實である。	科學	②
36	1917	中國學研究 者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.4/ p.246	1917	支那學研究 者之任務	桑原臨藏	p.506	中國學之對象。Object 雖爲中 國。其書雖爲中國人著書。然其 研究方法。終不可非科學的也。	支那學はその對象が支那であつ ても、又は支那人の書いた書籍 であつても、その研究は、必ず 科學的でなければならぬ。	科學	②



## 資料①

第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

37	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.5/ p.247	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.507	彼以驚人之力、及熱心、蒐集關於阿拉伯無敵之材料。而以科學的方法、一一整理之。	科學
38	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.5/ p.247	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.508	其研究方法、則屬科學的。堅韌可恃。	科學
39	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.9/ p.251	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.515	科學的研究方法。起自西洋。吾輩不可取而應川於東洋學問中。且自實際言之。更非應用之不可。	科學
40	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.9/ p.251	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.515	顧我國(日本)中國學研究者。尚於此法。三致意焉。	科學
41	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.9/ p.251	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.516	科學的方法有二。曰分析的、曰綜合的。	科學
42	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.9/ p.251	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.516	科學的方法有二。曰分析的、曰綜合的。	分析
43	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.9/ p.251	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.516	科學的方法有二。曰分析的、曰綜合的。	綜合
44	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.9/ p.251	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.516	已批判之史料、已考究之史實、而統一之、綜合之、更立一大概括的結論。此後者事。	概括

7

## 資料②

第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

45	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.9/ p.251	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.516	然試一通覽我國(日本)今日中國學研究狀態。則分析法似稍行。而綜合法殊渺然。	分析
46	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.9/ p.251	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.516	然試一通覽我國(日本)今日中國學研究狀態。則分析法似稍行。而綜合法殊渺然。	綜合
47	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.9/ p.251	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.516	東洋史範圍甚大。才經開拓。拘泥於部分的。亦屬於不得已。	部分
48	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.9/ p.251	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.517	同屬要緊。而尤以盡力於綜合的方面。為不可忽。	綜合
49	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.9/ p.251	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.517	能樹立此綜合的方法。不特可為中國學界前途祝福。	綜合
50	1917	中國學研究者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.10/ p.252	1917	支那學研究者の任務	桑原臨藏	p.518	其結果遂過趨專門。一般人咀嚼之、了解之、尚不能。遺言利用	専門

8

51	1917	中國學研究 者之任務	第3卷 第3号	J. H. C. 生	p.12/ p.254	1917	文壇學研究 者の任務	桑原隲藏	p.524	正史全體が餘りに大業ならば、 差當り『史記』とか『漢書』と か、將た『唐書』とか、比較的 關係の廣い正史だけでも	比較	②
52	1918	貞操論	第4卷 第5号	周作人	p.388/ p.421	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.131	就想把貞操、照現代的思想、 當作新道德、去權護也。	現代	④
53	1918	貞操論	第4卷 第5号	周作人	p.389/ p.422	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.133	貞操は屬於精神的のものです か、肉體的のものですか、愛情 のものですか、性交のものでは ないですか、同時に肉體的の もの、謂ゆる靈肉一致のもの のものですか、かう云ふ區別も まだ鮮明になつて居ませんやう に思はれます。	精神	④
54	1918	貞操論	第4卷 第5号	周作人	p.389/ p.422	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.133	貞操は屬於精神的のものです か、肉體的のものですか、愛情 のものですか、性交のものでは ないですか、同時に肉體的の もの、謂ゆる靈肉一致のもの のものですか、かう云ふ區別も まだ鮮明になつて居ませんやう に思はれます。	肉體	④
55	1918	貞操論	第4卷 第5号	周作人	p.389/ p.422	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.133	貞操は屬於精神的のものです か、肉體的のものですか、愛情 のものですか、性交のものでは ないですか、同時に肉體的の もの、謂ゆる靈肉一致のもの のものですか、かう云ふ區別も まだ鮮明になつて居ませんやう に思はれます。	精神	④

56	1918	貞操論	第4卷 第5号	周作人	p.389/ p.422	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.133	貞操は屬於精神的のものです か、肉體的のものですか、愛情 のものですか、性交のものでは ないですか、同時に肉體的の もの、謂ゆる靈肉一致のもの のものですか、かう云ふ區別も まだ鮮明になつて居ませんやう に思はれます。	肉體	④
57	1918	貞操論	第4卷 第5号	周作人	p.389/ p.422	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.133	貞操は屬於精神的のものです か、肉體的のものですか、愛情 のものですか、性交のものでは ないですか、同時に肉體的の もの、謂ゆる靈肉一致のもの のものですか、かう云ふ區別も まだ鮮明になつて居ませんやう に思はれます。	靈肉 一致	②
58	1918	貞操論	第4卷 第5号	周作人	p.389/ p.422	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.133	倘説は屬於精神的、照當淫の論 法、一見別家婦女動了情、便己 或女人見了男人、動了愛情、那 精神的貞操、便算破了。	精神	④
59	1918	貞操論	第4卷 第5号	周作人	p.389/ p.422	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.133	倘説は屬於精神的、照當淫の論 法、一見別家婦女動了情、便己 或女人見了男人、動了愛情、那 精神的貞操、便算破了。	精神	②

## 資料①

第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

60	1918	貞操論	第4巻 第5号	周作人	p.389/ p.422	1915	貞操に對する疑心	与謝野晶子	p.133	照這樣說,有什麼人在結婚前,絕對的不曾犯過這「心的不貞」呢?	心	②
61	1918	貞操論	第4巻 第5号	周作人	p.389/ p.422	1915	貞操に對する疑心	与謝野晶子	p.133	如果說貞操是屬於精神的,對於這件問題,卻須澈底的想・總是。道德這事,果能制裁人心的極微到如此地步麼?	精神	⑨
62	1918	貞操論	第4巻 第5号	周作人	p.389/ p.422	1915	貞操に對する疑心	与謝野晶子	p.133	肉體肉體上曾有關係,祇說精神的未嘗相許,豈非便與貞操道德毫不相背了麼?	肉體	⑨
63	1918	貞操論	第4巻 第5号	周作人	p.389/ p.422	1915	貞操に對する疑心	与謝野晶子	p.133	肉體肉體上曾有關係,祇說精神的未嘗相許,豈非便與貞操道德毫不相背了麼?	精神	②
64	1918	貞操論	第4巻 第5号	周作人	p.390/ p.423	1915	貞操に對する疑心	与謝野晶子	p.134	世間の大婦,都有性交雖然姿續,精神上十分冷淡;有或肉體上也無關係,精神上也互相憎惡,欲仍然同住在一處;這樣的人,明明已經破了精神的貞操。可是奇怪,貞操道德非但不把他們當作不貞的男女看待,去責備他;祇要他們表面上是夫婦,終身在一處過活,便反把他當作貞婦看待;那又是什麼緣故呢?	精神	⑨

11

## 資料②

第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

65	1918	貞操論	第4巻 第5号	周作人	p.390/ p.423	1915	貞操に對する疑心	与謝野晶子	p.134	世間の大婦,都有性交雖然姿續,精神上十分冷淡;有或肉體上也無關係,精神上也互相憎惡,欲仍然同住在一處;這樣的人,明明已經破了精神的貞操。可是奇怪,貞操道德非但不把他們當作不貞的男女看待,去責備他;祇要他們表面上是夫婦,終身在一處過活,便反把他當作貞婦看待;那又是什麼緣故呢?	精神	⑨
66	1918	貞操論	第4巻 第5号	周作人	p.390/ p.423	1915	貞操に對する疑心	与謝野晶子	p.134	世間の大婦,都有性交雖然姿續,精神上十分冷淡;有或肉體上也無關係,精神上也互相憎惡,欲仍然同住在一處;這樣的人,明明已經破了精神的貞操。可是奇怪,貞操道德非但不把他們當作不貞的男女看待,去責備他;祇要他們表面上是夫婦,終身在一處過活,便反把他當作貞婦看待;那又是什麼緣故呢?	精神	②
67	1918	貞操論	第4巻 第5号	周作人	p.390/ p.423	1915	貞操に對する疑心	与謝野晶子	p.134	倘說是屬於肉體的,男女當然是絕對不能結婚。	肉體	⑨
68	1918	貞操論	第4巻 第5号	周作人	p.390/ p.423	1915	貞操に對する疑心	与謝野晶子	p.134	不但如此,如或女子因強暴失身,男子容納了弃女,便都已破了貞操,一生不能結婚了。	精神	⑨

12

69	1918	貞操論 第4巻 第5号	周作人	p.390/ p.423	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.134	「精神上悔過の人、罪自除滅」、這樣美的思想、也可以說是曲庇敗德者、想該不能存在了。	精神的に悔ゆる者は其罪が除かれると云ふやうな美しい感情は背徳者を基底とするものとして許されぬことになるでせう。	精神	①
70	1918	貞操論 第4巻 第5号	周作人	p.390/ p.423	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.134	精神和肉體上都是从一の結婚、除了戀愛結婚、絕不能有。	精神的にも肉體的にも唯一を守る結婚と云ふものは戀愛結婚以外には遂げられない譯ですが、	精神	①
71	1918	貞操論 第4巻 第5号	周作人	p.390/ p.423	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.134	但今如要澈底的實踐貞操道德、又不曾將他解釋得決定明白；仍舊照從前曖昧的解釋、想去實行、必然生出許多矛盾、不能澈底的通行。	精神的にも肉體的にも唯一を守る結婚と云ふものは戀愛結婚以外には遂げられない譯ですが、併し貞操道德を徹底的に實踐しようとする、まだ貞操道德の解釋が前述のやうに明確になつて居らず、曖昧な解釋のままでは實踐しようとするれば幾多の矛盾が生じて徹底的であることが不可能になります。	肉體	①
72	1918	貞操論 第4巻 第5号	周作人	p.391/ p.424	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.136	但今如要澈底的實踐貞操道德、又不曾將他解釋得決定明白；仍舊照從前曖昧的解釋、想去實行、必然生出許多矛盾、不能澈底的通行。	併し貞操道德を徹底的に實踐しようとする、まだ貞操道德の解釋が前述のやうに明確になつて居らず、曖昧な解釋のままでは實踐しようとするれば幾多の矛盾が生じて徹底的であることが不可能になります。	徹底	②
73	1918	貞操論 第4巻 第5号	周作人	p.391/ p.424	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.136	但今如要澈底的實踐貞操道德、又不曾將他解釋得決定明白；仍舊照從前曖昧的解釋、想去實行、必然生出許多矛盾、不能澈底的通行。	併し貞操道德を徹底的に實踐しようとする、まだ貞操道德の解釋が前述のやうに明確になつて居らず、曖昧な解釋のままでは實踐しようとするれば幾多の矛盾が生じて徹底的であることが不可能になります。	徹底	②
74	1918	貞操論 第4巻 第5号	周作人	p.392/ p.425	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.136	對於結婚前欠行的女子、無論他是出於異性的誘惑、或是對於強暴、或是出他自己找來、便定他是失節的人、極嚴厲的責他；這種風氣、現在頗有勢力。	結婚前に一たび性交を経験した女は、それが異性から誘惑されたのであると、暴力で犯したたのであると、白から招いたのであるとに論なく、貞操的に汚れた女として峻烈に責められる風が一方に勢力を張つて居ます。	貞操	①

75	1918	貞操論 第4巻 第5号	周作人	p.392/ p.425	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.136	在男子一方面、既沒有貞操道德自發的要求、也沒有社會的強制。	男には貞操道德の自發的要求も社會的強要も行はれて居ないので。	自發	②
76	1918	貞操論 第4巻 第5号	周作人	p.392/ p.425	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.136	在男子一方面、既沒有貞操道德自發的要求、也沒有社會的強制。	男には貞操道德の自發的要求も社會的強要も行はれて居ないので。	社會	②
77	1918	貞操論 第4巻 第5号	周作人	p.392/ p.425	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.137	又聽有人說、貞操是祇有女子應守的道德；男子因生理的關係、不能守的。	貞操は女にのみ守ることが出来る道德で、男には生理的關係がそれを許さないと云ふやうなことも聞きます。	生理	②
78	1918	貞操論 第4巻 第5号	周作人	p.392/ p.425	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.137	若照生理的關係說來、女子一方面、也並不是全然沒有性欲衝動的危險時期。	若し生理的關係を云ふなら、女にも性欲衝動のために危険な時期がないとは云へないでせう。	生理	②
79	1918	貞操論 第4巻 第5号	周作人	p.392/ p.425	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.137	且並不止因生理的關係、一愛情關係、自不必說；或因再婚等事、反可開闢一種新生活的新緣故、有許多女子、不回避處女寡婦的節。於他却反是幸福。這樣例、世間上也極多。	また女も愛情のためからには勿論、再婚して新しい境遇を開くことと云ふやうな關係から却つて處女として寡婦としての貞操を守らない方が幸福な場合も理に多いのです。	生理	②
80	1918	貞操論 第4巻 第5号	周作人	p.393/ p.426	1915	貞操に對す る疑心	与謝野晶 子	p.138	將結婚前後、來區別貞操；算假結婚前的欠行、固是無理、結婚後無論如何、祇要合在一起、便算是貞德完全、也是形式的解釋。	結婚の前後を以て貞操を區別し、結婚以前の不品行を寛假するの道理のないことであり、結婚後も續けて居れば貞操の全然的な形式です。	形式	②

資料①  
第1章例文:《(新青年)》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

81	1918	貞操論	第4卷 第5号	周作人	p.393/ p.426	1915	貞操に對する 疑心	与謝野晶子	p.138	將結婚前後、來區劃貞操：真假結婚前の失行、固は無理、結婚後無論如何、祇要合在一起、便算是貞德完全、也是形式的解釋。	形式	②
82	1918	貞操論	第4卷 第5号	周作人	p.394/ p.427	1915	貞操に對する 疑心	与謝野晶子	p.139	倘若要常他作道德、一件實踐、非先將上文所說的疑問解決不可；非澈底的證明這貞操道德、無論何人、都可實踐、毫無矛盾不可。不然、就不能使我們滿足承認。	徹底	②
83	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.385/ p.433	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.8	第一は選舉權を以て國民の國家に奉ぐる或る特殊の勞務乃至提供に對し國家が單位的に與ふるものと爲すの説である。	報償	①
84	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高 涵	p.385/ p.433	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.9	尤も議會制度發達の沿革の上から云へば、此説には多少歴史的の意義がある。	歴史	②
85	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.386/ p.434	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.11	是れ今日の財産的制限の制度が著しく非難せらるゝ所以である。	財産	⑧
86	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.386/ p.434	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.11	但し選舉權に就ては、今日の歐羅巴各國は選舉權をば、兵役義務の一般的なるが如く同じく一般的として居るから、	一般	⑨

資料①  
第1章例文:《(新青年)》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

87	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.386/ p.434	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.11	但是現在歐洲各國都把選舉權和兵役一樣看待、當做人人都應該做的事、	一般	⑨
88	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.387/ p.435	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.12	照日本憲法條文、作形式上的解釋、也有一點道理。	形式	⑨
89	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.387/ p.435	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.13	現在一部分保守的專制政治家、祇礙得守這種解說、去解釋憲法、連川憲政、實在不合現在政治的實情。	保守	②
90	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.387/ p.435	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.14	應該把形式的法律論攔將起來、應該去研究政治的實質。	形式	②
91	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.387/ p.435	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.14	應該把形式的法律論攔將起來、應該去研究政治的實質。	實質	⑧
92	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.387/ p.435	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.14	茲に回有といふ意味は、法律に根據なくして先天的に有するとの謂ではない。	先天	⑨
93	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.387/ p.435	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.14	而して此に關する最近思想の沿革を歴史的に觀ると、	歴史	⑧

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

94	1919	選挙権理論 上の根拠	第6巻 第4号	高 涵	p.387/ p.435	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.14	(一)天主人権論 這種學說、是把十八世紀末了、法國人君主、張的個人絕對自由和個人無上權利的名義學說、總合在一塊兒的。	絶對
95	1919	選挙権理論 上の根拠	第6巻 第4号	高 涵	p.388/ p.436	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.15	到了末了、自然就拘束個人的國家權力、也是拿個人自由意思合攏起來的。	統一
96	1919	選挙権理論 上の根拠	第6巻 第4号	高 涵	p.388/ p.436	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.16	因爲這個理由、所以把參政權看作個人固有的、絕對的權力。	積極
97	1919	選挙権理論 上の根拠	第6巻 第4号	高 涵	p.388/ p.436	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.16	個人是組成全體的所有權體的一部分、所以可說個人都是有主權的人。	有機
98	1919	選挙権理論 上の根拠	第6巻 第4号	高 涵	p.388/ p.436	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.16	這種理論、直到一七九三年纔在法國憲法裏面、現出來成了一种制度。那個時代的論據、大概都根據這段所說的道理。	該當箇所省略の爲の翻訳なし
99	1919	選挙権理論 上の根拠	第6巻 第4号	高 涵	p.388/ p.436	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.17	我們應該斟酌的:就是第一死抱若天主人權說的人、必定想以民主共和作頂好的團體、到了結局、自然是承認君主政體的。	合理

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

100	1919	選挙権理論 上の根拠	第6巻 第4号	高 涵	p.388/ p.436	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.17	獨立自由、不過是我們將來可以做到的理想的標準。	理想
101	1919	選挙権理論 上の根拠	第6巻 第4号	高 涵	p.389/ p.437	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.18	然事實上不但不到場、並且主張的人日見多、這就不能不在天主人權說之外再找出一个根據了。	該當箇所省略の爲の翻訳なし
102	1919	選挙権理論 上の根拠	第6巻 第4号	高 涵	p.389/ p.437	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.18	選舉權論從根據天主人權說、變到第三階級說、中間的線索、看看歷史、更覺得明白。	該當箇所省略の爲の翻訳なし
103	1919	選挙権理論 上の根拠	第6巻 第4号	高 涵	p.389/ p.437	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.19	當十九世紀開頭、法國革命的時侯、大陸各國處處起了政治革命的運動;這種運動、都是得衆人力量成功的。	⑧
104	1919	選挙権理論 上の根拠	第6巻 第4号	高 涵	p.389/ p.437	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.20	後來一變、變成要求普通選舉權的思想。這種變遷、全是德國社會黨的功效	⑧
105	1919	選挙権理論 上の根拠	第6巻 第4号	高 涵	p.390/ p.438	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.21	倘若說用武力抵抗是破壞國家法制的規律。	⑨
106	1919	選挙権理論 上の根拠	第6巻 第4号	高 涵	p.390/ p.438	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.22	他相信現在法律範圍以內、可以實行社會主義的理想、却有兩個根據:	⑨

資料①  
第1章例文:《(新青年)における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

107	1919	選挙権理論 上の根拠	第6卷 第4号	高 涵	p.390/ p.438	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.22	照憲法上議院の權限做去豈有不能實行社會主義的理想を實現する事が出来るではないか。	然らば憲法上興られたる議員當の權能に基きて、合法的に社會主義的理想を實現する事が出る	該當箇所省略の為の翻訳なし
108	1919	選挙権理論 上の根拠	第6卷 第4号	高 涵	p.390/ p.438	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.23	(一) 因爲要擴張第三階級の利益, 又惹起階級の差別,	又第二にはプロレタリアの權利利益の伸張を圖る所から、階級の差別を激成し、	②
109	1919	選挙権理論 上の根拠	第6卷 第4号	高 涵	p.390/ p.438	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.23	就是不然, 這第三階級也祇能說是人數多一點, 不能說他人品好; 所以第三階級, 祇能代表多數, 却不能代表人品。	然らざるもプロレタリアは國內の量的優勢を代表するに止り、必しも質的優勢を代表するものではないと言ふ點に於て、今日は大に排斥さるゝ事になつた。	④
110	1919	選挙権理論 上の根拠	第6卷 第4号	高 涵	p.390/ p.438	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.23	就是不然, 這第三階級也祇能說是人數多一點, 不能說他人品好; 所以第三階級, 祇能代表多數, 却不能代表人品。	然らざるもプロレタリアは國內の量的優勢を代表するに止り、必しも質的優勢を代表するものではないと言ふ點に於て、今日は大に排斥さるゝ事になつた。	④
111	1919	選挙権理論 上の根拠	第6卷 第4号	高 涵	p.391/ p.439	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.24	因爲國家和個人是因有機的關係成立的。	こゝに國家と個人との微妙なる有機的關係が成立する。	②
112	1919	選挙権理論 上の根拠	第6卷 第4号	高 涵	p.391/ p.439	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.24	所以個人不能不盡心竭力的把國家弄好,	此の有機的關係を根柢として個人は十分に國家の充實に努力せなければならぬ。	該當箇所省略の為の翻訳なし

資料①  
第1章例文:《(新青年)における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

113	1919	選挙権理論 上の根拠	第6卷 第4号	高 涵	p.391/ p.439	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.24	一方可見國民有分擔經營國家的積極的責任, 又可見我們也定要求能盡經營國家職分的地位。	斯くして一方には、吾々國民は各々積極的の責任として進んで國家を経営すべき直後の分擔を有すとの見解も起り、また吾々はこの國家經營の積極的立場を十分果たし得る様な地位を與へられんことを要求すべしとの見解も生ずるのである。	②
114	1919	選挙権理論 上の根拠	第6卷 第4号	高 涵	p.391/ p.439	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.24	一方可見國民有分擔經營國家的積極的責任, 又可見我們也定要求能盡經營國家職分的地位。	斯くして一方には、吾々國民は各々積極的の責任として進んで國家を経営すべき直後の分擔を有すとの見解も起り、また吾々はこの國家經營の積極的立場を十分果たし得る様な地位を與へられんことを要求すべしとの見解も生ずるのである。	該當箇所省略の為の翻訳なし
115	1919	選挙権理論 上の根拠	第6卷 第4号	高 涵	p.391/ p.439	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.25	既然如此我們一方面爲盡經營國家的積極的責任, 所以有要求保護我們物質上精神上的權力;	果して然らば吾々は一方に於ては國家の經營に關する積極的責任を完了する爲めの物質上精神上の保障を要求するの權利あると共に、	②
116	1919	選挙権理論 上の根拠	第6卷 第4号	高 涵	p.391/ p.439	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.25	從國家方面說來, 不但應該組織國家的個人, 物質上精神上都要充足; 并且要叫他們爲國家作有意識的行動。這是頂好的事, 也是頂重要的事。	又、國家の方から言つても、國家を組織する各員を物質的に且つ精神的に充實せしむるのみならず、更に彼等をして國家の爲めに意識的に行動せしむる様にする事が得策であり又必要である。	④
117	1919	選挙権理論 上の根拠	第6卷 第4号	高 涵	p.391/ p.439	1919	選挙権擴張 問題	吉野作造	p.25	從國家方面說來, 不但應該組織國家的個人, 物質上精神上都要充足; 并且要叫他們爲國家作有意識的行動。這是頂好的事, 也是頂重要的事。	又、國家の方から言つても、國家を組織する各員を物質的に且つ精神的に充實せしむるのみならず、更に彼等をして國家の爲めに意識的に行動せしむる様にする事が得策であり又必要である。	④

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

118	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.391/ p.439	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.25	從國家方面說來，不但應該組織國家的個人，物質上精神上都要滿足；并且要叫他們爲國家作有意識的行動。這是頂好的事，也是頂重要的事。	又、國家の方から言つても、國家を組織する各員を物質的に且つ精神的に充實せしむるのみならず、更に彼等をして國家の爲めに意識的に行動せしむる様にする事が得策であり又必要である。	意識	④
119	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.391/ p.439	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.25	以上講の選舉權理論の根據、已に經變過三次了：	以上必ぶるが如く、選舉權の理論的根據に關する説明は三人變遷を遂げた。	理論	②
120	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.391/ p.439	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.25	直到現在，看他歷史上變遷的經過，或與共和主義或與社會主義有密切的關係，都是明明白白沒有一點疑義的。	其の結果として少くとも其變遷の歴史的過程に於ては、權選舉論が或は共和主義或は社會主義と密接の關係を有つて居たことは疑ない。	歴史	④
121	1919	選舉權理論 上の根據	第6卷 第4号	高一涵	p.391/ p.439	1919	選舉權擴張 問題	吉野作造	p.26	當有人說普通選舉，祇有共和國國家可以行的話；這話實在可笑。	殊に選舉權の國民的普及即ち普通選舉の論になると、	國民	該箇所省略の爲に 補記なし
122	1919	文藝的進化	第6卷 第6号	朱希祖	p.581/ p.655	1912	非物質主義 の文藝(其一) ：2 文藝の進化	厨川白村	p.424	所說的滅了，自然是一種通俗的意義；	滅びると云つてもそれは勿論通俗的な意味でないので、	通俗	②
123	1919	文藝的進化	第6卷 第6号	朱希祖	p.581/ p.655	1912	非物質主義 の文藝(其二) ：2 文藝の進化	厨川白村	p.424	這不是我一人獨斷，	之は必ずしも私が獨斷的に云ふのでは無い、	獨斷	⑧

資料②  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

124	1919	文藝的進化	第6卷 第6号	朱希祖	p.581/ p.655	1912	非物質主義 の文藝(其一) ：2 文藝の進化	厨川白村	p.425	至最近新浪漫派發生，這就是現實的自然主義重復歸到本流的情緒主義觀罷了。	最近の新浪漫派的傾向に至つては、即ち此現實的な自然主義がまた基本流たる情緒主義に向つて復歸せんとするものだと見てよからう。	新浪漫派	⑧
125	1919	文藝的進化	第6卷 第6号	朱希祖	p.581/ p.655	1912	非物質主義 の文藝(其二) ：2 文藝の進化	厨川白村	p.425	至最近新浪漫派發生，這就是現實的自然主義重復歸到本流的情緒主義觀罷了。	最近の新浪漫派的傾向に至つては、即ち此現實的な自然主義がまた基本流たる情緒主義に向つて復歸せんとするものだと見てよからう。	現實	②
126	1919	文藝的進化	第6卷 第6号	朱希祖	p.581/ p.655	1912	非物質主義 の文藝(其三) ：2 文藝の進化	厨川白村	p.425	此外支配於理智的科學的經驗的種種文學，實在可以當做一時變態現象看，這種都不能到底永續的，	これ以外の理知とか科學とか經驗とかいふものに支配された文學は、寧ろ一時的なる變態的現象と見做すべきもので、それは到底いつも永續きはしない。	一時	⑧
127	1919	文藝的進化	第6卷 第6号	朱希祖	p.582/ p.656	1912	非物質主義 の文藝(其四) ：2 文藝の進化	厨川白村	p.426	這兩方面，互相交錯而爲循環的表現；	この兩方が前後互に交錯して循環的にあらはれるのだ。	循環	②
128	1919	文藝的進化	第6卷 第6号	朱希祖	p.582/ p.656	1912	非物質主義 の文藝(其五) ：2 文藝の進化	厨川白村	p.427	雖然，同樣是浪漫的水，然決不是原來舊樣的水，這是不可不知的。	同じ浪漫内の水でも、それは決して元の儘の水ではない事を知らねばならぬ。	浪漫	②
129	1919	改發托爾斯泰的兩個農夫	第6卷 第6号	鄒翽	p.603/ p.679	1917	第二講 吶年の活動、その死	昇曙夢	p.79	「我的全生涯中，有俄羅斯的思想家二人，與我以至偉大之道德的影響，使我心中思想頓宕，我自身的世觀亦由此激悟。……」	「私の全生涯中二人の露西亞的思想家が、私に偉大な道德的影響を與へ、私の心を當ませ、私の爲に私自身の世界觀を証明した。……」	道德	②
130	1919	改發托爾斯泰的兩個農夫	第6卷 第6号	鄒翽	p.604/ p.680	1917	第二講 吶年の活動、その死	昇曙夢	p.81	他從此以後，遂捨了「教會的基督教」，獨自創建宗教，	此時から、彼は教會的基督教を捨て、獨自の宗教を打建てた。	教育	⑨



131	1919	啟發托爾斯泰的兩個農夫	第6卷 第6号	鄭誦	p.604/ p.680	1917	第二講 年の活動、 その死	武者小路 実篤	p.81	否定一切「形式的宗教儀式」,	彼は、すべての形式的な、宗教的的儀式を否定した。	形式	②
132	1919	啟發托爾斯泰的兩個農夫	第6卷 第6号	鄭誦	p.604/ p.680	1917	第二講 年の活動、 その死	武者小路 実篤	p.81	否定一切「形式的宗教儀式」,	彼は、すべての形式的な、宗教的的儀式を否定した。	宗教	⑧
133	1919	啟發托爾斯泰的兩個農夫	第6卷 第6号	鄭誦	p.604/ p.680	1917	第二講 年の活動、 その死	武者小路 実篤	p.82	蘇達歌由以爲要人間道德的復活, 必須改造社會組織。	また、ズラタエフは、人間の道德的信仰の爲には、社會組織を改造する必要がある。	道德	②
134	1919	啟發托爾斯泰的兩個農夫	第6卷 第6号	鄭誦	p.605/ p.681	1917	第二講 年の活動、 その死	武者小路 実篤	p.83	例如他的貧困者絶滅策, 使貧富均齊, 相共爲有益的生产的生活。	……即ち彼の貧困者絶滅策と云ふのは、相共に有益な生産的な生活に導かれ得る爲めに、豊かな人々の間へ貧民を配布する、といふのである。」	生産	②
135	1920	一個青年的夢	第7卷 第2号	魯迅	p.70/ p.228	1916	或る青年の夢	武者小路 実篤	p.242	你嘴裏說人類的愛等事,	お前は人類的愛と云ふことを口にする。	人類	②
136	1920	一個青年的夢	第7卷 第2号	魯迅	p.71/ p.229	1916	或る青年の夢	武者小路 実篤	p.244	所以這些事人抵繼不過是從政治上的意味做的。	人概は政治的の意味でやるのに過ぎませんからな。	政治	⑨
137	1920	一個青年的夢	第7卷 第2号	魯迅	p.72/ p.230	1916	或る青年の夢	武者小路 実篤	p.246	叫我主張「人類的國家」麼?	人類的國家を主張しろとおつしやるのですか。	人類	②
138	1920	一個青年的夢	第7卷 第2号	魯迅	p.76/ p.234	1916	或る青年の夢	武者小路 実篤	p.256	雖然不是世界知名的畫家, 朋友却都以為有希望的。	世界的に有名な畫家ではありませんが、仲間には有望と思はれておりました。	世界	⑧

139	1920	一個青年的夢	第7卷 第2号	魯迅	p.77/ p.235	1916	或る青年の夢	武者小路 実篤	p.257	什麼人道呵, 平和呵, 愛呵, 四海同胞呵, 這些事全比拿破崙的空想, 尤其空想。	人道とか、平和とか、愛とか、四海同胞とか、そんなことは空想家の空想よりもはなは空想的なものです。	空想	⑧
140	1920	一個青年的夢	第7卷 第2号	魯迅	p.84/ p.242	1916	或る青年の夢	武者小路 実篤	p.271	爲本國物質的利益計, 滅亡了別國, 是不合理的;	自國の物質的利益の爲に他國を亡國にすることは不合理なことです。	物質	②
141	1920	一個青年的夢	第7卷 第2号	魯迅	p.85/ p.243	1916	或る青年の夢	武者小路 実篤	p.274	但我們所能承認的戰爭的起因, 除了國家的利己家的戰爭是另一事以外, 其實只有怕敵國這一點。	國家的エゴイストの戰爭は別として、眞に我々が認めるべき、戰爭の原因はたゞお互に屬國にされることが恐ろしい評りである戦争です。	國家	②
142	1920	一個青年的夢	第7卷 第2号	魯迅	p.85/ p.243	1916	或る青年の夢	武者小路 実篤	p.275	這一類人, 一到社會的道德進步了, 也要羞恥那些事。	その人達も、社會的道德が進歩すればさう云ふことをすることには恥ぢるべきです。	社會	②
143	1920	一個青年的夢	第7卷 第2号	魯迅	p.86/ p.244	1916	或る青年の夢	武者小路 実篤	p.275	我們應該結一個不肯爲國別國做屬國而戰的世界的同盟。	我々は他國を屬國にする爲には戦はないと云ふ同盟を世界的につくるべきです。	世界	⑨
144	1920	一個青年的夢	第7卷 第2号	魯迅	p.87/ p.245	1916	或る青年の夢	武者小路 実篤	p.277	你的話過於調和的, 沒有權威;	あなたの云ふのはあまり妥協的で、權威がない。	妥協	⑨
145	1920	一個青年的夢	第7卷 第2号	魯迅	p.88/ p.246	1916	或る青年の夢	武者小路 実篤	p.280	但據我現在的問題, 除了這樣理想的方法以外, 實在沒有別的更有效的合理的簡單方法;	だが自分の今の頭ではあつて云ふ理想的方法より外にもつと有効で合理的で単純な方法を知らないのです。	合理	②
146	1920	一個青年的夢	第7卷 第2号	魯迅	p.98/ p.256	1916	或る青年の夢	武者小路 実篤	p.302	我們也想像著一個沒有戰爭的時代, 但不以為能從耶穌教這樣無我愛, 或無抵抗主義的傾向, 可以到來。	我々は想像しませんが、それは耶穌教や佛敎のやうな無我愛、或は無抵抗主義的な傾向から来るものとはどうも思へません。	無抵抗主義	②

資料①  
第1章例文:《(新青年)における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

147	1920	一個青年的夢	第7卷第2号	魯迅	p.98/ p.256	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.302	只有■■■■入了兀其主义的、利己的立脚地以後、要消滅戰爭、戰爭纔也就消滅。	もつとずつと主義的な、エゴイスト的な立場がまじりこんで、戦争がなくなればなくなるだらうと思ひます。	自我	②
148	1920	一個青年的夢	第7卷第2号	魯迅	p.98/ p.256	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.302	我想只有我們更加聰明一點、涸竭了共同的不幸的源泉、戰爭纔會消滅的。	我々はもつと賢くなることによつて、共同的不幸の源をからすことによつてのみ戦争はなくなり得ると思ふのです。	共同	②
149	1920	一個青年的夢	第7卷第2号	魯迅	p.99/ p.257	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.304	我想倘若人期望永生長到「人類的」的、戰爭是不會停止;	私は人間がまだ人類的にまで生長しざらない内は戦争がやまないものだと思つてゐます。	人類	②
150	1920	一個青年的夢	第7卷第2号	魯迅	p.101/ p.259	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.309	將人不當人的壓制的政治、漸漸的會從這世界上消去。	人間を人間として認めないやうな壓制的な政治は次第にこの世から姿をなくすでせう。	壓制	②
151	1920	一個青年的夢	第7卷第2号	魯迅	p.102/ p.260	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.310	我們該在真的意味上、更做到人類的的人。	我々はもつと／＼眞の意味で人類的の人間にならなければなりません。	人類	②
152	1920	一個青年的夢	第7卷第2号	魯迅	p.102/ p.260	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.310	我們很怕人類的運命的進行、取了現在這般國家主義的建路。	我々は今の國家主義的のコースをとつて人類の運命をすゝめてゆくことを恐れます。	國家主義	②
153	1920	一個青年的夢	第7卷第3号	魯迅	p.60/ p.424	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.329	金錢的價值、全世界都通行;	金の價値は世界的に通用します。	世界	⑨
154	1920	一個青年的夢	第7卷第3号	魯迅	p.60/ p.424	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.329	他們並不思什麼高尚生活、只是度不成尋常生活、所以做了托鉢和尚、在那裏仰慕着富翁罷了。	高き生活を示す爲ではなく、たゞ世間的に生きたくも生きれないので乞食坊主になつて、富者をうらやましてゐるものが多いのです。	人間	⑨
155	1920	一個青年的夢	第7卷第3号	魯迅	p.63/ p.427	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.336	總想竭力的立在人類的愛的上面、做點事情。	どうしても人類の愛の上になつて仕事をしたいと思ひます。	人類	②

資料①  
第1章例文:《(新青年)における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

156	1920	一個青年的夢	第7卷第4号	魯迅	p.3/ p.643	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.392	我的書裏沒有顯出這個麼?從不妄發出來的人類的愛?	私の書にはそれが出てはゐるかもしれませんかね。不安から生れた、人類的の愛が。	人類	②
157	1920	一個青年的夢	第7卷第4号	魯迅	p.21/ p.661	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.432	你的話、都理想的人過了。	君の云ふことは理想的すぎる。	理想	②
158	1920	一個青年的夢	第7卷第5号	魯迅	p.3/ p.767	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.445	有果實有、便立了法律、將這種不念國家、亡國性的東西、都關到監獄裏去。	あれば法律をつくつてそんな國のことを思はない、亡國的な人間は牢屋に入れてやります。	亡國	①
159	1920	一個青年的夢	第7卷第5号	魯迅	p.9/ p.773	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.460	幸而健全的愛國分子還很多、不妨事的。	だがまだ／＼健全な愛國的な分子に當んでゐますから大丈夫です。	愛國	②
160	1920	一個青年的夢	第7卷第5号	魯迅	p.17/ p.781	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.477	不問什麼事、全是合理的的做去的路故;	なんでも合理的にやつてゆきますからね。	合理	②
161	1920	一個青年的夢	第7卷第5号	魯迅	p.17/ p.781	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.477	就將要保守的英大、囑他一回給你着。	保守的な英大郎を今におどかして見せますよ。	保守	②
162	1920	一個青年的夢	第7卷第5号	魯迅	p.24/ p.788	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.493	示威運動固然也許含着外交的策略;但蠢笨的軍器、便會因此發昏;再沒有想到什麼國家的事的餘裕了。	示威運動は外交的策路もふくんでゐるでせうが、馬鹿な群衆はそれで夢中になつてしまひます。國のことなんか考へる餘裕がなくなります。	外交	②
163	1920	一個青年的夢	第7卷第5号	魯迅	p.27/ p.791	1916	或る青年の夢	武者小路実篤	p.499	只要用了你的鐵密的隱隨、科學的智識、你的耐心和固執、未降單到英大的本國裏、也未必是做不到的事。	お前の緻密な頭と、科學的知識と、お前の根氣と執着をもつてすれば、英大郎の本國兵を送れないことにはあるまい。	科學	②

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

164	1920	一個青年的夢	第7卷 第5号	魯迅	p.31/ p.796	1916	或る青年の夢	武者小路 実篤	p.510	倘使那野蠻的粗雜的無趣的冰冷的理智的單講科學的德大的空氣,當真支配了世界,我們的國民便難望活着了。	實際あの野蠻な、粗雑な、無趣味な、理智的な、科學一てんばたない、獨大郎の空氣が世界を支配することしたら、我々の國民は生きることが望ますまい。	②	理智		
165	1920	深夜的喇叭	第8卷 第4号	周作人	p.228	1916	深夜のラッパ	千家元麿	p.182	我聽了喇叭,總是消極的當不住的感到悲哀;	自分はあの喇叭を聞くといつもの消極的にたまらなく悲しい氣持になる。	②	消極		
166	1921	勞農俄國底勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.13/ p.731	1921	勞働組合の組織と職分(1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.131	除了個人特殊的利害和過家全體的利益;此外再也沒有甚麼中間的利益。	各個人の特種な利害と、國家全體の利害はない。	②	中間		
167	1921	勞農俄國底勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.13/ p.731	1921	勞働組合の組織と職分(1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.131	也以「……無論如何,不許再以中間的利害鼓吹市民,以團體的利害離間市民」為理由,禁止了所有勞動者底團體。	何人と雖も、斯くの如き中間的の利害を市民に鼓吹し、團體の利害を以て市民を分裂せしむることを許さない』といふ理由を以て、労働の一切の團體を禁止した。	②	中間		
168	1921	勞農俄國底勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の組織と職分(1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.132	在那專制時代,真正聯合的行動又全被嚴重禁止;那些聯合底事業,也就只幹些救濟疾病,傷殘,失業等等底共濟事務。	しかし帝政時代には、階級的意識の上に立つ眞の組合的行動では、全く禁止せられて居つたので、是等の組合は何つれも皆、熟練工の狭い職別的組合であつて、其行動は疾病、傷害、失業、手當などの如き、共濟的事業に限られてゐた。		該當箇所省略の為翻訳なし	階級	

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

169	1921	勞農俄國底勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の組織と職分(1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.133	在那專制時代,真正聯合的行動又全被嚴重禁止;那些聯合底事業,也就只幹些救濟疾病,傷殘,失業等等底共濟事務。	しかし帝政時代には、階級的意識の上に立つ眞の組合的行動では、全く禁止せられて居つたので、是等の組合は何つれも皆、熟練工の狭い職別的組合であつて、其行動は疾病、傷害、失業、手當などの如き、共濟的事業に限られてゐた。	⑨	組合		
170	1921	勞農俄國底勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の組織と職分(1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.133	在那專制時代,真正聯合的行動又全被嚴重禁止;那些聯合底事業,也就只幹些救濟疾病,傷殘,失業等等底共濟事務。	しかし帝政時代には、階級的意識の上に立つ眞の組合的行動では、全く禁止せられて居つたので、是等の組合は何つれも皆、熟練工の狭い職別的組合であつて、其行動は疾病、傷害、失業、手當などの如き、共濟的事業に限られてゐた。		該當箇所省略の為翻訳なし	職別	
171	1921	勞農俄國底勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の組織と職分(1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.133	在那專制時代,真正聯合的行動又全被嚴重禁止;那些聯合底事業,也就只幹些救濟疾病,傷殘,失業等等底共濟事務。	しかし帝政時代には、階級的意識の上に立つ眞の組合的行動では、全く禁止せられて居つたので、是等の組合は何つれも皆、熟練工の狭い職別的組合であつて、其行動は疾病、傷害、失業、手當などの如き、共濟的事業に限られてゐた。	⑧	共濟		

## 資料①

第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)

日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

172	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.133	職業的共濟聯合, 一面是於勞動 界底貴族和普通勞動者團結有妨 害;	斯ような共濟的の職別組合は、職 業的利益を目的とする利己的團 體であつて、一方には謂ゆる 『勞働界の貴族』を作り、是等 者との間の壁を高くし、	⑧ 共濟
173	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.133	職業的共濟聯合, 一面是於勞動 界底貴族和普通勞動者團結有妨 害;	斯ような共濟的の職別組合は、職 業的利益を目的とする利己的團 體であつて、一方には謂ゆる 『勞働界の貴族』を作り、是等 者との間の壁を高くし、	該箇所 省略の為 の翻訳 なし
174	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.133	職業的共濟聯合, 一面是於勞動 界底貴族和普通勞動者團結有妨 害;	斯ような共濟的の職別組合は、職 業的利益を目的とする利己的團 體であつて、一方には謂ゆる 『勞働界の貴族』を作り、是等 者との間の壁を高くし、	該箇所 省略の為 の翻訳 なし
175	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.133	職業的共濟聯合, 一面是於勞動 界底貴族和普通勞動者團結有妨 害;	斯ような共濟的の職別組合は、職 業的利益を目的とする利己的團 體であつて、一方には謂ゆる 『勞働界の貴族』を作り、是等 者との間の壁を高くし、	該箇所 省略の為 の翻訳 なし

## 資料①

第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)

日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

176	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.133	一面是於各種職業熟練工交互間 的團結又有妨害的。	各種の職業間の團結を妨げ、斯 くて勞働階級的全階級の結束を 防止し、	該箇所 省略の為 の翻訳 なし
177	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.133	在這專制時代底俄國, 差不多全 然沒有階級意識的戰鬥的聯合 運動。	斯ように帝政時代の露國には、階 級意識の上に立つ戰闘的の 組合運動は、殆んど見ることが 出来なかつた。	⑨ 階級
178	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.133	在這專制時代底俄國, 差不多全 然沒有階級意識的戰鬥的聯合 運動。	斯ように帝政時代の露國には、階 級意識の上に立つ戰闘的の 組合運動は、殆んど見ることが 出来なかつた。	② 戰闘
179	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.133	在歐洲認先進國, 資本階級底階 級的支配是混和在民治這種複雜 政治組織裏面的;	殊に歐米先進國に於ては、資本 家階級の階級的支配は、デモク ラシーと稱する複雑な政治組織 のうち織り込まれて居つた が、	② 階級
180	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.134	也並不是純粹產業的革命運動, 還是帶着點政治的色彩。	其運動は濟業的社會の革命運動 ではなくて、主として政治的の 色彩をもつてゐた。	② 産業
181	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.134	也並不是純粹產業的革命運動, 還是帶着點政治的色彩。	其運動は產業的社會の革命運動 ではなくて、主として政治的の 色彩をもつてゐた。	② 政治
182	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.14/ p.732	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.134	該箇所翻譯なし	そして勞働階級の革命的行動 が、更に中世的の遺物たる母制 政治の打破に向けられてゐたこ うな革命ではなくて、 革命ではなくて、	該箇所 省略の為 の翻訳 なし

## 資料①

第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)

日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

183	1921	労農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.134	該当箇所翻訳なし	そして労働階級の革命的行動が、軍に中世的の遺物たる専制政治の打破に向けられてゐた。革命ではなくて、それは純粹の無産階級の革命である。	該当箇所省略の為の翻訳なし
184	1921	労農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.134	該当箇所翻訳なし	そして労働階級の革命的行動が、軍に中世的の遺物たる専制政治の打破に向けられてゐた。それは、それは純粹の無産階級の革命ではなくて、	該当箇所省略の為の翻訳なし
185	1921	労農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.134	多年蘊積者の元氣、一時迸發；在政治方面、就顯出蘇維埃底組織；	⑨ 政治	
186	1921	労農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.134	在經濟方面、就顯出新聯合運動。	⑨ 經濟	

31

## 資料①

第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)

日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

187	1921	労農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.134	革命和革命結果所産的克倫斯奇臨時政府底資本階級の色彩越發鮮明、	該当箇所省略の為の翻訳なし	けれども専制政治が倒れて、謂ゆる民主的共和政治が之に代はつたといふことは、据拠ブルジョアの勝利に外ならぬ。ブルジョアは民主的共和政治によつて、自己特權と支配形式—政治形式—を確立したものに外ならぬ。そこでブルジョア・デモクラシーの下では、資本家階級の支配は益々露骨になつて来る。	該当箇所省略の為の翻訳なし
188	1921	労農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.134	該当箇所翻訳なし	該当箇所省略の為の翻訳なし	若しこの階級的の支配が、革命の直後には尚ほ露骨でなかつたとすれば、	該当箇所省略の為の翻訳なし
189	1921	労農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.134	該当箇所翻訳なし	該当箇所省略の為の翻訳なし	労働階級の革命的威力は、	該当箇所省略の為の翻訳なし
190	1921	労農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.134	該当箇所翻訳なし	該当箇所省略の為の翻訳なし	そこで労働階級に對する、政治的革命的結果が段々明らかになり、	該当箇所省略の為の翻訳なし

32

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

191	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.134	該当箇所翻訳なし	そしてこの政治的革命的の結果として生まれたケレンスキエーの臨時政府の、資本階級の色彩が愈々明らかになるにつれ、	該当箇所省略の為の翻訳なし
192	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.135	該当箇所翻訳なし	そしてこの政治的革命的の結果として生まれたケレンスキエーの臨時政府の、資本階級の色彩が愈々明らかになるにつれ、	該当箇所省略の為の翻訳なし
193	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.135	該当箇所翻訳なし	労働階級の運動は、漸次に経済的社會革命的の喧嘩によつて動かされるものとなり、	該当箇所省略の為の翻訳なし
194	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.135	該当箇所翻訳なし	その組合運動は、漸く階級の意識の上立つものとなつて來た。	該当箇所省略の為の翻訳なし
195	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.135	這就發生一種工廠委員の新聯合運動、反抗那向來專門從事共濟的行動那種保守的、排他的職業聯合運動。	② 共濟	

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

196	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.135	這就發生一種工廠委員の新聯合運動、反抗那向來專門從事共濟的行動那種保守的、排他的職業聯合運動。	② 保守	
197	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.135	這就發生一種工廠委員の新聯合運動、反抗那向來專門從事共濟的行動那種保守的、排他的職業聯合運動。	② 排他	
198	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.135	這就發生一種工廠委員の新聯合運動、反抗那向來專門從事共濟的行動那種保守的、排他的職業聯合運動。	⑧ 職別	
199	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.135	這種工廠委員運動、他底起源同歐戰時英國發生的「工廠委員連動」(Shop Stewar ds Movement)並非一樣。	職別	該当箇所省略の為の翻訳なし
200	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	労働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.135	這種工廠委員運動、他底起源同歐戰時英國發生的「工廠委員連動」(Shop Stewar ds Movement)並非一樣。	保守	該当箇所省略の為の翻訳なし

## 資料①

第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)

日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

201	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.135	該当箇所翻訳なし	從來の職別的組合は、少數無業の職業上の利益を目的とする運動であつたが、	該当箇所省略の爲の翻訳なし
202	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.135	工廠委員運動、就是勞動者要求管理産業的運動。	該当箇所省略の爲の翻訳なし	
203	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.135	因爲二月革命純粹是政治的革命、勞動者底生活狀況絲毫沒有增進、	②	
204	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.136	因爲這樣、勞動聯合底運動就不單是些勞動條件問題、却要跨這經濟根本改造、收回産業管理權在生產者自己手裏底問題了。	⑧	
205	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.136	這種工廠委員運動、結果很好、勞動者底眼界常常因此很快地擴大起來、階級的意識也竟因此很快地滋長起來、	②	

35

## 資料①

第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)

日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

206	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.136	該当箇所翻訳なし	其結果、狹隘な職業的利害を以て分かれてゐた從來の職別的組合は急速に分解し、之に代はつて産業的の組合が勃興した。	該当箇所省略の爲の翻訳なし
207	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.136	該当箇所翻訳なし	其結果、狹隘な職業的利害を以て分かれてゐた從來の職別的組合は急速に分解し、之に代はつて産業的の組合が勃興した。	該当箇所省略の爲の翻訳なし
208	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.136	該当箇所翻訳なし	其結果、狹隘な職業的利害を以て分かれてゐた從來の職別的組合は急速に分解し、之に代はつて産業的の組合が勃興した。	該当箇所省略の爲の翻訳なし
209	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.136	到了臨時告終(一九一七年)從前職業的聯合就全然消滅、全然成了産業的聯合了。	職別	②
210	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.15/ p.733	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.137	那時約有三百萬勞動者、疲曠在這種産業的聯合裏面、	産業	②
211	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.16/ p.734	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.138	據英國下議院議員馬努入佐一九一九年十月調查的記述、那時俄國主要的職業聯盟已經有二十九個、代表着二十九種産業。	産業	⑨

36

## 資料①

第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

212	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.16/ p.734	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.139	最後、更將這組織起來的三十個 全國職業聯盟全勞動階級地集合 起來，組成個最後的機關。	斯くて出來上つた二十五個の全 體的產業組合は、更に全體勞動 組合人會によつて、全勞動階級 的に集中せられて居る。	④ 全譯
213	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.16/ p.734	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.139	最後、更將這組織起來的三十個 全國職業聯盟全勞動階級地集合 起來，組成個最後的機關。	斯くて出來上つた二十五個の全 體的產業組合は、更に全體勞動 組合人會によつて、全勞動階級 的に集中せられて居る。	④ 全譯
214	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.139	該当箇所翻訳なし	勞農政治の原則とする『民主的 集中』の組織は、労働組合の組 織の上にも現はれて居る。	該当 箇所 省略 の為 の翻 訳 なし
215	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.142	該当箇所翻訳なし	其人物と才幹と閱歷に於ても、 革命的労働階級の代表的人物で あつて、	該当 箇所 省略 の為 の翻 訳 なし
216	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.17/ p.735	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.143	労働聯合原是勞動階級的組 織；	労働組合は、労働者の階級的組 織であつて、	②
217	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.143	該当箇所翻訳なし	そこで言葉を換へて云へば、勞 働組織が社會的進化の上に行う 作用は、	該当 箇所 省略 の為 の翻 訳 なし

## 資料①

第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

218	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.144	該当箇所翻訳なし	少くとも組合運動者の主觀の上 でも、組合は主として階級的闘 争の組織であつて、	該当 箇所 省略 の為 の翻 訳 なし
219	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.144	該当箇所翻訳なし	且つ多數の人々に取つては寧ろ 無意識的に、發達して居るに過 ぎぬ。	該当 箇所 省略 の為 の翻 訳 なし
220	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.17/ p.735	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.144	然而我國這種勞動聯合，却已經 不是戰鬥底機關，却已是新經濟 組織底一部，而且就是他重要的 基礎。	ところが我國の労働組合は、最 早や階級的闘争の機關ではなく なつて、新しき經濟組織の一部 分となり、しかも其重要な部分 となつて居る。	該当 箇所 省略 の為 の翻 訳 なし
221	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.145	該当箇所翻訳なし	労働者の產業的團體は、最早 や、労働者が自分自身を僱主 は、最早や存在せぬ。	該当 箇所 省略 の為 の翻 訳 なし
222	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.145	該当箇所翻訳なし	『嚮國今日の產業的労働組合 は、一産業に従事する全ての勞 働者の、永久的の團體組織であ つて無産階級獨裁組織の、第一 の基礎をなすものである。	該当 箇所 省略 の為 の翻 訳 なし
223	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.145	該当箇所翻訳なし	『嚮國今日の產業的労働組合 は、一産業に従事する全ての勞 働者の、永久的の團體組織であ つて無産階級獨裁組織の、第一 の基礎をなすものである。	該当 箇所 省略 の為 の翻 訳 なし



資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

224	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.145	該当箇所翻訳なし	即ち今日の産業的労働組合は、其主力を經濟組織の領分に轉じて、社會を共產的基礎の上に建て直はすことと、社會的階級の廢止とを目的とする労働者の、有ゆる努力に参加し、協力するものである。	該当箇所省略の為翻訳なし
225	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.145	該当箇所翻訳なし	即ち今日の産業的労働組合は、其主力を經濟組織の領分に轉じて、社會を共產的基礎の上に建て直はすことと、社會的階級の廢止とを目的とする労働者の、有ゆる努力に参加し、協力するものである。	該当箇所省略の為翻訳なし
226	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.145	該当箇所翻訳なし	即ち今日の産業的労働組合は、其主力を經濟組織の領分に轉じて、社會を共產的基礎の上に建て直はすことと、社會的階級の廢止とを目的とする労働者の、有ゆる努力に参加し、協力するものである。	該当箇所省略の為翻訳なし
227	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.146	該当箇所翻訳なし	(一)一般に、共產主義的基礎の上に生産を組織する事業に協力すること。	該当箇所省略の為翻訳なし
228	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.146	該当箇所翻訳なし	(五)義務的労働の實行	該当箇所省略の為翻訳なし

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

229	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.146	該当箇所翻訳なし	(ハ)赤軍の編成に、一般的の助力を與へること。	該当箇所省略の為翻訳なし
230	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.146	該当箇所翻訳なし	(九)労働者の經濟的利害を擁護すると同時に、個人主義的傾向と戦ひ、且つ無知なるが爲に、今尚ほ今日の無産階級的國家を以つて、往時の僱主と同一視してゐる一部労働者の淺見と戦ふこと。	該当箇所省略の為翻訳なし
231	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.146	該当箇所翻訳なし	(九)労働者の經濟的利害を擁護すると同時に、個人主義的傾向と戦ひ、且つ無知なるが爲に、今尚ほ今日の無産階級的國家を以つて、往時の僱主と同一視してゐる一部労働者の淺見と戦ふこと。	該当箇所省略の為翻訳なし
232	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.146	該当箇所翻訳なし	(九)労働者の經濟的利害を擁護すると同時に、個人主義的傾向と戦ひ、且つ無知なるが爲に、今尚ほ今日の無産階級的國家を以つて、往時の僱主と同一視してゐる一部労働者の淺見と戦ふこと。	該当箇所省略の為翻訳なし
233	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.146	該当箇所翻訳なし	社會主義的國家の部門として居るのである。	該当箇所省略の為翻訳なし

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

234	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.147	該当箇所翻訳なし	産業的労働組合は、漸次に國家の諸部門たる性質と、職分を占めて居る。	該当箇所省略の為翻訳なし
235	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.147	該当箇所翻訳なし	露西亞の無産階級は、新たなる社會主義的露西亞を建設するの任務を引受けた。	該当箇所省略の為翻訳なし
236	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.147	該当箇所翻訳なし	彼等は尚ほ鬭争し征服してゐるうちにも、漸次に建設的事業に轉じてゐた。	該当箇所省略の為翻訳なし
237	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.147	該当箇所翻訳なし	即ち全國に互つて、經濟的管理の全機關を掌握し、	該当箇所省略の為翻訳なし
238	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.147	該当箇所翻訳なし	之によつて無産階級獨裁權を鞏固にする、建設的の事業に轉じてゐた。	該当箇所省略の為翻訳なし
239	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.147	該当箇所翻訳なし	労働組合に組織せられた無産階級は、社會主義的革命的の前衛隊を成してゐた。	該当箇所省略の為翻訳なし

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

240	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.148	該当箇所翻訳なし	露國労働組合運動の、根本的諸問題を解決した。	該当箇所省略の為翻訳なし
241	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.148	該当箇所翻訳なし	就中労働人民委員と労働組合との相互關係を、一層具體的に確定した。	該当箇所省略の為翻訳なし
242	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.148	該当箇所翻訳なし	露國の労働組合は、無産階級的活動の新時期に突入した。	該当箇所省略の為翻訳なし
243	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.149	該当箇所翻訳なし	労働組合は、労働者の階級的組織であつて、資本主義に對する闘争の組織から發達して、今や經濟的改造の機關となつた。	該当箇所省略の為翻訳なし
244	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.150	該当箇所翻訳なし	尤も労働組合のうちには、右の決議の言及してゐる以上に、資本家的君主に對すると同じ態度をもつて、實金値上げ等の要求の爲に、ソヴェエト政府に對して闘争をしたものもある。	該当箇所省略の為翻訳なし
245	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.151	該当箇所翻訳なし	組合と國有工場の管理部門との間に、有機的の聯絡を保つ爲め、	該当箇所省略の為翻訳なし

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

246	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.151	該当箇所翻訳なし	經濟及び管理(産業の)機關を、 社會主義的建設事業に必要な 無産階級的機關に變じ、	該当 箇所 省略 の為 の翻訳 なし
247	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.151	該当箇所翻訳なし	經濟及び管理(産業の)機關を、 社會主義的建設事業に必要な 無産階級的機關に變じ、	該当 箇所 省略 の為 の翻訳 なし
248	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.151	該当箇所翻訳なし	全ての管理及び經營の機關を、 無産階級分子を以つて滿すこ とが必要である。	該当 箇所 省略 の為 の翻訳 なし
249	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.152	該当箇所翻訳なし	凡つ社會的分解の作用と無産階 級が他の階級に吸收せられるこ ととに對して、無産階級の核心 を動揺しなければならぬこと… …。	該当 箇所 省略 の為 の翻訳 なし
250	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.153	該当箇所翻訳なし	吾々は露國の労働組合が、社會 主義的生產の福利の上に、如何 なる任務を行つて居るかに、い ふ、大體を知ることが出来る。	該当 箇所 省略 の為 の翻訳 なし
251	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.153	該当箇所翻訳なし	露國の政治組織は人による人の 支配であつて、資本主義的國家 の政治機關と、本質に於ては異 なるところはない。	該当 箇所 省略 の為 の翻訳 なし

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

252	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.154	該当箇所翻訳なし	この過渡内による物の支配との 一二つの方向に於いて、國家の 機關の重要な要素となり、その 基礎となつて居る。	該当 箇所 省略 の為 の翻訳 なし
253	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.156	該当箇所翻訳なし	其後政府の經濟的活動は益々範 圍を拡大し、組合も亦た、一層 多くの労働者を包含するようにな つたから、右の傾向は、一層 著しくなつたに相違ない。	該当 箇所 省略 の為 の翻訳 なし
254	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.17/ p.735	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.156	這樣看來、決定勞動條件的最高 機關、不已經是勞動聯合底代表 占着決定的多數了嗎？	㊸ 決定	該当 箇所 省略 の為 の翻訳 なし
255	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	p.18/ p.736	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.157	這樣說來、勞動人民委員不足同 勞動部一樣嗎？	資本 主義	該当 箇所 省略 の為 の翻訳 なし
256	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.158	該当箇所翻訳なし	之を法律案とすること、並びに 労働と生産との條件に關係のあ る、強制的性質を有する一切の 細則は、先づ企畫労働組合中央 委員會に諮り、委員會を多數決 にて通過しなければならぬこと を、承認することが必要 である。	該当 箇所 省略 の為 の翻訳 なし

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

257	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.158	該当箇所翻訳なし	勞働組合地方評議會が、労働人 民委員の地方的部門(地方の諸部 門)の事業に關與すべきことを遂 行する	該当 箇所 省略 の為 翻訳 なし
258	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.158	該当箇所翻訳なし	無産階級と經濟的主權を争はん が爲に、	該当 箇所 省略 の為 翻訳 なし
259	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.158	該当箇所翻訳なし	雇主等の行つたサボターチユと 經濟的破壊とに對する、労働團 體の最も有力な革命的武器であ つたが、	該当 箇所 省略 の為 翻訳 なし
260	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.158	該当箇所翻訳なし	雇主等の行つたサボターチユと 經濟的破壊とに對する、労働團 體の最も有力な革命的武器であ つたが、	該当 箇所 省略 の為 翻訳 なし
261	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.159	該当箇所翻訳なし	斯ような資本制度から社會主義 的制度への、過渡狀態の元にあ つては、	該当 箇所 省略 の為 翻訳 なし
262	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.159	該当箇所翻訳なし	労働者の管理は、無産階級の經 濟的獨裁を目的とする革命的武 器たることから、	該当 箇所 省略 の為 翻訳 なし

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

263	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.159	該当箇所翻訳なし	労働者の管理は、無産階級の經 濟的獨裁を目的とする革命的武 器たることから、	該当 箇所 省略 の為 翻訳 なし
264	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.159	該当箇所翻訳なし	この獨裁權を生産過程の裡に確 立し鞏固にする、實際的の制度 に發達しなければならぬ。	該当 箇所 省略 の為 翻訳 なし
265	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.160	該当箇所翻訳なし	漸次に、全ての労働者残らず差 家の編輯と經營とに參加するよ うな、一般的參與の制度に進む の益を確立すること	該当 箇所 省略 の為 翻訳 なし
266	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.163	除外三分之一就是學術上の團 體、技術和上級商業職員、民主 的的全俄團體(各種全俄大會底執 行委員會、贖養聯合、農民委員 會)底代表。	残りの二分の一は、(二)學術上 の團體、技術員及び商業上の事 務に當る上級役員、民衆的委員 團體(各種の全俄大會の執行委員 會、給養聯合、農民委員會等)の 代表者より組織されて居る。	⑨ 民衆
267	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.163	(5)全國各種職業聯盟代表	(五)全國的產業組合の代表者	⑧ 全國
268	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳望道	1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.164	該当箇所翻訳なし	國民經濟最高委員會は、社會主 義的新社會の最高の經濟機關で あつて、	該当 箇所 省略 の為 翻訳 なし

資料①  
第1章例文:《(新青年)における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

269	1921	勞農俄國底 勞動聯合	第8卷 第5号	陳聖道		1921	勞働組合の 組織と職分 (1, 2, 3, 7, 8, ...)	山川均	p.164	該当箇所翻訳なし	地方的性質を帯びた同一の職分を行つて居るが、	該当箇所の省略の爲の翻訳なし
270	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.21/ p.395	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.375	帝制倒壊以後、勞動婦人對於革命的活動、並未停止、而且反對那運背共產黨和聯合國及紳士階層子的克倫斯基政府、並且反對該政府的主義和主張。	帝政倒壊後も労働婦人は其革命的活動を罷めず、無産階級を裏切つて聯合國及び紳士階と拮据したケレンスキー政府、並びに其主義主張に極力反對した。	
271	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.23/ p.397	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.379	「普通軍事教練會」	『一般的軍事教練會』	一般
272	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.23/ p.397	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.379	他們對於戰勝資本階級所得的結果、即是他們推倒資本制度得來經濟上政治上的自由、絕不肯讓敵人奪去的。	彼等は古き壓制者と勇敢に戦つてかち得た專い成果、即ち資本的搾取制度よりの解放、經濟上政治上の自由を、見す／＼の手に奪還されて已む者では無い。	資本
273	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.24/ p.398	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.381	勞農政府掌握政權以後、同時把一切個人的或半官的慈善事業都廢止了、所有一切不能勞動的人都由國家担负扶養的義務了。	勞農政府は、政權を握ると共に一切の個人的又は半官的慈善事業を全廢して、其代りに總ての労働不能者に對する、國家の扶養の義務を確立した。	個人
274	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.24/ p.398	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.381	勞農政府掌握政權以後、同時把一切個人的或半官的慈善事業都廢止了、所有一切不能勞動的人都由國家担负扶養的義務了。	勞農政府は、政權を握ると共に一切の個人的又は半官的慈善事業を全廢して、其代りに總ての労働不能者に對する、國家の扶養の義務を確立した。	半官

資料①  
第1章例文:《(新青年)における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

275	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.24/ p.398	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.381	依一九一八年一月三十日社會人民委員會的布告看起來、凡是勞力謀生的人、若遇暫時的或永久的不能勞動即是老衰、疾病、傷害、妊孕與非由自己過失而陷於失業的人以及沒有適當保護着的兒童、一概都有受國家保護和扶養的義務。	一九一八年一月二十日附の社會人民委員の布告に依れば、自己の労働に依て生活する人民が、一時的又は永久的労働不能、即ち老衰、疾病、傷害、妊娠、自己の過失に依らざる失職等に陥つた場合、及び適當なる保護者なき兒童は、例外なく國家の保護と扶養を受ける權利がある。	一時
276	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.24/ p.398	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.381	依一九一八年一月三十日社會人民委員會的布告看起來、凡是勞力謀生的人、若遇暫時的或永久的不能勞動即是老衰、疾病、傷害、妊孕與非由自己過失而陷於失業的人以及沒有適當保護着的兒童、一概都有受國家保護和扶養的義務。	一九一八年一月三十日附の社會人民委員の布告に依れば、自己の労働に依て生活する人民が、一時的又は永久的労働不能、即ち老衰、疾病、傷害、妊娠、自己の過失に依らざる失職等に陥つた場合、及び適當なる保護者なき兒童は、例外なく國家の保護と扶養を受ける權利がある。	永久
277	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.24/ p.398	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.381	凡是没有保護着的兒童即孤兒、棄兒、乳乞丐、淫婦之子、以及依法律被剝奪親權者(即犯罪人、酒徒等)之子女、和三種病的兒童等、都有兒童局担任保護之任。	是は保護者無き子供、即ち孤兒、捨兒、乞食や賣笑婦の子、法律に依て親權を剝奪される、及び三種の病的兒童を保護する任を帯びて居る。	病
278	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.24/ p.398	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.381	上面所說病的兒童的第一種、就是有道德的缺陷的、	右の病的兒童の第一種は道德的に缺陷ある者、	病
279	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.24/ p.398	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.381	上面所說病的兒童的第二種、就是有道德的缺陷的、	右の病的兒童の第一種は道德的に缺陷ある者、	道德
280	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.24/ p.398	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.381	第一種就是有智識的缺陷的人、	第二種は知的に缺陷ある者、	知

資料①  
第1章例文:《(新青年)における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

281	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.24/ p.398	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.381	第三種就是有肉體的缺陷的人。	第三種は肉體的に缺陷ある者である。	肉體	①
282	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.25/ p.399	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.383	又適於妊娠的衛生衣服樣本,分 娩時所有用具和衛生材料,都一 陳列,	又妊娠に適する衛生的な着物の 見本も出て居れば、分娩時に必 要な道具や衛生材料も陳列さ れ、	衛生	③
283	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.25/ p.399	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.383	以及應注意事宜,都一樣的陈 藝術詳細明白表示出來。	之に關する注意も同じように詳 細に、明白に、平易に、そして 藝術的に與へられて居る。	藝術	④
284	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.25/ p.399	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.384	又用藝術的方法把種類傳染病 的選路圖解出來。	又極めて藝術的な方法で種の病 菌傳染の経路などが圖解せられ て居る。	藝術	④
285	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.26/ p.400	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.384	可是在現時俄國,母親和兒童 保護的設備,還不能十分增加,	現在の露國に於ては、母親及び 子供の保護的設備を十分に増加 することは困難である。	保護	②
286	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.26/ p.400	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.385	臨時扶助局 受此局臨時補助的 老弱兵卒達四十萬人。	一時的扶助局—四十万人に達す る舊軍隊の因窮せる兵士に、一 時的の補助を與へて居る。	一時	④
287	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.26/ p.400	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.385	臨時扶助局 受此局臨時補助的 老弱兵卒達四十萬人。	一時的扶助局—四十万人に達す る舊軍隊の因窮せる兵士に、一 時的の補助を與へて居る。	一時	④
288	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.27/ p.401	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.386	只是她的思想習慣,原是貴族 階級,到底不願勞農政府相容,到 十一月革命之時,她就失掉了原 右的地位。	本來貴族的な其思想習慣は、勞 農政府と究つて相容れず、十一月 革命と共に彼女は其地位を失つ た。	貴族	②
289	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.27/ p.401	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.387	要求部下開始以犧牲的援助。	部下の犧牲的援助を求めた。	犧牲	②

資料①  
第1章例文:《(新青年)における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

290	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.27/ p.401	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.387	以前年新二萬五千盧布職業的救 濟家,因此收了大打擊。	是は、此時まで二万五千盧の半 率をとつて片を職業的救濟家に 大打撃を與へた。	職業	②
291	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.28/ p.402	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.388	這婚姻法的制定及其內容,對於 婦人國有的語言給了最決定的反 証。	此婚姻法の制定其それ自身並び にその内容は、『婦人國有』の 虛説に對する最も決定的な反證 となつて居る。	決定	②
292	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.28/ p.402	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.388	就理想上說,很希望男女關係不 受外的拘束,不受法律的支配,	勿論理想としては、さういふ外 的拘束、即ち(以下十字削除)男 女關係こそ望ましいものである が、	外	②
293	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.28/ p.402	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.388	但這種制度,要在社會主義制度 永久確立以後的社會方能實現 的。	それは社會主義が既に永久的な 制度として確立せられた後の社 會に於てのみ望み得べきことで ある。	永久	③
294	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.28/ p.402	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.388	人民保守的習慣,不易打破,表 面雖似乎急進,其實反以維持現 狀逆行時勢爲便的。	人民の中の保守的な習慣は容易 に打破されず、それは表面急進 的なるに似て、却て現狀維持又 は形勢の逆轉に便するものであ る。	保守	②
295	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.28/ p.402	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.388	人民保守的習慣,不易打破,表 面雖似乎急進,其實反以維持現 狀逆行時勢爲便的。	人民の中の保守的な習慣は容易 に打破されず、それは表面急進 的なるに似て、却て現狀維持又 は形勢の逆轉に便するものであ る。	急進	③
296	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.28/ p.402	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.388	俄國的無產階級革命,是在中產 階級革命中途挫折而與封建時代 傳統思想開始開裂的時候發生 的,	露西亞の無產階級は、ブルジョ ア革命が中途で挫折し、封建時 代の遺物的思想と妥協し始めた 時に勃發した、	遺物	④

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

297	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.28/ p.402	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.388	所以無産階級の使命應當繼承中 産階級之後打破專制建時代的思 想和習慣。	随つて無産階級は、本来なら ば、中産階級の使命である封建 的思想習慣の破壊をも引受けね ばならなかつた。	封建	①
298	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.28/ p.402	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.389	然而有一部分急進的、以爲婚 姻法没有制度的必要、宗教的結 婚聽本人自願、可以不去干涉。	然るに一部急進論者は、婚姻法 の制定を不必要とし、然も宗教 的結婚は、本人の希望に任せて 取て干渉するの要がないとい ふ。	宗教	②
299	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.28/ p.402	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.389	教會和宗教都是教人崇拜天上人 間的權利、和科學的社會主義思 想不能並立、	然るに天上及び地上の權力崇拜 を教ふる教會及び宗教は、科學 的な社會主義の思想と兩立すべ くもなく、	科學	③
300	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.28/ p.401	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.388	同時又是革命的、又是社會主義 的。	其れは同時に革命的且つ社會主 義的である。	革命	④
301	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.28/ p.402	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.389	同時又是革命的、又是社會主義 的。	其れは同時に革命的且つ社會主 義的である。	社會主義	⑤
302	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.28/ p.402	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.389	依據新婚姻法、唯有經過民法上 手續的結婚、方發生婦女的權利 和義務、而慣例的宗教結婚、一 切都失其效力。	新婚姻法に依れば、民法上の手 續を経た婚姻のみが、夫婦の權 利及び義務を生じ、慣例的宗教 結婚は其効力を一切失ふこと になつた。	慣例	⑥
303	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.30/ p.404	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.393	而尤以沒有勞動能力缺乏職業的 機會的結果、不得不把結婚當 作唯一的生活手段、就是違反了 自己的意思、也要繼續他的生活 了。	殊に一般に労働能力無く、職業 的機會にも乏しい結果として、自 己の意思に反しても嫁は其生活 を繼續することを要される。	職業	⑦

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

304	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.30/ p.404	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.393	現時俄國夫人、經濟的精神的完 全得以獨立、	かくて露國の婦人は、今や精神 的にも經濟的にも完全なる獨立 を得、	精神	⑧
305	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.30/ p.404	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.393	現時俄國夫人、經濟的精神的完 全得以獨立、	かくて露國の婦人は、今や精神 的にも經濟的にも完全なる獨立 を得、	經濟	⑨
306	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.31/ p.405	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.394	資本主義社會之下、婦女唯的 天職是做母親、所亦不歡喜婦人 的社會的生活。	資本主義の社會は、母たること は婦人の唯一の天職であるとの 故を以て、婦人の社會的活動を 喜ばない。	社會	⑩
307	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.31/ p.405	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.394	所以在這種社會中、女子在專做 母親的範圍以內、她的經濟獨 立、在原則上是不可能的。	されば其社會に於いては、母た る限り、原則として婦人の經濟 的獨立は不可能である。	經濟	⑪
308	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.31/ p.405	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.394	現時那樣原始的家庭勞動、消耗 主婦的時間和精力、妨害她的自 由活動和發達、這種勞動若不廢 除、婦人若不免去煩瑣的家事、 真正的解放不能實現的。	主婦の時間と精力を消耗し、そ の自由な活動と發達とを妨げる 原始的な家庭労働が廢滅せら れ、婦人も亦家事の煩ひを免れ るようにならなければ、その真 正の解放は實現されない。	原始	⑫
309	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.31/ p.405	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.395	從前認爲主婦所必要的個人的生 產、道現在已不覺得必要、而且 變爲枕業。	曾て必要であつた主婦の個人的 生産は、今日では多く必要の域 を脱して遊樂となつて居る、	個人	⑬
310	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.32/ p.406	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.395	個個主婦的勞苦和個別的家計法 的不經濟、都除去。	個々の主婦の勞苦と、同時に個 別的家計法の不經濟とを除かう として居る。	個別	⑭

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

311	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.32/ p.406	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.395	可長兒童衣食住的費用和在學校就學時間內的照料, 還是歸父母私人担負的。	個人	⑨
312	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.32/ p.406	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.395	對於兒童精神上肉體上的發達絲毫不能不注意的。	精神	⑨
313	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.32/ p.406	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.395	對於兒童精神上肉體上的發達絲毫不能不注意的。	肉體	⑨
314	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.32/ p.406	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.397	社會人民委員會及教育委員會は子供の扶養と養育に關する父母の勞力と經濟的負擔とを軽減する爲に力を盡して居る。	經濟	②
315	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.32/ p.406	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.397	斯くて個別的家計法、及び個別的教育法の爲めに生ずる勞力と費用の不經濟を一掃し、同時に婦人をして、各々其個性に適應した仕事に専念せしめようとして居る。	個別	⑨
316	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.32/ p.406	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.397	各別の家計法和育児法生出來的勞力濫費和不經濟一概免除、同時使婦人專心做適應個性的事情。	個別	⑨
317	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.33/ p.407	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.397	所有的家庭勞動, 在先前是使家庭當作社會單位的支柱, 到現在都社會化了。	社會	⑧

資料①  
第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

318	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.33/ p.407	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.399	照這樣看來, 那些用暴力破壞家庭, 用強制力分割母了愛情的話, 還說得上嗎?	強制	⑨
319	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.33/ p.407	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.399	家庭使婦人從生產的事業分離起來所以對於國家已沒有必要了。	生産	②
320	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.34/ p.408	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.399	以前結婚是把家庭生活弄黑暗了, 現在是用友愛確定的自由結合, 者就是新勞動者的國家要替男女們提供的。	物質	②
321	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.34/ p.408	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.399	過去の奴隸的結婚の代りに、其被吹するカムモンドリップを以て鞏固にされて居る此自由結合こそは、新しき労働者の國家が男女に提供しようとするものなのである。	奴隸	②
322	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.34/ p.408	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.400	古き奴隸的兩性關係が、愛人であつて同時に彼女である彼女の間の、日山にして公正な結合に處を講つた時、	奴隸	②
323	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.34/ p.408	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.400	做母親的對於自己子女那種狹義的排他的愛情, 要擴充起來, 對於無產階級一大家族中一切子女, 都一樣的用這種愛情去愛他們。	排他	②



324	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.34/ p.408	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.400	個人的利己的家庭消失了,一切 勞動者都是兄弟都是僚友的大勢 動家庭要起來代替了。	個人的な利己的な家庭の代り に、其中では總ての男女労働者 が互に兄弟であり僚友である大 きな、一般的な労働者の家庭が 起るであらう。	個人	②
325	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.34/ p.408	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.400	個人的利己的家庭消失了,一切 勞動者都是兄弟都是僚友の大勢 動家庭要起來代替了。	個人的な利己的な家庭の代り に、其中では總ての男女労働者 が互に兄弟であり僚友である大 きな、一般的な労働者の家庭が 起るであらう。	利己	②
326	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.34/ p.408	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.400	個人的利己的家庭消失了,一切 勞動者都是兄弟都是僚友の大勢 動家庭要起來代替了。	個人的な利己的な家庭の代り に、其中では總ての男女労働者 が互に兄弟であり僚友である大 きな、一般的な労働者の家庭が 起るであらう。	該当 箇所 省略 の為 翻訳 なし	
327	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.34/ p.408	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.401	在資本主義之下的俄國婦人,部 分中産階級勞動階級,都與一切 政治的社會的生活全無關係。	資本主義の下に於ける露國婦人 は、中産階級と労働階級とを通 じて、一切の政治的及び社會的 生活から遠ざけられて居った。	政治	②
328	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.34/ p.408	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.401	在資本主義之下的俄國婦人,部 分中産階級勞動階級,都與一切 政治的社會的生活全無關係。	資本主義の下に於ける露國婦人 は、中産階級と労働階級とを通 じて、一切の政治的及び社會的 生活から遠ざけられて居った。	社會	②
329	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.35/ p.409	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.402	他們也參與警察事務,介紹婦女 做一切生產的勞動。	彼等は警察事務にも參與し、總 ての生産内労働に婦人を使用す る仲介を司る。	生産	②

330	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.36/ 410	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.403	在革命的時候,真有階級的自覺 的勞動婦人,不過占少數,大多 數有革命趨向的人,很缺乏明白 的自覺和組織的。	革命當時には、眞に階級的自覺 ある労働婦人は、何と云つても 少數は持つて居つたものと、明 白な自覺と組織を缺いて居つ た。	階級	②
331	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.36/ 410	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.403	在革命的時候,真有階級的自覺 的勞動婦人,不過占少數,大多 數有革命趨向的人,很缺乏明白 的自覺和組織的。	革命當時には、眞に階級的自覺 ある労働婦人は、何と云つても 少數に過ぎず、大多數は革命的 自覺は持つて居つたものと、明 白な自覺と組織を缺いて居つ た。	革命	①
332	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.36/ 410	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.403	勞動婦人的運動,已達到最廣的 範圍,有很大的政治的勢力。	労働婦人の運動は既に及ぶ限り 廣い範圍に達し、非常なる政治 的勢力となつて來て居る。	政治	②
333	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.36/ 410	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.403	其中最富於階級的自覺而最有組 織的,莫過於彼得格勒的勞動婦 人。	就中最も階級的自覺に富み、最 もよく組織されて居るのはペト ログラードの労働婦人である が、	階級	②
334	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.36/ 410	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.404	他們對於資本主義對於資本家的 壓榨,對於所有一切奴隸制度, 都加入鬥爭的隊伍中了。	彼等は資本主義に對し、搾取制 度に對し、ありとあらゆる形に 於ける奴隸制度に對する一般的 闘争に参加して居る。	該当 箇所 省略 の為 翻訳 なし	
335	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.36/ 410	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.404	中流勞動婦人和孀婦,尤其活動 謀運用社會的保護制度,保護婦 人,母親,兒童,老人,病人等 人。	中流の労働婦人及び孀婦は特 に、婦人、母親、子供、老人、 疾病者などの社會的保護を司る 制度の運用に活動して居る。	社會	②

資料①  
第1章例文:《(新青年)における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

336	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.36/ 410	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.404	他們照管產婦、在嬰兒院、兒童殖民地、職業紹介所、學校、飯廳、公設食堂、吃茶所、病院、公立圖書館等處辦事，並宣傳共產思想普及、救濟識。	彼等は妊産婦の世話、嬰兒院、兒童殖民地、職業紹介所、學校の飯廳、公設食堂、吃茶所の宣傳及び一般智識の普及等に關して働いて居る。	共産
337	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.36/ 410	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.404	用熱烈的感情發揚新創造的能力，關於實際問題，具有豐用的常識。	② 創造	
338	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.37/ 411	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.406	帝制時代の婦女は國の政治的生活に全く關係しなかつた。	② 政治	
339	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.37/ 411	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.406	常に勇敢で犧牲的精神に充ち輝ちて居つた露國婦人は、(以下一行削除)	⑧ 犠牲	
340	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.38/ 412	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.407	可是和全體勞動階級的人數比較起來，加入政治的鬥爭的婦人還是少數的。	② 政治	
341	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.38/ 412	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.408	勞動婦人の解放は、無産者全體の解放の條件一致，所以我們除了無産者一般の問題沒有問題。	② 一般	
342	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.38/ 412	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.408	世人怎麼能夠說婦人先天劣弱，要抑壓他們社會的活動，要把他們逐回廚房兒童房產房產裡頭去嗎？	⑧ 先天	

資料①  
第1章例文:《(新青年)における日本語からの翻訳文章(1915-1922)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

343	1921	勞農俄國底 婦女解放	第9卷 第3号	李達	p.38/ 412	1921	婦人の解放	山川菊栄	p.408	世人怎麼能夠說婦人先天劣弱，要抑壓他們社會的活動，要把他們逐回廚房兒童房產房產裡頭去嗎？	どうして婦人の先天的劣弱を主張し、其社會的活動を抑へて、是を蓋所と子供部屋に逐ひ返す事が出来やうか。	② 社會
344	1922	馬克斯主義 上所謂「過渡期」(綠 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.107/ p.819	1921	マルクス主義に謂ふ所の過渡期について	河上肇	p.150/ p.932	其一、就是經濟上把一切屬於有產階級私有的資本統收歸國有，實行「生產方法底革命的變革」。	その二は經濟上に於て資本家階級の私有に屬する資本が國有化され、生産方法の革命的變革が起ると云ふことである。	② 革命
345	1922	馬克斯主義 上所謂「過渡期」(綠 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.107/ p.819	1921	マルクス主義に謂ふ所の過渡期について	河上肇	p.151/ p.933	『我想研究俄羅斯經濟的人，否定認其「過渡性質」的，恐怕一個人都沒有。……』	『歐西亞の經濟を吟味しつゝある者は、一私は思ふ一只の一人でも、其の過渡的性質を否認する者はあるまい。……』	⑧ 過渡
346	1922	馬克斯主義 上所謂「過渡期」(綠 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.107/ p.819	1921	マルクス主義に謂ふ所の過渡期について	河上肇	p.151/ p.933	並不是『說現在的經濟秩序已經到了可以看做社會主義的束西』底意味，這決不是的。	それは、現在の經濟秩序が既に社會主義的と目されるべきものになつてゐると云ふことを、意味してゐるのでは決して無いと云ふこと、	② 社會主義
347	1922	馬克斯主義 上所謂「過渡期」(綠 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.107/ p.819	1921	マルクス主義に謂ふ所の過渡期について	河上肇	p.151/ p.933	他又說：『在物質的意義，經濟的意義，產業的玄關，都還沒有達到。』	彼は又『物質的、經濟的、產業的社會主義の玄關にも達してゐない』とも言つてゐる。	② 物質
348	1922	馬克斯主義 上所謂「過渡期」(綠 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.107/ p.819	1921	マルクス主義に謂ふ所の過渡期について	河上肇	p.151/ p.933	他又說：『在物質的意義，經濟的意義，產業的玄關，都還沒有達到。』	彼は又『物質的、經濟的、產業的社會主義の玄關にも達してゐない』とも言つてゐる。	② 經濟
349	1922	馬克斯主義 上所謂「過渡期」(綠 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.107/ p.819	1921	マルクス主義に謂ふ所の過渡期について	河上肇	p.151/ p.933	他又說：『在物質的意義，經濟的意義，產業的玄關，都還沒有達到。』	彼は又『物質的、經濟的、產業的社會主義の玄關にも達してゐない』とも言つてゐる。	② 產業



## 資料①

## 第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)

日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

359	1922	馬克斯主義 上所謂「過 渡期」(録 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.111/ p.823	1921	マルクスマ 主義に語ふ所 の過渡期に ついて	河上肇	p.156/ p.938	實現社會主義所必要的政治的 諸條件	社會主義の實現のため必要な政 治的諸條件	政治	②
360	1922	馬克斯主義 上所謂「過 渡期」(録 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.111/ p.823	1921	マルクスマ 主義に語ふ所 の過渡期に ついて	河上肇	p.156/ p.938	在物質的, 經濟的, 產業的意義 上, 連社會主義底大門口都還沒 有達到	物質的, 經濟的, 產業的的意味 に於ては, まだ社會主義の玄關 にも達してゐない,	物質	②
361	1922	馬克斯主義 上所謂「過 渡期」(録 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.111/ p.823	1921	マルクスマ 主義に語ふ所 の過渡期に ついて	河上肇	p.156/ p.938	在物質的, 經濟的, 產業的意義 上, 連社會主義底大門口都還沒 有達到	物質的, 經濟的, 產業的的意味 に於ては, まだ社會主義の玄關 にも達してゐない	經濟	②
362	1922	馬克斯主義 上所謂「過 渡期」(録 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.111/ p.823	1921	マルクスマ 主義に語ふ所 の過渡期に ついて	河上肇	p.156/ p.938	在物質的, 經濟的, 產業的意義 上, 連社會主義底大門口都還沒 有達到	物質的, 經濟的, 產業的的意味 に於ては, まだ社會主義の玄關 にも達してゐない	產業	②
363	1922	馬克斯主義 上所謂「過 渡期」(録 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.111/ p.823	1921	マルクスマ 主義に語ふ所 の過渡期に ついて	河上肇	p.156/ p.938	經濟的, 產業的, 及社會的諸條 件	經濟的, 產業的, 及び社會的の 諸條件	經濟	②
364	1922	馬克斯主義 上所謂「過 渡期」(録 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.111/ p.823	1921	マルクスマ 主義に語ふ所 の過渡期に ついて	河上肇	p.156/ p.938	經濟的, 產業的, 及社會的諸條 件	經濟的, 產業的, 及び社會的の 諸條件	產業	②
365	1922	馬克斯主義 上所謂「過 渡期」(録 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.111/ p.823	1921	マルクスマ 主義に語ふ所 の過渡期に ついて	河上肇	p.156/ p.938	經濟的, 產業的, 及社會的諸條 件	經濟的, 產業的, 及び社會的の 諸條件	社會	②

## 資料①

## 第1章例文:《新青年》における日本語からの翻訳文章(1915-1922)

日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

366	1922	馬克斯主義 上所謂「過 渡期」(録 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.111/ p.823	1921	マルクスマ 主義に語ふ所 の過渡期に ついて	河上肇	p.156/ p.938	只要加以「無產階級專政」這政 治形態, 就能比較容易地進入社 會主義, 因之過渡期也是可以格 外短少的。	無產者の專權といふ政治形態さ へ其れに加はれば, 比較的容易 に社會主義に這入ることが出 來, 従て過渡期は存外に短くて 濟むべき筈である。	比較	⑧
367	1922	馬克斯主義 上所謂「過 渡期」(録 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.111/ p.823	1921	マルクスマ 主義に語ふ所 の過渡期に ついて	河上肇	p.156/ p.938	社會如果採用這種政治形式, 就 能夠意識地使那爲實現社會主義 所必需的經濟的物質的條件, 很 快地完成。	社會はさういふ政治形式を採る ことにより, 意識的に社會主義 の實現に必要な經濟的, 物質的 條件の完成を急ぐことが出來 る。	意識	④
368	1922	馬克斯主義 上所謂「過 渡期」(録 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.111/ p.823	1921	マルクスマ 主義に語ふ所 の過渡期に ついて	河上肇	p.156/ p.938	社會如果採用這種政治形式, 就 能夠意識地使那爲實現社會主義 所必需的經濟的物質的條件, 很 快地完成。	社會はさういふ政治形式を採る ことにより, 意識的に社會主義 の實現に必要な經濟的, 物質的 條件の完成を急ぐことが出來 る。	經濟	②
369	1922	馬克斯主義 上所謂「過 渡期」(録 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.111/ p.823	1921	マルクスマ 主義に語ふ所 の過渡期に ついて	河上肇	p.156/ p.938	社會如果採用這種政治形式, 就 能夠意識地使那爲實現社會主義 所必需的經濟的物質的條件, 很 快地完成。	社會はさういふ政治形式を採る ことにより, 意識的に社會主義 の實現に必要な經濟的, 物質的 條件の完成を急ぐことが出來 る。	物質	②
370	1922	馬克斯主義 上所謂「過 渡期」(録 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.111/ p.823	1921	マルクスマ 主義に語ふ所 の過渡期に ついて	河上肇	p.156/ p.938	由進入過渡期這件事, 那個社 會, 就能夠意識地向社會主義進 行。	過渡期に這入ると云ふことによ つて, 其の社會は意識的に社會 主義を日がけて進むことにな る。	意識	④
371	1922	馬克斯主義 上所謂「過 渡期」(録 覺悟)	第9卷 第6号	光亮	p.111/ p.823	1921	マルクスマ 主義に語ふ所 の過渡期に ついて	河上肇	p.157/ p.939	馬克思主義者, 並非像那些「曲 解」唯物史觀的人所說那樣: 是 相信社會主義底實現, 是以機械 的必然性自暴進行的。	マルクス主義者は, 一唯物史觀 の曲解者が言ふやうに, 一社會 主義の實現が機械的必然性を以 て行はれる, と信じてゐる譯で はない。	機械	②

## 資料②

第1章例文:《現代日本小説》における日本語からの翻訳文章(1923)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

①「的」→「之」②「的」→「的」③「的」→「底」④「的」→「地」⑤「的」→「底」的」

⑥「的」→「底地」⑦「的」→「的」⑧「的」→「的」⑨「的」→「的」⑩「的」→「的」⑪「的」→「的」⑫「的」→「的」⑬「的」→「的」⑭「的」→「的」⑮「的」→「的」⑯「的」→「的」⑰「的」→「的」⑱「的」→「的」⑲「的」→「的」⑳「的」→「的」㉑「的」→「的」㉒「的」→「的」㉓「的」→「的」㉔「的」→「的」㉕「的」→「的」㉖「的」→「的」㉗「的」→「的」㉘「的」→「的」㉙「的」→「的」㉚「的」→「的」㉛「的」→「的」㉜「的」→「的」㉝「的」→「的」㉞「的」→「的」㉟「的」→「的」㊱「的」→「的」㊲「的」→「的」㊳「的」→「的」㊴「的」→「的」㊵「的」→「的」㊶「的」→「的」㊷「的」→「的」㊸「的」→「的」㊹「的」→「的」㊺「的」→「的」㊻「的」→「的」㊼「的」→「的」㊽「的」→「的」㊾「的」→「的」㊿「的」→「的」

番号	タイトル	頁数	原作初出年	原作タイトル	著者	原作出典頁数	中国語訳	原文	前接語(日)	「的」訳法
1	克來喀先生	p.26-27	1909	クレイグ先生	夏目漱石	p.145	這邊也不見得高興握手來大可以廢止的了，然而仍熱誠到「呀」，伸出那毛茸茸的軟皮疙瘩的手來。	此方もあまり握り握り心地在好い譯でもないから、一層癢したらかからうと思ふのに、矢つ張りやあと云つて毛だらけな靴だらけな、さうして例によつて消極的な手を出す。	消極	②
2	克來喀先生	p.27	1909	クレイグ先生	夏目漱石	p.145	自己便從袴子の袋裏掏出金幣來，也不包裏，說道「哦」的送過去，先生便說着「呀，褲開那起」的取了去，褲開那照例的滑極的手，在草上略略一看，也就裝在袴子的袋裏面了。	白分は洋袴の隠しから金貨を出して、むき出しにへえと云つて渡すと、先生はやあ清まんを受け取りながら、例の消極的な手を擴げて一寸草の上で眺めた儘、やがて是れを洋袴の隠しへ取められる。	消極	②
3	克來喀先生	p.28	1909	クレイグ先生	夏目漱石	p.146	這時纔見到，先生是在滑極的手上戴着金指環的。	其の時初めて氣が附いたのだが、先生は消極的に手に金の指輪を嵌めてゐた。	消極	②
4	克來喀先生	p.30	1909	クレイグ先生	夏目漱石	p.148	覺得只是一個全然機械的在那里鏡舌的老頭子。	全く器械的に喋舌つてる御爺さんと思はれなかつた。	器械	②
5	遊戲	p.35	1910	あそび	森鷗外	p.703	機械的的那那軌邊。	器械的に手が杖の側を探る。	器械	②

63

## 資料②

第1章例文:《現代日本小説》における日本語からの翻訳文章(1923)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

6	遊戲	p.36	1910	あそび	森鷗外	p.704	這是照了緩急疊疊起來的，比較急的便放在最上面。	それは緩急によつて疊ねて、比較的急ぐものを上に置いて置くのである。	比較	②
7	遊戲	p.37	1910	あそび	森鷗外	p.704	木村稱這事爲「本能的掃除」。	木村はこれを「本能的掃除」と名づけた。	本能	②
8	遊戲	p.37	1910	あそび	森鷗外	p.705	但這位使女，雖然躬行本能的掃除，躬行「舌戰」，然而活潑，也還中用，所以木村是滿足的。	尤も此女中は、本能的掃除をしても、「舌の戦ぎ」をして、活潑で間に合ふので、木村は満足してゐる。	本能	②
9	遊戲	p.38	1910	あそび	森鷗外	p.705-706	倘說木村看了文藝欄，覺得不公平是因爲自利，便說「自利」的罷。	木村が文藝欄を讀んで不平を感じるのが、自利的であつて、跋られば腹を立て、褒められれば喜ぶのだと云つたら、それは冤罪だらう。	自利	⑧
10	遊戲	p.42	1910	あそび	森鷗外	p.709	隔壁的屋子裏，本能的掃除的聲音停止了，紙障子閉了。	鄰の間では、本能的掃除の音が減んで、音紙が閉いた。	本能	②
11	遊戲	p.44	1910	あそび	森鷗外	p.710	「近來翻了一翻太陽裏面有些說你在衙門裏的秩序的生活和藝術的生活，是正相矛盾，到底調和不得的這類話。見了麼？」	「こゝろひだ太陽を見たら、君の役所での秩序の生活と芸術の生活は矛盾してゐて、到底調和が出来ないと云つてあつたつて。あれを見たかぬ。」	秩序	②

64

## 資料②

## 第1章例文:《現代日本小説》における日本語からの翻訳文章(1923)

日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

12	遊戲	p.44	1910	あそび	森鷗外	p.710	「近來翻了。翻太陽裏面有些說你在衙門裏的秩序的生活和藝術的生活，到底調和不得的這類話。見了麼？」	「こゝろだん大砲を見たら、君の役所での秩序的生涯と芸術的生活は矛盾してゐて、到底調和が出来ないと云つてあつたかね。」	藝術	②
13	沈黙之塔	p.58	1910	沈黙の塔	森鷗外	p.755	立刻引了我眼睛的「派希英的血脈的爭鬪。這一個標題的記事，却還算是客觀的記着的。」	直ぐに己の目に付いた「バアシイ族の血脈き争鬪」と云ふ標題の記事は、可なり客觀的に書いたものであつた。	客觀	②
14	沈黙之塔	p.59	1910	沈黙の塔	森鷗外	p.756	所謂自然主義小説的內容上，惹了人眼的，是在將所有凶變，消極的否定，而積極的並沒有什麼建設的事。	自然主義の小説と云ふものの内容で、人の目に付いたのは、あらゆる凶變が消極的に否定せられて、積極的には何の建設せられる所も無い事であつた。	消極	②
15	沈黙之塔	p.59	1910	沈黙の塔	森鷗外	p.756	所謂自然主義小説的內容上，惹了人眼的，是在將所有凶變，消極的否定，而積極的並沒有什麼建設的事。	自然主義の小説と云ふものの内容で、あらゆる凶變が消極的に否定せられて、積極的には何の建設せられる所も無い事であつた。	積極	②

65

## 資料②

## 第1章例文:《現代日本小説》における日本語からの翻訳文章(1923)

日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

16	沈黙之塔	p.59	1910	沈黙の塔	森鷗外	p.756	從這方向看出去，則凡有講些積極的事的，便是過時的調子，即不然，該是說謊的東西。	此方嚮から見ると、少しでも積極的な事を云ふものは、時代後れの馬鹿ものか、さうで無ければ謙遜さで無くてはならない。	積極	②
17	沈黙之塔	p.60	1910	沈黙の塔	森鷗外	p.756	那主義，便說是那樣的消極的思想是紊亂安寧秩序的。	その趣意は、あんな消極的思想は安寧秩序を紊る、あんな衝動生活の敘述は風俗を擾亂すると云ふのであつた。	消極	②
18	沈黙之塔	p.63	1910	沈黙の塔	森鷗外	p.759	這樣穿鑿下去，便覺得老伯爵的喫素，也因爲鄉下得不到好牛肉：對於伯爵幾十年繼續下來的好生活，也要用猜疑的眼睛去看了。	そんな風に穿鑿をすると同時に、老伯が素食をするのは、土地で好い牛肉が得られないからだと、何十年と繼續してゐる伯の原始的生活をも、猜疑の目を以て視る。	原始	⑧
19	沈黙之塔	p.67	1910	沈黙の塔	森鷗外	p.761	便在學問上，心理學也足從思慮到意志，從意志到衝動，衝動到以下的心的作用川裏，漸次深遠的穿掘進去。	學問の上でも心理學が思量から意志へ、意志から衝動へ、衝動からそれ以下の心的作用へと、次第に深く穿つて行く。	心	②
20	第二的母親	p.84	1914	第二の母	武者小路實篤	p.87	我的關於貞子的回憶，都是斷片的，……	お貞さんに就ての自分の記憶は斷片的だ。	斷片	②

66

## 資料②

第1章例文:《現代日本小説》における日本語からの翻訳文章(1923)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

21	第二的母亲	p.115	1914	第二の母	武者小路 實篤	p.122	有一天,伯母拿了貞子和靜子的看護婦裝束的照相來,給母親看。這大約因為社會交際的關係,一人當作什麼名譽看護婦或有志看護婦,曾去訪問過負傷兵士,在那時候所照的罷。	その時、あるH伯母が母の處へお貞さんとお靜さんの看護婦の姿した寫真を持って來て母に見せた。二人は社交的の爲に、名譽看護婦とか、有志看護婦とか云ふものになつて負傷兵を見舞つたのだからと思ふ。	①	社交
22	久米仙人	p.124	1921	久米仙人	武者小路 實篤	p.60	照他的思想說來,他是想只依了宇宙的本能去生活:	彼の考へによると、宇宙的本能にのみよつて生きようとした。	②	宇宙
23	久米仙人	p.124	1921	久米仙人	武者小路 實篤	p.60	動物的本能與人類的本能在他看來是空的,不可靠的,而且又足爲白己修成不滅的障礙的。	動物的本能や人類の本能は彼には空なもの、たよりにならないもの、自己を不滅にさすのに邪魔なものと思つた。	②	動物
24	久米仙人	p.124	1921	久米仙人	武者小路 實篤	p.60	動物的本能與人類的本能在他看來是空的,不可靠的,而且又足爲白己修成不滅的障礙的。	動物的本能や人類の本能は彼には空なもの、たよりにならないもの、自己を不滅にさすのに邪魔なものと思つた。	②	人類

67

## 資料②

第1章例文:《現代日本小説》における日本語からの翻訳文章(1923)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

25	與幼小者	p.143	1918	小さき者へ	有島武部	p.595	那從心故的夫人染了結核的U氏一面有若理智的性情,便情不白禁起來了。	死んだ細君から結核を傳へられたU氏があの理智的な性情を有しながら、天理教を信じてその御祈禱で病氣を癒さうとしたその心持を考へると、私はたまたまなくなる。	②	理智
26	亡姉	p.184	1912	亡き姉に	長興善部	p.130	我非常喜歡懺悔的緣故,也並非單爲這個阿姊很憐愛我,所以任意的反射的覺得喜歡,更精細的說來,我喜歡這個阿姊同時也十分的尊敬。	自分がちらい姉様を書しく好いて居たのも、單に此姉さんが自分を可愛がつて呉れたが爲に得手勝手な心持で反射的に好きになつたのではなく、何つちかと言へば、自分は此姉さんを好くと共に尊敬してゐたのだ。	②	反射
27	亡姉	p.187	1912	亡き姉に	長興善部	p.133	我們兄弟們都比較的和睦的嬉嬉著。	吾々の兄弟は皆んな比較的仲善く遊んだ。	②	比較
28	深夜的喇叭	p.228	1916	深夜の喇叭	千家元麿	p.182	我聽了喇叭,總是消極的嘗不住的感到悲哀;	自分はあの喇叭を聞くといつも消極的にたまらなく悲しい氣持になる。	②	消極
29	三浦右衛門的最後	p.283	1916	三浦右衛門の最後	菊池寛	p.23	少年掙扎着想逃走。然而孩了們的數日,將近十一人,而且都是有機的活動着的,所以是沒有法子想。	少年は身をもがいて逃れやうとした、然し子供の數は十人にも近い、而も各自が皆有機的に働いて居るので何うともする事が出来な	②	有機

68

30	三浦右衛門の最後	p.284	1916	三浦右衛門の最後	菊池寛	p.25	彼は眼晴裏滴下幾滴悲恨的眼淚、聲言發了白來:「竟使荷重的三浦右衛門着了道兒了。」	致命	②
31	三浦右衛門の最後	p.284-285	1916	三浦右衛門の最後	菊池寛	p.25	當他十三歲時、從寄寓在京橋西洞院的父母的手裏、交給今川家作主小近侍、從此只順着主人和周圍的支使、受動的甘受着、照了自己的意志的事、是一件也沒有作的。但是氏康對於他的寵幸、太到了極端、因此便見得他是巧妙的操縱主人似的了。	受動	②
32	三浦右衛門の最後	p.286	1916	三浦右衛門の最後	菊池寛	p.28	一得到這報告、刑部所想到的政策、頗爲常識的、	常識	②
33	三浦右衛門の最後	p.290	1916	三浦右衛門の最後	菊池寛	p.30	刑部的心裏、聽了右衛門的哀訴、又生出再加玩弄的惡魔的心來。	惡魔	②

69

34	後靈前話	p.301	1918	ある敵打の話	菊池寛	p.11	況且在冒險的旅行中、也有過許多斬夜盜殺山賊的事迹。	冒險	②
35	鼻子	p.309	1916	鼻	芥川龍之介	p.17	其一、因爲鼻子之長、在實際上很不便。	實際	①
36	鼻子	p.310	1916	鼻	芥川龍之介	p.18	內供の自尊心、較之爲娶妻這類結果的事每所左行的東西、微妙得多了。	結果	②
37	鼻子	p.310	1916	鼻	芥川龍之介	p.18	因此內供在積極的和消極的兩方面、要將這自尊心的毀損恢復過來。	積極	③
38	鼻子	p.310	1916	鼻	芥川龍之介	p.18	因此內供在積極的和消極的兩方面、要將這自尊心的毀損恢復過來。	消極	③
39	鼻子	p.312	1916	鼻	芥川龍之介	p.20	內供一面既然消極的用了這樣的苦心、別一面也積極的試用些諸如鼻子的方法、在這里是無須乎特地聲明的了。	消極	③

70



40	鼻子	p.312	1916	鼻	芥川龍之介	p.20	内供一面既然消極的用了這樣的苦心，別一面也積極的試了几个新鼻子的方法，在這里是無須爭得地聲明的了。	積極	②
41	鼻子	p.316-317	1916	鼻	芥川龍之介	p.26	誇人一點說，便可以說是甚甚者自有願意再看見那人附在同樣的不幸中的意思。於是不知不覺間，雖然是消極的，却對於那人抱了敵意了。	消極	②
42	羅生門	p.321	1915	羅生門	芥川龍之介	p.5	家將一面固然肯定了不擇手段這一節了，但對於因為這「則」有着落，自然而然的接上來的「只能作強盜」這一節，却還沒有足以積極的肯定的勇氣。	積極	②
43	羅生門	p.324	1915	羅生門	芥川龍之介	p.9	所以照「合理的」的說，是善是惡，也還沒有知道應該屬於那一面。	合理	②

44	「黄昏前の人」	p.342	1921	「たそがれの人間」	佐藤春夫	p.129	我的藝術的方法是，「什麼地方的國士帶我到他那不思議的國或是偉大的烏籠似的邸宅裏去，皆趁活我就好了。能夠這樣便好。那麼我將爲他魅力的想出奇妙的事情來」：這一個空想。	藝術	②
45	鄉愁	p.356	1918	鄉愁	加藤武雄	p.62	互相謙遜的言語裏面，不免各含有一種競爭的心思。	競爭	②
46	鄉愁	p.357	1918	鄉愁	加藤武雄	p.63	所以大家雖然早晚見面，也不過真是形式上的招呼，可以稱得「實際」的往來却是不曾有過。	形式	③
47	鄉愁	p.359	1918	鄉愁	加藤武雄	p.65	山哥兒畢竟是個男孩子，用了含着壓迫的威嚴的言語：只是在那早晨發威。	壓迫	②
48	鄉愁	p.359	1918	鄉愁	加藤武雄	p.65	我心裏微笑，時常聽着他們的語，機械的做着著述的工作。	機械	②

## 資料③

第1章例文：《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章（1930）  
日本語原作初出・出典は、岩崎祖（1929）「宣傳、煽動手段としての映画」『新興藝術』。

①「的」→「之」②「的」→「的」③「的」→「底」④「的」→「地」⑤「的」→「底的」

⑥「的」→「底地」⑦「的」→「的」⑧「的」→日本語の単語から「的」を取る⑨「的」→「意識及び書き換え（上、性など異なる接尾辞や、動詞等を補った例を含む）」

魯迅全集 番号	原作出典 (号/頁 数)	中国語	日本語	前接語 (日)	「的」訳法
1	p.389 1/p.19	曾经借着活字和纸张，而输运开去，复制出来的思想，是有着使中世的封建底、旧教底社会意识，归于坏灭的力量的。	嘗つては活字と紙によつて運輸され複製された思想が、中世の封建的、舊教的社會意識を破壊せしめる力をもつてゐた。	封建	③
2	p.389 1/p.19	曾经借着活字和纸张，而输运开去，复制出来的思想，是有着使中世的封建底、旧教底社会意识，归于坏灭的力量的。	嘗つては活字と紙によつて運輸され複製された思想が、中世の封建的、舊教的社會意識を破壊せしめる力をもつてゐた。	舊教	③
3	p.389 1/p.19	有产者底社会的勃兴，宗教改革，那些重大的历史底契机，由此得了结果了。	ブルジョワの社會の勃興、宗教改革、等の重大な歴史的契機がそれによつて結果せしめられた。	ブルジョワ	③
4	p.389 1/p.19	有产者底社会的勃兴，宗教改革，那些重大的历史底契机，由此得了结果了。	ブルジョワの社會の勃興、宗教改革、等の重大な歴史的契機がそれによつて結果せしめられた。	歴史	③
5	p.389 1/p.19	现在，在思想的输运上，在观念形态的决定上，电影所负的任务，就更加积极底，更加意识底了。	現在、思想の運輸に於て、イデオロギー決定の上に於て、映画の課せられてゐる任務は更に積極的であり、更に意識的である。	積極	③
6	p.389 1/p.19	现在，在思想的输运上，在观念形态的决定上，电影所负的任务，就更加积极底，更加意识底了。	現在、思想の運輸に於て、イデオロギー決定の上に於て、映画の課せられてゐる任務は更に積極的であり、更に意識的である。	意識	③
7	p.389 1/p.19	这在直接地是视觉底的这一种意义上，是无上的通俗底的而同时也是感铭底的活字，在原则底地没有言语这一种意义上，则是国际底活字。	それは直接に視覺的であるといふ意味に於て、此上なく通俗的で同時に感銘的な活字であり、原則的に言語を持たないといふ意味に於て、國際的活字である。	視覚	⑤

73

## 資料③

第1章例文：《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章（1930）  
日本語原作初出・出典は、岩崎祖（1929）「宣傳、煽動手段としての映画」『新興藝術』。

8	p.389 1/p.19	这在直接地是视觉底的这一种意义上，是无上的通俗底的而同时也是感铭底的活字，在原则底地没有言语这一种意义上，则是国际底活字。	それは直接に視覺的であるといふ意味に於て、此上なく通俗的で同時に感銘的な活字であり、原則的に言語を持たないといふ意味に於て、國際的活字である。	通俗	⑤
9	p.389 1/p.19	这在直接地是视觉底的这一种意义上，是无上的通俗底的而同时也是感铭底的活字，在原则底地没有言语这一种意义上，则是国际底活字。	それは直接に視覺的であるといふ意味に於て、此上なく通俗的で同時に感銘的な活字であり、原則的に言語を持たないといふ意味に於て、國際的活字である。	感銘	⑤
10	p.389 1/p.19	这在直接地是视觉底的这一种意义上，是无上的通俗底的而同时也是感铭底的活字，在原则底地没有言语这一种意义上，则是国际底活字。	それは直接に視覺的であるといふ意味に於て、此上なく通俗的で同時に感銘的な活字であり、原則的に言語を持たないといふ意味に於て、國際的活字である。	原則	⑥
11	p.389 1/p.19	这在直接地是视觉底的这一种意义上，是无上的通俗底的而同时也是感铭底的活字，在原则底地没有言语这一种意义上，则是国际底活字。	それは直接に視覺的であるといふ意味に於て、此上なく通俗的で同時に感銘的な活字であり、原則的に言語を持たないといふ意味に於て、國際的活字である。	國際	③
12	p.389 1/p.20	我想用了具体底的数目字来描写它。	私はそれを具體的な数字によつて描寫しやうと思ふ。	具體	⑥
13	p.390 1/p.21	又，这些常设馆的收容力的总计，是可以看作每日看客数目的平均底数字的，如下表所示——	また、これ等常設館に於ける收容力の總計は、一日の観客數の平均的數字であると見做すことが出来るのであるが、それは左の表に示されてゐる。	平均	③

74

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章 (1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶 (1929)「宣傳、煽動手段としての映画」『新興藝術』。

14	p.391	1/p.23	而这些，还是除掉了移动电影院，非商业底闹场的数字。	而这些，还是除掉了移动电影院，非商业底闹场的数字。	しかもこれ等は、移動映画館、非商業的劇場を除いての数字なのである。	非商業	③
15	p.392	1/p.23	就是，虽在一九二五年度的统计，一年间的电影看客的总额，就已经到了在亚美利加是约二十九亿，在欧洲是二十亿，在亚细亚，拉丁·亚美利加，加拿大，亚非利加等是十一亿，总计五十九亿那样的好像传奇的空想底数字了。	即ち、既に一九二五年年度の統計に於てすら、一年間の映画観客の延人員は、アメリカに於て約二十九億、ヨーロッパに於て二十億、アジア、ラテン・アメリカ、カナダ、アフリカ等に於て十億、總計五十九億といふ、物語めいた空想的数字にまで達してある。	即ち、既に一九二五年年度の統計に於てすら、一年間の映画観客の延人員は、アメリカに於て約二十九億、ヨーロッパに於て二十億、アジア、ラテン・アメリカ、カナダ、アフリカ等に於て十億、總計五十九億といふ、物語めいた空想的数字にまで達してある。	空想	③
16	p.392	1/p.23	电影所支配的这庞大的观众，以及电影形式的直接性，国际性，——就证明着电影在分量上，在实质上，都是用于大众底宣传，煽动的绝好的容器。	映画が支配してゐるこの龐大な觀眾、また映画形式の直接性、国際性、——映画は、量的にも、質的にも、大衆的宣傳・煽動のための絶好の容器であることが立證されて來る。	映画が支配してゐるこの龐大な觀眾、また映画形式の直接性、国際性、——映画は、量的にも、質的にも、大衆的宣傳・煽動のための絶好の容器であることが立證されて來る。	量	④
17	p.392	1/p.23	电影所支配的这庞大的观众，以及电影形式的直接性，国际性，——就证明着电影在分量上，在实质上，都是用于大众底宣传，煽动的绝好的容器。	映画が支配してゐるこの龐大な觀眾、また映画形式の直接性、国際性、——映画は、量的にも、質的にも、大衆的宣傳・煽動のための絶好の容器であることが立證されて來る。	映画が支配してゐるこの龐大な觀眾、また映画形式の直接性、国際性、——映画は、量的にも、質的にも、大衆的宣傳・煽動のための絶好の容器であることが立證されて來る。	質	④
18	p.392	1/p.23	电影所支配的这庞大的观众，以及电影形式的直接性，国际性，——就证明着电影在分量上，在实质上，都是用于大众底宣传，煽动的绝好的容器。	映画が支配してゐるこの龐大な觀眾、また映画形式の直接性、国際性、——映画は、量的にも、質的にも、大衆的宣傳・煽動のための絶好の容器であることが立證されて來る。	映画が支配してゐるこの龐大な觀眾、また映画形式の直接性、国際性、——映画は、量的にも、質的にも、大衆的宣傳・煽動のための絶好の容器であることが立證されて來る。	大衆	③
19	p.393	1/p.25	在市民底的川语惯例上的“宣传电影”的无意义，大略就如此。	市民的な用語例に於ける「宣傳映画」の無意味さは大略斯の如きものである。	市民的な用語例に於ける「宣傳映画」の無意味さは大略斯の如きものである。	市民	⑤

75

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章 (1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶 (1929)「宣傳、煽動手段としての映画」『新興藝術』。

20	p.393	1/p.25	我们能够就现在所制成的一切影片，将那隐微的目的——有时这还无意识地到了目的地步，正是倾向以至趣味的地步罢了，但那倾向以至趣味，结果也是一个重要的宣传价值——爆发出来。	我々は現在製作されてゐるすべての映画に就いて、その陰謀的目的——時にそれが未だ目的とまで意識的に突詰められてゐない場合、傾向乃至趣味の程度に止まつてゐることがあるが、その傾向乃至趣味なるものも結果として一つの重要な宣傳價值なのである。——を指摘することが出来る。	我々は現在製作されてゐるすべての映画に就いて、その陰謀的目的——時にそれが未だ目的とまで意識的に突詰められてゐない場合、傾向乃至趣味の程度に止まつてゐることがあるが、その傾向乃至趣味なるものも結果として一つの重要な宣傳價值なのである。——を指摘することが出来る。	意識	⑥
21	p.393	1/p.25	那或是向帝国主义战争的进军喇叭，或是爱国主义，君权主义的鼓吹，或是利用了宗教的反动宣传，或是资产阶级底拥护，是对于革命底无关心的催眠药，——要之，是只为了资产阶级秩序的利益，专心安排了的思想底布置。	それは、或は帝國主義戰爭への進軍喇叭であり、愛國主義、シヨローヴィニズムの鼓吹であり、宗教を利用した反動宣傳であり、小市民的社會的無關心への眼り藥——要するに、資本主義的秩序の利益のためにのみ專一に工夫された思想的からくりである。	それは、或は帝國主義戰爭への進軍喇叭であり、愛國主義、シヨローヴィニズムの鼓吹であり、宗教を利用した反動宣傳であり、小市民的社會的無關心への眼り藥——要するに、資本主義的秩序の利益のためにのみ專一に工夫された思想的からくりである。	小市民	③
22	p.393	1/p.25	那或是向帝国主义战争的进军喇叭，或是爱国主义，君权主义的鼓吹，或是利用了宗教的反动宣传，是对于革命底无关心的催眠药，——要之，是只为了资产阶级秩序的利益，专心安排了的思想底布置。	それは、或は帝國主義戰爭への進軍喇叭であり、愛國主義、シヨローヴィニズムの鼓吹であり、宗教を利用した反動宣傳であり、小市民的社會的無關心への眼り藥——要するに、資本主義的秩序の利益のためにのみ專一に工夫された思想的からくりである。	それは、或は帝國主義戰爭への進軍喇叭であり、愛國主義、シヨローヴィニズムの鼓吹であり、宗教を利用した反動宣傳であり、小市民的社會的無關心への眼り藥——要するに、資本主義的秩序の利益のためにのみ專一に工夫された思想的からくりである。	社會	③
23	p.393	1/p.25	那或是向帝国主义战争的进军喇叭，或是爱国主义，君权主义的鼓吹，或是利用了宗教的反动宣传，是对于革命底无关心的催眠药，——要之，是只为了资产阶级秩序的利益，专心安排了的思想底布置。	それは、或は帝國主義戰爭への進軍喇叭であり、愛國主義、シヨローヴィニズムの鼓吹であり、宗教を利用した反動宣傳であり、小市民的社會的無關心への眼り藥——要するに、資本主義的秩序の利益のためにのみ專一に工夫された思想的からくりである。	それは、或は帝國主義戰爭への進軍喇叭であり、愛國主義、シヨローヴィニズムの鼓吹であり、宗教を利用した反動宣傳であり、小市民的社會的無關心への眼り藥——要するに、資本主義的秩序の利益のためにのみ專一に工夫された思想的からくりである。	資本主義	③
24	p.393	1/p.25	那或是向帝国主义战争的进军喇叭，或是爱国主义，君权主义的鼓吹，或是利用了宗教的反动宣传，是对于革命底无关心的催眠药，——要之，是只为了资产阶级秩序的利益，专心安排了的思想底布置。	それは、或は帝國主義戰爭への進軍喇叭であり、愛國主義、シヨローヴィニズムの鼓吹であり、宗教を利用した反動宣傳であり、小市民的社會的無關心への眼り藥——要するに、資本主義的秩序の利益のためにのみ專一に工夫された思想的からくりである。	それは、或は帝國主義戰爭への進軍喇叭であり、愛國主義、シヨローヴィニズムの鼓吹であり、宗教を利用した反動宣傳であり、小市民的社會的無關心への眼り藥——要するに、資本主義的秩序の利益のためにのみ專一に工夫された思想的からくりである。	思想	③

76

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章(1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎祖(1929)「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

25	p.394	1/p.26	英雄电影的任務，則在在世界电影市場上，抗拒着資本主義宣傳的澎湃的波浪，而作xxxxxx宣傳。	ソヴェート映畫の任務は、世界の映畫市場に於て、資本主義的宣傳の澎湃たる波に抗して、xxxxxxプロパガンダをなすことにある。	資本主義	③
26	p.394	1/p.26	而电影，是和那五「九亿的看客一同，可以在这斗争的權益上，加上决定底的重量的。	そして、映畫はその五十九億の觀衆と共に、この闘争の秤血に決定的な重量を加へることが出来るのである。	決定	⑤
27	p.394	1/p.26	資本主義底宣傳电影之中，占着最重要的部門的，是战争影片。	資本主義的宣傳映畫の中であつても、最も重要な部門を占めてゐるものは、戦争映畫である。	資本主義	③
28	p.394	1/p.26	辉煌的古代的袍甲，环绕以城垣的都市，神祠，奇怪的偶像，枪，盾，矛，火箭，石弩，这样异域情调的，而在当时，又是壮丽的布置，便忽然迷惑了对于电影还很幼稚的大众的眼，正合了时尚了。	キラ／＼とした古代の鎧、城壁をめぐらした都市、神殿、怪奇な偶像、槍、盾、矛、火箭、キヤタバルト、そんな異國風な、また當時としては壮麗な、道具立てが、映畫的に未だ素材な大衆の目をいきなり眩惑して、その人氣に救じたのであつた。	映畫	⑨
29	p.394	1/p.26	战争也不过仗了那动底的煽情底的视觉，使他们兴奋，有趣罢了。	戦争は、唯その動的な煽情的な視覚によつて彼等を興奮させ面白がらせただけに通ぎなかつた。	動	⑤

77

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章(1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎祖(1929)「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

30	p.394	1/p.26	战争也不过仗了那动底的煽情底的视觉，使他们兴奋，有趣罢了。	戦争は、唯その動的な煽情的な視覚によつて彼等を興奮させ面白がらせただけに通ぎなかつた。	煽情	⑤
31	p.394	1/p.27	引进近代的战争去，而在那里面分明地装入有意识的宣传底要素的最初的电影制作者，我以为恐怕是葛蒂非士(D.W.Griffith)罢。	近代の戦争を濫き入れて、その中にはつきりと意識された宣傳的要素を盛り込んだ最初の映畫製作者は、D・W・グリフィスであらうと思ふ。	宣傳	③
32	p.395	1/p.27	凡这些，真不如后出的许多好战底影片那样，积极地鼓吹了对外战争，但那日的，则仍在对于国民中有着驳杂分子的人种博物馆一般的合众国和其居民，涵养其确固的国家底概念，爱国心。	これ等は、後に續いて來た多くの好争的映畫の様に、積極的に對外戦争を鼓吹したものではないが、元來國民的に雜多な分子を有する人種博物館の様な合衆國に、その住民に、確固とした國家的觀念、愛國心を涵養することを目的とした。	好争	③
33	p.395	1/p.27	凡这些，真不如后出的许多好战底影片那样，积极地鼓吹了对外战争，但那日的，则仍在对于国民中有着驳杂分子的人种博物馆一般的合众国和其居民，涵养其确固的国家底概念，爱国心。	これ等は、後に續いて來た多くの好争的映畫の様に、積極的に對外戦争を鼓吹したものではないが、元來國民的に雜多な分子を有する人種博物館の様な合衆國に、その住民に、確固とした國家的觀念、愛國心を涵養することを目的とした。	積極	⑥
34	p.395	1/p.27	凡这些，真不如后出的许多好战底影片那样，积极地鼓吹了对外战争，但那日的，则仍在对于国民中有着驳杂分子的人种博物馆一般的合众国和其居民，涵养其确固的国家底概念，爱国心。	これ等は、後に續いて來た多くの好争的映畫の様に、積極的に對外戦争を鼓吹したものではないが、元來國民的に雜多な分子を有する人種博物館の様な合衆國に、その住民に、確固とした國家的觀念、愛國心を涵養することを目的とした。	國民	⑨

78

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章 (1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶(1929)「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

35	p.395	1/p.27	凡这些, 虽不如后出的许多好战底影片那样, 积极底地鼓吹了对外战争, 但那目的, 则仍在对于国民中有着复杂分子的人和博物馆一般的合众国和其居民, 涵养其确固的国家底概念, 爱国心。	これ等は、後に續いて来た多くの好争的映畫の様に、積極的に對外戦争を鼓吹したものではないが、元來國民的に雜多な分子を有する人種博物館の様な合衆國に、その住民に、確固とした國家的概念、愛國心を涵養することを目的とした。	國家	③
36	p.395	1/p.27	奏着煽動底的进行曲的军队, 在各处都市的大街上往来, 各十字路口站着形单, 报纸独于此时候说些“亚美利加市民”的义务。	煽動的な行進曲を吹奏した単葉隊が各地方の都會のメイ・ストリートを経て廻り、辻々にはポスターが貼られ、新聞はこの時とばかりに「アメリカ市民」の義務を説いた。	煽動	⑤
37	p.395	1/p.28	当此之际, 亚美利加政府之宣传, 也是有史以来的最大规模, 而且最见效果的了。	この際に於けるアメリカ政府の宣傳たるや、有史以來最も大規模で且つ効果的なものであった。	効果	⑨
38	p.395	1/p.28	在以根据西班牙的发狂底反对德国者伊本纳支 (Blasco Ibañ Aez) 的原作《默尔求的四骑士》(Four Horsemen of the Apocalypse), 《我们的海》(Mare Nostrum) 为代表作品的战争影片上, 亚美利加的支配阶级便描写出德国军队的如何凶残, 德国潜艇的如何非人道, 巧妙地煽动了单纯的花旗人。	スペインの狂的の反獨家ブラスコ・イバニエエスの原作意による「默示録の四騎士」Four Horsemen of the Apocalypse「我等の海」Mare Nostrum等を代表作とする戦争映畫に於て、アメリカの支配階級は、ドイツの軍隊が如何に兇惡であり、ドイツの潜水艦が如何に非人道的であるか、を描寫して、單純なヤンキー一連を巧妙に煽動した。	狂	③
39	p.395	1/p.28	在以根据西班牙的发狂底反对德国者伊本纳支 (Blasco Ibañ Aez) 的原作《默尔求的四骑士》(Four Horsemen of the Apocalypse), 《我们的海》(Mare Nostrum) 为代表作品的战争影片上, 亚美利加的支配阶级便描写出德国军队的如何凶残, 德国潜艇的如何非人道, 巧妙地煽动了单纯的花旗人。	スペインの狂的の反獨家ブラスコ・イバニエエスの原作意による「默示録の四騎士」Four Horsemen of the Apocalypse「我等の海」Mare Nostrum等を代表作とする戦争映畫に於て、アメリカの支配階級は、ドイツの軍隊が如何に兇惡であり、ドイツの潜水艦が如何に非人道的であるか、を描寫して、單純なヤンキー一連を巧妙に煽動した。	非人道	⑧

79

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章 (1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶(1929)「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

40	p.396	1/p.28	于是发生一种欲望, 要符世界大战这一个重大的历史底事件, 在国民底叙事诗的形态上, 艺术底再出现出来, 正是白然的事。	そこに、世界大戰といふ重大な歴史的事件を、國民的叙事詩の姿に於て、藝術的に再現する慾望が生じて來るのは自然である。	歴史	③
41	p.396	1/p.28	于是发生一种欲望, 要符世界大战这一个重大的历史底事件, 在国民底叙事诗的形态上, 艺术底再出现出来, 正是白然的事。	そこに、世界大戰といふ重大な歴史的事件を、國民的叙事詩の姿に於て、藝術的に再現する慾望が生じて來るのは自然である。	國民	③
42	p.396	1/p.28	于是发生一种欲望, 要符世界大战这一个重大的历史底事件, 在国民底叙事诗的形态上, 艺术底再出现出来, 正是白然的事。	そこに、世界大戰といふ重大な歴史的事件を、國民的叙事詩の姿に於て、藝術的に再現する慾望が生じて來るのは自然である。	藝術	⑥
43	p.396	1/p.29	战争的叙事法, 便以最为好战底煽动企图, 创作出来了。	戦争の叙事詩が、最も好戰的な煽動意圖を以て作られることになつた。	好戰	⑤
44	p.396	1/p.29	《战地之花》(Big parade), 《飞机大战》(Wings) 以下, 许多反动底宣传影片, 列举名目就不暇其数。	「大進軍」Big Parade、「つばさ」Wings以下、多くの反動的宣傳映畫の名を擧げるの類にたえない。	反動	③
45	p.396	1/p.29	制作之法, 是添些乐剧式恋爱的适当的甘甜, 以及掩饰些人道主义底的战争批评的药料, 弄得易于下咽, 使能在较白然, 较暗默之中, 达到宣传的目的。	より自然に、より暗默の中に、宣傳の目的を達す可く、メロドラマ的な戀愛による適當の甘さと、人道主義的な戦争批判を申し諱けに挿入した薬味とを添へて、舌觸りよく作られてゐる。	メロドラマ	⑨
46	p.396	1/p.29	制作之法, 是添些乐剧式恋爱的适当的甘甜, 以及掩饰些人道主义底的战争批评的药料, 弄得易于下咽, 使能在较白然, 较暗默之中, 达到宣传的目的。	より自然に、より暗默の中に、宣傳の目的を達す可く、メロドラマ的な戀愛による適當の甘さと、人道主義的な戦争批判を申し諱けに挿入した薬味とを添へて、舌觸りよく作られてゐる。	人道主義	⑤

80

## 資料③

第1章例文：《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章（1930）  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶（1929）「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

47	p.396	1/ p.29	但虽然是十分小心的阶段，而其究竟目的之所在，则同是将遮眼的东西给与大众，使不明帝国主义或战争的本质，以及犹太亚美利加军队的英雄主义，有时还宣传军队生活的放恣和有趣罢了。	③	帝國主義	しかも、その念いりな假面にもかゝはらず、その究極の目的とする處はひとしく、帝國主義的戦争の本質に對して大膽に日かくしを興へること、アメリカ軍隊のヒロイズムを讚美すること、そして時に時には軍隊生活の放恣な面白さを宣傳すること、なのである。
48	p.396	1/ p.29	（我深悟在这里没有振出这种战争影片的完全的目录，以那代表底的几个例子，来使我的叙述更加具体起来的纸面和时间了。但我相信将来会有补正的机会的。）	⑤	代表	（私はここで、この種の戦争映畫の完全なリストを掲げ、その代表的な數個の例によつて、私の叙述を更に具體的に進める紙面と時間とがないことを遺憾に思ふ。いづれ他日加筆補正するの機会を待つことと信ずる。）
49	p.396	1/ p.29	（我深悟在这里没有振出这种战争影片的完全的目录，以那代表底的几个例子，来使我的叙述更加具体起来的纸面和时间了。但我相信将来会有补正的机会的。）	⑤	具體	（私はここで、この種の戦争映畫の完全なリストを掲げ、その代表的な數個の例によつて、私の叙述を更に具體的に進める紙面と時間とがないことを遺憾に思ふ。いづれ他日加筆補正するの機会を待つことと信ずる。）
50	p.397	1/ p.30	当叙述完战争电影之际，而没有提及作为几个例外底现象的反对战争的倾向，怕是不妥当的罢。	③	例外	戦争映畫に就いての叙述を終るに際して、二三の例外的現象としての戦争反對の傾向に觸れないことは不當であらう。
51	p.397	1/ p.30	我们在《战地之花》里，在几个段落里，虽然是大感伤底底，然而总算也看见了描写着诅咒战争的心情。	④	個別	我々は「大進軍」の中に於ても、二三の個別的な場合に、餘りに感傷的であるにしろ、とに角戦争に對する呪詛の氣持が描かれてゐるのを見た。
52	p.397	1/ p.30	我们在《战地之花》里，在几个段落里，虽然是大感伤底底，然而总算也看见了描写着诅咒战争的心情。	⑤	感傷	我々は「大進軍」の中に於ても、二三の個別的な場合に、餘りに感傷的であるにしろ、とに角戦争に對する呪詛の氣持が描かれてゐるのを見た。

81

## 資料③

第1章例文：《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章（1930）  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶（1929）「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

53	p.397	1/ p.30	那心理，在《战地呼声》（What Price Glory）中，就更为积级地表白着。	⑥	積極	その心理は「榮光」What Price Gloryにあつて、更に積極的に表白されてゐる。
54	p.397	1/ p.30	和这比较起来，技术上非常卓越的战争影片《帝国旅馆》（Hotel Imperial）的导演者 Erich Pommer 所作的《铁索网》（Barbed Wire），倘临未设那高唱人类爱的可笑的夸张，则和猛烈地讽刺了帝国主义战争的名喜剧《阵后堪兵》（Behind the Front）一同，大概是可以属于反战争电影的范畴的了。	④	技術	これに比べれば技術的に非常に卓れた戦争映畫「ホテル・インペリアル」Hotel Imperiaのプロデューサー、エーリヒ・ポマーの製作した「鐵條網」Barbed Wireは、その結果に於ける人類愛の高唱の嘲り可き誇張さへへなかつたならば、帝國主義戦争を痛烈に諷刺した名喜劇「彌次甚多從軍記」Behind the Frontと共に、反戦映畫の範疇に所屬せしめることが出来るであらう。
55	p.398	2/ p.33	爱国或宣传电影，也是世界大战后的显著的现象。	③	愛國	愛國的宣傳映畫も失張り世界大戰後の顯著な現象である。
56	p.398	2/ p.33	为什么呢？因为这种电影，虽有外形上的差违，但终极之点，是在向帝国主义战争的意识的准备，鼓舞，在那君权主义上，在那好战性上，和战争影片是本质底地相关联的。	②	意識	何故ならば、この種の映畫は、その外形上の差違こそあれ、究局に於ては帝國主義戦争への意識的準備であり、鼓舞である點で、そのシヨーン・ヴィーニズムに於て、その好戦性に於て、戦争映畫と本質的に聯關してゐるものなのであるから。
57	p.398	2/ p.33	为什么呢？因为这种电影，虽有外形上的差违，但终极之点，是在向帝国主义战争的意识的准备，鼓舞，在那君权主义上，在那好战性上，和战争影片是本质底地相关联的。	⑥	本質	何故ならば、この種の映畫は、その外形上の差違こそあれ、究局に於ては帝國主義戦争への意識的準備であり、鼓舞である點で、そのシヨーン・ヴィーニズムに於て、その好戦性に於て、戦争映畫と本質的に聯關してゐるものなのであるから。

82

## 資料③

第1章例文：《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章（1930）  
日本語原作初出・出典は、岩崎祖（1929）「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

58	p.398	2/ p.34	接着这个，而国民底英雄俾士麦的传记，化成电影了，兴登堡的传记，化成电影了。	それに續いて國民的英雄俾スマークの傳記が映畫化された。	國民	③
59	p.398	2/ p.34	《俾上麦》（Bismarck）者，单为了那制作，就设起俾上麦电影公司来，照成了两部二十余卷的巨制，凡在这帝国主义底政治家一生中的切爱国底，煽情底的要素，都一一透漏地填进在那里面。	「ビスマーク」bismarckは、その製作のためのためにビスマーク映畫株式會社が設立され、二部作、二十數卷、の大作品として撮影されたが、この帝國主義的政治家の一生に於けるあらゆる愛國的、煽情的な要素があまりす處なくその中に詰め込まれた。	帝國主義	③
60	p.399	2/ p.34	《俾上麦》（Bismarck）者，单为了那制作，就设起俾上麦电影公司来，照成了两部二十余卷的巨制，凡在这帝国主义底政治家一生中的切爱国底，煽情底的要素，都一一透漏地填进在那里面。	「ビスマーク」Bismarckは、その製作のためのためにビスマーク映畫株式會社が設立され、二部作、二十數卷、の大作品として撮影されたが、この帝國主義的政治家の一生に於けるあらゆる愛國的、煽情的な要素があまりす處なくその中に詰め込まれた。	愛國	③
61	p.399	2/ p.34	《俾上麦》（Bismarck）者，单为了那制作，就设起俾上麦电影公司来，照成了两部二十余卷的巨制，凡在这帝国主义底政治家一生中的切爱国底，煽情底的要素，都一一透漏地填进在那里面。	「ビスマーク」bismarckは、その製作のためのためにビスマーク映畫株式會社が設立され、二部作、二十數卷、の大作品として撮影されたが、この帝國主義的政治家の一生に於けるあらゆる愛國的、煽情的な要素があまりす處なくその中に詰め込まれた。	煽情	⑤

83

## 資料③

第1章例文：《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章（1930）  
日本語原作初出・出典は、岩崎祖（1929）「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

62	p.399	2/ p.35	“我们的影片的祖国底目的（der vaterländische Zweck），也就定了那内面的结构和事件的时间底限制。	「我々のフィルムムの祖國的な目的 der vaterländische Zweck はまたその内面的な組立や筋の時間的制限をも既定する。… …	祖國	⑤
63	p.399	2/ p.35	所以俾士麦的少年时代，仅占了极简略的开端。	……それ故に、ビスマークの少年時代は極めて簡約的なプロローグで取扱はれてゐる。……	簡約	②
64	p.399	2/ p.35	为什么呢？就因为跟着发生的国内内纷争，以及他的退隐，是惹起阴沉的回忆，不使观者结合，却使之乖离，有过于这电影全体的祖国底的目的的缘故。	何故ならば、それに續く國內的な争ひや、また彼の退隱や、は惹つた思ひ出を呼び起こして、觀者を結合せず、却つて離反させ、この映畫全體の祖國的な目的にそむくものであるから。	國內	②
65	p.399	2/ p.35	为什么呢？就因为跟着发生的国内内纷争，以及他的退隐，是惹起阴沉的回忆，不使观者结合，却使之乖离，有过于这电影全体的祖国底的目的的缘故。	何故ならば、それに續く國內的な争ひや、また彼の退隱や、は惹つた思ひ出を呼び起こして、觀者を結合せず、却つて離反させ、この映畫全體の祖國的な目的にそむくものであるから。	祖國	⑤
66	p.399	2/ p.35	这影片的主要部分，足将从一八四七年，俾士麦入了政治底生活的时候起，至一八七一年止，作为一个完成了的戏曲的。（下略。）”	この映畫の主要部分は、即ち、一八七四年、ビスマークが政治的生活に入つた時から、一八七一年までを一つの完成した戯曲として取り扱ふ。（下略）」	政治	③

84

## 資料③

第1章例文：《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章 (1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶 (1929)「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

67	p.399	2/ p.35	一九二七年春，德意志国权党领袖之一，奥古斯德·霍尔书店的事实上的所有者福于培克，乘德国大公司之·乌发公司财务危机，买进了那股票的过半，坐了乌发公司总经理的交椅了。	一九二七年春、ドイツ國權黨の領袖の一人であり、アウグスト・シアール書房の事実上の所有者であるフーゲンベルグは、ドイツ唯一の大會社ウーファ社の財政的危機に乗じて、その株の過半を買ひ占め、ウーファ社總支配人の椅子に坐つた。	財政	⑧
68	p.399	2/ p.35	福于培克立刻在乌发公司的出品计划上，露骨地显示了他的政治底主张。	フーゲンベルグはウーファ社のプロダクシオン・プランに直ちに彼の政治的主張を露骨に示した。	政治	③
69	p.399	2/ p.35	那最是世界底例子，是《世界大战》(Walkrieg)的二部作。	その最も世界的な例は「世界大戰」Weltkriegの二部作である。	世界	⑤
70	p.399	2/ p.35	对于这，社会民主党的内閣便即刻取了牵制底手段。	これに對して、社會民主黨の内閣は直に牽制的手段に出た。	牽制	③
71	p.399	2/ p.35	为了使德国的独占底大电影公司不成为国权党宣传机关，这是不得已的方法。	ドイツの獨占の大映畫會社をナチェリストの宣傳機關たらしめないためには、止むを得ない方法を標榜してゐる。	獨占	③
72	p.400	2/ p.36	在表面上所称磅的，《世界大战》是将一九一四年至一九一七年的战争中所摄的各国(大概是德法)的照片，凭了纯粹的历史底客观而编辑的留在软片上的记录。	表面上は、「世界大戰」は、一九一四年から一九一七年までの戰爭中に撮影された各國(主として獨、佛)の實寫を、紀然たる歴史の客觀によつて、編輯した、フィルムによるドキュメントであることを標榜してゐる。	歴史	③
73	p.400	2/ p.36	而且这比起七一描写本国军队的胜利，的勇敢，的爱国的美利加式电影来，也正好接近于写实。	そしてそれは、白國軍の勝利、その勇敢、その愛國のみを描いた、アメリカ式戰爭映畫に比べれば、如何にも實寫的である。	實寫	⑨

85

## 資料③

第1章例文：《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章 (1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶 (1929)「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

74	p.401	2/ p.37	这在东洋，则教人以佛教底的忍从和蔑视现世，在西方，则成为基督教底和平主义，想阻止现存的社会阶级的积极改革。	それは東洋に於ては、佛敎的な忍従と現世の蔑視を教へ、西方に於ては、基督教の平和主義となつて、現存する階級社會の積極的改革を阻まうとする。	佛教	⑤
75	p.401	2/ p.37	这在东洋，则教人以佛教底的忍从和蔑视现世，在西方，则成为基督教底和平主义，想阻止现存的社会阶级的积极改革。	それは東洋に於ては、佛敎的な忍従と現世の蔑視を教へ、西方に於ては、基督教の平和主義となつて、現存する階級社會の積極的改革を阻まうとする。	基督教	③
76	p.401	2/ p.37	这在东洋，则教人以佛教底的忍从和蔑视现世，在西方，则成为基督教底和平主义，想阻止现存的社会阶级的积极改革。	それは東洋に於ては、佛敎的な忍従と現世の蔑視を教へ、西方に於ては、基督教の平和主義となつて、現存する階級社會の積極的改革を阻まうとする。	律種	③
77	p.401	2/ p.37	到二十世纪，宗教虽然已经失却了昔日的权威和信仰，但倒是因为失却，所以对于那支配阶级的奴仆状态，也就愈加露骨，故意起来了。	二十世紀に於て、宗教は昔日の權威と信仰とを失つてゐるにもかゝらず、否、むしろ失つてゐるが故に、その支配階級に對する忠實な奴僕振りはますます／＼露骨に、白覺になつて來た。	白覺	⑨
78	p.401	2/ p.37	在物质文明发达较迟的国度中，宗教还有着大大的宣传煽动力。	物質文明の發達が比較的遅れてゐる國々にあつては、宗教は未だに大きな宣傳・煽動力を持つてゐる。	比較	⑨
79	p.401	2/ p.38	例如，《十诫》(The Ten Commandments)，《基督教徒》(Christian)，《宾汉》(Ben Hur)，《万王之王》(King of Kings)，《犹大之王，拿撒勒的耶稣》(INRI)之类的基督教宣传电影，《亚细亚之光》(Die Leuchte Asiens)，《大圣日莲》之类的佛教电影，是和感戴之泪一同，从全世界的愚夫愚妇，善男信女的衣裳里，赚得满头的布施，从商业方面看起来，也是利益最多的影片。	「十誡」The Ten Commandments「クリスチヤン」Christian「ベン・ハー」Ben Hur「キング・オブ・キングス」King of Kings「ユダヤの王、ナザレのイエス」INRIの如き基督教宣傳映畫、「亞細亞の光」Die Leuchte Asiens「大聖日蓮」等、等の佛敎映畫、は、全世界の愚夫愚婦、善男善女のボケツトから感戴の涙と共に確實な善錢をせしめ、商業的方面から見ても最も収益の多いフィルムである。	商業	③

86



## 資料③

第1章例文：《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章（1930）  
日本語原作初出・出典は、岩崎祖（1929）「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

80	p.401	2/ p.38	一切宗派中、罗马加特力教会是最留意于电影的利用的、毎年一回电影会议、决定着那一年中全世界底宣传的计划。	あらゆる宗派の中で、ローマン・カトリックの教会は、映画の利用について最も意を拂つてゐて、毎年一回映画會議を開催して、その年度に於ける全世界的宣傳プランを議定してゐる。	全世界	③
81	p.402	2/ p.38	然因此便推定宗教的世界底无力、是不可的。	併し乍ら、これを以て直に、宗教の世界的無力を推定することは出来ない。	世界	③
82	p.402	2/ p.39	为资本主义底生产方法和右产者政府的监视所拘束的现今电影的一切、几乎都被用于拥护有产阶级的、我相信是已经很明显的了。	資本主義的生產方法と、ブルジョワ政府の監視と、に制約される現在の映畫の殆んどすべてが、ブルジョワ階級擁護のために役立たされてゐることは、既に明らかとなつたことと信ずる。	資本主義	③
83	p.402	2/ p.39	这种电影，可以分成三样概括底区别。	この種の映畫には三つの概括的な區別がなされ得る。	概括	③
84	p.402	2/ p.39	那第一种，是和封建底、乃至贵族底社会相对抗、而尽讴歌有产阶级的胜利的任务的。	その第一種は、封建的、乃至貴族的社會に對抗しての、ブルジョワ階級の勝利を謳歌する任務を果す。	封建	③
85	p.402	2/ p.39	那第一种，是和封建底、乃至贵族底社会相对抗、而尽讴歌有产阶级的胜利的任务的。	その第一種は、封建的、乃至貴族的社會に對抗しての、ブルジョワ階級の勝利を謳歌する任務を果す。	貴族	③

87

## 資料③

第1章例文：《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章（1930）  
日本語原作初出・出典は、岩崎祖（1929）「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

86	p.402	2/ p.39	因此那全部，几乎都是取材于市民底社会的勃兴的历史影片。	従つて、その殆んど全部は、市民的社會の勃興期に取材する歴史映畫である。	市民	③
87	p.402	2/ p.39	××，或者××的野蛮底横暴，在其下尝着涂炭之苦的农民，工商阶级。	××、或は××の野蠻的な横暴。	野獸	③
88	p.402	2/ p.39	到影片的第七卷，而有产阶级终于蜂起，将电影底的极顶（Climax）和壮大的群集（mob scene），在这里大行展开，这是那典型底的结构。	そして遂に、フィルムの一七卷日に至つて、ブルジョワ階級は蜂起し、極めて映畫的なクライマックスと、壯大なモブ・シーンをそこに展開する、といふのがその典型的な取方である。	映畫	⑤
89	p.402	2/ p.39	到影片的第七卷，而有产阶级终于蜂起，将电影底的极顶（Climax）和壮大的群集（mob scene），在这里大行展开，这是那典型底的结构。	そして遂に、フィルムの一七卷日に至つて、ブルジョワ階級は蜂起し、極めて映畫的なクライマックスと、壯大なモブ・シーンをそこに展開する、といふのがその典型的な取方である。	典型	⑤
90	p.402	2/ p.39	但在大多数的影片上，有产阶级是决不作为一个阶级底总体而蜂起的，大抵由一个（往往是贵族出身，年青，而又眉目秀丽的！）英雄所指导，力点就放在那个人底英雄主义上。	唯、大多數のフィルムに於ては、ブルジョワ階級が決して一つの階級的總體として蜂起しないで、一人の（恐らくはアリストクラシー出身の、若くて、しかも眉目秀麗な！）英雄によつて指導され、力點がその個人的なヒロイズムに置かれるのである。	階級	③
91	p.402	2/ p.39	但在大多数的影片上，有产阶级是决不作为一个阶级底总体而蜂起的，大抵由一个（往往是贵族出身，年青，而又眉目秀丽的！）英雄所指导，力点就放在那个人底英雄主义上。	唯、大多數のフィルムに於ては、ブルジョワ階級が決して一つの階級的總體として蜂起しないで、一人の（恐らくはアリストクラシー出身の、若くて、しかも眉目秀麗な！）英雄によつて指導され、力點がその個人的なヒロイズムに置かれるのである。	個人	⑤

88

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章(1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶(1929)「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

92	p.403	2/ p.40	作为那最是性格底的作品，读者只要记起《罗宾汉》(Robin Hood)，《斯刹那婆修》(Scarnouche)，《定情之夜》(A Night of Love)来，大约就足够了。在日本的时代剧，尤其是剑剧影片之中，我们也有那不少的例子。	その最も性格的な作品として、讀者は「ロビンフッド」Robin Hood「スカラムーシュ」Scarnouche「悲戀舞曲」A Night of Loveを思ひ出せば足りるであらうし、日本の時代劇、ことに劍劇映畫の中にも、我々はその少なからぬ例を持つてゐる。	⑤	性格
93	p.403	2/ p.40	但是，我们又能够在那历史底时代，发见新兴有产阶级所演的革命的角色，和现在的无产阶级的斗争，其间有很大的类似(Analogic)。	けれども、我々はまた、その歴史的時代にあつて新興ブルジョワジーの演じた革命的な役割と、現在のプロレタリアートの闘争との間に大きなアナロジーを見出すことが出来る。	③	歴史
94	p.403	2/ p.40	但是，我们又能够在那历史底时代，发见新兴有产阶级所演的革命的角色，和现在的无产阶级的斗争，其间有很大的类似(Analogic)。	けれども、我々はまた、その歴史的時代にあつて新興ブルジョワジーの演じた革命的な役割と、現在のプロレタリアートの闘争との間に大きなアナロジーを見出すことが出来る。	②	革命
95	p.403	2/ p.40	倘作者将意识底的强音(Akzent)集中于此的时候，是可以产生优秀的作品的。	そして、作者が意識的なアクセントをそこに集中した時、優秀な作品が生れ得る。	⑤	意識
96	p.403	2/ p.41	那是在无产阶级的胜利上，特别是上暴虐的假面，涂些污泥，使小市民变成反革命起见的有产阶级的xx。	それはプロレタリアの勝利に、ことさら暴虐の假面を被せ、泥を塗り、以て小市民階級を反革命的ならしめるための、ブルジョワジーのxxであつたのである。	⑧	反革命的

89

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章(1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶(1929)「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

97	p.404	2/ p.41	那是握着“头和手”之间，非有心脏不可“这标语的社会主义主义者，宣讲着资本家和劳动者可以不出战争，但靠相互底的协力与爱，即能建设新社会云云的巴蒂尔塔以前的童话。	「頭と手との間には心臓がなければならぬ。」といふスローガンを掲げた、社会民主主義者か、資本家と労働者との闘争によることなしに、相互的な協力と愛とによつて新しい社会を建設し得ることを説教した、バベルの塔以前の御伽噺である。	⑤	相互
98	p.404	2/ p.41	论难攻击了《Metropolis》而显了英雄的英国的改良主义底时行作家威尔(H.G.Wells)，在那近者《The King Who Was a King——The Book of a Film》上，关于战争的绝灭，大要着使口内瓦的政治家们也要脸红那样反动底Demagogie(笼络群众手段)，那时滑稽之至的。	「メトロポリス」を論難攻撃して勇を擧げたイギリスの改良主義的ジャーナリスト、H・G・ウェルズは、その近著The King Who Was a King — The Book of a Filmに於て、戦争の絶滅に就いて、ジュネーヴの政治家達をも赤面せしめるやうな反動的デマゴギーを飛ばしてゐることは滑稽千萬である。	③	改良
99	p.404	2/ p.41	论难攻击了《Metropolis》而显了英雄的英国的改良主义底时行作家威尔(H.G.Wells)，在那近者《The King Who Was a King——The Book of a Film》上，关于战争的绝灭，大要着使口内瓦的政治家们也要脸红那样反动底Demagogic(笼络群众手段)，那时滑稽之至的。	「メトロポリス」を論難攻撃して勇を擧げたイギリスの改良主義的ジャーナリスト、H・G・ウェルズは、その近著The King Who Was a King — The Book of a Filmに於て、戦争の絶滅に就いて、ジュネーヴの政治家達をも赤面せしめるやうな反動的デマゴギーを飛ばしてゐることは滑稽千萬である。	③	反動
100	p.404	2/ p.42	有产阶级的电影底宣传，一到阶级间的对立逐渐鲜明地，决定地地尖锐起来，也就陷在无可避免的绝地里了。	ブルジョワジーの映畫的プロパガンダは、併し乍ら、階級間の對立がいよいよ鮮明に決定的に尖鋭化して來るに從つて、如何とも避く可からざる行き詰まりに陥ち込む。	③	映畫
101	p.404	2/ p.42	有产阶级的电影底宣传，一到阶级间的对立逐渐鲜明地，决定地地尖锐起来，也就陷在无可避免的绝地里了。	ブルジョワジーの映畫的プロパガンダは、併し乍ら、階級間の對立がいよいよ鮮明に決定的に尖鋭化して來るに從つて、如何とも避く可からざる行き詰まりに陥ち込む。	④	決定

90

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章 (1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶(1929)「宣傳、煽動手段としての映画」『新興藝術』。

102	p.405	2/ p.42	卢那卡尔斯基关于苏维埃电影, 曾经说明过“拙劣的煽动, 却招致反对的结果”这原则, 在这里, 却被有着意识地应用了。	ルナチャルスキーが、嘗てソヴェエト映画に就いて説明した「拙劣なアジテーションは却つてその反対の結果を招く」といふ原則が、こゝではブルジョワ的に應用されることになつた。	ブルジョワ	⑥
103	p.405	2/ p.42	至少, 是坐在银幕之前的小时中, 使他们忘却了一切社会底对立。	少なくとも、スクリーンの前に坐つてゐる数時間の間でも彼等にあらゆる社會的對立を忘れしめることだ。	社會	③
104	p.405	2/ p.43	关于小市民影片的发生, 在一九二七年一月所作的拙稿《电影美学以前》里, 虽然很简约, 却已曾略述过了的。以下数行, 请拏其拔萃, 以便读者的理解。	小市民映画の發生については、嘗つて、一九二七年一月に執筆された拙稿「映画美學以前」に於て極めて要約的に述べられているが、スケッチしたことがある。	要約	④
105	p.405	2/ p.43	那一大抵是关于恋爱柔滑的故事, 或则以母性爱为主题, 其中虽一个无产者, 一个资本家, 也不准登场。只有小市民阶级作为唯一的阶级, 在独裁着。(后略) ”	それは「主として戀愛に關する滑らかな物語」であるか、または煽情的な母性愛を主題とする。	煽情	無
106	p.405	2/ p.43	在小市民家庭剧中, 有两种特征底倾向——	小市民的家庭劇に特徴的な二つの傾向がある。	小市民	⑧
107	p.405	2/ p.43	在小市民家庭剧中, 有两种特征底倾向——	小市民的家庭劇に特徴的な二つの傾向がある。	特徴	⑤

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章 (1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶(1929)「宣傳、煽動手段としての映画」『新興藝術』。

108	p.406	2/ p.44	粗略一看, 则现在的电影, 尤其是电影剧, 乃是写实主义底的。	一見した處、現在の映画、殊に映画劇は寫實主義的である。	寫實主義	⑤
109	p.406	2/ p.44	但其实, 除了极少数的第一流作品以外, 一切全没有什么现实底的严肃的。	が、事實は、極めて少數の第一流作品を除いて、すべては、何等現實的の辭えを合ひ合はせない。	現實	⑤
110	p.406	2/ p.44	这是为了平庸, 近视, 乐天底的小市民们而设的, 也是平庸, 近视, 乐天底的罗曼主义。	それはアメリカの平凡で、現實的で、樂天的な小市民達のための、また平凡で、現實的で、樂天的なロマンティンズムである。	現實	⑨
111	p.406	2/ p.44	这是为了平庸, 近视, 乐天底的小市民们而设的, 也是平庸, 近视, 乐天底的罗曼主义。	それはアメリカの平凡で、現實的で、樂天的な小市民達のための、また平凡で、現實的で、樂天的なロマンティンズムである。	樂天	⑤
112	p.406	2/ p.44	这是为了平庸, 近视, 乐天底的小市民们而设的, 也是平庸, 近视, 乐天底的罗曼主义。	それはアメリカの平凡で、現實的で、樂天的な小市民達のための、また平凡で、現實的で、樂天的なロマンティンズムである。	現實	⑨
113	p.406	2/ p.44	这是为了平庸, 近视, 乐天底的小市民们而设的, 也是平庸, 近视, 乐天底的罗曼主义。	それはアメリカの平凡で、現實的で、樂天的な小市民達のための、また平凡で、現實的で、樂天的なロマンティンズムである。	樂天	⑤

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章 (1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎祖 (1929)「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

114	p.406	2/ p.44	作为那象征底的形式，则有柯林·莫亚 (Collin Moore)，诺玛·希拉 (Norma Shearer)，克莱拉·宝 (Clara Bow)，从一九二六年起，顺次登场来了。	その象徴的なフィギュアとして、コリン・ムーアが、ノーマ・シーラが、クララ・ボウが、一九二六年から順次に登場した來た。	⑤	象徴
115	p.406	2/ p.45	读者必须明白，这小市民底的罗曼主义，是和亚美利加资本主义还在走着上行线的这一个公式底认识，有不可分的关联的。这事实，在一方面，是每年将九十亿元的国帑，撒在无产阶级底怀中，而使发生了叫作所谓“Four hundreds”的有闲阶级，利子生活者的大群。	この小市民的なロマンテイズムは、アメリカ資本主義が未だに上行線を辿りつゝあるといふ、公式的認識と不可分の關係に於て理解されなければならないのであるが、この事實は一方に於て、毎年九十億弗の國家所得をブルジョワ階級、利子生活者の大群を發生せしめた。	⑤	小市民
116	p.406	2/ p.45	读者必须明白，这小市民底的罗曼主义，是和亚美利加资本主义还在走着上行线的这一个公式底认识，有不可分的关联的。这事实，在一方面，是每年将九十亿元的国帑，撒在无产阶级底怀中，而使发生了叫作所谓“Four hundreds”的有闲阶级，利子生活者的大群。	この小市民的なロマンテイズムは、アメリカ資本主義が未だに上行線を辿りつゝあるといふ、公式的認識と不可分の關係に於て理解されなければならないのであるが、この事實は一方に於て、毎年九十億弗の國家所得をブルジョワ階級、利子生活者の大群を發生せしめた。	③	公式
117	407	2/ p.45	但还是除掉了利息，花红之类的企业利得，只是直接个人底收入的计算，所以事实上的数字，大约还要见得着下成的增加的罢。	しかも、これは利子、配當、等による企業利得を除外した、直接個人的収入のみの計算であるから、事實上の数字は更に何パーセントからの増加を示すであらう。	③	個人
118	p.407	2/ p.45	而且有闲阶级，利子生活者的大群，则使他本身的消费底文化，娱乐机关，极端地发达起来了。	又そして、有閑階級、利子生活者の大群は、それ自身の消費的文化、娛樂機關を極度に發達せしめた。	③	消費

93

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章 (1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎祖 (1929)「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

119	p.407	2/ p.45	而从那消费底文化的母胎中，就醱酵了为一切文化烂熟期之特色的一种像煞有介事，通人趣味，低徊趣味，讽刺，冷嘲等。这过度地地洗炼了的生活感情，他们称之为 Sophistication。	そして、その消費的文化の母胎の中から、すべての文化爛熟期の特色たる、一種の氣取り、通人趣味、低徊趣味、アイロニー、シニシズム、などが醗酵して來た。	③	消費
120	p.407	2/ p.46	但是，亚美利加虽在那一切的资本主义底兴隆，但本身之中，却已经包藏着到底消除不尽的内底矛盾，而在苦闷。消费不能相副的一面底生产，失了投资市场的大金融资本，荷佛政府的积极底外交，拥抱着五百万失业者的美国亚美利加，现在是正踏在不可掩饰的阶级底对立的顶上了。	併し乍ら、そのすべての資本主義的興隆にもかゝらばらず、アメリカは既に自己の身内に到底解消し切れない内的矛盾を包蔵して苦悶ある、消費の伴はない一方的生產。投資市場を失つた大金融資本、フーヴァー政府の積極的外交。五百万の失業者を抱いた天國アメリカは、今や蔽ふ可からざる階級的對立の頂上に足踏みしつゝある。	③	資本主義
121	p.407	2/ p.46	但是，亚美利加虽在那一切的资本主义底兴隆，但本身之中，却已经包藏着到底消除不尽的内底矛盾，而在苦闷。消费不能相副的一面底生产，失了投资市场的大金融资本，荷佛政府的积极底外交，拥抱着五百万失业者的美国亚美利加，现在是正踏在不可掩饰的阶级底对立的顶上了。	併し乍ら、そのすべての資本主義的興隆にもかゝらばらず、アメリカは既に自己の身内に到底解消し切れない内的矛盾を包蔵して苦悶ある、消費の伴はない一方的生產。投資市場を失つた大金融資本、フーヴァー政府の積極的外交。五百万の失業者を抱いた天國アメリカは、今や蔽ふ可からざる階級的對立の頂上に足踏みしつゝある。	③	内
122	p.407	2/ p.46	但是，亚美利加虽在那一切の资本主义底兴隆，但本身之中，却已经包藏着到底消除不尽的内底矛盾，而在苦闷。消费不能相副的一面底生产，失了投资市场的大金融资本，荷佛政府的积极底外交，拥抱着五百万失业者的美国亚美利加，现在是正踏在不可掩饰的阶级底对立的顶上了。	併し乍ら、そのすべての資本主義的興隆にもかゝらばらず、アメリカは既に自己の身内に到底解消し切れない内的矛盾を包蔵して苦悶ある、消費の伴はない一方的生產。投資市場を失つた大金融資本、フーヴァー政府の積極的外交。五百万の失業者を抱いた天國アメリカは、今や蔽ふ可からざる階級的對立の頂上に足踏みしつゝある。	③	一方

94

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章 (1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶(1929)「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

123	p-407	2/ p-46	但是，亞美利加在那一切の資本主義底興隆，但本身之中，却已經包藏着到底消除不盡の底矛盾，而在苦悶。消費不能和副の一面底生産，失了投資市場の大金融資本，荷佛政府の私極底外交，擁抱着五百万失業者の天國亞美利加，現在是正踏在不可掩飾的階級底對立的頂上了。	併し乍ら、そのすべての資本主義的興隆にもかゝらず、アメリカは既に自己の身内に到底解消し切れない内的矛盾を包蔵して苦悶ある、消費の伴はない一方的生産。投資市場を失つた大金融資本。フーヴァー政府の積極的外交。五百万の失業者を抱いた天國アメリカは、今や徹ふ可からざる階級の對立の頂上には踏みしつゝある。	③	積極	③
124	p-407	2/ p-46	但是，亞美利加虽在那一切の資本主義底興隆，但本身之中，却已經包藏着到底消除不盡の底矛盾，而在苦悶。消費不能和副の一面底生産，失了投資市場の大金融資本，荷佛政府の私極底外交，擁抱着五百万失業者の天國亞美利加，現在是正踏在不可掩飾的階級底對立的頂上了。	併し乍ら、そのすべての資本主義的興隆にもかゝらず、アメリカは既に自己の身内に到底解消し切れない内的矛盾を包蔵して苦悶ある、消費の伴はない一方的生産。投資市場を失つた大金融資本。フーヴァー政府の積極的外交。五百万の失業者を抱いた天國アメリカは、今や徹ふ可からざる階級の對立の頂上には踏みしつゝある。	③	階級	③
125	p-408	2/ p-46	“我的，《电影和资本主义》，原要接着本稿，更以社会底适当的电影，无产阶级方面所作的宣传电影等，作为顺次的向题，臻于完成的。但现在，则仅对于无产阶级电影的如上”的研究，暂且搁笔。	私の「映畫と資本主義」は本稿に續いて、更に社會的逃避の映畫。	③	社會	③
126	p-408	2/ p-46	“又，本稿不过对于每一项目，各能写出独立的研究那样的浩瀚的材料，给了极概括的一瞥，在这一端，是全篇过于常以底了。请许我声明我自己颇为憾的事。”	なほ、本稿は元來、その一つ／＼の項目についてそれ／＼、獨立した論攻が書かれ得る程の極めて尠大な素材に對してほんの概括的な一瞥を興へたのみであつて、その點餘りに常識的に終始したことを、私自身遺憾に思つてゐることを附言させてもらふ。	⑤	概括	⑤

95

## 資料③

第1章例文:《現代電影與有産階級》における日本語からの翻訳文章 (1930)  
日本語原作初出・出典は、岩崎昶(1929)「宣傳、煽動手段としての映畫」『新興藝術』。

127	p-408	2/ p-46	“又，本稿不过对于每一项目，各能写出独立的研究那样的浩瀚的材料，给了极概括的一瞥，在这一端，是全篇过于常以底了。请许我声明我自己颇为憾的事。”	なほ、本稿は元來、その一つ／＼の項目についてそれ／＼、獨立した論攻が書かれ得る程の極めて尠大な素材に對してほんの概括的な一瞥を興へたのみであつて、その點餘りに常識的に終始したことを、私自身遺憾に思つてゐることを附言させてもらふ。	③	常識	③
-----	-------	---------	---	--	---	----	---

96

## 資料④

第1章例文:《日本短篇小説集》における日本語からの翻訳文章(1935)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

①「的」→「之」②「的」→「的」③「的」→「底」④「的」→「地」⑤「的」→「底的」  
⑥「的」→「底地」⑦「的」→「的」⑧「的」→日本語の単語から「的」を取る⑨「的」→意識及び書き換え(上、性など異なる接尾辞や、動詞等を補った例を含む)

番号	タイトル	頁数	原作出年	原作タイトル	著者	原作出典頁数	中国語訳	原文	前接語(日)	「的」訳法
1	蜜柑	p.23	1919	蜜柑	芥川龍之介	p.6	我在竅進了機噓的一瞬間，起着一種錯覺，就像火車在逆行着的一樣，幾乎是機械地吧把眼睛在那些素漠的記事上移動。	私は隧道へはいつた一瞬間、汽車の走つてゐる方向が逆になつたやうな錯覺を感じながら、それらの素漠とした記事から記事へ殆ど機械的に眼を通した。	機械	⑦
2	馬糞石	p.79	1919	馬糞石	荷西善藏	p.15	所以把馬糞石送給了學校的話完全是假話，事實上是已經在和東京的三井或大倉那幾位宮臺在辯交涉，或則是送到了青森的報館裏大大地宣傳了之後再來圖買，不啻是那「途」一定是「真萬確的。	で馬糞石を畜産學校へ送つたなんとならふことは真赤な嘘で、東京の三井とか大倉とからふ宮臺へ交渉中か、それとも青森の新聞社へでも送つて先づ大々的に評判を立てさせてそれから買り込もうと云ふ計劃か、どちらからかに違ひないとききめてしまつたのだ。	火々	④
3	色彩	p.179	1930	色彩	武田麟太郎	p.134	在爲要打破非人的生活而被強迫着不能不逼着更非人的生活的時候，那有功夫來把捉得戀愛的意義呢？	非人間的な生活を破るために、もつと非人間的な生活を犯ひられてゐる彼らに、どうして戀愛といふものの意味が極めやうぞ。	非人間	⑨
4	色彩	p.179	1930	色彩	武田麟太郎	p.134	在爲要打破非人的生活而被強迫着不能不逼着更非人的生活的時候，那有功夫來把捉得戀愛的意義呢？	非人間的な生活を破るために、もつと非人間的な生活を犯ひられてゐる彼らに、どうして戀愛といふものの意味が極めやうぞ。	非人間	⑨

97

## 資料④

第1章例文:《日本短篇小説集》における日本語からの翻訳文章(1935)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

5	小兒病	p.214	1927	小兒病	片岡鐵兵	p.100	那改變而爲了熱情的，向着真理的之追慕。	それが、熱情的になり、真理への追慕になつて来る。	熱情	②
6	小兒病	p.214	1927	小兒病	片岡鐵兵	p.100	所以Marxismus是科學，同時又以藝術的魅力打動着年青人的心。	だから、マルクス學は科學であると同時に、藝術的魅力を以て、若い心を打つのである。	藝術	②
7	小兒病	p.214	1927	小兒病	片岡鐵兵	p.100	那是「充分地藝術的。	それは十分に藝術的だ。	藝術	②
8	小兒病	p.215	1927	小兒病	片岡鐵兵	p.101	在不久之前一說着這樣的話總覺得有點偽善的聲響的，	つい此間までは、そんな事を云ふと何となく偽善的な響きを以て聽えたものだ。	偽善	②
9	小兒病	p.215	1927	小兒病	片岡鐵兵	p.101	這正是人類的實感在「九二七年的進德的進化。	そしてそれこそ、人間の實感の、千九百二十七年に於ける進德的進化であつた。	道德	②
10	小兒病	p.218	1927	小兒病	片岡鐵兵	p.101	然而由經濟雜誌的主筆碰到了現在的「公司經理的父親，只是一只雇用的主腦，並不是挾着資本的實力以支配着公司的。	然し經濟雜誌の主筆から、今の会社の専務として人つた父は、單なるお雇ひ重役にすぎないのであつて、資本的な實力を以て會社を支配してゐる譯ではなかつた。	資本	②
11	小兒病	p.225	1927	小兒病	片岡鐵兵	p.103	武崎是堂堂地在向着實踐方面進行着的。	武崎はどしどし實行的に進んで行つてゐる。	實行	⑨
12	小兒病	p.225	1927	小兒病	片岡鐵兵	p.103	漸漸地受着教育，當慣於戰鬥的生涯。	だん／＼教育され、戰鬥的な生活を身に付けて行くのだ。	戰鬥	②

98

## 資料④

第1章例文:《日本短篇小説集》における日本語からの翻訳文章(1935)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

13	小兒病	p.226	1927	小兒病	片岡鐵兵	p.103	出賣父親, 是有點肉體上的苦痛,	父を賣るるのは、肉體的に苦痛なのだ。	肉體	①
14	小兒病	p.226	1927	小兒病	片岡鐵兵	p.103	他那時候, 在心中把那個常識的思想喚起了來。	彼はその時、心の中で、あの常識的な思想を呼んでみた。	常識	②
15	小兒病	p.230	1927	小兒病	片岡鐵兵	p.104	那樣說了, 父親不知怎地空空洞洞地笑了起來, 是絕望的笑。	さう云つて、父は何故かへら／＼と笑つた。絶望的な笑ひだつた。	絶望	②
16	冰結的跳舞場	p.251	1925	氷る舞踏場	中河與一	p.34	年情情的寡婦在心中那樣自語着, 把含有熱情的視線投向立在近旁的青年, 微笑着。	若々しい未亡人は心でさう吹きながら、熱情的な視線をすぐ近くに立てゐる青年の上に注いで微笑した。	熱情	①
17	冰結的跳舞場	p.267	1925	氷る舞踏場	中河與一	p.45	那種的無心使她們愈見樂天的, 愈見美。	その無心さが一層彼女達を樂天的で美しくしてゐた。	樂天	②
18	現眼的瓜子	p.275	1928	眼に見えた瓜子	横光利一	p.37	我像積着善行的騎士一樣, 抱着道德的風懷, 和電車一道去了。	私は善行を積んだ騎士のやうに道德的な風懷をもつて、車と一緒に去つていつた。	道德	②
19	現眼的瓜子	p.298	1928	眼に見えた瓜子	横光利一	p.58	然而, 現在, 道德的規律從我的體內完全崩潰了。	が、今は私の體內からは道德的な規律が盡く崩壊した。	道德	②
20	現眼的瓜子	p.310	1928	眼に見えた瓜子	横光利一	p.69	作中的辰子賣春婦, 過於類型的地沒有趣味。	作中の辰子なる賣春婦はあまりに類型的にて面白くなし。	類型	⑦

## 資料④

第1章例文:《日本短篇小説集》における日本語からの翻訳文章(1935)  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

21	拿破崙與疥癬	p.316	1926	ナポレオンと田蝨	横光利一	p.355	那在一切皮膚病中, 痒得最為頑強, 而有輪狀地擴展的性質。	それは纏ゆる皮膚病の中で、最も頑強な痒さを與へて輪郭的に擴がる性質をもつてゐた。	輪郭	⑨
----	--------	-------	------	----------	------	-------	-------------------------------	--	----	---

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

通番号	発表年	巻数	全頁数	大題	小題	例文	前接語
1	1918	1	p.117	坟	我之节烈观	节烈这两个字，从前也算是男子的美德，所以有过“节上”，“烈上”的名称。	有
2	1918	1	p.119	坟	我之节烈观	上回《新青年》登出的《贞操论》里，已经说过理由。	说
3	1918	1	p.121	坟	我之节烈观	此后皇帝换过了几家，守节思想倒反发达。	换
4	1918	1	p.122	坟	我之节烈观	只有就那书上，记载过几个女人，因为境遇不愿守节，据做书的人说：可是他再嫁以后，便被前夫的鬼捉去，落了地狱；	记载
5	1918	1	p.122	坟	我之节烈观	其间还有过几个男人，实觉于心不安，说些空话不应守志殉死的平和话，可是社会不听；再说下去，便要不容，与失节的女人一样看待。	有
6	1918	1	p.295	热风	随感录二十五	我一直从前曾见严文峻在一本什么书上发过议论，书名和原文都忘记了。	发
7	1918	1	p.295	热风	随感录二十五	现在到了北京，这情形还未改变，我也时时发起这样的忧虑：一面又佩服严文峻究竟是“做”过精研黎《天演论》的，的确与众不同；是一个十九世纪末在中国感觉敏锐的人。	“做”
8	1918	1	p.300	热风	三十三	《灵学杂志》内俞复先生答吴稚晖先生书里说过：“鬼神之说不开，国家之命遂促！”可知最好是张鬼神之说了。	说
9	1918	1	p.309	热风	三十七	记得先前也曾有过一回，但那时提倡的，是满清王公大臣，现在却是民国教育家，位分略有不同。	有
10	1918	1	p.309	热风	三十七	枪炮这东西，中国虽然“古时也有过”，可是此刻没有了。	有

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

11	1918	1	p.310	热风	三十七	这件事从前已经试过一次，在一千九百年（4）。	试
12	1918	1	p.312	热风	三十八	丙云：“外国的东西，中国都已有了；某种科学，即某了所说的云云”，这两种都是“古今中外派”的支流；依据张之洞的格言，以“中学为体西学为用”的人物。	有
13	1918	1	p.423	呐喊	狂人日记	他们——也有给如县打枷过的，也有给绅士学过嘴的，也有衙役占了他妻子的，也有老子娘被债主逼死的；	打枷
14	1918	1	p.423	呐喊	狂人日记	他们——也有给如县打枷过的，也有给绅士学过嘴的，也有衙役占了他妻子的，也有老子娘被债主逼死的；	学//嘴
15	1918	1	p.426	呐喊	狂人日记	他对我讲书的时候，亲口说过可以“易子而食”；又一回偶然议论起一个不好的人，他便说不但该杀，还当“食肉寝皮”。	说
16	1918	1	p.429	呐喊	狂人日记	大哥，大约当初野蛮的人，都吃过一点人。后来因为心思不同，有的不吃人了，一味要好，便变了人，变了真的人。	吃
17	1918	1	p.430	呐喊	狂人日记	大哥，我相信你能说，前天佃户要减租，你说过不能。	说
18	1918	1	p.432	呐喊	狂人日记	没有吃过人的孩子，或者还有？	吃
19	1918	8	p.79	集外集补编	随感录	越南得不到文学上的作品，单见过一种他们自己做的亡国史。	见
20	1919	1	p.135	坟	我们现在怎么做父亲	幸而这一类教训，虽然害过许多人，却还未能完全扫尽了一切人的天性。	害



## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、『鲁迅全集』参照。

21	1919	1	p.135	坟	我们现在怎么做父亲	没有读过“圣贤”的人，还能将这大性在名教的斧钺底下，时时流露，时时萌蘖；这便是中国人虽然凋落萎缩，却未灭绝的原因。	读
22	1919	1	p.137	坟	我们现在怎么做父亲	(文末的孔府上，很出过几个有特色的奇人，不像现在这般冷落，这话也许确是北海先生所说；只是攻击他的偏是路粹和曹操，教人发笑罢了。)	出
23	1919	1	p.330	热风	四十二	我见过他一张《收获时之月》(《The Harvest Moon》)的画。	见
24	1919	1	p.335	热风	四十七	倘若谁也弄这玄虚；农夫送来了一粒粉，用显微镜照了，却是一碗饭；水夫挑来用水浇过的土，想喝茶的又须挤出湿上的水；那可真要支撑不住了。	湿
25	1919	1	p.348	热风	五十六“来了”	民国成立的时候，我住在一个小县城里，早已挂过白旗。	挂
26	1919	1	p.354	热风	五十九“圣武”	我前回已经说过“什么主义都与中国无干”的话了；	说
27	1919	1	p.355	热风	五十九“圣武”	我们从旧的外来思想说罢，六朝的确有许多衰身的和尚，唐朝也有过砍下臂膊布施无赖的和尚；从新的说罢，自然也有过几个人的。	有
28	1919	1	p.355	热风	五十九“圣武”	我们从旧的外来思想说罢，六朝的的确有许多衰身的和尚，唐朝也有过砍下臂膊布施无赖的和尚；从新的说罢，自然也有过几个人的。	有
29	1919	1	p.360	热风	六十二 恨恨而死	愤恨只是恨而死的根苗，古人有过许许多多，我们不要蹈他们的覆辙。	有
30	1919	1	p.434	呐喊	孔乙己	他们住住要亲眼看着黄酒从坛子里舀出，看过壶子底里有水没有，又亲香将壶子放在热水里，然后放心；	看
31	1919	1	p.435	呐喊	孔乙己	听人家背地里谈论，孔乙己原来也读过书，但终于没有进学，又不会营生；	读
32	1919	1	p.436	呐喊	孔乙己	孔乙己喝过半碗酒，涨红的脸色渐渐复了原，旁人便又问道，“孔乙己，你当真认识字么？”	喝

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、『鲁迅全集』参照。

33	1919	1	p.436	呐喊	孔乙己	有一回对我说道，“你读过书么？”	读
34	1919	1	p.436	呐喊	孔乙己	他说，“读过书，……我便考你一考。茴香豆的茴字，怎样写的？”	读
35	1919	1	p.441	呐喊	药	——一阵脚步声响，一眨眼，已经拥挤了拥一大簇人。	拥
36	1919	1	p.442	呐喊	药	黑的人便抢过灯笼，一把扯下纸罩，裹了馒头，塞与老栓；一手抓过洋钱，捏一捏，转身去了。	抢
37	1919	1	p.442	呐喊	药	黑的人便抢过灯笼，一把扯下纸罩，裹了馒头，塞与老栓；一手抓过洋钱，捏一捏，转身去了。	抓
38	1919	1	p.447	呐喊	药	化过纸，呆呆的坐在地上；仿佛等候什么似的，但自己也说不出等候什么。	化
39	1919	1	p.447	呐喊	药	华大妈看他排好叫唤菜，一碗饭，立着哭了一通，化过纸锭；心平暗暗地想，“这坟里的也是儿子了。”	化
40	1919	7	p.226	集外集拾遗	对于《新潮》一部分的意见	上海的小说家梦里也没有想到过。	想到
41	1919	8	p.91	集外集补编	白言白话	因为他一世没有进过城，见识有限，无从可谈。	进//城
42	1919	8	p.93	集外集补编	白言白话	他知道外面就亮是危险的。身子还软，要被别的螃蟹吃去的。这并非空害怕，他实在亲眼见过。	见
43	1920	1	p.450	呐喊	明天	单四嫂子心里计算：神签也求过了，愿心也许过了，单方面也吃过了，要是还不见效，怎么办？	求

44	1920	1	p.450	呐喊	明天	单四嫂子心里计算：神筮也求过了，愿心也许过了，单方也吃过了，要是还不见效，怎么办好？	许
45	1920	1	p.450	呐喊	明天	单四嫂子心里计算：神筮也求过了，愿心也许过了，单方也吃过了，要是还不见效，怎么办好？	吃
46	1920	1	p.452	呐喊	明天	单四嫂子接过药方，一面走，一面想。	接
47	1920	1	p.453	呐喊	明天	“单四嫂子，孩子怎么了？——看过先生了么？”	看
48	1920	1	p.454	呐喊	明天	掌柜回来的时候，帮忙的人早吃过饭；	吃
49	1920	1	p.455	呐喊	明天	昨天烧过一串纸钱，上午又烧了四十九卷《大悲咒》；	烧
50	1920	1	p.455	呐喊	明天	王九妈又帮他煮了饭，凡是动过手开过口的人都吃了饭。	动
51	1920	1	p.455	呐喊	明天	王九妈又帮他煮了饭，凡是动过手开过口的人都吃了饭。	开//口
52	1920	1	p.455	呐喊	明天	太阳渐渐显出要落山的颜色；吃过饭的人也不觉都显出要回家的颜色，——于是他们终于都回了家。	吃
53	1920	1	p.455	呐喊	明天	但他接连着便觉得很异样；遇到了平生没有遇到过的事，不像会有的事，然而的确出现了。	遇到
54	1920	1	p.456	呐喊	明天	——我早说过：他是粗笨女人。	说

55	1920	1	p.460	呐喊	一件小事	几年来的文治武力，在我早如幼小时候所读过的“子曰诗云”一般，背不上半句了。	读
56	1920	1	p.463	呐喊	头发的故事	只是走到没有打过的生地方还是骂。	打
57	1920	1	p.464	呐喊	头发的故事	“我呢？也一样，只是元年冬天到北京，还被人骂过几次，后来骂我的人也被警察剪去了辫子，我就不再被人辱骂了；但我没有回乡去。”	骂
58	1920	1	p.470	呐喊	风波	因为赵七爷的这件竹布长衫，轻易是不常穿的，三年以来，只穿过两次；	穿
59	1920	1	p.470	呐喊	风波	七斤记得，两年前七斤喝醉了酒，曾经骂过赵七爷是“贱胎”，所以这时便立刻直觉到七斤的危险，心坎里突突地发起跳来。	骂
60	1920	1	p.471	呐喊	风波	七斤和他的女人没有读过书，不很懂得这古真的奥妙，但觉得有学问的七爷这么说，事情自然非常重大，无可挽回，便仿佛受了死刑宣告似的，耳朵里嗡的一声，再也说不出一句话。	读
61	1920	1	p.473	呐喊	风波	赵七爷也跟着走去，众人一面怪八嫂多事，一面让开路，几个剪过辫子重新留起的便赶快躲在人丛后面，怕他看见。	剪
62	1920	1	p.473	呐喊	风波	嗡嗡的一阵乱嚷，蚊子都搔过赤膊身子，闯到乌桕树下去做市；	撞
63	1920	1	p.475	呐喊	风波	九斤老太早已做过八十大寿，仍然不平而且康健。	做
64	1921	1	p.372	热风	智识即罪恶	到过阴间的前辈先生说，阴府的大门是有匾额和对联的，我留心看时，却没有，只见大堂上坐着一位阎罗王。	到
65	1921	1	p.376	热风	事实胜于雄辩	去年我在青云阁的一个铺子里买过一双鞋，今年破了，今年破了，又到原铺子去照样的买一双。	买

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

66	1921	1	p.376	热风	事实胜于雄辩	现在在我敬道加上了，看过了，然而通的。	看
67	1921	1	p.477	呐喊	故乡	么儿没有见过我，远远的对面站着只是看。	见
68	1921	1	p.478	呐喊	故乡	我们那时候不知道谈些什么，只记得闰上很高兴，说是上城之后，见了许多没有见过的东西。	见
69	1921	1	p.480	呐喊	故乡	“不认识了么？我还抱过你咧！”	抱
70	1921	1	p.480	呐喊	故乡	但是擦着白粉，颧骨没有这么高，嘴唇也没有这么薄，而且终日坐着，我也从没有见过这圆规式的姿势。	见
71	1921	1	p.481	呐喊	故乡	一日是天气很冷的午后，我吃过午饭，坐着喝茶，觉得外面有人进来了，便回头去看。	吃
72	1921	1	p.482	呐喊	故乡	“这是第五个孩子，没有见过世面，躲躲闪闪……”	见
73	1921	1	p.483	呐喊	故乡	母亲问他，知道他的家里事忙，明天便得回去；又没有吃过午饭，便叫他自己到厨下炒饭吃去。	吃
74	1921	1	p.487	呐喊	阿Q正传	——虽说英国正史上并无“博徒列传”，而文豪迭更司也做过《博徒别传》这一部书，但文豪则可，在我辈却不可的。	做
75	1921	1	p.489	呐喊	阿Q正传	我曾经仔细想：阿Quei，阿佳还是阿贵呢？倘使他名叫月亭，或者在八月间做过生日，那一定是阿桂了；	做
76	1921	1	p.489	呐喊	阿Q正传	而他就没有号——也许有号，只是没有人知道他，——又未尝散过生日征文的帖子；	散

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

77	1921	1	p.489	呐喊	阿Q正传	先前，我也曾问过赵太爷的儿子茂才先生，谁料博雅如此公，竟也茫然，但据结论说，是因为陈独秀办了《新青年》提倡洋字，所以国粹论亡，无可查考了。	问
78	1921	1	p.491	呐喊	阿Q正传	然而未庄人真是不见世面的可笑的下人呵，他们没有见过城里的煎鱼！	见
79	1921	1	p.491	呐喊	阿Q正传	但上文说过，阿Q是有见识的，他立刻知道和“犯忌”有点抵触，便不再往下说。	说
80	1921	1	p.494	呐喊	阿Q正传	他付过地保二百文酒钱，愤愤的躺下了，后来想：“现在的世界太不成话，儿子打老子……”	付
81	1921	1	p.497	呐喊	阿Q正传	“柔儿。罢……”阿Q历来木只在肚子里骂，没有出过声，这回因为正气忿，因为要报仇，便不由的轻轻的说出来了。	出
82	1921	1	p.499	呐喊	阿Q正传	阿Q本来也是正人，我们虽然不知道他曾有什么明师指授过，但他对于“男女之大防”却历来非常严；也很有排斥异端——如小尼姑及假洋鬼子之类——的正气。	指授
83	1921	1	p.500	呐喊	阿Q正传	——他五六年，曾在戏台下的人丛中打过一女人的大腿，但因为这层缘故，所以此后并不飘飘然，	打
84	1921	1	p.500	呐喊	阿Q正传	这一天，阿Q在赵太爷家里吞了一大米，吃过晚饭，便坐在厨房里吸旱烟。	吃
85	1921	1	p.500	呐喊	阿Q正传	倘在别家，吃过晚饭本可以回去的了，但赵府上晚饭早，虽就定例不准掌灯，一吃完便睡觉，然而偶然也有一些例外：	吃
86	1921	1	p.501	呐喊	阿Q正传	因为这话是未庄的乡下人从来不用，专是见过官府的阔人出的，所以格外怕，而印象也格外深。	见
87	1921	1	p.507	呐喊	阿Q正传	他或者也曾告诉过管土谷祠的老头子，然而未庄老例，只有赵太爷钱太爷和秀才大爷上城才算一件事。	告诉

88	1921	1	p.509	呐喊	阿Q正传	“你们可看见过杀头么？”阿Q说，“咳，好看。杀革命党。咳，好看好看，……”	看见
89	1921	1	p.510	呐喊	阿Q正传	“我对华七嫂说过了。都完了。”	说
90	1921	1	p.510	呐喊	阿Q正传	于是伊们都吧巴巴的想见阿Q，缺绸裙的想问他买绸裙，要洋衫的想问他买洋衫，不但见了不逃避，有时阿Q已经走过了，也还要追上去叫住他，问道：	走
91	1921	1	p.513	呐喊	阿Q正传	阿Q的耳朵里，本来早听到过革命党这一句话，今年又亲眼见过杀革命党。	听到
92	1921	1	p.513	呐喊	阿Q正传	阿Q的耳朵里，本来早听到过革命党这一句话，今年又亲眼见过杀革命党。	见
93	1921	1	p.513	呐喊	阿Q正传	这种可怜的眼光，是阿Q从来没有见过的，一见之下，又使他舒服得如六月里喝了雪水。	见
94	1921	1	p.514	呐喊	阿Q正传	这晚上，管祠的老头子也意外的和气，请他喝茶；阿Q便向他要了两个饼，吃完之后，又要了一文点过的四两烛和一个树烛台，点起来，独自躺在自己的小屋子里。	点
95	1921	1	p.516	呐喊	阿Q正传	“革命革命，革过一革的，……你们要革得我们怎么样呢？”老尼姑两眼通红的说。“什么？……”阿Q诧异了。“你不知道，他们已经来革过了！”“谁？……”阿Q更其诧异了。	革
96	1921	1	p.516	呐喊	阿Q正传	“革命革命，革过一革的，……你们要革得我们怎么样呢？”老尼姑两眼通红的说。“什么？……”阿Q诧异了。“你不知道，他们已经来革过了！”“谁？……”阿Q更其诧异了。	革
97	1921	1	p.517	呐喊	阿Q正传	儿夫之后，将辫子盘在头上的逐渐增加起来了，早经说过，最先自然是茂才公，其次便是赵司晨和赵白眼，后来是阿Q。	说

98	1921	1	p.519	呐喊	阿Q正传	他一到里面，很吃了惊，只见假洋鬼子正站在腕子的中央，一身乌黑的大约是洋衣，身上也挂着一块银链了，手巾是阿Q曾经领教过的幌了，已经留到一尺多长的辫子都拆开了披在肩背上，蓬头散发的像一个刘秃子。	领教
99	1921	1	p.520	呐喊	阿Q正传	他似乎从来没有经验过这样的无聊。	经验
100	1921	1	p.521	呐喊	阿Q正传	但他究竟是做过“这路生意”的人，格外胆大，	做
101	1921	1	p.526	呐喊	阿Q正传	而这回他又看见从来没有见过的更可怕的眼睛了，又钝又锋利，不但已经咀嚼了他的话，并且还要咀嚼他皮肉以外的东西，永是不远不近的跟他走。	见
102	1921	8	p.97	集外集补编	“生降死不降”	我看见许多讨文上的人，大抵是既未殉难，也非逃匿，和清朝毫不相干的；或者倒反食过国民的“禄”。	食
103	1921	8	p.101	集外集补编	无题	这一篇道理，曾经在槐树下和命心异说过，现在恕不再叙了。	说
104	1922	1	p.384	热风	无题	我买定了八盒这“黄枚朱古律三文治”，付过钱，将他们装入衣袋里。	付
105	1922	1	p.386	热风	“以震其根深”	上海租界上的“国学”，以为做白话文的犬抵是青年，总该没有看过立董书的，于是乎用了所谓“国学”来吓唬他们。	看
106	1922	1	p.388	热风	所谓“国学”	洋场上的住古所谓文豪，“脚踏我我”“蝴蝶鸳鸯”既然做过一小堆，可是自有洋场以来，从没有人称这些文章（？）为国学，他们自己也并不以“国学”自命的。	做
107	1922	1	p.393	热风	“一是之学说”	但最“贯通激语”的是竟《经世报》来做“反应”，当《经世报》出版的时候，还没有“万恶孝为先”的谣言，而他们却早已发过许多崇奉的高论，可惜现在从日报变了月刊，实在有些萎缩现象了。	发
108	1922	1	p.402	热风	对于批评家的希望	看不起托尔斯泰，自然也自由的，但尤希望先调查一点他的行实，真看过几本他所做的书。	看
109	1922	1	p.415	呐喊	自序	我在年青时候也曾经做过许多梦，后来大半忘却了，但自己也并不以为可惜。	做

110	1922	1	p.418	呐喊	自序	我于适用了种种法，来麻醉自己的灵魂，使我沉入于国民中，使我回到古代去，后来也亲历或旁观过几样更寂寞更悲哀的事，都为我所不愿追怀，甘心使我和我的雇一同消灭在泥土里的，……	旁观
111	1922	1	p.418	呐喊	自序	S会馆有二间屋，相传是往昔曾在院子里的槐树上缢死过一个女人的，现在槐树已经高不可攀了，而这屋还没有人住；许多年，我便在这屋里钞过碑。	缢死
112	1922	1	p.535	呐喊	端午节	他们是没有受过新教育的，太太并无学名或雅号，所以也就没有什么称呼了，照老例虽然也可以叫“太太”，但他又不愿意太守旧，于是就发明了一个“婊子”。	受
113	1922	1	p.536	呐喊	端午节	他自己说，他是自从出世以来，只有人向他来要债，他从没有向人去讨过债，所以这一端是“非其所长”。	讨//债
114	1922	1	p.537	呐喊	端午节	“可是不送来又怎么好呢……哦，昨夜忘记说了，孩子们说那学费，学校里已经催过好几次了，说是倘若再不缴……”	催
115	1922	1	p.538	呐喊	端午节	他坐下，眼睛看着地面了，喝过一口茶，才又慢慢的开口说，“幸而衙门里也没有什么问题了，大约到初八就准有钱……”	喝
116	1922	1	p.540	呐喊	端午节	“你不是给上海的书铺子做过文章么？”	做
117	1922	1	p.542	呐喊	白光	陈士成看过县考的榜，回到家里的的时候，已经是下午了。	看
118	1922	1	p.543	呐喊	白光	别家的炊烟早消歇了，碗筷也洗过了，而陈士成还不去做饭。	洗
119	1922	1	p.545	呐喊	白光	至于他自己房子里的几个榻过的旧痕迹，那却全是先前几回下第以后的发了怔忡的举动，后来自己一看倒，也还感到惭愧而且羞人。	掘
120	1922	1	p.552	呐喊	兔和猫	母亲对我说，那样麻烦的弄兔法，伊历来还听也未尝听到过，恐怕是可以收入《无双谱》的。	听到
121	1922	1	p.552	呐喊	兔和猫	我又曾路过四四牌楼，看见一匹小狗被马车轧得快死，待回来时，什么也不见了，撇掉了哭，过往行人懂懂的走着，谁知道曾有一个生命附送在这里呢？	路

122	1922	1	p.553	呐喊	兔和猫	我曾经害过猫，平时也常打猫，尤其是在他们配合的时候。	害
123	1922	1	p.556	呐喊	鸭的喜剧	这样奇妙的音乐，我在北京确乎未曾听到过，所以即使如何爱国，也辩护不得，因为他虽然日无所见，耳朵是没有聋的。	听到
124	1922	1	p.556	呐喊	鸭的喜剧	从这荷花里，虽然从来没有见过养出半朵荷花来，然而养虾蟆却实在是一个极合式的处所。	见
125	1922	1	p.559	呐喊	社戏	我在倒上去的二十年中，只看过两回中国戏，前十年是绝不看，因为没有看戏的意识和机会，那两回全在后十年，然而都没有看出什么来就走了。	看
126	1922	1	p.560	呐喊	社戏	我向来没有这样忍耐的等候过什么事物，何况这身边的胖绅士的呼呼的喘气，这台上的冬冬咚咚的敲打，红红绿绿的晃荡，加之以十二点，忽而使我觉悟到在这里不过生了存了。	等候
127	1922	1	p.561	呐喊	社戏	我当时觉着这正是说了在我意中而未曾想到的话，因为我确记得在野外看过很好的好戏，到北京以后的连进两回戏园去，也许还是受了那时的影响哩。	看
128	1922	1	p.563	呐喊	社戏	吃饭之后，看过戏的少年们也都聚拢来了，高高兴兴的来讲戏。	看
129	1922	1	p.564	呐喊	社戏	那是正在对船头的一丛松柏林，我去年也曾经去游玩过，还看见破的石马倒在地下，一个石羊蹲在草里呢。	游玩
130	1922	1	p.565	呐喊	社戏	最惹眼的是屹立在庄外临河的空地上的一座戏台，模糊在远外的月夜中，和空间几乎分不出界限，我疑心画上见过的仙境，就在这里出现了。	见
131	1922	1	p.565	呐喊	社戏	双喜说，那就是有名的铁头老生，能连翻八十四个筋斗，他日里亲自数过的。	数

132	1922	1	p.568	呐喊	社戏	“都回来了！那里会错。我原说过与包票的！”双喜在船头上忽而大声的说。	说
133	1922	1	p.569	呐喊	社戏	“这真是大市镇里出来的读过书的人才识货！我的豆种是粒粒挑选过的，乡下人不识好歹，还说我的豆比不上别人的呢。我今天也要送些给我们的姊奶奶尝尝去……”	读
134	1922	1	p.569	呐喊	社戏	“这真是大市镇里出来的读过书的人才识货！我的豆种是粒粒挑选过的，乡下人不识好歹，还说我的豆比不上别人的呢。我今天也要送些给我们的姊奶奶尝尝去……”	挑选
135	1922	2	p.347	故事新编	补天	同时也跳出捧着水的腿上来，待到落在地上，就成了许多伊先前做过了。一般的小东西，只是人半木头呆脑，獐头鼠目的有些讨厌。	做
136	1922	2	p.345	故事新编	补天	“唉，我从来没有这样的无聊过！”伊想着，猛然间站立起来了，	无聊
137	1922	2	p.348	故事新编	补天	伊恐怕那些山碰了自己的脚，便伸手将他们撮住，望那山坳里，还伏着许多未曾见过的东西。	见
138	1922	2	p.349	故事新编	补天	“什么？”伊向来没有听过这类话，非常诧异了。	听
139	1922	2	p.351	故事新编	补天	“唉，我从来没有这样的无聊过。”伊坐在一座山顶上，两手捧着头，上气不接下气的说。	无聊
140	1923	8	p.114	集外集补编	看了魏建功君的《不敢白从》以后的几句声明	这一节，我在他的童话集的序文上已经说明过的了。	说明
141	1923	8	p.115	集外集补编	看了魏建功君的《不敢白从》以后的几句声明	其实是罗素在英国称赞中国，他的门槛就要被中国留学生踏破了的的故事，我也曾经和他谈过的。	谈
142	1924	1	p.159	坟	娜拉走后怎样——一九二二年十二月二十六日在北京女子高等师范学校文艺学会讲	娜拉走后怎样？——别人可也是发表过意见的。	发表

143	1924	1	p.160	坟	娜拉走后怎样——一九二二年十二月二十六日在北京女子高等师范学校文艺学会讲	阿尔志跋绥夫曾经了他所做到的小说，质问问梦想将来的黄金世界的理想家，因为要造那世界，先唤起许多人们来受苦。	质问
144	1924	1	p.162	坟	娜拉走后怎样——一九二二年十二月二十六日在北京女子高等师范学校文艺学会讲	人们因为能忘却，所以自己能渐渐地脱离了受过的苦痛，也因为能忘却，所以往往照样地再犯前人的错误。	受
145	1924	1	p.171	坟	论雷峰塔的倒掉	但我却见过未倒的雷峰塔，破破烂烂的映掩了湖光山色之间，落山的太阳照着这些四近的地方，就是“雷峰夕照”，西湖十景之一。	见
146	1924	1	p.171	坟	论雷峰塔的倒掉	“雷峰夕照”的真景我也见过，并不见佳，我以为。	见
147	1924	1	p.171	坟	论雷峰塔的倒掉	我的祖母讲起来还要有趣得多，大约是出了一部弹词叫作《义妖传》用的，但我没有看过这部书，所以也不知道“许仙”“法海”究竟是否这样写。	看
148	1924	1	p.177	坟	说胡须	“你怎么学日本人的样子，身体既矮小，胡子又这样，……”一位国粹家兼爱国者发过一篇崇论宏议之后，就达到这一个结论。	发
149	1924	1	p.177	坟	说胡须	第二，我的胡子，诚然和许多日本人的相向，然而我虽然没有研究过他们的胡须样式变迁史，但曾经见过几幅古人的画像，都不向上，只是向外，向下，和我们的国粹差不多。	研究
150	1924	1	p.177	坟	说胡须	第三，我的胡子，诚然和许多日本人的相向，然而我虽然没有研究过他们的胡须样式变迁史，但曾经见过几幅古人的画像，都不向上，只是向外，向下，和我们的国粹差不多。	见
151	1924	1	p.182	坟	论照相之类	黄高坡伯尚矣；王莽诛翟义党，分解肢体，令医生们察看，曾令绘图不可知，纵使绘过，现在已佚，徒令“古已有之”而已。	绘

152	1924	1	p.182	坟	论照相之类	朱的《新骨内经》，相传也指日验，《说郛》中有之，我曾看过它，多是胡说，大约是真的。	看
153	1924	1	p.182	坟	论照相之类	至于电线的用意，他却说过，就是每年加添铁丝，将来鬼兵到时，使中国人无处逃走。	说
154	1924	1	p.182	坟	论照相之类	我曾旁听过一位念佛的老太说明理由：他们挖了去，熬成油，点了灯，向地下各处去照去。	旁听
155	1924	1	p.184	坟	论照相之类	Th.Lipps在他那《伦理学的根本问题》中，说过这样意思的话。	说
156	1924	1	p.185	坟	论照相之类	我在先只读过《红楼梦》，没有看见“黛玉葬花”的照片的时候，是万料不到黛玉的眼睛如此之凸，嘴唇如此之厚的。	读
157	1924	1	p.186	坟	论照相之类	我所见的外国名伶美人的照相并不多，男扮女的照相没有见过，别的名人的照相见过几十张。	见
158	1924	1	p.186	坟	论照相之类	我所见的外国名伶美人的照相并不多，男扮女的照相没有见过，别的名人的照相见过几十张。	见
159	1924	1	p.187	坟	论照相之类	我虽然曾在药房的仿单上见过他的玉照，但那是代表了他的“如夫人”感谢丸药的功绩，所以印上的，并不因为他的文章。	见
160	1924	1	p.187	坟	论照相之类	近来则虽是奋战奋斗，做了这许多作品的如创造社诸君子，也不过印过很小的一张三人的合照，而且是铜板而已。	印
161	1924	1	p.410	热风	望勿“纠正”	胡先生还以为我那“成了古人”云云，是说他做过许多工作，已足以表现于世的意思。这实在使	做

162	1924	2	p.6	彷徨	祝福	那是下午，我到德的东头访过一个朋友，走出来，就在河边遇见她；而且见她瞪着的眼睛的视线，就知道明明是向我走来的。	访
163	1924	2	p.8	彷徨	祝福	而况明明说过“说不清”，已经推翻了答话的全局，即使发生什么事，于我也毫无关系了。	说
164	1924	2	p.9	彷徨	祝福	我也还想知道些关于祥林嫂的消息，但知道他虽然读过“鬼神者二气之良能也”，而忌讳仍然极多，当临近祝福时候，是万不可提起死亡疾病之类的话的；	读
165	1924	2	p.12	彷徨	祝福	那女人又取了衣服，道过谢，出去了。	道//谢
166	1924	2	p.14	彷徨	祝福	可是祥林嫂真出格，听说那时实在闹得利害，大家还都说大约因为在念书人家做过事，所以与众不同呢。	做
167	1924	2	p.16	彷徨	祝福	当她初到的时候，四叔虽然照例皱过眉，但鉴于向来雇用女工之难，也就并不反对，	皱//眉
168	1924	2	p.24	彷徨	在酒楼上	这城离我的故乡不过三十里，坐了小船，小半天可到，我曾在这里的学校里当过一年的教员。	当
169	1924	2	p.25	彷徨	在酒楼上	这同大既是不属于酒家的，我先前也曾眺望过许多回，有时也在雪天里。	眺望
170	1924	2	p.28	彷徨	在酒楼上	这些事我生平都没有经历过。	经历
171	1924	2	p.29	彷徨	在酒楼上	他有一个女儿叫阿顺，你那时到我家马来，也许见过的，但你一定没有留心，因为那时她还小。	见

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、『鲁迅全集』参照。

172	1924	2	p.30	彷徨	在酒楼上	我生平没有吃过养麦粉，这同 尝，实在不可口，却是非常甜。	吃
173	1924	2	p.35	彷徨	幸福的家庭	他想到这里，忽然从床上跳起来了。以先他早已想过，须得捞几文稿费维持生活了；	想
174	1924	2	p.36	彷徨	幸福的家庭	他们订有四十多条约，非常详细，非常平等，十分自由。而且受过高等教育，优美高尚……。	受
175	1924	2	p.37	彷徨	幸福的家庭	我虽然没有见过这部书，但既然连大学教授也那么称赞他，	见
176	1924	2	p.38	彷徨	幸福的家庭	但我在江苏饭馆的菜单上就见过这名目，江苏人似乎不吃蛇和猫，恐怕就如谁所说，是蚌和鱒鱼了。	见
177	1924	2	p.40	彷徨	幸福的家庭	他听得呜呜咽咽高了起来，也就站了起来，钻过门帘，想着，……	钻
178	1924	2	p.52	彷徨	肥皂	“我不是已经说过了？那是一个光棍……”	说
179	1924	2	p.52	彷徨	肥皂	“就在合间用硬饭，何如？……” “已经偏过了。”薇园迎上去，也拱一拱手，说。	偏
180	1924	2	p.52	彷徨	肥皂	“不要紧的。”道统大声说。“我算过了，还无须乎多加广告费。但是诗题呢？”	算
181	1924	2	p.162	野草	秋夜	这上面的夜的天空，奇怪而高，我生平没有见过这样的奇怪而高的天空。	见

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、『鲁迅全集』参照。

182	1924	2	p.162	野草	秋夜	我记得有一种开过极细小的粉红花，现在还开着，但是更极细小了，她在冷的夜气中，瑟缩地做梦，梦见春的到来，梦见秋的到来，	开
183	1924	7	p.41	集外集	记“杨树达”君的袭来	我虽然还不人清醒，但立刻知道是杨遇夫君，他名杨达，曾经因为邀我讲书的事，访过我一次的。	访
184	1924	7	p.44	集外集	记“杨树达”君的袭来	因为我没有见过杨遇夫马幼渔在《晨报副镌》上做过文章，	见
185	1924	7	p.44	集外集	记“杨树达”君的袭来	因为我没有见过杨遇夫马幼渔在《晨报副镌》上做过文章，	做
186	1924	7	p.47	集外集	记“杨树达”君的袭来	“你不舒服罢？”杨树达君曾经这样问过我。	问
187	1924	7	p.49	集外集	关于杨炬袭来事件的辩证	我相信这是真实情形，因为我对于神经患者的初发状态没有实见和注意研究过，所以很容易有看错的时候。	研究
188	1924	7	p.53	集外集	“音乐”？	夜里睡不着，又计划着明天吃辣子鸡，又怕和前回吃过的那一碟做得不一样，愈加睡不着了。	吃
189	1924	7	p.57	集外集	我来说“持中”的真相	一九〇八年，他在日本东京和台岛一同听过章太炎讲授《说文解字》。	听
190	1924	7	p.233	集外集拾遗	通讯（致郑孝观）	我幼时并没有见过《涌幢小品》；回想起来，所见的似乎是《西湖游览志》及《志余》，明嘉靖中田汝成作。	见
191	1924	8	p.127	集外集补编	对于“笑话”的笑话	范仲淹先生的《整理国故》是在南开大学的讲演，但我只看见过报章上所转载的一部分，	看见



## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

192	1924	8	p.128	集外集补编	奇怪的日历	虽然并不真奉行，中华民国之用阳历，总算已经十二年了，但如此奇怪的日历，先前却似乎未曾出现过，岂但“宣纸头捕提”，表现其一年一年的加增昏谬而已哉！	出现
193	1925	1	p.193	坟	再论雷峰塔的倒掉	獾犹早到过中原，五胡来过了，蒙古也来过了；同胞张献忠杀人如草，而满洲兵的一箭，就钻进树丛中死掉了。	到
194	1925	1	p.193	坟	再论雷峰塔的倒掉	獾犹早到过中原，五胡来过了，蒙古也来过了；同胞张献忠杀人如草，而满洲兵的一箭，就钻进树丛中死掉了。	来
195	1925	1	p.193	坟	再论雷峰塔的倒掉	獾犹早到过中原，五胡来过了，蒙古也来过了；同胞张献忠杀人如草，而满洲兵的一箭，就钻进树丛中死掉了。	来
196	1925	1	p.197	坟	看镜有感	记得曾见过别一面，是有海马的，但贵极，没有买。	见
197	1925	1	p.199	坟	看镜有感	宋镜我没有见过好的，什九并无装饰，只有卮号或“正其衣冠”之类的迂谀词，真是“世风日下”。	见
198	1925	1	p.200	坟	看镜有感	但我向来没有遇见过一个排斥玻璃镜了的人。	遇见
199	1925	1	p.200	坟	看镜有感	单知道咸丰年间，江曰翰先生却在他的入著《湖雅》里攻击过的。	攻击
200	1925	1	p.200	坟	看镜有感	我没有见过古玻璃镜。	见
201	1925	1	p.203	坟	春末闲谈	我记得有几个考察家曾经立过异说，以为她其实只能生驹；	立
202	1925	1	p.204	坟	春末闲谈	那时我也就皱眉叹息，装作一芥发愁的模样，以示“所见略同”之至意，殊不知我国的圣君，贤臣，圣贤，圣贤之徒，却早已有过这一种黄金世界的理想了。	有

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

203	1925	1	p.204	坟	春末闲谈	将来未可知，若己往，则治人者虽然尽力施行过各种麻沸术，也还不能十分奏效，与采藏并驱争先。	施行
204	1925	1	p.206	坟	春末闲谈	占人毕竟聪明，仿佛早想到过这样的东西，《山海经》上就记载着一种名叫“刑天”的怪物。	想到
205	1925	1	p.212	坟	灯下漫笔	但实际上，中国人向来就没有争到过“人”的价格，至多不过是奴隶，到现在还如此，然而下于奴隶的时候，却是数见不鲜的。	争到
206	1925	1	p.213	坟	灯下漫笔	而创造这中国历史上未曾有过的第三样时代，则是现在的青年的使命！	有
207	1925	1	p.214	坟	灯下漫笔	一经住过北京，就忘不掉那生活的味道。	住
208	1925	1	p.220	坟	杂忆	苏曼殊先生也译过几首，那时他还没有做诗“奇弹琴人”，因此与Byron也还有缘。	译载
209	1925	1	p.224	坟	杂忆	孔老先生说过：“朋友不如己者。”	说
210	1925	1	p.224	坟	杂忆	我们自己去看看本国的模样，就可知道不会有什么友人的了，岂但没友人的了，简直大半都曾经做过仇敌。	做
211	1925	1	p.225	坟	杂忆	否则，历史指示过我们，遭殃的不是什么敌手而是自己的同胞和子孙。	指示
212	1925	1	p.225	坟	杂忆	因为自己先已互相残杀过了，所蕴蓄的怨愤都已消除，天下也就成为太平的盛世。	残杀
213	1925	1	p.231	坟	论“他妈的！”	Gorky所写的小说中多无鞭挞，就我所看过的而言，也没有这骂法。	看



236	1925	2	p.57	彷徨	长明灯	“他不是先就发过一回疯么，和现在一模一样。”	发
237	1925	2	p.58	彷徨	长明灯	“那怎么行？”她吃惊地看着他，连忙摆手道，“那怎么行！他的祖父不是睡过印靴子的么？”	捏
238	1925	2	p.58	彷徨	长明灯	②做过实缺官的意思。——作者原注。	做
239	1925	2	p.65	彷徨	长明灯	只因为关了几大门，孩子们不能进去玩，便觉得这一天在院子里格外玩得有趣，吃过了晚饭，还有几个跑到隔壁去游戏，猜谜。	吃
240	1925	2	p.74	彷徨	高老夫子	而且这小平之意，是他从来没有经验过的。	经验
241	1925	2	p.79	彷徨	高老夫子	兄弟还很同她讨论过几回……。	讨论
242	1925	2	p.80	彷徨	高老夫子	《大公报》上还说过，高老师是：骤慕俄国文学家高尔基之为人，	说
243	1925	2	p.82	彷徨	高老夫子	“狗屁！”他眉头一皱，在老体的头顶上打了一下，说。“教过了罢？怎么样，可有几个出色的？”黄二热心地问。	教
244	1925	2	p.83	彷徨	高老夫子	“这一位就是先前就过的高亭亭。”	说
245	1925	2	p.86	彷徨	孤独者	听说她先前也曾经吃过许多苦，现在可是安乐了。	吃
246	1925	2	p.87	彷徨	孤独者	族长们便立刻照原定计画进行，将他叫到大厅上，先说过一大篇言头，然后引入本题，而且大家此唱彼和，七嘴八舌，使他得不到辩驳的机会。	说

247	1925	2	p.88	彷徨	孤独者	我也不山的突然觉到：连及就始终没有落过一滴泪，只坐在草卷上，两眼在黑气里闪闪地发光。	落
248	1925	2	p.91	彷徨	孤独者	使人不耐的倒是他的有些米客，大抵是读过《沉沦》的罢，时常自命为“不幸的青年”或是“零余者”，	读
249	1925	2	p.96	彷徨	孤独者	然而这也没有什么要紧，我早已豫先一起哭过了……。	哭
250	1925	2	p.106	彷徨	孤独者	到一个多月前，这才听到他吐过几回血，但似乎也没有看医生；	吐
251	1925	2	p.106	彷徨	孤独者	“他就是胡闹，不想办一点正经事。我是想到过的，也劝过他。这么年纪了，应该成家；	想到
252	1925	2	p.106	彷徨	孤独者	“他就是胡闹，不想办一点正经事。我是想到过的，也劝过他。这么年纪了，应该成家；	劝
253	1925	2	p.110	彷徨	伤逝	深夜中独自躺在床上，就如我未曾和子君同居以前一般，过去一年中的时光全被消灭，全未有过，我并没有曾经从这碰壁了搬出，在吉兆胡同创立了满怀希望的小小的家庭。	有
254	1925	2	p.111	彷徨	伤逝	我便要取了帽子去看她，然而她的胞叔就曾经当面骂过我。	骂
255	1925	2	p.113	彷徨	伤逝	可是临时似乎都无用，在慌张中，身不由己地竟用了在电影上见过的方法了。	见
256	1925	2	p.113	彷徨	伤逝	但也还仿佛记得她脸色变成青白，后来又渐渐转作绯红，——没有见过，也没有再见的绯红；	见
257	1925	2	p.114	彷徨	伤逝	我们这时才在路上同行，也到过几回公园，最多的是寻住所。	到

258	1925	2	p.117	彷徨	伤逝	况且《自由之友》的总编辑便是见过几次的熟人，两月前还通过信。	见
259	1925	2	p.117	彷徨	伤逝	况且《自由之友》的总编辑便是见过几次的熟人，两月前还通过信。	通//信
260	1925	2	p.117	彷徨	伤逝	其次是选定可译的书，迁移以来未曾翻阅过，每本的头上都满装着灰尘了；最后才写信。	翻阅
261	1925	2	p.118	彷徨	伤逝	小广告是一时自然会发生效力的；但译书也不是容易事，先前看过，以为已经懂得的，一动手，却疑难百出了，进行得很慢。	看
262	1925	2	p.118	彷徨	伤逝	《自由之友》的总编辑曾经说过，他的刊物是决不会埋没好稿子的。	说
263	1925	2	p.120	彷徨	伤逝	那是没有见过的神色，自然是为阿随。	见
264	1925	2	p.122	彷徨	伤逝	子君有怨色，在早晨，极冷的早晨，这是从未见过的，但也许是从我看来的怨色。	见
265	1925	2	p.123	彷徨	伤逝	称扬嘉拉的果决……。也还是去年在会馆的破屋里讲过的那些话，	讲
266	1925	2	p.127	彷徨	伤逝	我不应该将真实说给了君，我们相爱过，我应该永久奉献她我的说谎。	相爱
267	1925	2	p.132	彷徨	弟兄	“像你们的弟兄，实在是少有的；我没有遇见过。你们简直是誰也没有一点自私自利的心思，这就不容易……。”	见

268	1925	2	p.134	彷徨	弟兄	他到路上，已不再较量车价如平时一般，一看见一个稍微壮大，似乎能走的车夫，问过价钱，便一脚跨上车去，道，“好，好。只要给我快走！”	问
269	1925	2	p.135	彷徨	弟兄	然而普通人没有找到，……。向寓的白问山虽然是中医，或者于病名倒还能断定的，但是他曾经对他说过好几回攻击中医的话；况且追请丈夫的电话，他也许已经听到了……。	说
270	1925	2	p.135	彷徨	弟兄	他诊过脉，在脸上端详一回，又翻开衣服看了胸部，便从从容容地告辞。	诊//脉
271	1925	2	p.138	彷徨	弟兄	晋大夫不作声，略略按一按脉，又叫沛君擎高了洋灯，照着他在病人的脸上端详一回；又叫揭去被单，解开衣服来给他看。看过之后，就伸出手指在肚子上去一摩。	看
272	1925	2	p.138	彷徨	弟兄	“你原来没有出过疹子？……”	出
273	1925	2	p.139	彷徨	弟兄	“你原来这么大了，竟还没有出过疹子？”	出
274	1925	2	p.139	彷徨	弟兄	“母亲又不在这里。就没有出过疹子。哈哈！”	出
275	1925	2	p.144	彷徨	离婚	“还是为她。……这真是烦死我了，已经闹了整三年，打过多少回架，说过多少回和，总是不落局……。”	打
276	1925	2	p.144	彷徨	离婚	“还是为她。……这真是烦死我了，已经闹了整三年，打过多少回架，说过多少回和，总是不落局……。”	说
277	1925	2	p.146	彷徨	离婚	“要撒持我，是不行的。七大人也好，八大人也好。我总要闹得他们家败人亡！慰老爷不是劝过我回回么？连爹也看得睬贴的线有点头昏眼热了……。”	劝
278	1925	2	p.146	彷徨	离婚	去年年底我们撤村的荣大爷从北京回来，他见过大场面的，不像我们乡下人一样。	见
279	1925	2	p.147	彷徨	离婚	慰老爷她是不放在眼里的，见过两回，不过一个团头团脑的矮子；这种人木村里就很多，无非脸色比他紫黑些。	见

280	1925	2	p.147	彷徨	离婚	而且那村口的魁星阁也确乎已经望得见。庞庄，他到过许多回，不足道的，以及慰老爷。	到
281	1925	2	p.149	彷徨	离婚	接着大家就都从“水缸浸”周围散开；慰老爷接过“琵琶”，坐下，用指头摩挲着，转脸向庄木三说话。	接
282	1925	2	p.149	彷徨	离婚	也还是照先前说过那样：走散的好。	说
283	1925	2	p.152	彷徨	离婚	我想你红绿帖是一定已经带来了的，我通知过你。那么，大家都拿出来……。”	通知
284	1925	2	p.153	彷徨	离婚	庄木三正在数洋钱。慰老爷从那没有数过的一叠里取出一点来，交还了“老畜生”；	数
285	1925	2	p.177	野草	希望	这以前，我的心也曾充满过血腥的歌声；血和铁，火焰和毒，报复和报仇。	充满
286	1925	2	p.180	野草	雪	暖国的雨，向来没有变过冰冷的坚硬的灿烂的雪花。	变
287	1925	2	p.184	野草	风筝	“有过这样的事么？”他怏怏地笑着说，就像旁听别人的故事一样。他什么也不记得了。	有
288	1925	2	p.186	野草	好的故事	但我总记得见过这一篇好的故事，在昏沉的夜……。	见
289	1925	2	p.189	野草	过客	我一路走，有时人们也随便称呼我，各式各样地，我也记不清楚了，况且相同的称呼也没有听到过第二回。	听到

290	1925	2	p.190	野草	过客	孩——不，不，不的。那有许多许多野百合，野蔷薇，我常常去玩，去看他们的。客——（西顾，仿佛微笑，）不错。那些地方有许多许多野百合，野蔷薇，我也常常去玩过，去看过	玩
291	1925	2	p.190	野草	过客	孩——不，不，不的。那有许多许多野百合，野蔷薇，我常常去玩，去看他们的。客——（西顾，仿佛微笑，）不错。那些地方有许多许多野百合，野蔷薇，我也常常去玩过，去看过	看
292	1925	2	p.190	野草	过客	翁——走完之后？那我可不知道。我没有走过。	走
293	1925	2	p.191	野草	过客	翁——是的。他似乎曾经也叫过我。	叫
294	1925	2	p.191	野草	过客	翁——那我可不知道。他也就是叫过几声，我不理他，他就不叫了，我也就记不清楚了。	教
295	1925	2	p.192	野草	过客	孩——（惊惧，退后，）我不要了！你带走！客——（似笑，）哦哦，……因为我拿过了？	拿
296	1925	2	p.196	野草	死火	“但你自己，又怎么办呢？”他反问我。“我就过了；我要出这冰谷……。”	说
297	1925	2	p.212	野草	死后	我又看看六面的壁，委实太毛糙，简直没有加过一点修刮，绒绒还是毛氈的。	加
298	1925	3	p.3	华盖集	题记	我平生没有学过算命，不过听老年人说，人是时时要交“华盖运”的。	学
299	1925	3	p.10	华盖集	咬文嚼字（一至二）	但好在似乎也并没有什么人愁着，爆竹毕毕剥剥地都祀过财神了。	祀
300	1925	3	p.12	华盖集	青年必读书——应《京报副刊》的征求	从来没有留心过，所以现在说不出。	留心

301	1925	3	p.14	华盖集	忽然想到（一至四）	对于人的肌肉，的确是看过，但似乎单是剥了皮略略一观，没有细考校，所以乱成一片，说是凡有肌肉都发源于手指和足趾。	看
302	1925	3	p.16	华盖集	忽然想到（一至四）	我觉得什么都要从新做过。	做
303	1925	3	p.17	华盖集	忽然想到（一至四）	古人做过的事，无论什么，今人也都会做出来。	做
304	1925	3	p.22	华盖集	通讯	我想，现在的办法，首先还得用那几年以前《新青年》上已经说过的“思想革命”。	说
305	1925	3	p.25	华盖集	通讯	而且他们也不是区区文字所能改革的，历史通知过我们，清兵入关，禁缠足，要垂髫，前一事只用文告，到现在还是放不掉，后一事用了胡的法，到现在还在拖下来。	通知
306	1925	3	p.34	华盖集	牺牲谏——“鬼面符”失敬 失敬章第十三	可敬可敬！你读过书没有？如果读过书，我正要创办一个大学，就请你当教务长去。	读
307	1925	3	p.34	华盖集	牺牲谏——“鬼面符”失敬 失敬章第十三	可敬可敬！你读过书没有？我正要创办一个大学，就请你当教务长去。	读
308	1925	3	p.34	华盖集	牺牲谏——“鬼面符”失敬 失敬章第十三	其实你只要读过“四书”就好，加以这样品格，已经能够做‘莘莘学子’的表率了。	读
309	1925	3	p.38	华盖集	战士和苍蝇	Schopenhauer说过这样的话：	说
310	1925	3	p.38	华盖集	战士和苍蝇	的确的，谁也没有发见过苍蝇们的缺点和创伤。	发见
311	1925	3	p.45	华盖集	忽然想到（五至六）	保古家人大概总读过古书，“林回赤千金之璧，负赤子而趋”，该不能说是禽兽行为罢。	读
312	1925	3	p.49	华盖集	杂感	先前，也曾有些愿意活在现世而不得的人们，沉默过了，呻吟过了，叹息过了，哭泣过了，哀求过了，但仍然愿意活在现世而不得，因为他们忘却了愤怒。	沉默

313	1925	3	p.49	华盖集	杂感	先前，也曾有些愿意活在现世而不得的人们，沉默过了，呻吟过了，叹息过了，哭泣过了，哀求过了，但仍然愿意活在现世而不得，因为他们忘却了愤怒。	呻吟
314	1925	3	p.49	华盖集	杂感	先前，也曾有些愿意活在现世而不得的人们，沉默过了，呻吟过了，叹息过了，哭泣过了，哀求过了，但仍然愿意活在现世而不得，因为他们忘却了愤怒。	叹息
315	1925	3	p.49	华盖集	杂感	先前，也曾有些愿意活在现世而不得的人们，沉默过了，呻吟过了，叹息过了，哭泣过了，哀求过了，但仍然愿意活在现世而不得，因为他们忘却了愤怒。	哭泣
316	1925	3	p.49	华盖集	杂感	先前，也曾有些愿意活在现世而不得的人们，沉默过了，呻吟过了，叹息过了，哭泣过了，哀求过了，但仍然愿意活在现世而不得，因为他们忘却了愤怒。	哀求
317	1925	3	p.55	华盖集	导师	有些青年似乎也觉悟了，我记得《京报副刊》征求青年必读书时，曾有一位发过牢骚，终于说：只有自己可靠！	发
318	1925	3	p.60	华盖集	忽然想到（七至九）	我记得确曾用了这样一个糖衣的毒刺赠送过我们的同学们。	赠送
319	1925	3	p.62	华盖集	忽然想到（七至九）	我在N的学堂做学生的时候，也曾经因这“钉”字碰过几个小钉子，但自然因为我自己不“安分”。	碰
320	1925	3	p.63	华盖集	忽然想到（七至九）	记得有人说过，回忆多的人们是没出息的了，	说
321	1925	3	p.63	华盖集	忽然想到（七至九）	我当时没有答复你，一则你信上不写住址，二则阿Q已经疑过，我不能再邀你去看热闹，共同证实了。	捉
322	1925	3	p.64	华盖集	忽然想到（七至九）	至多，“怀巾一纸书”而已，所以向来就没有闹过乱子的历史。	闹
323	1925	3	p.64	华盖集	忽然想到（七至九）	但阿Q的事件却大得多了，他确曾上城偷过东西，未庄也确实出了抢案。	偷

324	1925	3	p.68	华盖集	“碰壁”之后	我们从来没有见过原补的俄婢在药寮边吟哦；	见
325	1925	3	p.70	华盖集	“碰壁”之后	除一个打盹似的校役以外，已有两位教员坐着了。一位是见过儿面的；一位是不认识，	见
326	1925	3	p.75	华盖集	并非闲话	中国原是玩意儿最多的地方，近来又刚刚过什么“琴心是否女士”问题，	闻
327	1925	3	p.78	华盖集	并非闲话	况且，即使是自以为公平的批评家，“偏袒”也在所不免的，譬如和校长同籍贯，或是好朋友，或是嫡帖兄弟，或是叨过酒饭，每不免于不知不觉间有所“偏袒”。	叨
328	1925	3	p.81	华盖集	我的“籍”和“系”	虽然因为我劝过人少——或者竟不——读中国书，曾蒙一位不相识的青年先生写信要我搬出中国去，但是我终于没有走。	劝
329	1925	3	p.81	华盖集	我的“籍”和“系”	而且我究竟是中国人，读过中国书的，因此也颇知道些处世的妙法。	读
330	1925	3	p.81	华盖集	我的“籍”和“系”	但我先要声明，我既然说过，颇知道些处世的妙法，为什么又去说话呢？	说
331	1925	3	p.81	华盖集	我的“籍”和“系”	那是，因为，我是见过清末捣乱的人，没有生长在太平盛世，所以纵使颇有些涵养工夫，	见
332	1925	3	p.82	华盖集	我的“籍”和“系”	然而占人却确是这样做过了，还留下些什么“穴穴来风，漏乳来巢”的鬼格言。	做
333	1925	3	p.88	华盖集	忽然想到（一至十一）	记得新希腊人也曾用兵器对付过国内的土耳其人，却并不被称为暴徒；俄国确已赤化多年了，也没有得到别国开枪的惩罚。	对付
334	1925	3	p.88	华盖集	忽然想到（一至十一）	只因为这样的报害，以前是别民族所受，我们不知道，或者是我们原已屡次受过，现在都已忘却罢了。	受

335	1925	3	p.89	华盖集	忽然想到（一至十一）	法国则巴尔布斯（Henri Barbusse），中国也曾译过他的作品。	译
336	1925	3	p.95	华盖集	忽然想到（一至十一）	他们在未曾领略过的首善之区的使人遗忘的空气中，又开始了新的生活，正如毕业的人们在去年秋天曾经开始过的新的生活一般。	领略
337	1925	3	p.95	华盖集	忽然想到（一至十一）	他们在未曾领略过的首善之区的使人遗忘的空气中，又开始了新的生活，正如毕业的人们在去年秋天曾经开始过的新的生活一般。	开始
338	1925	3	p.100	华盖集	补白	当时，市民和学生也曾游行欢呼过。	欢呼
339	1925	3	p.100	华盖集	补白	我们那时所以入战胜之林者，因为曾经送去过很多的工人；	欢呼
340	1925	3	p.101	华盖集	补白	况且爱国之士不是已经说过，马将牌已在西洋盛行，给我们复了仇么？	说
341	1925	3	p.105	华盖集	补白	晚明的批评家大概快要提出照例的“五分钟热度”说来了罢，虽然也有过例外：曾将汤尔和先生的大门打得擂鼓一般，足有十五分钟之久。	有
342	1925	3	p.112	华盖集	答KS君	况且，前载公文，接着就是通信，精神虽然是自己广告性的半官报，形式却成了公报尺牍合璧了，我中国自白有文字以来，实在没有过这样滑稽体式的著作。	有
343	1925	3	p.116	华盖集	“碰壁”之余	我真白很福薄，一直活到现在，寿命已不可谓不长，而从没有遇见过一个不大认识的女士来邀“观剧”；	遇见
344	1925	3	p.127	华盖集	十四年的“读经”	但可曾用《论语》感化过德国兵，用《易经》咒翻了潜水艇呢？	感化
345	1925	3	p.127	华盖集	十四年的“读经”	“敲亡在拜”“山疆载质”的最巧玩艺儿，经上都有，我读熟过的。	读熟

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

346	1925	3	p.128	华盖集	十四年的“读经”	总而言之，是读经已经读过了，很料到一点玩意儿，这种玩意儿，是孔二先生的先生老晒的大著作早就有的，此后的书本了早还随时可得。	读
347	1925	3	p.129	华盖集	十四年的“读经”	我们这曾经文明过而后来奉迎过蒙古人满洲人火鸡了的国度里，	文明
348	1925	3	p.129	华盖集	十四年的“读经”	我们这曾经文明过而后来奉迎过蒙古人满洲人火鸡了的国度里，	奉迎
349	1925	3	p.129	华盖集	十四年的“读经”	以这样文不对题的话来解释“俨乎其然”的主张，我自己也知道有不恭之嫌，然而我又自信我的话，因为我也从“读经”得来的。我几乎读过十三经。	读
350	1925	3	p.130	华盖集	十四年的“读经”	我现在郑重声明：我没有收过一张纸片布。	收
351	1925	3	p.133	华盖集	评心雕龙	己胡说！说“唉”也行。但可恨他竟流过好几回，将“唉”都“奉断”了去，使我们没有来说的余地了。	说
352	1925	3	p.134	华盖集	评心雕龙	我并非赞成庚先生，我也批评过他的。	批评
353	1925	3	p.135	华盖集	评心雕龙	西 这实在“唉”得不行！中国之所以这样“世风日下”，就是他说了“唉”的缘故。但是诸位在这里，我不妨明说，三十年前，我也曾经“唉”过的，我何尝是木石，我实在是开风气之先。	“唉”
354	1925	3	p.139	华盖集	这个与那个	但先前说过，倘若还不能忘情于唾唾，倒也可以翻翻，知道我们现在的情形，和那时的何其神似，而现在的昏妄举动，胡涂思想，那时也早已行过，并且都闹糟了。	说
355	1925	3	p.139	华盖集	这个与那个	但先前说过，倘若还不能忘情于唾唾，倒也可以翻翻，知道我们现在的情形，和那时的何其神似，而现在的昏妄举动，胡涂思想，那时也早已行过，并且都闹糟了。	有

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

356	1925	3	p.139	华盖集	这个与那个	又母老太太出过天花，脸上有些缺点的，令夫人却种的是一短，所以细皮白肉；这也就人羞其远了。	出
357	1925	3	p.144	华盖集	这个与那个	我也曾有如现在的青年一样，向已死和未死的导师们问过应走的路。	问
358	1925	3	p.148	华盖集	并非闲话(三)	至正已经印过的那些，那是被挤出来的。	印
359	1925	3	p.149	华盖集	并非闲话(三)	我并没有在吕纯阳祖师门下投诚过。	投诚
360	1925	3	p.149	华盖集	并非闲话(三)	但写书以后，却也不很爱惜羽毛，有所谓“敝帚自珍”的意思，因为，已经读过，其时已经是“便完事，管他妈的”了。	说
361	1925	3	p.149	华盖集	并非闲话(三)	我曾替人代理过一回收版税的译本，打听得卖完之后，向书店去要钱，	代理
362	1925	3	p.150	华盖集	并非闲话(三)	我所写出来的东西，当初虽然很碰过许多大钉子，现在的时价是每千字一至二三元，	碰
363	1925	3	p.152	华盖集	并非闲话(三)	去年，我曾向D F 先生提议过，以为该有人搜罗了各处的各种定期刊物，仔细评量，选印几本小说集，来介绍于世间；	提议
364	1925	3	p.152	华盖集	并非闲话(三)	在我的心里似乎没有所谓“公平”，在别人里我也没有看见过，	看见



## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

365	1925	3	p.153	华盖集	并非闲话(三)	自然，倘是向来没有受过更奇特而阴毒的陪罪的福人，那当然即此一点也要感到痛苦。	受
366	1925	3	p.162	华盖集	碎话	但我记得北人刚举行过二·七周年纪念，那建立的历史，是非非由章士钊将张胡或李胡将要率领的二百学生拖出，然后改立北大，招生三千，以掩人耳目的。	举行
367	1925	3	p.165	华盖集	“公理”的把戏	燕树棠，白鹏飞，陈源即做《闲话》的西彦，丁燮林即做过《一只马蜂》的西林，	做
368	1925	3	p.167	华盖集	“公理”的把戏	西彦是曾在《现代评论》(三十八)的《闲话》里冷嘲过援助女师大的人们：	冷嘲
369	1925	3	p.167	华盖集	“公理”的把戏	而且曾经感慨过：“你代被群众专制所压迫者说了几句公平话，那么你不是与那人有‘密切的关系’便是吃了他或她的酒饭。”(《现代》四十)	感慨
370	1925	7	p.70	集外集	咬嚼未始“乏味”	二、原文云：却于她字没有讽过。答曰：那是译She的，并非无风作浪。	讽
371	1925	7	p.75	集外集	杂语	您最好是在发表过一篇作品之后，另造一个名字，写点文章去恭维：	发表
372	1925	7	p.77	集外集	编完写起	我于他们三位都是熟识之至，又毫没有研究过什么性伦理性心理之类，	研究

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

373	1925	7	p.82	集外集	俄文译本《阿Q正传》续集著者自序传略	因为，已经讲过，我们究竟还是未经革新的吉国的人民，所以也还是各不相通，	说
374	1925	7	p.84	集外集	俄文译本《阿Q正传》续集著者自序传略	我在留学时候，只在杂志上登过几篇不好的文章。	登
375	1925	7	p.85	集外集	俄文译本《阿Q正传》续集著者自序传略【备考】：自传	又约半年，国民党北伐分明很顺利，厦门的有些教授就到广州来了，不久就清党，我一生从未见过有这么杀人的，我就辞了职，回到上海，想以译作谋生。	见
376	1925	7	p.93	集外集	流言和说话	但其实，报章上早已明明白白地登载过许多次了。	登载
377	1925	7	p.94	集外集	流言和说话	然而请放心，我虽然确是“呆猪”，也做过国文系的一两点钟的教员，但我并不想谋校长，或仍做教员以至增加钟点；	做
378	1925	7	p.235	集外集拾遗	诗歌之敌	记得先前见过一位留学生，听就是人有学问的。	见
379	1925	7	p.235	集外集拾遗	诗歌之敌	曾在《学灯》——不是上海出版的《学灯》——上见过的一篇春口一部的文章来了，	见
380	1925	7	p.243	集外集拾遗	关于《苦闷的象征》	跋的大意是说这书的前半部原在《改造》杂志上发表过，待到地震后抽出遗稿来，却还有后半，而非无总名，	发表
381	1925	7	p.244	集外集拾遗	关于《苦闷的象征》	取得先生来信，才又知道《学灯》上也早经登载过，此书之为我国人所爱重，居然可知。	登载
382	1925	7	p.252	集外集拾遗	报《奇哉所谓……》	我当然无凭来证明我能懂得任何中国书，和熊先生比赛；也没有读过什么特别的奇书。	读

383	1925	7	p.254	集外集拾遺	报《奇哉所谓……》	我也没有做什么《阿颯传》，只做过一篇《阿Q正传》。	做
384	1925	7	p.263	集外集拾遺	这是这么一个意思	我读确是读过一点中国书，但没有“非常的多”；	读
385	1925	7	p.270	集外集拾遺	通讯（复高歌）	你的消息，长虹告诉我几句，大约四五句罢，但也可以说是知道大概了。	告诉
386	1925	7	p.279	集外集拾遺	启事	我于四月二十七日接到向君来信后，以为造谣是中国社会上的常事，我也亲见过厌恶学校的人们，用了这一类方法来中伤各方面的，	见
387	1925	7	p.290	集外集拾遺	女校长的男女的梦	为了“品性”二字问题，曾有六个教员发过宣言，	发
388	1925	8	p.423	附录一	鲁迅启事	《民众文艺》稿件，有一部份经我看过，已在第十四期声明。	看
389	1926	1	p.282	坟	写在《坟》后面	记得先已说过：这不过是我的生活中的一点陈迹。	说
390	1926	1	p.282	坟	写在《坟》后面	如果我的过往，也可以算作生活，那么，也就可以说，我也曾工作过了。	工作
391	1926	1	p.283	坟	写在《坟》后面	至于对别人，记得在先也已说过，还有愿使偏爱我的文字的主顾得到一点喜欢；	说
392	1926	1	p.285	坟	写在《坟》后面	我曾在杂感上指击过的。	指击
393	1926	1	p.285	坟	写在《坟》后面	别人我不论，若是自己，则曾经看过许多旧书，是的确的，为了教书，至今也还在看。	看
394	1926	1	p.287	坟	写在《坟》后面	惟愿偏爱我的作品的读者也不过将这当作一种纪念，知道这小小的丘陇中，无非埋着曾经活过的魂壳。	活

395	1926	2	p.233	朝花夕拾	狗·猫·鼠	“我怎么找到那象呢？我没有见过它，也和它不认识。”	见
396	1926	2	p.233	朝花夕拾	狗·猫·鼠	鸺鹠猛兽以较弱的动物为饵，不仿说是凶残的罢，但它们从来就没有竖起过“公理”“正义”的旗帜，使牺牲者直到被吃的时候为止，还是一味佩服赞叹它们。	竖
397	1926	2	p.238	朝花夕拾	狗·猫·鼠	我听父亲说过的，中国有一种墨猴，只有拇指一般大，全身的毛是漆黑而且发亮的。	说
398	1926	2	p.243	朝花夕拾	阿长与《山海经》	长妈妈，已经说过，是一个一向带领着我的女工，说得阔气一点，就是我的保姆。	说
399	1926	2	p.243	朝花夕拾	阿长与《山海经》	我们那里没有姓长的；她生得黄胖而矮，“长”也不是形容词。又不是她的名字，记得她自己说过，她的名字是叫作什么姑娘的。	说
400	1926	2	p.243	朝花夕拾	阿长与《山海经》	记得她也曾告诉过我这个名称的来历：	告诉
401	1926	2	p.244	朝花夕拾	阿长与《山海经》	母亲听到我多回诉苦之后，曾经这样地问过她。	问
402	1926	2	p.244	朝花夕拾	阿长与《山海经》	你要记着，这是一年的运气的事情。不许说别的话！说过之后，还得吃一点福橘。”	说
403	1926	2	p.245	朝花夕拾	阿长与《山海经》	然而我有一时也对她发生过空前的敬意。	发生
404	1926	2	p.247	朝花夕拾	阿长与《山海经》	但我却只在他的书斋里，看见过陆玑的《毛诗草木鸟兽虫鱼疏》，还有许多名目很生的书籍。	看见
405	1926	2	p.247	朝花夕拾	阿长与《山海经》	他说给我听，曾经有过一部绘图的《山海经》，画着人面的兽，九头的蛇，三脚的鸟，牛着翅膀的人，没有头而以两乳当作眼睛的怪物，……可惜现在不知道放在那里了。	有
406	1926	2	p.247	朝花夕拾	阿长与《山海经》	这是我向来没有和她说过的，我知道她并非学者，说了也无益；	说
407	1926	2	p.253	朝花夕拾	《二十四孝图》	然而，对于阴间，我终于已经颂扬过了，无法追改；	颂扬

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

408	1926	2	p.253	朝花夕拾	《二十四孝图》	虽有“言行不符”之嫌，但确没有受过阎王或小鬼的半文津贴，则差可以自解。	受
409	1926	2	p.256	朝花夕拾	《二十四孝图》	何况现在早长大了，看过几部古书，买过几本新书，什么《太平御览》咧，《古孝子传》咧，《古孝子传》咧，《人口问题》咧，《节制生育》咧，《二十世纪是儿童的世界》咧，可以抵抗被埋的理由多得很。	石见
410	1926	2	p.256	朝花夕拾	《二十四孝图》	何况现在早长大了，看过几部古书，买过几本新书，什么《太平御览》咧，《古孝子传》咧，《古孝子传》咧，《人口问题》咧，《节制生育》咧，《二十世纪是儿童的世界》咧，可以抵抗被埋的理由多得很。	买
411	1926	2	p.261	朝花夕拾	五猖会	可是结果总是一个“差不多”；也总是只留下一个纪念品，就是当神像还未抬过之前，化一文钱买下的，用一点烂泥，一点颜色纸，一枝竹签和两三枝鸡毛所做的，吹起来会发出一种刺耳的声高的哨子，叫作“吹都都”的，咻咻地吹它两三天。	拍
412	1926	2	p.262	朝花夕拾	五猖会	然而我记得有一回，也亲见过较盛的赛会。	见
413	1926	2	p.262	朝花夕拾	五猖会	……然而我到现在终于没有和赛会发生关系过。	发生关系
414	1926	2	p.268	朝花夕拾	无常	我虽然也曾瞻仰过一回这“阴司间”，但那时胆子小，没有看明白。	瞻仰
415	1926	2	p.269	朝花夕拾	无常	我小时也曾摩过这脊梁来，然而晦气似乎终于没有服，	摩
416	1926	2	p.269	朝花夕拾	无常	我也没有研究过小乘佛教的经典，	研究
417	1926	2	p.269	朝花夕拾	无常	我的故乡，在汉水虽曾经感仲翔先生瑜扬过，但是那究竟太早了，	瑜扬
418	1926	2	p.270	朝花夕拾	无常	虽然他们并没有在报上发表过什么大文章。	发表
419	1926	2	p.270	朝花夕拾	无常	日连戏的热闹，张岱在《陶庵梦忆》上也曾夸张过，说是要连演两三天。	夸张

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

420	1926	2	p.272	朝花夕拾	无常	我至今还确凿记得，在故乡时候，和“下等人”一同，常常这样高兴地正视过这鬼面人，理而情，可怖而可爱的无常；	正视
421	1926	2	p.278	朝花夕拾	从百草园到三味书屋	我于是常常拔它起来，牵连不断地拔起来，也曾因此弄坏了泥墙，却从来没有见过有一块根像人样。	见
422	1926	2	p.279	朝花夕拾	从百草园到三味书屋	但直到现在，总还是没有得到，但也没有遇见过赤练蛇和美女蛇。	遇见
423	1926	2	p.281	朝花夕拾	从百草园到三味书屋	年纪比我大的人，往往如此，我遇见过好几回了。	遇见
424	1926	2	p.284	朝花夕拾	父亲的病	大约十多年前罢，S城中曾经盛传过一个名医的故事：	盛传
425	1926	2	p.284	朝花夕拾	父亲的病	我曾经和这名医周旋过两整年，因为他隔日一回，来诊我的父亲的病。	周旋
426	1926	2	p.285	朝花夕拾	父亲的病	正在这时候，他有一日来诊，问过病状，便极其诚恳地说：	问
427	1926	2	p.286	朝花夕拾	父亲的病	芦根和经霜三年的甘蔗，他就从来没有用过。	用
428	1926	2	p.288	朝花夕拾	父亲的病	从此我便不再和陈莲河先生周旋，只在街上有时看见他坐在二名轿夫的快轿里飞一般拍过；	拍
429	1926	2	p.295	朝花夕拾	琐记	论文题目也小有不同，譬如《工欲善其事必先利其器论》，是先前没有做过的。	做
430	1926	2	p.296	朝花夕拾	琐记	但我们也曾经有过一个很不平安的时期。那是第二年，听说学校就要裁撤了。	有
431	1926	2	p.297	朝花夕拾	琐记	有一个前辈同学在，比我们早一年毕业，曾经游历过日本，应该知道些情形。	游历
432	1926	2	p.304	朝花夕拾	藤野先生	原来我的讲义已经从头到尾，都用红笔添改过了，不但增加了许多脱漏的地方，连文法的错误，也都一一订正。	改

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、『鲁迅全集』参照。

433	1926	2	p.305	朝花夕拾	藤野先生	这是《新约》上的句子罢，但经托尔斯泰新近引用过的。	引用
434	1926	2	p.307	朝花夕拾	藤野先生	我离开仙台之后，就多年没有照过相，又因为状况也无聊，说起来无非使他失望，便连信也怕敢写了。	照//相
435	1926	2	p.307	朝花夕拾	藤野先生	经过的年月一多，话更无从说起，所以虽然有时想写信，却又难以下笔，这样的一直到现在，还没有寄过一封信和一张照片。	寄
436	1926	2	p.313	朝花夕拾	范爱农	第二天爱农就上城来，戴着农夫常用的毡帽，那笑容是从来没有见过的。	见
437	1926	2	p.314	朝花夕拾	范爱农	“情形还是不行，千金发他们。”一个去年听过我的讲义的少年来访问我，慷慨地说，“我们要办一种报来监督他们。”	听
438	1926	2	p.357	故事新编	奔月	“太太……。”他擦过手脸，走进内房去，一面叫。	擦
439	1926	2	p.359	故事新编	奔月	你还该记得罢，丈母的面前就常有黑熊走过，叫我去射了好几回……。”	走
440	1926	2	p.360	故事新编	奔月	看太太醒后，用过早点心，有些高兴的时候，你便去禀告，说晚饭请她等一等，对不起得很。	用
441	1926	2	p.362	故事新编	奔月	“有些人是一听就知道的。尧爷的时候，我曾经射死过几匹野猪，几条蛇……。”	射死
442	1926	2	p.364	故事新编	奔月	俺向来就只是打猎，没有弄过你似的剪径的玩艺儿……。”	弄
443	1926	2	p.365	故事新编	奔月	“嘘。三个饭馆，小的都去问过了，没有在。”	问
444	1926	2	p.423	故事新编	铸剑	他也不暇计较，再望路上，不但黄盖车已经走过，连拥护的骑士也过去了一大阵了。	走

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、『鲁迅全集』参照。

445	1926	2	p.421	故事新编	铸剑	他的母亲站起了，揭去床头的木板，下床点了松明，到门背后取过一把锄，交给眉间尺道：“掘下去！”	取
446	1926	2	p.425	故事新编	铸剑	他冷冷地说，“仗义，同情，那些东西，先前曾经干净过，现在却都成了放鬼债的资本。”	干净
447	1926	2	p.427	故事新编	铸剑	午后，国王一起身，就有些不高兴，待到用过午膳，简直现出怒容来。	用
448	1926	2	p.428	故事新编	铸剑	他说善于玩把戏，空前绝后，举世无双，人们从来就没有看见过；	看见
449	1926	2	p.435	故事新编	铸剑	“奴才们向来就没有留心看过大王的后枕骨……。”	看
450	1926	3	p.186	华盖集续编	杂论管闲事·做学问·灰色等	我大约因为在讲什么文艺学术的一篇文章上见过他的名字，所以一不小心便带出来了。	见
451	1926	3	p.186	华盖集续编	杂论管闲事·做学问·灰色等	自然是最和自己相关的，人则因为同是人类，或是同类，同志；小则，因为是同学，亲戚，同乡，——至少，也大概明见过什么，虽然自己的显在意识上并不了然，或者其实了然，而故意装痴作傻。	目光
452	1926	3	p.187	华盖集续编	杂论管闲事·做学问·灰色等	昨天下午我从沙滩回家的时候，知道大琦君来访问我了。	来访
453	1926	3	p.187	华盖集续编	杂论管闲事·做学问·灰色等	我先前已说过，现在的留学生是多多，多多了，但我总疑心他们大部分是在外国租了房子，关起门来嚼牛肉吃的，而且在东京实在也看见过。	说
454	1926	3	p.187	华盖集续编	杂论管闲事·做学问·灰色等	我先前已说过，现在的留学生是多多，多多了，但我总疑心他们大部分是在外国租了房子，关起门来嚼牛肉吃的，而且在东京实在也看见过。	看见

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、『鲁迅全集』参照。

455	1926	3	p.188	华盖集续编	杂论管闲事・做学问・灰色等	所以，我看见回国的学者，头两年穿洋服，后来穿皮袍，昂头而走的，总疑心他是在外国亲手做过几年牛肉的人物，而且即便有了什么事，连“倘加”也未必肯拍的。	煤
456	1926	3	p.188	华盖集续编	杂论管闲事・做学问・灰色等	在幼小时候曾有一个老于世故的长辈告诫过我：你不要和没出息的担子或鞭子为难，他会自己摔了，却诬赖你，说不清，也赔不完。	告诫
457	1926	3	p.190	华盖集续编	杂论管闲事・做学问・灰色等	听说“孤桐先生”倒是想到了这一节，曾经发表过文章，然而下台了，很可惜。	发表
458	1926	3	p.190	华盖集续编	杂论管闲事・做学问・灰色等	这就足见“学问”之道，浩如烟海了，那“短短的一部‘四书’”，我是读过的，至于汉人的“四书”注疏或理论，却连听也没有听到过。	读
459	1926	3	p.190	华盖集续编	杂论管闲事・做学问・灰色等	这就足见“学问”之道，浩如烟海了，那“短短的一部‘四书’”，我是读过的，至于汉人的“四书”注疏或理论，却连听也没有听到过。	听到
460	1926	3	p.213	华盖集续编	占书与白话	凡有读过一点占书的人都有这一种老手段：	读
461	1926	3	p.214	华盖集续编	占书与白话	非薄古书者，惟读过古书者最有力，这是的确的。	读
462	1926	3	p.214	华盖集续编	占书与白话	因为他洞知弊病，能“以子之矛攻子之盾”，正如要说明吸雅片的弊害，大概惟吸过雅片者最为深知，最为确切一般。	吸
463	1926	3	p.217	华盖集续编	一点比喻	这样的山羊我只见过一回，确是走在一群胡羊的前面，脖子上还挂着一个铃铎，作为智识阶级的徽章。	见
464	1926	3	p.222	华盖集续编	不是信	——但这自然是只对于看过《热风》的读者说的。	看
465	1926	3	p.223	华盖集续编	不是信	而且还得小心记住，倘有人说过他是文士，是法兰斯，你便万不可再用“文士”或“法兰斯”字样，	说

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、『鲁迅全集』参照。

466	1926	3	p.223	华盖集续编	不是信	物荫榆女士的善于请酒，我说过的，或者别人也说过，并且偶见于新闻上。	说
467	1926	3	p.223	华盖集续编	不是信	物荫榆女士的善于请酒，我说过的，或者别人也说过，并且偶见于新闻上。	说
468	1926	3	p.223	华盖集续编	不是信	现在的有些公论家，自以为中立，其实却偏，或者和事主倒有亲戚，朋友，同乡，……等等关系，甚至丁明光了酒饭，我也说过的。	说
469	1926	3	p.223	华盖集续编	不是信	这不是明明白白的么，报社收津贴，连回业中也互许过，但大家仍都自称公允论。	许
470	1926	3	p.224	华盖集续编	不是信	我却轻轻地改为“听说孤桐先生倒是想到了这一节，曾经发表过文章，然而下台了，很可惜”了。	发表
471	1926	3	p.228	华盖集续编	不是信	至于“思想界的权威者”等等，我连梦里也没有想做过，	想做
472	1926	3	p.228	华盖集续编	不是信	我也曾反对过将自己的小说采入教科书，怕的是教错了青年，记得曾在报上发表；	反对
473	1926	3	p.228	华盖集续编	不是信	至于“流言”，则先已说过，正是陈源教授首先发明的专卖品，独有他听到过许多；	说
474	1926	3	p.228	华盖集续编	不是信	至于“流言”，则先已说过，正是陈源教授首先发明的专卖品，独有他听到过许多；	听到
475	1926	3	p.228	华盖集续编	不是信	剩下的只有“幽默”问题了，我又没有说过这些话，也没有主张过“幽默”，也许将这两字连写，今天还算第一回。	说
476	1926	3	p.228	华盖集续编	不是信	剩下的只有“幽默”问题了，我又没有说过这些话，也没有主张过“幽默”，也许将这两字连写，今天还算第一回。	主张

477	1926	3	p.229	华盖集续编	不是信	这“流言”早听到过了；	听到
478	1926	3	p.230	华盖集续编	不是信	因为我丁诗向不留心，所以也没有看过“沫若的诗”，因此即更不知道别人的是否抄袭。	看
479	1926	3	p.232	华盖集续编	不是信	这是真的，从那时以来，我确没有带兵独立过，但我也没有冷笑云南起义，也没有希望国民党失败；	独立
480	1926	3	p.232	华盖集续编	不是信	对于教育部，其实是脱离过两回，	脱离
481	1926	3	p.232	华盖集续编	不是信	可悲的就在此，现在的骂官僚的人里面，到外国去炸犬过一回而且做教员的就很多；	炸犬
482	1926	3	p.242	华盖集续编	我还不能“带住”	但是，前儿天不是因为“令兄”关系，连我的“面孔”都攻击过了么？	攻击
483	1926	3	p.243	华盖集续编	我还不能“带住”	书是读过的，不止十年，气也养过的，不到十年，可是读也读不好，养也养不好。	读
484	1926	3	p.243	华盖集续编	我还不能“带住”	书是读过的，不止十年，气也养过的，不到十年，可是读也读不好，养也养不好。	养
485	1926	3	p.244	华盖集续编	我还不能“带住”	“诗哲”为援助陈源教授起见，似乎引过罗曼罗兰的话，人意是各人的身上都有鬼，但人却只知道打别人身上的鬼。	引
486	1926	3	p.247	华盖集续编	送灶日漫笔	明朝就有人解释过，曰：“情而者，面情之谓也。”	解释

487	1926	3	p.249	华盖集续编	送灶日漫笔	我也没有做过道上，详细是不知道的，	做
488	1926	3	p.252	华盖集续编	谈皇帝	往昔的我家，曾有一个老仆妇，告诉过我她所知道，而且相信的对付皇帝的方法。	告诉
489	1926	3	p.255	华盖集续编	无花的蔷薇	记得小时候看过一出戏，	看
490	1926	3	p.258	华盖集续编	无花的蔷薇	“周氏兄弟”之一，一定又是我了。我何尝研究过什么呢，	研究
491	1926	3	p.258	华盖集续编	无花的蔷薇	该教授——怨我打一句“官话”——说过，我笑别人称他们为“文士”，而不笑“某报天天鼓吹”我是“思想界的权威者”。	说
492	1926	3	p.263	华盖集续编	无花的蔷薇之二	如果中国还不至于灭亡，则已往的史实示教过我们，将来的事便要大出于屠杀者的意料之外——	示教
493	1926	3	p.277	华盖集续编	纪念刘和珍君	陶潜说过，“亲戚或余悲，他人亦已歌，死去何所道，托体同山阿。”倘能如此，这也就够了。	说
494	1926	3	p.277	华盖集续编	纪念刘和珍君	我已经说过：我向来是不惮以最坏的恶意来推测中国人的。	说
495	1926	3	p.289	华盖集续编	无花的蔷薇之三	时候和文字是两样了，但含义却使我觉得很耳熟；正如我年幼时所听过的着僧的教诫一般。	听
496	1926	3	p.290	华盖集续编	无花的蔷薇之三	“五四”时期它们曾被介绍到中国来，在当时反对封建主义和妇女解放的斗争中，曾起过积极的作用。	起
497	1926	3	p.291	华盖集续编	新的蔷薇	听说一刀以前，杏花和碧桃都开过了。	开
498	1926	3	p.299	华盖集续编	再来一次	那时的《晨报副刊》，编辑尚不是胜过奈尔先生的“诗哲”，也还未负有逼死别人，掐死自己的使命，所以间或也等一点我似的俗人的文章；	陪

499	1926	3	p.299	华盖集续编	再来一次	北京依旧是他所赡养过的东西在张牙舞爪，他所勾结着的报馆在颠倒是非，他所栽培成的女校在兴风作浪：依然是他的世界。	赡养
500	1926	3	p.304	华盖集续编	为半农题记《何典》后，作	我曾经做过《论“他妈的！”》早有青年道德家乌烟瘴气地浩叹过了，还讲身分么？	做
501	1926	3	p.304	华盖集续编	为半农题记《何典》后，作	我曾经做过《论“他妈的！”》早有青年道德家乌烟瘴气地浩叹过了，还讲身分么？	浩叹
502	1926	3	p.304	华盖集续编	为半农题记《何典》后，作	然而呀，这里用得着然而了，我是穷学生在十九世纪的，又做过几十年官，和所谓“狐桐先生”同部，官——上等人——气骤不易退，所以有时也觉得教授最相宜的也还是上讲台。	做
503	1926	3	p.308	华盖集续编	马上日记	我的目的，只在记上稍有来信，以便答复，或者何时答复过，尤其是学校的薪水，收到何年何月的几成几了，零零碎碎，总是记不清楚，必须写一笔帐，以理检查，庶几乎两不含糊，我也知道自己有多少债放在外面，万一将来收清之后，要成为怎样的一个小富翁。	答复
504	1926	3	p.309	华盖集续编	马上日记	看副刊的人抵是学生，都是过来人，做过什么“学而时习之不亦说乎论”或“人心不古议”的，一定知道做文章是怎样的味道。	做
505	1926	3	p.310	华盖集续编	马上日记	我曾经忠告过G先生：	忠告
506	1926	3	p.329	华盖集续编	马上支日记	我于此道向来不留心，所见过的旧记，只有《礼记》里的所谓“八珍”，《酉阳杂俎》里的一张御赐菜帐和袁枚名上的《随园食单》。	见
507	1926	3	p.331	华盖集续编	马上支日记	我没有恭逢过奉陪“大宴会”的光荣，只是经历了回中宴会，吃些燕窝鱼翅。	恭逢
508	1926	3	p.332	华盖集续编	马上支日记	据安冈氏说，虾也是与性欲有关系的；不但从他，我在中国也听到过这类话。	听到
509	1926	3	p.332	华盖集续编	马上支日记	《嘉泰会稽志》已在右印了，但还未出版，我将来很想查一查，究竟绍兴遇着多少回大饥馑，竟这样地吓怕了庶民，仿佛明天便要到来世界末日似的，更喜欢储藏干物品。	遇着
510	1926	3	p.333	华盖集续编	马上支日记	不知怎地忽然想起今天校过的《小说口衔钞》里的强汝诤先生的议论来。	校

511	1926	3	p.334	华盖集续编	马上支日记	午后，到前门外去买药。配好之后，付过钱，就站在柜台前喝了一回价。	付
512	1926	3	p.341	华盖集续编	马上日记之二	上午访索园，谈谈闲话，他说俄国有名的文学者毕力涅克（Boris Pliniak）上月已经到过北京，现在是走了。	到
513	1926	3	p.341	华盖集续编	马上日记之二	其次是西班牙的伊本纳兹（Blasco Ibáñez），中国倒也早有人介绍过；	介绍
514	1926	3	p.342	华盖集续编	马上日记之二	以后，便做小说，还吸过鱼油，这种生活，在中国大概便是整日叫穷的文学家也未必梦想到。	吸
515	1926	3	p.342	华盖集续编	马上日记之二	他的名字，在国榭君翻译的《苏俄的艺术论战》里是出现过的，作品的译本却一点也没有。	出现
516	1926	3	p.343	华盖集续编	马上日记之二	可惜我还没有看过他们最新的作者的作品《一周间》。	看
517	1926	3	p.349	华盖集续编	记“发薪”	我曾经说过，中华民国的官，都是平民出身，并非特别种族。	说
518	1926	3	p.350	华盖集续编	记“发薪”	“亲邻”问题的历史，是起源颇古的，中华民国十一年，就因此引起过方玄侔的牢骚，我便将这写了一篇《端午节》。	引起
519	1926	3	p.353	华盖集续编	记“发薪”	这个办法，先前也早有人苦心经营过。	经营
520	1926	3	p.353	华盖集续编	记“发薪”	然而他们究竟是聪明人，看过“满床满桌满地”的德文书的，即刻又悟到我单是抛了官，还不至于一败涂地，	看
521	1926	3	p.354	华盖集续编	记“发薪”	我觉得已是一个精神上的财主；只可惜这“精神文明”是不很可靠的，刘百昭就来动摇了。	动摇

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

522	1926	3	p.358	华盖集续编	记谈话	她实在并不“高傲”，也没有反对过杨荫榆，然而她的家没有了，受了破坏。	反对
523	1926	3	p.361	华盖集续编	上海通信	我从七年前护送家眷到北京以后，便没有坐过这车；	做
524	1926	3	p.370	华盖集续编 的续篇	厦门通信	我有时也偶然去散步，在丛葬中，这是Borel讲厦门的书上早就说过的；	说
525	1926	3	p.373	华盖集续编 的续篇	厦门通信(二)	忽然记起一件事来了，还是夏天罢，《现代评论》上仿佛曾有正人君子之流说过：	说
526	1926	3	p.377	华盖集续编 的续篇	《阿Q正传》的成因	我就从不曾插了鲁迅的旗去访问过一次人；“鲁迅即周树人”，是别人查出来的。	访
527	1926	3	p.382	华盖集续编 的续篇	《阿Q正传》的成因	《阿Q正传》的译本，我只看见过两种。	看见
528	1926	3	p.395	华盖集续编 的续篇	厦门通信(三)	联络感情法我没有研究过；	研究
529	1926	3	p.580	而已集	附录人笈发微	1. 连替女师大学生控告占士刺的律师都要获罪，上而已经说过了。	说
530	1926	7	p.109	集外集	通信	我们倒也并不是看见社会主义四个字就吓得两眼朝天，口吐白沫，只是没有研究过，所以也没有谈，自然更没有用此来宣传任何主义的意思。	研究
531	1926	7	p.29 3	集外集拾遗	中山先生逝世后一周年	中华民国成立之后，也没有满足过，没有安逸过，仍然继续着进向近于完全的革命的工作。	满足

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

532	1926	7	p.29 3	集外集拾遗	中山先生逝世后一周年	中华民国成立之后，也没有满足过，没有安逸过，仍然继续着进向近于完全的革命的工作。	安逸
533	1926	7	p.29 3	集外集拾遗	中山先生逝世后一周年	那时新闻上有一条题载，不下于他一生革命事业地感动过我，	感动
534	1926	7	p.29 4	集外集拾遗	中山先生逝世后一周年	托洛斯基曾经说明过什么是革命艺术。	说明
535	1926	7	p.301	集外集拾遗	《十二个》后记	我们曾经有过一篇从英文的重译本；因为还不妨有一种别译，胡成才开便又从原文译出了。	有
536	1926	7	p.30 1	集外集拾遗	《十二个》后记	至于意义，却是先由伊尔尔先生校勘过的；后来，我和韦素园君又酌改了几个字。	校勘
537	1926	7	p.30 4	集外集拾遗	《争白山的波浪》小引	但倘若读过专制时代的俄国所产生的文章，就会明白即使那些话全是真的，也毫不足怪。	读
538	1926	7	p.30 5	集外集拾遗	《争白山的波浪》小引	因为上等人从来就没有给他们安排过杂合面。	安排
539	1927	2	p.229	朝花夕拾	小引	书桌上的一盆“水棘枝”，是我先前没有见过的；	见
540	1927	2	p.324	朝花夕拾	通信(复张孟园)	曹娥怕投江舅父，淹死后抱父尸出，是载在正史，很有许多人知道的，但这一个“抱”字却发生过问题。	发生
541	1927	2	p.329	朝花夕拾	后记	这弄笔的画，似乎也还没有人画过图。	画
542	1927	2	p.330	朝花夕拾	后记	先前想不到后来，曾经对于吴友如先生辈颇说过几句蹊跷话，不料曾几何时，即须自己出丑了，现在就预先辩解几句在这甲存案。	说
543	1927	2	p.332	朝花夕拾	后记	我幼小时常常走过许广记的门前，也闲看他们刻画图，是专爱用弧线和直线，不大肯作曲线的，所以无常先生的真相，在这里也难以判然。	走



544	1927	2	p.332	朝花夕拾	后记	这就是我所说过的在赛会时候出现的阿颀。	说
545	1927	2	p.321	朝花夕拾	后记	因为想寻几张插画，常维钧兄给我在北京搜集了许多材料，有几种是为我所未见过的。	见
546	1927	3	p.387	华盖集续编的续篇	关于《三藏取经记》等	某朝诗缺笔是某朝刻木，是藏书家考过版木的初步秘诀，只要稍看过几部旧书的人，大抵知道的。	看
547	1927	3	p.399	华盖集续编的续篇	海上通信	校长林文庆博士是英国籍的中国人，开口闭口，不离孔子，曾经做过一本讲孔教的书，可惜名目我忘记了。	做
548	1927	3	p.410	而已集	黄花岗的杂感	我还没有亲自遇见过黄花岗的纪念，因为久在北方。	遇见
549	1927	3	p.410	而已集	黄花岗的杂感	不过，中山先生的纪念日却遇见过：	遇见
550	1927	3	p.413	而已集	略论中国人的脸	日本的长谷川如是闲是善于做讽刺文字的。去年我见过他的一本随笔集，叫作《猫·狗·人》；其中有一篇就说到中国人的脸。	见
551	1927	3	p.414	而已集	略论中国人的脸	时袭人物的脸，只要见过清朝光绪年间上海的吴友如的《画报》的，便会觉得神态非常相像。	见
552	1927	3	p.417	而已集	革命时代的文学——四月八日在黄埔军官学校讲	这学校是邀过我好几次了，我总是推宕着没有来。	邀
553	1927	3	p.417	而已集	革命时代的文学——四月八日在黄埔军官学校讲	因为我想，诸君之所以来邀我，大约是因为我曾经做过几篇小说，是文学家，要从我这平听文	做

554	1927	3	p.418	而已集	革命时代的文学——四月八日在黄埔军官学校讲	文学家弄得好，做几篇文章，也许能够称誉于当时，或者得到多少年的虚名罢，——譬如一个烈士的追悼会开过之后，烈士的事情早已不提了，大家倒传诵着谁的挽联做得好；这实在是一件很稳当的买卖。	开
555	1927	3	p.422	而已集	革命时代的文学——四月八日在黄埔军官学校讲	前几年《新青年》载过几篇小说，描写罪人在寒地里的生活，大学教授看了就不高兴，因为他们不喜欢看这样的下流人。	载
556	1927	3	p.425	而已集	写在《劳动问题》之前	还记得去年夏天住在北京的时候，遇见张我权君，听到他说过这样意思的话：	说
557	1927	3	p.427	而已集	略谈香港	本年一月间我曾去过一回香港，	去
558	1927	3	p.429	而已集	略谈香港	但其中有关于我的三点，我自己比较的清楚些，可以请为更正，即：“一，我从来没有做过《晨报副刊》的‘特约撰述员’。	做
559	1927	3	p.443	而已集	略谈香港	听说英国的培那特爵士(Bernard Shaw)，有过这样意思的话：世间最不行的是读书者。因为他只能看别人的思想艺术，不用自己。	有
560	1927	3	p.430	而已集	略谈香港	我又记得还在报上见过一篇“金制车”的关于国粹的演说，	见
561	1927	3	p.432	而已集	略谈香港	《汉风杂志》我没有拜读过；	拜读
562	1927	3	p.440	而已集	读书杂谈——七月十六日在广州知用中学讲	中国呢，别人我不知道，我自己的短篇寄给大书铺，每篇卖过二十元。	卖
563	1927	3	p.441	而已集	读书杂谈——七月十六日在广州知用中学讲	先前也曾有几位先生给青年开过一大篇书目。	开

564	1927	3	p.443	而已集	读书杂谈——七月十六日 在广州知用中学讲	听说英国的特那特戴（Bernard Shaw），有过这样意思的话：	有
565	1927	3	p.443	而已集	读书杂谈——七月十六日 在广州知用中学讲	我先前吃过干荔枝，罐头荔枝，陈年荔枝，并且由这些推想过新鲜的好荔枝。	吃
566	1927	3	p.443	而已集	读书杂谈——七月十六日 在广州知用中学讲	我先前吃过干荔枝，罐头荔枝，陈年荔枝，并且由这些推想过新鲜的好荔枝。	推想
567	1927	3	p.443	而已集	读书杂谈——七月十六日 在广州知用中学讲	这叫吃过了，和我所猜想的不同，非到广东来吃就永不会知道。	吃
568	1927	3	p.443	而已集	读书杂谈——七月十六日 在广州知用中学讲	因为他没有练习过观察力。所以要观察，还是先要经过思索和读书。	练习
569	1927	3	p.447	而已集	通信	还有一层，我凡有东西发表，无论讲义，演说，是必须自己看过的。	看
570	1927	3	p.450	而已集	通信	但是否的确如此，也到底摸不清，即使真的，我也说不出名目，因为那些名目，多是我所没有听到过的。	听到
571	1927	3	p.453	而已集	答有恒先生	而且这种恐怖，我觉得从来没有经验过。	经验
572	1927	3	p.454	而已集	答有恒先生	我其实并不是急进的改革论者，我没有反对过死刑。但对于凌迟和灭族，我曾表示过十分的憎恶和悲痛，我以为二十世纪的人群中是不应该有有的。	反对
573	1927	3	p.454	而已集	答有恒先生	我其实并不是急进的改革论者，我没有反对过死刑。但对于凌迟和灭族，我曾表示过十分的憎恶和悲痛，我以为二十世纪的人群中是不应该有有的。	表示

574	1927	3	p.454	而已集	答有恒先生	我曾经说过：中国历来是排着吃人的筵宴，有吃的，有被吃的。	说
575	1927	3	p.456	而已集	答有恒先生	曾经有一位青年，想以独秀办《新青年》，而我在哪里做过文章这一件事，来证明我是共产党。	做
576	1927	3	p.456	而已集	答有恒先生	你也看见，在这半年中，我何尝说过一句话？	说
577	1927	3	p.456	而已集	答有恒先生	虽然我曾在课堂上公表过我的意思，虽然我的文章那时也无处发表，虽然我是早已不说话了，但这都不足以作我的辩解。	公表
578	1927	3	p.461	而已集	辞“大义”	印度有一个泰戈尔，这泰戈尔到过震旦来，改名为震旦。	到
579	1927	3	p.461	而已集	辞“大义”	因为这竺震旦做过一本《新月集》，所以这震旦就有了一个新月社，——中间我不大明白了一一现在又有一个叫作新月书店的。	做
580	1927	3	p.461	而已集	辞“大义”	我早已说过：公理和正义，都被正人君子夺去了，所以我自己已经一无所有。	说
581	1927	3	p.462	而已集	辞“大义”	既不成为“派”，也没有做“首领”，更没有“仗”过“大义”。	仗
582	1927	3	p.464	而已集	反“漫谈”	我一向对于《语丝》没有恭维过，今天熬不住要说几句了；	恭维
583	1927	3	p.467	而已集	枕“大乳”	倘只一部分人说些理由，想改变一点，那是历来没有成功过。	成功
584	1927	3	p.468	而已集	枕“大乳”	我曾经也有过“孔夫之虑”，以为将来中国的学生出身的女性，恐怕要失去哺乳的能力，家家须哺乳娘。	有

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

585	1927	3	p.468	而已集	忧“天乳”	我以为女学生的身体最好是长发，束胸，半放胸（缠过而又放之，一名文明胸）。	缠
586	1927	3	p.472	而已集	革“首领”	只有某女士窃取“亚细亚词伯”的画的时候，《语丝》上（也许是《京报副刊》上）有人说过几句话，后来看“现代派”的口风，仿佛以为这话是我写的。	说
587	1927	3	p.473	而已集	革“首领”	但终于交了好运了，升为“首领”，而且据说是普和现代派的“上将”在“北京文艺界”上交过战了。	交
588	1927	3	p.476	而已集	谈“激烈”	我在《略谈香港》里已经说过了。	说
589	1927	3	p.477	而已集	谈“激烈”	我曾经提起过几回元朝，今夜思之，还不很确。	提起
590	1927	3	p.477	而已集	谈“激烈”	他不但兴过几回“文字狱”，大杀叛徒，且于宋朝人所做的“激烈文字”，也曾细心加以删改。	兴
591	1927	3	p.477	而已集	谈“激烈”	清朝人改宋人书，我曾经举出过《茅亭客话》。	举出
592	1927	3	p.482	而已集	扣丝杂感	我所确切知道的，有这样几件事。是《莽原》也被扣留过一期，不过这还可以说，因为里面而有俄国作品的翻译。	扣留
593	1927	3	p.485	而已集	扣丝杂感	先已说过，革命地方的文字，是要直接痛快，“革命！革命！”的，这才是“革命文学”。	说
594	1927	3	p.487	而已集	扣丝杂感	我曾经想做过一篇《包同新论》，	想做
595	1927	3	p.492	而已集	“公理”之所在	这是我去年说过的话，而今年确也还是如此。	说
596	1927	3	p.493	而已集	“公理”之所在	《现代评论》的一千九百零七事件，我向没有插过嘴，	插//嘴

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

597	1927	3	p.496	而已集	“意表之外”	可是定了“新法”了，除原先说过的“主将”之类以外，新的都不再说出他的真姓名，只叫“一个人”，“某学者”，“某教授”，“某君”。	说
598	1927	3	p.502	而已集	魏晋风度及文章与药及酒之关系——九月间在广州夏期学术演讲会讲	研究那时的文学，现在较为容易了，因为已经有人做过工作：	做
599	1927	3	p.502	而已集	魏晋风度及文章与药及酒之关系——九月间在广州夏期学术演讲会讲	曹操曾自己说过：“倘无我，不知有多少人称王称帝！”	说
600	1927	3	p.503	而已集	魏晋风度及文章与药及酒之关系——九月间在广州夏期学术演讲会讲	她不肯要，他就于出门之后，把那些钱扔在街上，算是付过了。	付
601	1927	3	p.511	而已集	魏晋风度及文章与药及酒之关系——九月间在广州夏期学术演讲会讲	例如刘伶——他曾做过一篇《酒德颂》，谁都知道——他是不承认世界上从前规定的道理的，	做
602	1927	3	p.516	而已集	魏晋风度及文章与药及酒之关系——九月间在广州夏期学术演讲会讲	还有一个原因，先已说过，是习惯。	说
603	1927	3	p.516	而已集	魏晋风度及文章与药及酒之关系——九月间在广州夏期学术演讲会讲	例如看北朝的墓志，官位升进，往往详细写着，再仔细一看，他是已经经历过两三个朝代了，但当时似乎并不为奇。	经历
604	1927	3	p.535	而已集	再谈香港	第一回是单身往来，那情状，已经写过一点了。	写

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

605	1927	3	p.535	而已集	再谈香港	这回却比前两次仿佛尤就感到不安，因为曾在《创造月刊》上王独清先生的通信中，见过英国雇用的中国同胞上船“查关”的威武；	见
606	1927	3	p.536	而已集	再谈香港	他一动手，我立刻觉得香港和广州的查关的不同。我出广州，也曾受过检查。	受
607	1927	3	p.537	而已集	再谈香港	其中有一束旧信札，似乎颇惹起他们的兴趣，振了一振精神，但看过四五封之后，也就放下了。	看
608	1927	3	p.538	而已集	再谈香港	这是在北京时用十几个轿子从白塔寺买来，带到广州，这回削过杨桃的。	削
609	1927	3	p.539	而已集	再谈香港	可见已经检查过。	检查
610	1927	3	p.539	而已集	再谈香港	“查过了？”他笑嘻嘻地问我。	查
611	1927	3	p.540	而已集	再谈香港	接着是这样的问答——“他已经看过了。”我说。“没有看过。没有打开过。打开来！”	看
612	1927	3	p.540	而已集	再谈香港	接着是这样的问答——“他已经看过了。”我说。“没有看过。没有打开过。打开来！”	看
613	1927	3	p.540	而已集	再谈香港	接着是这样的问答——“他已经看过了。”我说。“没有看过。没有打开过。打开来！”	打开
614	1927	3	p.540	而已集	再谈香港	“这里不画着查过的符号么？”	查

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

615	1927	3	p.549	而已集	当滕元庆君的绘画展览时	记有那时曾经说过这样意思的话：	说
616	1927	3	p.549	而已集	当滕元庆君的绘画展览时	但是，我们是迟暮了，并未参与过先前的事业，	参与
617	1927	3	p.552	而已集	卢梭和胃口	做过《民约论》的卢梭，自从他还未死掉的时候起，使受人们的责备和迫害，直到现在，责备终于没有完。	做
618	1927	3	p.561	而已集	谈所谓“大内档案”	前几年，我也曾见过几个人的议论，	见
619	1927	3	p.563	而已集	谈所谓“大内档案”	他知道清朝武英殿里藏过一副铜活字，后来太监们你也偷，我也偷，偷得“不亦乐乎”，待到王爷们似乎要来查考的时候，就放了一把火。	藏
620	1927	3	p.565	而已集	谈所谓“大内档案”	朝鲜的贺正表，我记得也发见过一张。	发见
621	1927	3	p.567	而已集	谈所谓“大内档案”	从元年到现在十五年，每次战争，图书馆从未遭过损失。	遭
622	1927	4	p.18	三闲集	怎么写——夜记之一	占来许多人谈过了，将来要谈的人也将无穷无尽。	谈
623	1927	4	p.19	三闲集	怎么写——夜记之一	什么哀愁，什么夜色，都飞到九霄云外去了，连靠过的石栏也不再放在心里。	靠
624	1927	4	p.20	三闲集	怎么写——夜记之一	但这《这样做》却又有些特别，因为我还记得日报上曾经说过，是和我有关系的。	说
625	1927	4	p.22	三闲集	怎么写——夜记之一	看过通讯，懒得倒翻上去了，于是看目录。	看

626	1927	4	p.22	三闲集	怎么写——夜记之一	我在电灯下回想，达夫先生我见过好几面，谈过好几回，只觉得他稳健和平，不至于得罪于人，更何况得罪于国。	见
627	1927	4	p.22	二闲集	怎么写——夜记之一	我在电灯下回想，达夫先生我见过好几面，谈过好几回，只觉得他稳健和平，不至于得罪于人，更何况得罪于国。	谈
628	1927	4	p.31	三闲集	在钟楼上——夜记之二	只要好吃的，它就吃，并且能开盒了盖，广州中山大学非主任之流即不往住的楼上的老鼠，仿佛也特别聪明似的，我在别地方未曾遇到过。	遇到
629	1927	4	p.33	二闲集	在钟楼上——夜记之二	我觉得广州究竟是中国的一部分，虽然奇异的花果，特别的语言，可以淆乱游子的耳目，但实际上是和我所走过的别处都差不多的。	走
630	1927	4	p.36	三闲集	在钟楼上——夜记之二	他那一篇《无家可归的艺术家》译载在一种期刊上时，曾经使我发生过暂时的思索。	发生
631	1927	4	p.42	三闲集	匪笔三篇	先前也曾收集，得了五六篇，后来只在北京的《平民周刊》上发表过一篇模范监狱里的一个囚人的自序，	发表
632	1927	7	p.113	集外集	文艺与政治的政途——二月二十一日在上海暨南大学讲	我所以不出来讲演，一则没有什么意见可讲，二则刚才这位先生说过，在座的很多读过我的书，我更不能讲什么。	说
633	1927	7	p.113	集外集	文艺与政治的政途——二月二十一日在上海暨南大学讲	我所以不出来讲演，一则没有什么意见可讲，二则刚才这位先生说过，在座的很多读过我的书，我更不能讲什么。	读
634	1927	7	p.113	集外集	文艺与政治的政途——二月二十一日在上海暨南大学讲	政治家最不喜欢人家反抗他的意见，最不喜欢人家要想，要开口。而从前的社会也的确没有人想过什么，又没有人开过口。	想
635	1927	7	p.113	集外集	文艺与政治的政途——二月二十一日在上海暨南大学讲	政治家最不喜欢人家反抗他的意见，最不喜欢人家要想，要开口。而从前的社会也的确没有人想过什么，又没有人开过口。	开//口

636	1927	7	p.115	集外集	文艺与政治的政途——二月二十一日在上海暨南大学讲	我想起我自己曾经与过这样一个人，他身边什么都光了，时常抽开抽屈看石，石角上边上可以找到什么；	写
637	1927	7	p.115	集外集	文艺与政治的政途——二月二十一日在上海暨南大学讲	俄国文学家托尔斯泰讲人道主义，反对战争，与过三册很厚的小说——那部《战争与和平》，他自己是个贵族，却是经过战场的的生活，他感到战争是怎么一个惨痛。	写
638	1927	7	p.117	集外集	文艺与政治的政途——二月二十一日在上海暨南大学讲	到了后来，社会终于变动了；艺术家先时讲的话，渐渐大家都记起来了，大家都赞成他，恭维他是先知先觉。虽是他话的时候，怎样受过社会的奚落。	受
639	1927	7	p.117	集外集	文艺与政治的政途——二月二十一日在上海暨南大学讲	上面我讲过，文学家是感觉灵敏了一点，许多观念，文学家早感到了，社会还没有感到。	讲
640	1927	7	p.118	集外集	文艺与政治的政途——二月二十一日在上海暨南大学讲	从前文艺家的话，政治革命家原是赞同过；直到革命成功，政治家把从前所反对那些人用过的老法子重新采用起来，	赞同
641	1927	7	p.118	集外集	文艺与政治的政途——二月二十一日在上海暨南大学讲	从前文艺家的话，政治革命家原是赞同过；直到革命成功，政治家把从前所反对那些人用过的老法子重新采用起来，	用
642	1927	7	p.118	集外集	文艺与政治的政途——二月二十一日在上海暨南大学讲	割掉他的头，前面我讲过，那是顶好的法子啦，	讲
643	1927	7	p.119	集外集	文艺与政治的政途——二月二十一日在上海暨南大学讲	文艺催促旧的渐渐消灭的也是革命（旧的消灭，新的才能产生），而文学家的命运并不因自己参加过革命而有一样改变，还是处处碰钉子。	参加

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

644	1927	7	p.119	集外集	文艺与政治的歧途——十二月二十一日在上海暨南大学讲	他们都讴歌过革命，直到后来，他们还是碰死在自己所讴歌希望的现实礁上，那时，苏维埃是成立了！	讴歌
645	1927	7	p.113	集外集	文艺与政治的歧途——十二月二十一日在上海暨南大学讲	我是不大出来讲演的；今天到此地来，不过因为说过了好几次，来讲一回也算了却一件事。	说
646	1927	7	p.308	集外集拾遗	老调子已经唱完——二月十九日在香港青年会讲	第一，是因为中国人没记性，因为没记性，所以昨天听过的话，今天忘记了，明天再听到，还是觉得很新鲜。做事也是如此，昨天做坏了的事，今天忘记了，明天做起来，也还是“仍旧贯”的老调子。	听
647	1927	7	p.309	集外集拾遗	老调子已经唱完——二月十九日在香港青年会讲	虽然有几个革新的人们，如上安石等等，行过新法，但不得大家的赞同，失败了。	行
648	1927	7	p.310	集外集拾遗	老调子已经唱完——二月十九日在香港青年会讲	——中国人是向来排下外人的，然而现在却渐渐有人跑到他那里去唱老调子了，还说道：“孔子也说过，‘道不行，乘桴浮于海。’所以外人倒是好的。”	说
649	1927	7	p.311	集外集拾遗	老调子已经唱完——二月十九日在香港青年会讲	我们中国被别人用兵器来打，早有过好多次了。	有
650	1927	7	p.312	集外集拾遗	老调子已经唱完——二月十九日在香港青年会讲	我曾经做过一篇杂感，大意是说：“凡称颂中国旧文化的，多是住在租界或安谧地方的富人，	做
651	1927	8	p.150	集外集补编	新的世故	创作翻译和批评，我没有研究过等次，但我都给以相当的尊重。	研究
652	1927	8	p.151	集外集补编	新的世故	尼采先生说过，人毒使人死，小毒是使人舒服的。	说
653	1927	8	p.153	集外集补编	新的世故	因为这两种书，是因为由我编印，要用相似的形式，所以立了一个名目，书的著者译者，是不但并不互相认识，有几个我也只见过两回。	见

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

654	1927	8	p.153	集外集补编	新的世故	然而青年作家的豪兴是喷发一般的，不久，在长虹的笔下，经我译过他那作品的丽川白村便先变了灰色，我是从“思想深刻”一直掉到只有“世故”，而且说是去年已经看出，不说明白的话了。	译
655	1927	8	p.161	集外集补编	庆祝列宁克复的那一边	列宁的克复，在看见电报的那天，我已经一个人私自高兴过两回了。这“别人出力我高兴”的报应之一，是搜索枯肠，硬做文章的苦差使。	高兴
656	1927	8	p.161	集外集补编	庆祝列宁克复的那一边	忽而想到十六年前也曾克复过两京，还给捐躯的战士立了一块碑，	克复
657	1927	8	p.186	集外集补编	书苑折枝（三）	案：知道古来做过如钟颖倒事，当时也并不为奇，便可以消去对于时事的诧异心不少。	做
658	1927	8	p.193	集外集补编	关于知识阶级	其实就是我不做杂感，世界上，还是没有名字的，这得声明一句，是：这些劝我做创作，不要写杂感的人们之中，有几个是别有用心，是被我骂过的。所以要我不再做杂感。	骂
659	1928	4	p.72	三闲集	看司徒乔君的话	在北京的展览会里，我已经见过作者表示了中国人的这样的对于天然的倔强的魂灵。	见
660	1928	4	p.74	三闲集	在上海的鲁迅启事	两礼拜前，蒙M女士和两位曾经听过我的讲义的同学见访，三面证明，知道在孤山者，确是别“鲁迅”。	听
661	1928	4	p.74	三闲集	在上海的鲁迅启事	前天得到回信，说确有人见过这样一个人，	见
662	1928	4	p.75	三闲集	在上海的鲁迅启事	“去”呢，自然总有一大要“去”的，然而去“随”受殊，却连我自己也梦里都没有想到过。	想到
663	1928	4	p.75	三闲集	在上海的鲁迅启事	我之外，今年至少另外还有一个叫“鲁迅”的在，但那些个“鲁迅”的言动，和我也曾印过一本《彷徨》而没有销到八万本的鲁迅无干。	印

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

664	1928	4	p.84	三闲集	文艺与革命（并冬芬来信）	我们的革命的文学者曾经当作宝贝，用大字印出过；而严肃的批评家又说他是“浅薄的社会主义者”。	印出
665	1928	4	p.89	三闲集	路	又记起了Gogol做的《巡按使》的故事；中国也译出过的。	译出
666	1928	4	p.106	二闲集	矿穴大观	在我所见的“革命文学”或“写实文学”中，还没有遇到过这么强有力的文学。	遇到
667	1928	4	p.111	三闲集	我的态度气量和年纪	“和长虹战”的时候，他也曾指出我这一条大错处，此外还嘲笑我的生病。而且也是真的，我确实生病，	生//病
668	1928	4	p.111	三闲集	我的态度气量和年纪	但幸而我年青时没有真上战线去，受过创伤，	受
669	1928	4	p.117	三闲集	革命咖啡店	但我又有几句声明——就是：这样的咖啡店中，我没有上去过，那一位作者所“遇见”的，又是别人。	上去
670	1928	4	p.117	三闲集	革命咖啡店	如我者，在《战线》上就宣布过一条“满口黄牙”的罪状，到那里去高谈，岂不褻渎了“无产阶级文学”么？	宣布
671	1928	4	p.117	三闲集	革命咖啡店	叶灵风革命艺术家曾经画过我的像，就是坐在酒坛的后面。	画
672	1928	8	p.626	集外集补编	关于“粗人”	因为又燃先生我是没有预先见过的。	见
673	1928	8	p.627	集外集补编	《东京通信》按语	如果还记得《三国志演义》或吴稚晖先生的话，是不至于说出来的，书本子上及别人，并未说过人民是阿斗。	说

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

674	1928	8	p.629	集外集补编	敬贺新禧	我也没有见过那一本书。	见
675	1928	8	p.207	集外集补编	《“行路难”》按语	今年到上海，在一所大桥上也被碰过一次了，但不及香港似的严厉。	撞
676	1928	8	p.234	集外集补编	《这倒是第二次》按语	鲁迅按：在五六年前，我对于中国人之发“打拳热”，确曾反对过，那是因为恐怕大家忘却了枪炮，以为拳脚可以救国，而后承终于吃亏。	反对
677	1928	8	p.399	集外集补编	复晓真、康福群	他待我实在是很隆重，请我吃过几回饭；单是钱行，就有两回。	吃
678	1929	4	p.134	三闲集	现今的新文学的概观——五月二十二日在燕京大学国文学会讲	梁实秋有一个白璧德，徐志摩有一个泰戈尔胡适之有一个杜威，——是的，徐志摩还有一个曼殊斐儿，他到她坟上去哭过，——创造社有革命文学，时行的文学。	哭
679	1929	4	p.134	三闲集	现今的新文学的概观——五月二十二日在燕京大学国文学会讲	希望革命的文人，革命一到，反而沉默下去的例子，在中国便曾有过的。	有
680	1929	4	p.140	三闲集	“皇汉医学”	他看过之后，在书头卷尾写了几句牢骚话，寄给我了。	看
681	1929	4	p.147	三闲集	叶永棻作《小小十年》小引	多少伟大的招牌，去年以来，在文摊上都挂过了，但不到一年，便以变相和无物，自己告了全盘的歇业，	挂
682	1929	4	p.151	三闲集	《小彼得》译本序	这连琐的童话六篇，原是日本林房雄的译本（一九二七年东京晓星阁出版），我选给译者，作为学习日文之用的。逐次学过，就顺手译出，结果是成了这一部中文的书。	译

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、『鲁迅全集』参照。

683	1929	4	p.152	三闲集	《小彼得》译本序	但是，即使在受过教育的孩子们的眼中，那结果也还是在和别国不一样。	受
684	1929	4	p.152	三闲集	《小彼得》译本序	第四，则故事中的物件，在欧美虽然很普通，中国却却是中产人家，也往往未曾见过。	见
685	1929	4	p.154	三闲集	《小彼得》译本序	生于维也纳，童年随父到过欧亚不少国家。	到
686	1929	4	p.164	二闲集	我和《语丝》的始终	但是，“不虞之誉”，也和“不虞之毁”一样地无聊，如果生平未曾带过一兵半卒，而有人拱手颂扬道，“你真像拿破仑呀！”则虽是志在做军阀的未来的英雄，也不会怎样舒服的。	带
687	1929	4	p.164	三闲集	我和《语丝》的始终	是我从来没有受过晨报馆的压迫，也并不是和孙伏园先生两个人创办了《语丝》。	受
688	1929	4	p.166	三闲集	我和《语丝》的始终	追忆园自己，据我的记忆，自始至终，也只做过三回文字，未一回是宣言从此要大为《语丝》撰述，然而宣言之后，却连一个字也不见了。	做
689	1929	4	p.168	三闲集	我和《语丝》的始终	但我的“彷徨”并不用许多时，因为那时还有一点读过尼采的《Zarathustra》的余波，	读
690	1929	4	p.169	三闲集	我和《语丝》的始终	所以《语丝》在北京虽然逃过了段祺瑞及其吧儿狗们的撕裂，但终究被“张大元帅”所禁止了，	逃
691	1929	4	p.171	三闲集	我和《语丝》的始终	当袜厂出现时，曾经当面质问过小峰，回答是“发广告的人弄错的”；	质问
692	1929	4	p.183	三闲集	鲁迅译著书日	我所译著的书，景宋曾经给我开过一个目录，	开
693	1929	4	p.184	三闲集	通信（复章达生）	最致命的，是：创作既因为我缺少伟大的才能，至今没有做过一部长篇；	做

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、『鲁迅全集』参照。

694	1929	7	p.123	集外集	关于《关于红笑》	因为自己曾经译过几页，那警告，就登在初版的《域外小说集》上，但后来没有译完，所以也没有出版。	译
695	1929	7	p.124	集外集	关于《关于红笑》	假如一切真是我瞎想了呢，前边已经说过，这些话就作为我们就要出版的单行本并非抄卷的证明。	说
696	1929	7	p.125	集外集	关于《关于红笑》	我们的将出版的译本和你的已出版的译本，很相类似，而我曾将译稿寄给北新书局过，你有见到的可能，	将译稿寄给北新书局
697	1929	7	p.125	集外集	关于《关于红笑》	不过我从去年春天以后，一题也没有去过编辑部，这要请北新诸公谅解。	去
698	1929	7	p.125	集外集	关于《关于红笑》	我虽然没有见过那一译本，也不知所据的是谁的英译，	见
699	1929	7	p.128	集外集	关于《关于红笑》	翻译过屠格涅夫、果戈理等俄国作家的作品。	翻译
700	1929	7	p.157	集外集	《奔流》编校后记（一—十二）	《Hamlet》中国已有译文，无须多论；《Don Quichotte》则只有林纾的文言译，名《魔侠传》，仅上半部，又是删节过的。	删节
701	1929	7	p.158	集外集	《奔流》编校后记（一—十二）	但因为在并没有看过这一部书，所以和实际是一点不对的。	看
702	1929	7	p.159	集外集	《奔流》编校后记（一—十二）	俄国的关于文艺的争执，曾有《苏俄的文艺论战》介绍，	介绍
703	1929	7	p.159	集外集	《奔流》编校后记（一—十二）	如果看过前一书，则看过这篇来便更为明了。	看



## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

704	1929	7	p.166	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	当这第四辑初出时候，自己也曾翻译过，	翻译
705	1929	7	p.166	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	但因为对于许多难译的文句，先前也曾用过心，	用
706	1929	7	p.167	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	可惜在中国也不易得到资料，我只在异曙梦编辑的《新露西亚艺术大观》里见过一种木刻，是装饰全俄农工博览会内架织馆的《女工》。	见
707	1929	7	p.169	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	但这回的译作不分，却因编者的“浅薄”，一向没有读过那一种“Reading”之类，	读
708	1929	7	p.170	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	因为也曾想过许多回，终于没有好方法，只能这样的了。	想
709	1929	7	p.172	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	所以这回是意在介绍几篇外国人——真看过托尔斯泰的作品，明白那历史底背景的外国人——的文字，可以看看先前和现在，中国和外国，对于托尔斯泰的评价是怎样的不同。	看
710	1929	7	p.174	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	敢于将托尔斯泰和卢梭并列者，是没有读过那行名的《人类不平等起原论》或读而不懂的人所做的事。	读
711	1929	7	p.174	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	我则不但“根本不懂唯物史观”，且未曾研究过卢梭和托尔斯泰的书，	研究
712	1929	7	p.174	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	但是住在都市里的小资产阶级，实行是极难的，先要“到民间去”，用过一番苦功。	用
713	1929	7	p.177	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	M.Bienstock曾译过他的全集，可惜没有完。	译

167

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

714	1929	7	p.178	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	大约是四五年前罢，伊发尔先生向我说过，	说
715	1929	7	p.179	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	这回译载了他的一篇短篇——也许先前有人译过的——并非说这是他的代表作，不过借此作一点纪念。	译
716	1929	7	p.179	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	免得读者再去买一本一部份曾经看过的书籍。	看
717	1929	7	p.180	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	《文艺政策》原译本是这样完结了，但又见过另外几篇关于文艺政策的文章，倘再译了出来，一切大约就可以知道得更清楚。	见
718	1929	7	p.185	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	我曾在《摩罗诗力说》里，讲过他的生涯和著作，后来收在论文集《坟》中；	讲
719	1929	7	p.185	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	最近，则在《奔流》小卷第一本上，登过他的两篇诗。	登
720	1929	7	p.186	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	Lunacharski谈过，文艺上的各种古怪主义，是发生于楼顶房上的艺术家，而旺盛于贩卖商人和好奇的富翁的。	说
721	1929	7	p.186	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	所以欧洲的文艺史潮，在中国毫无开演，而又像已经一一演过了。	演
722	1929	7	p.187	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	《美育》第三期我只在日报上见过目录，不记得有这一项。	见
723	1929	7	p.189	集外集	《奔流》编校后记(一—十二)	日本曾为他开过创作五十年纪念会，俄国也出了一本小册子，为他死后二十五年纪念，这里的插画，便是其中的一张。	开

168

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

724	1929	7	p.190	集外集	《奔流》编校后记（八—十二）	《域外小说集》中曾介绍过一篇他的小说《先驱者》，	介绍
725	1929	7	p.192	集外集	《奔流》编校后记（八—十二）	别的作品，我曾译过一篇《竖琴》，载在去年一月的《小说月报》上。	译
726	1929	7	p.192	集外集	《奔流》编校后记（八—十二）	跋佐夫在《小说月报》上，还是由今年不准提起姓名的茅盾先生所编辑的时候，已经介绍过；	介绍
727	1929	7	p.319	集外集拾遗	《近代木刻选集》（1）小引	十五世纪初德国已有木版的圣母像，原画尚存比利时的勃吕舍勒博物馆中，但至今还未发见过更早的印本。	发见
728	1929	7	p.328	集外集拾遗	哈漠生的几句话	《朝花》六期上登过一篇短篇的福感作家哈漠生，	登
729	1929	7	p.328	集外集拾遗	哈漠生的几句话	他的许多作品，除上述两种和《在童话国里》——我国的游记——之外，我都没有读过。	读
730	1929	7	p.330	集外集拾遗	哈漠生的几句话	也许因为这一点，所以他倒是左翼底翼，并不全在他曾经做过各种的苦工。	做
731	1929	7	p.330	集外集拾遗	哈漠生的几句话	但我回忆越看过的短篇小说来，却并没有看哈漠生作品那样的深的感印。	看
732	1929	7	p.330	集外集拾遗	哈漠生的几句话	在中国人约并没有什么译本，只记得有一篇名叫《父亲》的，至少翻过了五回。	翻
733	1929	7	p.332	集外集拾遗	《近代木刻选集》（2）小引	凡那些，就是先回说过的“木口雕刻”。	说
734	1929	7	p.336	集外集拾遗	《近代木刻选集》（2）附记	永濑义郎，曾在日本东京美术学院学过雕塑，后来颇尽力于版画，著《给学版画的人》一卷。	学
735	1929	7	p.340	集外集拾遗	《比亚兹莱画选》小引	但他的装饰画，却未给确实地介绍过。	介绍
736	1929	8	p.271	集外集补编	致《近代美术史谱论》的读者诸君	从前创造社所区分的“创作是处女，翻译是媒婆”之说，我是见过的，但意见不能相同，	见

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

737	1929	8	p.272	集外集补编	致《近代美术史谱论》的读者诸君	但倘将同一的图画看过几十张，便可以发见同一的色彩，浓淡却每张有些不同。	看
738	1929	8	p.289	集外集补编	关于《子见南子》	至圣孔子是我们中国思想界的权威，支配了数千年来的人心，并且从柔说失势过。	失势
739	1929	8	p.291	集外集补编	关于《子见南子》	本年七月二十三日的《大公报》社评，有《近日曲阜之孔子问题》一文，昨天才有朋友找来看，看过之后，非常高兴。	看
740	1929	8	p.292	集外集补编	关于《子见南子》	上文说过：艺术是人生的表现，作者在表演人生，观者看了之后，各随其能感的程度，而有所见于人生，又有人专门跑到剧场中去看人类。	说
741	1929	8	p.293	集外集补编	关于《子见南子》	孟子说过：“民为贵，社稷次之，君为轻”，几乎被朱元璋歪曲出去。	说
742	1929	8	p.294	集外集补编	关于《子见南子》	单为要演戏，还详细地讨论过“温良恭俭让”五个字的意味。我们研究的固然不算怎样彻底，但已尽其最善之努力了。	讨论
743	1930	4	p.195	二心集	“硬译”与“文学的阶级性”	这大概是真的，以我似的交际极少的人，也在两个年青朋友的手里见过第：卷第六七号的台本。	见
744	1930	4	p.198	二心集	“硬译”与“文学的阶级性”	“我没看见过小鸡长耳朵的。”	看见
745	1930	4	p.205	二心集	“硬译”与“文学的阶级性”	但在我们所见的无产阶级文学理论中，也并未见过有谁说过一阶级的文学家，不该受皇室贵族的雇用，却该受无产阶级的威胁，去做讴歌颂德的文章，	见
746	1930	4	p.206	二心集	“硬译”与“文学的阶级性”	据我所看过的那些理论，都只不过说凡文艺必有所宣传，并没有谁主张只要宣传式的文字便是文学。	看
747	1930	4	p.207	二心集	“硬译”与“文学的阶级性”	但中国的作者，现在却实在并无刚刚放下锄头养料子的人，大多数都是进过学校的知识分子，	进

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

748	1930	4	p.211	二心集	“硬译”与“文学的阶级性”	臧原准人是从俄文直接译过许多文艺理论和小说的，于我个人就极有裨益。	译
749	1930	4	p.211	二心集	“硬译”与“文学的阶级性”	然而现在呢，这些东西，梁实秋先生是不译的，称人为“阿狗阿猫”的伟人也不译，学过俄文的蒋先生原是最为适宜的了，	学
750	1930	4	p.215	二心集	“硬译”与“文学的阶级性”	对当时及后来的汉语词汇和语法，都产生过不小的影响。	产生
751	1930	4	p.226	二心集	非革命的急进革命论者	书中的主角，究竟上过前线，当过哨兵（虽然连放枪的方法也未曾被教），比起单是抱膝哀歌，握笔赞叹的文学家们来，实在也切实得远了。	上
752	1930	4	p.227	二心集	非革命的急进革命论者	书中的主角，究竟上过前线，当过哨兵（虽然连放枪的方法也未曾被教），比起单是抱膝哀歌，握笔赞叹的文学家们来，实在也切实得远了。	当
753	1930	4	p.233	二心集	对于左翼作家联盟的意见——三月二日在左翼作家联盟成立大会讲	但墨索里尼并没有写过文艺作品。	写
754	1930	4	p.235	二心集	对于左翼作家联盟的意见——三月二日在左翼作家联盟成立大会讲	在中国也有过许多新的运动了，却每次都是新的敌不过旧的，那原因大抵是在新的一面没有坚实的广大的目的，要求很小，容易满足。	有
755	1930	4	p.236	二心集	对于左翼作家联盟的意见——三月二日在左翼作家联盟成立大会讲	在我倒是一向就注意新的青年战士底养成的，曾经弄过好几个文学团体，不过效果也很小。	弄
756	1930	4	p.237	二心集	对于左翼作家联盟的意见——三月二日在左翼作家联盟成立大会讲	我记得好像曾听到过这样一句话：	听到
757	1930	4	p.243	二心集	“好政府主义”	但在实际上，我却还未曾见过这样的杂感，	见
758	1930	4	p.264	二心集	《艺术论》译本序	最末这一篇，是译自臧原准人所译的《阶级社会的艺术》，曾在《春潮月刊》上登载过的。	登载

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

759	1930	7	p.345	集外集拾遗	《新俄画选》小引	构成派作家更因和产业结合的目的，大行活动，如罗高兼柯和力锡兹基所装饰的现代诗人的诗集，也有典型的艺术底版画之称，但我没有见过一种。	见
760	1930	7	p.351	集外集拾遗	《浮士德与城》后记	他的父亲是一个地主，Lunacharski原本是半贵族的大地主系统，曾经出过很多的智识者。	出
761	1930	7	p.363	集外集拾遗	《梅菲尔德木刻上敏士之图》序言	他最深刻印含有革命底内容的版画的连作，我所见过的有《汉堡》《抚育的门徒》和《你的姊妹》，	见
762	1930	8	p.305	集外集补编	鲁迅自传	我在留学时候，只在杂志上登过几篇不好的文章。	登
763	1931	4	p.293	二心集	上海文艺之一瞥	但他也并不只画流浪的，有一个时期也画过普罗列塔利亚，	画
764	1931	4	p.295	二心集	上海文艺之一瞥	并且因为曾经出援过《新青年》，新仇卖旧仇，所以文学研究会这时就受了三方面的攻击。	声援
765	1931	4	p.295	二心集	上海文艺之一瞥	一方面是留学过美国的绅士派，他们以为文艺是专给老爷太太们看的，	留学
766	1931	4	p.295	二心集	上海文艺之一瞥	要会说Yes, No, 这才是绅士的庄严，那时吴荃先生就曾经发表过文章，说果真不懂为什么有些人竟喜欢描写下流社会。	发表
767	1931	4	p.295	二心集	上海文艺之一瞥	第三方面，则就是以前说过的鸳鸯蝴蝶派，	说
768	1931	4	p.300	二心集	上海文艺之一瞥	日本的厨川白村（H. Kuriyagawa）曾经提出过一个问题，	提出
769	1931	4	p.300	二心集	上海文艺之一瞥	作家之所描写，必得是自己经验过的么？	经验
770	1931	4	p.303	二心集	上海文艺之一瞥	法律我不知道，至于生理学，却学过一点，	学
771	1931	4	p.312	二心集	“民族主义文学”的任务和运动	翻一本他们的刊物来看罢，先前标榜过各种主义的各种人，居然凑合在一起了。	标榜

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

772	1931	4	p.314	二心集	“民族主义文学”的任务和 运命	但作者是聪明的，他听过“友人傅彦长君平时许多谈论……许多地方不可讳地是受了他的熏陶”，并且考据中外史传之后，接着又写了一篇较切“民族主义”这个题目的剧诗，这回不出法兰西人了，是《黄人之血》（《前锋月刊》七号）。	听
773	1931	4	p.319	二心集	“民族主义文学”的任务和 运命	这诗人受过傅彦长先生的熏陶，查过中外的史传，还知道“中世纪的东欧是三种思想的冲突点”，岂就会不知道赵家末叶的中国，是蒙古人的淫掠场？	受
774	1931	4	p.319	二心集	“民族主义文学”的任务和 运命	这诗人受过傅彦长先生的熏陶，查过中外的史传，还知道“中世纪的东欧是三种思想的冲突点”，岂就会不知道赵家末叶的中国，是蒙古人的淫掠场？	查
775	1931	4	p.320	二心集	“民族主义文学”的任务和 运命	那任务是在送死人埋入土中，用热闹来掩过了这“死”，给大家接着就得到“忘却”。	掩
776	1931	4	p.327	二心集	以脚报国	其一，是我们中国人的确有尾巴（即辫发）的，缠过小脚的，讨过姨太太的，显现在也在过。	有
777	1931	4	p.327	二心集	以脚报国	其一，是我们中国人的确有尾巴（即辫发）的，缠过小脚的，讨过姨太太的，显现在也在过。	缠
778	1931	4	p.327	二心集	以脚报国	其一，是我们中国人的确有尾巴（即辫发）的，缠过小脚的，讨过姨太太的，显现在也在过。	讨
779	1931	4	p.332	二心集	《夏娃日记》小引	我们知道，美国出过亚伦·坡（Edgar Allan Poe），出过霍桑（N. Hawthorne），出过惠德曼（W. Whitman），都不是这么表里两样的。	出
780	1931	4	p.332	二心集	《夏娃日记》小引	我们知道，美国出过亚伦·坡（Edgar Allan Poe），出过霍桑（N. Hawthorne），出过惠德曼（W. Whitman），都不是这么表里两样的。	出
781	1931	4	p.332	二心集	《夏娃日记》小引	我们知道，美国出过亚伦·坡（Edgar Allan Poe），出过霍桑（N. Hawthorne），出过惠德曼（W. Whitman），都不是这么表里两样的。	出
782	1931	4	p.336	二心集	新的“女将”	，谁也没有看见过日本的“惩辱中国军”的看护队的照片；	看见

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

783	1931	4	p.337	二心集	宣传与做戏	就是那刚刚说过的日本人，他们做文章谈及中国的国民性的时候，内中往往有一条叫作“善于宣传”。	说
784	1931	4	p.339	二心集	知难行难	当“宣统皇帝”逊位逊到坐得无聊的时候，我们的胡适之博士曾经尽过这样的任务。	尽
785	1931	4	p.339	二心集	知难行难	见过以后，也奇怪，人们不知怎的先问他们怎样的称呼，博士曰：“他叫我先生，我叫他阜上。”	见
786	1931	4	p.350	二心集	再来一条“顺”的翻译	况且只要看过《玉历钞传》，就都知道十殿阎王的某一殿里，有用天刑米样犯人的办法，	看
787	1931	4	p.352	二心集	中华民国的新“堂·吉珂德”们	记得先前的报章上，发表过几个店家的小伙计，看到侠小说入了迷，忽然要到武当山去学道的拳，这倒很和“堂·吉珂德”相像的。	发表
788	1931	4	p.360	二心集	“发邦家论”论	报上不是说过，东北大学逃散，冯庸大学逃散，日本兵看见学生模样的就枪毙吗？	说
789	1931	4		二心集	答北斗杂志社问——创作要怎样才会好？	我虽然做过二十来篇短篇小说，	做
790	1931	4	p.380	二心集	关于翻译的通信（并J.K.来信）	我也是一个偶而译书的人，本来应该说几句话的，然而至今没有开过口。	开//口
791	1931	4	p.380	二心集	关于翻译的通信（并J.K.来信）	曾经查过汉晋六朝翻译佛经的方法，	查
792	1931	4	p.382	二心集	关于翻译的通信（并J.K.来信）	近的例子，就如来信所说，一九二五年曾给群众造出过“罢工”这一个字眼，这字眼虽然未尝有造出	造出
793	1931	4	p.383	二心集	关于翻译的通信（并J.K.来信）	近的例子，就如来信所说，一九二五年曾给群众造出过“罢工”这一个字眼，这字眼虽然未尝有造出，然而大众也都懂得了。	有
794	1931	4	p.384	二心集	关于翻译的通信（并J.K.来信）	为乙类读者译作的方法，我没有细想过，此刻说不出什么来。	细想

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、『鲁迅全集』参照。

795	1931	4	p.384	二心集	关于翻译的通信（并JK.来信）	例如小说中常见的“引闻”“别说”等类罢，假使我没有到过北京，我一定解作“另外捣乱”“另外去到”的意思。	到
796	1931	7	p.374	集外集拾遗	《铁流》编校后记	例如上文刚刚注过的“妖精的成亲”，在那里却译作“妖女的白出”，分明是误解。	注
797	1931	7	p.376	集外集拾遗	好东西歌	和骂声中失土地，和骂声中捐铜钱，失了土地捐过钱，喊声骂声也寂然。	捐
798	1931	8	p.315	集外集补编	《勇敢的约翰》校后记	但这一篇民间故事诗，虽说事迹简朴，却充满着儿童的天真，所以即使你已经做过九十大寿，只要还有些“赤子之心”，也可以高兴的看到卷末。	做
799	1931	8	p.322	集外集补编	介绍德国作家版画展	去年虽然开过一个小小的展览会，而至今并无谈起。	开
800	1931	8	p.443	附录一	鲁迅启事	此外我与现代书局毫无关系，更未曾为之选辑小说，而且也没有有这“许多世界名作”。	看
801	1932	4	p.3	二闲集	序言	有名的作家虽然未必不改换姓名，写过这一类文字，但或者不过图报私怨，再提恐或乱其令名，或者别有深心，揭穿反有妨于战斗，因此就大抵任其消灭了。	写
802	1932	4	p.3	三闲集	序言	我自己确也因此很吃过一点苦，但编集是还愿编集的。	吃
803	1932	4	p.3	三闲集	序言	因此拖延了大半年，终于没有动过手。	动
804	1932	4	p.6	三闲集	序言	我以为无产阶级是不会有这样锻炼周纳法的，他们没有学过“刀笔”。	学
805	1932	4	p.189	二心集	序言	此外还曾经在学校里讲过两三次，那时无人记录，讲了些什么，此刻连自己也记不清楚了。	演讲
806	1932	4	p.190	二心集	序言	大约六七年前，《吾兹》在北京说了几句话涉及陈源教授和别的“正人君子”们的话的时候，上海的《申报》上就发表过“现代评论社主角”唐有壬先生的信札，	发表
807	1932	4	p.190	二心集	序言	向来就用了这类的口实，害过许多人们的。	害

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、『鲁迅全集』参照。

808	1932	4	p.191	二心集	序言	一阶级里，临来也常常会白互互相起来的，就是《诗经》里说的那“兄弟阋于墙”，——但后来却未必“外御其侮”。	说
809	1932	4	p.427	南腔北调	林克多《苏联见闻录》序前发料。	那就是十来年前，说过苏联怎么不行怎么无望的所谓文明国人，去年已在苏联的煤油灯和妻子面前发料。	说
810	1932	4	p.430	南腔北调	我们不再受骗了	欧洲大战时候，飞舞过一回的，	飞舞
811	1932	4	p.436	南腔北调	《竖琴》前记	写过一些歌颂革命的诗。	写
812	1932	4	p.439	南腔北调	论“第三种人”	自从有了左翼论坛以来，理论家曾经犯过错误，	犯
813	1932	4	p.439	南腔北调	论“第三种人”	苏汶先生问过：克服了三年，还没有克服好么？	问
814	1932	4	p.439	南腔北调	论“第三种人”	但是，苏汶先生说过“笑话”：	说
815	1932	4	p.445	南腔北调	“连环图画”辩护	我自己曾经有过这样一个小小的经验。有一次，在一处筵席上，我随便的说：用活动电影来教学生，一定比教员的讲义好，将来恐怕要变成这样的。	有
816	1932	4	p.445	南腔北调	“连环图画”辩护	但在我自己，却的确另外听过采用影片的细菌学讲义，见过全部照相，只有几句说明的植物学书。	听
817	1932	4	p.445	南腔北调	“连环图画”辩护	但在我自己，却的确另外听过采用影片的细菌学讲义，见过全部照相，只有几句说明的植物学书。	见
818	1932	4	p.447	南腔北调	“连环图画”辩护	他曾为德译本斐格纳尔的《猎俄皇记》（Die Jagd nach Zaren von Wera Figner）刻过五幅木板图，又有两种连作——	刻
819	1932	4	p.447	南腔北调	“连环图画”辩护	是欧洲大战时候，像罗曼罗兰一样，因为非战而逃出过外国的。	逃出

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、『鲁迅全集』参照。

820	1932	4	p.447	南腔北调	“连环图画”辩护	我所见过的是这几种——	见
821	1932	4	p.448	南腔北调	“连环图画”辩护	美国作家的作品，我曾见过希该尔木刻的《巴黎公社》	见
822	1932	4	p.451	南腔北调	辱骂和恐吓决不是战斗—— 一致《文学日报》编辑的一封信	最近几年的刊物上，倘不是姓名曾经排印过了的作家，就很有不能登载的趋势，	排印
823	1932	4	p.455	南腔北调	《自选集》白序	然而我那时对于“文学革命”，其实并没有怎样的热情。见过辛亥革命，见过二次革命，见过袁世凯称帝，张勋复辟，看来看去，就觉得怀疑起来，于是失望，颓声得很了。	见
824	1932	4	p.455	南腔北调	《自选集》白序	然而我那时对于“文学革命”，其实并没有怎样的热情。见过辛亥革命，见过二次革命，见过袁世凯称帝，张勋复辟，看来看去，就觉得怀疑起来，于是失望，颓声得很了。	见
825	1932	4	p.455	南腔北调	《自选集》白序	然而我那时对于“文学革命”，其实并没有怎样的热情。见过辛亥革命，见过二次革命，见过袁世凯称帝，张勋复辟，看来看去，就觉得怀疑起来，于是失望，颓声得很了。	见
826	1932	4	p.455	南腔北调	《自选集》白序	因为我所见过的人们，事件，是有限得很的，这想头，就给了我提笔的力量。	见
827	1932	7	p.388	集外集拾遗	今春的两种感想	螃蟹有人吃，蜘蛛一定也有人吃过，不过不好吃，所以后人不吃了。	吃
828	1933	4	p.417	南腔北调	题记	我在私塾早读书时，对过对，这积习至今没有洗干净，题目上有时就玩些什么《偶成》，《漫与》，《作文秘诀》，《捣鬼心传》，这回却闹到书名上来了。	对
829	1933	4	p.418	南腔北调	题记	今年印过一本《伪自由书》，如果这也付印，那明年就又有了一本了。	印

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、『鲁迅全集』参照。

830	1933	4	p.418	南腔北调	题记	怪事随时袭来，我们也随时忘却，倘不重温这些杂感，连我自己做过短评的人，也毫不记得了。	做
831	1933	4	p.418	南腔北调	题记	当时是大抵用了别的笔名投稿的；但有一篇没有发表过。	发表
832	1933	4	p.467	南腔北调	听说梦	当我还未得到这本特号之前，就遇到过一位投稿者，	遇到
833	1933	4	p.469	南腔北调	听说梦	诚然，他也告诉过我们，女儿多爱父亲，儿子多爱母亲，即因为异性的缘故。	告诉
834	1933	4	p.470	南腔北调	听说梦	从朝廷而至园林，由洋场及于山泽，比上面说过的那些志向要人得远，	说
835	1933	4	p.472	南腔北调	论“避难”和“逃难”——寄《涛声》编辑的一封信	他虽然是武人，却还没有看过《莫索理尼传》。	看
836	1933	4	p.473	南腔北调	论“避难”和“逃难”——寄《涛声》编辑的一封信	大学生们曾经和中国的兵警打过架，但是“自行失足落水”了，	打//架
837	1933	4	p.473	南腔北调	论“避难”和“逃难”——寄《涛声》编辑的一封信	我们虽然也看见过许多慷慨激昂的诗，什么用死尸堵住敌人的炮口呀，用热血咬住倭奴的刀枪呀，	看见
838	1933	4	p.479	南腔北调	为了忘却的纪念	白莽并没有这么高慢，他曾经到过我的寓所来，但也不是因为我要求和他会面；	到
839	1933	4	p.482	南腔北调	为了忘却的纪念	他仿佛说过，曾在北京听过我的讲义，那么，当在八九年之前了。	说
840	1933	4	p.482	南腔北调	为了忘却的纪念	他仿佛说过，曾在北京听过我的讲义，那么，当在八九年之前了。	听
841	1933	4	p.485	南腔北调	为了忘却的纪念	记得《说岳全传》里讲过一个高僧，	讲
842	1933	4	p.485	南腔北调	为了忘却的纪念	他在囚系中，我见过两次他写给同乡的信，	见
843	1933	4	p.487	南腔北调	为了忘却的纪念	李伟森我没有会见过，胡也频在上海也只见过一次面，谈了几句天。	见

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

844	1933	4	p.487	南腔北调	为了忘却的纪念	李伟森我没有会见过，明也频在上海也只见过一次面，谈了几句天。	见
845	1933	4	p.487	南腔北调	为了忘却的纪念	他曾经和我通过信，投过稿，但现在寻起来，一无所得，	通//信
846	1933	4	p.487	南腔北调	为了忘却的纪念	他曾经和我通过信，投过稿，但现在寻起来，一无所得，	投//稿
847	1933	4	p.494	南腔北调	看萧和“看萧的人们”记	这并不是因为看了他的作品或传记，佩服得喜欢起来，仅仅是在什么地方见过一点警句，	见
848	1933	4	p.494	南腔北调	看萧和“看萧的人们”记	因为早就在什么地方见过照相，听说是世界的名人的，	见
849	1933	4	p.497	南腔北调	看萧和“看萧的人们”记	至于自己，却连相书也没有翻阅过，	翻阅
850	1933	4	p.511	南腔北调	我怎么做起小说来	——这来由，已经在《呐喊》的序文上，约略说过了。	说
851	1933	4	p.511	南腔北调	我怎么做起小说来	所以“小说作法”之类，我一部都没有看过，	看
852	1933	4	p.512	南腔北调	我怎么做起小说来	大约所仰仗的全在先前看过的百来篇外国作品和一点医学上的知识，此外别的准备，一点也没有。	看
853	1933	4	p.513	南腔北调	我怎么做起小说来	所写的事迹，大抵有一点见过或听到过的缘由，	见
854	1933	4	p.513	南腔北调	我怎么做起小说来	所写的事迹，大抵有一点见过或听到过的缘由，	听到
855	1933	4	p.513	南腔北调	我怎么做起小说来	人物的模特儿也一样，没有专用过一个人，往往嘴在浙江，脸在北京，衣服在山西，是一个拼凑起来的脚色。	专用

## 179

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

856	1933	4	p.513	南腔北调	我怎么做起小说来	我想，如果专用一个人做骨干，就可以没有这弊病的，但自己没有试验过。	试验
857	1933	4	p.523	南腔北调	《守常全集》题记	这样的商人，我在南边没有看见过，北京却有的，	看见
858	1933	4	p.524	南腔北调	《守常全集》题记	单就我自己说罢，七年前为了几个人，就发过不少激昂的言论，	发
859	1933	4	p.531	南腔北调	又论“第三种人”	中国的禁书报，封闭书店，囚杀作者，实在还远在德国的白色恐怖以前，而且也得到过世界的革命的文艺家的抗议了。	得到
860	1933	4	p.531	南腔北调	又论“第三种人”	那通信叙述过绍德的加入反抗运动之后，说道——	叙述
861	1933	4	p.532	南腔北调	又论“第三种人”	我没有读过纪德的书，对于作品，没有加以批评的资格。	读
862	1933	4	p.539	南腔北调	经验	他曾经一天遇到过七十二毒，	遇到
863	1933	4	p.540	南腔北调	经验	但囚豺狼当道，事实上因此出过许多牺牲，	出
864	1933	4	p.543	南腔北调	谚语	我记得曾有许多人絮絮叨叨，主张禁止过，后来也确实有明文禁止了。	主张禁止
865	1933	4	p.554	南腔北调	关于翻译	关于前者，德国的尉特甫格（Karl Witvogel）在《萧伯纳是丑角》里说过——	说
866	1933	4	p.559	南腔北调	《一个人的受难》序	耶稣说过，富翁想进天国，比骆驼走过针孔还要难。	说
867	1933	4	p.559	南腔北调	《一个人的受难》序	一九三三年九月，上海良友图书印刷公司还出版过他的连环画《光明的追求》、《我的忏悔》和《没有字的故事》。	出版
868	1933	4	p.560	南腔北调	祝《涛声》	则古文明国中的文艺家，当然只好卖血，尼采说过：“我爱血写的书”呀。	说

## 180

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

869	1933	4	p.560	南腔北调	祝《涛声》	有人批评过我，说，只要鲁迅至今还活着，就足见不是一个什么好人。	批评
870	1933	4	p.564	南腔北调	上海的少女	俄国的作家梭罗古勃曾经写过这一种类型的少女，	写
871	1933	4	p.584	南腔北调	偶成	他却诧异道，哭什么呢，我们死掉多少小孩子了，一点也没哭过。	哭
872	1933	4	p.597	南腔北调	关于妇女解放	辛亥革命后，为了参政权，有名的沈佩贞女士曾经一脚踢倒过议院门口的守卫。	踢倒
873	1933	4	p.598	南腔北调	关于妇女解放	我没有研究过妇女问题，倘使必须我说几句，就只有这一点空话。	研究
874	1933	4	p.600	南腔北调	火	从古至今，没有听到过点灯出名的名人，	听到
875	1933	4	p.603	南腔北调	论翻印木刻	同是中国人，倘使曾见过飞机救国或“下蛋”，则在图上看见这东西，即刻就懂，	见
876	1933	4	p.604	南腔北调	论翻印木刻	但这是人物，这是屋宇，这是树木，却能够懂得，到过上海的，也就懂得画里的电灯，电车，工厂。	到
877	1933	4	p.605	南腔北调	论翻印木刻	我还亲自听到过一位青年在这“写见书”边说，写着只印二百五十部，是骗人的，一定印的很多，印多报少，不过想抬高那书价。	听到
878	1933	4	p.605	南腔北调	论翻印木刻	他们自己没有做过“私人精印木”的可笑事，这些笑骂是都无足怪的。	做
879	1933	4	p.606	南腔北调	论翻印木刻	但仅印十来幅图，认真地想过几回的人却也有有的，不过自己不多说。	想
880	1933	4	p.612	南腔北调	作文秘诀	我曾经讲过几句做古文的秘诀，是要通篇都有来历，而非古人的成文；	讲

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

881	1933	4	p.616	南腔北调	捣鬼心传	其实大麦开花他向来也没有看见过。	看见
882	1933	5	p.3	伪自由书	前记	我到上海以后，日报是看的，却从来没有投过稿，也没有想到过，并且也没有注意过日报的文艺栏，	投//稿
883	1933	5	p.3	伪自由书	前记	我到上海以后，日报是看的，却从来没有投过稿，也没有想到过，并且也没有注意过日报的文艺栏，	想到
884	1933	5	p.3	伪自由书	前记	我到上海以后，日报是看的，却从来没有投过稿，也没有想到过，并且也没有注意过日报的文艺栏，	注意
885	1933	5	p.16	伪自由书	航空救国三愿	看过去年此时的上海报的人们恐怕还记得，苏州不是有一队飞机来打仗的么？	看
886	1933	5	p.23	伪自由书	不通两种【通论的拆通】：官话而已	也曾经有人做过《孙中山与列宁》，说他们俩式好像没有什么两样；	做
887	1933	5	p.27	伪自由书	战略关系	血的确流过不少，正在流的更不少，将要流的还不知道有多少多少。	流
888	1933	5	p.27	伪自由书	战略关系	那时候，大概为着战略关系也曾经过血；	见
889	1933	5	p.27	伪自由书	战略关系	这是军机大事，小民不得而知，——至于亲自流过血的虽然知道，他们又已经没有了舌头。	流
890	1933	5	p.42	伪自由书	从讽刺到幽默	即使捧出了做过和尚的洋人或专办了小报来打击，也还是没有效，	做
891	1933	5	p.53	伪自由书	曲的解放	“词的解放”已经有过专号，词里可以骂娘，还可以“打打麻将”。	有



## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

892	1933	5	p.56	伪自由书	文学上的折扣	倘是我们中国人，则只要看过几百篇文章，见过十来个所谓“文学家”的行径，又不是刚刚“从民间来”的老实青年，就决不会上当。	看
893	1933	5	p.56	伪自由书	文学上的折扣	倘是我们中国人，则只要看过几百篇文章，见过十来个所谓“文学家”的行径，又不是刚刚“从民间来”的老实青年，就决不会上当。	见
894	1933	5	p.59	伪自由书	迎头经	日军一到，迎头而“赶”；日军到沈阳，迎头赶上北平；日军到华北，迎头赶上真茹；日军到山海关，迎头赶上塘沽；日军到承德，迎头赶上古北口……以前有过行都洛阳，现在有了陪都西安，将来还有“汉族发源地”昆仑山——四方极乐世界。	有
895	1933	5	p.63	伪自由书	“光明所到……”	详述胡适博上曾经亲自看过几个监狱，	看
896	1933	5	p.63	伪自由书	“光明所到……”	但在十年以前，是参观过北京的模范监狱的。	参观
897	1933	5	p.76	伪自由书	出卖灵魂的秘诀	几年前，胡适博上曾经玩过一套“五鬼闹中华”的把戏，	玩
898	1933	5	p.85	伪自由书	最艺术的国家	因此，更不能不重新扮过一次，草案如下：	扮
899	1933	5	p.89	伪自由书	现代史	从我有记忆的时候起，直到现在，从我所曾经到过的地方，在空地上，常常看见有“变把戏”的，也叫作“变戏法”的。	到
900	1933	5	p.91	伪自由书	推背图	因为得到这一个结论的时候，先前一定经过许多苦楚的经验，见过许多可怜牺牲的。	见
901	1933	5	p.91	伪自由书	推背图	字不过四个，但他却确切知道了这东西曾经毒死过若干性命了。	毒死

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

902	1933	5	p.95	伪自由书	《杀错了人》异议	然而对于革命者呢，即使没有打过仗，也决不肯放过一个。	打//仗
903	1933	5	p.105	伪自由书	透底【回信】	八股无论新旧，都在扫荡之列，我是已经说过了；	说
904	1933	5	p.116	伪自由书	言论自由的界限	这我是亲眼见过好几回的，	见
905	1933	5	p.121	伪自由书	文章与题目	至于第二种，我没有看过《清史》，不得而知，	看
906	1933	5	p.124	伪自由书	新药	想起来就记得，吴稚老的笔和舌，是尽过很大的任务的，清末的时候，五四的时候，北伐的时候，清党的时候，清党以后的还是闹不清白的时候。	尽
907	1933	5	p.124	伪自由书	新药	旧书里有过这么一个寓言，某朝某帝的时候，宫女们多敬生了病，总是医不好。最后来了一个名医，开出神方道：让汉若干名。	有
908	1933	5	p.127	伪自由书	“多难之月”	这名目，以前是没有见过的。	见
909	1933	5	p.128	伪自由书	“多难之月”	向来匡亚罗“华洋两方当局，先事严防”，没有闹过什么大乱了，	闹
910	1933	5	p.130	伪自由书	不负责任的坦克车	我倒记起了另外一件事：有一个自称姓“张”的说过，	说
911	1933	5	p.132	伪自由书	从盛宣怀说到有力的压迫	袁世凯签订过：十一条，卖国是有真凭实据的。	签订
912	1933	5	p.144	伪自由书	再谈保留	因为讲过刘庆生的罪名，就想到开口和动笔，在现在的中国，实在也很难的，要稳当，还是不响的好。	讲

913	1933	5	p.152	伪自由书	后记	我向《自由谈》投稿的由来，《前记》里已经说过了。	说
914	1933	5	p.162	伪自由书	后记	听说青岛也是好地方，但这是梁实秋教授传道的圣境，我连遥望一下的眼福也没有过。	有
915	1933	5	p.165	伪自由书	后记	还有，是《白山谈》上曾经攻击过曹今可的“解放词”，	攻击
916	1933	5	p.165	伪自由书	后记	那时我想，关氏曾今可，我虽然没有写过专文，但在《曲的解放》（本书第十五篇）里确曾涉及，也许可以称为“侮辱”罢；	写
917	1933	5	p.165	伪自由书	后记	胡怀琛虽然和我不相干，《白山谈》上是嘲笑过他的“墨翟为印度人说”的。	嘲笑
918	1933	5	p.168	伪自由书	后记	内山还和我们谈了好些，“航空救国”等问题都谈到，也有些是已由何家干先年抄去在《自由谈》发表过的。	发表
919	1933	5	p.176	伪自由书	后记	这便曾经排过，又被谁抽掉了的证据，	排
920	1933	5	p.181	伪自由书	后记	事情是早已过去，恐怕有四五年了，当蒋光慈先生组织太阳社，和创造社联盟，幸蒙“小将”来围剿我的时候，他曾经做过一篇文章，其中有几句，	做
921	1933	5	p.195	准风月谈	推	两三月前，报上好像登过一条新闻，	登
922	1933	5	p.199	准风月谈	偶成	乡民的本领并不亚于人文豪，曾给他编过一支歌；	编
923	1933	5	p.202	准风月谈	谈蝙蝠	还有，是中国人本来愿意自己能飞的，也设想过的东西都能飞。	设想

924	1933	5	p.202	准风月谈	谈蝙蝠	他的寓言里，说过鸟兽各开大会，蝙蝠到兽类中去，	说
925	1933	5	p.209	准风月谈	“吃白相反”	事情闹得大一点，则离开本埠，避过了风头再出现。	避
926	1933	5	p.213	准风月谈	华德焚书异同论	不错，秦始皇烧过书，烧书是为了统一思想。	烧
927	1933	5	p.216	准风月谈	我谈“明民”	我生于绍兴，堕民是幼小时候所常见的人，也从父亲的口头，听到过同样的他们所以成为堕民的原因。	听到
928	1933	5	p.217	准风月谈	我谈“明民”	而且有更多的稿赏，就可见是曾经解放过的了。	解放
929	1933	5	p.230	准风月谈	“推”的余谈	看过了《第三种人的“推”》，使我有感：的确，现在“推”的工作已经加紧，范围也扩大了。	看
930	1933	5	p.232	准风月谈	查旧账	古人是怕查这种旧账的，蜀的书记穷困时，做过一篇慷慨激昂，文字较为通俗的《秦妇吟》，	做
931	1933	5	p.235	准风月谈	晨流漫记	儿时见过一本书，叫作《无双谱》，	见
932	1933	5	p.239	准风月谈	中国的奇想	这方法和炼金术一同流行过，古代书里还剩下各种的书名。	流行
933	1933	5	p.242	准风月谈	豪语的折扣	旧小说家也早已看穿了这局面，他写暗娟和别人相争，照例攻击过别人的偷汉之后，就白序道：	攻击
934	1933	5	p.245	准风月谈	踢	两月以前，曾经说过“推”，这回却又来了“踢”。	说
935	1933	5	p.248	准风月谈	“中国文坛的悲观”	即使其中偶然有曾经弄过笔墨的人，然而这时却正是露出原形，	弄
936	1933	5	p.254	准风月谈	“借油”	他就默然认罪，决不说没有收过钱，将罪案推到客人身上去。	收

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

937	1933	5	p.255	淮风月谈	我们怎样教育儿童的？	但听说，唐未宋初用过《太公家数》，久已失传，后来才从敦煌石室中发现，而在汉朝，是读《急就篇》之类的。	用
938	1933	5	p.259	淮风月谈	为翻译辩护	中国大嚷过托尔斯泰，屠格纳夫，后来又大嚷过辛克莱，但他们的选票却一落也没有。	大嚷
939	1933	5	p.261	淮风月谈	爬和撞	从前梁实秋教授曾经说过：	说
940	1933	5	p.264	淮风月谈	各种捐班	李青孙做过一部《金石学录》，是专载研究金石的人们，	做
941	1933	5	p.266	淮风月谈	四库全书珍本	但是，也可见印了“钦定”过的“珍本”，在国外，生意总可以比“善本”好一些。	“钦定”
942	1933	5	p.273	淮风月谈	帮闲法发隐	当没有这样的事件时，那就七日报，十日一谈，收罗废料，装进读者的脑子里去，看过一年半载，就满脑都是某阔人如何摸样，某明星如何打唾的典故。	看
943	1933	5	p.274	淮风月谈	尊龙术拾遗	章克标先生做过一部《文坛尊龙术》，	做
944	1933	5	p.274	淮风月谈	尊龙术拾遗	因为是预约的，而自己总是悠悠忽忽，竟失去了拜谒的幸运，只在《论语》上见过广告，解题和后记。	见
945	1933	5	p.283	淮风月谈	男人的进化	最初原是马马虎虎的，可是因为“知有母不知有父”的缘故，娘儿们曾经“统治”过一个时期，“统治”	“统治”
946	1933	5	p.286	淮风月谈	同意和解释	这也显然不能求白人的同意的，正和屠杀犹太人的白人并未征求过犹太人的同意一样。	征求
947	1933	5	p.290	淮风月谈	文床秋梦	但谁曾见过过文坛的襟情，会和这类的“文官”们有丝毫关系的呢。	见
948	1933	5	p.296	淮风月谈	关于翻译（上）	在事实上，我曾经见过苏联的Academia新译新印的阿利伯的《一千一夜》，意大利的《十日谈》，还有西班牙的《吉珂德先生》，英国的《鲁滨孙漂流记》；	见
949	1933	5	p.296	淮风月谈	关于翻译（上）	在报章上，则记载过在为托尔斯泰印选集，为歌德编全集——更完全的全集。	记载

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

950	1933	5	p.299	淮风月谈	关于翻译（下）	前者我没有看过，说不出另外可有什么可取的地方，但后者却曾经翻过一遍，	看
951	1933	5	p.299	淮风月谈	关于翻译（下）	前者我没有看过，说不出另外可有什么可取的地方，但后者却曾经翻过一遍，	翻
952	1933	5	p.301	淮风月谈	新秋杂识（三）	我就从来没有见过秋花为了我在悲哀，忽然变了颜色；	见
953	1933	5	p.301	淮风月谈	新秋杂识（三）	科学学习的很浅，只读过一本生物学教科书，	读
954	1933	5	p.304	淮风月谈	礼	但这事真也闹得太荒唐，太长了，就很容易千篇一律，这一回可用，下一回也可用，去年用过了，明年也许还可可用，只要没有新事情。	用
955	1933	5	p.307	淮风月谈	打听印象	萧伯纳周游过中国，上海的记者群集访问，又打听印象。	周游
956	1933	5	p.314	淮风月谈	喝茶	喝过茶，望着秋天，我于是想，不识好茶，没有秋思，倒也罢了。	喝
957	1933	5	p.315	淮风月谈	禁用和白造	而且据我的经验，墨汁也并非非可以常用的东西，写过几千字，毛笔便被用得不能施展。	写
958	1933	5	p.317	淮风月谈	看变戏法	这熊的来源，中国没有人捉到过。	捉到
959	1933	5	p.318	淮风月谈	看变戏法	他自然也曾训练过，这苦痛是装出来的，	训练
960	1933	5	p.324	淮风月谈	重三感口	有些新青年，境遇和“老新党”相反，八股虽是丝毫没有染过的，出身又是学校，也并非回国的专家，	染
961	1933	5	p.328	淮风月谈	“感旧”以后（上）	倘使专对个人而发的话，照现在的摩登文例，应该调查了对手的籍贯，出身，相貌，甚至至于他家乡有什么山产，他老子开过什么铺子，影射他几句才算合式。	开
962	1933	5	p.328	淮风月谈	“感旧”以后（上）	现在施先生自说了劝过青年去读《庄子》与《文选》，	劝

963	1933	5	p.329	准风月谈	“感旧”以后（上）	施先生说我用瓶和酒来比“文学修养”是不对的，但我并未这么比方过，	比方
964	1933	5	p.339	准风月谈	冲	田单曾经用过火牛，现在代以汽车，也确是二十世纪。	用
965	1933	5	p.345	准风月谈	外国也有	只有外国人谈我们不问公益，只知自利，爱金钱，却还是没法释解。民国以来，有过许多总统和阁臣了，下野之后，都是面团团的，或赋诗，或看戏，或念佛，吃着不尽，真也好像给批评者以证据。	有
966	1933	5	p.359	准风月谈	答“兼示”	施先生又举鲁迅的话，说他曾经说过：	说
967	1933	5	p.359	准风月谈	答“兼示”	可见是承认了要能作文，该多看中国书；二，“……我以为倘要弄日的呢，倒不如姑且靠着张之洞的《书目答问》去摸门径去。”就知道没有反对青年读古书过。	反对青年读古书
968	1933	5	p.359	准风月谈	答“兼示”	我们试想一想，假如真有这样的一个青年后学，秦命惟谨，下过一番苦功之后，用了《庄子》的文体，《文选》的词汇，来与发挥《论语》《孟子》和《颜氏家训》的道德的文章，	下
969	1933	5	p.367	准风月谈	反当	不经过牢狱的那只知知道牢狱的真相。	讲
970	1933	5	p.367	准风月谈	反当	读过《文选》而说它无用，不如不读《文选》而说它有用的可听。	读
971	1933	5	p.367	准风月谈	反当	反“反《文选》”的诸君子，自然多是读过的了，但未读的也有，	读
972	1933	5	p.368	准风月谈	反当	他要保护水缸的“小宝宝”，可是没有见过“浴盆的水”。	见
973	1933	5	p.375	准风月谈	古书中寻话字汇	这一定是曾经在别的书上看见过，	看见
974	1933	5	p.380	准风月谈	青年与老子	先前有人提倡过“虚君共和”，现在又何妨有“没亲孝了”？	提倡
975	1933	7	p.135	集外集	选木	孔子究竟翻过《诗》没有，我不能确说，	删

976	1933	7	p.135	集外集	选本	但若它小“风”后“雅”而大“颂”，排得这么整齐，恐怕至少总也费过乐师的手脚，是中国现存的最古的诗选。山	费
977	1933	7	p.136	集外集	选本	只在情人写照的时候，在纸上改作斜领方巾，或草鞋竹笠，聊过“世说”式臆罢了。	聊
978	1933	7	p.397	集外集拾遗	《解放了的堂·吉珂德》后记	他惩罚了毒打徒弟的师傅，自以为立过“功绩”，扬长而去了，但他一走，徒弟却更加吃苦，便是一个好例。	立
979	1933	7	p.401	集外集拾遗	《解放了的堂·吉珂德》后记	但是，十二年前，作者却早借莫尔却的嘴给过解释了。	给
980	1933	8	p.340	集外集补编	通信（复魏猛克）	我和青年们合作过许多回，虽然都没有好结果，但事实上却曾参加过。	合作
981	1933	8	p.340	集外集补编	通信（复魏猛克）	我和青年们合作过许多回，虽然都没有好结果，但事实上却曾参加过。	参加
982	1933	8	p.340	集外集补编	通信（复魏猛克）	若在美术的刊物上，我没有投过文章，只是有时迫于朋友的希望，也曾写过几篇小序之类，无知妄作，现在想起来还很不舒服。	投
983	1933	8	p.340	集外集补编	通信（复魏猛克）	若在美术的刊物上，我没有投过文章，只是有时迫于朋友的希望，也曾写过几篇小序之类，无知妄作，现在想起来还很不舒服。	写
984	1933	8	p.345	集外集补编	我的种痘	最初的时候，当然，华人是相不相信的，很费过一番宣传解释的气力。	费
985	1933	8	p.347	集外集补编	我的种痘	但仿佛曾经玩过，不觉得奇罕了。	玩
986	1933	8	p.348	集外集补编	我的种痘	现在的办法，譬如半岁或一岁种过痘，要稳当，是四五岁时就必须再种一次的。	种
987	1933	8	p.348	集外集补编	我的种痘	都已二十岁左右了，问起来，既未出过天花，也没有种过牛痘的多得很。	出
988	1933	8	p.348	集外集补编	我的种痘	都已二十岁左右了，问起来，既未出过天花，也没有种过牛痘的多得很。	种

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

989	1933	8	p.351	集外集补编	我的种痘	我幸而居然经历过了，我从这经历，知道了种痘的普及，似乎比十九世纪有些进步，然而方花筒的做法，却分明的大大的退步了。	经历
990	1933	8	p.354	集外集补编	辩“文人无行”	倘使他做过编辑，则一受别人指摘，他就会说这指摘者先前曾来投稿，不给登载，现在在报私仇；	做
991	1933	8	p.357	集外集补编	娘儿们也不行	其实，孟夫子说过的：“养牛者不足以当大事，唯送死可以当大事”。	说
992	1934	2	p.455	故事新编	非攻	城墙也很破山，但有几处添了新石头；护城沟边看见烂泥堆，像是有人淘掘过，但只见有几个闲人坐在沟沿上似乎钓鱼。	淘掘
993	1934	2	p.457	故事新编	非攻	“他可是很忙。刚刚试验过送驾；现在恐怕在西关外看地势，所以遇不着先生。	试验
994	1934	2	p.460	故事新编	非攻	“这可不成，”公输般长长的说。“我已经对王说过了。”	说
995	1934	2	p.460	故事新编	非攻	墨子穿着太短的衣服，高脚鹭鸶似的，跟公输般走到便殿里，向楚平行过礼，从从容容的开口道；	行//礼
996	1934	2	p.463	故事新编	非攻	公输般喝过几杯酒，更加高兴了起来。	喝
997	1934	5	p.189	准风月谈	前记	占话里也有过：柳下惠看见糖水，说“可以养老”，盖蹈见了，却道可以粘门门。	有
998	1934	5	p.382	准风月谈	后记	记得《伪自由书》出版的时候，《社会新闻》曾经有过一篇批评，说我的所以印行那一本书的本意，完全是为了一条尾巴——《后记》。	有
999	1934	5	p.390	准风月谈	后记	我不曾到其中去反省过，	反省
1000	1934	5	p.391	准风月谈	后记	现在就引一个也曾任《“滑稽”例解》中提到，	提

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、《鲁迅全集》参照。

1001	1934	5	p.392	准风月谈	后记	其时《十日谈》也大显手段，连漫画家都出了马，为了一幅陈静生先生的《鲁迅俞之笛》，还在《涛声》上和曹聚仁先生惹起过一点辩论的小风波。	惹起
1002	1934	5	p.399	准风月谈	后记	捣毁电影公司，是一面撒些宣言的，有几种报上登过全文；	登
1003	1934	5	p.403	准风月谈	后记	可是我看见过欧战时候他骂皇帝的信，	看见
1004	1934	5	p.409	准风月谈	后记	最后是《大美晚报》，出台的又是曾经有过文字上的交涉的王平陵先生——	有
1005	1934	5	p.410	准风月谈	后记	耶稣不说过“你们反省着”吗？	说
1006	1934	5	p.428	花边文学	批评家的批评家	但是，我们曾经在文艺批评史上见过没有一定圈子的批评家吗？	见
1007	1934	5	p.443	花边文学	古人并不纯厚	达赖嘛总该比平常人心好，虽然“不幸短命死矣”，但广州开的曹英会，却明明收集过一大批寿翁寿娘，活了一百零六岁的老太太还能穿针，有照片为证。	收集
1008	1934	5	p.460	花边文学	清明时节	大约并非原没有贵重的殉葬品，乃是早经有人掘过，拿走了，什么时候呢，无从知道。	掘
1009	1934	5	p.470	花边文学	读几本书	邓当世读死书会变成书呆子，甚至丁成为书厨，早有人反对过了，时光不絶的进行，反读书的思潮也愈加彻底，于是有人来反对读任何一本书。	反对
1010	1934	5	p.475	花边文学	一思而行	当时上海时代图书公司出版过林语堂校阅的《袁中郎全集》，上海南强书局出版过《袁中郎尺牍全稿》。	出版
1011	1934	5	p.475	花边文学	一思而行	当时上海时代图书公司出版过林语堂校阅的《袁中郎全集》，上海南强书局出版过《袁中郎尺牍全稿》。	出版
1012	1934	5	p.476	花边文学	推己及人	我也是个想做作家的人，而且觉得自己也是个作家，但还没有获得扶骂的资格，因为我未曾写过创作。	写
1013	1934	5	p.479	花边文学	偶感	五四时代，陈天齐先生曾作论揭发过扶乱的骗人，隔了十六年，白向先生却用碟子证明了扶乱的合理，	揭发

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

1014	1934	5	p.481	花边文学	论秦理斋夫人事	只有新近秦理斋夫人及其子女一家四口的自杀，却起过不少的回声，后来还出了一个杯着这一段新闻记事的自杀者，	起
1015	1934	5	p.484	花边文学	“……”“□□□□”论补	这阙文也闹过事，岂有人说“口生疮，口戕口”的三个口子，也是阙文，又给谁人骂了一顿。	闹
1016	1934	5	p.499	花边文学	零食	当老九章生意兴隆的时候，就有过《笔记小说人观》之流，这是零食·火箱；待到老九章关门之后，自然也跟着成了一小撮。	有
1017	1934	5	p.500	花边文学	“此生或彼生”	倘使在《申报》上，见过注慧祖先生的文章，	见
1018	1934	5	p.507	花边文学	再论重译	我却觉得并无什么误会，不同之点，只在倒过了一个轻重，	倒
1019	1934	5	p.515	花边文学	算账	但是，不知怎地，我虽然并非犹太人，却总有些喜欢讲损益，想人家来算·算向来没有人提起过的这一笔账。	提起
1020	1934	5	p.519	花边文学	玩笑只当它玩笑（上）	他曾经有过极不费力，但极有力的妙文；	有
1021	1934	5	p.522	花边文学	玩笑只当它玩笑（上） 【同上】：康伯度答文公直	意见也未必都和先生相同，先生并没有征求过同意，你是冒充代表的。	征求
1022	1934	5	p.526	花边文学	玩笑只当它玩笑（下）	因为事实会并不如文章，例如这语录式的条文子，在中国其实也并非断绝过种了。	断绝
1023	1934	5	p.526	花边文学	玩笑只当它玩笑（下）	这就是现在从新提起的语录派的末流，却并没有谁去涂去涂白过他的鼻子。	涂白
1024	1934	5	p.526	花边文学	玩笑只当它玩笑（下）	我曾经从生理学来证明过中国打屁股之合理；	证明

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

1025	1934	5	p.530	花边文学	看书琐记	他和周围的住户，是不一定见过面的，但只隔一层薄板壁，所以有些人家的眷属和客人的谈话，尤其是高声的谈话，都大概可以听到，	见
1026	1934	5	p.536	花边文学	趋时和复古	留英学生也不希气，严复的姓名还没有消失，就在他先前认真的译过好几部鬼了书，	译
1027	1934	5	p.539	花边文学	安贫乐道法	劝人安贫乐道是古今治国平天下的大经纶，开过的方子也很多，但都没有十全大补的功效。	开
1028	1934	5	p.550	花边文学	看书琐记（三）	记得有一位诗人说过这样的话：	说
1029	1934	5	p.552	花边文学	“大雪纷飞”	鲁迅到先生现在是在保释民权了，我政府时代，他还曾经保释文言。他造过一个实例，流倘将“二桃杀三士”用白话写作“两个桃子杀了三个读书人”，是多么的不行。	造
1030	1934	5	p.555	花边文学	汉字和拉丁化	但是，我们也不妨自己来试验，在《动向》上，就已经有过三篇纯用土话的文章，胡绳先生看了之后，却以为还是非土话所写的句子来得清楚。	有
1031	1934	5	p.556	花边文学	汉字和拉丁化	也还是从读书人首先试验起，先介绍过字母，拼法，然后写文章。	介绍
1032	1934	5	p.559	花边文学	“莎上比亚”	严复提起过“勃斯尔”，一提便完；梁启超说过“莎上比亚”，也不见有人注意；	提起
1033	1934	5	p.559	花边文学	“莎上比亚”	严复提起过“勃斯尔”，一提便完；梁启超说过“莎上比亚”，也不见有人注意；	说
1034	1934	5	p.562	花边文学	商贾的批评	中国现今没有好作品，早已使批评家或胡评家不满，前些年时还曾经探讨过它的所以没有的原因。	研究
1035	1934	5	p.569	花边文学	考场三丑	古书不是很有些曾经后人加过注解的吗？	加
1036	1934	5	p.570	花边文学	又是“莎上比亚”	苏俄将排演原本莎上比亚，可见“丑态”；马克思讲过莎上比亚，当然错误；	讲
1037	1934	5	p.571	花边文学	又是“莎上比亚”	真的，“发思古之幽情”，往往为了现在。这一比，我就疑心罗马恐怕也曾有过有理性，有明确利害观念，感情并不被几个煽动家所控制，所操纵的群众，但是被驱散，被压制，被杀戮了。	有

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、『鲁迅全集』参照。

1038	1934	5	p.573	花边文学	点句的难	替买旧书的人，有时会遇到一部书，开首加过句读，夹些破句，中途却停了笔；他点不下去了。	加
1039	1934	5	p.576	花边文学	奇怪（三）	原来是日本杂志店里，曾经见过的在《战争版画集》里的料治朝鸣的木刻，是为纪念他们在奉天的战胜而作的，	见
1040	1934	5	p.579	花边文学	略论梅兰芳及其他（上）	因为他是“老佛爷”——慈禧太后赏识过的。	赏识
1041	1934	5	p.582	花边文学	略论梅兰芳及其他（下）	我们的大画家徐悲鸿教授也曾到莫斯科去画过松树——也许是马，	画
1042	1934	5	p.588	花边文学	读书忌	因为我从未听见有人实验过。	实验
1043	1934	5	p.588	花边文学	读书忌	假如曾经看过《明季稗史》，《前史》，或者明末遗民的著作，那结果可就不同了，	看
1044	1934	5	p.589	花边文学	读书忌	我想，如果看过这样的文章，想像过这样的情景，又没有完全忘记，	看
1045	1934	5	p.589	花边文学	读书忌	我想，如果看过这样的文章，想像过这样的情景，又没有完全忘记，	想像
1046	1934	5	p.589	花边文学	读书忌	因为这实在比中郎时代的他们互相标榜还要坏，他们还没有经历过扬州十日，嘉定三屠！	经历
1047	1934	6	p.9	且介亭杂文	关于中国的两三件事	在前年，曾经拜读过中里介山氏的大作《给支那及支那国民的信》。	拜读
1048	1934	6	p.9	且介亭杂文	关于中国的两三件事	在中国，其实是彻底的未曾有过王道，“有历史癖和考据癖”的胡博士，该是不至于不知道的。	有
1049	1934	6	p.9	且介亭杂文	关于中国的两三件事	不错，中国也有过讴歌了元和清的人们，但那是感谢火神之类，并非连心也全被征服了的证据。	有
1050	1934	6	p.12	且介亭杂文	关于中国的两三件事	当福建独立之初，虽有说是释放犯人，而一到外面，和他们自己意见不同的人们倒反而失除了的谣言，然而这样的例子，以前是未曾有过的。	有
1051	1934	6	p.9	且介亭杂文	关于中国的两三件事	不错，中国也有过讴歌了元和清的人们，	有

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、『鲁迅全集』参照。

1052	1934	6	p.10	且介亭杂文	关于中国的两三件事	孔子和孟子确曾大大的宣传过那王道，	宣传
1053	1934	6	p.11	且介亭杂文	关于中国的两三件事	但是，就在西三礼拜前，政府因为要行仁政了，还发过一个不准克扣凶粮的命令。	发
1054	1934	6	p.12	且介亭杂文	关于中国的两三件事	然而这样的例子，以前是未曾有过的。	有
1055	1934	6	p.13	且介亭杂文	关于中国的两三件事	有一位官员诧异的说：	说
1056	1934	6	p.13	且介亭杂文	关于中国的两三件事	我还没有到那里面去反省过，	反省
1057	1934	6	p.36	且介亭杂文	《看图识字》	我轻轻的叹了一口气，记起幼小时候看过的《日用杂字》来。	看
1058	1934	6	p.38	且介亭杂文	拿来主义	尼采就白诩过他是太阳，光热无穷，只是给与，不想取得。	白诩
1059	1934	6	p.47	且介亭杂文	《木刻纪程》小引	中国木刻图画，从唐到明，曾经有过很体面的历史。	有
1060	1934	6	p.50	且介亭杂文	难行和不信	譬如罢，中国是改革过的了，孩子们当然早已从“孟宗哭竹”“王祥卧冰”的教训里取出，	改革
1061	1934	6	p.53	且介亭杂文	买《小学大全》记	他父亲尹公一，是有名的孝子，乾隆皇帝曾经给过褒扬的诗。	给
1062	1934	6	p.56	且介亭杂文	买《小学大全》记	后来我女人告诉我，才知道的，所以替他做了这篇文字，要表扬他，实在我并没有见过他的面。	见
1063	1934	6	p.56	且介亭杂文	买《小学大全》记	我当初在家时，曾向我妻子说过，要见皇上讨翎子，所以我做时不替冒昧，就以求恩典，原想得了翎子回家，可以夸耀。	说
1064	1934	6	p.63	且介亭杂文	忆韦素园君	我自己觉得我的记忆好像被刀刮过了的鱼鳞，有些还留在身体上，有些是掉在水里了，将水一刮，有几片还会翻腾，闪烁，	刮

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、『鲁迅全集』参照。

1065	1934	6	p.65	且介亭杂文	忆书素同君	段派的女子师范大学校长林素同，带兵接收学校去了，演过全副武行之后，还指留着的几个教员为“共产党”。	演
1066	1934	6	p.66	且介亭杂文	忆书素同君	我因此记起，素同的一个好朋友也略过血，	略
1067	1934	6	p.73	且介亭杂文	忆刘半农君	五六年前，曾在上海的宴会上见过一回面，那时候，我们几乎已经无话可谈了。	见
1068	1934	6	p.73	且介亭杂文	忆刘半农君	这使我很惭愧，因为我到北平后，实在未曾有过访问半农的心思。	有
1069	1934	6	p.76	且介亭杂文	答曹聚仁先生信	关于大众语的问题，提出得真是很久了，我是没有研究的，所以一向没有开过口。	开//口
1070	1934	6	p.80	且介亭杂文	从孩子的照相说起	但那健康和活泼，有时却也使他吃亏，九一八事件后，就被同胞误认为日本孩子，骂了好几次，还挨过一次打——自然是并不重的。	挨
1071	1934	6	p.81	且介亭杂文	从孩子的照相说起	然而奇怪，我曾在日本的照相馆里给他照过一张相，满脸顽皮，也真像日本孩子；	照//相
1072	1934	6	p.84	且介亭杂文	门外文谈	因为我写过几篇白话文，所以关于古文之类他们特别要听我的话，我也只好特别说的多。	写
1073	1934	6	p.84	且介亭杂文	门外文谈	他们里面，有的是因为我看过几本古书，所以相信我的，有的是因为我看过一点洋书，有的义因为我看古书也看洋书；	看
1074	1934	6	p.84	且介亭杂文	门外文谈	他们里面，有的是因为我看过几本古书，所以相信我的，有的是因为我看过一点洋书，有的义因为我看古书也看洋书；	看
1075	1934	6	p.85	且介亭杂文	门外文谈	我还见过一幅这位仓颉的画像，是生着四只眼睛的老头陀。	见
1076	1934	6	p.88	且介亭杂文	门外文谈	但是，硬做新仓颉，却要失败的，吴的朱音，唐的武则天，都曾经造过古怪字，也都白费了。	造
1077	1934	6	p.90	且介亭杂文	门外文谈	例如陈涉的老朋友看见他为主，惊异道：“夥颐，涉之为王沉沉者”，而其中的“涉之为王”四个字，我还疑心太史公加过修饰的。	加

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、『鲁迅全集』参照。

1078	1934	6	p.94	且介亭杂文	门外文谈	就是周朝的什么“关关雎鸠，在河之洲，窈窕淑女，君子好逑”罢，它是《诗经》里的头一篇，所以吓得我们只好磕头佩服，假如先前未曾有过这样的一篇诗，现在的新诗人用这意思做一首白话诗，到无论什么副刊上去投稿试试罢，我看十分之九是要被编辑者塞进废纸篓去的。	有
1079	1934	6	p.95	且介亭杂文	门外文谈	此外，士大夫也办过一些白话报，	办
1080	1934	6	p.99	且介亭杂文	门外文谈	上次说过，在不识字的大众里，是一向就有作家的。	说
1081	1934	6	p.100	且介亭杂文	门外文谈	无名氏文学如《子夜歌》之流，会给旧文学一种新力量，我先前已经说过了；	说
1082	1934	6	p.102	且介亭杂文	门外文谈	他那里是从《马氏文通》或《辞源》里查来的呢，也没有教师给他解释，他是听过几回之后，从比较而明白了意义的。	听
1083	1934	6	p.117	且介亭杂文	中国人失掉自信力了吗	先前信“地”，信“物”，后来信“国联”，都没有相信过“白己”。	相信
1084	1934	6	p.117	且介亭杂文	中国人失掉自信力了吗	假使这也算一种“信”，那也只能说中国人曾经有过“他信力”，自从对国联失望之后，便把这他信力都失掉了。	有
1085	1934	6	p.121	且介亭杂文	“以眼还眼”	如果你没有翻译或细读过莎剧《凯撒传》的话——只得说，这判断，更是“超乎我底能力之上”了。	细读
1086	1934	6	p.128	且介亭杂文	说“面子”	有一个专专夸耀的小瘪三，一天高兴的告诉别人道：“阔大人和我讲过话了！”	讲
1087	1934	6	p.133	且介亭杂文	脸谱臆测	古代的假面和现在的打脸的关系，好像还没有人研究过，	研究
1088	1934	6	p.136	且介亭杂文	随便翻翻	还有一种很容易到手的神本，是《四库书日提要》，倘还怕繁，那么，《简明目录》也可以，这可要细看，它能做成你好像看过许多书。	看



## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

1089	1934	6	p.136	且介亭杂文	随便翻翻	不过我也曾用过正经工夫，如什么“国学”之类，请过先生指教，留心过学者所开的参考书目。	用
1090	1934	6	p.136	且介亭杂文	随便翻翻	不过我也曾用过正经工夫，如什么“国学”之类，请过先生指教，留心过学者所开的参考书目。	请
1091	1934	6	p.136	且介亭杂文	随便翻翻	不过我也曾用过正经工夫，如什么“国学”之类，请过先生指教，留心过学者所开的参考书目。	留心
1092	1934	6	p.139	且介亭杂文	随便翻翻	前一种中国曾有译本，但只有一本，后五本不译了，译得怎样，因为没有见过，不知道。	见
1093	1934	6	p.142	且介亭杂文	拿破仑与隋那	但我们看看自己的臂膊，大抵总有几个疤，这就是种过牛痘的痕迹，是使我们脱离了天花的危机的。	种
1094	1934	6	p.144	且介亭杂文	答《戏》周刊编者信	《阿Q》在每一期里，登得不多，每期相隔又有六天，断断续续的看过，也陆续连续的忘记了。	看
1095	1934	6	p.147	且介亭杂文	答《戏》周刊编者信	记得几个月之前，曾经回答过一个朋友的关于大众语的质问，	回答
1096	1934	6	p.147	且介亭杂文	答《戏》周刊编者信	但我记得《戏》周刊上已曾发表过曹今可叶灵凤两位先生的文章；	发表
1097	1934	6	p.148	且介亭杂文	答《戏》周刊编者信	这倒并非个人的事情，因为现在又到了绍伯先生可以施爬老手段的时候，我若不声明，则我所谈过的各节，纵非实办意识，也是调和论了，还有什么意思呢？	听
1098	1934	6	p.150	且介亭杂文	寄《戏》周刊编者信	但绍兴也并非没有这种车，我用的是那时的北京的北京的情形，我在绍兴，其实并未见过这样的盛典。	见
1099	1934	6	p.154	且介亭杂文	中国文坛上的鬼魅	古人也早经说过，“以马上得天下，不能以马上治之。”	说
1100	1934	6	p.155	且介亭杂文	中国文坛上的鬼魅	到得南京，却不料就遇到一大队曾经训练过的“民众”，	训练

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

1101	1934	6	p.160	且介亭杂文	关于新文——答问	先前也曾有过学者，想出拼音字母，要大家容易学，也就是更容易教训，并且延长他们服役的生命，但那些字都还很繁琐，因为学者总忘不了官话，四声，以及这是学者创造出来的字，必需有学者的气氛。	有
1102	1934	6	p.162	且介亭杂文	病后杂谈	我曾经爱管闲事，知道过许多人，这些人物，都怀着一个大愿。	知道
1103	1934	6	p.165	且介亭杂文	病后杂谈	所以我恐怕只好自己承认“俗”，因为随手翻了《世说新语》，看过“嫫嫫洗涪池”的时候，才不致万不该的竟从“养病”赶到“养痲”上去了，	看
1104	1934	6	p.169	且介亭杂文	病后杂谈	就如上面说过的《蜀伦釜》，原是一部笔法都仿《春秋》的书，	说
1105	1934	6	p.171	且介亭杂文	病后杂谈	她虽然做过官妓，然而究竟是一位能诗的才女，	做
1106	1934	6	p.172	且介亭杂文	病后杂谈	《国朝文纂》我没有见过，铁氏次女的诗，杭世骏也并未寻出根底，	见
1107	1934	6	p.179	且介亭杂文	病后杂谈之余——关于“舒愤懑”	那时我还是满洲治下的一个拖着辫子的十四五岁的少年，但已经看过记载张献忠怎样屠杀蜀人的《蜀鼎》，痛恨着这“流贼”的凶残。	看
1108	1934	6	p.181	且介亭杂文	病后杂谈之余——关于“舒愤懑”	自石历史以来，中国人是一向被同族和异族屠戮，奴隶，敲掠，刑辱，压迫下来的，非人类所能忍受的楚毒，也都身受过，	受
1109	1934	6	p.181	且介亭杂文	病后杂谈之余——关于“舒愤懑”	俞正璧看过野史，正是一个因此觉得义愤填膺的人，所以他在记载清制的解放惰民丐户，罢教坊，停女乐的故事之后，作一结语——	看
1110	1934	6	p.182	且介亭杂文	病后杂谈之余——关于“舒愤懑”	不但藏之内廷，还烦之文风较盛之处，使天下上下于阅读，永不会觉得我们中国的作者里面，也曾有过很有些骨气的人。	说
1111	1934	6	p.185	且介亭杂文	病后杂谈之余——关于“舒愤懑”	清朝的考据家有人说过，“明人好刻古书而古书亡”，因为他们妄行校改。	说
1112	1934	6	p.185	且介亭杂文	病后杂谈之余——关于“舒愤懑”	但在文学界上，我没有查过以谁为“祸言”。	查

1113	1934	6	p.186	且介亭杂文	病后杂谈之余——关于“舒愤懣”	我生长在偏僻之乡，毫不知道什么是满汉，只在饭店的招牌上看见过“满汉酒席”字样，也从不知引起什么疑问来。	看见
1114	1934	6	p.186	且介亭杂文	病后杂谈之余——关于“舒愤懣”	听人讲“本朝”的故事是常有的，文字狱的事情却一向没有听到过，	听到
1115	1934	6	p.188	且介亭杂文	病后杂谈之余——关于“舒愤懣”	索性不装了，敌人说过的：一个人做人要真实。	说
1116	1934	6	p.190	且介亭杂文	病后杂谈之余——关于“舒愤懣”	国画呢，方巾长袍，或短褐椎结，从没有见过一条我所记得的辫子；	见
1117	1934	6	p.190	且介亭杂文	病后杂谈之余——关于“舒愤懣”	洋画呢，歪脸汉子，肥腿女人，也从没有见过一条我所记得的辫子。	见
1118	1934	6	p.201	且介亭杂文	阿金	然而我仍然不放心，因为我曾经听人说过：所谓“和平”，不过是两次战争之间的时日。	说
1119	1934	6	p.201	且介亭杂文	论俗人应避雅人	补了她的缺的是一个胖胖的，脸上很有些福相和雅气的娘姨，已经二十多天，还很安静，只叫了卖唱的两个穷人唱过一回“奇奇怪怪”的《十八摸》之类，	唱
1120	1934	7	p.3	集外集	序言	但我对于自己的“少作”，愧则有之，梅却从来没有过。	有
1121	1934	8	p.362	集外集补编	自传	又约半年，国民党北伐分明很顺利，厦门的有些教授就到广州来了，不久就清楚，我一生从未见过有这么杀人的人，我就辞了职，回到上海，想以译作谋生。	见
1122	1934	8	p.368	集外集补编	《〈母亲〉木刻「四幅」序	便是没有读过小说的人，不也在这里看见了黯黑的政治和奋斗的大众吗？	读
1123	1935	2	p.372	故事新编	理水	“我曾经搜集了许多王公大臣和富人家的家谱，很下过一番研究工夫，得到一个结论：	下
1124	1935	2	p.373	故事新编	理水	“我就从来没有过家谱……”	有

1125	1935	2	p.375	故事新编	理水	大半年过去了，奇觚国的飞车已经来过八回，读过松树身上的文字的水排居民，十个里面有九个人生了脚气病，治水的新官却还没有消息。	来
1126	1935	2	p.375	故事新编	理水	大半年过去了，奇觚国的飞车已经来过八回，读过松树身上的文字的水排居民，十个里面有九个人生了脚气病，治水的的新官却还没有消息。	读
1127	1935	2	p.375	故事新编	理水	直到第十回飞车来过之后，这才传来了新闻，	来
1128	1935	2	p.375	故事新编	理水	然而这一回却又像消息很可靠，十多天之后，几乎谁都说法国的确要到了，因为有人出去捞浮草，亲眼看见过官船；	看见
1129	1935	2	p.376	故事新编	理水	大员坐在石屋的中央，吃过面包，就开始考察。	吃
1130	1935	2	p.376	故事新编	理水	至于那些下民，他们有的是榆叶和海苔，他们也尝终日，无所用心，——就是非不劳心，原只要吃这些就够。我们也尝过了，味道倒并不坏，特别得很……”	尝
1131	1935	2	p.376	故事新编	理水	敝人指导过许多次了，然而他们冥顽不灵，绝对的不肯照办，于是弄出数不清的病人来……”	指导
1132	1935	2	p.377	故事新编	理水	下民的代表，是四人以前就在开始推举的，然而谁也不肯去，说是一向没有见过官。	见
1133	1935	2	p.377	故事新编	理水	于是大多数就推定了头右疙瘩的那一个，以为他曾有见过官的经验。	见
1134	1935	2	p.380	故事新编	理水	有几个又扑上去，想抢下他们咬过的糕饼来，说不久就要开展览会募捐，这些都得去陈列，咬得太多是很不雅观的。	咬
1135	1935	2	p.382	故事新编	理水	大员们一面踱行而前，一面面面相觑，列坐在残筵的下面，看见咬过的松皮饼和哨光的牛骨	咬

1136	1935	2	p.383	故事新编	理水	“况且老人化过多少心力呢。借了上帝的总壤，来湮洪水，虽然触了上帝的恼怒，洪水的深度可也浅了一点。这似乎还是照例的治下去。”	化
1137	1935	2	p.384	故事新编	理水	今天来一车竹筒，明天来一批松板，有时抬过了做假山的怪石，有时提过了做鱼生的鲜鱼；有时是一大群一尺二寸长的大乌龟，都缩了头装着竹笼，载在车子上，拉向皇城那面去。	抬
1138	1935	2	p.384	故事新编	理水	今天来一车竹筒，明天来一批松板，有时抬过了做假山的怪石，有时提过了做鱼生的鲜鱼；有时是一大群一尺一寸长的大乌龟，都缩了头装着竹笼，载在车子上，拉向皇城那面去。	提
1139	1935	2	p.385	故事新编	理水	吊一到，就连忙客气的站起来，行过礼，呆痴先去应酬了几句，舜才说道：“你也讲几句好话我听呀。”	行//礼
1140	1935	2	p.386	故事新编	理水	“我讨过老婆，四大就走，”禹回答应。“生了阿启，也不当他儿子看。所以能够治了水，分作五圈，简直有五千里，计十二州，直到海边，立了五个头领，都很好。”	讨
1141	1935	2	p.394	故事新编	采薇	“您听到过从商王那里，逃来两个瞎子的事了罢。”	听到
1142	1935	2	p.394	故事新编	采薇	“唔，前几天，散宜生好像提起过。我没有留心。”	提起
1143	1935	2	p.394	故事新编	采薇	“您听到过从商王那里，逃来两个瞎子的事了罢。”	提起
1144	1935	2	p.394	故事新编	采薇	“唔，前几天，散宜生好像提起过。我没有留心。”	提起
1145	1935	2	p.395	故事新编	采薇	“我今天去拜访过了。一个是太师疵，一个是少师强，还带来许多乐器。听说前儿时还开过一个展览会，参观者都啧啧称赞，——不过好像这边就要动兵了。”	拜访
1146	1935	2	p.394	故事新编	采薇	“我今天去拜访过了。一个是太师疵，一个是少师强，还带来许多乐器。听说前儿时还开过一个展览会，参观者都啧啧称赞，——不过好像这边就要动兵了。”	拜访
1147	1935	2	p.394	故事新编	采薇	“也不单为了乐器。您不早听到过商王无道，砍早上渡河不怕水冷的人的脚骨，看他的骨髓，挖出比干王爷的心来，看它可有七窍吗？”	开
1148	1935	2	p.395	故事新编	采薇	“也不单为了乐器。您不早听到过商王无道，砍早上渡河不怕水冷的人的脚骨，看他的骨髓，挖出比干王爷的心来，看它可有七窍吗？”	开

1146	1935	2	p.397	故事新编	采薇	在百静中，不提防叔齐却拖着伯夷直扑上去，钻过几个马头，拉住了周王的马嚼子，直着脖子嚷起来道：	钻
1147	1935	2	p.400	故事新编	采薇	伤兵也陆续的回来了，又好像还是打过仗似的。	打
1148	1935	2	p.403	故事新编	采薇	叔齐就记得了正午时分，他们的确遇见过几个瘦兵，赶着一大批老马，瘦马，跛脚马，癞皮马，从背后冲上来，几乎把他们踏死，	遇见
1149	1935	2	p.406	故事新编	采薇	接着又想到苍朮，然而他只见过苍朮的根，毫不知道那叶子的形状，又不能把满山的草都拔起来看一看，即使苍朮生在眼前，也不能认识。	见
1150	1935	2	p.406	故事新编	采薇	但是他立刻平静了，似乎有了主意，接着就走到松树旁边，摘了一衣兜的松针，又往溪边寻了两块石头，砸下松针外面的青皮，洗过，又细细的晒得好像面饼，另寻一片很薄的石片，拿着回到右洞去了。	洗
1151	1935	2	p.407	故事新编	采薇	他又记得了自己问过薇菜的样子，而且山上正见过这东西。	问
1152	1935	2	p.407	故事新编	采薇	他又记得了自己问过薇菜的样子，而且山上正见过这东西。	见
1153	1935	2	p.407	故事新编	采薇	他还是在深水里洗了一洗，这才拿回来；还是用那烙过松针面的石片，来烤薇菜。	烙
1154	1935	2	p.409	故事新编	采薇	然而谈过之后，他上轿就摇头，回了家，竟立了很有些气愤。	谈
1155	1935	2	p.409	故事新编	采薇	忽然走来了一个二十来岁的女人，先前是没有见过的，看她模样，好像是阔人家里的婢女。	见
1156	1935	2	p.439	故事新编	出关	“我总是这样了，”老了答道。“您怎么样？所有这甲的藏书，都看过了罢？”“都看过了。不过……”孔子很有些焦躁模样，这是他从来所没有的。	看
1157	1935	2	p.439	故事新编	出关	“我总是这样了，”老了答道。“您怎么样？所有这甲的藏书，都看过了罢？”“都看过了。不过……”孔子很有些焦躁模样，这是他从来所没有的。	看

1158	1935	2	p.443	故事新编	山关	“自然，自然，先生是忘记了的。我是美尹喜，先前因为上图书馆去看《税收讲义》，曾经拜访过先生……”	拜访
1159	1935	2	p.444	故事新编	山关	大家喝过开水，再吃饼。	喝
1160	1935	2	p.445	故事新编	出关	他喝过几口白开水，就毫无动静的坐着，好像一段呆木头。	喝
1161	1935	2	p.447	故事新编	出关	美尹喜竭力劝他上牛，逃让一番之后，终于也骑上去了。作过别，拨转牛头，便向峻坂的人路上慢慢的走去。	作//别
1162	1935	2	p.447	故事新编	出关	“这可只能怪您自己看错了人，”美尹喜笑道。“他那里会有恋爱故事呢？他压根儿就没有过恋爱。”	有
1163	1935	2	p.448	故事新编	出关	“那可不见得行。要发牢骚，闹脾气的。” “饿过了肚子，还要闹脾气？”	饿
1164	1935	5	p.417	花边文学	序言	只为了一篇《玩笑只当它玩笑》，又曾引出过一封文直先生的来信，笔伐的更严重了，说我是“汉奸”。	引出
1165	1935	5	p.419	花边文学	序言	我曾经想过：凡是我寄文稿的，只寄开初的一两期还不妨，假使接连不断，它就忘们话不久。	想
1166	1935	6	p.208	且介亭杂文	附记	记得中国北方，曾有一种期刊译载过这三篇，	译载
1167	1935	6	p.210	且介亭杂文	附记	鲁迅先生似乎还“嘘”过杨邨人氏，然而他却可以替杨邨人氏打开场锣鼓，谁说鲁迅先生器量窄小呢？	“嘘”
1168	1935	6	p.217	且介亭杂文二集	序言	编完以后，也没有什么大感想。要感的感过了，要写的也写过了，	感
1169	1935	6	p.217	且介亭杂文二集	序言	编完以后，也没有什么大感想。要感的感过了，要写的也写过了，	写
1170	1935	6	p.219	且介亭杂文二集	叶紫作《丰收》序	作者写出创作来，对于其中的事情，虽然不必亲历过，最好是经历过。	经历

1171	1935	6	p.219	且介亭杂文二集	叶紫作《丰收》序	诘难者问：那么，写杀人最好是自己杀过人，写妓女还得去卖淫么？	杀
1172	1935	6	p.220	且介亭杂文二集	叶紫作《丰收》序	“中国为什么没有伟大文学产生？”我们听过许多指导者的教训了，	听
1173	1935	6	p.220	且介亭杂文二集	叶紫作《丰收》序	“第三种人”教训过我们，希腊神话说什么恶魔有一张床，捉了人去，给睡在这床上，短了，就拉长他，太长，便把他截短。	教训
1174	1935	6	p.224	且介亭杂文二集	隐上	至于那些文上诗翁，自称什么钓徒稚子的，倒人抓是悠游自得的风翁或公子，何尝经过钓竿或斧头柄。	捏
1175	1935	6	p.227	且介亭杂文二集	“招贴即扯”	开年正月，就有人怕骂倒了一切古今人，只留下自己的没意思。要是古今中外真的有过这等事，这才叫作稀奇，但实际上并没有，将来大约也不会有。	有
1176	1935	6	p.227	且介亭杂文二集	“招贴即扯”	岂但一切古今人，连一个人也没有骂倒过。	骂倒
1177	1935	6	p.234	且介亭杂文二集	漫画“漫画”	我记得去年就有一位文学家说过，他最讨厌论人用显微镜。	说
1178	1935	6	p.236	且介亭杂文二集	漫画而又漫画	德国现代画家格罗斯（George Grosz），中国已经介绍过好几回，总可以不算陌生人了。	介绍
1179	1935	6	p.236	且介亭杂文二集	漫画而又漫画	但翻印的绘画，却还没有见过将青绿山水变成红黄山水，水墨龙化为水粉龙的人改造。	见
1180	1935	6	p.238	且介亭杂文二集	《中国新文学大系》小说二集序	一八八三年顷，尼采（Fr. Nietzsche）也早借了苏鲁支（Zarathustra）的嘴，说过“你们已经走了从虫多到人的路，在你们里面还有许多份是虫多。你们做过猴子，到了现在，人还尤其猴子了，无论比那一个猴子”的。	说
1181	1935	6	p.238	且介亭杂文二集	《中国新文学大系》小说二集序	一八八三年顷，尼采（Fr. Nietzsche）也早借了苏鲁支（Zarathustra）的嘴，说过“你们已经走了从虫多到人的路，在你们里面还有许多份是虫多。你们做过猴子，到了现在，人还尤其猴子了，无论比那一个猴子”的。	做
1182	1935	6	p.240	且介亭杂文二集	《中国新文学大系》小说二集序	而且凭自己的理想还怕不够，又请教过几个朋友，删改了几回，这才完成一本非常小说《玉屑》。	指教

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、『鲁迅全集』参照。

1183	1935	6	p.247	且介亭杂文二集	《中国新文学大系》小说二集序	寒先义叙述过贵州，裴文中关着榆关，凡在北京用笔写出他的脚腕来的人们，无论他自称为主观或客观，其实往往是乡上文学，	叙述
1184	1935	6	p.250	且介亭杂文二集	《中国新文学大系》小说二集序	所谓“狂飙运动”，那草案其实是早藏在长血的衣袋里面的，常要乘机而出，先就印过几期周刊；	印
1185	1935	6	p.256	且介亭杂文二集	《中国新文学大系》小说二集序	有些作者，是有白骗的架子的，曾在期刊上发表过的初期的文章，架子里有时却不见，	发表
1186	1935	6	p.267	且介亭杂文二集	内山完造作《活中国的姿态》序	例如罢，中国向西洋派遣过许多留学生，其中有一位先生，好像也并不怎样喜欢研究西洋，于是提出了关于中国文学的什么论文，使那边的学者大吃一惊，得了博士的学位，回来了。	派遣
1187	1935	6	p.270	且介亭杂文二集	“寻开心”	还有一种，是作者原不过“寻开心”，就有的时候本求不当真，说过也就忘记了。	说
1188	1935	6	p.271	且介亭杂文二集	“寻开心”	我的意思是以为有些事情方不要想得太多，太老实，我们只要知道语堂先生那时正在崇拜袁中郎，而袁中郎也曾有过称赞《金瓶梅》的事实，就什么怪异之意也没有了。	有
1189	1935	6	p.274	且介亭杂文二集	非有复译不可	好像有人说过，去年是“翻译年”；	说
1190	1935	6	p.274	且介亭杂文二集	非有复译不可	他像后街的老虔婆一样，并不大声，却在那里唠叨，说是莫非世界上的名者都译完了吗，你们只在译别人已经译过的，有的还译过了七八次。	译

207

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)

例文出典は、『鲁迅全集』参照。

1191	1935	6	p.274	且介亭杂文二集	非有复译不可	他像后街的老虔婆一样，并不大声，却在那里唠叨，说是莫非世界上的名者都译完了吗，你们只在译别人已经译过的，有的还译过了七八次。	译
1192	1935	6	p.275	且介亭杂文二集	非有复译不可	记得中国先前，有过一种风气，遇见外国——人就是日本——有一部书出版，想来当为中国人所要看的，便往往有人在报上登出广告来，说“已在译，请万勿重译为幸”。	有
1193	1935	6	p.275	且介亭杂文二集	非有复译不可	他看得翻译好像结婚，有人译过了，第二个便不该再来碰一下，	译
1194	1935	6	p.276	且介亭杂文二集	非有复译不可	但因言语跟着时代的变化，将来还可以有新的复译本的，七八次何足为奇，何况中国其实也并非没有译过七八次的作品。	译
1195	1935	6	p.278	且介亭杂文二集	论讽刺	“高雅高雅”，他其实何尝不知道有些肉麻，不过他又知道说过就完，“木传”里决不会有，于是也就放心的“高雅”下去。	说
1196	1935	6	p.280	且介亭杂文二集	从“别字”说开去	我还没有明目张胆的提倡过写别字，假如我在做国文教员，学生写了错字，我要给他改正的，但一面也知道这不过是治标之法。	提倡
1197	1935	6	p.287	且介亭杂文二集	田军作《八月的乡村》序	我们的学者也曾说过：要征服中国，必须征服中国民族的心。	说
1198	1935	6	p.287	且介亭杂文二集	田军作《八月的乡村》序	但是，不知道是人民进步了，还是时代太近，还未淹没的缘故，我却见过几种讲述关于东三省被占的事情的小说。	见

208

1199	1935	6	p.288	且介亭杂文二集	田军作《八月的乡村》序	那当然，上面已经说过几回了一——	说
1200	1935	6	p.290	且介亭杂文二集	徐懋庸作《打杂集》序	契诃夫说过：“被昏蛋所称赞，不如战死在他手里。”真是伤心而且悟道之言。	说
1201	1935	6	p.292	且介亭杂文二集	徐懋庸作《打杂集》序	这本集子的作者先前有一本《不惊人集》，我只见过一篇自序；	见
1202	1935	6	p.296	且介亭杂文二集	人生识字胡涂始	您老的文章里，说过这山是‘跛脚’的，那山是‘岩’的，那究竟是怎么一副样子呀？	说
1203	1935	6	p.298	且介亭杂文二集	“文人相轻”	在所谓文坛上，前年嚷过一回“文人无行”，去年是闹了一通“京派和海派”，今年又出了新口号，叫作“文人相轻”。	嚷
1204	1935	6	p.303	且介亭杂文二集	“京派”和“海派”	先前，曾经有人用过“某”字，什么缘故我不知道。	用
1205	1935	6	p.304	且介亭杂文二集	“京派”和“海派”	文豪，究竟是有真本领的，法郎士做过一本《泰纳思》，中国已有两种译本了，其中就透露着这样的消息。	做
1206	1935	6	p.307	且介亭杂文二集	鎌田诚一著记	本篇在收入本书前未在报刊上发表过。	发表
1207	1935	6	p.308	且介亭杂文二集	弄堂生意古今谈	而且那些口号也真漂亮，不知道他是从“晚明文选”或“晚明小品”里找过词汇的呢，还是怎么的，	找
1208	1935	6	p.311	且介亭杂文二集	不应该那么写	然而，好像没有效，从“小说作法”学出来的作者，我们至今还没有听到过。	听到
1209	1935	6	p.313	且介亭杂文二集	在现代中国的孔夫子	然而尚是画像，却也会间或遇见的。我曾经见过三次：一次是《孔子家语》里的插画；	见
1210	1935	6	p.317	且介亭杂文二集	在现代中国的孔夫子	余剩的是北洋军阀，当觉得渐近末路时，也用它来敲过另外的幸福之门。	敲

1211	1935	6	p.318	且介亭杂文二集	在现代中国的孔夫子	五六年前，曾经因为公演了《子见南子》这剧本，引起过问题，	引起
1212	1935	6	p.318	且介亭杂文二集	在现代中国的孔夫子	不错，孔夫子曾经计划过出色的治国的方法，	计划
1213	1935	6	p.329	且介亭杂文二集	什么是“讽刺”？——答文学社问	例如新闻记者，就记忆所及，今年就见过两件事。	见
1214	1935	6	p.329	且介亭杂文二集	什么是“讽刺”？——答文学社问	较可注意的事件，报上是往往有些特别的批评文字的，但对于这两件，却至今没有说过什么话，可见是看得很平常，以为不足为意的了。	说
1215	1935	6	p.333	且介亭杂文二集	论“人言可畏”	然而，先前已经说过，现在的报章的失了力量，却也是真的，	说
1216	1935	6	p.338	且介亭杂文二集	《全国木刻联合展览会专辑》序	这之前，有木刻了，却未曾有过这境界。	有
1217	1935	6	p.340	且介亭杂文二集	文坛三卢	占时候听说有的一面看牛牧羊，一面读经，终于成了学者的人的，但现在恐怕未必有。	有
1218	1935	6	p.340	且介亭杂文二集	文坛三卢	他先世也许暴发过，但现在是在文雅胜于算盘，家景人不如意了，	暴发
1219	1935	6	p.350	且介亭杂文二集	“题未定”草（一至三）	此书我不过曾经草草的看过一遍，觉得写法平直，没有现代作品的稀奇古怪，	看
1220	1935	6	p.351	且介亭杂文二集	“题未定”草（一至三）	但同时又想到这也许还是自己错，我曾经发表过，我的文章，不是涌出，乃是挤出来的。	发表
1221	1935	6	p.355	且介亭杂文二集	“题未定”草（一至三）	“事大”，历史上有的，“白大”，事实上也常有的；“事大”和“白大”，虽然不相容，但因“事大”而“白大”，却又为实际上所常见——他足以傲视一切连“事大”也不配的人们。	有
1222	1935	6	p.356	且介亭杂文二集	“题未定”草（一至三）	后来上海的《小说月报》，还曾为弱小民族作品出过专号，这种风气，现在是衰歇了，即偶有存者，也不过一脉的余波。	出
1223	1935	6	p.356	且介亭杂文二集	“题未定”草（一至三）	所以文学无须用金钱和枪炮作掩护，波兰捷克，虽然未曾加入八国联军来打过北京，那文学却在。	打

1224	1935	6	p.356	且介亭杂文二集	“题未定”草（一至三）	所以一样的没有打过中国的国度的文学，	打
1225	1935	6	p.367	且介亭杂文二集	“靠天吃饭”	清朝中叶就有《靠天吃饭图》的碑，民国初年，状元陆润庠先生也画过一张；	画
1226	1935	6	p.367	且介亭杂文二集	“靠天吃饭”	前一月，我们曾经听到过嚷着“早象已成”，	听到
1227	1935	6	p.370	且介亭杂文二集	几乎无事的悲剧	他在酒店里遇到乞乞科夫，夸示自己的好小狗，勒令乞乞科夫摸过狗耳朵之后，还要摸鼻子——	摸
1228	1935	6	p.374	且介亭杂文二集	三论“文人相轻”	人无全德，道无大成，刚说过“非中之是非”，胜过“似是之非”，怎么立刻又变成“文既无长短可言，道又无是非之分”了呢？	说
1229	1935	6	p.378	且介亭杂文二集	四论“文人相轻”	“朋友，以义合者也。”古人确曾说过的，然而又有古人说：“义，利也。”呜呼！	说
1230	1935	6	p.382	且介亭杂文二集	五论“文人相轻”——明末	这正如传神的写意画，并不细画须眉，并不写上名字，不过寥寥几笔，而神情毕肖，只要见过被画者的人，一看就知道这是谁；	见
1231	1935	6	p.389	且介亭杂文二集	“题未定”草（五）	但是，非不“追随”的叫喊其实是也有些怕的，林语堂先生说过：	说
1232	1935	6	p.389	且介亭杂文二集	“题未定”草（五）	这是好的，虽然勃兰克斯曾从冷落中提出过伊字生和尼采，但我们似乎也难以斥他为追随或奴性。	提出
1233	1935	6	p.390	且介亭杂文二集	“题未定”草（五）	但对于绥拉非摩维文的祝贺日，我却发过一个祝电，因为我校印过中译的《铁流》。	发
1234	1935	6	p.390	且介亭杂文二集	“题未定”草（五）	但对于绥拉非摩维文的祝贺日，我却发过一个祝电，因为我校印过中译的《铁流》。	校印
1235	1935	6	p.390	且介亭杂文二集	“题未定”草（五）	如果有谁看过非洲的黑奴工头，傲然的拿鞭子乱抽着乱抽着做工的黑奴的电影的，	看

1236	1935	6	p.394	且介亭杂文二集	论毛笔之类	他们在上海立过制造局，想造比笔墨更紧要的器械——虽然为了“积重难返”，终于也造不出什么东西来。	立
1237	1935	6	p.411	且介亭杂文二集	陀思妥夫斯基的事——为日本三笠书房《陀思妥夫斯基本集》普及本作	他太伟大了，而自己却没有什么细心的读过他的作品。	读
1238	1935	6	p.418	且介亭杂文二集	杂谈小品文	原本价贵，大抵无力购买，现在只用了一元或数角，就可以看见现代名人的祖师，以及尖前的性灵，怎样空架屋，现在的性灵，怎样后人学样，嚼过一推牛骨头，即使是个骨头，不也有了一些见识，可以不再就被生炒牛角尖骗去了吗？	嚼
1239	1935	6	p.421	且介亭杂文二集	“题未定”草（六至九）	记得T君曾经对我谈起过：我的《集外集》出版之后，施蛰存先生曾在什么刊物上有过批评，以为这本书不值得付印，最好是选一下。	谈起
1240	1935	6	p.421	且介亭杂文二集	“题未定”草（六至九）	记得T君曾经对我谈起过：我的《集外集》出版之后，施蛰存先生曾在什么刊物上有过批评，以为这本书不值得付印，最好是选一下。	有
1241	1935	6	p.421	且介亭杂文二集	“题未定”草（六至九）	至于选本，我倒以为是弊多利少的，记得前年就写过一篇《选本》，说明着白己的意见，后来就收在《集外集》中。	写
1242	1935	6	p.423	且介亭杂文二集	“题未定”草（六至九）	前几天，看见《时事新报》的《青光》上，引过林语堂先生的话，	引
1243	1935	6	p.425	且介亭杂文二集	“题未定”草（六至九）	例如韩愈先生，就替周文王说过“此罪当诛今天王圣明”，	说
1244	1935	6	p.425	且介亭杂文二集	“题未定”草（六至九）	它往往是衣裳上撕下来的一块绣花，经摘取者一吹嘘或附会，就是怎样超然物外，与尘浊无干，读者没有见过全体，便也被他弄得迷离恍惚。	见
1245	1935	6	p.425	且介亭杂文二集	“题未定”草（六至九）	最显著的便是上文说过的“悠然见南山”的例子，	说

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

1246	1935	6	p.427	且介亭杂文二集	“题未定”草（六至九）	这像，我曾见过照相，睁着眼睛，神情清爽，并不像“常如作甜蟹梦”。	见
1247	1935	6	p.428	且介亭杂文二集	“题未定”草（六至九）	这样的缘故得精光的古铜器，我一生中还没有见过第二个。	见
1248	1935	6	p.430	且介亭杂文二集	“题未定”草（六至九）	自己放出眼光看过较多的作品，就知道历来的伟人的作者，是没有一个“浑身是静穆”的。	看
1249	1935	6	p.432	且介亭杂文二集	“题未定”草（六至九）	仍是上文说过的所谓《珍本丛书》之一的张岱《琅嬛文集》，那卷三的书牍类里，有《又与毅循八弟》的信，	说
1250	1935	6	p.448	且介亭杂文二集	后记	只要看过前一本，就可以明白犯官忌的是那些话。	看
1251	1935	7	p.463	集外集拾遗	《译文》终刊号前记	但已经收集的材料，是做过译者校者排者的一番力气的，	费
1252	1936	6	p.471	且介亭杂文未编	《凯绥·珂勒惠支版画选集》序目	但在中国，介绍的还不多，我只记得在已经停刊的《现代》和《译文》上，各曾刊印过她的一幅木刻，原画自然更少看见；	刊印
1253	1936	6	p.471	且介亭杂文未编	《凯绥·珂勒惠支版画选集》序目	前四五年，上海曾经展览过她的几幅作品，但恐怕也不大有十分注意的人。	展览
1254	1936	6	p.482	且介亭杂文未编	记苏联版画展览会	克内加和叶卡斯托夫的作品，是中国未曾介绍过的，可惜这里也很少；	介绍
1255	1936	6	p.482	且介亭杂文未编	记苏联版画展览会	和法复尔斯基接近的依夫理诺夫（P. Pavlinov）的木刻，我们只见过一幅，现在却弥补了这缺憾了。	见
1256	1936	6	p.486	且介亭杂文未编	我要骗人	五年前翻阅报章，看见过所记的孩子的死尸的数目之多，	见

213

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

1257	1936	6	p.486	且介亭杂文未编	我要骗人	我觉得对不起人，就带她进了电影院，买过门票之后，付给她一块钱。	买
1258	1936	6	p.487	且介亭杂文未编	我要骗人	诚然，两三年前，是有过非常的水灾的，这水灾和旧水不同，几个月或半年都不退。但我又知道，中国有着叫作“水利局”的机关，每年从人民收着税金，在办事。	有
1259	1936	6	p.487	且介亭杂文未编	我要骗人	连被水灾所害的难民成群的跑到安全之处来，说是有害治安，就用机关枪去扫射的话也都听到过。	听到
1260	1936	6	p.488	且介亭杂文未编	我要骗人	任子曾经说过：“干下去的（曾经积水的）车辆里的鲟鱼，彼此用唾沫相湿，用湿气相嘘，”——然而他又说，“倒不如在江湖里，人家互相忘却的好。”	说
1261	1936	6	p.488	且介亭杂文未编	我要骗人	因为说过“可以”，就应该写出来，不要使他失望，然而，到底也还是写了骗人的文章。	说
1262	1936	6	p.491	且介亭杂文未编	《译文》复刊词	虽然不过野花小草，但曾经费过不少移根灌漑之力，当然不免私心以为可惜的。	费
1263	1936	6	p.493	且介亭杂文未编	白莽作《孩儿塔》序	四年之前，我曾经写过一篇《为忘却的纪念》，要将他们忘却。	写
1264	1936	6	p.496	且介亭杂文未编	续记	这一回，他在汉口，我是听到过的，	听到
1265	1936	6	p.497	且介亭杂文未编	续记	我从来不想对于史济行的大事业讲一句话，但这回既然我写过一篇序，且又发表了，	写
1266	1936	6	p.499	且介亭杂文未编	写于深夜里	野地上有一堆烧过的纸灰，旧墙上有几个刻出的图画，经过的人是大概不必注意的，	烧
1267	1936	6	p.499	且介亭杂文未编	写于深夜里	他是我的学生和朋友，一同介绍外国文艺的人，尤喜欢木刻，曾经编印过三本欧美作家的作品，虽然印得不太好。	编印
1268	1936	6	p.500	且介亭杂文未编	写于深夜里	没有到过外国的人，往往以为口种人都是对人来讲耶稣道理或开洋行的，鲜衣美食，一不高兴就用皮鞋向人乱踢。	到

214



1269	1936	6	p.503	且介亭杂文 未编	写于深夜里	出版有大部的字典，还不止一部，然而都是都不合于实用的，倘要明白真情，必须查考向来没有印过的字典。	印
1270	1936	6	p.503	且介亭杂文 未编	写于深夜里	但卷头有一页白纸，只有见过没有印出的字典的人，才能够看出字来，	见
1271	1936	6	p.505	且介亭杂文 未编	写于深夜里	马褂问过他的姓名，年龄，籍贯之后，就问道：	问
1272	1936	6	p.524	且介亭杂文 未编	《呐喊》捷克译本序言	记得世界大战之后，许多新兴的国家出现的时候，我们曾经非常高兴过，	高兴
1273	1936	6	p.524	且介亭杂文 未编	《呐喊》捷克译本序言	但是奇怪，我们又很疏远，例如我，就没有认识过一个捷克人，看见过一本捷克书，前几年到了上海，才在店铺里目睹了捷克的玻璃器。	认识
1274	1936	6	p.524	且介亭杂文 未编	《呐喊》捷克译本序言	但是奇怪，我们又很疏远，例如我，就没有认识过一个捷克人，看见过一本捷克书，前几年到了上海，才在店铺里目睹了捷克的玻璃器。	见
1275	1936	6	p.524	且介亭杂文 未编	《呐喊》捷克译本序言	因为我们都曾经走过过苦难的道路，现在还在走——一面寻求着光明。	走
1276	1936	6	p.529	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	其实，我已经在好几个地方说过了，然而徐懋庸等似乎不肯去看，	说
1277	1936	6	p.529	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	我也曾经提出过我对于组织这种统一的团体的意见过，那些意见，自然是被一些所谓“指导家”格杀了，	提出
1278	1936	6	p.529	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	我也曾经提出过我对于组织这种统一的团体的意见过，那些意见，自然是被一些所谓“指导家”格杀了，	意见
1279	1936	6	p.530	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	因为他们巧妙地格杀革命的民族的力量，不顾革命的大众的利益的，而只借革命以营私，老实说，我甚至怀疑过他们是否系敌人所派遣。	怀疑

1280	1936	6	p.532	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	这和商人的专卖不同，并且事实上你们先前提出的“国防文学”的口号，也没有到南京政府或“苏维埃”政府去过册。	注//册
1281	1936	6	p.532	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	——我先得说，前者这口号不是胡风提的，胡风做过一篇文章是事实，	做
1282	1936	6	p.533	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	如果有人不用脚底皮去思想，而是用用一点脑子，那就不能随便说句“标新立异”就完事。	用
1283	1936	6	p.533	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	人们如果看过我的文章，如果不以徐懋庸他们解释“国防文学”的那一套来解释这口号，如聂绀弩等所致的错误，那么这口号和宗派主义或关门主义是并不相干的。	看
1284	1936	6	p.534	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	所谓言者，是发表过四五篇文章，此外，至多对访问者谈过一些闲话，对医生报告我的病状之类；	发表
1285	1936	6	p.534	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	所谓言者，是发表过四五篇文章，此外，至多对访问者谈过一些闲话，对医生报告我的病状之类；	谈
1286	1936	6	p.534	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	所谓行者，比较的多一点，印过两本版画，一本杂感，译过几章《死魂灵》，生过三个月的病，签过一个名，此外，也并未到过咸肉庄或赌场，并未出席过什么会议。	印
1287	1936	6	p.534	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	所谓行者，比较的多一点，此外，也并未到过咸肉庄或赌场，并未出席过什么会议。	译
1288	1936	6	p.534	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	所谓行者，比较的多一点，印过两本版画，一本杂感，译过几章《死魂灵》，生过三个月的病，签过一个名，此外，也并未到过咸肉庄或赌场，并未出席过什么会议。	生//病
1289	1936	6	p.534	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	所谓行者，比较的多一点，印过两本版画，一本杂感，译过几章《死魂灵》，生过三个月的病，签过一个名，此外，也并未到过咸肉庄或赌场，并未出席过什么会议。	签//名
1290	1936	6	p.534	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	所谓行者，比较的多一点，印过两本版画，一本杂感，译过几章《死魂灵》，生过三个月的病，签过一个名，此外，也并未到过咸肉庄或赌场，并未出席过什么会议。	到

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

1291	1936	6	p.534	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	所谓行者，比较的多一点，印过两本脱画，一本杂感，译过几章《死魂灵》，生过三个月的病，签过一个名，此外，也并未到过成肉庄或赌场，并未出席过什么会议。	出席
1292	1936	6	p.535	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	最阴险的则是同报在去年冬或今年春兴，登过一则花边的重要新闻：	登
1293	1936	6	p.535	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	这两个青年就是事实证明了他们就没有像穆木天等似的做过堂皇的悔过的文章，也没有像田汉似仍在南京人演其戏。	做
1294	1936	6	p.535	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	但他明明是有为的青年，他没有参加过任何反对抗日运动或反对过统一战线，这是纵使徐懋庸之流用尽心机，也无法抹杀的。	参加
1295	1936	6	p.535	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	但他明明是有为的青年，他没有参加过任何反对抗日运动或反对过统一战线，这是纵使徐懋庸之流用尽心机，也无法抹杀的。	反对
1296	1936	6	p.536	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	黄源未尝作文译我，也没有给我做过传，	做
1297	1936	6	p.536	且介亭杂文 未编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题	黄源“奔走于傅郑门下之时，一副语低之相”，徐懋庸大概是奉命知道的了，但我不知道，也没有见过，	见
1298	1936	6	p.552	且介亭杂文 未编	曹靖华译《苏联作家七人集》序	曾经有过这样的一个人时候，宣传有好几位名人都要译《资本论》，自然依据着原文，但有一位达要参照英，法，日，俄各国的译本。	有
1299	1936	6	p.553	且介亭杂文 未编	曹靖华译《苏联作家七人集》序	靖华是未名社中之一员；未名社一向设在北京，也是一个实地劳作，不尚叫器的小团体。但还是有遭些无妄之灾，而且遭得颇可笑。它被封过一次，是由于山东警卒张宗吕的电报，听说发动的倒是同行的文人；	闭
1300	1936	6	p.557	且介亭杂文 未编	因太炎先生而想起的一件事	清光绪中，曾有康有为者变过法，不成，作为反动，是义和团起事，而八国联军遂入京，这年代很容易记，是恰在一千九百零年，十九世纪的结束。	变//法
1301	1936	6	p.579	且介亭杂文 未编	我的第一个师父	出家人受了大戒，从沙弥升为和尚，正和我们在家人行过冠礼，由童子而为成人相同。	行//礼
1302	1936	6	p.580	且介亭杂文 未编	我的第一个师父	只记得三师兄曾经不得已而给我几个，有些实在打得精奇，有些则打好之后，浸过水，还用剪刀柄之类砸头，使和尚无法解散。	浸

217

資料⑤  
第2章例文：鲁迅著作における“過”の使用例(1898-1937)  
例文出典は、《鲁迅全集》参照。

1303	1936	6	p.584	且介亭杂文 未编	《海上述林》下卷序言	只有《没工夫唾骂》曾批评者自己校过的印本改正几个错字。	校
1304	1936	6	p.588	且介亭杂文 未编	答托洛斯基派的信	这次不是因为从前你们中曾有人跟着别人骂过我拿卢布，现在就来这一手以报复。	骂
1305	1936	6	p.596	且介亭杂文 未编	半夏小集	B: 什么话!我一生没有说过谎，我不是这种靠不住的人!	说
1306	1936	6	p.596	且介亭杂文 未编	半夏小集	A: 我那时对你说过，要到西湖上去做一万行的长诗，直到现在，一个字也没有，哈哈哈!	说
1307	1936	6	p.597	且介亭杂文 未编	半夏小集	B: 唔，无所谓失不失望，因为我根本没有相信过你。	相信
1308	1936	6	p.599	且介亭杂文 未编	“这也是生活”……	我也曾经有过两人这样的情形，但原因不同，他是做乏，我是病乏的。	有
1309	1936	6	p.600	且介亭杂文 未编	“这也是生活”……	在我是从来未曾享受过的。	享受
1310	1936	6	p.600	且介亭杂文 未编	“这也是生活”……	我想，强壮的，或者有福的人，恐怕也未曾享受过。	享受
1311	1936	6	p.602	且介亭杂文 未编	“这也是生活”……	我想，倘若用西瓜作比，讲过国耻讲义，却立刻又会高高兴兴的把这西瓜吃下，成为血肉的培养的人，这人恐怕是有些麻木。	讲
1312	1936	6	p.602	且介亭杂文 未编	“这也是生活”……	我没有当过义勇军，说不确切。	当
1313	1936	6	p.602	且介亭杂文 未编	“这也是生活”……	吃过西瓜，精神一振，战斗起来就和喉干舌敝时候不同，所以吃西瓜和抗战的确有关系，仙和应该怎样想的上海波定的战略，却是不相干。	吃

218

1314	1936	6	p.609	且介亭杂文 未編	死	我们曾见谁家生了小孩，胎里就穿着叫化子或是游泳家的衣服的吗？从来没有。这就好，从新来过。也许有人要问，既然相信轮回，那就不定来生会堕入更穷苦的景象，或者简直是畜生道，更加可怕了。	来
1315	1936	6	p.610	且介亭杂文 未編	死	三十年前学医的时候，曾经研究过灵魂的有无，结果是不不知道；又研究过死亡是否苦痛，结果是不一律，后来也不再深究，忘记了。	研究
1316	1936	6	p.610	且介亭杂文 未編	死	三十年前学医的时候，曾经研究过灵魂的有无，结果是不不知道；又研究过死亡是否苦痛，结果是不一律，后来也不再深究，忘记了。	研究
1317	1936	6	p.611	且介亭杂文 未編	死	我也没有请他开方，因为我想，他的医学从欧洲学来，一定没有学过给死了五年的病人开方的法子。	学
1318	1936	6	p.611	且介亭杂文 未編	死	我只想到过写遗囑，以为我倘曾贵为宫保，富有千万，儿子和女婿及其他一定早已逼我写好遗囑了，现在却谁也不提起。	想到
1319	1936	6	p.613	且介亭杂文 未編	死	当时上海的一家书店，李小峰主持，曾出版过鲁迅著译多种。	出版
1320	1936	6	p.614	且介亭杂文 未編	女吊	横死的鬼魂而得到“神”的尊号的，我还没有发见过第二位，则其受民众之爱戴也可想。	发见
1321	1936	6	p.615	且介亭杂文 未編	女吊	也许我在别处已经写过。	写
1322	1936	6	p.615	且介亭杂文 未編	女吊	所以凡内行人，缓缓的吃过夜饭，喝过茶，闲闲而去，只要看挂着的帽子，就能知道什么鬼神已经出现。	吃
1323	1936	6	p.615	且介亭杂文 未編	女吊	所以凡内行人，缓缓的吃过夜饭，喝过茶，闲闲而去，只要看挂着的帽子，就能知道什么鬼神已经出现。	喝
1324	1936	6	p.616	且介亭杂文 未編	女吊	我在十余岁的时候，就曾经充过这样的义勇鬼，爬上台去，说明志愿，他们就给在脸上涂上几笔彩色，交付一柄钢叉。	充

1325	1936	6	p.624	且介亭杂文 未編	“立此存照”(三)	我看过关于冯史丹墓的文章，就去翻阅前一天的，十九日的报纸，也没有什么体面事，现在就剪两条电报在这里；	看
1326	1936	6	p.634	且介亭杂文 未編	“立此存照”(七)	只有“幼稚园生专刊”和“婴儿专刊”，我还没有看见过。	看见

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

通番	発表年	巻数	頁数	大題	小題	例文	前接語	日本語対訳(一部)	日本語参照出典頁
1	1903	①	p.7	月界旅行		凡读过世界地理同历史的，都晓得有个亚美利加的地方。	读		
2	1903	①	p.7	月界旅行		当初设立时，并不托官绅势力，也不借高商巨资；单是一个大炮发明家，同几个铸铁师，商量既定，又招一个钻手，立下这轮炮会社的基石，行过开社的仪式。	行		
3	1903	①	p.8	月界旅行		“如此快事，那里还有呢！虽然遇着过愉快的时候，谁料半途中竟把战争中止了。	遇着		
4	1903	①	p.10	月界旅行		对台下大众行过礼，把手按在几上，默然停了一会，便朗朗的说道：	行//礼		
5	1903	①	p.11	月界旅行		再往前说，则一千六百四十九年，有法国人波端，曾做过一册《西班牙大胆者公右力子氏月界旅行》。	做		
6	1903	①	p.12	月界旅行		从纪元到今日，连同月界结个条约的也没见过。	见		
7	1903	①	p.12	月界旅行		过一会，渐渐解过演说的意思，不觉又霹雳似的拍手喝采起来，把好大会堂，震得四壁飒飒乱动。	解		
8	1903	①	p.14	月界旅行		英商没奈何，谢过众人，改了关目，却奉承起来，倒获了大利。	谢		
9	1903	①	p.17	月界旅行		社长道：“我们已说过烦词，该研究实事了。”	说		
10	1903	①	p.17	月界旅行		故从古迄今，经验过的速力，不可不详细说明。	经验		
11	1903	①	p.18	月界旅行		从前一千四百五十三年，喀哈默德二世，围孔泰潘波儿的时候，曾用过重量一千九百磅的石弹丸。	川		
12	1903	①	p.19	月界旅行		说毕，大家行过礼，退会出来，早已红日沉山，烟雾四起了，按下不表。	行//礼		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

13	1903	①	p.20	月界旅行		至于吸力呢，从前已说过，弹丸重量，与去地距离为逆比例，渐渐减轻，譬如有一件物体，全不加以而落于地面，则一秒时，落下五尺；	说		
14	1903	①	p.22	月界旅行		前回说过，弹丸大小，及大炮长短，不费两日工夫，都已议定，所缺的只有硝药问题了。	说		
15	1903	①	p.22	月界旅行		惟从前希腊国曾用过硝石与硫黄和合的烟火，却是史上确据，普普可信的。	用		
16	1903	①	p.22	月界旅行		他说道：“余先把经验过的事业，略举一二，做个计算的基础罢。如旧制二十四磅弹丸，是川火药百六十一磅发射的。”	经验		
17	1903	①	p.22	月界旅行		我在独立战争时，实是试验过的：	试验		
18	1903	①	p.31	月界旅行		前回虽说转过大炮的盛况，然而毕竟能否成功，却非经许多时日	说		
19	1903	①	p.60	月界旅行		后，不能确定。	见		
20	1903	①	p.70	地底旅行		列曼最终日提心吊胆，坐立不安，到第二日清晨，已不可耐，便骑了马，跑至望远镜建设处，见过可长，叹道：			
21	1903	①	p.74	地底旅行		亚葛士检点过行李，列曼从怀中取出一封介绍信，说道：“这是我故乡刚勃迎的驻扎领事丁扶国的芬烈兼练长写的。”	检点		
22	1903	①	p.75	地底旅行		此时送行之人，已拥挤了满屋，列曼也不暇应酬，只管摒挡一切，检了各种器械，及磁石，显微镜，轻便电光灯等，并六个月的食品，装入马车，与诸人作过别，跨马登程。	作//别		
22	1903	①	p.75	地底旅行		列曼怒道：“你平日的学问都忘了么？不信我的话么？我已说过，不会错的。”	说		

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、『参考文獻目録』参照。

23	1903	①	p.75	地底旅行	列曼道：“这不是已经喷火过的凭据么？决无危险的！”	喷火	
24	1903	①	p.78	地底旅行	忽然埋怨道，“我久已说过，多带些水来，而叔父偏说地中必有石泉，不消携去。今我们已走了这许多日子，可有 一滴石泉看见么？此番便不烧死，也一定要渴死的了。”	说	
25	1903	①	p.90	地底旅行	列曼大喜道：“好极！好极！待我到过地底，然后回家，还可招亲戚故旧，钁窠还不可多的珍物哩！不是么？亚露士？”	到	
26	1903	①	p.100	地底旅行	行过礼，自然是休憩片刻，再说地底情形。	行//礼	
27	1903	①	p.100	地底旅行	亚露士也笑道：“是了，我等过列曼游时，不是遇着照风怪火么？那团怪火，吸着铁器，直奔瓮中，磁针方向，便在此时变的。”	等	
28	1919	①	p.308	一个青年的梦	不知道也好罢。你不愁没有饭吃；除了做梦，也没有遇着过死。	遇着	『武者小路实篤全集』第3卷, p.241
29	1919	①	p.308	一个青年的梦	也没有见你川功；你所想的事，也没有出过或 范围以外。	出	『武者小路实篤全集』第3卷, p.241
30	1919	①	p.313	一个青年的梦	在法国的插画杂志上见过的。	见	『武者小路实篤全集』第3卷, p.252

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、『参考文獻目録』参照。

31	1919	①	p.318	一个青年的梦	你乘摩头的时候，才触着了片鳞，只是连爱人也沒有通知过我的一种喜悦。	通知	『武者小路实篤全集』第3卷, p.266
32	1919	①	p.319	一个青年的梦	就是我们里面，谁也未必想到过自己是要战死的人。	想到	『武者小路实篤全集』第3卷, p.269
33	1919	①	p.320	一个青年的梦	没有战死的人，还有不担负伤而活着的人，大约总将战场上经验过的情形当作 场醒后的恶梦，而且还作为 一种话柄的。	经验	『武者小路实篤全集』第3卷, p.269
34	1919	①	p.323	一个青年的梦	我还有五岁以下的三个孩子，留在地上，委实不愿教他们再尝自己尝过的味道了。	尝	『武者小路实篤全集』第3卷, p.277

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、『参考文献目録』参照。

35	1919	①	p.330	一个青年的梦		解決也有过的。耶稣释迦以来，许多人都下过解决。只是人们还没有实行这解决的力量就是了。	有	解決はついでにあるの 始めいろ／＼の人が 既に解決はつけてゐ ます。しかし人々は まだその解決を實行 する力はないので す。	『武者小路実篤全集』第3卷, p.295
36	1919	①	p.330	一个青年的梦		解決也有过的。耶稣释迦以来，许多人都下过解决。只是人们还没有实行这解决的力量就是了。	下	解決はついでにあるの 始めいろ／＼の人が 既に解決はつけてゐ ます。しかし人々は まだその解決を實行 する力はないので す。	『武者小路実篤全集』第3卷, p.295
37	1919	①	p.330	一个青年的梦		也未必无从措手罢。许多人都错过手了。	措//手		
38	1919	①	p.331	一个青年的梦		你没有想过的事，谁也没有想听呢。	想		
39	1919	①	p.337	一个青年的梦		可是肚子饿了。历来没有这样饿过。	饿		
40	1919	①	p.339	一个青年的梦		我从来没有这样饿过。	饿		
41	1919	①	p.339	一个青年的梦		不还是一双没有作过工的手么？	作//工		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、『参考文献目録』参照。

42	1919	①	p.342	一个青年的梦		就是我，也从美人的手里喝过水，喝过酒，拿了触过美人的嘴唇的杯子，战战兢兢的心跳着，送到过自己的嘴边的。	喝		
43	1919	①	p.342	一个青年的梦		就是我，也从美人的手里喝过水，喝过酒，拿了触过美人的嘴唇的杯子，战战兢兢的心跳着，送到过自己的嘴边的。	喝		
44	1919	①	p.342	一个青年的梦		就是我，也从美人的手里喝过水，喝过酒，拿了触过美人的嘴唇的杯子，战战兢兢的心跳着，送到过自己的嘴边的。	触		
45	1919	①	p.342	一个青年的梦		就是我，也从美人的手里喝过水，喝过酒，拿了触过美人的嘴唇的杯子，战战兢兢的心跳着，送到过自己的嘴边的。	送到		
46	1919	①	p.343	一个青年的梦		你以前不说过“为不爱的个人劳动有些傻气，”这类意思的话么？	说		
47	1919	①	p.344	一个青年的梦		我曾经想做过不肯自然的结婚，想和我真心所爱并且爱我的人结婚的，而且以为已经有了这样的女人了。	想做		
48	1919	①	p.345	一个青年的梦		而且那个乞丐，是有过立即捕拿的命令的。	有	それにあの乞食は棒 につかまへろと云ふ 命令が下つてゐるの です。	『武者小路実篤全集』第3卷, p.331
49	1919	①	p.345	一个青年的梦		和你说过些什么话罢。	说		

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

50	1919	㊦	p.350	一个青年的梦		从不知道什么，受过“在这世間做了该做的事来”的命令的。	受	
51	1919	㊦	p.356	一个青年的梦		他出門不到三日，我就小心着用了看不出暗地开过的方法，悄悄的开了。	开	
52	1919	㊦	p.364	一个青年的梦		你已经见过了。	见	
53	1919	㊦	p.364	一个青年的梦		见过什么？	见	
54	1919	㊦	p.367	一个青年的梦		那命令的内容，可曾想过么？	想	
55	1919	㊦	p.369	一个青年的梦		你不是也被人说过坏话么。	说	
56	1919	㊦	p.373	一个青年的梦		没有失掉过孩子的人，不能知道我的心。	失掉	
57	1919	㊦	p.374	一个青年的梦		说我的儿子战死是名誉，高兴过的村长，从那边来了。	高兴	
58	1919	㊦	p.374	一个青年的梦		我也曾对着许多人，说过这是为国家，只要一想国家灭亡，我们将怎样便送儿子去战争，也没有法子这些苦的。	说	
59	1919	㊦	p.375	一个青年的梦		曾经说说过若不战争便是国耻的。	说	
60	1919	㊦	p.375	一个青年的梦		我听过你的演说，说是即使我们都死，也不可不战的。	听	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

61	1919	㊦	p.381	一个青年的梦		从来没有遇到过这般打兴的事呵。	遇到	
62	1919	㊦	p.384	一个青年的梦		你先前不是说，下级的坏话谁都说过么？	说	
63	1919	㊦	p.384	一个青年的梦		说过的。	说	
64	1919	㊦	p.398	一个青年的梦		英人到你这儿谈过事没有？	谈	
65	1919	㊦	p.398	一个青年的梦		谈过了。	谈	
66	1919	㊦	p.404	一个青年的梦		先前已经说过，那小了是靠不住的。	说	
67	1919	㊦	p.421	一个青年的梦		听过你的话，便放心了。	听	
68	1919	㊦	p.423	一个青年的梦		英大虽然说过大话，不远的却要觉到义勇兵的仅是前线而无实用，一定另外设些什么口实，采用那强制征兵主义了；那时候的一副正经验才好着呢。	说	
69	1919	㊦	p.423	一个青年的梦		我的国里出过怎样的哲学者，音乐家，诗人，科学家，医学家，他们都装着忘掉了的脸，想从人类的历史上，抹去了我为人类尽力的功勋；	出	
70	1919	㊦	p.430	一个青年的梦		这一位平和女神，是先前会见过的。	见	
71	1919	㊦	p.430	一个青年的梦		就是曾经用了手枪吓过你的人。	吓	

資料⑥  
第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)  
例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。  
日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

72	1919	①	p.430	一个青年的梦			怎样做,连我也不知道;但梗概自然是接洽过的。	接洽	
73	1919	①	p.431	一个青年的梦			我的好朋友空气也说过。	说	
74	1920	①	p.142	工人绥惠略夫			“六十五年以来,舍尔该·伊凡诺薇支,我活在这个世界上,什么人都见过了。看的眼睛都要瞎了;”伊普薇的痛嘴说,又做了一个不平的手势。	见	
75	1920	①	p.145	工人绥惠略夫			“我知道。我已经读过了。先前没有想到,现在记起你的名字来了。你写的是农民生活。我记得的。”	读	
76	1920	①	p.152	工人绥惠略夫			“我们也知道……自然的,倘若没有工作……那有这许多工作呢。可是支持不住了……我们饿死……但只要我们能够向技师普斯多复多夫(Pustovojtov)说……这位先生前回应许过我们,查查的……可不……”	应许	
77	1920	①	p.152	工人绥惠略夫			“我对你们说过一百回了,”工头发出似带德国腔调的声音说,这是先前所没有听到过的,但却不很响:“技师管不着这些事!”	说	
78	1920	①	p.152	工人绥惠略夫			“我对你们说过一百回了,”工头发出很带德国腔调的声音说,这是先前所没有听到过的,但却不很响:“技师管不着这些事!”	听到	
79	1920	①	p.152	工人绥惠略夫			“菲妮尔·别罗薇支,”老人绝望的叫道:“你开恩罢……便是我……我却也总是好好的做过的呵。”	做	
80	1920	①	p.158	工人绥惠略夫			灰尘,潮湿,伤风,又常常是爆发……我们的矿里爆发过两回,一回死了十八个人,又一回是二百八十二个……	爆发	

資料⑥  
第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)  
例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。  
日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

81	1920	①	p.159	工人绥惠略夫			“哦……我先前说过,坑口前面架起了机关枪。”	说	
82	1920	①	p.161	工人绥惠略夫			大约是,他该是刚才吃过午餐,于是来吸些新鲜空气,使他清足的兴味更加得到愉快,并且饱看标致女人的脸,藉此扒搔他因为吃饭而兴奋的神经。	吃	
83	1920	①	p.163	工人绥惠略夫			“我们怎么办才好呢?你可曾想过没有,你这呆了,你这零落的!”伊绝望着睁开喉咙的喊。	想	
84	1920	①	p.164	工人绥惠略夫			“你应该想到!应该!……别人许没有肝俄的人口背在他们的脊梁上……你有什么权利,为了别人去冒险呢?你可曾问过我们?你可曾问过孩子们,他们可愿意为了你的俄国去俄死么?你问了他们没有?……”	问	
85	1920	①	p.164	工人绥惠略夫			“你应该想到!应该!……别人许没有肝俄的人口背在他们的脊梁上……你有什么权利,为了别人去冒险呢?你可曾问过我们?你可曾问过孩子们,他们可愿意为了你的俄国去俄死么?你问了他们没有?……”	问	
86	1920	①	p.170	工人绥惠略夫			他不被理解的事,在他是无从测想了,第一是在这人,很久的和他生活过,爱他,信他,不解他。	生活	
87	1920	①	p.173	工人绥惠略夫			“他全没有看过书,玛克希摩跳。我问他:你可喜欢契河夫么?他回答说:我们做事忙的,没有工夫弄这玩意儿……”	看	
88	1920	①	p.179	工人绥惠略夫			向来他只在教堂里见过阿伦加,或者伊到自己的店里来,但也只是瞬间的事。	见	
89	1920	①	p.179	工人绥惠略夫			“我?不用什么……”阿伦加精致的对付,这时伊全身上都感得,伊被这丑陋的细小的眼睛剥下衣服而且舔过了。	舔	



## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

90	1920	①	p.184	T.人 绥惠略夫		“我从来只是一分时。儿句话……”绥惠略夫说，他坐到桌边，在阿伦加先前坐过的位置上，就了坐。	坐	
91	1920	①	p.188	工人 绥惠略夫		这是那女人，是他曾经爱过而已经去了的，去的地方，如他所想，又是再不归来的所在了。	爱	
92	1920	①	p.197	工人 绥惠略夫		“那就这样的……为要救出别人，毁了自己么？……但是，我已经对他们说过！我恳求过他们，他们应该给我安稳才对……现在他们还有什么权利，可以仰仗我呢！……”	说	
93	1920	①	p.197	工人 绥惠略夫		“那就这样的……为要救出别人，毁了自己么？……但是，我已经对他们说过！我恳求过他们，他们应该给我安稳才对……现在他们还有什么权利，可以仰仗我呢！……”	恳求	
94	1920	①	p.197	T.人 绥惠略夫		“劳你驾，你只要开一下就是了！”叫着一个没有听到过的声音，柔媚的但又非常凶险的响。	听到	
95	1920	①	p.198	T.人 绥惠略夫		“冤犯你们，我用过你们的娘！”亚拉借夫转脸向了房门，发狂似的咆哮说，一面将那纸张，虽然也只是出于本能的，却还在不住的撕成碎片。	川	
96	1920	①	p.201	工人 绥惠略夫		车道上停着一辆赤十字会的马车，那通红的苦痛的象征，正在不苍语言而说明这里演过了可怕的悲剧。	演	
97	1920	①	p.201	工人 绥惠略夫		“正不是胡涂！但是，早说过，他本来没有被搜，警察亦不知道他，到后来才明白的。”	说	
98	1920	①	p.201	T.人 绥惠略夫		伊那描画过的眼睛因为好奇发了光，温柔的面庞转了苍白了。	描画	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

99	1920	①	p.206	T.人 绥惠略夫		这里住过那别样的，在岸的涂饰的人。在这一室里，或是还睡过娇惰的豪华的贵女，遍身裹着花毅与麻绸，一这是美与亨川的大观了，这只能在剥削那吸血餐尸的累上的制度，那多年的似乎不可动摇的制度这一片地面上，才能够发荣滋长起来。但现在却给新主人的贪婪的手所毁坏了，（以下略）	住	
100	1920	①	p.206	T.人 绥惠略夫		这里住过那别样的，在岸的涂饰的人。在这一室里，或是还睡过娇惰的豪华的贵女，遍身裹着花毅与麻绸，一这是美与亨川的大观了，这只能在剥削那吸血餐尸的累上的制度，那多年的似乎不可动摇的制度这一片地面上，才能够发荣滋长起来。但现在却给新主人的贪婪的手所毁坏了，（以下略）	睡	
101	1920	①	p.208	T.人 绥惠略夫		那后面还闪着未曾见过的光明，响着声音。	见	
102	1920	①	p.211	工人 绥惠略夫		他用了没有声音的举动，抽身退回，跑出木料堆的后面，轻轻跳上屋檐，又向着材料场，那他曾走过一次的，跳了下去。	走	
103	1920	①	p.257	现代小说译丛 (第一集)	幸福	伊已经不得觉得寒冷，只在伊所有的股节里，都有一种未尝经历过的衰弱，不快，沉闷的颤抖，和拉升。	经历	
104	1920	①	p.257	现代小说译丛 (第一集)	幸福	伊俯俯的摸若打过的湿的处所，去穿伊的衣裳。	打	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

105	1920	①	p.258	现代小说译丛 (第一集)	幸福	凡有太饱的以及饿过的人们，自己一想，至少在精神上，曾否因为生存而取过这类的娱乐与娱乐过路人，只要脑子清楚的，一定会觉得战栗！	饿		
106	1920	①	p.258	现代小说译丛 (第一集)	幸福	凡有太饱的以及饿过的人们，自己一想，至少在精神上，曾否因为生存而取过这类的娱乐与娱乐过路人，只要脑子清楚的，一定会觉得战栗！	取		
107	1920	①	p.258	现代小说译丛 (第一集)	幸福	……而且路人也并非幸福者，别将将他作为娱乐的资料的人。凡有太饱的以及饿过的人们，自己一想，至少在精神上，曾否因为生存而取过这类的娱乐与娱乐过路人，只要脑子清楚的，一定会觉得战栗！	娱乐		
108	1920	⑧	p.78	译文补编	祭拉图斯忒拉的序言	我教你们超人！人是一件东西，该被超越的，你们为要超越他，可曾做过什么了？	做		
109	1920	⑧	p.78	译文补编	祭拉图斯忒拉的序言	你们做过猴子，到了现在，人还尤其猴子，无论比那一个猴子。	做		
110	1921	①	p.219	现代小说译丛 (第一集)	黯黯的烟霭里	人向没有叫过他的名字，却只简单的称一个“他”，大家整口的悬念他，所以给了不定的称呼当作本名，也从没有人问是谁氏。	叫		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

111	1921	①	p.222	现代小说译丛 (第一集)	黯黯的烟霭里	“二千卢布，”安那没有开过口，这时很悻悻似的回答了，又悻悻的“看亚历山大人的腿。”	开//口		
112	1921	①	p.222	现代小说译丛 (第一集)	黯黯的烟霭里	菲诺于是到浴室去的；他洗浴之后喝了一点酒，刚回家，听得使女说，他曾经一同骑着马游戏过的那小主人已经回来了。	游戏		
113	1921	①	p.223	现代小说译丛 (第一集)	黯黯的烟霭里	菲诺半到得大门，立了片刻，感动的看着尼古拉握过的手，然后仿佛是一件沉重的东西一般，被小心谨慎的带进下房去了。	握		
114	1921	①	p.223	现代小说译丛 (第一集)	黯黯的烟霭里	“我听见你有外国的钱币；——你到过外国了么？”	到		
115	1921	①	p.224	现代小说译丛 (第一集)	黯黯的烟霭里	他向来没有坠落过一件东西，不是照旧的放在原位置上，但倘使他的手触那美丽的雕塑，这雕塑在他走后便立即失了精神，全无价值的站若。	坠落		
116	1921	①	p.226	现代小说译丛 (第一集)	黯黯的烟霭里	“是专枪富翁的，”菲诺于接着订正说。——当尼古拉还是孩子时候，曾经说过，他听得，有着这一种强盗的。	说		
117	1921	①	p.239	现代小说译丛 (第一集)	连翘	契里珂夫（Evgeni Tshirikov）的名字，在我们心目中还很生疏，但在俄国，却早算一个契诃夫以后的知识分子的代表著作者，全集十七本，已经重印过几次了。	重印		
118	1921	①	p.241	现代小说译丛 (第一集)	省会	我所坐的那汽船，使我胸中起了剧烈的搏斗，驶近我年青时候曾经住过的，一个小小的省会的埠头去了。	住		
119	1921	①	p.241	现代小说译丛 (第一集)	省会	自己曾经带了钓鱼具，徘徊过，焚过火，捉过蟹的秘熟的处所，已经看得见了。	徘徊		
120	1921	①	p.241	现代小说译丛 (第一集)	省会	自己曾经带了钓鱼具，徘徊过，焚过火，捉过蟹的秘熟的处所，已经看得见了。	焚		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

121	1921	①	p.241	现代小说译丛 (第一集)	省会	自己曾经带了钓鱼具，徘徊过，熬过火，捉过蟹的秘熟的处所，已经看得见了。	捉	
122	1921	①	p.241	现代小说译丛 (第一集)	省会	奇怪……而且正坐在自己曾经坐过的处所。	坐	
123	1921	①	p.241	现代小说译丛 (第一集)	省会	我们住过的家，还完全的前着么？	住	
124	1921	①	p.241	现代小说译丛 (第一集)	省会	我于是很想一见我和父母一同住过的，围着碧绿的树篱的老家。	住	
125	1921	①	p.242	现代小说译丛 (第一集)	省会	“我到谁的家里去么？我不知道。我到现在是谁的家里都不去。曾经见过午声时候的我的这凄凉萧索的省会呵，我是到你这里来的，我们还该大家相识罢。”	见	
126	1921	①	p.243	现代小说译丛 (第一集)	省会	“也不，单是来看看的。我先前在这里居住过。忽然想起来，要到这里来看看了。……”	居住	
127	1921	①	p.244	现代小说译丛 (第一集)	省会	“你可曾恋过谁没有？”	恋	
128	1921	①	p.247	现代小说译丛 (第一集)	省会	谷的那一岸的山上，就该有我们住过的房屋了。	住	
129	1921	①	p.249	现代小说译丛 (第一集)	省会	我心里很迟疑；几次走过这家的门前，进了小路，从离回去辎院落。我在这院落里，曾经就树上吃过坚硬的多汁的果实。	吃	
130	1921	①	p.261	现代小说译丛 (第一集)	医生	他自己内中排定，那警厅长是被犹太人白卫队的一个团员打伤的，据医生所知道，那哥萨克兵，曾经奉了他的命令，射击过他们。	射击	
131	1921	①	p.262	现代小说译丛 (第一集)	医生	“马是都在路上上了。在全市里寻医生，我本想给先生叫一辆马车，然而他们，这鬼，全都藏起来了。”巡警用了较为活泼的仔细想过的音调说。	想	

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

132	1921	①	p.263	现代小说译丛 (第一集)	医生	他只看见，宪兵官正是那一个，是近日来搜查过他所住的。	搜查	
133	1921	①	p.263	现代小说译丛 (第一集)	医生	伊长得漆黑的，哭过的因此显得非常大大的眼睛；伊的柔软的【字+頁】颈全仰在衣领的花边线条的外面。	哭	
134	1921	①	p.269	现代小说译丛 (第一集)	医生	六七月以前他应过一个商人的邀请，这人得了轻的中风症了。	应	
135	1921	①	p.271	现代小说译丛 (第一集)	医生	“先生，你怎么了！我去邀谁呢？……我已经对你说过，……到处……只有你是唯一的……为什么？你自己欠康健么？”	说	
136	1921	①	p.279	现代小说译丛 (第一集)	战争中的威尔珂 一件事实	第二日早晨，兵官来巡逻，听过摩利希维那的报告，去了。	听到	
137	1921	①	p.281	现代小说译丛 (第一集)	战争中的威尔珂 一件事实	“你怎样打死他们呢？……你实在还没有战争过。……”	战争	
138	1921	①	p.284	现代小说译丛 (第一集)	战争中的威尔珂 一件事实	大半是这事使他发怒，就是从昨天早上起没有一点食物到过嘴里，……因为这不住的火，面包是不能运到库房的了。	到	
139	1921	①	p.287	现代小说译丛 (第一集)	疯姑娘	人并非历来叫伊“疯姑娘”。伊曾经以伊的名字赛拉赛林出过名，而且有过一时期，这个名字是使心胆跳动起来，精神也移到欢喜里。	出	
140	1921	①	p.287	现代小说译丛 (第一集)	疯姑娘	人并非历来叫伊“疯姑娘”。伊曾经以伊的名字赛拉赛林出过名，而且有过一时期，这个名字是使心胆跳动起来，精神也移到欢喜里。	有	
141	1921	①	p.287	现代小说译丛 (第一集)	疯姑娘	孩子们，那在街上游戏的，倘看见伊，便害怕，倘伊走过了，却又从后面叫道：“疯姑娘！疯姑娘！”先生们走过去，并不对伊看，还有妇女们，是伊给伊们做好了绣花帐幔的，使伊站在门口，而且慈善的点点头，倘伊收过工钱，深深的行了礼。	收	
142	1921	①	p.287	现代小说译丛 (第一集)	疯姑娘	再没有人想到，伊也曾经年青过，美丽过的。	年青	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

143	1921	①	p.287	现代小说译丛 (第一集)	疯姑娘	再没有人想到，伊也曾经年青过，美丽过的。	美丽	
144	1921	①	p.288	现代小说译丛 (第一集)	疯姑娘	赛拉到现在，倘伊一看照相，还充满着当时享用过的幸福的光辉。	享用	
145	1921	①	p.291	现代小说译丛 (第一集)	疯姑娘	这能么？伊的确未被邀请么？这类的事在伊是未曾有过的！	有	
146	1921	①	p.291	现代小说译丛 (第一集)	疯姑娘	伊觉得不幸而且寂寞。伊未曾感受过，也并不知道，伊须怎样的敷衍的忧愁。	感受	
147	1921	①	p.294	现代小说译丛 (第一集)	疯姑娘	但是伊也不能单恃文章作生活，却如伊的父亲曾经有过的一样，开了一个公司。	有	
148	1921	①	p.297	现代小说译丛 (第一集)	父亲在亚美利加	“或者这燕子见过父亲？”有一天，中间的孩子质问说，是一个女儿。	见	
149	1921	①	p.298	现代小说译丛 (第一集)	父亲在亚美利加	亚勒古阿是他的假名，本名菲兰兑尔（Alexander Filander），是一处小地方的商人，没有受过学校教育，但他用了自修工夫，竟达到很高的程度，在本乡很受尊重，而且是教有功于青年教育的。	受	
150	1921	①	p.448	爱罗先珂童话 集	狭的笼	这样的围墙，老虎是已经见过几百遍的罢。	见	
151	1921	①	p.448	爱罗先珂童话 集	狭的笼	而且，儿们跳跳过了这样的围墙，跳过羊与小牛的罢。	捕	
152	1921	①	p.450	爱罗先珂童话 集	狭的笼	“我确乎在什么地方见过这眼的，确乎，那优美的，悲哀的，因为恐怖而颤抖的眼……哦，有了。确乎是的。”	见	
153	1921	①	p.450	爱罗先珂童话 集	狭的笼	老虎悲哀的笑了。这眼，和老虎犯过许多回的烂的眼，是完全相像的。	捉	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

154	1921	①	p.456	爱罗先珂童话 集	狭的笼	老虎跳起来了，那胸脯是受不住的痛，那胸脯是燃烧着连自己也不知道的到现在未尝感着过的苦痛的热情。	感着	
155	1921	①	p.460	爱罗先珂童话 集	血的悲哀	“唉，这真害人呵，”母亲吐一口气说，“没有死，便不能到那个国里去，不是已经说过了么？”	说	
156	1921	①	p.469	爱罗先珂童话 集	池边	看这蝴蝶罢，他一生中，除却一些小沟呀小流呀之外，没有见过别的。	见	
157	1921	①	p.475	爱罗先珂童话 集	鹏的心	刚觉得空中发出声，从天空里，轰然间闪电似的飞下两匹伟大的雕——市人们从来没有见过的这么大的雕——来，抓了“雕的心”两弟兄，刚一抓，便又轰然间飞上天空去了。	见	
158	1921	①	p.477	爱罗先珂童话 集	春夜的梦	有一年的春天，这池塘曾经有过格外好看的事。	有	『エロシエンコ全集』1, p.76 ある年の春、この池がとくにきれいだつたこととがあります。
159	1921	①	p.479	爱罗先珂童话 集	春夜的梦	“沈丽如那金鱼的鳞的，在那里都没有见过。”然而山的精灵说。	见	
160	1921	①	p.484	爱罗先珂童话 集	春夜的梦	小姐谦恭的行过礼，说道：“我最讨厌百姓的男孩子。”	行// 礼	
161	1921	①	p.484	爱罗先珂童话 集	春夜的梦	男孩子也谦恭的行过礼，说道：“便是我，也并不喜欢什么贵族的姑娘呢。”	行// 礼	
162	1921	①	p.485	爱罗先珂童话 集	春夜的梦	他们略略行过礼，一个向右，一个向左，分了道回去了。	行// 礼	
163	1921	②	p.22	现代日本小说 集	沉默之塔	这令人以为从粗糙的画里取下了服饰一般的男子，昨天便在这大厅上，已经见过一回的了。	见	

## 資料⑤

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

164	1921	②	p.26	現代日本小説集	沈黙之塔	Strindberg (斯忒林培莪) 曾叙述过一位伯爵家的小姐和伊的父亲的书里的小使通情, 暗寓平民主义战胜贵族主义的意思。	叙述		
165	1921	②	p.27	現代日本小説集	沈黙之塔	如(Goethe (裴提), 虽然小, 做过一国的总理, 下至Disraeli (迭式来黎) 组织起内阁来, 行过帝国主义的政治之类, 是例外的; 多数却都要发过激的言论, 有不检的举动。	做		
166	1921	②	p.27	現代日本小説集	沈黙之塔	如(Goethe (裴提), 虽然小, 做过一国的总理, 下至Disraeli (迭式来黎) 组织起内阁来, 行过帝国主义的政治之类, 是例外的; 多数却都要发过激的言论, 有不检的举动。	行		
167	1921	②	p.27	現代日本小説集	沈黙之塔	George Sand (聊特) 和Engene Sue (修), 虽然和Leroux (勒卢) 合在一起, 宣传过共产主义, Freiligrath, Herwegh, Gutzkow (弗赖烈克拉德, 海慧克, 谷珂) 三个人, 虽然和马克思合在一起, 在社会主义的杂志上做过文章, 但文艺史家并不觉得有损于作品的价值。	宣传		
168	1921	②	p.27	現代日本小説集	沈黙之塔	George Sand (聊特) 和Engene Sue (修), 虽然和Leroux (勒卢) 合在一起, 宣传过共产主义, Freiligrath, Herwegh, Gutzkow (弗赖烈克拉德, 海慧克, 谷珂) 三个人, 虽然和马克思合在一起, 在社会主义的杂志上做过文章, 但文艺史家并不觉得有损于作品的价值。	做		
169	1921	②	p.27	現代日本小説集	沈黙之塔	聊本华是决绝了母亲, 对于政府所信任的大学教授说过坏话的东西。	说		
170	1921	②	p.70	現代日本小説集	三浦有衛門の最後	他到现在为止, 虽然偷过二三百柄刀, 但单是装饰便值银钱三四十枚的奇货, 却从来没有见过。	偷		
171	1921	②	p.70	現代日本小説集	三浦有衛門の最後	他到现在为止, 虽然偷过二三百柄刀, 但单是装饰便值银钱三四十枚的奇货, 却从来没有见过。	见		
172	1921	②	p.84	現代日本小説集	鼻子	也喝过老鸹脚爪煎出的汤; 鼻子上也擦过老鼠的粪。	喝		

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

173	1921	②	p.84	現代日本小説集	鼻子	也喝过老鸹脚爪煎出的汤; 鼻子上也擦过老鼠的粪。	擦		
174	1921	②	p.86	現代日本小説集	鼻子	待到取出第二回浸过的鼻子来看, 诚然, 不知什么时候已经缩短了。	没		
175	1921	②	p.86	現代日本小説集	鼻子	睡过一夜之后, 第二日早晨一开眼, 内供便首先去摸自己的鼻子, 鼻子也依然是短的。	睡		
176	1921	②	p.90	現代日本小説集	羅生門	上文也说过, 那时的京都是非常之衰微了;	说		
177	1921	⑧	p.95	译文补编	近代捷克文学概観	这精神蓬勃的写实家, 也如他的朋友哈累克一样, 给他的国人描摹出生疏的地域, 为他曾经旅行过的, 用了自然的新鲜, 活泼, 他的描写又调和上般盘去, 至于“纳卢达的才气”(Nerndas Esprnt) 在波希米亚成为口头语了。	旅行		
178	1921	⑨	p.95	译文补编	近代捷克文学概観	他也转向歌唱去; 最有名的是《阿特力锡与波什那》(Oldrich I Božena), 这是在波希米亚宝座上唱过的, 还有奇致幽探的《祖父的遗赠》。	唱		
179	1922	①	p.500	爱罗先珂童话集	为人類	然而住在学者的家里的人们和邻家的人们, 却早已听过了这惨痛的动物们的叫声, 无论从学者的实验室里发出怎样可怕怎样凄凉的声音来, 大家都还是一个无所动心的脸。	听		
180	1922	①	p.508	爱罗先珂童话集	为人類	当同志的人们开一个会给科学者作研究发表的纪念的时候, K氏曾在席上说过这样意思的话: “将这需用十年以上的工夫的大研究, 自己在极短的时间里便能成就者, 是全由自己家里所养出的奇的聪明的小狗的功劳。”	说		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、『参考文獻目録』参照。

181	1922	①	p.508	愛羅先河童話集	为人類	然而解剖过几千匹强壮的兽的我的手，无论如何，就不够打杀这一匹小小的狂大的力量了。	解剖		
182	1922	①	p.509	愛羅先河童話集	为人類	解剖学者低声说：“K是确凿为了实验，至少解剖了两个活的人，确凿。你听到过K的儿子和夫人的事罢？”	听到		
183	1922	①	p.509	愛羅先河童話集	为人類	“有的，从父亲那里听到过孩子还小不见，此后不久夫人也走了，是罢？”	听到		
184	1922	①	p.510	愛羅先河童話集	为人類	“K向孩子和夫人”父亲吃惊的凝视着我的脸。“就是向来说过，都不见了。”	说		
185	1922	①	p.510	愛羅先河童話集	为人類	“哼，这是那个科学者的话罢。你可曾问过他，他为了同样的事，白白杀死了多少人？”	问		
186	1922	①	p.511	愛羅先河童話集	为人類	“父亲，这是脏的！什么时候，父亲不是曾经自己想象亲手解剖过我么？”	解剖		
187	1922	①	p.513	愛羅先河童話集	世界的火攻	我怯怯的将眼光移在他那精细的刺过的脸上。	刺		
188	1922	①	p.514	愛羅先河童話集	世界的火攻	赛船和长跑竞走(Marathon race)的时节，我得到过许多回的金牌。	得到		
189	1922	①	p.529	愛羅先河童話集	小鸡的悲剧	“你有过恋爱么？”	有	『エロシエノンコ全集』2, p.113	「君は恋したことがある？」
190	1922	①	p.529	愛羅先河童話集	小鸡的悲剧	“并没有有过恋爱，但曾经吃过鲜儿。”	有	『エロシエノンコ全集』2, p.114	「恋したことはないけれど、鮎をたべたことがあるよ。」

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、『参考文獻目録』参照。

191	1922	①	p.529	愛羅先河童話集	小鸡的悲剧	“并没有有过恋爱，但曾经吃过鲜儿。”	吃	『エロシエノンコ全集』2, p.114	「恋したことはないけれど、鮎をたべたことがあるよ。」
192	1922	①	p.548	愛羅先河童話集	时光老人	我的北京并不是做些美的梦的所在；便是先前什么时候做过的美梦，也要给忘掉的了。	做		
193	1922	①	p.548	愛羅先河童話集	时光老人	想起先前和那墨斯科的东京的朋友们，一同到剧场，音乐会，社会主义者的集会这些地方去，夜里嚶嚶的闹过的事来，我就悲凉的叹息。	闹		
194	1922	⑧	p.113	译文补编	一篇很短的传奇	想来，你们该经验过你们孩子时代的事情的罢，一个飞蛾怎样的扑进火里去？	经验		
195	1922	⑧	p.118	译文补编	忆爱罗先河华希理君	口本海，四百九十海里的海路，在他一生中，恐怕是未尝经验过的艰辛的行程罢。	经验		
196	1922	⑧	p.120	译文补编	忆爱罗先河华希理君	我和爱罗先河君先后只见过两回面。	见		
197	1922	⑧	p.121	译文补编	忆爱罗先河华希理君	那时的演剧是《灾祸的杯》。“可怜的人类，可悯的社会，是从远的希腊，罗马的占时时候起，一直到今日，为要从压制者的手里，解放出白己来，好几回喝过很苦的很苦的灾祸的杯了。	喝干		
198	1922	⑧	p.121	译文补编	忆爱罗先河华希理君	希腊，罗马的奴隶是要从他的可怕的主人，法国的百姓是要从那可恶的贵族，还有，俄国的劳动者和农奴是要从那无限制的压制者，救出白己来，好几回挤了性命，喝干过很苦的很苦的灾祸的杯了。	喝干		

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、『参考文献目録』参照。

199	1922	⑧	p.121	译文补编	忆爱罗先珂华希理君	他说过这样的意思之后，更翻然一转，更翻然一转，论到思想古老的人们对于社会运动和劳动运动的想法，是怎样的颠倒了原因和结果。	说		
200	1923	①	p.519	爱罗先珂童话集	爱字的疮	而那人平野，什么时候又曾经做过战场的。	做		
201	1923	①	p.522	爱罗先珂童话集	爱字的疮	总之，照那人说过的话，给些报酬就是了。	说		
202	1923	①	p.525	爱罗先珂童话集	爱字的疮	一到了这国度里，我便又觉得总该一到那十年以前曾经住过的村庄去。	住		
203	1923	①	p.525	爱罗先珂童话集	爱字的疮	“看见曾经有过树林的大平原，便使我仿佛觉得人类和动物又挑中了这里开过战。”	有	かつて森であった大平原を見ると、人類と動物がふたたびこの場所をえらんで戦いをはじめたのではないかという気がしました。	『エロシエンコ全集』2, p.129
204	1923	①	p.525	爱罗先珂童话集	爱字的疮	“看见曾经有过树林的大平原，便使我仿佛觉得人类和动物又挑中了这里开过战。”	开//战	かつて森であった大平原を見ると、人類と動物がふたたびこの場所をえらんで戦いをはじめたのではないかという気がしました。	『エロシエンコ全集』2, p.129

## 資料⑦

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、『参考文献目録』参照。

205	1923	①	p.525	爱罗先珂童话集	爱字的疮	止走着，又仿佛走在十年以前曾和冬的社母一同走过的那廊下似的了。	走	そうして歩こうちに、十年前、あの冬のおばあさんといっしよに通つたあの廊下を、ふたたび歩いているような気がしました。	『エロシエンコ全集』2, p.129
206	1923	①	p.525	爱罗先珂童话集	爱字的疮	“十年前，”我又问，“祖母这里有过一个十二岁的哥儿票？”	有	私はまたたずねました。「十年前、おばあさんのところに十二歳になる坊やがいたでしよう？」	『エロシエンコ全集』2, p.130
207	1923	①	p.536	爱罗先珂童话集	红的花	但这国里的人们，虽然从一点先前来，即使各人都不幸，却总相信自己的国度是世界上最为幸福的国度，从来没有怀疑。	怀//疑		
208	1923	①	p.540	爱罗先珂童话集	红的花	“那是白的花，是染红的白的花……。那是白纸作的花……。那是用红颜色染过的纸的花。那是用原稿纸做的花，用红水染过的。”	染		
209	1923	①	p.540	爱罗先珂童话集	红的花	“那是白的花，是染红的白的花……。那是白纸作的花……。那是用红颜色染过的纸的花。那是用原稿纸做的花，用红水染过的。”	染		
210	1923	①	p.542	爱罗先珂童话集	红的花	哥儿很庄严的举了手，在那手里，便握着鲜血染过了似的通红的花。	染		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

211	1923	①	p.544	愛野先河童話集	紅の花	于是经我最先河过的红假面，便走近我的身边来了。	问		
212	1923	②	p.7	现代日本小说集	克莱睿先生	于是我定为一回七先令的比例，到月底一齐交，但有时也突然受过先生的催促。	受		
213	1923	②	p.8	现代日本小说集	克莱睿先生	先生穿白小衫和白领子，是从来没有见过的。	见		
214	1923	②	p.9	现代日本小说集	克莱睿先生	然而有过这样的事。	有	けれども斯んな事があつた。	『漱石近什四篇』p.149
215	1923	②	p.9	现代日本小说集	克莱睿先生	先前，惠德曾经到自己的家里来，逗留过多少时，	逗留		
216	1923	②	p.9	现代日本小说集	克莱睿先生	当初，初读那人的诗的时候，觉得有全不成东西的心情，但读过几遍，便逐渐有趣起来，终于并非常之爱读了。	读		
217	1923	②	p.9	现代日本小说集	克莱睿先生	但无论怎样抗议，在几十年前已经吵闹过的了，也不再有什么法。	吵闹		
218	1923	②	p.10	现代日本小说集	克莱睿先生	先生对于我，叹息过自己的字总太劣，很困窘。又说，你这面好得多了。	叹息		
219	1923	②	p.10	现代日本小说集	克莱睿先生	不宁惟是，曾经说道看这个罢，给我读过加在《哈谟列德》(Hamlet)上头的绪言。	读		
220	1923	②	p.10	现代日本小说集	克莱睿先生	也曾问过先生，已经有了刚密特(Schmidt)的《沙翁字典》了，却还做这样的书么？	问		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

221	1923	②	p.13	现代日本小说集	游戏	拂子的声音尤厉苦，木村也常常发过话，但改了一日，便又照旧了，不用那扎在拂子上的纸条拂，却用柄的一头拂的。	发//话		
222	1923	②	p.16	现代日本小说集	游戏	“近来，翻了一翻《太阳》，里面有些说你在衙门里的秩序的生活和艺术的生活，是正相反否，到底调和不调的这类话。见了么？”“见过。说的是坏乱风俗的艺术和官吏服务规则，并无调和的方法这等意思。”	见		
223	1923	②	p.19	现代日本小说集	游戏	木村虽然没有生过病，然而身材小，又瘦削，不被选去做征兵，因此未曾上过阵。	生//病		
224	1923	②	p.19	现代日本小说集	游戏	木村虽然没有生过病，然而身材小，又瘦削，不被选去做征兵，因此未曾上过阵。	上//阵		
225	1923	②	p.19	现代日本小说集	游戏	仙野人说过，虽曰壮烈的进击，其实有时也或躲在土袋后面爬上去的，这时记起来了。	说		
226	1923	②	p.19	现代日本小说集	游戏	插过八点的铃，暂时之后，课长出来了。	摇		
227	1923	②	p.20	现代日本小说集	游戏	娶过一回妻，不幸而走散了，平生因为什么机会冲突起来的时候，说道“你只在那虫愚弄我”，便是那细君的非难的人宗。	娶		
228	1923	②	p.32	现代日本小说集	与幼小者	正尽着忠义，却从周围的人受了极端的误解，而又在万不可辩解的情况中，在这般情况中的人所尝的心绪，我也尝过了许多回。	尝		
229	1923	②	p.32	现代日本小说集	与幼小者	吃过早饭，我红了眼，拖着中间有了硬核一般的头，走向小事的地方去。	吃		



## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

230	1923	②	p.32	现代日本小说集	与幼小者	然而病房已经空虚了，先前说过的老娘在屋角上，草草的挪当着讨得的东西，以及垫了和茶具。	说		
231	1923	②	p.33	现代日本小说集	与幼小者	只得和病儿开了枕，为了迄今未曾亲历过的高热而呻吟了。	亲历		
232	1923	②	p.33	现代日本小说集	与幼小者	给做了这烦恼而脚色的医生回去之后，见过你们的母亲的脸的我的记忆。	见		
233	1923	②	p.33	现代日本小说集	与幼小者	虽是女人，但气象超故而强健的你们的母亲，即使只有和我两人的时候，也可以说是从来没有给看过一回哭相，然而这时的泪，却拭了也只是奔流下来。	看		
234	1923	②	p.35	现代日本小说集	与幼小者	我曾在一篇创作里，描写过一个决计将妻子作为牺牲的男人的事。	描写		
235	1923	②	p.35	现代日本小说集	与幼小者	也没有比看见你们活泼的向我说过早上的一套话，于是跑到母亲的照像面前，快活的叫道“亲娘，早上好”的时候，更是骤然的直穿透我的心底里的时候了。	说		
236	1923	②	p.36	现代日本小说集	与幼小者	我爱过你们了，并且永远爱你们。	爱		
237	1923	②	p.38	现代日本小说集	阿末的死	不消说，在近来，连勤勤恳恳的做着手艺的大哥鹤吉的脸上，也浮出了不愉快的暗淡的影子，这有时到了吃过晚饭之后，也还是黏着没有消除。	吃		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

238	1923	②	p.40	现代日本小说集	阿末的死	[2]将布帛之类洗过，加了浆糊，贴在板上晾干，他们谓之张物。——译者注。	洗		
239	1923	②	p.40	现代日本小说集	阿末的死	和亡夫分手以前，嘴里没有唠叨过一句话，只是不住的做，病人有了繁烦的使唤的时候，也只沉默着，默默的给他办好了，但男人却似乎不高兴这模样，	唠叨		
240	1923	②	p.40	现代日本小说集	阿末的死	阿末虽然被宠爱，比较起来却要算不喜欢母亲的，有时从伊有些歪缠，母亲便烈火一般发怒，曾经有过抓起火筷，……径追到店向外边的事。	有	お末は愛せられて居る割合に母を好まなかつたから、時々は事を云つたりすると、母は火のやうに怒つて火箸などを取り上げて店先まで逐ひかけて来るやうな事があつた。	『有島武郎全集』第2巻，p.5
241	1923	②	p.41	现代日本小说集	阿末的死	收拾棚上时候，每每忽然寻出没有见过的或永久已忘却了的東西来，阿末和力三便满身个块的向角角落落里去寻觅。	见		
242	1923	②	p.46	现代日本小说集	阿末的死	哭过似的眼睛发了肿，充血的白眼闪闪的很有些怕人。	哭		
243	1923	②	p.47	现代日本小说集	阿末的死	“敬植，那里去了。为什么不死在那里的，喂。”给碰过一个小小的句子之后，于是说，“要他活着的力三偏死去，倒毙了也不打紧的你却长命。川不若你，滚出去！”	碰		
244	1923	②	p.49	现代日本小说集	阿末的死	鹤吉当动筷之前站起身来，走向祠堂前面，对着小小的白木牌位行过一个单是形式的礼，骤然成了极凄凉的心情。	行//礼		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、『参考文獻目録』参照。

245	1923	②	p.51	现代日本小说集	阿末の死	这天一清早，阿末到过一次姊姊这里来。	到		
246	1923	②	p.62	现代日本小说集	峡谷的夜	我跌倒的时候，抛了阳伞和搭在肩上的物件，是总须拾取回来的，加以想讨一杯水，来沾润这将近焦枯的喉咙，便去寻曾经见过的守型所。	见		
247	1923	②	p.63	现代日本小说集	峡谷的夜	“所以我对那男里的男人和老婆子，不知道叮嘱过多少回。那样的性质不好的狂人，倘若不小心，说不定会做出什么事、如果不是好好的严重的监禁起来，是不行的，我几次三番的说。谁料男人还是全不管，老婆子又齐高，虽然遮了房庄，也不过川些竹棚栏之类来搪塞，所以终于出了这样的事了。”	叮嘱		
248	1923	②	p.63	现代日本小说集	峡谷的夜	“总而言之，像刚才说过一样，因为是不意中跌倒的，所以我，将阳伞和东西都掉在那地方了，这可能猜想一点法么？”	说		
249	1923	②	p.64	现代日本小说集	峡谷的夜	巡警非常之巡逻，任练过了多少时，总不肯轻易说出一回去，我因此郑重的骂了骂，忌愿了许多回。	任兵		
250	1923	②	p.67	现代日本小说集	峡谷的夜	便不出的回过回去，只见那女人曾经上去过的树干下几乎甘下的道路，照在巡警的提灯里，横着一个乌黑的头。	上去		
251	1923	②	p.79	现代日本小说集	復讐の話	沉工在冒险的旅行中，也有过许多折磨夜杀盗杀山贼的事迹。	有	『菊池寛全集』第2卷，p.11	その上冒険的な旅行には夜盗を斬り山賊を殺す事などが多かった。
252	1923	②	p.81	现代日本小说集	復讐の話	他从来没有听说过称他父亲的名字时候，有人用了这样眷念的声音。	听到		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、『参考文獻目録』参照。

253	1923	⑧	p.124	译文补编	观北京大学学生演剧和燕京女校学生演剧的记	这样异样的习惯，先前是仿佛什么国度里都曾有的，	有		
254	1923	⑧	p.125	译文补编	观北京大学学生演剧和燕京女校学生演剧的记	而这一点，大学生诸君似乎不知道；他们似乎忘却了自己是最是人似的人，而反以为在什么地方(在拙劣的戏园里吧)见过的优伶是最近于人	见		
255	1923	⑧	p.126	译文补编	观北京大学学生演剧和燕京女校学生演剧的记	然而大学生诸君却又并非单是学女人，还在学那什么地方(在拙劣的戏园吧)见过而扮女入的旦角，这可真是当不住，决不能坦然的听下去的了。	见		
256	1923	⑧	p.126	译文补编	观北京大学学生演剧和燕京女校学生演剧的记	这或者是女学生诸君并没有大学生诸君似的见过较多的无聊的优伶，所以模仿优伶的样子这一种诱惑，因此并不强烈，也未可知的。	见		
257	1924	②	p.223	苦闷的象征	引言	我不大明白他的生平，也没有见过有系统的传记。	见		
258	1924	②	p.224	苦闷的象征	引言	这译文虽然拙涩，幸而实质不好，倘读者能够坚定地反复过两三次，当可以看见许多很有意义的处所兴；这是我所以冒昧译的原因，一自然也是太过分的奢望。	反复		
259	1924	②	p.229	苦闷的象征		所以那些全不想发挥自己本身的生命力，单给因束缚着，给传统拘囚着，摹拟些先人做过的事，而坦然生活着的人们，在这个意义上，就和畜生同列，即使将这样的东西聚集了几千万，文化生活也不会成立的。	做		
260	1924	②	p.230	苦闷的象征		那么，我在先前所说过那样的从压抑而来的苦闷和谨慎，和这绝对创造的文艺，究竟有着怎样的关系呢？	说		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、『参考文獻目録』参照。

261	1924	②	p.232	苦悶の象征		就是，具有强烈的兴奋性的欲望，即性欲——他称这为libido——，曾 经因了病人自己的道德性，或者周围的事情，受过压抑和阻止，因此 病人的内底生活上，便受了酷烈的创伤。	受		
262	1924	②	p.232	苦悶の象征		探查这女人的过去的阅历，就有过下面所说的事。	有	その女の過去の悶歴 を探ると下のやうな ことがあつた。	『苦悶の 象徴』 p.30
263	1924	②	p.232	苦悶の象征		——然而这分明是恋爱，却连自己也没有想到过。	感到		
264	1924	②	p.233	苦悶の象征		后来成了剧烈的歇斯迭虫病人，来受弗罗特教授的诊察的时候，连曾 经有过这样的欲望的事情也想不起来了。	有	後に激烈なヒステリ ト患者となつてフロイ ド教授の診察を受け て来た時には、かつ いたさうな欲望を抱 いたことさへも想ひ 出せない程であつ た。	『苦悶の 象徴』 p.32
265	1924	②	p.235	苦悶の象征		不但将莱阿那陀，这派的学者也用了这研究法，试来解释过沙士比亚 的《哈姆列德》(Hamlet) 剧，歌格纳尔(R. Wagner) 的歌剧，以及托尔 斯泰(L.N.Tolstoi)和来瑞。	解释		
266	1924	②	p.235	苦悶の象征		如我在前面说过的乌普伐勒氏在克拉拉克大学所提出的学位论文《斯忒 林塔克研究》，也就是最近的一例。	说		
267	1924	②	p.235	苦悶の象征		但在我自己，则有如则文章的眉头上就说过一般，以为将这看作为最 广的意义上的生命力的突飞跳跃，是妥当的。	说		
268	1924	②	p.235	苦悶の象征		着重于永远是求自由求解放而不息的生命力，个性表现的欲望，人通人 类创造性，这倾向，是最近思想界的大势，在先也已说过了。	说		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、『参考文獻目録』参照。

269	1924	②	p.239	苦悶の象征		花出陸の御制右云： 在末辨长夜の起迄之間， 夢里已見過几世的事了。 (《后拾遺集》十八)	见		
270	1924	②	p.240	苦悶の象征		即象征本身和仗了象征而表现的内容之间，有轻重之差，这是和上文 说过的梦的转移作用完全同一的。	说		
271	1924	②	p.245	苦悶の象征		于是作家遂被自己已表现(self-expression or self-externalization)这一个不得 己的内底要求所逼逐，生出一切母亲都曾经历过一般的“生有的苦痛” 来。	经验		
272	1924	②	p.246	苦悶の象征		以上为止，我已经从创作家这一面，论过文艺了。	论		
273	1924	②	p.246	苦悶の象征		凡文艺的创作，在那根本上，是和上文说过那样的“梦”同的东西，但 那或一种，却不可不有比梦更多的现实性和合理性，不像梦一般支离 灭裂而散漫，而是严整统一了的事象，也是现实的再现。	说		
274	1924	②	p.247	苦悶の象征		这里所谓体验(Erlebnis)，是指这人所曾经深切的感到过，想过或者见 过，听过，做过的事的一切，是近同外底和内底，这人的曾经经验的 事的总量。	感到		
275	1924	②	p.249	苦悶の象征		在毫没有见过日本的樱花的经验的西洋人，即使读了咏樱花日本诗 人的名歌，较之我们从歌咏上得来的诗兴，怕达十分之一也得不到 半。	见		
276	1924	②	p.250	苦悶の象征		梦的潜在内容，不是上文也曾说过，即是人生的苦闷，即是世界苦闷 么？	说		
277	1924	②	p.252	苦悶の象征		到这里，我就想起我曾经谈过的波特来尔的《散文诗》(Petites poésies on Prose)里，有着将我所要说的事，譬喻得很巧的题作《窗户》(Les fenêtres) 的一篇来：	读		

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

278	1924	②	p.252	苦悶の象征			于是我躺下，满足于我自己已经在旁人的生命里活过了，苦过了。	活	
279	1924	②	p.252	苦悶の象征			于是我躺下，满足于我自己已经在旁人的生命里活过了，苦过了。	苦	
280	1924	②	p.254	苦悶の象征			如上文也曾说过，作为个性的根抵的那生命，即是遍在于全实在全宇宙的永远的大生命的洪流。	说	
281	1924	②	p.256	苦悶の象征			我曾经将这半广泛地当作人类生活的问题，在别一小著里说过了。	说	
282	1924	②	p.259	苦悶の象征			——即如上面引过的和歌歌律句似的——	引	
283	1924	②	p.260	苦悶の象征			既有如上文谈过那样的低级的读者和看客对于戏曲小说似的，专注于第一的理知作用，单想着些事迹者：	说	
284	1924	②	p.260	苦悶の象征			我到这里，有将先前说过的创作家的心理过程和读者的来比较一回的必要。	说	
285	1924	②	p.260	苦悶の象征			这心像的刺激底暗示性又深透地钻入读者的无意识心理的底里，就在上文说过的第四的思想情绪心气等无意识心理的底里所藏的生命之火上，点起火来。	说	
286	1924	②	p.261	苦悶の象征			一个人先在他自身里，唤起曾经经验过的感情来，在他自身里既经唤起，使用语动作，诸线，诸色，诸声音，或诸以言语表出的形象，这样的来传达这感情，使别人可以经验这同 的感情——这是艺术的话动。	经验	
287	1924	②	p.261	苦悶の象征			艺术是人类活动，其中所包括的是一个入用了或一种外底记号，将他曾经体验过的种种感情，意识地传给别人，而且别人就这些感情所动，也来经验他们。	体验	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

288	1924	②	p.263	苦悶の象征			本章所说的事，可以当作全是从以上说过的我那《创作论》和《批评论》当然引申出来的系论(corollary)看，也可以当作注疏看的。	说	
289	1924	②	p.269	苦悶の象征			……给我们写得可以达到上文说过的鉴赏的第四阶段的那出色的本领，就足以惊人了。	说	
290	1924	②	p.270	苦悶の象征			即使直接经验上没有恋爱过，但在他的体验的世界里，也会有美人，有恋爱；尤其是在性欲上加了压抑作用的精神底伤害，自然有着的罪。	恋爱	
291	1924	②	p.270	苦悶の象征			这就可以看作我首先说过的两种力的冲突，受了具象化的。	说	
292	1924	②	p.271	苦悶の象征			自古以来，屡屡说过诗人和艺术家等的inspiration的事。	说	
293	1924	②	p.271	苦悶の象征			哈里斯(Frank Harris)曾经试过，不据古书旧记之类，但凭沙士比亚的戏血，来论断为“人”的沙士比亚。	试	
294	1924	②	p.272	苦悶の象征			我从最近读过的与谢野夫人随笔集《爱和心理性及勇气》这一本里，引出了下面的一节，以供参考之便罢：	读	
295	1924	②	p.272	苦悶の象征			有人说过，五感之中，为艺术的根本的，只有视觉和听觉。	说	
296	1924	②	p.274	苦悶の象征			凡这些，都是没有彻底地想过文艺和人生的关系的人们所常说的证。	想	
297	1924	②	p.275	苦悶の象征			这就是我已经说过的那自己发现的欢喜的共鸣共感。	说	

## 資料④

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

298	1924	②	p.285	苦悶の象征	附录 顷铤	——没有。你呢，你没有看过么？	看	
299	1924	②	p.292	苦悶の象征	附录 《文艺鉴赏》上的“阶段”译者附记	先前我想省略的，是这一节中的几处，现在却仍然完全译出，所以序文上说过的“别一必要”，并未实行，因为译到这里时，那必要已经不成为了必要了。	说	
300	1924	②	p.293	苦悶の象征	附录 关于《苦悶的象征》——给鲁迅先生的封信——	在《学灯》上，有了一位叫叫叹的，曾译载过厨川君的一篇东西，叫作《苦悶的象征》。	译载	
301	1924	②	p.293	苦悶の象征	附录 关于《苦悶的象征》——给鲁迅先生的封信——	这篇东西，既然有了外国人把它翻译过，大概原文也已掲載过了罢。	翻译	
302	1924	②	p.294	苦悶の象征	附录 关于《苦悶的象征》——给鲁迅先生的一封信——	这个理由，是很明白的；因为那时候日本还没有地震，厨川君也还没有死，这篇名字，已经出现过而且发表了的。	出现	
303	1924	②	p.294	苦悶の象征	附录 关于《苦悶的象征》——给鲁迅先生的一封信——	厨川君先前有了《创作论》和《鉴赏论》，又已发表过，给他定下了名字，叫作《苦悶的象征》。	发表	
304	1924	②	p.294	苦悶の象征	附录 关于《苦悶的象征》——给鲁迅先生的一封信——	或者也已发表过，这在熟于日本文坛事实的，自然知道，又把它摒集在一块去。	发表	
305	1924	②	p.294	苦悶の象征	附录 关于《苦悶的象征》——给鲁迅先生的一封信——	他的友人，就把他这一剋剋后的遗稿，已经命名过的，——《苦悶的象征》——发表出来，这个名字，不是他的友人——编者——所稳定的，是厨川君自己定下的；	命名	

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

306	1924	②	p.295	苦悶の象征	附录 关于《苦悶的象征》——给鲁迅先生的一封信——	顷铤先生来信，才又知道《学灯》上也早已经登载过，此书之为我国人所爱重，居然可知。	登载	
307	1924	⑧	p.129	译文补编	高尚生活	而且他倘若望见，在下面的他的弟兄们中的一个，太走近了路上的辙迹，曾经踏过许多落下的尘埃们的地方去，他便尽了他的能力，用翅子的鼓动来警告。	踏烂	
308	1925	②	p.303	出了象牙之塔		先前在学生时代，读了这诗的时候，是并没有很想过这些事的，但自从做恶文，弄逻辑，经验过一点对于世间说话的事情之后，再来读这篇著作，就有了各样正中胸怀的地方。	想	
309	1925	②	p.305	出了象牙之塔		……在日本文法的举例上或者别的什么上见过的这毫不奇特的一句了，也不明白为什么，到现在还留在脑的角落上。	见	
310	1925	②	p.308	出了象牙之塔		没有兰勃那样头脑的我们凡人，单是看过一遍，怎么会够到那样的作品的鉴赏呢。	看	
311	1925	②	p.309	出了象牙之塔		孩子时候，在正月间常写过“元旦试笔”的。	写	
312	1925	②	p.309	出了象牙之塔		但我是作为正月的试笔，就将将来许多文人学上所做过的essay这东西，真不过姑且仿作一回的。	做	
313	1925	②	p.311	出了象牙之塔		说出“创造的进化”来的哲学者也曾说过这事，诗人勃朗宁也反反覆覆地将这意思咏叹了许多次了。	说	
314	1925	②	p.312	出了象牙之塔		一休禅师也说过使人耽心的事，以为门松是冥途的行程的一里冢，但在一个过一个经过过这些一里冢的路程上，不就有人生的兴味么？	说	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

315	1925	②	p.319	出了象牙之塔			先前，说是来贵一点，闹过了。			闹	
316	1925	②	p.319	出了象牙之塔			虽说“易热”，但最近四五十年以来，除了战争时候，日本人可曾有一回，为了真的文化生活，当真热过么？			热	
317	1925	②	p.323	出了象牙之塔			而且将小伶俐地彷徨徘徊的事一切中止，根木底地，彻底底地，本质底地，再将自己从新反省过，再将事物从新思索过才是。			反省	
318	1925	②	p.323	出了象牙之塔			而且将小伶俐地彷徨徘徊的事一切中止，根木底地，彻底底地，本质底地，再将自己从新反省过，再将事物从新思索过才是。			思索	
319	1925	②	p.325	出了象牙之塔			的确与查不得而知，但我却曾经听到过这样的话，并且以为很有趣。			听到	
320	1925	②	p.325	出了象牙之塔			去年喜秋的或一晚，看过冈崎公园的帝国美国艺术展览会的归途中，采访我的节斋的一个友人说：			看	
321	1925	②	p.329	出了象牙之塔			那女子的模样，是隔窗依稀可见的，但没有会过面。			会//面	
322	1925	②	p.334	出了象牙之塔			在并无淹过的经验的人，能会浮水的么？			淹	
323	1925	②	p.337	出了象牙之塔			我和他仅在他的生前见过一回面，对于个入的他知道的很不多。			见	
324	1925	②	p.337	出了象牙之塔			但曾经听到过，他和所谓名士风流者不同，是特身板为谨严的君子了。			听到	

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

325	1925	②	p.340	出了象牙之塔			我上文说过的那观照(或是思索)，就是给这样的努力所取的名目。			说	
326	1925	②	p.345	出了象牙之塔			我觉得拿出教室的讲义似的东西，来烦恼正以兴味读着的读者，是过于莽撞的事，我还是将上文说过的，再来稍为平易地另讲一遍。			说	
327	1925	②	p.346	出了象牙之塔			然而人类既然是人类而非机器，则必须到了感得食物，即味得食物的地方，这才生出“完全地将这吃过了”这一个真意义。			吃	
328	1925	②	p.354	出了象牙之塔			这和上面说过的旅馆的结帐和柔代一样，都是装作从灵，即从精神出发模样，而其实却落在肉里，归到物质里去的。			说	
329	1925	②	p.357	出了象牙之塔			就和我上文说过的美国人的亲子女妇的爱情，师弟关系，旅馆的待遇相同。			说	
330	1925	②	p.358	出了象牙之塔			诗人摩理思的艺术底社会主义，今又骤然唤起世人的注意。著过《近代乌托邦》的现时英国小说界的老将威尔上(Wells)，至于写出《神，莫见的王》(God, the Invisible King)来，已不是都表示着这般的消息么？			著	
331	1925	②	p.359	出了象牙之塔			到最后，我再说一遍罢：日本人的生活改造，倘不首先对于从肉向灵的这根本的问题，彻底地想过，是不行的！			想	
332	1925	②	p.360	出了象牙之塔			曾经见过一个植物学家，去看展览会前绘画，从一头的起，一件一件，说些那个树木的叶子，那地方是错的，这个花的花须是不真确的一类的活，批评着；但是，我以为这也是太费精神的多事的计较。			见	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

333	1925	②	p.362	出了象牙之塔			至于先前说过的白发三千丈式的真吧，我说，称它为艺术上的真。	说	
334	1925	②	p.363	出了象牙之塔			有两种：就是刚才说过的痛住的力的不足的时候，和对于总不能将这容受的时候。	说	
335	1925	②	p.364	出了象牙之塔			将那人从出世以来，各种各样地感到，听到，做过的一切体验的总量，汇集起来的东西，也就是那人所有的特别的生命，称为人格，或者个性，就可以的。	做	
336	1925	②	p.365	出了象牙之塔			诸位之中，曾有对女人入过迷的经验，该是知道的罢，艺术的鉴赏，就和迷于女人完全一样。	入// 迷	
337	1925	②	p.366	出了象牙之塔			要而言之，先前也说过，审查员开了自己的标准，加上一等二等之类的同样的等级，以及做些别的事，乃是愚弄作者的办法。	说	
338	1925	②	p.368	出了象牙之塔			不只是自己先前所做过的活动的温习，却是作为将来的活动的标准，而做右那实习和训练。	做	
339	1925	②	p.374	出了象牙之塔			然而一到这地步，富翁脾气也就自然流露出来，弃了立过婚约的安玛，去和别的大家女结婚。	立	
340	1925	②	p.377	出了象牙之塔			而那一面也已经开过会议，那结果，是冥顽的总务长安安多尼因为彻底地反对调停，擅自辞职了。	开	
341	1925	②	p.379	出了象牙之塔			由于固陋的偏见的今之教育家，对于艺术和教育的关系，美底情操的涵养，感情教育等，莫非连一回，也没有费过思量么？	费	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

342	1925	②	p.381	出了象牙之塔			在希腊罗马时代的壁画雕刻之类里，今日的漫画趣味的东西也很多，这是只要翻过西洋的美术史的人，谁也知道。	翻	
343	1925	②	p.385	出了象牙之塔			对于这卢蕙尔，以及对于英国的毕亚波茨(Max Beerbohm)的漫画，曾在拙著《小泉先生及其他》里，添了那作品的翻印，稍稍详细地介绍过，所以在这里就有略了。	介绍	
344	1925	②	p.385	出了象牙之塔			上面也已说过，漫画的艺术底特征，是尽丁“grotesque”一语的。	说	
345	1925	②	p.386	出了象牙之塔			一说到滑稽，便以为是斗趣，或是开玩笑的人们，虽在受过像样的教育的智识阶级里面，现在也还不少。	受	
346	1925	②	p.389	出了象牙之塔			当这回战乱时候，也早有许多人豫言过宗教上要兴起新信仰，或则高唱宗教底精神的复活。	预言	
347	1925	②	p.389	出了象牙之塔			我已经在别一机会说过，当战乱回欧洲文坛实有秋风落莫之感。	说	
348	1925	②	p.389	出了象牙之塔			有如那民本主义的思想，虽然作为战争的直接的影响，将很大的影响给与我国一般的思想界，在文坛上，则早在十年前，当自然主义盛行时候，已经是许多人们宣传过的陈腐的东西了。	宣传	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

349	1925	②	p.392	出了象牙之塔	从那以前起，在我国久为新思潮的先驱者，鼓吹者，见重于思想界之一方的杂志《国民之友》(民友社发行)上，曾经有过介绍威廉摩理思(William Morris)的事。	有	その以前から長らく我國における新思潮の先驅者として鼓吹者として思想界の一方に重きをなしてゐた雑誌『国民の友』(民友社發行)の誌上に、モリアム●モリスの事が紹介せられた事があつた。	『象牙の塔を出でて』p.236
350	1925	②	p.392	出了象牙之塔	在我所知道的范围内，就此后我所见的《摩理思论》而言，则明治四十五年二月和三月份的《美术游报》上，曾有工艺图案家富本宪吉氏于十几个铜版中撰写了摩理思的图案，介绍过为装饰艺术家的摩理思的半面。	紹介		
351	1925	②	p.393	出了象牙之塔	其时，我也因了富本氏的介绍而想到，就在同明治四十五年《东亚之光》六月号上，稍为详细地论述过“为诗人的摩理思”。	论述		
352	1925	②	p.393	出了象牙之塔	先前，听说孔子曾说过“四十而不惑”，但我想，这大概是很有福气的人，或者是蠢物的事罢。	说		
353	1925	②	p.395	出了象牙之塔	洛思庚年届四十，从纯艺术的批评，转到劳动问题社会批评去，先前已经说过了(参考《出了象牙之塔》第十四节)。	说		
354	1925	②	p.396	出了象牙之塔	他被马克思的《资本论》所刺戟，又和阿里跋尔(Olivier)以及曾来我国，受过日本政府优待的惠勃(Webb)等，一同组织起斐比安协会来，也就在这时候。	受		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

355	1925	②	p.398	出了象牙之塔	然而罗奔前的中世主义，也如在日本一时唱道过的江户趣味复活论一样，是高昂底的纯艺术本位的东西，而洛斯庚的，也有太极端地心醉中世的倾向。	唱道		
356	1925	②	p.399	出了象牙之塔	还有，古人也说过，“劳动是欢乐”(Labor est voluptas)。	说		
357	1925	②	p.405	出了象牙之塔	他在活在梦幻空想的诗境中的别一面，又有着雄起起而努力，上文已经说过了，这在他最后的诗集《途上吟》(Poems by the Way, 1891.)里，显得最明白。	说		
358	1925	②	p.406	出了象牙之塔	这因为空伏氏已经在杂志《批评》上引用过，所以从略。	引用		
359	1925	②	p.414	出了象牙之塔	但其中有几篇是新译的；有几篇不关宏旨，如《游戏论》，《十九世纪文学之主潮》等，因为前者和《苦闷的象征》中的一节相关，后一篇是发表过的，所以就都加入。	发表		
360	1925	②	p.415	出了象牙之塔	我曾经遇见过一个著者学生，据说他生时亦不为一般人上所喜，大概是因为他态度颇高傲，也如他的文辞。	遇见		
361	1925	②	p.416	出了象牙之塔	未尝生过疮的，生而未尝割治的，大概都不会知道；否则，就明白割的创痛，比未割的肿痛要快活得多。	生// 疮		
362	1925	②	p.417	出了象牙之塔	但是，最幸福的事实是在是莫过于做旅人，我先前离居日本时，春天看在上野的樱花，冬天曾在松岛去看过松树和雪，何尝觉得有著者所数说似的那些可厌事。	看		
363	1925	②	p.419	出了象牙之塔	今晚能获邀请，来到这么多认真的听众面前，用一种大家都很感兴趣、而我从小就学习、后来又讲授过多年的外国语讲话，我感到莫大的荣幸。	讲授		



## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

364	1925	②	p.420	出了象牙之塔	附录 论英语之研究	几年前我在《朝日新闻》上发表文章说过，现在的日语口语仍然不是公众的语言，而是私人的语言，只适用于茶余饭后的闲谈和旧式政客在四个半帖大小的密室里的窃窃私语，……	说		
365	1925	②	p.420	出了象牙之塔	附录 论英语之研究	即日语作为一种演讲语言是苍白贫乏的，它是没有享受过言论自由的、爱几个世纪专制统治的人民使用的语言，这些人民直到今天仍然尽可能地保持缄默，相信那古老的格言“口为树之门”(Kuchi wa wazawai no mon)。	享受		
366	1925	②	p.421	出了象牙之塔	附录 论英语之研究	我还没有见过一个美国人和欧洲人，研究了日本文学而不喜欢日本人民的。	见		
367	1925	②	p.421	出了象牙之塔	附录 论英语之研究	我也没有见过一个日本人，研读过弥尔顿、雪莱(Shelley)和勃朗宁(Browning)，或者惠蒂尔(Whittier)、爱默生(Emerson)和惠特曼(Whitman)而不崇拜英语国家人民的伟大理想的。	见		
368	1925	②	p.421	出了象牙之塔	附录 论英语之研究	我也没有见过一个日本人，研读过弥尔顿、雪莱(Shelley)和勃朗宁(Browning)，或者惠蒂尔(Whittier)、爱默生(Emerson)和惠特曼(Whitman)而不崇拜英语国家人民的伟大理想的。	研读		
369	1925	②	p.422	出了象牙之塔	附录 论英语之研究	我不打算再举更多的例子，以免人家厌烦。我想，每一个读过外交史的人都会见到许多类似的事例，也许比我才所讲的更具说服力。	读		
370	1925	④	p.12	壁下译丛	自然主义的理论及技巧	在我们文坛上，也已经提出过许多解释了，然而倘要解释文坛之上的自然主义，则总得先去探究文艺史。	提出		

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

371	1925	④	p.15	壁下译丛	自然主义的理论及技巧	不但这样，还要查考和这相关的书籍，倘是似乎有川的事情，……一看过。	看		
372	1925	④	p.16	壁下译丛	自然主义的理论及技巧	巴尔扎克和左拉都是作家，也是理论家，然而往往有与其理论背驰，和不副其要求的事。而在左拉为尤甚，则在先已经说过了。	说		
373	1925	①	p.19	壁下译丛	自然主义的理论及技巧	在德国，自然主义是有如已经说过那样，从路特惠锡，海培耳，弗赖泰克等的时代起，就形成着划然时期的；但并非为了“真”而将“美”作为牺牲的法国一流的写实主义。	说		
374	1925	④	p.20	壁下译丛	自然主义的理论及技巧	这主义发端于诃尔兹(A. Holz)的提创，葛普德曼(G.Hauptmann)实行于他那戏曲《日出之前》(Vor Sonnenaufgang)的结果，于是风靡了一时文坛的本末，去年已在我那拙作《德国自然主义的起源》里详说过，鸣外氏著的《葛普德曼》上也载着，所以在这里，就单来仔细地谈一说“彻底自然主义”本身罢。	说		
375	1925	④	p.32	壁下译丛	小说的浏览和选择	但是，因为看了小，而道德地地堕落了的青年，我却一个也未遇见过，我倒就得了描写“近代”的风俗的作品，在平正的，还没有道德地腐败着的读者的所得到的影响，除了单是“健全”(Heilsam)之外，不会有什么的。	遇见		
376	1925	④	p.46	壁下译丛	西班牙剧坛的将星	女的主角加罗里那，是一个国务大臣而且负过一世的重望的政治家的寡妻，但她现在已经和心头的同志弗罗连助成了夫妇了。	负		
377	1925	④	p.47	壁下译丛	西班牙剧坛的将星	“人生是可悲的。我自有生以来，只有过一次恋爱。只记得爱过一个女人。这就是我的妻。……”	有		

## 資料④

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

378	1925	④	p.47	壁下译丛	西班牙剧坛的将 星	“人生是可悲的。我白有生以来，只有过一回恋爱。只记得爱过一个女人。这就是我的妻。……”	爱	
379	1925	④	p.49	壁下译丛	从浅草米(摘譯)	自然，这时的心止抖动，年纪也太青，不能说完全看过了《白白》；	看	
380	1925	④	p.100	壁下译丛	新时代与文艺	尤其是在今日似的世界大动摇——一切都得根本地地重新造过的时代，则将文化所当向往的大方向，最具体最鲜明而且最活地指示出来者，无论从那一方向看，总应该是文艺。	造	
381	1925	⑧	p.134	译文补编	我独自行走	还是百年的未来才了呢，我没有思想过。	思想	
382	1926	③	p.7	小约翰	引言	到去年夏，将离北京，先又记得了这书，便和我多年共事的朋友，曾绘藉我译过《工人受暴略史》的齐宗颐君，躲在中央公园的一间红墙的小屋里，先译成一部草稿。	译	
383	1926	③	p.8	小约翰	引言	我们称后一种为“莫婆娘”，因为它浑身发着恶臭；前一种我未曾听到有人叫过它，似乎在我乡的民间还没有给它定出名字；广州却有：“地裤”。	叫	
384	1926	③	p.12	小约翰	原序	在新近的荷兰的诗人世代之中，最年青而同时又最显著的，是那已经说过的科贝路斯(Louis Coupons)，生于一八六三年。	说	
385	1926	③	p.15	小约翰		为了房间，他所发明的名字是出于动物界的，毛虫床，因为他在那里养过虫；鸡小房，因为他在那里寻着过一只母鸡。	养	
386	1926	③	p.15	小约翰		为了房间，他所发明的名字是出于动物界的，毛虫床，因为他在那里养过虫；鸡小房，因为他在那里寻着过一只母鸡。	寻着	

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

387	1926	③	p.16	小约翰		他爱那地毯，那带着大的花纹的，在那里他认得脸面，还有它的形式，他也察看许多回，如果他生了病，或者早晨醒着躺在床上时	察看	
388	1926	③	p.17	小约翰		他说过“亚门”之后，便满怀期望地在半暗的屋子中环视，到那在轻微的黄昏里，比平时显得更其奇特的地毯上的花纹，到门的把手，到门轴，从那里是很可以出现奇迹的。	说	
389	1926	③	p.17	小约翰		孤寂的苍鹭，那用一足站在睡莲的阔叶之间的，也忘却了它曾经出去捉过虾蟆，只沉在遐想中凝视着前面。	提	
390	1926	③	p.18	小约翰		这么大的一个是他向来没有见过的。	见	
391	1926	③	p.20	小约翰		“现在不！现在不，约翰。你不可立刻要求得太多。我自己就从来没有到过父亲那里哩。”	到	
392	1926	③	p.20	小约翰		他于此早就仔细地思量过，但这时却白然懂得了。	思量	
393	1926	③	p.21	小约翰		“你晚上曾在冈子上听到过蟋蟀么，约翰？……”	听到	
394	1926	③	p.21	小约翰		一个小蟋蟀，还没有见过一个人，误将人类数在无害的动物里面了，就得了草干了的三下责打。	见	
395	1926	③	p.21	小约翰		约翰从来没有听到过这等事！	听到	
396	1926	③	p.25	小约翰		“然而这是实情。早先——早先有一时，我也曾参与过各种的会，跳舞，徘徊。……”	参与	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

397	1926	③	p.30	小约翰		约翰曾经阅历过许多奇异的事——但这时却还是闭紧了眼睛。这样地在白天而且在学校里——这是不可信的。	阅历	
398	1926	③	p.38	小约翰		他本有些怕起来了，但当他们谢了恳切的牧者并且作过别，远离了蚂蚁民族，在羊齿草丛的阴凉之下，休息在一枝美丽的弯曲的草梗上的时候，他便觉得安静得许多了。	作//别	
399	1926	③	p.41	小约翰		“唔，约翰，我们也见过人类了，你为什么一点也不讥笑他们呢？”	见	
400	1926	③	p.42	小约翰		“它看见明亮的光，那老甲虫说过的：它想，除了即刻飞往那里之外，它不能做什么较好的事了。……”	说起	
401	1926	①	p.43	小约翰		它们虽然从来没有见过它们的晃耀的父亲，却仍然永是引起一种不知不觉的记忆，向往着发光的一切。	见	
402	1926	③	p.44	小约翰		于是在朽烂的树身上，也看见无数小小的小干，都有黑的小尖了，像烧过似的。	烧	
403	1926	③	p.45	小约翰		“看看我罢，”一个肥胖的虫满足。“你们见过这样的么？看罢，我的柄是多么肥，多么白呀，我的帽子是多么亮呀。我是一切中最大的。而且在一夜里。”	见	
404	1926	③	p.47	小约翰		那是十字蜘蛛中的大英雄，很久以前活着的，而且有一个网，张在一棵大树上，它还在那早一日里抓获过一千二百匹飞蝇们。……	抓获	
405	1926	③	p.47	小约翰		涂鸦没刺曾在它的网上抓获过人禽鸟，还杀害过成千的它自己的孩子们，——这曾是一个大的蜘蛛呵！	抓获	
406	1926	③	p.47	小约翰		涂鸦没刺曾在它的网上抓获过人禽鸟，还杀害过成千的它自己的孩子们，——这曾是一个大的蜘蛛呵！	杀害	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

407	1926	③	p.47	小约翰		“在别种动物的圣书里，也曾讲过涂鸦没刺的，它被称为一个驯性的和卑劣的怪物。我于此不加以可否。”	讲授	
408	1926	③	p.47	小约翰		那很好，然而我倒是在书里的最贤明的，我并且长久而勤勉地研究过，直到知道了我现今所知道的一切。	研究	
409	1926	③	p.48	小约翰		“我曾经读得很多，但我却不信我读过这些书。那须不是妖精书，也不是地祇书。然而那样的书儿是应该存在的。”	读	
410	1926	③	p.48	小约翰		谁曾读过这书，则凡是我们显得明的，将是黑暗，凡是我们显得幸福的，将是忧愁。	读	
411	1926	③	p.50	小约翰		他从来没有这样严正地凝视过。	凝视	
412	1926	③	p.50	小约翰		“而仍然——你自己说过——那书儿是存在的！阿，我确实知道，那上面也载着你所不愿意说出名字来的那火光。”	说	
413	1926	③	p.51	小约翰		“凡我所托付你的，我没有告诉过一个人，一个也不。”	告诉	
414	1926	③	p.52	小约翰		这里是茂盛的羊齿草丛，他曾在底下睡过觉。	睡//觉	
415	1926	③	p.56	小约翰		“你怎么这样对我看呢，约翰？你见过我吗？”	见	
416	1926	③	p.59	小约翰		“它们对我说过，”约翰答道，“而且我自己曾到过兔洞和水底的。”	说	
417	1926	③	p.59	小约翰		“它们对我说过，”约翰答道，“而且我自己曾到过兔洞和水底的。”	到	

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

418	1926 ③	p.59	小约翰	它给我叙述它的旅行：它是一直到过海里的，它说。	到	
419	1926 ③	p.60	小约翰	约翰督促他的记忆来，然而一瞥他曾在那上面走过的晴朗的轻纱，却掩覆着深处。	走	
420	1926 ③	p.62	小约翰	你可曾讨厌地梦见过一个魔幻的园，其中有着爱你而且和你谈天的花卉们和动物们的没有？	梦见	
421	1926 ③	p.64	小约翰	“他像是读过安克生了。”	读	
422	1926 ③	p.65	小约翰	这里是兔窟——以及沙冈，在这上面他曾经睡过一回的。	睡	
423	1926 ③	p.66	小约翰	蔷薇曾经开过的地方，已是满是淡漠地向上碧着的黄色的月下香的山野了。	开	
424	1926 ③	p.68	小约翰	“他完全不存在。这是一个大缺点，他却不肯赞成，而且他还说过我，我是不存在的。然而那是他说话。我是否在这里！还有一千国！”	说	
425	1926 ③	p.69	小约翰	那最坏的是，他其实就没有存在着，而且也没有存在过。	存在	
426	1926 ③	p.74	小约翰	“我应该去了，”他说，“我谈过了我的时间。这里还有许多事情做。好天，约翰，我们要再见了。你只不可在我面前有害怕。”	谈	
427	1926 ③	p.75	小约翰	唉，当那最初的有幸的妖夜里，在这柔软的，而现在是带着急速的恐怖的喘息而颤动着的小身体上，他曾经就过自己的头。	枕	

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

428	1926 ③	p.76	小约翰	“我要买得那书儿，”他说，“那将如说过的。”——	说	
429	1926 ③	p.77	小约翰	他领他走进大建筑中之一，烟气从那里面升腾，这是约翰第一天就见过的。	见	
430	1926 ③	p.79	小约翰	那大声的喧嚣和欢喜的声音，蹒跚的脚步和碎絮的长衣，都夹在约翰曾在远处听到过的柔媚的音乐的悠扬中，成为一个交错，传到街道上。	听到	
431	1926 ③	p.84	小约翰	“这曾是一位优雅的先声，”他于是高兴地说，“你也许曾经见过他，这样地话，这样地阔，而且这样地高敞。他保住了他的尊大了。”	见	
432	1926 ③	p.87	小约翰	约翰在昨夜见过他，深深地在地下。——	见	
433	1926 ③	p.94	小约翰	号呀博上有博学的名声，而且对于病和死，有许多人来邀请他的那脚。约翰是屡次伴过他的。	件	
434	1926 ③	p.94	小约翰	约翰是还没有一同到过外边的。	到	
435	1926 ③	p.98	小约翰	当你在外面因蔷薇之问题来跑去的时候，也曾有过这么多的呻吟了。	有	
436	1926 ③	p.99	小约翰	他认识那事，他先前曾经目睹过。	目睹	
437	1926 ③	p.101	小约翰	这像是艇儿的声音。只有他曾经这样地称呼过他的，——他现在是在叫他么？——	称呼	

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

438	1926	③	p.103	小约翰	有这样地深，就如旋儿的眼睛，然而在他的眼光里是无穷的温和的悲 痛，为约翰所从来没有在别的眼里见过的。	见		
439	1926	③	p.109	附录 拂来特力 克·望·蒿罩	……虽然人们预备她，以为她有和一个男子私通的有罪的恋爱，一和 她在寂寞中爱过的丹柯勒夫(Tancoff)，纵或全然无罪，因为她的嘴唇只 有一次当月夜里在沙冈上触着他的马的胸脯，——却生了一个孩子。	爱		
440	1926	③	p.109	附录 拂来特力 克·望·蒿罩	克罗斯也在《新前导》上说过：“诗人只是那个，那诗，无论为谁，都 不仅是空洞的文字游戏，却是他的灵魂的成了音乐的感觉……”	说		
441	1926	④	p.37	壁下译丛	便是自己，也还没有很立了头绪来研究过，所以单将平素的所感，不 必一定顺着理路，想到什么便写出什么，用以塞责罢。	研究		
442	1926	④	p.59	壁下译丛	我不能相信这些。因为前文已经说过，真者，不过是爱的假象的缘 故。	说		
443	1926	①	p.60	壁下译丛	我先前已经说过：活动有两种动向，……是以自己为对象，……是以自己 以外的环境为对象。	说		
444	1926	①	p.61	壁下译丛	所以，我对于单从兴趣一方面，来感受艺术的态度，觉到深的侮辱和 厌恶。“有趣地读过了。”“兴味深长地看了。”——遇到这样的周旋的时 候，艺术家是应该不能出然的。	读		
445	1926	⑧	p.148	译文补编	他使克里斯托夫这样说：“我没有将自己做过牺牲。假使我也有过这回 事，那是自己情愿的。自己对于自己愿做的事，没有话说。	做		
446	1926	⑧	p.148	译文补编	他使克里斯托夫这样说：“我没有将自己做过牺牲。假使我也有过这回 事，那是自己情愿的。自己对于自己愿做的事，没有话说。	有		

## 資料⑦

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

447	1926	⑧	p.153	译文补编	罗曼罗兰的真勇 主义	“你已经奔过我一回，又将奔掉我么？”	奔		
448	1926	⑧	p.154	译文补编	罗曼罗兰的真勇 主义	“神呵，你不以这仆人为不足取么？我所做的事，确是微乎其微。这以 上的事，我是不能做了。……我战斗过了。苦过了。流宕过了。创造 过了。允许我带着恶爱的字，加入呼吸去罢。有一时，我将为了新的 战斗而重生罢。”	战斗		
449	1926	⑧	p.154	译文补编	罗曼罗兰的真勇 主义	“神呵，你不以这仆人为不足取么？我所做的事，确是微乎其微。这以 上的事，我是不能做了。……我战斗过了。苦过了。流宕过了。创造 过了。允许我带着恶爱的字，加入呼吸去罢。有一时，我将为了新的 战斗而重生罢。”	苦		
450	1926	⑧	p.154	译文补编	罗曼罗兰的真勇 主义	“神呵，你不以这仆人为不足取么？我所做的事，确是微乎其微。这以 上的事，我是不能做了。……我战斗过了。苦过了。流宕过了。创造 过了。允许我带着恶爱的字，加入呼吸去罢。有一时，我将为了新的 战斗而重生罢。”	流宕		
451	1926	⑧	p.154	译文补编	罗曼罗兰的真勇 主义	“神呵，你不以这仆人为不足取么？我所做的事，确是微乎其微。这以 上的事，我是不能做了。……我战斗过了。苦过了。流宕过了。创造 过了。允许我带着恶爱的字，加入呼吸去罢。有一时，我将为了新的 战斗而重生罢。”	创造		
452	1926	⑨	p.157	译文补编	亚历山大·勃洛 克	在这时代以外，则成为云似的斑点而下垂着。这抒情诗，大概不能长 生过自己的时代，到作者的死后的罢。	长生		
453	1926	⑨	p.158	译文补编	亚历山大·勃洛 克	抒情诗人之中，最为“纯粹的”勃洛克，没有谈过纯粹的艺术，也投有将 诗放在生活的上面。	谈		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

454	1926	⑧	p.161	译文补编	亚历山大·勃洛克	但是，赤军和破坏者之间，在这地上有过几多的血腥的冲突呢！	有	
455	1927	⑧	p.171	译文补编	运川口语的填词	由诗而为词，由词而为诗，这是许多人说过的话。	说	
456	1927	⑧	p.171	译文补编	运川口语的填词	当说话的时候，用以表示语气的话里面，有也呀，则个等，这是屡见于元明人的曲文中的，而在宋词中已经有过。	有	
457	1927	⑧	p.173	译文补编	信州杂记	地板上呢，是昨晚翻过的书籍散乱在微喘虫。	翻	
458	1927	⑧	p.174	译文补编	信州杂记	受过高等教育的言语学家的使女，离开我俩的屋子，到子爵那里去了，但在我们这里露出了这样的话——	受	
459	1927	⑧	p.178	译文补编	信州杂记	我出去修了脸，在地方的工业展览会(在日本，是几乎每个街头，当各种纪念之际，都开展览会的)里转了一转，看过玩具的电气铁道，回来时，地方的一个纺纱工厂的Doctor和自动车已在等我了。	看	
460	1927	⑧	p.179	译文补编	信州杂记	这并不是前晚住过的旅馆，却不知道是什么缘故，放着我们的纸包。	住	
461	1927	⑧	p.179	译文补编	信州杂记	——我们是吃过早餐并不多久的，食桌上却排着食品，但我们不想吃东西，也没有吃东西的余裕。	吃	
462	1928	③	p.122	思想・山水・人物		关于来做小说的动机，他曾经白叙传底地说过。	说	

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

463	1928	③	p.126	思想・山水・人物		“我从来没有见过那样的奇特的表情。他显着仿佛是看着别一世界似的，洞然的眼。”	见	
464	1928	③	p.127	思想・山水・人物		然而满足的讲明，却从来没有听到过。	听到	
465	1928	③	p.129	思想・山水・人物		从幼小时候起，因为孱弱，曾经逃过几回学。	退	
466	1928	③	p.131	思想・山水・人物		我去游历他的诞生地司坦敦这小邑的时候，便感得了感化过幼小的威尔逊的环境，是怎样的了。	感化	
467	1928	③	p.133	思想・山水・人物		他在《伟大的亚美利加人历》里这样说过：——	说	
468	1928	③	p.138	思想・山水・人物		对于培约德，他曾做过一篇小品文，题目《文学的政治家》。	做	
469	1928	③	p.141	思想・山水・人物		“所以培约德说过的。惟有罗马人和英吉利人似的没有智慧的国民，能长久成为自主底国民。这是因为既无智慧，也无想象力，不想另外试行一点新的事，这回便自然长久继续下去了。”	说	
470	1928	③	p.141	思想・山水・人物		批评过不尔的道式来黎的活有云：“不尔是欠缺想象力的政治家。”	批评	
471	1928	③	p.142	思想・山水・人物		威尔逊这样地对我说过：	说	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

472	1928	③	p.146	思想・山水・人物		这是世界历史已经指示过我们许多回的教训。	指示		
473	1928	③	p.155	思想・山水・人物		试问伦敦各处的任何入，只有滔天的坏话一回也没有听到过。	听到		
474	1928	③	p.157	思想・山水・人物		滔纳是在比利阿战场上死过一回的，但延长了不可思议的生命一直到现在。	死		
475	1928	③	p.159	思想・山水・人物		人类之于真实的故事上的自由，是从来未曾享受过的，常在或一种外界的压迫之下过活。	享受		
476	1928	③	p.160	思想・山水・人物		称为西洋文明之父的亚理士多德，也曾和亚历山人帝在实际政治里锻炼过。	锻炼		
477	1928	③	p.164	思想・山水・人物		佩斯教授叙述巴黎平和会议的光景的文字中，也曾指摘过威尔逊对于鲁意尔舍和苏理曼沙的捷速的驳论，缺少即刻反驳的机转，而两两不能说话的事来。	指摘		
478	1928	③	p.169	思想・山水・人物		“这虽然是还没有和人讲过的事，“他一面用铁钩教旺炉里的火，谈起来了。”	讲		
479	1928	③	p.170	思想・山水・人物		“五六年前，西边的半锡那台街上，曾经有过一件出名的犯罪案了。……”	有	『五六年前にね、西の方のシンシナシナイの町で、欠ケました犯罪事件があつたのさ。』	『思想・山水・人物』p.118

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

480	1928	③	p.172	思想・山水・人物		凡有读过北美合众国的历史的人，都知道这地方的原先的主人，是称为“亚美利加印第安”这一种人种。	读		
481	1928	③	p.173	思想・山水・人物		曾经有过这样的故事：	有	かいういふ話がある。	『思想・山水・人物』p.173
482	1928	③	p.173	思想・山水・人物		可恼的是判事长即刻许可了这青年的请求了，然而更可恼的是这印第安人照着和兴办主人的约，渡过野球；其次，就照着和判事长的约，回到那里，受了死刑的执行了。	演		
483	1928	③	p.184	思想・山水・人物		新渡户博士，是日本有名的读书家；读过的东西，也非常记得。试看先生的读过的书，就画着各种样子的线。	读		
484	1928	③	p.184	思想・山水・人物		新渡户博士，是日本有名的读书家；读过的东西，也非常记得。试看先生的读过的书，就画着各种样子的线。	读		
485	1928	③	p.185	思想・山水・人物		这一点，是试将伟大的学者读过的书，种种比较着一研究，便大有所得的。	读		
486	1928	③	p.185	思想・山水・人物		这是片来的学者所广用的方法，有了大著述之类的人，似乎大概是作过拔萃的。	作		
487	1928	③	p.185	思想・山水・人物		现在英国的大政治家，且是文豪的穆来厘，也这样地说过：——	说		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

488	1928	③	p.186	思想・山水・人物		这就是做了《罗马盛衰史》的吉册，以及韦勃思泰(O. Websier)，新忒拉孚特(Th. W. Stafford)这些人所实行过的方法。吉册自己说过：——	实行		
489	1928	③	p.186	思想・山水・人物		这就是做了《罗马盛衰史》的吉册，以及韦勃思泰(O. Websier)，新忒拉孚特(Th. W. Stafford)这些人所实行过的方法。吉册自己说过：——	说		
490	1928	③	p.187	思想・山水・人物		也有说是毫无红线，而读过之后，将书全部记得的人。	读		
491	1928	③	p.187	思想・山水・人物		穆来卿对于这事，说过下面那样的话：——	说		
492	1928	③	p.198	思想・山水・人物		这较之六年前曾经到过的一样的街，仿佛觉得已是意外的尊严之地了。	到		
493	1928	③	p.199	思想・山水・人物		那叫的谈话，已经记载过好儿回了，现在无须再说。	记载		
494	1928	③	p.199	思想・山水・人物		从摩托车上的显理福特(Henry Ford)，我也有过一样的经验。	有		同じやうな經驗を、自分は、自動車王のヘンリー・フォードに就てした。『思想・山水・人物』p.179
495	1928	③	p.200	思想・山水・人物		将捣乱的男孩，可爱的女生，也一个个介绍过。这样的偶然的事件，是使人对于这市的感情，格外好起来的。	介绍		
496	1928	③	p.200	思想・山水・人物		我想，这窗上，恐怕也如人们那样，他也用金字写过成威尔逊法律事务所或者什么，房外是挂着招牌。	写		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

497	1928	③	p.202	思想・山水・人物		大门内右边的一室，看去像是食堂，大约从教堂回来的人们，刚刚用过膳。	用		
498	1928	③	p.204	思想・山水・人物		“但是，你不是自负着，在英国法律科，听过夏日先生的讲的么？”他就给一个回敬。在第一高等学校，前日是德国法律科。	听		
499	1928	③	p.205	思想・山水・人物		说着，也将我们介绍过。阿阿，这就是右岛君么，我心里想着，细细地看他。	介绍		
500	1928	③	p.208	思想・山水・人物		这不过是往昔当民众失了指导原理的时候，也曾屡次玩玩过了的丑角戏。	玩		
501	1928	③	p.216	思想・山水・人物		现在是在两个都不是这世界上的人了；严饰过维多利亚女王的治世的两个天才，都已经不活在这世上了。	严饰		
502	1928	③	p.219	思想・山水・人物		亚斯主斯后来对吾妻说，从来没有那么愉快的谈天过。	谈天		
503	1928	③	p.219	思想・山水・人物		一月以来，没有遇见过这样的气分。	见		
504	1928	③	p.222	思想・山水・人物		嘉勒尔说过：不会真笑的人，不是好人。但是，笑和幽默，是各别的。	说		



## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

505	1928	③	p.226	思想・山水・人物		恐怕只有尝过了泪的深味的人，这才懂得入生的突酌心情。	尝		
506	1928	③	p.234	思想・山水・人物		我们想，英国可到现在，未曾有过那么英伟的干。	有	英國で今迄、あんな偉い王様を頂いたことはないと、私たちは思つてゐる。	『思想・山水・人物』 p.287
507	1928	③	p.236	思想・山水・人物		虽然是爱过太子时代徽行而来的他的巴黎，但对于代表英国政府的元首的他，接受与否，却是一个疑问。	爱		
508	1928	③	p.238	思想・山水・人物		站在当前的大厅的电灯下的时候，我便想到几天之前看过的小说《路易兰特》的主角，将充满热情的感谢的信，写给在华盛顿的斐斐生之处，就是这里了。	看		
509	1928	③	p.246	思想・山水・人物		但这前门却遭过一回兵燹，现今留存的乃是十几年前的再造的东西。	遭		
510	1928	③	p.247	思想・山水・人物		三个池子中有小岛；南海的小岛上有曾经禁锢过光绪帝的宫殿；中海的小岛上原有太后所住的宫殿，现在做了大总统府了。	禁錮		
511	1928	③	p.247	思想・山水・人物		看过雄浑的祁山和皇城之后，旅行者就该立在地上，凝视那生息于此的几百万北京人的生活和感情了。	看		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

512	1928	③	p.248	思想・山水・人物		当初夏风中，驴儿摇着长耳朵，——读者曾经见过驴儿摇着耳朵走路的光景么？	见		
513	1928	③	p.248	思想・山水・人物		水牛决不是外观似的愚笨的东西，有过这样的事：	有	水牛は決して、見たやうな馬鹿ではないに違ひない。かういふ話がある。	『思想・山水・人物』 p.399
514	1928	③	p.249	思想・山水・人物		那心情，倘不是在支那从南到北旅行过，目睹那驴儿在山涧水边总走着的情景的人，是领略不到的。	旅行		
515	1928	③	p.251	思想・山水・人物		曾经住过北京，忘不了那生活的味道。	住		
516	1928	③	p.252	思想・山水・人物		这是前一回，招待他的时候，曾经有过希冀的话，说我愿意在这时候见一见他的有名的小姐，并且得了允可的。	有	これはその前に、自分の方へ御招待したとき、お話しがあつたことで、其の時、自分の方では有名な令嬢に会はして下さいと、申入れて承諾を得てあつたのである。	『思想・山水・人物』 p.408
517	1928	③	p.253	思想・山水・人物		曾经做过教育次长，现在是总统的秘书长。	做		
518	1928	③	p.259	思想・山水・人物		暖房设备，是当然不会有的；屋角的火炉里，也从来不曾见过火气。	见		

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

519	1928	③	p.268	近代美術史潮 論		抱着一己的功利的目的，来作这样的秘密的著作的缺点，或用这题目，照了自己的意见，试来做过一回的希冀(?)的我，二三年来，便在讲义之际，也时时试选些关于这个问题的题目。	做		
520	1928	③	p.278	近代美術史潮 論		他们屡次忘却了自己是美术家，容易成为作画的哲学家。崇拜高远的古典主义的凯思典斯，足至没有做过写生的事的。	做		
521	1928	③	p.294	近代美術史潮 論		对于画在上面的许多人物的各个，是……都做过精密的准备的。	做		
522	1928	③	p.303	近代美術史潮 論		凡有在他旅行亚尔福利亚时所获得的最美的作品《亚尔福利亚》之前，虽是盘桓过较少时间的人，怕也毕生忘不了这画的色彩的魔力罢。	盘桓		
523	1928	③	p.306	近代美術史潮 論		这画之后，接着是上文说过的——恐怕是他手笔中最美的——《亚尔福利亚的女人》；	说		
524	1928	③	p.314	近代美術史潮 論		带着北方气的——然而用维纳的空气来洗练过了的——高雅的诙谐和快活的开朗的助温特，令人想起格林的童话，乌兰特的俗歌，亚罕陀夫的故事和摩礼德的歌谣来。	洗练		
525	1928	③	p.318	近代美術史潮 論		惟这能力，在历史画家是必要的条件，而历来的德国画家，却没有一个曾经有过的。	有		この能力こそは歴史画家に最も必要な條件であつて、しかも在來のドイツ畫家が一人も所有しなかつたところである。
526	1928	③	p.324	近代美術史潮 論		倘依德意志的美术史家的谨慎的形容，则恰如大上给他们命令，喊过什么“原帽——祷告！”之类似的。	喊		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

527	1928	①	p.344	近代美術史潮 論		一八二四行的展览会——这从各种意义上看，在法兰西的画界是大可纪念的展览会——里所陈列的约翰康斯台不勒(John Constable)的风景画，曾给年节的巴黎的画家们以多大的感动，已经说过了。	说		
528	1928	③	p.344	近代美術史潮 論		相传临终时，说了“多么美丽，从来没有见过这么好看的景色！”的话的珂罗，是画了许多幅林妖们欣然曼舞的沼边的风景画。	见		
529	1928	③	p.350	近代美術史潮 論		凡曾在卢佛尔美术馆，见过凯蒙特的品物集成的人，该记得挂在那里的四幅Cantüdrate de Rouenif的罍。	见		
530	1928	③	p.355	近代美術史潮 論		在刚作风景画的果尔替自己的身旁，立一个裸体的模特儿女子；右边，有和他的艺术关系很密的诗人波特莱尔和社会思想家布魯奈；左边是曾经给他的图画做过模特儿的歌师和农民们。	做		
531	1928	③	p.375	近代美術史潮 論		但到一八六四年，去过罗马以后，他的画风就显然变化起来。因为和批评家康拉特斐特拉尔(Konrad Fidler)及雕刻家亚陀勒夫希勒克勃兰特(Adolf Hildebrand)的深交，而他的艺术上的信念成熟了。	去		
532	1928	③	p.393	近代美術史潮 論		在这里，正如他自己说过“不是素描，也不是体态。只有色调的对照。……不当称为Modeler(体态)，应该说是Moduler(色调的推移)。——云云”。	说		
533	1928	③	p.396	近代美術史潮 論		于是以——上面已经说过的——绥珊的有名的话“物体者，球体，圆锥体，圆柱体……云云”为本，而将几何学底的单纯的形体，当作一切物体的“视觉底范畴”了。	说		

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

534	1928	①	p.400	近代美術史潮 論			这个主题，蒙兀是尝试过许多回的，但最见个性的，恐怕是要算受了马克思费因哈勒特之托，饰着柏林的室内剧场的装饰画了。	尝试	
535	1928	③	p.400	近代美術史潮 論			蒙兀也试图过在查理斯德尼亚的大学的讲堂上的壁画那样的大作的，然而他的特性，却似乎于这一方面并不近。	试画	
536	1928	③	p.405	近代美術史潮 論			想在立体底量的表现上，试行一种解决；摩克生勃开尔(Paula Modersohl Becker)刚从戈庚受了作风上的刺激，至于已经说过的法宁该尔，是成着纯然的立体派的作家，那更可以无须赘说了。	说	
537	1928	③	p.406	近代美術史潮 論			但是，以曾经有过巴赫和贝多芬的确实志，而于这样恶趣味的作家——这一句话，则或程度为止，也通用于所谓表现派的全体——加以容许，是决不成他们的名誉的。	有	然し、バツハヤやベンベー トフエンを過去に有 するドイツとして、 かゝる悪趣味な作家 一此の言葉は或程度 まで所謂表現派の全 體にも通用する一を 説き及ぶことは、決 して彼等の名譽とは ならない。
538	1928	④	p.24	壁下译丛	表现主义		“精神(Geist)这句话和‘灵魂’(Socle)这句话，在现代受过教育的人们的日常用语上，几乎成了同义语了，但这是不足为奇的。	受	
539	1928	①	p.29	壁下译丛	表现主义		当医治这两人的期间，他曾经要他画过几回画，但全像孩子的涂鸦一般。	画	
540	1928	④	p.29	壁下译丛	表现主义		逆行云者，就是回到先前的发展状态去。譬如算错了烦难的计算的人，再从头上算过一回似的。	算	

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

541	1928	④	p.65	壁下译丛	卢勃克和伊里納 的後來		伊里納——是的，我献了血的发热的青春，效过劳了。	效// 劳	
542	1928	④	p.66	壁下译丛	卢勃克和伊里納 的後來		我可以这样说，这样峻烈的，严厉的，悲伤的告白，我从来没有听到过。	听到	
543	1928	④	p.75	壁下译丛	关于艺术的思想		这怎样地影响了呢？这就是就如谁都说过一样：前代的神——人力以上的一种不可思议的实在或力——归于灭亡，而支配人生的人间底的轨道，揭示出来了。	说	
544	1928	①	p.79	壁下译丛	关于艺术的思想		他们要从向来没有用过的视物，来看事物。	用	
545	1928	④	p.79	壁下译丛	关于艺术的思想		这样的视角，是谁曾有过的视角呢？	有	
546	1928	①	p.106	壁下译丛	北欧文学的原理		她在嫁给范盖尔之前，是曾和一个美国人，而生着奇怪的强有力的眼睛的航海者，有过以约的。	有	
547	1928	①	p.106	壁下译丛	北欧文学的原理		俄国有一个批评家曾经说过，托尔斯泰宛如放在美丽的花园里的大象一般。	说	
548	1928	①	p.107	壁下译丛	北欧文学的原理		读过《呆伊凡》的是恐怕不少的罢，三个弟兄们里，伊凡算最呆，怎么做就糟糕，这么做就不便等类的手，伊凡是丝毫想不到的，就是，伊凡的呆，实在是果到彻底的。	读	
549	1928	④	p.108	壁下译丛	北欧文学的原理		试看现在的俄国，恰如勃洛克说过那样，在黑暗破坏底的血腥里，静静地走基督般的，正有积极底，光明底的东西动着，是的，确的，而在先前所认为极端者之中，则有新的萌芽，正在抽发，所以先前所谓极端呀，空想底底呀，破坏底底呀，破坏底底呀这些非难的话，也就不免于浅薄之见了。	说	

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

550	1928	④	p.109	壁下译丛	北欧文学的原理	而那破坏和失败之人，皆是祖先也未曾受过那样的苦痛一般的大罪。	受	
551	1928	④	p.110	壁下译丛	北欧文学的原理	于是今天就讲些俄国的事，并且讲了为寻求真理起见，是曾经有过闹了这样的失败和这样的破坏的人们。	有	
552	1928	④	p.116	壁下译丛	阶级艺术的问题	就如用了一些兴奋的调子，该说的话，是都已经说过了而去的样子。	说	
553	1928	④	p.118	壁下译丛	阶级艺术的问题	正如他自己说过那样，他的话，是无所谓傲慢和谦逊的罢。	说	
554	1928	④	p.119	壁下译丛	阶级艺术的问题	关于无产阶级艺术或是所谓阶级艺术，在大约去今年以前的俄国文坛上，也曾议论过。	议论	
555	1928	④	p.132	壁下译丛	艺术的革命与革命的艺术	这便是曾在过去做过劳动/生活这一个经验，所以并非无产阶级作者们的资格的归结的缘故。	做	
556	1928	④	p.139	壁下译丛	现代文学的十大缺陷	我曾经乘各种机会，指摘过对于现代文学的我的不满，我所看出的现代文学的缺陷了。	指摘	
557	1928	④	p.140	壁下译丛	现代文学的十大缺陷	记得说是小说里无需思想，或将思想织在里面的小说是无聊之类的身，是曾经一时成过文坛的论题的。	成	
558	1928	④	p.141	壁下译丛	现代文学的十大缺陷	换了话，便是不深刻昏蒙的，惊心动魄的，以凄惨的苦闷震荡读者的文学，而要譬如混入气体的电光似的，吸过一杯咖啡之后似的，靴音轻轻地踏着辘轳的步道的似的，春天的外套似的，轻松的，明亮的，爽快的，伶俐的小说。	吹	

## 資料⑦

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

559	1928	④	p.143	壁下译丛	现代文学的十大缺陷	而其实，却也有在日本的无产阶级文学运动的阵营内，两三年前就已结成过问题了的东西。	成	
560	1928	④	p.148	壁下译丛	最近的戈理基	在长久时光的戈理基的生活历程中，自然也有过动摇和疑惑的时代；也曾有陷入旁途的瞬间。	有	
561	1928	④	p.150	壁下译丛	最近的戈理基	柯十教授在印象记《在梭连多作戈理基的宾客》中，传着当时的情况——“戈理基很注意的研究着俄国所行的一切事。他现正写着共有三部的庞大的小说(这就是上文说过的三部曲《四十年》)，这至少是网罗着四十年间的俄国生活的雄篇。……”	说	
562	1928	④	p.150	壁下译丛	最近的戈理基	他那对于可爱的孙女的婉婉的爱情，令人记起他说过的，“孩子是地上的花”这一句诗似的言语来。”	说	
563	1928	④	p.151	壁下译丛	最近的戈理基	据戈理基自己所证明，则从一九〇六年到十年之间，由他看过的出于白修的作家之手的原稿，计有四百篇以上。	看	
564	1928	④	p.152	壁下译丛	最近的戈理基	那里面，是不大相识的人，相似的人，未曾见过面的人，接近的人，托我将作品‘给’看一遍”。	见	
565	1928	④	p.152	壁下译丛	最近的戈理基	自己所做的事，你们大概是并未意识到，也并未想过的，然而俄罗斯劳动阶级和我们的地球的全劳动社会，为了建设新的世界底文化的战斗，却将毫无疑问，从你们的先例里，汲上伟大的力量来。”	想	

## 資料④

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

566	1928	④	p.154	壁下译丛	最近的支理基	有人说过，再提的自叙传，可以将书名改题为《天才在适当的事情之下，怎样地发过》。	说	
567	1928	④	p.175	现代新兴文学的诸问题	八	作品从作者的阶级底趣味，有意识或无意识地受着制限，受着指导的事，上文已经说过了。	说	
568	1928	④	p.176	现代新兴文学的诸问题	久	无产阶级政党，是作为劳动运动和社会主义合为一体的结果而起的事，为恩格斯所曾说，列宁也说过的，无产阶级文学的发达，也可以试来和这原则相比照。	说	
569	1928	④	p.186	现代新兴文学的诸问题	十三	如上面所载的“十月”一派在纲领中说过那样，“文学上颓废底倾向的诸派，将那有支配力的阶级止到历史底高潮时候所作的原是统一的艺术上的形式，分解其构成分子，一直破碎为细微的部分，……”	说	
570	1928	④	p.307	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	同志诸君，托尔斯泰主义在上面说过的我们所谓“随伴底”敌对里面，是占着第二义底的世界观。	说	
571	1928	④	p.310	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	到这里，我已经从种种方面，讲过了这两个范畴的例子。	讲	
572	1928	④	p.311	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	在先前，相对底平等主义，对于邻人的好恶，生活的简化这些事，曾经怎样正当地施行过，民众是知道的。	施行	
573	1928	④	p.312	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	他们说过平等，说过分田，说过小经济，然而这是中农民的理想，是称为榨取者，则还太幼稚，然而达得最高的中农经济的理想。	说	

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

574	1928	④	p.312	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	他们说过平等，说过分田，说过小经济，然而这是中农民的理想，是称为榨取者，则还太幼稚，然而达得最高的中农经济的理想。	说	
575	1928	④	p.312	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	他们说过平等，说过分田，说过小经济，然而这是中农民的理想，是称为榨取者，则还太幼稚，然而达得最高的中农经济的理想。	说	
576	1928	④	p.314	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	你们以这不行的态度，只在暂时之间，便榨取穷穷人，或则吸尽了你们榨取过的地主的全身的汗水，要将这改铸为金币。	榨取	
577	1928	④	p.315	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	还有，他自己的个性否定说，这在结果上，是带社会底性质的，但在他的哲学观之中，已经讲过——到后来，要讲到的罢，	讲	
578	1928	④	p.317	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	他将这拿在手裏，看了，于是喃喃地说，“是的，这是麦子，这样的麦，古时候是有过的。”	有	
579	1928	④	p.317	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	托尔斯泰就这样地瞎小着空想底的，这世上未曾存在过的黄金时代，然而这是空想，他自己却分明知道的。	存在	
580	1928	④	p.318	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	符拉迪弥尔·梭乐斐雅夫(Vladimir Soloviev)——是伟大的神秘哲学家，几乎是正教信者，从这个关系说起来，和我们是比托尔斯泰距离更远的右倾底任务——普和托尔斯泰会见，有过一场辩论。	有	
581	1928	④	p.321	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	他读西欧的作家亚莱克斯尔的日记——这是只写着死之恐惧的日记——的时候，曾经说过：	说	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

582	1928	④	p.323	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	然而在那生涯的盛年时候，他说过，不将爱来替换对于人们的敌意，是不行的，应该以侮辱别人的事为羞耻，为罪恶。	说		
583	1928	①	p.324	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	托尔斯泰的社会底理想，就是基督教底理想，关于这一节，正如他自己也曾说过，是各人大家决不敢侮谁，也不寻求富贵，除了延续自己的生存的事以外，一无所求，而靠了自己的劳动，生活下去。	说		
584	1928	④	p.325	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	就因为为在十九——二十世纪那般的科学的开花，在人类的历史上未曾有过的缘故。	有		
585	1928	④	p.325	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	加以这样的工场产业，这样的交通路线，都未曾有过，而且在现今的形态上那样的资本主义，也未曾存在过的缘故。	有		
586	1928	①	p.325	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	加以这样的工场产业，这样的交通路线，都未曾有过，而且在今日的形态上那样的资本主义，也未曾存在过的缘故。	存在		
587	1928	①	p.325	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	然而我们将人类的过去的行程，历史地加以检讨的时候，我们却看见在科学和产业之点，人类是愈进愈前，终于到达了未曾站过的顶点。	站		
588	1928	①	p.328	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	萨拉迪弥尔·梭乐斐雅夫曾将倘有人虐待孩子，对比将取怎样的态度的事，质问过托尔斯泰。	质问		
589	1928	①	p.330	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	我调查过他们的许多人，但我并没有从他们里面发现特别的蔡欲主义者。	调查		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

590	1928	④	p.330	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	话是如此，他们托尔斯泰主义者，却从来没有到达过认真地来扞据这掠夺底社会组织那样的集团底意志表示。	到达		
591	1928	④	p.330	文艺与批评	托尔斯泰与马克思	我曾在瑞士遇见过一个非常出色的托尔斯泰主义者。	见		
592	1928	⑤	p.43	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記—	党的指导方针，是以前也曾有过，现今也还存在。	有		
593	1928	⑤	p.52	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記—	同志瓦浪斯基说过，同志什诺维夫称赞了亚历舍·托尔斯泰的《亚葛黎多》；我也从同志什诺维夫亲口听到过。	说		
594	1928	⑤	p.52	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記—	同志瓦浪斯基说过，同志什诺维夫称赞了亚历舍·托尔斯泰的《亚葛黎多》；我也从同志什诺维夫亲口听到过。	听到		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

595	1928	⑤	p.55	文艺政策	关于对文艺的党的政策-一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記 <sub>录</sub>	但是，同志台尔，你不是曾经揭发过，旧来的遗产，例如，即使是蒲力汗诺夫，也不能利用么？	揭发		
596	1928	⑤	p.59	文艺政策	关于对文艺的党的政策-一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記 <sub>录</sub>	但在那里，阿尔志跋绥夫，安特来夫(Leonid Andreev)，是都没有登载过的。	登载		
597	1928	⑤	p.60	文艺政策	关于对文艺的党的政策-一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記 <sub>录</sub>	由同志瓦浪斯基所招集的文学家的一部，要流到那一边去，是毫无意义的，因为稿费大约是那一边多，而那些作家们，也正如同志瓦浪说过那样，大半是“看金钱面上”的人们呀。	说		
598	1928	⑤	p.61	文艺政策	关于对文艺的党的政策-一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記 <sub>录</sub>	正如同志涅辛斯基已经谈过那样，同志瓦浪所加重主张的，是以为站在我们之前者，并非艺术底问题，而是政治底问题。	说		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

599	1928	⑤	p.63	文艺政策	关于对文艺的党的政策-一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記 <sub>录</sub>	第二，是我们在什么时候，什么地方，说过艺术上的党的政策的课题，乃是将统治权交给我们的团体-“十月”呢？	说		
600	1928	⑤	p.75	文艺政策	关于对文艺的党的政策-一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記 <sub>录</sub>	然而，第一，我读了登在近时的《那巴斯图》上的你的论文。第二，我此刻刚才火速地看过了你的演说速记。	看见		
601	1928	⑤	p.75	文艺政策	关于对文艺的党的政策-一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記 <sub>录</sub>	他说着：“频频向我们推崇‘同路人’，然而先前的，战争以前的《真理》和“Zvezda”上，曾经登载过阿尔志跋绥夫和安特来夫以及别的人，倘在现在，一定被称为‘同路人’之辈的作品没有呢？”	登载		
602	1928	⑤	p.75	文艺政策	关于对文艺的党的政策-一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記 <sub>录</sub>	据我所知道，无论谁，没有将他们称过“同路人”。	称		





## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

611	1928	⑤	p.91	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	在这座上, 说过“Sandwich”, 在这座上, 说过“机械底方法”等等。	说		
612	1928	⑤	p.93	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	有人在这里说过——艺术是生活认识的特殊的方法。	说		
613	1928	⑤	p.95	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	符拉迪弥尔·伊立支(列宁)直白地说过——只有发疯的共产主义者, 以为在俄国的共产主义, 可以单靠共产主义者之手来实现。	说		
614	1928	⑤	p.95	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	他坦率地对我说过, 他以为Proletcult要造出自己的艺术家的努力, 是完全当然的事。	说		

295

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

615	1928	⑤	p.96	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	他说过, 从无产阶级的菜豆里, (略萨诺夫, “这是——着了色的菜豆芽。”) 是什么也不会发生出来的。	说		
616	1928	⑤	p.97	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	我们说过, 首先是劳动大众, 比什么都重要。	说		
617	1928	⑤	p.97	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	同志瓦进曾经指摘过和对于党的第一回大会以后的时代的彼雪维克的国外的团体, 所加的嘲笑类似。	指摘		
618	1928	⑤	p.99	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	在这座上, 关于瓦浪斯基, 曾经用过他利川了专门家, “如我们在自己的领域上利用他们那样这一类的句子。”	用		

296

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

619	1928	⑤	p.99	文艺政策	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	列宁说过，我们对于有产阶级的文化，应该知道，研究，改正，却并没有说我们应该成为这文化的俘虏，——然而在事实上，我们是成着这俘虏。	说		
620	1928	⑤	p.100	文艺政策	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	同志托罗兹基在这里，说过作家所必要的皮下注射了。	说		
621	1928	⑤	p.100	文艺政策	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	《赤色新地》曾有读过文学的组织和中心的脚色的时代，即是作为十月革命前后的时代的最初的大杂志，完成了一定的政治底职掌，这还被称为促进了白色文学的解体的。	演		
622	1928	⑤	p.100	文艺政策	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	曾经有时代，《赤色新地》上也登载过喜欢美文学的我所乐于阅读的作品。	登載		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

623	1928	⑤	p.101	文艺政策	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	瓦浪斯基所出版的一切作品的忠实的读者的我，可惜没有读过一篇他的评论。	读		
624	1928	⑤	p.104	文艺政策	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	至今为止，关于这一端，我们，没有过叫快的理论底构成。	有		
625	1928	⑤	p.106	文艺政策	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	列宁曾指导过艺术家戈理基。	指导		
626	1928	⑤	p.106	文艺政策	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	关于对文艺的党的政策一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記	关于文学的豫想。问过同志托罗兹基了。而他怎样回答呢？	问		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

627	1928	⑤	p.110	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記 <sub>一</sub>	我是每一个半月乃至两个月，总声明自己的战术，和同志商量的，然而至今还没有听得一回，有人说我的战术在根本上有什么不当。	听得		
628	1928	⑤	p.110	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記 <sub>一</sub>	我是说了和同志托罗兹基，布哈林，卢那卡尔斯基以及别的同志说过的话的。	说		
629	1928	⑤	p.112	文艺政策	关于对文艺的党的政策—一九二四年五月九日关于文艺政策的評議会的議事速記 <sub>一</sub>	所以列宁是对劳动者说过的。	说		
630	1928	⑥	p.20	竖琴	在沙漠上	“究竟是谁给我们吃肉，喝水的？我们还记得在埃及吃过的鱼。……”	吃		
631	1928	⑥	p.27	竖琴	果树园	对于自己的妻，也加以从未有过的不干净的恶骂，待到决计上市去的时候，是几乎动手要打了。	有		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

632	1928	⑥	p.27	竖琴	果树园	那是一直先前，做过造砖厂看守者的活泼而狡猾，且又能干的乡下人。	做		
633	1928	⑥	p.29	竖琴	果树园	这同是爬到抽水机的上面去，在水桶上涂了机油，又骑在打横的轮轴上，检查过齿轮。	检查		
634	1928	⑥	p.30	竖琴	果树园	向着先前的老太太住过的别墅里，学校的孩子们从镇上通来了——显着优美的眼色的，顽皮似的大约一打的孩子，前头站着·一个仅调皮骨的年青的蹉跎的女教员。	住		
635	1928	⑥	p.32	竖琴	果树园	“那是，恐怕走错了！没有听到过这样的果园呀……”	听到		
636	1928	⑥	p.32	竖琴	果树园	“连自己该去的地方都不知道……但是，我这里，是什么都妥当了。第二回的浇灌，也在三天以前做过了……怎么能一直等到现在呢！”	做		
637	1928	⑥	p.33	竖琴	果树园	于是她也即刻安睡了。并且也如施的男人一样用了未曾有过的眼色，凝视着火。	有		

## 資料⑤

第2章例文：鲁迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《鲁迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

638	1928	⑧	p.190	译文补编	贵家妇女	如果贵家妇女戴着帽子，穿着细丝袜，手上抱着叭儿狗，牵着金牙齿的时候，那么，在我看来，那里是什么贵家妇女呢，就像是一个讨厌的怪物。 但在先前，自然，我也迷过贵家妇女的。	迷		
639	1928	⑧	p.193	译文补编	贵家妇女	——不——他回答说——即使脖子上还有一个，也咬过了的，又给指头捏软了。	咬		
640	1928	⑧	p.193	译文补编	贵家妇女	——什么——我说——说是咬过了，唔？这是什么话。	咬		
641	1928	⑧	p.193	译文补编	贵家妇女	那不消说，人们聚集起来了，他们是鉴定人。有的说是已经咬过了，有的却说是——没有咬。我付过钱硬向那贵家的女人。	咬		
642	1928	⑧	p.193	译文补编	贵家妇女	我付过钱，便向那贵家的女人。	付		
643	1928	⑧	p.194	译文补编	捕狗	一匹很大的黄色的狗，跑近留囊来，嗅过他的气味，于是“向左转开步走”，川全速力飞跑，将形影没在黑夜里了。	嗅		

## 資料⑥

第2章例文：鲁迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《鲁迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

644	1928	⑧	p.194	译文补编	捕狗	最近，强盗们已经利用了狗的风传，留囊是听到过的。	听到		
645	1928	⑧	p.195	译文补编	捕狗	留囊仿佛觉得曾在什么地方听到过这样的话。	听到		
646	1928	⑧	p.195	译文补编	捕狗	是患着死症的人们，以为从来在谁那里都没有出现过的奇迹，却要出现于自己身上的世间。	出现		
647	1928	⑧	p.200	译文补编	关于绥蒙诺夫及其代表作《饥饿》	绥蒙诺夫是不消说，不像有产者作家那样，受过组织底的文学教育的。表现——这事情，似乎很幸苦了他。他说过——	受		
648	1928	⑧	p.200	译文补编	关于绥蒙诺夫及其代表作《饥饿》	绥蒙诺夫是不消说，不像有产者作家那样，受过组织底的文学教育的。表现——这事情，似乎很幸苦了他。他说过——	说		
649	1928	⑧	p.203	译文补编	食人种的证	他们这时候记起了一件事。就是在白人渡来以前，他们曾经吃过敌人的肉。	吃		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

650	1928	⑧	p.204	译文补编	食人人种的话	然而许多女人们，和尝过了人生的苦辛的经验几个男人们，却回答说，——不要说那样的话，那娃娃，就给这样静静地放着罢。	尝		
651	1928	⑧	p.204	译文补编	食人人种的话	——对你说过，你的母亲是死掉了的，好不懂事的孩子呀。	说		
652	1928	⑧	p.209	译文补编	农夫	——这几天，我独自去看过了，都像我们那甲一样，画着十字；圣像也一样的，便是描在圆房顶上的萨拉亨神，也是白头灸，大胡子哇。	看		
653	1928	⑧	p.209	译文补编	农夫	敌人，依兵卒的用语来说，是“小子们”，似乎还在四近。他们烧过的篝火，还没有烧完。	烧		
654	1928	⑧	p.212	译文补编	农夫	兵卒们说过，地面是每夜哭泣的。他刚一登先前起，就想听一听地西的哭声，但还没有这机会。	说		
655	1928	⑧	p.214	译文补编	农夫	“查过了么？” “唔，查了，队长，查过了。队长说的那丘上呵……”	查		
656	1928	⑧	p.214	译文补编	农夫	“查过了么？” “唔，查了，队长，查过了。队长说的那丘上呵……”	查		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

657	1928	⑧	p.215	译文补编	农夫	“那么，为什么不将那小子结果的？” “所以我说过了的……那小子是睡着的，队长。”	说		
658	1928	⑧	p.215	译文补编	农夫	“这样的木头人。没有见过……。唔？我将你交给军法会议去。”	见		
659	1928	⑧	p.239	译文补编	LE0V TOLSTOI	关于所作《幼年时代》，他在一八五二年写给姑母Tergolskaia的信里，有云，“我将久已开手的这小说，改作过几回了，为荷自己的满意计，还想改定一回。”	改作		
660	1928	⑧	p.240	译文补编	LE0V TOLSTOI	前者是为履行那契约期限之故，做了速记，后者是为大文豪发表杰作，将二千余页的《战争与和平》誊清过七回。	誊清		
661	1928	⑧	p.241	译文补编	LE0V TOLSTOI	以“不能沉默”为动机的他的文章，是震撼我们的，但这是因为，例如当描写死刑的光景之际，想象了“浸过了肥皂水的绳子，绕上他的又老又皱的颈子了”的他那一言，乃是充溢于同情的心的叫喊的缘故。	浸		
662	1928	⑧	p.244	译文补编	LE0V TOLSTOI	他又击了所谓民众启蒙运动，经验和和都市的发达一同激增的可怕的矛盾的现象，而他自己，则成为最后的贵族了。	经验		
663	1928	⑧	p.248	译文补编	LE0V TOLSTOI	那恐怖和惊愕，是未曾尝过的程度。	尝		
664	1928	⑧	p.248	译文补编	LE0V TOLSTOI	但如此苦痛的感觉，是一向没有觉到过的。”而这感觉的详细，Tolstoi是用了可惊的真实和魅力，叙在一八八四年之作《狂人日记》中。	觉到		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

665	1928	⑧	p.254	译文补编	LEOV TOLSTOI	“我不穿凿自己的心境，即自己的感情了。而家族的事，则单是感，并不思。。这精神状态，给我以很广阔的知识地域。我一向未曾感到过，自己的精神力竟能如此日出，而且致力于作品。”	感到		
666	1928	⑧	p.255	译文补编	LEOV TOLSTOI	“留在我们想象中的这个时代精神，我不以为真实，也不想描写它。我曾研究了历来的文件，日记类和传记，没有发见过比现在，或我在右·时期所目睹似的更残忍，暴虐的事实。”	发见		
667	1928	⑧	p.261	译文补编	LEOV TOLSTOI	为什么Isanai Poliana的地主的府邸，不能变狭窄的温暖的小屋的呢？“为什么”者，是Tolstoi说起过几十回的问题。	说起		
668	1928	⑧	p.270	译文补编	访革命后的托尔斯泰故乡记	我们日本人，除海以外，未曾见过这样的广大。	见		
669	1928	⑧	p.277	译文补编	访革命后的托尔斯泰故乡记	第二级小学校的主任讲过巴黎Commune和他们的英雄底事业后，一个十三四岁的少年便朗诵起巴黎Communc的白作的诗。	讲		
670	1929	④	p.149	壁下译丛	最近的戈理基	在最近的书信之一里，他这样地写着——“我想于五月初回俄罗斯，全夏天，到我曾经留过足迹的地方去看看。这已经是决定了的。……”	留		
671	1929	④	p.200	艺术论		但由上面说过的事，艺术作为思想的组织者而显现的时候，则也可以说，一定是将思想和感情，组织在一处的。	说		
672	1929	④	p.204	艺术论		曾经有过艺术界的敏感的代表者们，以产业为仿佛是自己的强敌似的时代。	有		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

673	1929	①	p.209	艺术论		不精工の机械这东西，我不很看见过，但倘到像样的博物馆去，一看种种机械的发达着的模样，那就恐怕常常会看出和动物的肉体的组织的发达非常相似的什么来的罢。	看见		
674	1929	④	p.215	艺术论		而无产者艺术的根本底特质，即对于科学和技术的爱，对于未来的广大的见解，火焰似的斗志，毫不宽假的正义感，都将在对于世界的集团主义底知觉和集团主义艺术的画布上挥洒，而惟在这时候，一面也获得未曾闻的广大和未曾豫感过的渊深。	豫感		
675	1929	④	p.218	艺术论		对于这事，我们已经指摘过，以为并不见有特别的深的根据了。	指摘		
676	1929	④	p.219	艺术论		所以知觉机关只要一回应过一要素的知觉，便毫无困难地知觉其余了。	回应		
677	1929	④	p.223	艺术论		虽在第一流的美术家的画布上，对于未曾见过一次人们的存在，他是作为这样的东西而出现的罢。	见		
678	1929	④	p.230	艺术论		我们已经说过，恐怖可以是美底。	说		
679	1929	④	p.231	艺术论		关于这事，我们已经在概论恐怖的时候说过了。	说		
680	1929	④	p.235	艺术论		笑的解剖，至今谁也还没有完全地施行过。	施行		

## 資料⑤

## 第2章例文：鲁迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《鲁迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

681	1929	④	p.254	艺术论			我们已经讲过，科学所向往的理想底认识，是理想底的生活的要件。	讲	
682	1929	①	p.268	艺术论			你曾将负着重荷者的悲哀底好过了么？	医好	
683	1929	④	p.268	艺术论			你将被虐者的眼泪什么时候干燥过了么？	干燥	
684	1929	④	p.274	艺术论			反之，在历史中看不见意义的人们，则即使他怎么善良，也不过是毫不将人类的特殊抬高一点的，单是曾经存在过了的利己主义者，在他死后，是决没有什么东西留下的罢。	存在	
685	1929	①	p.287	文艺与批评	为批评家的卢那 卡尔斯基		关于这艺术，迄今已经论过几多回了。	论	
686	1929	④	p.332	文艺与批评	今日的艺术与明 日的艺术		就是，人类之能成为艺术家，以及在人间，普遍底地有艺术存在的事，毫没有否定了艺术和时代的推移一同，曾经遇过太大的变化，也没有否定了艺术在各社会各民族中，被铸造为特种的样式。	遭	
687	1929	④	p.334	文艺与批评	今日的艺术与明 日的艺术		然而这种的心情，是可以和人玛拉心(Jean Paul Marat)曾对艺术家们说过的话，“凡有这些的人们，是富人的家丁，意识底地或无意识底地，正直地或不正直地，从未将什么色彩显在表面上。	说	
688	1929	④	p.341	文艺与批评	今日的艺术与明 日的艺术		但这里之所谓职上，并非我已经讲过的，这话的本来意义的职上，即艺术的社会的底活用上。	讲	

## 資料⑥

## 第2章例文：鲁迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《鲁迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

689	1929	①	p.341	文艺与批评	今日的艺术与明 日的艺术		为什么呢，因为在木行探求之处，就没有适应于这世纪的经了洗练的技巧，而只有曾在或一时代实在活过的艺术的——苍白，秃毛，无齿，瘦削，濒死的——残骸的。	活	
690	1929	①	p.341	文艺与批评	今日的艺术与明 日的艺术		虽然颇猛烈地讲过了，但不要立刻将这和触到革命的真谛的重要问题，连接起来去着想。	讲	
691	1929	④	p.344	文艺与批评	今日的艺术与明 日的艺术		虽在图谋结合，但愿意表现出我们的贵重的幻想和或种高潮的观念地，并出改造过或种的现实底形态地，结合起来的一种欲望，在人类里出现了的意思。	改造	
692	1929	④	p.347	文艺与批评	今日的艺术与明 日的艺术		还有，我所作为最大的欢喜者，是我为了要作已经说过了的那样的演讲，来到诸君之前的今天，和普密罗夫斯基工厂的委员见面，受了这样的要求。	说	
693	1929	④	p.350	文艺与批评	苏维埃国家与艺 术		就如我已论述过，在革命，是预期者作为观念形态的艺术的发达的。	论述	
694	1929	④	p.351	文艺与批评	苏维埃国家与艺 术		我已经指出过，在这里，也有例外。	指出	
695	1929	④	p.351	文艺与批评	苏维埃国家与艺 术		莫泊桑曾经写过，只因为不愿意看似的妖怪爱菲勒(Geiffel)塔，想要逃出巴黎。	写	
696	1929	④	p.351	文艺与批评	苏维埃国家与艺 术		就如我已经讲过，左倾艺术家像哑的一般，不说革命底言语之间，则他们观念形态底地造出革命艺术来的事，在事实上，大约仍旧很少的。	讲	
697	1929	①	p.352	文艺与批评	苏维埃国家与艺 术		在这关系上，我们也做过一些事了。	做	

## 資料⑥

第2章例文：鲁迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《鲁迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

698	1929	④	p.356	文艺与批评	苏联国家与艺术	艺术的一部。就是。我已经说过。惟独文学。是显示着或种的例外的。	说	
699	1929	④	p.359	文艺与批评	苏联国家与艺术	我们已经讲过艺术的形式方面。自能致大大的利益了。惟有习得形式的完全——就可以触到人类的感悟。给他喜悦。听他美感和美感的形式。这才能将所与的现象。引进艺术的领域去。	讲	
700	1929	④	p.362	文艺与批评	苏联国家与艺术	初期的我们的诸先辈。几乎没有触到过这问题。	触到	
701	1929	④	p.363	文艺与批评	苏联国家与艺术	最著名的艺术教育家之一的珂内留斯(Cornelius)关于德国。决定地说过：在那地方。真正的艺术底教化的什么方法。什么艺术教育。都绝对地没有。	说	
702	1929	④	p.364	文艺与批评	苏联国家与艺术	这改革。已由同志那服尔斯基(Yavorski)妥善地办过了。	办	
703	1929	④	p.367	文艺与批评	苏联国家与艺术	然而他并不是什么挂在称钩上。比较过了的。	比较	
704	1929	①	p.370	文艺与批评	苏联国家与艺术	在不远的将来。不用这个时期。是会到来的罢。但在现在的俄国。却是蒲力汗诺夫说过那样。“非各人都会放枪不可”的。在这意义上。检阅便是这样的武器。应该能够完全地利用这武器。然而单因为不是共产党员这一个理由。向通行者乱开手枪那样的事。那自然不对的。	说	
705	1929	④	p.380	文艺与批评	关于马克思主义文艺批评之任务的题要	在这里。首先第一。有记起蒲力汗诺夫也曾说过的最重要的形式底倾向——就是。文学是形象的艺术。一切露出的思想。露出的宣传的向那里面的侵入。常是所与的作品之失败的意思这一个规范来的必要。	说	

309

## 資料⑦

第2章例文：鲁迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《鲁迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

706	1929	④	p.381	文艺与批评	关于马克思主义文艺批评之任务的题要	但是。如已经说过。对于大众性的规范。是应该希望用非常之慎重	说	
707	1929	④	p.382	文艺与批评	关于马克思主义文艺批评之任务的题要	然而。如屡次说过那样。为劳动者农民大众的文学底工作。倘使这是成功的。右才能出东西的时候。在那评价这意义上。就应该由我们列在较高的地位。	说	
708	1929	④	p.382	文艺与批评	关于马克思主义文艺批评之任务的题要	如已经说过。批评家。与革新主义者在相当的程度。是教师。	说	
709	1929	⑤	p.7	小彼得	煤的故事	“我先前住过的地方。还要暗得多哩。”别的一块煤道。	住	
710	1929	⑤	p.8	小彼得	煤的故事	我是在很长很长的矿洞里面的。也是你现在讲过了那样的狭窄的矿洞。	讲	
711	1929	⑤	p.10	小彼得	煤的故事	我曾经坐了船。在大的海上旅行过。	旅行	
712	1929	⑤	p.13	小彼得	火柴盒子了的故事	他是从幼小时候以来。生长在大会里的。树木之类。几乎没有看见过。	看见	
713	1929	⑤	p.13	小彼得	火柴盒子了的故事	“你可曾见过大的森林没有?”	见	
714	1929	⑤	p.13	小彼得	火柴盒子了的故事	“原来。没有见过。不错。你是总住在这罩满可怕的煤烟的都会里的。”	见	

310



## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

715	1929	⑤	p.13	小彼得	火柴盒子的故事	我没有见过人类那样的愚蠢的动物。”	见	
716	1929	⑤	p.13	小彼得	火柴盒子的故事	“唔唔，可以。但是你没有见过一回森林，不知道从那里说起才好呵。……	见	
717	1929	⑤	p.14	小彼得	火柴盒子的故事	我在没有见过这财主的时候，以为他一定是故事里所讲那样的神明。	见	
718	1929	⑤	p.17	小彼得	水瓶的故事	从她脸上看见过温和的微笑的，从她薄薄的嘴唇里听到过漏出来的亲热的言语的，一个也没有。	看见	
719	1929	⑤	p.17	小彼得	水瓶的故事	从她脸上看见过温和的微笑的，从她薄薄的嘴唇里听到过漏出来的亲热的言语的，一个也没有。	听到	
720	1929	⑤	p.19	小彼得	水瓶的故事	“你可曾遇到过很热很热，热得挡不住了的事情没有呢？”水瓶问。	遇到	
721	1929	⑤	p.21	小彼得	水瓶的故事	但是，讲的话，已经全都讲过了。	讲	
722	1929	⑤	p.25	小彼得	毯子的故事	“我不懂这话，”毯子说，“因为没有你似的做过学问工夫。……	做	
723	1929	⑤	p.28	小彼得	铁壶的故事	因为直到现在，也见过各色各样的事情了呀。	见闻	
724	1929	⑤	p.28	小彼得	铁壶的故事	但是，这事，是水瓶太太已经给讲过了。	讲	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

725	1929	⑤	p.29	小彼得	铁壶的故事	我曾经在上等人所住的又大又好的卧室里居住过。	居住	
726	1929	⑤	p.29	小彼得	铁壶的故事	“就如刚才说过，我是住在厨房里的，然而里面的屋子里所发生的事情，也很知道。……	说	
727	1929	⑤	p.29	小彼得	铁壶的故事	她是英吉利人，原是读过许多的聪明的书的一个老人的东西。	读	
728	1929	⑤	p.30	小彼得	铁壶的故事	我在这家里，已经住了四整年，但从来没有见过地做一件什么事情的事情。	见	
729	1929	⑤	p.30	小彼得	铁壶的故事	“怎样，我就说过的。在人类的世界里，就是那模样呵！”	说	
730	1929	⑤	p.32	小彼得	铁壶的故事	这么说过，铁壶便闭了嘴。火柴盒子跳到 he 那里去，说道，“你是很出色的。给我们讲了出色的美的故事，多谢多谢。”	说	
731	1929	⑤	p.137	文艺政策	附录 以理论为中心的俄国无产阶级文学发展史	然而像已经说过的“烈夫”的前身“未来派”是作为资产阶级文学底传统之文学的否定者破坏者而产生的东西。	说	
732	1929	⑤	p.156	艺术论	艺术论	据托尔斯泰的意见，则“艺术者，始于人以传自己所经验过的感情于别的人们的目的，再将自己的内部唤起，而用一定的外底记号，加以表现的时候。”	经验	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

733	1929	⑤	p.166	艺术论	论艺术	例如，在十七世纪的法国，曾经存在过的关系，便是这，在那里，资产阶级很喜欢模仿贵族阶级，虽然不能说是非常成功地成功的。	存在	
734	1929	⑤	p.167	艺术论	论艺术	假使我并不错，则这和我以前，一个俄国的唯物史观的支持者所已曾说过者，是全然而同一的。	说	
735	1929	⑤	p.168	艺术论	论艺术	大波特和理文斯敦说过，尼格罗女子除了她服装之际以外，绝没有不加装饰而外出事。	说	
736	1929	⑤	p.168	艺术论	论艺术	在精枯族的黑人那里，近来的排一死，他立刻将他自己和他的妻子们都用过许多注意和关心于那装饰上的自己的头发剪去，作为哀愁的象征。	用	
737	1929	⑤	p.170	艺术论	论艺术	后来，莎士比亚开始被苛待，恰如由见过他的古典主义底传统的顽固的支持者的那些法兰西人，当作“烂醉的野蛮人”而受了苛待的一样。	见	
738	1929	⑤	p.175	艺术论	论艺术	却使自己和它们相对立，那就是由于他的文化的状态，即我也已经说过的社会底诸条件之如何的意思。	说	
739	1929	⑤	p.175	艺术论	论艺术	但是，为夸张和“一面社”之点，免于得到非难起见，我将使我已经引过的博学的德国的旅行家——望·覃·斯泰南来替我说话。	引用	
740	1929	⑤	p.181	艺术论	论艺术	那岂不是我们的父祖们曾经犯过的旧的论理底错误么——地站在什么上面呢？	犯	

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

741	1929	⑤	p.181	艺术论	论艺术	十八世纪的启蒙主义者，就如我已经说过那样，从观念论的观点，观察了历史。	说	
742	1929	⑤	p.185	艺术论	论艺术	而且为发见许多最明快，又最巧妙的那些的说明图起见，则看过“Philosophie de l'art”，“Histoire de la Littérature Anglaise”或“Voyage en Italie”，就很够了。	看	
743	1929	⑤	p.186	艺术论	论艺术	然而为什么我们的感情，那样地不像嗜爱过华丽的仪式，古典底的悲剧，亚历山特利亚的诗的人们的感情的呢？	嗜爱	
744	1929	⑤	p.186	艺术论	论艺术	敬爱的先生，站在极其种种的见地的著者们，曾经反驳过泰纳的事，你是知道的。	反驳	
745	1929	⑤	p.189	艺术论	原始民族的艺术	故人N・I・洛培尔也同样地观察过原始经济经济构造。	观察	
746	1929	⑤	p.189	艺术论	原始民族的艺术	真是，我在第一信上已经引用过的凯尔·毕海耳，以为这是不介乎事实的。	引用	
747	1929	⑤	p.194	艺术论	原始民族的艺术 (注释)	伦敦的Nature杂志上，曾经发表过一篇论文，主张着有时以称安人曼岛的土人的“明可皮”这名目，毫无根据，在土人们，在他们的邻人们，都所不用云。	发表	
748	1929	⑤	p.197	艺术论	原始民族的艺术	现代的亚美利加的人科学，关于这点，已不留丝毫疑义了，来引用上文引证过的波惠勒的研究——The Wyandot Government.	引证	

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

749	1929	⑤	p.197	艺术论	原始民族的艺术	事实以十分的确信在显示，野蛮人那里，非如华海儿所言，是食料的个人底搜索，却如站在N·I·治培尔以及M·M·珂瓦列夫斯基的立场的著作者们说过那样，仗着全——多少有点广泛，——血族结合的合了力的生存竞争，而占优势的。	说		
750	1929	⑤	p.217	艺术论	再论原始民族的艺术	关于南美洲印地安，对于自己的孩子们的大的爱，神甫休密拉已经说过了。	说		
751	1929	⑤	p.219	艺术论	再论原始民族的艺术	如我已经说过，艺术是社会现象，所以倘若野蛮人实在是完全的个人主义者，那么，絮说他的艺术，竟是无意味的要，我们在他们那里，将毫不能发现艺术活动的怎样的特征。	说		
752	1929	⑤	p.226	艺术论	论文集(二十年 间)第三版序	近时陀勃罗先生的机关杂志说过——“社会主义所给我们的饱满的右产者底幸福，并不使我们满足”(原《基雅夫意向》一九〇八年，二三二号所引用)云。	说		
753	1929	⑤	p.228	艺术论	论文集(二十年 间)第三版序	我说过，——黑格尔学派的批评家——观念论者，以为将艺术作品的思想，从艺术的言语，译成哲学的言语，是自己的义务。	说		
754	1929	⑤	p.230	艺术论	论文集(二十年 间)第三版序	我现在所言，并非为了唯物论底方法的辩明，——我已经说过，所与的方法的恶川的可能，还未曾给人以裁判这方法本身的权利，——是为了对于那拥护者，警告其谬误而说的。	说		
755	1929	⑤	p.230	艺术论	论文集(二十年 间)第三版序	瞿提(Goethe)就已经说过，一切反动底时代，是倾向于主观主义的。	说		

## 資料⑦

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

756	1929	⑤	p.255	毁灭	第一部	“消息。”刚卡连可谦虚地说，“我也有过你那样蠢的时代。叫你去干什么呀？”	有		
757	1929	⑤	p.262	毁灭	第一部	人们洗过了美谛克。他川肘叉起身来，环顾了四近。	洗		
758	1929	⑤	p.267	毁灭	第一部	“我并不是说你呵——倒是说照相……我虽然换了许多女人了，却不会有过那样的照相。恐怕什么时候你会送我一张的罢？……”	有		
759	1929	⑤	p.268	毁灭	第一部	恰如在坐话里那样，从林中跑出一匹长足的，蹄声响亮的马来时，美谛克就记起在什么地方见过这人和马来了。	见		
760	1929	⑤	p.268	毁灭	第一部	人们都有直着脑袋卷缩的帽子，穿着长到膝腰的小衫，他们迈儿整齐的，弯曲的腿，踏着踏过的地方向前走，野草便颓郁地，无力地，倒在他们的脚下了。	剖		
761	1929	⑤	p.270	毁灭	第一部	略勃支家中的小园里，树阴下放着一张圆桌，那上面摊开着被过的地图，莱奋生正在询问刚才回来的斥候。	裱		
762	1929	⑤	p.270	毁灭	第一部	那斥候——穿着农人的短袄和草鞋——是刚到过日本军的阵地的中心来的。	到		
763	1929	⑤	p.279	毁灭	第一部	“好好的镰刀，就是敷衍了面的也没有呵，——都是修补过的。……”	修补		
764	1929	⑤	p.283	毁灭	第一部	曲背的独只眼的——讲过日本人的那人大声说。	讲		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

765	1929	⑤	p.289	毁灭	第一部	不能疑心他做过这样的事，——他懂得一切事，做得都适如其分。	做	
766	1929	⑤	p.290	毁灭	第一部	假使莱奋生讲过他那幼时，帮着他的父亲卖旧货，以及他的父亲直到死去，在愁闷时，但一面却怕老贼，靠着不高明的梵亚林的事，那么，大约谁都以为这只是恰好的笑话的罢。	讲	
767	1929	⑤	p.290	毁灭	第一部	像他那样年纪之际，他也曾摹仿过教导他的人们。	摹仿	
768	1929	⑤	p.295	毁灭	第一部	“十五分钟前来了一个。”	来	
769	1929	⑤	p.296	毁灭	第一部	“都成了灰了。我们给打死了四个。一夏天里，这样的强盗，我们是一回也未曾有过的。”	有	
770	1929	⑤	p.301	毁灭	第一部	其实，他是从来没有尝过一回真的家庭生活，他本身也决不觉得自己是结了婚的人的。	尝	
771	1929	⑤	p.301	毁灭	第一部	他的声音里，含着地所未尝听过的调子。	听	
772	1929	⑤	p.302	毁灭	第一部	于是他更加脸红，添上去道：“便是，我也要对你说，倘使我没有受过你的帮助……不幸的是……”	受	
773	1929	⑤	p.307	毁灭	第一部	(巴克拉诺夫的意思，以为莱奋生这样做，是为了加重自己的发问的斤两的，——但其实是，莱奋生之所以如此，却因为颈子上曾经受过伤，不这样便作住转不过去的缘故。)	受	

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

774	1929	⑤	p.308	毁灭	第一部	“教过非诚勿扰担当，就好。”水罗式加通豪说。“呵，那小子，一说到马，我告诉你罢，是好在阴军队里受过赏的！”	受	
775	1929	⑤	p.312	毁灭	第一部	像心纵意的骂过之后，巴克拉诺夫就去叫回巡察去了。	骂	
776	1929	⑤	p.312	毁灭	第一部	莱奋生检查过队伍，回到中央，举起一只子。	检查	
777	1929	⑤	p.315	毁灭	第二部	在她那结识了许多男人，多到在记忆里，他们的眼睛的颜色，头发的颜色，或者连姓名也分不清了的辛苦而很难忍受的一生中，华理亚对谁也从来不能说出“可念的，可爱的人”的话过。	说出“可念的，可爱的人”的话	
778	1929	⑤	p.315	毁灭	第二部	因为从来没有接近过女人，他胆怯了。	接近	
779	1929	⑤	p.315	毁灭	第二部	“在那边，不知怎地我难为情起来了……这样的事例向来没有过，什么难为情。”	有	
780	1929	⑤	p.317	毁灭	第二部	“好……”莱奋生笑了。“养过马没有呢？”	养	
781	1929	⑤	p.320	毁灭	第二部	趁着美谛克为了没有擦过的枪，和小队长吵闹之后，独自躺在天篷下面，惘惘然凝视着篷顶的瞬间，企什便川了遑遑的脚步，走近他来，这样说了：	擦	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

782	1929	⑤	p.327	毁灭	第二部	“那很好。我也进过职业学校。学旋盘工。但没有毕业，因为上学太晚了。”	讲	
783	1929	⑤	p.328	毁灭	第二部	在竖起一束缚在竿上的千草和门前停着马车的空店里，他们“巴克拉诺夫式地”将面包放在大碗里，喝过牛乳。	喝	
784	1929	⑤	p.330	毁灭	第二部	美谛克从大家的话里知道，日本军的斥候已经过来了。也一样地并未看见的许多人，这时就唾突美谛克，并且自夸着他们所瞄准的日本兵，是怎样地从鞍桥滑落。	来	
785	1929	⑤	p.333	毁灭	第二部	“对这蠢才，我是说过好几次了……”	说	
786	1929	⑤	p.335	毁灭	第二部	他问那正在推拉乎路式加下去的，脸的一面好像给门夹过了的两面不匀的马车。	夹	
787	1929	⑤	p.336	毁灭	第二部	“他们也不是呆子，——你的头上是拌着金子的呀……在村的集会上读过命令——给推得话的或是死的人，是——赏金呵。”	读	
788	1929	⑤	p.339	毁灭	第二部	美谛克从来没有在莱奋生的脸上，见过这样的无法可想的表情。	见	
789	1929	⑤	p.339	毁灭	第一部	“总之，只剩了一条办法……我早经想过了的……”莱奋生的声音沉下去了，并且粗暴地咬了牙，不说话。	想	
790	1929	⑤	p.341	毁灭	第二部	他恰如搜索什么似的，揣揣地环顾了周围，眼光就留在旁边小桌上没有动过手的剩着的食物上。	动	

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

791	1929	⑤	p.346	毁灭	第二部	那少年用了含糊的，畏怯的声音说，——仿佛他说过的，本来不关紧要，只要在木罗式加面前洗掉自己的旧罪一般。	说	
792	1929	⑤	p.346	毁灭	第二部	“恐怕你也和她睡过了——我那里知道。”他带着侮蔑和志恨，加添说。	睡	
793	1929	⑤	p.347	毁灭	第二部	两人不明门是怎么一回事，大家又都想扑过去但这回是各各吃了沉重的一脚，木罗式加飞得脊梁撞在树木上，那少年是颠过一枚吹地的枯枝，扭着臂膊，木桩头似的坐在水里了。	颠	
794	1929	⑤	p.351	毁灭	第二部	然而用过夜膳，温暖了之后，三个人都一时活泼起来了，环绕他们的蓝黑的，陌生的，冷冷の世界，也显得亲近而且温和。	用	
795	1929	⑤	p.351	毁灭	第二部	“为什么我只是讨厌他的呢？”华里亚为了愉快的髻火，为了吃过的粥，为了哈尔兼珂对她的亲昵的谈话，觉得她平日的柔和和良善，都恢复了，一面想。	吃	
796	1929	⑤	p.352	毁灭	第二部	“哈尔兼珂也就问过了，你的健康怎样了，为什么不给人知道一点你的消息，——我也想说了好几回了……”	问	
797	1929	⑤	p.352	毁灭	第二部	她接着说道：“你们还没有吃过东西么，——锅子干干净净的……”	吃	
798	1929	⑤	p.354	毁灭	第二部	“为什么呀，要那么胆怯，那么阴气，那么小气的呢？”他抬起头来，问。“自己是什么吃的也没有——什么也没有。简直像扫过的一样！……”他于是显出一种特别的，浮朴的，同情的笑来。	打	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

799	1929	⑤	p.355	毁灭	第二部	“好罢，”工兵说——毫不着急。“你没有什么人，是没有关系的，——我现在也没有什么人。我们就拿你们矿工来说罢……自然，你是阅历得多了，但木罗式加呢？他除了自己的矿山之外，怕不很见过什么罢……可哪？”	见		
800	1929	⑤	p.355	毁灭	第二部	“什么叫作怕不很见过什么呀？”木罗式加懊恼地插嘴说。“上过前线的……”	见		
801	1929	⑤	p.355	毁灭	第一部	“什么叫作怕不很见过什么呀？”木罗式加懊恼地插嘴说。“上过前线的……”	上		
802	1929	⑤	p.355	毁灭	第二部	“就是罢，就是罢。”图讷夫向他摇摇头。“好，没有见过什么，那么？”	见		
803	1929	⑤	p.357	毁灭	第二部	“在后面，半威尔斯威之远，你去派一个步哨，最好是在我们曾经跑过的水泉那里。懂了吗？”	跑		
804	1929	⑤	p.359	毁灭	第一部	“烟也不抽，不觉得无聊么？……凯农尼珂夫曾经说，‘害人的烟草’。——我们这里曾经有过一个这么出色的袭击队员的。不知道他到了市镇没有……”	有		
805	1929	⑤	p.360	毁灭	第二部	“不，我在那里做过工作的……就是，在那里亲戚也行，但也并非为了这缘故……不，您可以放心；我在那市镇上工作的时候，就常常传递着秘密文件的。”	做		
806	1929	⑤	p.361	毁灭	第二部	“你说过，各人都只想装满他的大肚子了，而且我们倘为科尔却克所帶領……”	说		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

807	1929	⑤	p.362	毁灭	第二部	“那么，听罢；明天我给你去夫加，知道不？毕加骑过的……”‘求契哈’就近给经理部去，懂了吗？”	骑		
808	1929	⑥	p.47	竖琴	竖琴	芳妮是听过罗马史的讲义的，有着罗马人的侧脸的志愿讲师，在拉那装着袋了的小楼。	听		
809	1929	⑥	p.49	竖琴	竖琴	上面戴着包头布，硬纸帽，打皱的帽子和刷过须而又长了起来的颊，濶开摩夫不是在车底上翻看，就是抓住别人的肩，张了两腿站着。	刮		
810	1929	⑥	p.50	竖琴	竖琴	鞣靴人恭恭敬敬地行过礼，拿了袋了出去了。	行// 礼		
811	1929	⑥	p.52	竖琴	竖琴	白天里，在花纸上见过的——拿着大镰刀的死，出来了。	见		
812	1929	⑥	p.54	竖琴	竖琴	他说，音乐会里，自然是到过一回的，但那款子，是用来弥补生活费了——案件拖延了。	到		
813	1929	⑥	p.54	竖琴	竖琴	开审之际，讯问濶开摩夫——取业呢？——戏子。——这以前呢？——是学生。——没有做过军官么？——也做过军官。	做		
814	1929	⑥	p.54	竖琴	竖琴	开审之际，讯问濶开摩夫——取业呢？——戏子。——这以前呢？——是学生。——没有做过军官么？——也做过军官。	做		
815	1929	⑥	p.54	竖琴	竖琴	濶开摩夫收拾了手头的东西，告过别。	告// 别		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

816	1929	⑥	p.58	竖琴	竖琴	抹皮包的检事，立刻叫留巴伯父，称为奇食者，读过他混乱的所有的陈述，又示了烟草商人的陈述——	读		
817	1929	⑥	p.59	竖琴	竖琴	我是直到现在，没有戴过什么无边帽子的。	戴		
818	1929	⑥	p.102	十月	十月	“紧要的，是真的真理呀……没有人知道。你们的演说我也听过了……谁都说是有其理，其实呢，谁也没有的。其理究竟在那里？我还没有懂得真的真理，那能去打话的人呢？这些处所你可想过了没有？”	听		
819	1929	⑥	p.102	十月	十月	“紧要的，是真的真理呀……没有人知道。你们的演说我也听过了……谁都说是有其理，其实呢，谁也没有的。其理究竟在那里？我还没有懂得真的真理，那能去打话的人呢？这些处所你可想过了没有？”	想		
820	1929	⑥	p.113	十月	十月	终于这将校弯了头颈，眯着过红屋子，突然现身而进了。	眯望		
821	1929	⑥	p.121	十月	十月	“不和你一起，我可是不回去的呵。我就是抛掉了孩子了，也不离开你——却还要想去当什么兵哩，狗脸！如果你出了什么事，叫我怎么办呢，抱了小小的孩了到那里去呀？你想过这些没有？”	想		
822	1929	⑥	p.127	十月	十月	阵亡的兵士曾经躺过之处的铺石，变成漆黑，两石之间的注缝中，积起红色的水溜来。	躺		
823	1929	⑥	p.127	十月	十月	“哪，同志，你的魂灵儿现在没有跑到脚跟里去么？”那讲过天堂的工人插嘴说。“不要耍一枚针么？”	讲		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

824	1929	⑥	p.136	十月	十月	瞬息之间，群众中经一个不见，像用扫帚扫过了一般，惊惶颠倒的他们，推推挤挤地挨进小杂货店中间，躲起来了。	扫		
825	1929	⑥	p.142	十月	十月	这些人啊，是做了一天的血腥的工作来的。	做		
826	1929	⑥	p.145	十月	十月	还在同一的工厂里，一同做过多年的工，将孩子们也送进这工厂里面去。	做		
827	1929	⑥	p.147	十月	十月	“我是，因为我已经有了年纪。我先前也曾奋斗过了的。”	奋斗		
828	1929	⑥	p.150	十月	十月	“话都已经说过了。够了。我就要二十七岁了。是不是？我已经不是小孩子。自己在做的事，是知道的。”	说		
829	1929	⑥	p.159	十月	十月	“加入罢，并且将一切疑惑抛开，”伊凡又劝了一通，便退到旁边，觉得“这人足够过了的一类”。	蛀		
830	1929	⑥	p.163	十月	十月	斯理文使伊凡穿上士官候补生的外套，这是因为当战斗方酣之际，工人的他，右被左军误认为红军，而遭狙击之虞的缘故。听说这样的实例，也已经有了。	有		
831	1929	⑥	p.169	十月	十月	右谁能够打死他伊凡，彼得略也夫之类的事，他是丝毫也没有想到过的，只觉得一切仍然像是游戏一样。	想到		
832	1929	⑥	p.173	十月	十月	“是的。无论如何，墨斯科是可憎的。但是，同志，你以为怎样？‘为要保全俄罗斯，墨斯科遂迎接蛮族的大军而屡次遭了兵燹，又为了要保全俄罗斯，而墨斯科遂忍受了压抑和欺凌。’这样的句子，是在中学校里学过的。”	学		

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

833	1929	⑥	p.176	十月			斯理文仍如第一天那么紧张，高戴着羊皮帽，亲自巡视哨位，激励部下，说不久就有援军要到，换班的也就来……他几乎没有睡过觉，所以两眼通红，而且大了起来。		
834	1929	⑥	p.182	十月			伊凡毫不看他的脸，跳进那开过枪的旁边的房屋里去了。		开
835	1929	⑥	p.185	十月			那可排可说过：没有人知道真理。		说
836	1929	⑥	p.186	十月			“是的，学校里教过的，不向墨斯科和克莱谈林致敬者，只有俄罗斯的稚子。”年青的士官候补生沉思着，说，“但现在呢，胡闹极了。是的。”		教
837	1929	⑥	p.186	十月			“你见了没有？”士官候补生在伊凡旁边站住，又说活话了：“听说布尔塞维克曾经有过立言，要毫不留情，将一切破坏。”		有
838	1929	⑥	p.186	十月			“但他们究竟是怎样的人呢？我还没有见过真的布尔塞维克……兵士。兵士上那些，是废料，如果他们真是布尔塞维克，那就如称我为大槓正一样。”		见
839	1929	⑥	p.199	十月			只有华西理不开口。但这杀人的光景，没有离开过他的眼中。		离开
840	1929	⑥	p.206	十月			回家一看，依然锁着门，早晨所下的雪，就这样地也积在阶沿上，毫无人来过的痕迹。她走到邻家，问道：“没有人来过么？”“没有。”		来

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

841	1929	⑥	p.206	十月			回家一看，依然锁着门，早晨所下的雪，就这样地也积在阶沿上，毫无人来过的痕迹。她走到邻家，问道：“没有人来过么？”“没有。”		来
842	1929	⑥	p.209	十月			醒来之后，默默地吃过东西，默默地整好衣服，便到市街上去了。		吃
843	1929	⑥	p.209	十月			伊凡被好奇心所唆使，走进那曾经有过猛烈的战斗，现在是在平静的街角上的房屋了的门庭里面去观看了。		有
844	1929	⑥	p.209	十月			庭院已经略加收拾，不见了义勇兵曾在那后面躲过的箱。		躲
845	1929	⑥	p.210	十月			回想着做过了的一件错事的时候，则逼窄的焦灼的心情，深伏在心坎里的事，是带有的。		做
846	1929	⑥	p.210	十月			“我去看过了——旧的东西打得一塌胡涂，寺院真不知毁掉了几所……唔？这要成什么样子呀？是我们的火亡罢，唔？”		看
847	1929	⑥	p.216	十月			到处在修理毁坏的门窗，打通的屋顶和墙壁，倒掉的栅栏，工人的群拿出尖锄和铲子来，弄平了掘过壕堑的街角巷角的地面。		掘
848	1929	⑧	p.229	译文补编		一九二八年世界文艺界概观	他在这里受过盛大的欢迎，视察了南俄各处，八月上旬到高加索。		受



## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

849	1929	⑧	p.229	译文补编	一九二八年世界文艺界概观	秋天为止在我国，十月间再回梭连乡去，仍然写那三部曲《四十年》。也发表过几篇新俄印象记，但最近的电报，却道他因为言肠炎在卧病，病势恶化，陷于危境了。	发表	
850	1929	⑧	p.287	译文补编	波兰姑娘	美洲那边，咱们也还没有去走过。所以那边的事，老实说，是什么也不知道。	走	
851	1929	⑧	p.289	译文补编	波兰姑娘	咱们前回讲过了关于上了年纪的公爵夫人的，上海社会的事件——如果赤脚的强剥衣服是确确实实的事实，那么，我们的遭了木匠家伙的打，也就是真的。	讲	
852	1929	⑧	p.291	译文补编	波兰姑娘	拉布式决斗说过要给我做情人，连金手表都答应了我了。	说	
853	1929	⑧	p.292	译文补编	波兰姑娘	德国人也似吃了这东西的苦。也打过一回波兰的大天主教堂的圆屋顶。	打	
854	1929	⑧	p.292	译文补编	波兰姑娘	也打过机关枪队。	打	
855	1929	⑧	p.298	译文补编	面包店时代	自然，我们不知道他是并无坏处的，但知道一点也好，就如听到过宇宙间有一种哈黎慧星一般，总算一种知识。	听到	
856	1929	⑧	p.299	译文补编	面包店时代	一八七〇年之际，有一个叫作玛尔提的，从瓦连西亚来的医生，是曾经到过维也纳的汉子，讲解些维也纳所做的面包，和使面包膨胀的酵母，并且夸张着说，倘若出手去做这生意，利益就如如何如何。	到	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

857	1929	⑧	p.304	译文补编	新时代的预感	四个工人那面的工头，酩了酒，就被开除，另外雇来了一个当过军人的汉子，穿着漂亮的背心，挂着金表了，样子颇不坏，是以善于勾引女人自夸似的人。	当	
858	1929	⑧	p.311	译文补编	爱尔兰文学之回顾	我所听到过这样的事情，在爱尔兰的山中，会有失去孩子的事，当此之际，警官便先拾精杖，点起火来，做成篝火，于是口前言辟，而后从事于搜索失掉的孩子。	听到	
859	1929	⑧	p.312	译文补编	爱尔兰文学之回顾	先前已经说过，是矛盾的人们，所以在别国人是不可可能的事物，在她们，是可能的。	说	
860	1929	⑧	p.314	译文补编	爱尔兰文学之回顾	Consins是数年以前，我曾招致他到日本，在庆应义塾大学讲过诗，那姓名，在日本是非非不认识的了。	讲	
861	1929	⑧	p.336	译文补编	契诃夫与新文艺	“摩泊桑早说过，旧式的写法已经不行了。只要试去读我古典文学家中的毕冈斯基(Pisemski)或阿思德罗夫斯基(Ostrovski)的作品就好。一读，那就会知道只是多么陈腐而陈套的文句的要。”这是契诃夫常常对人说的。	说	
862	1929	⑧	p.336	译文补编	契诃夫与新文艺	处女作时代的神，于创作短篇，从来曾费过一夜夜以上，如格里戈罗微支(Grigorovitch)所推奖的“Egel”，是在浴场里写的。	费	
863	1929	⑧	p.339	译文补编	契诃夫与新文艺	请你想一想我的立场罢——这是连梦里也没有想到过的陷阱。	想到	
864	1929	⑧	p.340	译文补编	契诃夫与新文艺	曾在艺术剧场，扮演过德烈普来夫(《海鸥》中的人物)的玛那哥里特(Myerhold)，在《剧场》这一篇文章中，关于契诃夫的剧本，说了很贵重的意见，曰，“契诃夫描写心情的办法，是藏在他的言语的律动里的。……”	扮演	

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

865	1929	⑤	p.345	译文补编	西湖记游(遗稿)	“湖水在哪里呀？”有谁在问引路人那德。是我们旅行过了的那烈契克的凯巴尔达人。 “进口是那边！”那德说。	旅行		
866	1930	⑤	p.242	毁灭	关于《毁灭》	……记得在约二年前，曾经读过这个作者的叫作《泛滥》的小说。	读		
867	1930	⑤	p.242	毁灭	关于《毁灭》	又，批评家烈烈维奇称赞这小说的文章，也在什么地方读过。	读		
868	1930	⑤	p.243	毁灭	关于《毁灭》	假使革命生讲过他那幼时，帮着他的父亲卖旧货，以及他的父亲直到死去，在想发财，但一面却怕老鼠，弹着不高明的梵亚林的事，那么，大约谁都以为这只是恰好的笑话的罢。	讲		
869	1930	⑤	p.250	毁灭	代序	“这算收场了，一切又都变了先前一样，就像什么也未曾有过似的，——华理亚这样想。……”	行		
870	1930	⑤	p.251	毁灭	代序	它(指旧的——译者)在小说一开始时便已警告一般地拍了头，那时他——游击队员——偷过别人的瓜，便是在作公务人，作乡村苏维埃主席的时候，也还是如此。	偷		
871	1930	⑤	p.367	毁灭	第三部	“伏罗毕夫加？不，没有听说过——该是很远的罢……”	听到		
872	1930	⑤	p.367	毁灭	第三部	“多谢我刚刚吃过了，——直到喉咙口。”美迭里礼撒说谎说，这时他总觉得自己是怎样地肚饿。	吃		

329

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

873	1930	⑤	p.368	毁灭	第三部	“我是一个孤儿，从半年以前起，我已经是一个孤儿了。父亲是给哥萨克兵杀死了，母亲遭遇凌辱，还被杀死，他们又枪毙了我的哥哥……”	遭		
874	1930	⑤	p.368	毁灭	第三部	路向右曲了，但他却依着牧童的忠告，仍在割过牧草的平地上走，终于碰到了圆圆地围着农民的阡陌的栅栏——他就由此弯进后院去。	割		
875	1930	⑤	p.369	毁灭	第三部	风从园地早，吹出新翻过的潮湿的泥土气息来。	掘		
876	1930	⑤	p.369	毁灭	第三部	依着牧童所说的记号，他在教堂旁边转弯，又走过几条小横街，终于到了牧师家的油过的棚外。	油		
877	1930	⑤	p.369	毁灭	第三部	——他那瘦削的小手巧砂地在绿的桌布上动作，用了玩具一般的手指将纸牌洗牌，一面又注意地竭力去望各人的手头，至于使背向美迭里札的他的邻人一收进找钱，悄悄地数过之后，便藏在桌子下面去了。	数		
878	1930	⑤	p.371	毁灭	第三部	“嗡嗡……她是做得到的……我们这里曾有一个读圣诗的人——我已对你们说过了的。……”	说		
879	1930	⑤	p.373	毁灭	第三部	“唉，是的，我说过给他一匹别的马的……但这有什么不行呢？不，我现在就要照办，这一点是全都正当的……那么，究竟是怎么的呢？……那是……”	说		
880	1930	⑤	p.373	毁灭	第三部	洗过脸，系好皮带，腰后面感着平常的盒子炮的重量，他总算觉得白自己已经休息了。	洗		

330

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

881	1930	⑤	p.375	毀灭	第三部	不多久，他便在昨夜从牧师的院子里窥探过的那一间屋子里，站定已经认识的——黑卜派哈和勃卢加的那人之前了。	窥探		
882	1930	⑤	p.377	毁灭	第三部	他未曾有朋友，也不特地去结识朋友。	有		
883	1930	⑤	p.377	毁灭	第三部	——在显得好像哭过的桌上跳跃的他们的长而活泼的影子，并且连那为如水的太阳所照射，壮丽地、沉重地凝结在寒冷的空中的，他们头上的旧教堂的穹窿，也全都包罗了。	哭		
884	1930	⑤	p.380	毁灭	第三部	从骑兵的疲劳的坐法和马头的在摇摆上判断起来，应该是刚刚开过快步的。	开		
885	1930	⑤	p.387	毁灭	第三部	木罗式加挺出肚子，用了仿佛说过不要脸的话，然而立刻懊悔了一般——“出于真心真意的”——交情，拉着手风琴，冷峭地在街道中央阔步，——他后面跟着不系带，不戴帽，一样地烂醉的少年一大群。	说		
886	1930	⑤	p.387	毁灭	第三部	一个人又将酒瓶和咬过的西瓜塞在他手里。	咬		
887	1930	⑤	p.390	毁灭	第三部	他头靠牆，枕了两手，伏卧着，微微地在叫唤，——分明是刚刚呕吐过的。	呕吐		
888	1930	⑤	p.390	毁灭	第三部	华理亚的认识了这是他，倒不如说觉得了这是他，——他的这样的情形，她是见过了许多回数的。	见		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

889	1930	⑤	p.392	毁灭	第一部	……“这算收场了，一切又都变了先前一样，就像什么也未曾有过的，”木罗式加靠着华理亚的肩头，熟睡时，她怀着悲痛和热情，想。	有		
890	1930	⑤	p.393	毁灭	第三部	“给我一条多余的肚带——你有一条，我见过的……”	见		
891	1930	⑤	p.403	毁灭	第三部	于是寻到一个水泉，洗过脸，就坐在这旁边。	洗		
892	1930	⑥	p.231	一天的工作	苦蓬	挂着布片的小厨，打磨过的大厨(没有门的)，还是先前一样站着，窗上是垂着手编的镂空花纹的窗幔。	打磨		
893	1930	⑥	p.232	一天的工作	苦蓬	“我去过市里了，你猜是开手了些什么？什么也没有！到冬天，怕都要俄死，冻死的要。……”	去		
894	1930	⑥	p.232	一天的工作	苦蓬	俄罗斯的民众……她想起来了，四月里，在平野上的一个小车站那里，——那地方，有的是天空和平野和兀株白杨树和铁轨和站屋，——曾经见过三个人——两个农夫和一个孩子。	见		
895	1930	⑥	p.233	一天的工作	苦蓬	因为在那泰理亚，是未曾有过这苦蓬的欢喜的，雨送来那欢喜者，则是或生或死的这些炎热的白天。	有		
896	1930	⑥	p.234	一天的工作	苦蓬	在坟墓里，有的坟洞里，有的棺里，穿着一触便灰煜似的纷纷进散的衣服的人骨，和刀，银的花瓶——这里是有阿拉伯的钱币的，——画出骑马人和猎夫模样的瓶和盘子——这里是曾经盛过饮料和食物的一——这些东西一同倒卧着；	盛		
897	1930	⑥	p.237	一天的工作	苦蓬	司提班·谛摩非也微支的时代，这里的这项上，有过一座塔。	有		

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

898	1930	⑧	p.353	译文补编	恶魔	“那是毫不足怪的！”恶魔说。“那不能当作恶意——因为在湿地里浸过的身子，决不是可口的东西呵……”	浸		
899	1930	⑧	p.353	译文补编	恶魔	“是么？那么……这之间，有三个人跑到我的坟前来了……是使我烦乱的访问。	来		
900	1930	⑧	p.354	译文补编	恶魔	他跑了来，读过墓碑铭，便断然地说道，‘这人死掉了……这人的东西，我什么也没有看过……但是谁都知道的名字呵——’	读		
901	1930	⑧	p.354	译文补编	恶魔	他跑了来，读过墓碑铭，便断然地说道，‘这人死掉了……这人的东西，我什么也没有看过……但是谁都知道的名字呵——’	看		
902	1930	⑧	p.355	译文补编	恶魔	“我有孩子……他们是活着的。我知道。我有两个孩子——一个男孩和一个女孩……那時候，我起过了的——男孩子长大了起来，是会成为一切实的人的罢……”	想		
903	1930	⑧	p.357	译文补编	恶魔	诸君——知道诸君所曾经走过的道上，别人也在行走，焦躁地相挤，相欺，则诸君的苦恼，也还要加添的罢。	走		
904	1930	⑧	p.366	译文补编	车勒芮绥夫斯基的文学观	从他那听过对于艺术的Platon的见解之后，我们便不难得得他当解决Pushkin和Gogol推为高张的问题的时候，为什么觉得有引用Platon在美学底判决这史上的伟大的教师们——Platon和Aristoteles——的必要和有用的原因。	听		
905	1930	⑧	p.371	译文补编	车勒芮绥夫斯基的文学观	“作游戏”者不独人类，动物也“作游戏”的。Spenser已经正当地说过，例如猛兽的游戏，乃由模拟的狩猎和模拟的争斗而形成，……	说		

## 資料⑦

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

906	1930	⑧	p.373	译文补编	车勒芮绥夫斯基的文学观	所以在历史上，我们遇见人类的种种不同的类底概念，——支配过一个时代的见解和概念，在别的时代，就成古旧的东西。	支配		
907	1930	⑧	p.375	译文补编	车勒芮绥夫斯基的文学观	——而且恰如我们先讲到Chernyshevski和Tiegel的辩证法的关系时，顺便说明过的一样，——带有唯未主义的缺点。	说明		
908	1930	⑧	p.381	译文补编	车勒芮绥夫斯基的文学观	我们在别处说过，——如果以Belinski为我们的“启蒙者”的始祖，那么，Chernyshevski便是那最伟大的代表者。	说		
909	1930	⑧	p.384	译文补编	车勒芮绥夫斯基的文学观	在我们引用过他的俄国文学一年的概观的拔萃中，Belinski所说的那“现实”，是什么呢？那概念，和他所“和解”了的那“现实”的概念，是一致的么？	引用		
910	1930	⑧	p.390	译文补编	车勒芮绥夫斯基的文学观	……，况且上面已经说过，因为他们对于这个，是毫无等候，也未尝期待的，等等。	说		
911	1930	⑧	p.398	译文补编	现代电影与有产阶级	他们就将自己的付过正当的观览费这一个事实，做了那影片并非宣传电影的证明。	付		
912	1930	⑧	p.406	译文补编	现代电影与有产阶级	卢那卡尔斯基关于苏维埃电影，曾经说过“拙劣的煽动，却招致反对的结果”这原则，在这里，却被有产者底地应用了。	说明		
913	1930	⑧	p.406	译文补编	现代电影与有产阶级	关于小市民影片的发生，在一九二七年一月所作的拙稿《电影美学以前》里，虽然很简约，却已曾略述过了的。	略述		

## 資料④

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

914	1930	⑧	p.414	译文补编	艺术与哲学・伦理	——在那神学气味的斯宾挪莎之中，我们所纪念的是什么呢？如克嗜林也曾说过：“我们在斯宾挪莎之中，看见辩证唯物论的先驱者。而斯宾挪莎的真的后继者，是只有现代的无产阶级而已。”	说	
915	1930	⑧	p.415	译文补编	艺术与哲学・伦理	已经说过，哲学是“观念整顿的工作”。	说	
916	1930	⑧	p.417	译文补编	艺术与哲学・伦理	现代的观念整顿，所以有社会底，历史底，唯物底这三个特征者，因为足站在阶级底见地的缘故，因为那理论的内在企图，是在无产阶级解放的缘故，这就在上文说过了。	说	
917	1930	⑧	p.419	译文补编	艺术与哲学・伦理	哲学家洛采曾经说过，“虽是归纳法，但倘不豫想演绎法，是不能立的，”然而这样的想法，就已经是演绎底的了。	说	
918	1930	⑧	p.424	译文补编	无产阶级革命文学论	革命的劳动者还知道劳动运动的历史，并且他将教导我们说，还有一个革命党带着这种解决来到大众的面前过。	来到大众面前	
919	1930	⑧	p.424	译文补编	无产阶级革命文学论	我们就在在作梦时都没有这样地想过。	想	
920	1930	⑧	p.430	译文补编	《浮士德与城》作者小传	作者自己说：“劳作一定，我就觉得自己是很安息的人了。恰如住过一处功效显著的温泉一样”。	住	
921	1930	⑧	p.431	译文补编	《浮士德与城》作者小传	另一方面，好像他又非常认真地，讲过剧场构成史之流的讲义。	讲	

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

922	1930	⑧	p.432	译文补编	《浮士德与城》作者小传	此后他就申言，有产者艺术，应该让无产阶级者艺术。而无产者艺术云者，他说，则是说“未曾听到过的伟大的东西”。	听到	
923	1930	⑧	p.432	译文补编	《浮士德与城》作者小传	他说过，有产者艺术，是应当由无产阶级艺术来替代的。然而，首先所当寻问的，是他之所谓有产者艺术家，是什么人，那些作品，又是怎样的东西呢？	说	
924	1931	⑥	p.8	竖琴	洞窟	只好或者在这里熬过了围困，或者是死掉。	熬	
925	1931	⑥	p.64	竖琴	亚克与人性	“可怕！吓人！连听也没有听到过！”	听到	
926	1931	⑥	p.65	竖琴	亚克与人生	你那时没有听到这件事么？所有的报上都登载过的。别的四个都淹死了。	登载	
927	1931	⑥	p.74	竖琴	亚克与人生	住在这市镇上的这么多的人们，亚克先行毁灭，继而宽容，后来又根毁灭的人们，其中虽然睡行好的，然而也有许许多多废物的人们，就是仿佛从来没有过一个亚克，而且谁也从来没有提过关于丁生资格的大问题似的生活下来，到了现在的。	有	
928	1931	⑥	p.74	竖琴	亚克与人生	住在这市镇上的这么多的人们，亚克先行毁灭，继而宽容，后来又根毁灭的人们，其中虽然睡行好的，然而也有许许多多废物的人们，就是仿佛从来没有过一个亚克，而且谁也从来没有提过关于丁生资格的大问题似的生活下来，到了现在的。	提起	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

929	1931	⑥	p.241	一天的工作	肥料	至于布尔塞维克从那里来的呢——却连想也没有想起过。	想起	
930	1931	⑥	p.244	一天的工作	肥料	“原来，他们的头颈就坐过窄的！”	坐	
931	1931	⑥	p.245	一天的工作	肥料	然而，我们的田地，是用血洗过的。	洗	
932	1931	⑥	p.245	一天的工作	肥料	是啊，是啊！旧政府把我们去做苦工的时候，你们曾经怜悯过我们。	怜悯	
933	1931	⑥	p.249	一天的工作	肥料	并且煽起了胜利和骇怕的新的感情了，恰如带了一小队去打过仗似的。	打仗	
934	1931	⑥	p.249	一天的工作	肥料	“被大伦说过，送到他那里去。”	说	
935	1931	⑥	p.253	一天的工作	肥料	“莲梦里也没有见过的事，可成了真的哩！唔，唔！……而且慢，怎么一回事，这就会知道的。”	见	
936	1931	⑥	p.256	一天的工作	肥料	川洒水洗，洗脸，拍拍地泼着水珠，喝过凉水，高兴着自己的舒服，丁是一面打着烟逆，一面也如作工一样，快捷地从公共的锅子里吃着达利亚所煮的杂碎，嚼着乡下的酸汤。	喝	

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

937	1931	⑥	p.258	一天的工作	肥料	老婆已经痛哭过两回了，后来就谈到最后的家计：	痛哭	
938	1931	⑧	p.440	译文补编	被解放的堂·吉珂德	第一兵士：喂，听那，流氓，你，红火的丑脸儿，你也还是那强盗彼得米伦罢？你也还是那，在奈东林受大特走了袭取侯爵亚拉库安的城堡的你们的丑竞的时候，逃跑了的罢？中尉对我说过了。	说	
939	1931	⑧	p.443	译文补编	被解放的堂·吉珂德	堂·巴勒泰什：我已经对你说过了，我的戴着蠢儿的哲学家先生！	说	
940	1931	⑧	p.444	译文补编	被解放的堂·吉珂德	堂·吉珂德：那么，敢问已经听到过我们的事的先生，为什么命运对于你们，竟这样地残酷呢？因为什么，你们竟触了你们的统治者之怒呢？还是他不得当么？	听到	
941	1932	⑧	p.461	译文补编	苏联文学理论及文学批评的现状	在这声明书中，特地提出列宁、史太林的理论，对于乌克兰，白露西亚等民族共和国的文学上问题的丑恶性，但因为在这里并无直接关系，所以只一提发表过这样的声明书就够了。	发表	
942	1932	⑧	p.462	译文补编	苏联文学理论及文学批评的现状	还有台那摩夫在共产主义学院的报告里，又在域普的声明书里，《文学新闻》的杜说里，都屡次说过的，这在苏联文学理论家，现在就当然成着一个应当遵守的规矩，定侧的。	说	
943	1932	⑧	p.463	译文补编	苏联文学理论及文学批评的现状	但是，在现在的苏联，却正如史太林也曾说过那样，该当站在指导这文学(文学底实践)的地位上的文学理论，倒是较之落后了的文学，有更加落后的样子。	说	

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

944	1932	⑧	p.464	译文补编	苏联文学理论及文学批评的现状	于是古尔波丁就引了史太林的信里说过的“腐败的自由主义”马上成了阶级底敌人的直接的支柱的话，说：但是，在文学理论的领域里，我们却到处见过这“腐败的自由主义；	说		
945	1932	⑧	p.464	译文补编	苏联文学理论及文学批评的现状	于是古尔波丁就引了史太林的信里说过的“腐败的自由主义”马上成了阶级底敌人的直接的支柱的话，说：但是，在文学理论的领域里，我们却到处见过这“腐败的自由主义；	见		
946	1932	⑧	p.464	译文补编	苏联文学理论及文学批评的现状	这卢那卡尔斯基的“腐败的自由主义”，在拉普的十二月总会上，也曾由阿·巴赫彻底地加以批判。	加		
947	1932	⑧	p.466	译文补编	苏联文学理论及文学批评的现状	“马基斯，列宁主义的方法论，马基斯，列宁主义的哲学，这是无论在哪个阶级，在什么时代，全都未曾有过的最伟大的遗产。	有		
948	1932	⑧	p.467	译文补编	苏联文学理论及文学批评的现状	上面略说过了的台那摩夫的报告“马基斯，列宁主义底文学理论与拉普的理论的现况”，是以批判拉普的理论运动为主的。	说		
949	1932	⑧	p.467	译文补编	苏联文学理论及文学批评的现状	从阿·巴赫起，法捷耶夫、里宾斯基、亚尔密诺夫、台那摩夫等，几乎所有理论家都犯过错误。	犯		
950	1932	⑧	p.467	译文补编	苏联文学理论及文学批评的现状	对于这些同志们的错误，台那摩夫都曾一一批判过，但是我没有留在这这里的余裕，还是说上去罢。	批判		

339

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

951	1932	⑧	p.472	译文补编	苏联文学理论及文学批评的现状	法捷耶夫在上文也已说过的结语中，提起这麦上·宁的报告。	说		
952	1932	⑧	p.472	译文补编	苏联文学理论及文学批评的现状	法捷耶夫说：同志麦凯列夫说这样的组织，什么地方也没有过的话，是不不错的。）	有		
953	1933	⑥	p.34	竖琴	穷苦的人们	在这处所，先前是有过马房的。后来伊凡·伯伯(就是索尼加的父亲)将它和别的房屋一同卖掉，喝酒喝完了。	有		
954	1933	⑥	p.38	竖琴	穷苦的人们	我不记得凯查伯母曾经唱过一回歌。	唱		
955	1933	⑥	p.39	竖琴	穷苦的人们	有一回，曾经有过这样的事。那是连墙壁也结了冰的二月的大冷天。一个乞丐到安特罗诺夫的家里来了。	有		
956	1933	⑥	p.41	竖琴	穷苦的人们	老人说他年青时候是曾经当过兵的。	当		
957	1933	⑥	p.42	竖琴	穷苦的人们	“我有过一枝很好的烟管，近来不知道在那里遗失了。”	有		
958	1933	⑥	p.42	竖琴	穷苦的人们	我从未听到凯查伯母说过老人的坏话。	说		
959	1933	⑥	p.42	竖琴	穷苦的人们	“大家都是军人呀。军人有不喝酒的道理么？咱们都是肩过枪，冲过锋的人。咱们都是好汉呀。对不对？来，喝罢！”	肩		

340

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

960	1933	⑥	p.42	竖琴	穷苦的人们	“大家都是军人呀。军人有不喝酒的道理么？咱们都是开过枪，冲过锋的人。咱们都是好汉呀。对不对？来，喝罢！”	冲// 锋	
961	1933	⑥	p.262	一天的工作	铁的静寂	凭着雪花的眯网，在旋转的古达装置里颤动。割过了的铁条和挺了的普的齿痕上，停滞的伽来蒙上了薄皮。	削	
962	1933	⑥	p.263	一天的工作	软的静寂	每年五月久日罢工以后。铁厂的墙壁，为枫树，白桦，白杨的枝条所装饰，地板上满铺起开着小红花的苜蓿来。唱歌队唱歌了，受过毒打的脊梁弯曲了。	受	
963	1933	⑥	p.264	一天的工作	铁的静寂	院子里面，在雪下看见锈了的铁网和木曾在蒸气之下发过料的汽罐，黄黄地成着连山，……直排到铁厂的入口。	发// 抖	
964	1933	⑥	p.270	一天的工作	我要活	它还是以天真的高兴，在含笑，于是给了我一个想象，这明朗的含笑的眼睛总有，回要阴郁起来，恰如我的眼睛，事情是过去得长远了，当我还是孩子时候一样……我不知道我的眼睛哭出过多少眼泪，谁的手拉着我的长发……	哭出	
965	1933	⑥	p.270	一天的工作	我要活	我没有见过我的父亲。他是个什么人呢？也许是住在地下室里的鞋匠。也许是在每夜在圣象面前点灯的，商界中的静默而敬神的老人。或者是一个酗酒的老头！	见	
966	1933	⑥	p.274	一天的工作	工人	“好像在什么地方见到过似的，但那地方，却有些想不起来了。”我回答说。	见到	
967	1933	⑥	p.274	一天的工作	工人	“不错，在什么地方见过你的。对不对？”	见	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

968	1933	⑥	p.274	一天的工作	工人	“哦，彼得堡？是的，是的，记起来了，记起来了哩。你不是在普诺罗夫斯基工厂做工的么？”“对了。做过工！”“在铸造厂，和我一起？但这也以后，可是过了这么长久了。”	做	
969	1933	⑥	p.275	一天的工作	工人	“不，十二年了哩。我在一千九百一十二年出了工厂，从这年的中段起，就在俄国各处走。这之间，几乎没有不到的地方，哪，兄弟，我是走着流浪了的。也到过高加索，也到过克里本，也曾在黑海里洗澡，也一直游到西伯利亚的内地，在莱那金矿里做过工……后来战争开头了，我便投了军，做了义勇兵去打仗。……”	到	
970	1933	⑥	p.275	一天的工作	工人	“不，十二年了哩。我在一千九百一十二年出了工厂，从这年的中段起，就在俄国各处走。这之间，几乎没有不到的地方，哪，兄弟，我是走着流浪了的。也到过高加索，也到过克里本，也曾在黑海里洗澡，也一直游到西伯利亚的内地，在莱那金矿里做过工……后来战争开头了，我便投了军，做了义勇兵去打仗。……”	到	
971	1933	⑥	p.275	一天的工作	工人	“不，十二年了哩。我在一千九百一十二年出了工厂，从这年的中段起，就在俄国各处走。这之间，几乎没有不到的地方，哪，兄弟，我是走着流浪了的。也到过高加索，也到过克里本，也曾在黑海里洗澡，也一直游到西伯利亚的内地，在莱那金矿里做过工……后来战争开头了，我便投了军，做了义勇兵去打仗。……”	做	
972	1933	⑥	p.275	一天的工作	工人	我已经说过，战争，是当了义勇兵去的。	说	
973	1933	⑥	p.276	一天的工作	工人	不多久，又发布了对于逃兵的治罪法，我便又回到原先住过的农夫的家里去。	住	



## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

974	1933	⑥	p.277	一天的工作	工人	“但不比战争可怕的，这世上可还有什么？” “那大概是没有了！”我回答说。“不，我见过比战争还要可怕的事。我见过单单的杀人。”	见	
975	1933	⑥	p.277	一天的工作	工人	“但不比战争可怕的，这世上可还有什么？” “那大概是没有了！”我回答说。“不，我见过比战争还要可怕的事。我见过单单的杀人。”	见	
976	1933	⑥	p.279	一天的工作	工人	“你去打过仗了的罢！”忽然破了这沉默，他质问我了。他除下小帽来，在手上团团地转着。	打//仗	
977	1933	⑥	p.279	一天的工作	工人	“唔，去过了呀。”暂时之后，我干笑起来。“去过了？”他说，“那么，为什么不现在也不去打仗的呢？”	去	
978	1933	⑥	p.279	一天的工作	工人	“唔，去过了呀。”暂时之后，我干笑起来。“去过了？”他说，“那么，为什么不现在也不去打仗的呢？”	去	
979	1933	⑥	p.279	一天的工作	工人	“那是，我先前已经说过，政策第一，靠战争是不行的。况且现在的国民也并无爱国心……”	说	
980	1933	⑥	p.283	一天的工作	工人	他硬是我问过西回的兵卒，用了含着狂笑的嘴，向我大喝道： “同志，怎的，你莫非以为我们是给鞭子赶了，才去打仗的么？”	问	
981	1933	⑥	p.285	一天的工作	革命的英雄们	到了一队赤卫军，率领的是一个没有见过的司令，他们立刻抓起那装得沉重垫的袋子和箱子，驼在肩上，运下肩去，消失在冷藏库的黑洞里了。	见	

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

982	1933	⑥	p.285	一天的工作	革命的英雄们	很小心手拿，很小心脚，很小心心的放在冷藏库里面——司令叫过的时候：要小心！不要落下了弹药！但在搬运那六个子的罗宋面包的时候，却有的是欢笑和高兴了。	叫	
983	1933	⑥	p.287	一天的工作	革命的英雄们	只有尖鼻子向满脸雀斑的炮兵柯久奔珂，问过一次他的邻人道：“去救，救什么？”这很明白，总不是自己。“那邻人不足似的打断了他的问。交谈也就完结了。”	问	
984	1933	⑥	p.288	一天的工作	革命的英雄们	他还没有上过阵，所以这事在他便觉得很特别，而且想得出了神了。	上//阵	
985	1933	⑥	p.288	一天的工作	革命的英雄们	这负过两回伤的“申希”，曾经好几回救了它那白暂的骑士的性命，即使那萨荒原快与来追的时候，它还是给他保得平安。	负	
986	1933	⑥	p.288	一天的工作	革命的英雄们	在他的生涯中，已经经历过许多事。	经历	
987	1933	⑥	p.288	一天的工作	革命的英雄们	这汉子，令人看去就好像一向没有吃过苦，倒是终生人抵是一篇高高兴兴的，很少苦恼的历史一样。	吃	
988	1933	⑥	p.289	一天的工作	革命的英雄们	虽然也曾医治过，然而并不久——暂时的，断统的，而且是错的。	医治	
989	1933	⑥	p.291	一天的工作	革命的英雄们	然而这却是谁都知道的历史的胜迹！这岸上曾经满流过鲜血。每一片地，都用了激烈的战斗所夺来。	流	

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

990	1933	⑥	p.292	一天的工作	革命的英雄们	每一片地，都用过激烈的战斗所夺来。每一片地，都出红不用了宝贵的鲜血所买过，每一步每一步，都送过将士的性命的。	送		
991	1933	⑥	p.293	一天的工作	革命的英雄们	郭甫久鹤便手里拿了枪，加入了革命。他已经立过许多功。这回也是。	立		
992	1933	⑥	p.294	一天的工作	革命的英雄们	他也记不清自己曾经负过几回伤。大概是十二到十五回罢。	负		
993	1933	⑥	p.294	一天的工作	革命的英雄们	我不知道他的全身上可有一处完好，没有遇过炮弹片，枪弹，或者至少是上块所“轻轻的碰着”了的。	遭		
994	1933	⑥	p.295	一天的工作	革命的英雄们	“谁会比我熟悉呢，”康特拉笑着说。“这地方到海为止，全是些沼泽和田野。没有一处我不知道的地方。我曾经各处都走过的……”	走		
995	1933	⑥	p.296	一天的工作	革命的英雄们	但山住！——远远地听到声响了。是先前没有听到过的声音，仿佛是电话线的呻吟。也许是泉水罢，也许是小河罢……	听到		
996	1933	⑥	p.298	一天的工作	革命的英雄们	“鬼知道——……”人说，他们在岸上到处跑着的。人说过，他们就躲在这些芦苇丛里的——也有人去寻去了。”	说		
997	1933	⑥	p.299	一天的工作	革命的英雄们	“我很知道他的。在战场上的时候，他就得到过三个圣乔治勋章了。”	得到		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

998	1933	⑥	p.299	一天的工作	革命的英雄们	“你可有一点如草么？”“吩咐过的，不准吸烟！”	吩咐		
999	1933	⑥	p.300	一天的工作	革命的英雄们	他很疲惫，喘着气，述说过一切的时候，大家就都明白，我们是在没有人觉察之中，到了村子了。	述说		
1000	1933	⑥	p.306	一天的工作	革命的英雄们	因为自从天亮以来，除了烟卷的烟气之外，就什么也没有到过我们的嘴里面。	到		
1001	1933	⑥	p.317	一天的工作	枯煤，人们和耐火砖	当儿掘地基的时候，建设者们也知道地盘是不很坚固的，但在泥沼上面来安枯煤炉，却谁也没有想到过。	想到		
1002	1933	⑥	p.318	一天的工作	枯煤，人们和耐火砖	由此而遗失掉了一排里的一块花样下面的原料里，看一片小小的木片。这怎么会弄到那里面去的呢？“谁知道呢！工人们难道将粘土统统嚼过，这才涂上去的么！”然而对于这等事，指导者们却毫不介意，将好容易砌好了的三排，全都推倒了——这是四个砖匠们的一日的工作。	嚼		
1003	1933	⑥	p.319	一天的工作	枯煤，人们和耐火砖	党和政府，将他看作他那突击队里，曾在特别周间，出过一天登上五百块砖的选于的光荣的队员，而使他负着绝大的责任，而狄克是知道的，然而还是怀着这空想。	出		
1004	1933	⑥	p.320	一天的工作	枯煤，人们和耐火砖	然而奥波伦斯基的突击队，却大抵是中央劳动学校的学生，指导者们是从唐巴斯来的，他们在那里造过枯煤炉，有着经验。	造		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1005	1933	⑧	p.483	译文补编	海纳与革命	(二)德国对于文学的压迫，向来就没有放松过，这尔兹和希特拉，只是木期的变本加厉的；	放松	
1006	1934	⑦	p.323	坏孩子和别的奇闻	假病人	他们除两三个人之外，都赤着脚，这是因为将军夫人吩咐过，他们该在外面脱掉那恶臭的长靴。	吩咐	
1007	1934	⑦	p.323	坏孩子和别的奇闻	假病人	玛尔法·彼得罗夫娜已经看过十个病人了，于是就叫十一号：“格夫里拉·克鲁慈提！”	看	
1008	1934	⑦	p.324	坏孩子和别的奇闻	假病人	我看过许多医生，请喀山的大学教授们对诊，行过土浴，喝过矿泉，新什么方法都试过了！	看	
1009	1934	⑦	p.324	坏孩子和别的奇闻	假病人	我看过许多医生，请喀山的大学教授们对诊，行过土浴，喝过矿泉，新什么方法都试过了！	行	
1010	1934	⑦	p.324	坏孩子和别的奇闻	假病人	我看过许多医生，请喀山的大学教授们对诊，行过土浴，喝过矿泉，新什么方法都试过了！	喝	
1011	1934	⑦	p.324	坏孩子和别的奇闻	假病人	我看过许多医生，请喀山的大学教授们对诊，行过土浴，喝过矿泉，新什么方法都试过了！	试	
1012	1934	⑦	p.326	坏孩子和别的奇闻	假病人	将军夫人的心里，在她那十年行医之间，开始生出疑惑来了……她叫进其次的病人来，当在听他们诉说占恤时，也觉得了先前没有留心，听过就算的事。	听	
1013	1934	⑦	p.332	坏孩子和别的奇闻	那是她	一句话，我觉到一切幻想，这是只要神经曾经异常紧张过的人们，全都经验过来的。	紧张	

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1014	1934	⑦	p.332	坏孩子和别的奇闻	那是她	大佐住了口，喝过半杯水，用了有些含糊的声音说下去道——	喝	
1015	1934	⑧	p.484	译文补编	我的文学修养	说得浅些，则前者恰如我的面前站着家畜，后者便是放着从家畜剥下来的加过人工的毛皮。	加	
1016	1934	⑧	p.485	译文补编	我的文学修养	我看过无数的坏书。坏书也给了益处。	看	
1017	1934	⑧	p.485	译文补编	我的文学修养	我先前也看过几十本描写着血腥气的犯罪的书。	看	
1018	1934	⑧	p.486	译文补编	我的文学修养	虽是《九十三年》，我也平淡的看过了。	看	
1019	1934	⑧	p.486	译文补编	我的文学修养	契河天曾经对我说过，他自己的得益于莱式珂大之处，是很多的。	说	
1020	1934	⑧	p.487	译文补编	我的文学修养	我一面讲着看过的作品，一面也时时将自己的经验，加一点到那里面去。	看	
1021	1934	⑧	p.489	译文补编	我的文学修养	不要忘记了言语是由民众所创造。将言语分为文学的和民众的两种，只不过是“毛胚”的言语和由艺术家加过工的言语的区别。	加	
1022	1934	⑧	p.489	译文补编	我的文学修养	多年之后，才知道在德国人歌德与那《浮士德》的二百年以前，英国人弗理新多芳·摩塞尔亦写过《浮士德》，波兰的通俗小说《班·德瓦尔陀夫斯基》，法国小说家保尔·缪塞的《幸福探求者》，也都非着浮士德的。	写	

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1023	1934	⑧	p.493	译文补编	鼻子	伊凡·雅各武莱维支不住的缩了手，擦过眼睛，再去侧脸看；是鼻子，真的鼻子！	擦	
1024	1934	⑧	p.493	译文补编	鼻子	我早听过三个客人说，你理发的时候总是使劲的拉鼻子，快要拉下来！”	听	
1025	1934	⑧	p.494	译文补编	鼻子	但是，至今没有叙述过这一位有着许多可敬之处的我们的伊凡·雅各武莱维支，却是作者的错处。	叙述	
1026	1934	⑧	p.494	译文补编	鼻子	他那燕尾服(他决没有穿过常礼服)都是脏，因为本来是黑的，但到处变了带灰的黄色；	穿	
1027	1934	⑧	p.495	译文补编	鼻子	可伐罗夫打过欠伸，就想去拿桌上的小镜子，为的是要看看昨夜里长在鼻子尖上的滞气。	打	
1028	1934	⑧	p.495	译文补编	鼻子	他弄到了这地位，还不过刚刚两年，所以没有一刻忘记过这称号。	忘记	
1029	1934	⑧	p.499	译文补编	鼻子	正如他说过和可伐罗夫毫不相识一样，那时真不知会说些什么来呢。	说	
1030	1934	⑧	p.501	译文补编	鼻子	“是的，您是觉得这样的。上礼拜我们就有过很相像的事情。	有	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1031	1934	⑧	p.504	译文补编	鼻子	也许是刮过胡子，涂擦皮肤的烧酒，错当水喝了罢。	刮	
1032	1934	⑧	p.504	译文补编	鼻子	这真是参不透。倘是别的东西：一粒扣了，一个银匙，一只表，那也是会不见的——但却是这样的一个损失……有谁失掉过这样的东西的？	失掉	
1033	1934	⑧	p.506	译文补编	鼻子	医生即刻就到了，问过这事情的发生时期之后，便托着少佐的下巴，抬起他的脸，用第二个指头在原有鼻子的地方弹了一下，少佐赶紧一仰头，后头部就撞在墙壁上。	问	
1034	1934	⑧	p.506	译文补编	鼻子	我的熟人，都是些阔绰的太太，今晚上该去的就有两家！我说过，我有许多熟人；……	说	
1035	1934	⑧	p.508	译文补编	鼻子	我明白的对你说，像你所说那样的官员，无论他是真相，是改装，我家里都没有招待过。	招待	
1036	1934	⑧	p.508	译文补编	鼻子	只有推立普·伊凡诺维支·玻兀七科夫会过我，好像想要我的女儿(他是一位品端学粹的君子人)，但是我连一点口风也没有露。	会	
1037	1934	⑧	p.508	译文补编	鼻子	“唔，”看过了信之后，可伐罗夫说，“并不是她。不会有这等事！这封信，就完全不像一个犯人写出来的。”	看	
1038	1934	⑧	p.508	译文补编	鼻子	八等文官还在高加索的时候，就受过委派，调查了几个案件，所以深通这一方面的事情。	受	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

1039	1934	⑧	p.508	译文补编	鼻子	大家的试验电磁，就刚刚风行过，而且柵屋街有着能够跳舞的椅子的故事，也还是很新的记忆，……	风行		
1040	1934	⑧	p.509	译文补编	鼻子	当河菜上夫·米尔沙(一八二九年到彼得堡来的波斯工之孙)还在那近旁的时候，他就被这奇特的进化游戏吃过吓。	吃//吓		
1041	1934	⑧	p.509	译文补编	鼻子	曾经以五等文言的格式，坐着马车，那么哄动过全市的鼻子，居然若无其事似的，忽然在原地方，就是可伐罗夫少佐的两个面颊之间出现了。	哄动		
1042	1934	⑧	p.509	译文补编	鼻子	他命令他立刻准备洗脸水。洗过脸，再照一照镜——有鼻子！用手中使劲的擦一下，又照一照镜——有鼻子！	洗		
1043	1934	⑧	p.510	译文补编	鼻子	这时候，门口出现了理发匠伊凡·雅各武莱雅文，但好像因为偷了黄油，遭人毒打过一頓的猫儿，徬徨的。	打		
1044	1934	⑧	p.511	译文补编	鼻子	从此以后，可伐罗夫少佐便好像没有过什么似的，又在涅夫斯基大街附近；	有		
1045	1934	⑧	p.511	译文补编	鼻子	鼻子也好像没有过什么似的，安坐在脸中央，绝不见有想要跑掉的样子。	有		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文献目録」参照。

1046	1934	⑧	p.515	译文补编	果戈理私观	一部分的作家和理论家之间，也以写实主义作家的研究这一个名目，时时提议过研究这些的作家，但较倾向于政治的工作的烦杂，一直将它妨碍了。	提议		
1047	1934	⑧	p.518	译文补编	艺术都会的巴黎	许多曾经在巴黎居住，工作过的人们，则一定要做一本书。	工作		
1048	1934	⑧	p.520	译文补编	艺术都会的巴黎	如果像我已经说过那样，他们玩起所谓表现主义来——	说		
1049	1934	⑧	p.523	译文补编	说述自己的纪德	这里所说的瓦乐敦，是法国有名的版画家。关于他，记得厨川白村确曾介绍过了的。	介绍		
1050	1934	⑧	p.523	译文补编	说述自己的纪德	在诗人古尔蒙的作家论集《假面的书》中，刻过许多法兰西作家的肖像。	刻		
1051	1934	⑧	p.523	译文补编	说述自己的纪德	瓦乐敦作这幅画的时候，还没有见过纪德，只靠着毕斯库拉(亚非利加)棕榈树下所照的照相，刻成木版的。	见		
1052	1934	⑧	p.525	译文补编	饥饿	市民们以为编年史上未曾写过的这幸福，乃是市长彼得·彼得洛维文·菲尔特活息兼柯旅长的质朴之赐，原也是一点不错的。	写		
1053	1934	⑧	p.527	译文补编	饥饿	旅长大约很满足了这护兵的回话。因为亚梨姆和米吉加受过刑罚，回到家里来的时候，简直像烂醉似的走得歪歪邪邪了。	受		
1054	1934	⑧	p.528	译文补编	饥饿	而且又查出了米吉加在警察局里请看守人喝酒，这一夜曾经出去过。	出去		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1055	1934	⑧	p.529	译文补编	饥饿	米吉加已经在市的广场上打过鞭子，加上烙印，和别的真正的强盗和恶棍一同达到西伯利亚去了。	打		
1056	1934	⑧	p.529	译文补编	饥饿	市里的老人也说，自从他识得事情以来，未曾有过这等事，他们将这祥的火灾，归之于旅长的罪孽，原也并非无理的。	有		
1057	1934	⑧	p.530	译文补编	饥饿	野游也游过了，烟火也放过了，然而“这不能使穷人吃饭”。	游		
1058	1934	⑧	p.532	译文补编	饥饿	月初，因为减少了人口，留着的是觉得轻松一点的，总算好歹挨过了。礼拜，紧接着就又是死。	挨		
1059	1934	⑧	p.532	译文补编	饥饿	“道乎舍文老头子，你已经活得这么老了，见过了多少官员。但是，不是还是好好的活着么？”	见		
1060	1934	⑧	p.533	译文补编	饥饿	“不错，活到这样的年纪了。”他忽然兴奋得叫起来。“也见过许多官，可是活着呢。”	见		
1061	1934	⑧	p.534	译文补编	饥饿	“如果对上头有不好的地方……如果入过帮……请宽恕我罢。”	入		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1062	1935	⑥	p.344	表		彼蒂加・华米德做过的事情，都明添得很。	做		
1063	1935	⑥	p.344	表		他在市场里到处走，什么都想过了。他又懊恼，又伤心。他饿了，然而买点吃的东西的钱却是一文也没有。	想		
1064	1935	⑥	p.347	表		彼蒂加的想头是对的。到晚上，人就要来放他了。这并不是第一回，他已经遇到过好几回了。	遇到		
1065	1935	⑥	p.349	表		“局长同志，一碰着这流浪人，就要叫人恶心的。请您原谅。拜托您……今天刚刚洗过蒸汽浴。穿的是洗得很干净的。他身上会搜出什么来呢？袋子早一个白虱，补钉里一个跳蚤……一定的……”	洗		
1066	1935	⑥	p.359	表		后来他这甲那虫的在野地上固然也流过……但这么着，身子可也不会真干净……	洗		
1067	1935	⑥	p.363	表		这是不足怪的：这两天来，除了警察给他的一小片点心之外，他什么也没有落过肚。	落／肚		
1068	1935	⑥	p.369	表		“我没有见过他。”“不要撒谎，”局长说。“你说谎了。你是见过他的。”“我对你们赌咒。我没有见过他。”	见		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1069	1935	⑥	p.369	表		“我没有见过他。”“不要撒谎，”局长说。“你说谎了。你是见过他的。”“我对你们赌咒。我没有见过他。”	见		
1070	1935	⑥	p.369	表		“我没有见过他。”“不要撒谎，”局长说。“你说谎了。你是见过他的。”“我对你们赌咒。我没有见过他。”	见		
1071	1935	⑥	p.369	表		“就是说我才说过的事呀。市民库瓮耶尔，您认识这流浪儿么？”	说		
1072	1935	⑥	p.368	表		仿佛有点记得，好像在什么地方见过这脸似的子。	见		
1073	1935	⑥	p.370	表		警察现在来施行身体检查了。他查过袋子，摸过上衣的里面。没有表。	查		
1074	1935	⑥	p.370	表		警察现在来施行身体检查了。他查过袋子，摸过上衣的里面。没有表。	摸		
1075	1935	⑥	p.370	表		“没有呀，”他说。“我刚刚说过的。他没有这东西的。他是一个要好的小浮浪儿。我可以用我的脑袋来保他的。”局长完全迷惘了。	说		
1076	1935	⑥	p.370	表		“不，这并不是骗人。”库克耶尔就要哭了，“我不撒谎。一只带着银链子的金表。我敢起誓，我是有过的。链子还在我这里。我只剩了这东西了。您看……”	有		
1077	1935	⑥	p.372	表		“见你的鬼！不要胡闹！表不是你的。你不过看见过！懂么？”	看见		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1078	1935	⑥	p.374	表		“如果看书，那就会高兴的。我给你一本罢。你读过果戈里的《鼻子》没有？”	读		
1079	1935	⑥	p.374	表		“我没有读过什么鼻子，也什么鼻子都不要读！走开去！”	读		
1080	1935	⑥	p.378	表		奇怪！他什么都经历过了的！向来就连一声咳嗽也没有。他虽然瘦，却没有过胸脯痛。	经历		
1081	1935	⑥	p.378	表		奇怪！他什么都经历过了的！向来就连一声咳嗽也没有。他虽然瘦，却没有过胸脯痛。	有		
1082	1935	⑥	p.378	表		去年还在十月里，已经落籍的时候，他曾在河里洗了浴，毫无毛病。他吃过种种脏东西，接连饿到几礼拜，也毫无毛病。而现在，现在他却生病了。	吃		
1083	1935	⑥	p.379	表		有一犬，跟孩子又来了。他带着一本书，和彼蒂加招呼过，就坐在床上。	招呼		
1084	1935	⑥	p.380	表		彼蒂加吃过后，又躺下了。然而他睡不着。	吃		
1085	1935	⑥	p.380	表		他翻着页子，看起来了……永远是看下去。然而他不读懂。因为他不是从头看起的。他就又从头来看过。他立刻不能放手了，至于看了一整夜。	看		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1086	1935	⑥	p.381	表		“因为这呀。我要告诉你。你知道毕塔河夫的事吗？”彼蒂加记得了：“那个独只眼”对……你和他打过架的……总之，这毕塔河夫是已经不在教养院里了。懂么？”	打//架		
1087	1935	⑥	p.384	表		黑孩子问他道：“怎样？你见过非修佐尔·伊凡诺维支了？”他回答道：“是”，满脸通红。“这很好。你是一个脚色。瞧罢，你就要全好了。”	见		
1088	1935	⑥	p.389	表		克拉·扎德夫教养院里，从来没有这么暖和过。到处都热，竟好像蒸汽浴似的。	暖和		
1089	1935	⑥	p.396	表		彼蒂加然而没有逃。不逃了……去年的夏天，他也曾梦想过。但现在……现在是完全两样了。	梦想		
1090	1935	⑥	p.398	表		“不行的，我的乖乖。我做过监牢了。有谁坐过一回监，就永远不能进小孩子们的教养院去的。你懂了没有？”	坐		
1091	1935	⑥	p.398	表		“你明白的！”毕塔河夫更加逼近了他，很快的说道：“你以为我不知道？哼，我的乖乖，我都知道。作克耶尔都对我讲过了……我们在监牢里，同住了半年。是的，是的。他至今还坐在那里，因为闹酒。我都知道。拿出衣来！懂么？”	讲		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1092	1935	⑥	p.399	表		那泰沙！这那泰沙，是在派个礼拜日和他一同逛过的！这金黄头发的娃娃，正在请求那人买她的什么。	逛		
1093	1935	⑥	p.408	俄罗斯的童话		这位教授，生前做过许多出色的诗，热烈地，美满地，证明了人生的无价值。	做		
1094	1935	⑥	p.409	俄罗斯的童话		“但是，总之，为什么说谎的！并没有失过恋爱罢？”	失		
1095	1935	⑥	p.411	俄罗斯的童话		他相信，做这首诗的人，当否定人生以前，是也如他的找寻一样，苦闷得很长久，一面在人生里面，找寻过那意义来的。	找寻		
1096	1935	⑥	p.413	俄罗斯的童话		“您的‘烟士披里纯’，就正是谁也没有发表过的新诗法的言语。我也决计来搜索这样的诗句罢，像阿尔戈舰远征队的赫罗斯忒拉特似的！”	发表		
1097	1935	⑥	p.414	俄罗斯的童话		破灭而绝望早已经历许多事，而且是熟悉了的。	经历		
1098	1935	⑥	p.416	俄罗斯的童话		从新娘的朋友里面，还挑了几个歇斯迭里病的女人。其中的一个，已曾吞过醋精，别的一个是决心要学的人物。	吞		
1099	1935	⑥	p.416	俄罗斯的童话		当大家走到后门的阶沿的时候，一个遍身生态的吉午，也是会用白己的身子研究过六〇六的效验的侯相，拉开马车门，凄凄地说道——“堵，这是极车！”	研究		



## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1100	1935	⑥	p.418	俄羅斯的童話		知道漸火而絕根息曾經給“匿名葬儀簿”做過詩的人们也有在那里，當然，至今也還以為他那些詩是全為了“該稿”的”古而作的，但因為對於一切的事情，全都隨隨便便，所以只將“人要吃”這一件事緊藏在心頭，不再開口了。	做		
1101	1935	⑥	p.419	俄羅斯的童話		“兄弟，我起了多少蟲，怎樣的蟲，你該知道罷，就是拿破仑身上，也沒有過這樣的虫呀……”	有		
1102	1935	⑥	p.420	俄羅斯的童話		“你約定過什么的呀？對嗎，留心點罷，‘每羊一樣’這句，令人不覺想起穆陽——這一个大大臣的名字來。這是不定會被看作關於政治的警句的！因為人民是愚蠢，政治是平庸的呀！”	約定		
1103	1935	⑥	p.425	俄羅斯的童話		“自然！還利用過他一點的哩。”	利用		
1104	1935	⑥	p.427	俄羅斯的童話		于是一味喜歡回憶過去的事了，——這是覺得一切无不整然的時候的事，——也曾做過社會主義者，也曾為青春所煩惱，但後來就超出了——一切，而且早就用自己的脚，拚命蹂躪着自己所撒的種子了。	做		
1105	1935	⑥	p.428	俄羅斯的童話		像知心朋友似的告過別，他就跑到大路上，站着，一看見過他身邊的犹太人，便擋住他，突然講起來——“如果你，他說，“是犹太人，那就一定得成為俄羅斯人，如果不願意的話……”	告//別		
1106	1935	⑥	p.428	俄羅斯的童話		“但是，要顯出俄羅斯人的臉相，是和不似愉快的感覺相連系的！可是不妥緊！像涅克拉索夫那樣無聊的詩人，也說過確切的話——	說		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1107	1935	⑥	p.428	俄羅斯的童話		“不對，”他說，“對不起！如果您是格魯志人，那麼您豈不也就是俄羅斯人么？您當然應該愛長官命令過的东西，不該唱高加索歌，但是，如果不怕牢監，那就即便不替命令……”	命令		
1108	1935	⑥	p.431	俄羅斯的童話		“怎麼是你的？你不是親口說過的么？是上帝的，而且在耶穌基督還沒有降生之前，就已經有几位正人君子知道着這事。”	說		
1109	1935	⑥	p.432	俄羅斯的童話		“然而，”他們說，“你早已清清楚楚的對我們證明過了，還是快些走的好罷，要不然，就要來趕了……”	証明		
1110	1935	⑥	p.435	俄羅斯的童話		“胡說！當然的！三年前的聖母升天節之後，英國人到此來，就這樣的請求過——把全部貴國的人民都驅逐到西伯利亞去，讓我們來罷，我們——他們說——規規矩矩的納稅，燒酒是每年給每位先生喝十二桶，而且一般……不行——我們說——為什麼呀？……”	請求		
1111	1935	⑥	p.440	俄羅斯的童話		執行這命令的，是朴茨男女老小的經常雇員，曾為非戈國王陛下發“阿古派H”的田主效過力的前大尉阿爾文提·斯台爾文柯。所以對於阿爾文提，付給了一萬六千個盧布。	效//力		
1112	1935	⑥	p.444	俄羅斯的童話		“什麼？沒有誰呀？沒有上司嗎？帶他來！”帶來了之後，他又命令道——“搜身！”“查查過身體。但錢筒東西都被沒收了，就是，表和純金和結婚戒指被哪去了，鑲在牙上的金被挖去了，還有，新的褲帶也被解掉，連扣子都摘去了，這才報告說——“搜過了，伊額蒙！”	檢查		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1113	1935	⑥	p.444	俄羅斯的童話			“什么?没有谁呀?没有上司吗?带他来!”带来了之后,他又命令道——“搜身!”检查过身体。值钱的东西都没收了,就是,衣和纯金和结婚戒指被哪去了,镶在牙上的金被挖去了,还有,新的腰带也被解掉,连扣子都摘去了,这才报告说——“搜过了,伊顿蒙!”	搜		
1114	1935	⑥	p.447	俄羅斯的童話			“你们放弃一切罢!有人说过:‘一切存在,无非苦恼,人因欲望,遂成苦痛,故欲断绝苦痛,必须消灭欲望。’所以停止欲望罢,那么,一切苦恼,就自然而然的消除了——真的!”	说		
1115	1935	⑥	p.455	俄羅斯的童話			他们没有受过别样的教练,只会做一件事,然而这被禁止了!	受		
1116	1935	⑥	p.460	俄羅斯的童話			“主呵,主呵!我的生活是多么丑,多么脏呵!连猪也在冷笑我,主呵,您忘记了我了!” 他诉说过,畅快快的哭了一通,躺下了,他幻想着—— “妖魔也不要紧,只要给我一点什么小改革,就好了,为了我的驯良和穷苦!给我能够洗一下身子,弄得漂亮些……”	诉说		
1117	1935	⑥	p.460	俄羅斯的童話			“喂,拿去,穷人,到混堂里去洗一个澡,整整身样,做一个人罢,已经足时候了!” 兵丁交出过一百万卢布,就做自己的工作去了,简直好像没事似的!	交出		
1118	1935	⑥	p.461	俄羅斯的童話			《永远的记忆》和《使长眠者和众圣一同安息罢》也都唱过了,他厌倦了庆祝,不过也不愿意作工。	唱		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1119	1935	⑦	p.24	死魂灵			大厅的大概情形,只要出过门的是谁都知道的:	出		
1120	1935	⑦	p.24	死魂灵			一句话,就是无论什么,到处都一样,不同的至多也不过图画里有一幅乳房很大的水妖,读者一定是还没有见过的。	见		
1121	1935	⑦	p.25	死魂灵			现在谁给一个师傅来做这事呢,我实在不断定,只有上帝知道罢了,我就从来没有用过这样的围巾。	川		
1122	1935	⑦	p.27	死魂灵			绅士找了警察,问过到教会,到衙门,到知非家里的最近便的路,便顺着贯穿市心的河道,走了下去。	问		
1123	1935	⑦	p.28	死魂灵			后来他还很久的坐在篷车里,让算着该去访问的人,但是他没有访问的官员,在这市里第一个也想不到来了。	访		
1124	1935	⑦	p.28	死魂灵			在他一生中,已经经历过许多事,也曾为真理受苦,还有着不少要他性命的敌人。	经历		
1125	1935	⑦	p.28	死魂灵			于是拿过侍者肩上的手中,来擦他的圆脸,无处不到,先从耳朵后面开头,还靠近着傅者的脸孔,啾啾的哼了两回鼻子。	拿		
1126	1935	⑦	p.28	死魂灵			他这样的化过装,即走上自己的篷车,在只从几家窗户里漏出来的微光照着的很陋的街道上驰过去。	化// 装		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1127	1935	⑦	p.29	死魂灵		他们一样是很小心的梳过胡子，须髯一样是很好看，有意思，或者却不过漂亮而已，一张刮得精光的鸡蛋脸，也一样是拚命的裹着女人，法国话也觉得很好，使太太们笑断肚肠筋，也正如在彼得堡一样。	梳		
1128	1935	⑦	p.30	死魂灵		我们的旅客以为最有意思的，是先前已经说过的两位地主，玛尼罗夫和梭巴开维支。	说		
1129	1935	⑦	p.31	死魂灵		这回他又结识了一个地主岁以上特来夫，是三十岁光景的爽直的绅士，只讲过几句话，就和他“你”“我”了起来。	讲		
1130	1935	⑦	p.31	死魂灵		他也会谈，仿佛他自己就做过税关官吏和税关稽查似的。	做		
1131	1935	⑦	p.34	死魂灵		他是先一晚就清清楚楚的发出过必要的命令了。一早醒来，洗脸，用凉的海绵从头顶一直擦到脚尖，这是礼拜天才做的——	发		
1132	1935	⑦	p.36	死魂灵		两个朋友彼此亲热的接吻，玛尼罗夫便引他的朋友到屋里去。	接//吻		
1133	1935	⑦	p.37	死魂灵		说他在经营田地罢，也不成，他就从来没有走到野地里去过，什么都好像是日生日长的，和他没干系。	去		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1134	1935	⑦	p.37	死魂灵		虽然新婚第二天，玛尼罗夫就对他的太太说过，“心肝，我们明天该想法子了，至少，我们首先得弄些家具来。”到夜里，就有一座高高的华美的古铜烛台接在桌上了，……	说		
1135	1935	⑦	p.38	死魂灵		但这些都是俗务，玛尼罗夫夫人却是一位受过好教育的闺秀。	受		
1136	1935	⑦	p.40	死魂灵		“而且又是一个怎样的美术家呀！我真想不到他会做这么出色的刺绣和手工艺。他给我看过一个自己绣出来的钱袋了；要绣得这么好，就在闺秀们中恐怕也很难找到的。”	看		
1137	1935	⑦	p.41	死魂灵		“哦哦，那真是一位非常可爱的绅士！而且又聪明，又博学！我和险斗，还有审判厅长，在他家打过夜牌的。实在是一位非常可爱的绅士！”	打//牌		
1138	1935	⑦	p.41	死魂灵		“那倒是的，不错，一点也不错！”乞乞科夫打断他。“就是有了世界上的一切宝贝，又有什么好处呢？贵人说过，‘好朋友胜于世上一切的财富’。”	说		
1139	1935	⑦	p.44	死魂灵		家具是四把椅子，一把靠椅和一张桌子，桌上有先前说过的夹着书卷的一本书，写过字的几张纸，但最引目的是许多烟。	说		
1140	1935	⑦	p.44	死魂灵		家具是四把椅子，一把靠椅和一张桌子，桌上有先前说过的夹着书卷的一本书，写过字的几张纸，但最引目的是许多烟。	写		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1141	1935	⑦	p.44	死魂灵		两个舞台上，也各有几小堆从烟斗里挖出来的烟灰，因为要排得整齐，好看，很費过一番心计的。	費		
1142	1935	⑦	p.44	死魂灵		“这以后，在您这里，死过许多依奴了罢？”	死		
1143	1935	⑦	p.45	死魂灵		但是，玛尼罗夫也终于听到了非常奇怪，而且人类的耳朵从来没有听到过的东西了。	听到		
1144	1935	⑦	p.46	死魂灵		“不过我不懂……对不起……我白然没有受过像您那样就在一举一动上，也都看得出来的好教育；也没有善于说话的本领……”	受		
1145	1935	⑦	p.48	死魂灵		“啊！如果您知道了看去好像颈细的赠品，给了一个无名无位的人，是怎么的有用呵！真的！我什么没有经历过呢！就像孤舟的在惊涛骇浪中……什么迫害我没有熬过呢！什么苦头我没有吃过呢！”	经历		
1146	1935	⑦	p.48	死魂灵		“啊！如果您知道了看去好像颈细的赠品，给了一个无名无位的人，是怎么的有用呵！真的！我什么没有经历过呢！就像孤舟的在惊涛骇浪中……什么迫害我没有熬过呢！什么苦头我没有吃过呢！”	熬		
1147	1935	⑦	p.48	死魂灵		“啊！如果您知道了看去好像颈细的赠品，给了一个无名无位的人，是怎么的有用呵！真的！我什么没有经历过呢！就像孤舟的在惊涛骇浪中……什么迫害我没有熬过呢！什么苦头我没有吃过呢！”	吃		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1148	1935	⑦	p.49	死魂灵		“再见，可敬的朋友！您不要忘记我拜托过您的事呀！”	拜托		
1149	1935	⑦	p.52	死魂灵		一面赶着它们开快步，至于顺着这条路走到那里去呢，他可是并没有怎么想过的。	想		
1150	1935	⑦	p.52	死魂灵		但乞乞科夫现在却发现了他的车在左右摇动，每一摇动，就给他很有力的一震；使他想到这好像已经离开道路，拉到耕过的山阜来了。	耕		
1151	1935	⑦	p.55	死魂灵		这时他想回明，他就蹒跚走到什么地方来了，到该巴开雅文先生的村庄去，还有多少远，但那老太人的回答，能知道是她从来没有听到过这姓名，姓这的地主，是那里也没有的。	听到		
1152	1935	⑦	p.56	死魂灵		“没有，我从来没有听到过他的姓名，没有这么一个地主的。”	听到		
1153	1935	⑦	p.57	死魂灵		把伞副披挂，从上到下，都交给了非普涅，她说过晚安，带着湿淋淋的收获，走掉了。	说		
1154	1935	⑦	p.58	死魂灵		“但愿就会好呵。猪油呀，松节油呀，我都擦过了。您用什么对茶呢？这个瓶子里的是果汁。”	擦		
1155	1935	⑦	p.60	死魂灵		“那么，您是经手人？多么可惜！我把我的蜂蜜都贱卖了；您一定要的，先生，可对？”“不，我不太敢买进蜂蜜。”	收买		

## 資料⑥

第2章例文：鲁迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《鲁迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1156	1935	⑦	p.61	死魂灵			“我还是不明白，“那老婆子踉跄着，说，“我向来没有卖过死人。”	卖		
1157	1935	⑦	p.61	死魂灵			“这有什么稀奇！如果您卖过了，这才稀奇哩。您莫非以为这真的值钱吗？”	卖		
1158	1935	⑦	p.61	死魂灵			“老实说，先生，我可向来没有卖过死人。活人呢，那是有过的，还在三年前，我把两个娃儿让给了波罗多波波夫，一百卢布一个，他高兴得很。……	卖		
1159	1935	⑦	p.61	死魂灵			“老实说，先生，我可向来没有卖过死人。活人呢，那是有过的，还在三年前，我把两个娃儿让给了波罗多波波夫，一百卢布一个，他高兴得很。……	有		
1160	1935	⑦	p.62	死魂灵			乞乞科夫拭过汗，就又想，用了别样的方法，来打劫地试试看。	拭		
1161	1935	⑦	p.63	死魂灵			“上帝知道，这真是古怪透顶的货色，我向来没有经手过的。”	经手		
1162	1935	⑦	p.64	死魂灵			“那卑卑里，我全没有生气呀！所有的事情比不上一个挤过汁的柠檬。……	挤// 汁		
1163	1935	⑦	p.65	死魂灵			但乞乞科夫却因为去取魂箱里的纸，走进了他睡过一夜的客厅。	睡		

367

## 資料⑥

第2章例文：鲁迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《鲁迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1164	1935	⑦	p.66	死魂灵			“请呀，这是奶油煎过的蛋糕，也许还可以罢？”那主妇说。	煎		
1165	1935	⑦	p.66	死魂灵			乞乞科夫抓住那奶油煎过的蛋糕来，没有吃到一半，就极口称赞起来了。	煎		
1166	1935	⑦	p.68	死魂灵			绥里方一路上都很有真，正经，对于自己的职务也很注意，这是他在有了错处或者喝醉过酒之后，向来如此的。	喝醉		
1167	1935	⑦	p.71	死魂灵			圣象面前的描金的磁器，系着红绿带子，刚刚生过孩子的一匹猫，……	生		
1168	1935	⑦	p.72	死魂灵			乞乞科夫知道，这是罗十特来夫，和这先生，曾在检事家里一同吃过饭，不到几分钟，他就已经显得非常亲密，叫起你来了，虽然从乞乞科夫这一面，对他也并没有给与什么些微的注意。	吃		
1169	1935	⑦	p.72	死魂灵			实实在在，这一生，就没有弄得这么精光过。	弄得 这么 精光		
1170	1935	⑦	p.73	死魂灵			商人们自己就说，向来没有过这样的热闹。	有		
1171	1935	⑦	p.75	死魂灵			“这毫没有什么可笑，我和他约过的，”乞乞科夫说。	约		

368

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1172	1935	⑦	p.76	死魂灵			但乞乞科夫却从他有牛以来一向就没有见过式服新替略夫和枣骝马。	见	
1173	1935	⑦	p.76	死魂灵			“我吩咐过你的，你又没有做，”罗士特来夫对波尔菲里说，一面留心的看着那狗的肚子。“窸窣心，你简直不记得了。”	吩咐	
1174	1935	⑦	p.79	死魂灵			而且最奇特的是，这大概是只有在俄国才会出现的，——不久之后，他就又和痛打了他的朋友混在一起，大家叛谈，仿佛全没有过什么事，他这一面，也好像毫未受过侮辱似的了。	有	
1175	1935	⑦	p.79	死魂灵			而且最奇特的是，这大概是只有在俄国才会出现的，——不久之后，他就又和痛打了他的朋友混在一起，大家叛谈，仿佛全没有过什么事，他这一面，也好像毫未受过侮辱似的了。	受	
1176	1935	⑦	p.80	死魂灵			他无缘无故的说谎。他会突然想到，讲了起来，说自己有过一匹马，……	有	
1177	1935	⑦	p.82	死魂灵			客人们都得从休耕的和耕过的田里取路。	耕	
1178	1935	⑦	p.84	死魂灵			中餐早已完毕，酒也都试过了，但客人们却还不离开桌面，乞乞科夫总不愿意当着那个亲戚的面，向罗士特来夫说出他藏在心里的事情来：	试	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1179	1935	⑦	p.86	死魂灵			“听罢，这是你丢面子的。你说过一言为定的了，现在却想不算了！”	说	
1180	1935	⑦	p.87	死魂灵			“我给你母马，还添上你已经见过的那匹灰色小马，只要二千卢布。”	见	
1181	1935	⑦	p.90	死魂灵			乞乞科夫回到屋子里，洗过脸，换好了衣服。	洗	
1182	1935	⑦	p.90	死魂灵			屋里却还分明的留着昨天的中餐和晚餐的遗迹；使女并没有用过扫帚。	兀	
1183	1935	⑦	p.91	死魂灵			“我已经告诉过你了，我不赌；却买——我愿意这样。”	告诉	
1184	1935	⑦	p.91	死魂灵			“我已经告诉过你了，我是不赌的。”	告诉	
1185	1935	⑦	p.91	死魂灵			“我长久没有碰过棋子了，”乞乞科夫说着，也动了一子。	碰	
1186	1935	⑦	p.91	死魂灵			“我长久没有碰过棋子了，”乞乞科夫说着，又走下去。	碰	
1187	1935	⑦	p.92	死魂灵			“我长久没碰过棋子了……喂，这是怎么的，好朋友？把这一子收回去！”乞乞科夫喊道。	碰	

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1188	1935	⑦	p.92	死魂灵		“不，我的好人，靴子我都数过，什么都记的清清楚楚的，你刚刚把它推上来的。这里是它的原位！”	数		
1189	1935	⑦	p.94	死魂灵		一个留了胡子，穿着军人似的衣服的人，跨下车子来。他在门口问过主人之后，就走进屋子里，其时么么科夫还在吓得发昏，也还在凡有垂死的人，总要尝到的可怜之至的状态里。	问		
1190	1935	⑦	p.95	死魂灵		“这么一个坏老爷，”绥甲方想。“这样的一个老爷，我一生一世里就没有看见过。……”	看见		
1191	1935	⑦	p.97	死魂灵		——无论在那里，我们总会遇到一回向来从未见过的现象，至少也总有一回会燃起向来无与相比的感情。	见		
1192	1935	⑦	p.97	死魂灵		他也曾沉思了一番，还想到过许多事，但他的思想却是更加着实的东西：	想到		
1193	1935	⑦	p.103	死魂灵		“真的？”乞科夫显着同情的样子，插嘴说。“这是真的么，像您说过，他那里饿死了很多的农奴？”	说		
1194	1935	⑦	p.105	死魂灵		嘴巴一开一闭的，吐出几声不清楚的声音来，用手划过十字，就叉去掩住了嘴巴。	划		
1195	1935	⑦	p.107	死魂灵		您从我这里拿去的，却是真正的挑选过的常实的好脚色，都是手艺人和有力气的种田人。	挑选		

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1196	1935	⑦	p.107	死魂灵		“呵，不然，决不是幻影；我告诉您，这样的一个家伙，像米锡耶夫来的，您就找不到第二个；这样的一个工匠，是不到您这屋子里来的。不然，决不是幻影。这家伙肩膀上有力量，连马也比不上。您在别处还见过这样的一个幻想吗，我倒愿意知道知道。”	见		
1197	1935	⑦	p.110	死魂灵		他先从什么艺术或科学上去喝过一两酒，于是飘到出众的社会地位上来了，那么，真懂一点这艺术或科学的人，就要倒运；后来他还要对您说哩：我要来给你们看看，我是什么人。	喝		
1198	1935	⑦	p.112	死魂灵		在如事和警察局长那里，他们曾经会过面，但他却像完全陌生人一样的来对付他，还用那样的废物弄他的钱去。	会//面		
1199	1935	⑦	p.115	死魂灵		在没有周到的保护它的年轮的昏沉的屋顶上，见有两个恰恰相对的望台，都已经歪斜，褪色，曾经刷过的颜色，早已无踪无影了。	刷		
1200	1935	⑦	p.117	死魂灵		写字桌原是嵌镶罗细的，但罗细处处脱落了，只剩下填着干胶的空洞，乱放着各种剥剥陆离的什物：一堆写过字的纸片，上面压一个卵形把手的已经发绿的大理石的镇纸，一本红边的猪皮书面的旧书，一个不过胡桃大小的挤过汗的手帕，一段椅子的破靠手，一个装些红色液体，内穿三个苍蝇，上盖一张信纸的酒杯，一小块信蜡，一片不知道从哪里拾来的破布，两只鸭毛笔，沾过墨水，却已经干透了，好像生着锈柄，一把发黄的牙刷，大约还在法国人攻入墨斯科之前，它的主人曾经刷过牙齿的，诸如此类。	写		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1201	1935	⑦	p.117	死魂灵			写了桌原是嵌镶罗细的，但罗细处处脱落了，只剩下填着干胶的空洞，乱放着各种雕刻脱离的什物：一堆写过字的纸片，上面压一个卵形把手的已经发绿的大理石的镇纸，一本红边的猪皮书面的旧书，一个不过胡桃大小的挤过汗的干柠檬，一段椅子的破靠手，一个装些红色液体，内浮三个苍蝇，上盖一张信纸的酒杯，一小块信蜡，一片不知道从那里拾来的破布，两只鹅毛笔，沾过墨水，却已经干透了，好像生着痲病，一把发黄的牙刷，大约还在法国人攻入莫斯科之前，它的主人曾经刷过牙齿的，诸如此类。	粉// 汁	
1202	1935	⑦	p.117	死魂灵			写了桌原是嵌镶罗细的，但罗细处处脱落了，只剩下填着干胶的空洞，乱放着各种雕刻脱离的什物：一堆写过字的纸片，上面压一个卵形把手的已经发绿的大理石的镇纸，一本红边的猪皮书面的旧书，一个不过胡桃大小的挤过汗的干柠檬，一段椅子的破靠手，一个装些红色液体，内浮三个苍蝇，上盖一张信纸的酒杯，一小块信蜡，一片不知道从那里拾来的破布，两只鹅毛笔，沾过墨水，却已经干透了，好像生着痲病，一把发黄的牙刷，大约还在法国人攻入莫斯科之前，它的主人曾经刷过牙齿的，诸如此类。	沾	
1203	1935	⑦	p.118	死魂灵			写了桌原是嵌镶罗细的，但罗细处处脱落了，只剩下填着干胶的空洞，乱放着各种雕刻脱离的什物：一堆写过字的纸片，上面压一个卵形把手的已经发绿的大理石的镇纸，一本红边的猪皮书面的旧书，一个不过胡桃大小的挤过汗的干柠檬，一段椅子的破靠手，一个装些红色液体，内浮三个苍蝇，上盖一张信纸的酒杯，一小块信蜡，一片不知道从那里拾来的破布，两只鹅毛笔，沾过墨水，却已经干透了，好像生着痲病，一把发黄的牙刷，大约还在法国人攻入莫斯科之前，它的主人曾经刷过牙齿的，诸如此类。	刷	

373

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、『魯迅訳文全集』参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1204	1935	⑦	p.118	死魂灵			当我们的主角还在潜心研究这奇特的屋中陈设的时候，边门一开，那女管家，那他在前同里遇见过的，就走了进来了。	遇见	
1205	1935	⑦	p.118	死魂灵			自有生以来，他遇见过各色各样的人，自然，敬爱的读者，连我们没有见过的也在内，但一向并未会到过一个这样的人。	遇见	
1206	1935	⑦	p.118	死魂灵			自有生以来，他遇见过各色各样的人，自然，敬爱的读者，连我们没有见过的也在内，但一向亦未会到过一个这样的人。	见	
1207	1935	⑦	p.118	死魂灵			自有生以来，他遇见过各色各样的人，自然，敬爱的读者，连我们没有见过的也在内，但一向并未会到过一个这样的人。	会到	
1208	1935	⑦	p.119	死魂灵			然而他也曾经有过是一个勤儉的一家之主的时候的！	有	
1209	1935	⑦	p.122	死魂灵			他想对他这样说：因为他听到过波留希金的道德和特出的品格，所以前来表示敬意，是自己的义务；然而又以为这未免太高奇。	听到	
1210	1935	⑦	p.122	死魂灵			因为听到过波留希金治家的节俭和非凡的管理，所以他觉得有趋前奉切，将他的敬仰的表示，陈在足下的义务。	听到	
1211	1935	⑦	p.122	死魂灵			自然，先前已经说过，也还有别样更好的理由的，但他不想说，这很不漂亮。	说	

374



## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1212	1935	㉞	p.122	死魂灵		我早已吃过中饭了，家里的厨房又小，又脏，烟囪也坏着：我简直不敢在灶里生火，怕惹出火灾来。	吃	
1213	1935	㉟	p.122	死魂灵		“竟是这样的么？”乞乞科夫想。“幸而我在梭巴开维支那里吃过一点干酪饼和一口羊腿来了！”	吃	
1214	1935	㊱	p.124	死魂灵		但无论如何，他总撞不住自己的高兴，将各种祝福出格的送给这些人，对于他自己和他的孩子，虽然并没有问过他孩子的有无。	问	
1215	1935	㊲	p.125	死魂灵		这样的未曾听到过的豪爽和大胆，使他觉得难怪和可疑了，……	听到	
1216	1935	㊳	p.126	死魂灵		然而乞乞科夫却热烈的拒绝了这心愿，并且声明，他早已吃过，喝过了。	吃	
1217	1935	㊴	p.126	死魂灵		然而乞乞科夫却热烈的拒绝了这心愿，并且声明，他早已吃过，喝过了。	喝	
1218	1935	㊵	p.127	死魂灵		“早已吃过，喝过了！”波留希金说。	吃	
1219	1935	㊶	p.127	死魂灵		“早已吃过，喝过了！”波留希金说。	喝	
1220	1935	㊷	p.128	死魂灵		——他望过菜了的上面和下面，到处乱翻了一遍，终于喊起来道：“玛孚拉，喂！玛孚拉！”	望	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1221	1935	㊸	p.128	死魂灵		“如果要纸，什么时候都会自己去买的。他就从来没有见过您的纸！”	见	
1222	1935	㊹	p.128	死魂灵		“我怕什么呢，如果我没有拿过那张纸，您可以责备我别样的做女人的错处，但我会偷东西，却还没有人说过哩。”	拿	
1223	1935	㊺	p.128	死魂灵		“我怕什么呢，如果我没有拿过那张纸，您可以责备我别样的做女人的错处，但我会偷东西，却还没有人说过哩。”	说	
1224	1935	㊻	p.129	死魂灵		“那白然，我有。我的女婿已经去找寻过了，他说，连他们的踪影也看不见；……”	找寻	
1225	1935	㊼	p.129	死魂灵		但是这，已经说过，真是有限得很，不值得说的。	说	
1226	1935	㊽	p.131	死魂灵		他再想过去之后，接下去道，“还不如写在遗嘱里罢，等我死后，他才得到表，那么，他到后来也还记得我了。”	想到	
1227	1935	㊾	p.136	死魂灵		当他接着拿起名单来，一看那些确是活着过，操劳过，耕作过，喝过酒，拉过车，骗过他的主人，或者也许是简单的老实人的农奴们的名字的时候，就起了一种奇特的不舒服的感觉。	沿着	
1228	1935	㊿	p.136	死魂灵		当他接着拿起名单来，一看那些确是活着过，操劳过，耕作过，喝过酒，拉过车，骗过他的主人，或者也许是简单的老实人的农奴们的名字的时候，就起了一种奇特的不舒服的感觉。	操劳	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1229	1935	⑦	p.136	死魂灵			当他接着拿起名单来，一看那些确是活着过，穢劳过，耕作过，喝过酒，拉过车，骗过他的主人，或者也许是简单的老实人的农奴们的名字的时候，就起了一种奇特的不舒服的感觉。	耕作	
1230	1935	⑦	p.136	死魂灵			当他接着拿起名单来，一看那些确是活着过，穢劳过，耕作过，喝过酒，拉过车，骗过他的主人，或者也许是简单的老实人的农奴们的名字的时候，就起了一种奇特的不舒服的感觉。	喝	
1231	1935	⑦	p.136	死魂灵			当他接着拿起名单来，一看那些确是活着过，穢劳过，耕作过，喝过酒，拉过车，骗过他的主人，或者也许是简单的老实人的农奴们的名字的时候，就起了一种奇特的不舒服的感觉。	拉	
1232	1935	⑦	p.136	死魂灵			当他接着拿起名单来，一看那些确是活着过，穢劳过，耕作过，喝过酒，拉过车，骗过他的主人，或者也许是简单的老实人的农奴们的名字的时候，就起了一种奇特的不舒服的感觉。	骗	
1233	1935	⑦	p.136	死魂灵			那就是曾经属于女地主科罗姆契加的，已经说过的彼得·萨惠略夫·内乌伐柴衣——科卢以多。	说	
1234	1935	⑦	p.138	死魂灵			“地主某人，”你太阳的回答道。“你怎么跑到这里来的？”局长问。“我缴过赎身钱，得了释放的了，”你答得很顺口。	缴	
1235	1935	⑦	p.138	死魂灵			“并没有，”你说，连睫毛也不动一下，“我还没有偷过东西。”	偷	
1236	1935	⑦	p.144	死魂灵			厅长和乞乞科夫拥抱，办公室里起了一通朋友的接吻声。他们彼此问过好，由此知道了两个人都腰痛，算是因为生平大抵安坐不动而得的。	问	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1237	1935	⑦	p.145	死魂灵			“您自己想想就是，伊凡·格力戈利也维支，我已经五十岁了，没有遭过一回喉痛，没有生过一个疮……这可不会有好结果的！这总有一回要算账的……”说到这里，梭巴开维支就非常忧郁了。	遭	
1238	1935	⑦	p.145	死魂灵			“您自己想想就是，伊凡·格力戈利也维支，我已经五十岁了，没有遭过一回喉痛，没有生过一个疮……这可不会有好结果的！这总有一回要算账的……”说到这里，梭巴开维支就非常忧郁了。	生// 疮	
1239	1935	⑦	p.145	死魂灵			“可以，很愿意！”厅长看过信札之后，大声说。	看	
1240	1935	⑦	p.147	死魂灵			“真的？没有罢？”厅长拦着说。“我知道这米锡耶夫；这人在他的门上，是一个好手；他给我修过一回车子的。但请您原谅一下……这是怎么的呢？……您不是对我说过的吗，他死了……”	修	
1241	1935	⑦	p.147	死魂灵			“真的？没有罢？”厅长拦着说。“我知道这米锡耶夫；这人在他的门上，是一个好手；他给我修过一回车子的。但请您原谅一下……这是怎么的呢？……您不是对我说过的吗，他死了……”	说	
1242	1935	⑦	p.149	死魂灵			第三个用的是所谓翻筋斗，或者洒出俄国字母里从未见过的文字来。	见	
1243	1935	⑦	p.150	死魂灵			这种香味，久已很愉快的引得我们的客人的鼻孔发痒，梭巴开维支也已经从门口转过矮席，把旁边一点的躺在一张大盖于母的鲟鱼看的眼里的了。	卑	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1244	1935	⑦	p.151	死魂灵		客人们喝过黑绿的阿列布色的烧酒。	喝	
1245	1935	⑦	p.151	死魂灵		于是手里拿着杯子，跑过来要和乞乞科夫碰杯。乞乞科夫对大家都一样的碰过。	碰	
1246	1935	⑦	p.158	死魂灵		没有人听到过她们说：“我醒鼻涕！”“我出汗”，“我吐口水”，她们却换上了这样的话：“我清了鼻子”或则“我用了我的手巾”。	听到	
1247	1935	⑦	p.161	死魂灵		是的，连远远的一直站在门口，一生从来没有笑过，只给下姓看他举头的警察——	笑	
1248	1935	⑦	p.161	死魂灵		飘带，结子和花束，以如画的纷乱，在衣服上飞动，虽然这纷乱，是由许多不纷乱的头脑，经过不少的时光。	费	
1249	1935	⑦	p.164	死魂灵		他回答说，他曾经出乎意外地和她有过相见的光荣：以后还想添上几句去，然而完全失败了。	有	
1250	1935	⑦	p.166	死魂灵		这时在别一角落上，已经有四对眯着玛兹尔加；靴后跟敲着地板，一个陆军里的大尉，用了肉体和精神，两手和两脚，显出他们梦里也没有做过的奇异的姿势来。	做	
1251	1935	⑦	p.167	死魂灵		但我们的主角好像全没有觉得，仍旧不住的兼出他在各必已经用过许多回的所有虫色的物事来，……	用	
1252	1935	⑦	p.169	死魂灵		他到我这里就来买过死人的。	买	

379

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1253	1935	⑦	p.172	死魂灵		但是——人却有一点希奇：使他很恼怒的正是头掉了这人的寄托，虽然对于这寄托，他自己并不看重，评的极奇，还为了他们的尚浮华和爱装饰下过很锋利的攻击。	下	
1254	1935	⑦	p.177	死魂灵		“可惜，我已经答应了普拉斯科夫耶·伊凡诺夫娜的了。等她用过之后？”	用	
1255	1935	⑦	p.177	死魂灵		“什么普拉斯科夫耶·伊凡诺夫娜穿过后，谁还要穿呀？如果您不给自己最亲近的朋友，倒先去给了一个外人，我看您实在特别得很！”	穿	
1256	1935	⑦	p.181	死魂灵		“好个天真烂漫！我听过她讲话了！我就没有这勇气，敢说出这样的话来。”	听	
1257	1935	⑦	p.181	死魂灵		“不，她多么做作，多么做作得可怕，我的上帝，多么做作呵！她从谁学来的呢？不过我从来没有见过一个女孩子，有这么装腔作势的脾气的。”	见	
1258	1935	⑦	p.181	死魂灵		“我的亲爱的，我可是就坐在她旁边的呢，她面庞上擦着胭脂，真有一个指尖那么厚，像墙上的石灰似的一片一片的掉下来。这是她的母亲教她的。母亲原就是一个精制过的骚货，但女儿可是赛过母亲了。”	精制	
1259	1935	⑦	p.182	死魂灵		“那里的话，对不起，请您给我说一句，我可一向没有闹过这样的丑故事。别人会这样也就不足，然而不是我，这是您应该许可我通知您的。”	闹	

380

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1260	1935	⑦	p.182	死魂灵		通体漂亮的太太恰巧记得了新衣眼的纸样还没有在她的手中，也还漂漂亮亮的太太也知道还没有从她最好的朋友听过新衣眼的底细，因此这么快的就又恢复了和平。	听		
1261	1935	⑦	p.189	死魂灵		但大家各自回想起来，却谁也不很明白乞乞科夫究竟是什么人，他自己也不过很含糊，很游移的发表过他的身世，他单是说，他生平经历过大难，因为他想给真理服役，所以只得惹起目前的猜疑。	发表		
1262	1935	⑦	p.189	死魂灵		但大家各自回想起来，却谁也不很明白乞乞科夫究竟是什么人，他自己也不过很含糊，很游移的发表过他的身世，他单是说，他生平经历过大难，因为他想给真理服役，所以只得惹起目前的猜疑。	经历		
1263	1935	⑦	p.189	死魂灵		大家又决定到卖给他死魂灵的人们那里，去研究几件事，至少，是想知道那交易是怎样的情形，死魂灵究竟该作怎样的解释，以及乞乞科夫是否在偶然间，或者滑了一点他的计画和目的，或者对他讲过他是什么人。	走漏		
1264	1935	⑦	p.189	死魂灵		大家又决定到卖给他死魂灵的人们那里，去研究几件事，至少，是想知道那交易是怎样的情形，死魂灵究竟该作怎样的解释，以及乞乞科夫是否在偶然间，或者滑了一点他的计画和目的，或者对他讲过他是什么人。	讲		
1265	1935	⑦	p.189	死魂灵		他也把脂肪供给国家，所以他的确是骗子；因为先已有人买了她的鸟毛，而且把脂肪供给过国家。	供给		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1266	1935	⑦	p.192	死魂灵		大约我们在开初，就是一早，已经觉得满足，相信这些事是全都做过的了。	做		
1267	1935	⑦	p.194	死魂灵		是一个粗心浮气的朋友，恶魔似的强横，凡世界上所有的事，他都做过，在过守卫本部，受过许多点钟的禁锢。	做		
1268	1935	⑦	p.194	死魂灵		是一个粗心浮气的朋友，恶魔似的强横，凡世界上所有的事，他都做过，在过守卫本部，受过许多点钟的禁锢。	在		
1269	1935	⑦	p.194	死魂灵		是一个粗心浮气的朋友，恶魔似的强横，凡世界上所有的事，他都做过，在过守卫本部，受过许多点钟的禁锢。	受		
1270	1935	⑦	p.194	死魂灵		他呢，说起来，是所谓牺牲了他的一生，而且流过血的……他坐着一辆货车或是公家的轿车，上首都去了，	流		
1271	1935	⑦	p.199	死魂灵		警察局长曾经参加一八一二年的战事，见过拿破仑本人，也承认他的确不比乞乞科夫高大，脸盘也不见得更瘦，可是别一面又并不见得更肥。	见		
1272	1935	⑦	p.199	死魂灵		但没奈何的是确曾闹过我们在这里所说的事情，而这市镇并非荒僻之处，乃是邻近两大首都的地方，却也尤为奇特。	闹		
1273	1935	⑦	p.203	死魂灵		在这时候，他用牛乳漱口，里面浸一个无花果，漱过就喝掉，又把一个装着加密列草和停脑的小袋子，贴在面颊上。	漱		
1274	1935	⑦	p.203	死魂灵		他刮过脸，赶紧穿衣服，真的，他几乎是从裤子里跳出来的。	刮		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1275	1935	㉑	p.204	死魂灵			“俗巷里说过的，为朋友不怕路远，”那人大声说，除下了帽子。	说	
1276	1935	㉒	p.205	死魂灵			以来本全夫，就是和我向在那里的，总是说：‘如果乞乞科夫在这里，他就用得着这些了！’（乞乞科夫却一向没有和贝来本全夫见过面。）	见	
1277	1935	㉓	p.209	死魂灵			这之间，乞乞科夫只得消受着出色的时光，这是凡有出门人全都尝过的，箱子理好了，屋子里只剩下几条绳子，几个纸团，以及别样的废物，人是还没有上车，然而也不能静静的停在屋子里，……	尝	
1278	1935	㉔	p.213	死魂灵			他向两边看，把N市忘得干干净净，好像他在很久，很久之前，还是早先的孩子时代，曾在那里住过似的。	住	
1279	1935	㉕	p.213	死魂灵			这一切，作者都很明白，但话虽如此——他却还不能选一个正人君子来做主角……然而……在这故事里，可也许会碰到未曾碰过的线索，看见俄罗斯精神的无限的丰饶，一个男子，有神明一般的特长和德性，向我们走来，或者一个出色的俄国女儿，具有女性的一切之美，满足高尚的努力，甘作伟大的牺牲，在全世界上找不出第二个！	弹	
1280	1935	㉖	p.214	死魂灵			已经到了男子的成年，锻炼过内面生活的严厉的劳动和孤独生活的清静自己的诗人，倒像孩子似的忘其所以，是不相称的。	锻炼	
1281	1935	㉗	p.219	死魂灵			他中止了莫斯科为“爸爸”利在他手上接吻，婚礼这件事是从此永远抛下，几乎好像简直并没有提过似的。	提起	
1282	1935	㉘	p.222	死魂灵			他看见过税务官员弄到怎样的好看到出奇的外国货，把怎样的出色的麻纱和磁器去送他的姊妹，教母和姊妹。	看见	

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1283	1935	㉙	p.226	死魂灵			我没有陷害过什么人，没有抢掠过一个寡妇，没有弄得谁去做乞丐，我不过取了一点余剩，别人站在我的地位上，也要伸下手去的。	陷害	
1284	1935	㉚	p.226	死魂灵			我没有陷害过什么人，没有抢掠过一个寡妇，没有弄得谁去做乞丐，我不过取了一点余剩，别人站在我的地位上，也要伸下手去的。	抢掠	
1285	1935	㉛	p.229	死魂灵			一位中年的绅士，一辆坐着独身者常坐的马车，跟丁彼得尔希加，马夫绥里方和驾车的二头骏马，从议员到卑劣的花马，是我们已经介绍过了的，由这些编成的我们的旅团，要走的是一条远路。	介绍	
1286	1935	㉜	p.229	死魂灵			自然，这样的性格，是有一点招人反感的，就是读者，即使在自己的一生中，和这样的人打交道，引他到自己的家里来，和他消遣过许多愉快的时间，但一在什表戏曲里，或者一篇诗歌里遇见，却就疑忌的向他看。	消遣	
1287	1935	㉝	p.229	死魂灵			还有已经不只发现过一回的，是一个人系出高门，不但是剧烈的熟情牛长得很强壮，倒往往因为一种可怜的渺小的欲望，忘却了崇高的神圣的文书，向无聊的空虚里，去找伟大和尊荣了。	发现	
1288	1935	㉞	p.322	坏孩子和别的奇闻	难解的性格		我接济了我的亲属，我也旅行，也做慈善事业……但是，这将军的拥戴，在我觉得怎样的难堪和卑劣呵，虽然别一面，他在战场上曾经显过很大的勇敢，也只好任他去。	显	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1289	1935	⑦	p.335	坏孩子和别的 奇聞	波斯勛章	市长从衙门回家，用过中膳之后，他又想起来去了，而且这回是一直想到晚。	用		
1290	1935	⑦	p.336	坏孩子和别的 奇聞	波斯勛章	高贵的波斯人站起来了，又说了点什么敲木头似的話。古斤，是什么外国话也没有学过的，只好摇摇头，表示他听不懂。	学		
1291	1935	⑦	p.336	坏孩子和别的 奇聞	波斯勛章	古斤于是把日报上见过的所有外国字，都搬了出来。	见		
1292	1935	⑦	p.337	坏孩子和别的 奇聞	波斯勛章	“波斯人是有这样的风俗的：如果一个高贵的客人到您这来，您就应该亲自动手，为他宰一只阉过的羊。”	阉		
1293	1935	⑦	p.342	坏孩子和别的 奇聞	暴躁人	玛先加的妈妈，玛先加自己，以及所有五颜六色的年青姑娘们，便把我包围，并且说并无回家的权利，因为我昨天曾经对她们有过承诺，答应和她们一同吃中饭，吃了之后，就到树林里去找菌子的。	有		
1294	1935	⑦	p.345	坏孩子和别的 奇聞	暴躁人	“这都是胡说，”玛先加的妈妈说。“后来怎样，人是不能够知道的，您也没有上过天；您怎么想知道太阳和月亮出了什么事呢？空想罢了！”	上		
1295	1935	⑦	p.348	坏孩子和别的 奇聞	暴躁人	我说过了印度人和埃及人的结婚，于是讲到近代；也说明了叔本华的思想之一二。	说		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1296	1935	⑧	p.539	译文补编	恋歌	自从睡耶尔那思泰婆·贡拉尼舍奴结婚以来，将近一年了，他那年青的太太，白嫩得像一朵睡莲，他爱她，恰如他的爱他那些野生的，不明的东西一样。	结// 婚		
1297	1935	⑧	p.543	译文补编	恋歌	“事情怎么样，格力戈黎？你到过Valen Sencu了么？”	去		
1298	1935	⑧	p.543	译文补编	恋歌	“是的——我去过了。”	去		
1299	1935	⑧	p.543	译文补编	恋歌	又过了一会工夫，那可忽然的来了，你没有见过的哩！	见		
1300	1935	⑧	p.547	译文补编	恋歌	巴斯凯来奴，拉司塔舍，厄内斯古，波台奴，问过家眷的安否和事业的情形之后，就说，先请大家去吃一些点心。	问		
1301	1935	⑧	p.547	译文补编	恋歌	睡耶尔那思吃过点心之后，换了话来说，就是他们吃完四只炙火鸡，并且大杯的喝过酒之后，克拉尼舍奴说道：……	吃		
1302	1935	⑧	p.547	译文补编	恋歌	睡耶尔那思吃过点心之后，换了话来说，就是他们吃完四只炙火鸡，并且大杯的喝过酒之后，贡拉尼舍奴说道：……	喝		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1303	1935	⑧	p.551	译文补编	恋歌		睡耶尔那思泰委员起头。这几天之前，他曾在力漠尼支河边，自己的领域前面听过的声音，又在森林中发响了，他那钢铁一般发光的眼睛，也牢牢的对白的女人凝视着。	听		
1304	1935	⑧	p.552	译文补编	恋歌		——现在是他们也完结了，只还剩着烧过的树干子——那地方现在也还睡着济柔那尔的骨头。”	烧		
1305	1935	⑧	p.553	译文补编	恋歌		我睁大了眼睛，去看林间草地上的躺着烧过的湖榭树桩子的地方。	烧		
1306	1935	⑧	p.555	译文补编	村妇		他认识她，因为她曾在契洛贝克给他办过饭食。	办		
1307	1935	⑧	p.556	译文补编	村妇		村里的教士也给他祷告过，没有用。她最后的希望，只靠着圣母。	祷告		
1308	1935	⑧	p.557	译文补编	村妇		她自己决定，修道院的院长是一个慈爱的老头子，也是很好的保加利亚人，不如和他悄悄的商量，取了农民衣服和面包，做过祷告，就赶紧的回来，在还未天明之前，我到那个一贫者。还未天明之前，我到那个一贫者。	做		
1309	1935	⑧	p.559	译文补编	村妇		道人把法衣角放在孩子的头上，起劲的为他的痊愈念过祷告，用十字架的记号给他祝福，于是合上了日谈祷告书。	念		

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1310	1935	⑧	p.560	译文补编	村妇		……他即刻记得，这女人还已经看见过他们了……	看见		
1311	1935	⑧	p.562	译文补编	村妇		当她走近那曾经遇见过一贫者的地方的时候，只见有一个男人影了在树干之间隐现。	遇见		
1312	1936	⑦	p.7	死魂灵	序言		这就是说，他或者美化人生，加以装饰，使这变成童话，或者照着他的宗教和道德的概念，来想象这人生，他在开口于他的妙境和实境之间的破裂之下，有过可怕的经验，他觉察到，但做不到对于存立和确定，用一种健全的批判，来柔和那苦愤和捣蒜的心情。	有		
1313	1936	⑦	p.8	死魂灵	序言		从这两种风格的混合如喜和悲，哭和笑的交替的代谢，就清楚的显示着诗人的创作还没有取得确定的方向，然而其中也留着印象，知道艺术家的魂灵，那时已经渡过内面的战斗；	演		
1314	1936	⑦	p.9	死魂灵	序言		现在是他和这庸俗的，陈腐的，蹩蹩的真实，在艺术的原野上相冲撞了，于是当面就起了严重的问题，这是他在《肖象》里也已经提出过了；	提出		
1315	1936	⑦	p.12	死魂灵	序言		这病，裴论和夏杜勃良曾经历过，并且给修贝德由此在他那谣曲《游子》里，在这三十年代一切俄国青年男女所心爱的谣曲里，发见了非常神异的音乐的表现的。	经历		
1316	1936	⑦	p.14	死魂灵	序言		当他的诗整页的好像自己从笔端涌出的时候，他感到一种高尚的享乐和内心的满足，但一年之久，累月的等候着热望的灵感的时候，却也为他向来未曾经历过的。	经历		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1317	1936	㉑	p.15	死魂灵	序言	这篇对于人，应该是引他们到道德的苏生的领导者，恰如对于作者，当他起了精神的照明，作一个虔诚的祷告，忏悔过他本身的罪恶之后一样。	忏悔	
1318	1936	㉒	p.16	死魂灵	序言	果戈理在他的小说上，一定要谈起俄国，尤其在第一部长里，曾经说过许多微辞。	说	
1319	1936	㉓	p.21	死魂灵	序言	在作者的眼中，这篇是献给他的祖国的誓约，首先荡漾过一切可憎和污秽，然后指出神圣之爱来。	荡漾	
1320	1936	㉔	p.261	死魂灵	第二部残稿第一章	人应该从别一方面而去——那地方有许多散种的楸树，在欣欣然迎接渐渐临近的行人，远伸着宽阔的枝条，像一个朋友的臂膀，把人一直引到邸宅那里去，那屋顶，是我们已经从后面看见过了的，现在却完全显现了，	看见	
1321	1936	㉕	p.261	死魂灵	第二部残稿第一章	这福人是一个三十二岁的年节的汉子，而且还没有结过婚。	结//婚	
1322	1936	㉖	p.262	死魂灵	第二部残稿第一章	“你还和当差的打过架哩，你这沙泥，轻贱的，”格力戈黎叫喊道。	打//架	
1323	1936	㉗	p.265	死魂灵	第二部残稿第一章	他又熟悉一切官职和职务，好像亲身经历过似的。	经历	

## 資料⑦

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1324	1936	㉘	p.269	死魂灵	第二部残稿第一章	总而言之，在这番对活的两礼拜之后，他已在他年青时代曾经生活过的地方，使所有宾客非常惊叹的乡曲的附近了。	生活	
1325	1936	㉙	p.270	死魂灵	第二部残稿第一章	我学得多，受过严密的教育，通晓物情，有大见识，足够激励自己的下属，改良全体的田地，执行地主的许多义务，是举管理人、执法官和秩序监督人于一身的！	受	
1326	1936	㉚	p.270	死魂灵	第二部残稿第一章	我怎么能只去办那些单会弄出一大堆糊涂事的，离我怕有一千维尔斯他之远，而我也没有到过过的外省的土地上的空想的公事——来代我自己的田地的现实的公事呢？	到	
1327	1936	㉛	p.270	死魂灵	第二部残稿第一章	他只好暗暗的追问：“有这样爱！我给他们办了些什么呀？我还没有见过他们，还没有给他们出过力哩！”于是他就立誓，从今以后，要和他们分任一切工作和勤劳了。	见	
1328	1936	㉜	p.270	死魂灵	第二部残稿第一章	他只好暗暗的追问：“有这样爱！我给他们办了些什么呀？我还没有见过他们，还没有给他们出过力哩！”于是他就立誓，从今以后，要和他们分任一切工作和勤劳了。	出//力	
1329	1936	㉝	p.270	死魂灵	第二部残稿第一章	到底就弄成这模样，主人和农奴——这是说过一说的了：彼此余不了解，然而并不互相询问，学走一教的步调。	说	
1330	1936	㉞	p.274	死魂灵	第二部残稿第一章	她的名字叫乌理尼加，受过特别的教育。	受	



## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1331	1936	㊦	p.274	死魂灵	第一部残稿 第一章	倘使有谁见过她怎样忽然发怒，美丽的额上攀起严竣的皱纹，怎样懊恼的和她的父亲争论，那是一定要以为她是世界上最任性的创造物的。	见		
1332	1936	㊦	p.274	死魂灵	第一部残稿 第一章	这两位都曾经做过老女早的官中女官，但和彼得堡的大有势力的人物，也还有一点密切的关系的；	做		
1333	1936	㊦	p.276	死魂灵	第一部残稿 第一章	到这里我应该补叙一下，他在年青时候，是受过一件傻事情的连累的。	受		
1334	1936	㊦	p.276	死魂灵	第一部残稿 第一章	有一·对读过一大批时下小本子的哲学化的骠骑兵官，一位进了大学，却未毕业的美学家，和一个败露的赌客要设立一个慈善会，会长是一个秘密共济会员，也爱打牌的老骗子，然而口才极好的绅士。	读		
1335	1936	㊦	p.278	死魂灵	第一部残稿 第一章	这大厅，向来是充作前厅之用的，已经整年的没有人进去过。	进去		
1336	1936	㊦	p.280	死魂灵	第二部残稿 第一章	一个泼刺的男孩和一个漂亮的女孩，或者简直是两个男孩和两个女孩，当然，三个也可以，由此给大家知道知道，他的确生活过，存在过，至少是并不像一个幽灵或者影子似的在世上逛荡了一下——而且他对于祖国，因此也用不着惭愧了。	生活		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1337	1936	㊦	p.280	死魂灵	第二部残稿 第一章	一个泼刺的男孩和一个漂亮的女孩，或者简直是两个男孩和两个女孩，当然，三个也可以，由此给大家知道知道，他的确生活过，存在过，至少是并不像一个幽灵或者影子似的在世上逛荡了一下——而且他对于祖国，因此也用不着惭愧了。	存在		
1338	1936	㊦	p.280	死魂灵	第二部残稿 第一章	彼得尔希加想隐蔽格力戈黎，用自己的游历和世界知识使他肃然起敬，但格力戈黎却马上用了彼得尔希加没有到过的彼得堡制了胜。	到		
1339	1936	㊦	p.282	死魂灵	第二部残稿 第一章	况且对于一位这样的给国家出过力，可以尊敬的人物，为什么不宽恕他一下呢？”	非//力		
1340	1936	㊦	p.284	死魂灵	第二部残稿 第一章	但是，——这岂不奇怪，当第二天马车到门，么么科夫身穿新衣服，白背心，结着白领带，以军人似的熟练，一跳而上，驶了出去，拜访将军去了的时候——申退德尼科夫就起了一种好像从未体验过的感动。	体验		
1341	1936	㊦	p.286	死魂灵	第二部残稿 第一章	“我的办事的地方，是在国库局开头的，人人，后来就就过种种的职位；我在地方审判厅，在一个建筑委员会，在税务处，都办过公。	就		
1342	1936	㊦	p.287	死魂灵	第二部残稿 第一章	“请您原谅，我还没有会懂……那究竟是怎么高的呀？那是或一时代的历史，还是各人的传记呢？还有：写的是现存的所有的将军们，还是只取那参与过一八二一年的战事的呢？”	参与		
1343	1936	㊦	p.289	死魂灵	第二部残稿 第一章	他那曾经翻过肥厚的肩章的双肩，在抖动，好像现在也还带着肥厚的肩章的一样。	搁		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1344	1936	⑦	p.293	死魂灵	第二部残稿 第三章	“这样的一匹驴子！我早对你说过，你不要听凭彼得尔希加：彼得尔希加一定又喝得烂醉了！”	说		
1345	1936	⑦	p.294	死魂灵	第二部残稿 第三章	“您吃过中饭了吗？”那绅士向他们叫喊着，一面拿着捉到的鱼，走向岸上来。	吃		
1346	1936	⑦	p.296	死魂灵	第二部残稿 第三章	“你们是怎么弄的，你们这驴子！我对你们说过，驶到柯式凯略夫大佐那里去……这里却是使得彼得洛维支……”	说		
1347	1936	⑦	p.297	死魂灵	第二部残稿 第三章	“您已经吃过饭了吗？”“是的，多谢！”	吃		
1348	1936	⑦	p.298	死魂灵	第二部残稿 第三章	“您是来和我开玩笑的吗？如果您已经吃过，教我怎么才好呢？”客人微笑着说道：“我可以不使您为难，我其实什么也没有吃过，我不想吃。”	吃		
1349	1936	⑦	p.298	死魂灵	第二部残稿 第三章	“您是来和我开玩笑的吗？如果您已经吃过，教我怎么才好呢？”客人微笑着说道：“我可以不使您为难，我其实什么也没有吃过，我不想吃。”	吃		
1350	1936	⑦	p.298	死魂灵	第二部残稿 第三章	“您的圣谕，足够了！这么一说，好像您就没有忧愁过似的。”	忧愁		
1351	1936	⑦	p.298	死魂灵	第二部残稿 第三章	激情或苦痛，连近似懊恼或不安那样的东西，也从没有碰着他那年青的纯洁的腿，或在平静的表面上，露出一条皱纹来，但自然也不能使它消散。	碰着		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1352	1936	⑦	p.299	死魂灵	第一部残稿 第三章	“这不是好数目；二！所有的好物事都是二。”客人刚把一块吃完，他又已经叫起来了：“您曾见过一辆三轮的车子，或者一间三角的小屋子吗？”	见		
1353	1936	⑦	p.305	死魂灵	第一部残稿 第三章	乞乞科夫好奇的环顾了这岁收二十万卢布的奇特人物的住家，他以为可以由这早窥见主人的性格和特长，恰如从曾经住过，剩着痕迹的空壳，来推见牡蛎或蜗牛一样。	住		
1354	1936	⑦	p.306	死魂灵	第二部残稿 第三章	“我们商量过好多次了，康士坦丁·非陀洛维支。就是老人们也已经说过：‘您这里的农夫都有钱，这不是偶然的；您这里的牧师也很会体贴人，有好心肠。我们的却满不管，现在是在，我们连一个能给人好好的安葬的人也没有了。’”	商量		
1355	1936	⑦	p.306	死魂灵	第二部残稿 第三章	“我们商量过好多次了，康士坦丁·非陀洛维支。就是老人们也已经说过：‘您这里的农夫都有钱，这不是偶然的；您这里的牧师也很会体贴人，有好心肠。我们的却满不管，现在是在，我们连一个能给人好好的安葬的人也没有了。’”	说		
1356	1936	⑦	p.307	死魂灵	第二部残稿 第三章	“你知道，康士坦丁，我已经决定，要旅行一下，到几个外省去看看了。我要治一治我的无聊。”帕拉图诺夫说，“保甫尔·伊凡诺维支已经对我说过，和他一同走。”	说		
1357	1936	⑦	p.400	药用植物	凡例	5.读过本书后，倘欲调查其详细，则有下列的参考书：——	读		

## 資料⑤

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1358	1938	⑦	p.235	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 第一部第二版序文 一八四六年	在你面前的书，大约你也已经看过那第一版，是描写着从俄国中间捉了出来的人的。	看		
1359	1938	⑦	p.236	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 第一部第二版序文 一八四六年	每一个人，只要生在世间，见过世界，遇着过许多人，即一定会看出许多别人之所失察，懂得许多别人之所不知。	见		
1360	1938	⑦	p.236	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 第一部第二版序文 一八四六年	每一个人，只要生在世间，见过世界，遇着过许多人，即一定会看出许多别人之所失察，懂得许多别人之所不知。	遇着		
1361	1938	⑦	p.236	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 第一部第二版序文 一八四六年	只要你细心的看过一遍，对于我的书的什么地方没有话要说，这是决不至于的。	看		
1362	1938	⑦	p.238	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 第二部第一部的省察	通体漂亮的太太有一种偏于物欲的脾气，而且差说地有时怎样地仗着自己的理性之助，来克服这脾气，以及她怎样地懂得和男人们保持着若于的距离。但也点的出过这事情，而且用着很单纯的方法。	出		

395

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1363	1938	⑦	p.241	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 第三章结束后的该定稿	“您在说什么呀：怎样的农奴？”梭巴开维文说。“我们立过买卖契约的：是些怎样的人，都写在那上面，一个是木匠……”	立		
1364	1938	⑦	p.241	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 第三章结束后的该定稿	这问题使梭串狼狈之至。他是还没有白问过，他是老婆子呢，还是什么别的东西的。	白问		
1365	1938	⑦	p.242	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 第三章结束后的该定稿	……大概值什么价钱，我知道，脂油我也卖过的，还有前……”	卖		
1366	1938	⑦	p.243	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 第三章结束后的该定稿	“请您原谅，您在说什么呀？有谁听到过或死魂灵的吗？”	听到		
1367	1938	⑦	p.244	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 第三章结束后的该定稿	“哪，您从梭巴开维文打听了些什么呀？” 梭串低着头，回答道：“我一生中还没有吃过这样的亏……”	吃		
1368	1938	⑦	p.244	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 第三章结束后的该定稿	“他对我说，我是一个不中用的人，不配做我的职务；而且我还没有检举过自己的同僚。别的检事们每礼拜总写出检举文来，我可是每一件公事上写一个‘阅’字，自然是在我有报告同僚的义务的时候。——我也没有把一件事情故意压起来。”	检举		

396

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1369	1938	⑦	p.245	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 三 第九章 结束的定稿	“他大概是一位很严厉的人物，”邮政局长说，“一位性格刚强的很是很明亮的人。他先前是督办过什么一个公家的建筑委员会的，您懂了吗？……”	督办		
1370	1938	⑦	p.245	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 三 第九章 结束的定稿	“哦，是呀，他是一位学回家，亲爱的先生！一位很博大的人物！”邮政局长接着说。“曾经有过一回什么……”	有		
1371	1938	⑦	p.246	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 三 第九章 结束的定稿	“我更有眼，”检举说，“这样纠纷错综的事件，是白从我任事以来，还没有出现过。我实在再没有办过事情的胆量了。”	出现		
1372	1938	⑦	p.246	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 三 第九章 结束的定稿	“然而！虽然如此，那人却有着怎么一种世界人物的洗练呵！”邮政局长说，“一面先斟一杯淡黑色的啤酒，再加上两滴蔷薇色的去，使两样混合起来。”“他一定到过巴黎。我极相信，他是一个外交官之流。”	到		
1373	1938	⑦	p.246	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 三 第九章 结束的定稿	他曾在税关上办公，还进过一个公家的建筑委员会！	讲		
1374	1938	⑦	p.248	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 四之A 戈贝金大尉的故事（第一次的草稿）	您瞧罢，贵重的先生，于是我的戈贝金决定，上彼得堡去，到该管机关那里，看他们可能给他一点小小的不补助；他呢，说起来，是所谓牺牲了他的一生，而且流过血的……他坐着一辆货车或是公家的轿车，上首都去了，可敬的先生，他吃尽辛苦，这才到了彼得堡。	流		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1375	1938	⑦	p.251	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 四之A 戈贝金大尉的故事（第一次的草稿）	而且实实在在，像一个什么所谓戈贝金，敢对大臣来这么说，到现在为止，在世界史的记录上确也还不曾有过前例的。	有		
1376	1938	⑦	p.252	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 四之A 戈贝金大尉的故事（第一次的草稿）	然而那钱呢，可敬的先生，那当然是他收取了，全像自己的一样，还给乡下人一个收条，使他们可以在主人面前脱掉干系，表明他们的确付过钱，还清了租税，征收的却是这个人，就是戈贝金大尉，……	付		
1377	1938	⑦	p.255	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 四之B 戈贝金大尉的故事（被审查官所抹掉的原稿）	而且什么都用磁漆来漆过的，一句话，令人头昏眼花。	漆		
1378	1938	⑦	p.256	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 四之B 戈贝金大尉的故事（被审查官所抹掉的原稿）	您自己想得到的，我的戈贝金可真的没有主意。他已经打算过，以为明天就会付给他钱的。	打算		
1379	1938	⑦	p.257	死魂灵	附录 德国 沃多·培克 编 四之B 戈贝金大尉的故事（被审查官所抹掉的原稿）	国务大员照平常的出来会客了；您有什么见解呢？那么，您呢？‘哦！他一看见戈贝金，就叫起来，‘我可已经告诉过您了，您得等着，等到您的请求得到决定。’	告诉		

## 資料⑥

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1380	1938	㉗	p.406	山民牧唱	序文	他是一个看过许多先前的故事的风流人，所以就想，在女儿的命运名目里，愿意自以为可以中选的青年们，请一回客，从中挑一个女婿罢。	看		
1381	1938	㉘	p.406	山民牧唱	序文	他讲了在亚非利加的冒险，川毛瑟枪的枪刺刺杀过的摩罗人的数日，救了濒死的性命的女人们，半夜早在摩洛哥平原上所遇着的危险。	杀		
1382	1938	㉙	p.409	山民牧唱	放浪者伊利沙辟台	像仙那样，始终撞来撞去，走遍了全世界的人，这村子的镇定和幽静，自然以为是无出其右的，但未曾跨出过那狭窄的土地的边，竟不想去看戏，逛庙，看热闹的么？	跨出		
1383	1938	㉚	p.410	山民牧唱	放浪者伊利沙辟台	诸君由摩托车或马车，经过北方诸州的时候，可曾见过那无缘无故，令人起一种羡慕之情的独立人家没有？	见		
1384	1938	㉛	p.412	山民牧唱	放浪者伊利沙辟台	那样的幸福他未曾有，但同时也未曾有过那样的不幸。	有		
1385	1938	㉜	p.412	山民牧唱	放浪者伊利沙辟台	那样的幸福他未曾有，但同时也未曾有过那样的不幸。	有		
1386	1938	㉝	p.413	山民牧唱	放浪者伊利沙辟台	“您是，那个到过什么亚美利加的那一位么？”老婆婆和伊利沙辟台几乎僵住了鼻子，问。	到		
1387	1938	㉞	p.414	山民牧唱	放浪者伊利沙辟台	“是的，我就是去过那边的。”	去		
1388	1938	㉟	p.414	山民牧唱	放浪者伊利沙辟台	回家吃过晚饭故拉德之后，药剂师的家族和伊利沙辟台便向着家路，上了归途。	吃		

## 資料⑦

## 第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1389	1938	㊱	p.424	山民牧唱	山民牧唱	犹他在敷设北满铁路的那时候，两手拿着粗笨的石弩，在里阿哈那里做路劫的也有，然而说他一定是越狱犯，以及说他做过海盜船上的水手的却也有。	做		
1390	1938	㊲	p.426	山民牧唱	山民牧唱	在美洲的巴提的冒险谈，真也很有味。他做过赌客，商人，牲口贩了，兵，以及别的种种。	做		
1391	1938	㊳	p.435	山民牧唱	山民牧唱	坐了火车，旅行北方诸州的时候，诸君曾在黑沉沉的小村的尽头，见过站在冷街角的灰黑色的粗陋的屋子的票？	见		
1392	1938	㊴	p.437	山民牧唱	山民牧唱	火旁边，是几乎在这小客栈里吃白食的，懒惰汉，诗人而兼教堂的歌手，也是村里的趣人和打鱈鱼的猎户在谈天。那人自己声明过是打鱈鱼的猎户，却不是渔人。	声明		
1393	1938	㊵	p.437	山民牧唱	山民牧唱	有一个礼拜天的傍晚，诸君在充泰勃利亚海的什么地方方的冷静的小港口，没有见过黑色双桅船的舱面，或是旧式游船上，有三四个戴着无边帽的人们，一动不动的倾听着一个练习水手用了旧的手风琴拉出来的曲子么？	见		
1394	1938	㊶	p.440	山民牧唱	山民牧唱	“政府竟会把这样的资格给马枪手们的，真不知道是什么理由。”发过这政治上的叫喊之后，莱哥便走出邮票批发所，到街上向上面走去。	发		
1395	1938	㊷	p.442	山民牧唱	山民牧唱	“但是，吸血蝙蝠不是小的吗？”一个到过美洲的人突然说。	到		
1396	1938	㊸	p.442	山民牧唱	山民牧唱	“我可是从没有见过他们展开翅来，”莱哥回答他说。	见		

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1397	1938	㊦	p.444	山民牧唱	会友	他在曾去当兵的法兰西的军队里，做过山地居民编成的一个大队里的喇叭长。	做	
1398	1938	㊦	p.449	山民牧唱	会友	等到大家静了下来的时候，马本已经在礁子岛前面走过。路上是电灯尚明，河面上是罩着朦胧的烟雾。	走	
1399	1938	㊦	p.455	山民牧唱	少年别	拉蒙我虽然没有烟，却有钱。 德里妮即使有，恐怕付过咖啡帐也就精光了。 拉蒙不不，还有的。	付	
1400	1938	㊦	p.456	山民牧唱	少年别	德里妮不行的，不是么？你有钱的时候，不也请过我么？	请	
1401	1938	㊦	p.457	山民牧唱	少年别	牙齿格格响着，那时他说的话，我也还记得的。“到过咖啡馆去了，谁也不在。如果不耐烦，给在这里停一下罢。	到	
1402	1938	㊦	p.457	山民牧唱	少年别	你还邀他吃饭。又因为他说久没有睡过眠床了，你就请他在我们的床上睡。你自己呢，就睡在躺椅上。	睡	
1403	1938	㊦	p.457	山民牧唱	少年别	拉蒙不知道怎么样……我是没有看过他的东西的。	看	
1404	1938	㊦	p.458	山民牧唱	少年别	这种模样，是决不能说是时髦人物的趣味的，但有一回，我和他在凯新台理那大路上走的时候，他却指着坐在阔马车里跑过的女人们，说道：“这些女流之差，以不可解的轻贱的眼睛在看着我们哩。”	跑	
1405	1938	㊦	p.458	山民牧唱	少年别	拉蒙怎么会不走！那房子是拆掉了。我知道得清清楚楚。	走	

## 資料⑥

第2章例文：魯迅訳文における“過”の使用例(1903-1938)

例文出典は、《魯迅訳文全集》参照。

日本語対訳出典は、「参考文獻目録」参照。

1406	1938	㊦	p.458	山民牧唱	少年别	拉蒙睡，死了。在这里聚会过的一些人几乎都死掉了。成功的一个也没有。替代我们的是富于幻想的另外的青年，也像我们先前一样，梦着，讲着恋爱，艺术，无政府。什么都像先前一样，只有我们却完全改变了。	聚会	
1407	1938	㊦	p.460	山民牧唱	少年别	拉蒙唉，真的，您的话一点也不错。(仍复坐下。堂信走过来收拾了川过的杯盘，川桌布擦着大理石桌了。)	用	
1408	1938	㊦	p.463	山民牧唱	跋司河族的人们	就如说过那样，你大哭着，生下来了。	说	
1409	1938	㊦	p.465	山民牧唱	跋司河族的人们	他是相信着不久便可以复职的。即使万不能，也有店家说过，果百丕绥泰也可以，就来做帐房。	说	

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

番号	巻	創作年	収録	タイトル
1	8	1898	集外集補編	夏剑生杂记
2	8	1898	集外集補編	梅花杂志
3	8	1900	集外集補編	别诸弟三首（庚子二月）
4	8	1900	集外集補編	莲蓬人
5	8	1901	集外集補編	庚子送灶即事
6	8	1901	集外集補編	祭书神文
7	8	1901	集外集補編	别诸弟三首（辛丑二月）
8	8	1901	集外集補編	惜花四律
9	8	1902	集外集補編	题照赠仲弟
10	7	1903	集外集拾遺	字题小像
11	8	1903	集外集補編	中国地质略论
12	1	1907	坟	人之历史
13	1	1907	坟	科学史教篇
14	1	1907	坟	文化偏至论
15	1	1907	坟	摩罗诗力说
16	8	1908	集外集補編	破恶声论
17	8	1909	集外集補編	《幼草》译本序（残稿）
18	7	1912	集外集	哭范爱农
19	7	1912	集外集拾遺	怀旧

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

20	7	1912	集外集拾遺	袁范村三章
21	8	1912	集外集補編	《越怪》出世辞
22	8	1912	集外集補編	辛亥游路
23	8	1912	集外集補編	周豫才告白
24	8	1913	集外集補編	假播布美术意见书
25	8	1914	集外集補編	生理实验术要略
26	8	1915	集外集補編	《大云寺弥勒重阁碑》校记
27	8	1916	集外集補編	关于废止《教育纲要》的簽注
28	8	1917	集外集補編	会稽禹庙遗石考
29	8	1917	集外集補編	《仁版墓志》考
30	8	1917	集外集補編	《徐法智墓志》考
31	9	1917	集外集補編	《郑季言残碑》考
32	1	1918	坟	我之节烈观
33	1	1918	热风	随感录二十五
34	1	1918	热风	三十三
35	1	1918	热风	三十五至三十八
36	1	1918	呐喊	狂人口记
37	7	1918	集外集	梦
38	7	1918	集外集	爱之神
39	7	1918	集外集	桃花

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅者作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

40	7	1918	集外集	他们的花园
41	7	1918	集外集	人与时
42	7	1918	集外集	渡河与引路
43	8	1918	集外集补编	《吕超墓志铭》跋
44	8	1918	集外集补编	吕超墓出土吴群郑蔓镜考
45	8	1918	集外集补编	《墨经正义》重阅后记
46	8	1918	集外集补编	《鲍铭远集》校记
47	8	1918	集外集补编	随感录
48	1	1919	坟	我们现在怎么做父亲
49	1	1919	热风	随感三十九至四十二
50	1	1919	热风	四十六至四十九
51	1	1919	热风	五十三至五十四
52	1	1919	热风	五十六“来了”
53	1	1919	热风	五十七 现在的屠杀者
54	1	1919	热风	五十八 人心很古
55	1	1919	热风	五十九“圣武”
56	1	1919	热风	六十一 不满
57	1	1919	热风	六十二 恨恨而死
58	1	1919	热风	六十三“与幼者”
59	1	1919	热风	六十四 有无相通

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅者作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

60	1	1919	热风	六十五 暴君的臣民
61	1	1919	热风	六十六 生命的路
62	1	1919	呐喊	孔乙己
63	1	1919	呐喊	药
64	7	1919	集外集拾遗	对于《新潮》一部分的意见
65	8	1919	集外集补编	拳术与拳匪
66	8	1919	集外集补编	他
67	8	1919	集外集补编	寸铁
68	8	1919	集外集补编	白言白语
69	8	1919	集外集补编	什么话？
70	1	1920	呐喊	明天
71	1	1920	呐喊	一件小事
72	1	1920	呐喊	头发的故事
73	1	1920	呐喊	风波
74	1	1921	热风	智识即罪恶
75	1	1921	热风	事实胜于雄辩
76	1	1921	呐喊	故乡
77	1	1921	呐喊	阿Q正传
78	8	1921	集外集补编	“生牌死不降”
79	8	1921	集外集补编	名字



資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

80	8	1921	集外集补编	无题
81	8	1921	集外集补编	《坏孩子》附记
82	1	1922	热风	估《学衡》
83	1	1922	热风	为“俄国歌剧团”
84	1	1922	热风	无题
85	1	1922	热风	“以震其根深”
86	1	1922	热风	所谓“国学”
87	1	1922	热风	儿歌的“反动”
88	1	1922	热风	“·是之学说”
89	1	1922	热风	不懂的音译
90	1	1922	热风	对于批评家的希望
91	1	1922	热风	反对“含泪”的批评家
92	1	1922	热风	即小见大
93	1	1922	呐喊	白序
94	1	1922	呐喊	端午节
95	1	1922	呐喊	白光
96	1	1922	呐喊	兔和猫
97	1	1922	呐喊	鸭的喜剧
98	1	1922	呐喊	社戏
99	2	1922	故事新编	补天

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

100	8	1922	集外集补编	《遼初堂书目》抄校说明
101	8	1922	集外集补编	破《唐人说荟》
102	1	1923	坟	宋民间之所谓小说及其后来
103	8	1923	集外集补编	关于《小说世界》
104	8	1923	集外集补编	看了魏建功君的《不敢盲从》以后的几句声明
105	1	1924	坟	娜拉走后怎样
106	1	1924	坟	未有天才之前
107	1	1924	坟	论雷峰塔的倒掉
108	1	1924	坟	说胡须
109	1	1924	坟	论照相之类
110	1	1924	热风	絮勿“纠正”
111	2	1924	彷徨	祝福
112	2	1924	彷徨	在酒楼上
113	2	1924	彷徨	幸福的家庭
114	2	1924	彷徨	肥皂
115	2	1924	野草	秋夜
116	2	1924	野草	影的告别
117	2	1924	野草	求乞者
118	2	1924	野草	我的失恋
119	2	1924	野草	复仇

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

120	2	1924	野草	复仇（其二）
121	7	1924	集外集	“说不出”
122	7	1924	集外集	记“杨树达”肉的袭来
123	7	1924	集外集	关于杨旭袭来事件的辩证
124	7	1924	集外集	烽火五则
125	7	1924	集外集	“音乐”？
126	7	1924	集外集	我来说“持中”的真相
127	7	1924	集外集拾遗	又是“古已有之”
128	7	1924	集外集拾遗	通讯（致郑孝观）
129	8	1924	集外集补编	答广东新会吕蓬尊君
130	8	1924	集外集补编	对于“笑话”的笑话
131	8	1924	集外集补编	奇怪的日历
132	8	1924	集外集补编	答二丁系答一丁之景
133	8	1924	集外集补编	文学救国法
134	1	1925	坟	再论雷峰塔的倒掉
135	1	1925	坟	看镜有感
136	1	1925	坟	春末闲谈
137	1	1925	坟	灯下漫笔
138	1	1925	坟	杂忆
139	1	1925	坟	论“他妈的！”

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

140	1	1925	坟	论睁了眼看
141	1	1925	坟	从胡须说到牙齿
142	1	1925	坟	坚壁清野主义
143	1	1925	坟	寡妇主义
144	1	1925	坟	论“费厄泼赖”应该缓行
145	1	1925	热风	题记
146	2	1925	彷徨	长明灯
147	2	1925	彷徨	小仇
148	2	1925	彷徨	高老夫子
149	2	1925	彷徨	孤独者
150	2	1925	彷徨	彷徨
151	2	1925	彷徨	弟兄
152	2	1925	彷徨	离婚
153	2	1925	野草	希望
154	2	1925	野草	雪
155	2	1925	野草	风筝
156	2	1925	野草	好的故事
157	2	1925	野草	过客
158	2	1925	野草	死火
159	2	1925	野草	狗的驳诘

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

160	2	1925	野草	失掉的好地狱
161	2	1925	野草	墓碣文
162	2	1925	野草	颓败线的颤动
163	2	1925	野草	立论
164	2	1925	野草	死后
165	2	1925	野草	这样的战士
166	2	1925	野草	聪明人和傻子和奴才
167	2	1925	野草	腊叶
168	3	1925	华盖集	题记
169	3	1925	华盖集	咬文嚼字（一至二）
170	3	1925	华盖集	青年必读书
171	3	1925	华盖集	忽然想到（一至四）
172	3	1925	华盖集	通讯
173	3	1925	华盖集	论辩的魂灵
174	3	1925	华盖集	牺牲谟
175	3	1925	华盖集	战士和苍蝇
176	3	1925	华盖集	夏三虫
177	3	1925	华盖集	忽然想到（五至六）
178	3	1925	华盖集	杂感
179	3	1925	华盖集	北京通信

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

180	3	1925	华盖集	导师
181	3	1925	华盖集	长城
182	3	1925	华盖集	忽然想到（七至九）
183	3	1925	华盖集	“碰壁”之后
184	3	1925	华盖集	并非闲话
185	3	1925	华盖集	我的“籍”和“系”
186	3	1925	华盖集	咬文嚼字（三）
187	3	1925	华盖集	忽然想到（十至十一）
188	3	1925	华盖集	补白
189	3	1925	华盖集	答KS君
190	3	1925	华盖集	“碰壁”之余
191	3	1925	华盖集	并非闲话（二）
192	3	1925	华盖集	十四年的“谈艺”
193	3	1925	华盖集	评心雕龙
194	3	1925	华盖集	这个与那个
195	3	1925	华盖集	并非闲话（三）
196	3	1925	华盖集	我观北大
197	3	1925	华盖集	碎话
198	3	1925	华盖集	“公理”的把戏
199	3	1925	华盖集	这回是“多数”的把戏

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

200	7	1925	集外集	咬嚼之余
201	7	1925	集外集	咬嚼未始“乏味”
202	7	1925	集外集	杂语
203	7	1925	集外集	编完写起
204	7	1925	集外集	俄文译本《阿Q正传》续集著者白序传略
205	7	1925	集外集	田园思想（通讯）
206	7	1925	集外集	流言和谣言
207	7	1925	集外集	通信
208	7	1925	集外集拾遗	诗歌之敌
209	7	1925	集外集拾遗	关于《苦闷的象征》
210	7	1925	集外集拾遗	聊答“……”
211	7	1925	集外集拾遗	报《奇哉所谓……》
212	7	1925	集外集拾遗	《陶元庆氏西洋绘画展览会目录》序
213	7	1925	集外集拾遗	这是这么一个意思
214	7	1925	集外集拾遗	《苏俄的文艺论战》前记
215	7	1925	集外集拾遗	通讯（复高敏）
216	7	1925	集外集拾遗	通讯（复吕蓬简）
217	7	1925	集外集拾遗	通讯（致向培良）
218	7	1925	集外集拾遗	通讯（致孙伏园）
219	7	1925	集外集拾遗	一个“罪犯”的自述

413

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

220	7	1925	集外集拾遗	启事
221	7	1925	集外集拾遗	我才知道
222	7	1925	集外集拾遗	女校长的男女的梦
223	8	1925	集外集补编	通讯（复孙伏园）
224	8	1925	集外集补编	为北京女师大学生拟呈教育部文二件
225	8	1925	集外集补编	《中国小说史略》再版附识
226	8	1925	集外集补编	《苦闷的象征》广告
227	8	1925	集外集补编	《未名丛刊》是什么，要怎样？
228	8	1925	集外集补编	白事
229	8	1925	集外集补编	鲁迅启事
230	8	1925	集外集补编	《莽原》出版预告
231	8	1925	集外集补编	对于北京女子师范大学风潮宣言
232	8	1925	集外集补编	编者附白
233	8	1925	集外集补编	《敏捷的译者》附记
234	8	1925	集外集补编	正误
235	1	1926	坟	题记
236	1	1926	坟	写在《坟》后面
237	2	1926	野草	淡淡的血痕中
238	2	1926	野草	一瞥
239	2	1926	朝花夕拾	狗·猫·鼠

414

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

240	2	1926	朝花夕拾	阿长与《山海经》
241	2	1926	朝花夕拾	《二十四孝图》
242	2	1926	朝花夕拾	五猖会
243	2	1926	朝花夕拾	无常
244	2	1926	朝花夕拾	从百草园到三味书屋
245	2	1926	朝花夕拾	父亲的病
246	2	1926	朝花夕拾	琐记
247	2	1926	朝花夕拾	藤野先生
248	2	1926	朝花夕拾	范爱农
249	2	1926	故事新编	奔月
250	2	1926	故事新编	铸剑
251	3	1926	华盖集	后记
252	3	1926	华盖集续编	小引
253	3	1926	华盖集续编	茶论管闲事·做学问·灰色等
254	3	1926	华盖集续编	有趣的消息
255	3	1926	华盖集续编	学界的三魂
256	3	1926	华盖集续编	古书与白话
257	3	1926	华盖集续编	一点比喻
258	3	1926	华盖集续编	不是信
259	3	1926	华盖集续编	我还不能“常住”

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

260	3	1926	华盖集续编	送灶日漫笔
261	3	1926	华盖集续编	谈皇帝
262	3	1926	华盖集续编	无花的蔷薇
263	3	1926	华盖集续编	无花的蔷薇之二
264	3	1926	华盖集续编	“死地”
265	3	1926	华盖集续编	可惨与可笑
266	3	1926	华盖集续编	纪念刘和珍君
267	3	1926	华盖集续编	空谈
268	3	1926	华盖集续编	如此“讨赤”
269	3	1926	华盖集续编	无花的蔷薇之三
270	3	1926	华盖集续编	新的蔷薇
271	3	1926	华盖集续编	再来一次
272	3	1926	华盖集续编	为半农题记《何典》后，作
273	3	1926	华盖集续编	马上日记
274	3	1926	华盖集续编	马上日记之二
275	3	1926	华盖集续编	记“发薪”
276	3	1926	华盖集续编	记谈话
277	3	1926	华盖集续编	上海通信
278	3	1926	华盖集续编（华盖集续编的续篇）	厦门通信
279	3	1926	华盖集续编（华盖集续编的续篇）	厦门通信（二）

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅者作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

280	3	1926	华盖集续编（华盖集续编的续篇）	《阿Q正传》的成因
281	3	1926	华盖集续编（华盖集续编的续篇）	所谓“思想界先驱者”鲁迅启事
282	3	1926	华盖集续编（华盖集续编的续篇）	厦门通信（三）
283	3	1926	而已集	附录：大衍发微
284	7	1926	集外集	《痴华鬘》题记
285	7	1926	集外集	《穷人》小引
286	7	1926	集外集	通信
287	7	1926	集外集拾遗	中山先生逝世后一周年
288	7	1926	集外集拾遗	《何典》题记
289	7	1926	集外集拾遗	《十二个》后记
290	7	1926	集外集拾遗	《争自由的波浪》小引
291	7	1926	集外集拾遗	《未名丛刊》与《乌合丛刊》广告
292	2	1927	野草	题辞
293	2	1927	朝花夕拾	小引
294	2	1927	朝花夕拾	后记
295	3	1927	华盖集续编（华盖集续编的续篇）	关于《三藏取经记》等
296	3	1927	华盖集续编（华盖集续编的续篇）	海上通信
297	3	1927	而已集	黄花岗的杂感
298	3	1927	而已集	略论中国人的脸
299	3	1927	而已集	革命时代的文学

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅者作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

300	3	1927	而已集	写在《劳动问题》之前
301	3	1927	而已集	略谈香港
302	3	1927	而已集	读书杂谈
303	3	1927	而已集	通信
304	3	1927	而已集	答有恒先生
305	3	1927	而已集	辞“大义”
306	3	1927	而已集	反“漫谈”
307	3	1927	而已集	忧“天乳”
308	3	1927	而已集	革“首领”
309	3	1927	而已集	谈“激烈”
310	3	1927	而已集	扣丝杂感
311	3	1927	而已集	“公理”之所在
312	3	1927	而已集	可恶罪
313	3	1927	而已集	“意表之外”
314	3	1927	而已集	新时代的放债法
315	3	1927	而已集	魏普风度及文章与药及酒之关系
316	3	1927	而已集	小杂感
317	3	1927	而已集	再谈香港
318	3	1927	而已集	革命文学
319	3	1927	而已集	《尖影》题辞

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

320	3	1927	而已集	当桃元庆君的绘画展览时
321	3	1927	而已集	卢梭和胃口
322	3	1927	而已集	文学和出汗
323	3	1927	而已集	文艺和革命
324	3	1927	而已集	谈所谓“大内档案”
325	3	1927	而已集	拟预言
326	4	1927	三闲集	无声的中国
327	4	1927	三闲集	怎么写（夜记之一）
328	4	1927	三闲集	在钟楼上（夜记之二）
329	4	1927	三闲集	群贩副刊教授令“候市”（并来信）
330	4	1927	三闲集	匪笔三篇
331	4	1927	三闲集	某笔两篇
332	4	1927	三闲集	述香港恭祝圣诞
333	4	1927	三闲集	出与贺
334	7	1927	集外集	文艺与政治的歧途
335	7	1927	集外集拾遗	老调子已经唱完
336	7	1927	集外集拾遗	《游仙窟》序言
337	8	1927	集外集补编	《走到出版界》的“战略”
338	8	1927	集外集补编	《绛洞花主》小引
339	8	1927	集外集补编	新的世故

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

340	8	1927	集外集补编	中山大学开学致语
341	8	1927	集外集补编	庆祝沪宁克复的那一边
342	8	1927	集外集补编	关于小说目录两件
343	8	1927	集外集补编	书苑折枝
344	8	1927	集外集补编	书苑折枝（二）
345	8	1927	集外集补编	书苑折枝（三）
346	8	1927	集外集补编	关于知识阶级
347	8	1927	集外集补编	补救世道文件四种
348	8	1927	集外集补编	《丙和甲》按语
349	3	1928	而已集	题辞
350	4	1928	三闲集	“醉眼”中的朦胧
351	4	1928	三闲集	看司徒乔君的话
352	4	1928	三闲集	在上海的鲁迅启事
353	4	1928	三闲集	文艺与革命（并冬芬来信）
354	4	1928	三闲集	扁
355	4	1928	三闲集	路
356	4	1928	三闲集	头
357	4	1928	三闲集	通信（并Y来信）
358	4	1928	三闲集	太平歌诀
359	4	1928	三闲集	替共大观

資料⑦  
第二章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

360	4	1928	三閑集	我的态度气量和年纪
361	4	1928	三閑集	革命咖啡店
362	4	1928	三閑集	文坛的学敌（开徐勺来信）
363	4	1928	三閑集	文学的阶级性（丙旭良来信）
364	7	1928	集外集拾遗	《奔流》凡例五则
365	8	1928	集外集补编	《晨报剪注》
366	8	1928	集外集补编	《“行路难”》按语
367	8	1928	集外集补编	《禁止标点符号》按语
368	8	1928	集外集补编	季廉来信按语
369	8	1928	集外集补编	《示众》编者注
370	8	1928	集外集补编	通信（复张孟问）
371	8	1928	集外集补编	《这回是第三次》按语
372	8	1928	集外集补编	复晓真、康福群
373	8	1928	集外集补编	《剪报一斑》拾遗
374	8	1928	集外集补编	《我也来谈谈复旦大学》文后附白
375	8	1928	集外集补编	通信（复章达生）
376	8	1928	集外集补编	关于“粗人”
377	8	1928	集外集补编	《东京通信》按语
378	8	1928	集外集补编	敬贺新禧
379	8	1928	集外集补编	本刊小信

資料⑧  
第二章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

380	8	1928	集外集补编	关于《近代美术史潮论》插图
381	8	1928	集外集补编	编者附白
382	4	1929	三閑集	“革命军马前卒”和“落伍者”
383	4	1929	三閑集	《近代世界短篇小說集》小引
384	4	1929	三閑集	现今的新文学的概观
385	4	1929	三閑集	“皇汉医学”
386	4	1929	三閑集	《吾国征俄战史之一页》
387	4	1929	三閑集	叶永蓁作《小小十年》小引
388	4	1929	三閑集	柔石作《二月》小引
389	4	1929	三閑集	《小彼得》译本序
390	4	1929	三閑集	流氓的变迁
391	4	1929	三閑集	新月社批评家的任务
392	4	1929	三閑集	书籍和财色
393	4	1929	三閑集	我和《语丝》的始终
394	4	1929	三閑集	鲁迅译著书目
395	7	1929	集外集	关于《关于红笑》
396	7	1929	集外集	通讯
397	7	1929	集外集（附录）	《奔流》编校后记（一——十二）
398	7	1929	集外集拾遗	《近代木刻选集》（I）小引
399	7	1929	集外集拾遗	《近代木刻选集》（I）附记



資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

400	7	1929	集外集拾遺	《踏谷虹儿画选》小引
401	7	1929	集外集拾遺	哈该生的几句话
402	7	1929	集外集拾遺	《近代木刻选集》（2）小引
403	7	1929	集外集拾遺	《近代木刻选集》（2）附记
404	7	1929	集外集拾遺	《比亚兹莱画选》小引
405	7	1929	集外集拾遺	《艺苑朝华》广告
406	8	1929	集外集补编	致《近代美术史论》的读者诸君
407	8	1929	集外集补编	关于《了见南了》
408	8	1929	集外集补编	谨启
409	4	1930	二心集	“硬译”与“文学的阶级性”
410	4	1930	二心集	习惯与改革
411	4	1930	二心集	非革命的急进革命论者
412	4	1930	二心集	张资平氏的“小说学”
413	4	1930	二心集	对于左翼作家联盟的意见
414	4	1930	二心集	我们要批评家
415	4	1930	二心集	“好政府主义”
416	4	1930	二心集	“枣家的”“资本家的乏走狗”
417	4	1930	二心集	《进化和退化》小引
418	4	1930	二心集	《艺术论》译本序
419	4	1930	二心集	作古文和做好人的秘诀（夜记之五，不完。）

423

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

420	7	1930	集外集拾遺	《新俄画选》小引
421	7	1930	集外集拾遺	文艺的大众化
422	7	1930	集外集拾遺	《浮士德与城》后记
423	7	1930	集外集拾遺	《静静的顿河》后记
424	7	1930	集外集拾遺	《梅菲尔德木刻上敏士之图》序言
425	8	1930	集外集补编	柳无忌来信接语
426	8	1930	集外集补编	《文艺研究》
427	8	1930	集外集补编	鲁迅自传
428	8	1930	集外集补编	题赠冯惠熹
429	8	1930	集外集补编	《铁甲列车Nr. 14-69》译本后记
430	8	1930	集外集补编	开给许世瑛的书单
431	4	1931	二心集	关于《唐三藏取经诗话》的版本
432	4	1931	二心集	柔石小传
433	4	1931	二心集	中国无产阶级革命文学和前驱的血
434	4	1931	二心集	黑暗中国的文艺界的现状
435	4	1931	二心集	上海文艺之一瞥
436	4	1931	二心集	·八艺社习作展览会小引
437	4	1931	二心集	答文艺新闻社问
438	4	1931	二心集	“民族主义文学”的任务和运命
439	4	1931	二心集	沈泽的泛起

424

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅者作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

440	4	1931	二心集	以脚报国
441	4	1931	二心集	唐朝的钉梢
442	4	1931	二心集	《夏娃日记》小引
443	4	1931	二心集	新的“女将”
444	4	1931	二心集	宣传与做戏
445	4	1931	二心集	知难行难
446	4	1931	二心集	几条“顺”的翻译
447	4	1931	二心集	风马牛
448	4	1931	二心集	再来一条“顺”的翻译
449	4	1931	二心集	中华民国的新“堂·吉珂德”们
450	4	1931	二心集	《野草》英文译本序
451	4	1931	二心集	“知识劳动者”万岁
452	4	1931	二心集	“发那保泥”论
453	4	1931	二心集	答中学生杂志社问
454	4	1931	二心集	答北斗杂志社问
455	4	1931	二心集	关于小说题材的通信（并Y及T来信）
456	4	1931	二心集	关于翻译的通信（并J. K. 来信）
457	7	1931	集外集	送O. E. 君携兰归国
458	7	1931	集外集	无题（大野多鹤麻）
459	7	1931	集外集	赠日本歌人

425

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅者作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

460	7	1931	集外集	湘灵歌
461	7	1931	集外集拾遗	《铁流》编校后记
462	7	1931	集外集拾遗	好东西歌
463	7	1931	集外集拾遗	公民科歌
464	7	1931	集外集拾遗	南京民谣
465	7	1931	集外集拾遗	赠鄂其山
466	7	1931	集外集拾遗	无题二首（大江日夜向东流 雨花台边埋断戟）
467	7	1931	集外集拾遗	送增田涉君归国
468	8	1931	集外集补编	题《陶元庆的出品》
469	8	1931	集外集补编	凯绥·珂勒惠支木刻《牺牲》说明
470	8	1931	集外集补编	《勇敢的约翰》校后记
471	8	1931	集外集补编	理惠拉壁画《贫人之夜》说明
472	8	1931	集外集补编	“日本研究”之外
473	8	1931	集外集补编	介绍德国作家版画展
474	8	1931	集外集补编	德国作家版画展延期举行真像
475	8	1931	集外集补编	鲁迅启事
476	8	1931	集外集补编	《毁灭》和《铁流》的出版预告
477	8	1931	集外集补编	三闲书屋校印书籍
478	8	1931	集外集补编	三闲书屋印行文艺书籍
479	8	1931	集外集补编	《〈铁流〉图》特价告白

426

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

480	4	1932	三閑集	序言
481	4	1932	二心集	序言
482	4	1932	南腔北调	“非所计也”
483	4	1932	南腔北调	林克多《苏联闻见录》序
484	4	1932	南腔北调	我们不再受骗了
485	4	1932	南腔北调	《竖琴》前记
486	4	1932	南腔北调	论“第三种人”
487	4	1932	南腔北调	“连环图画”辩护
488	4	1932	南腔北调	辱骂和恐吓决不是战斗
489	4	1932	南腔北调	《白选集》白序
490	4	1932	南腔北调	祝中俄文字之交
491	7	1932	集外集	《淑姿的信》序
492	7	1932	集外集	白圃
493	7	1932	集外集	无题（洞庭水落楚天高）
494	7	1932	集外集拾遗	“言词争执”歌
495	7	1932	集外集拾遗	帮忙文学与帮闲文学
496	7	1932	集外集拾遗	今春的两声感慰
497	7	1932	集外集拾遗	无题
498	7	1932	集外集拾遗	偶成
499	7	1932	集外集拾遗	赠蓬子

427

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

500	7	1932	集外集拾遗	二八战后天作
501	7	1932	集外集拾遗	教授杂咏四首
502	7	1932	集外集拾遗	所闻
503	7	1932	集外集拾遗	无题二首（大江口夜向东流 雨花台边理断戟）
504	7	1932	集外集拾遗	答客问
505	8	1932	集外集补编	水灾即“建国”
506	8	1932	集外集补编	题《外套》
507	8	1932	集外集补编	我对于《文新》的意见
508	8	1932	集外集补编	题记一篇
509	4	1933	南腔北调	题记
510	4	1933	南腔北调	听说梦
511	4	1933	南腔北调	论“赴难”和“避难”
512	4	1933	南腔北调	学生和玉佛
513	4	1933	南腔北调	为了忘却的纪念
514	4	1933	南腔北调	非的矛盾
515	4	1933	南腔北调	看萧和“看萧的人们”记
516	4	1933	南腔北调	《萧伯纳在上海》序
517	4	1933	南腔北调	由中国女人的脚，推定中国人之非中庸，又由此推定孔夫子的有胃病（“学匪”派考古学之一）
518	4	1933	南腔北调	我怎么做起小说来
519	4	1933	南腔北调	关于女人

428

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

520	4	1933	南腔北調	真殿堂古河徳
521	4	1933	南腔北調	《守常全集》題記
522	4	1933	南腔北調	談金丕収
523	4	1933	南腔北調	又論“第三種人”
524	4	1933	南腔北調	“蜜蜂”与“蜜”
525	4	1933	南腔北調	經驗
526	4	1933	南腔北調	諺語
527	4	1933	南腔北調	大家降：級試試看
528	4	1933	南腔北調	沙
529	4	1933	南腔北調	给文学社信
530	4	1933	南腔北調	关于翻譯
531	4	1933	南腔北調	《一个人的受难》序
532	4	1933	南腔北調	祝《涛声》
533	4	1933	南腔北調	上海的少女
534	4	1933	南腔北調	上海的儿童
535	4	1933	南腔北調	“论话一年”
536	4	1933	南腔北調	小品文的危机
537	4	1933	南腔北調	九一八
538	4	1933	南腔北調	偶成
539	4	1933	南腔北調	漫与

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

540	4	1933	南腔北調	世故三昧
541	4	1933	南腔北調	語言世家
542	4	1933	南腔北調	关于妇女解放
543	4	1933	南腔北調	火
544	4	1933	南腔北調	論翻印木刻
545	4	1933	南腔北調	《木刻创作法》序
546	4	1933	南腔北調	作文秘訣
547	4	1933	南腔北調	揭鬼心传
548	4	1933	南腔北調	家庭为中国之基本
549	4	1933	南腔北調	《总道劫》序
550	4	1933	南腔北調	答杨邨人先生公开信的公开信
551	5	1933	伪自由书	前记
552	5	1933	伪自由书	观斗
553	5	1933	伪自由书	逃向辩护
554	5	1933	伪自由书	崇实
555	5	1933	伪自由书	电的利弊
556	5	1933	伪自由书	航空救国三愿
557	5	1933	伪自由书	不通两种
558	5	1933	伪自由书	賭咒
559	5	1933	伪自由书	战略关系

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

560	5	1933	伪自由书	颂萧
561	5	1933	伪自由书	对于战争的祈祷
562	5	1933	伪自由书	从讽刺到幽默
563	5	1933	伪自由书	从幽默到正经
564	5	1933	伪自由书	王道诗话
565	5	1933	伪自由书	伸冤
566	5	1933	伪自由书	面的解放
567	5	1933	伪自由书	文学上的折扣
568	5	1933	伪自由书	迎头经
569	5	1933	伪自由书	“光明所到……”
570	5	1933	伪自由书	止哭文学
571	5	1933	伪自由书	“人话”
572	5	1933	伪自由书	出卖灵魂的秘诀
573	5	1933	伪自由书	文人无文
574	5	1933	伪自由书	最艺术的国家
575	5	1933	伪自由书	现代史
576	5	1933	伪自由书	推背图
577	5	1933	伪自由书	《杀错了人》异议
578	5	1933	伪自由书	中国人的生命圈
579	5	1933	伪自由书	内外

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

580	5	1933	伪自由书	透底
581	5	1933	伪自由书	“以夷制夷”
582	5	1933	伪自由书	言论白山的界限
583	5	1933	伪自由书	大观园的人才
584	5	1933	伪自由书	文章与题目
585	5	1933	伪自由书	新药
586	5	1933	伪自由书	“多难之月”
587	5	1933	伪自由书	不负责任的坦克车
588	5	1933	伪自由书	从盛宣怀说到有力的压迫
589	5	1933	伪自由书	王化
590	5	1933	伪自由书	天上地下
591	5	1933	伪自由书	保留
592	5	1933	伪自由书	再谈保留
593	5	1933	伪自由书	“有名无实”的反驳
594	5	1933	伪自由书	不求甚解
595	5	1933	伪自由书	后记
596	5	1933	淮风月谈	夜颂
597	5	1933	淮风月谈	推
598	5	1933	淮风月谈	二、三艺术
599	5	1933	淮风月谈	偶成

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

600	5	1933	淮风月谈	谈蝙蝠
601	5	1933	淮风月谈	“抄靶子”
602	5	1933	淮风月谈	“吃白相反”
603	5	1933	淮风月谈	华德保粹优劣论
604	5	1933	淮风月谈	华德保粹异同论
605	5	1933	淮风月谈	我谈“堕民”
606	5	1933	淮风月谈	序的解放
607	5	1933	淮风月谈	别一个窃火者
608	5	1933	淮风月谈	智识过剩
609	5	1933	淮风月谈	诗和豫言
610	5	1933	淮风月谈	“推”的余谈
611	5	1933	淮风月谈	查旧账
612	5	1933	淮风月谈	晨凉漫记
613	5	1933	淮风月谈	中国的奇想
614	5	1933	淮风月谈	豪语的折扣
615	5	1933	淮风月谈	甥
616	5	1933	淮风月谈	“中国文坛的悲观”
617	5	1933	淮风月谈	秋夜纪游
618	5	1933	淮风月谈	“酱油”
619	5	1933	淮风月谈	我们怎样教育儿童的？

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

620	5	1933	淮风月谈	为翻译辩护
621	5	1933	淮风月谈	爬和撞
622	5	1933	淮风月谈	各科捐班
623	5	1933	淮风月谈	四库全书珍本
624	5	1933	淮风月谈	新秋杂识
625	5	1933	淮风月谈	帮闲法发隐
626	5	1933	淮风月谈	登龙术拾遗
627	5	1933	淮风月谈	出登而陬
628	5	1933	淮风月谈	新秋杂识（二）
629	5	1933	淮风月谈	男人的进化
630	5	1933	淮风月谈	同意和解释
631	5	1933	淮风月谈	文床秋梦
632	5	1933	淮风月谈	电影的教训
633	5	1933	淮风月谈	关于翻译（上）
634	5	1933	淮风月谈	关于翻译（下）
635	5	1933	淮风月谈	新秋杂识（三）
636	5	1933	淮风月谈	礼
637	5	1933	淮风月谈	打听印象
638	5	1933	淮风月谈	吃教
639	5	1933	淮风月谈	喝茶

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

640	5	1933	淮风月谈	禁用和自造
641	5	1933	淮风月谈	看变法
642	5	1933	淮风月谈	双十怀古
643	5	1933	淮风月谈	重二感旧
644	5	1933	淮风月谈	“感旧”以后（上）
645	5	1933	淮风月谈	“感旧”以后（下）
646	5	1933	淮风月谈	黄祸
647	5	1933	淮风月谈	冲
648	5	1933	淮风月谈	“滑稽”例解
649	5	1933	淮风月谈	外国也有
650	5	1933	淮风月谈	扑空
651	5	1933	淮风月谈	答“兼示”
652	5	1933	淮风月谈	中国文与中国入
653	5	1933	淮风月谈	野营训练法
654	5	1933	淮风月谈	反台
655	5	1933	淮风月谈	归厚
656	5	1933	淮风月谈	难得糊涂
657	5	1933	淮风月谈	古书中寻活字汇
658	5	1933	淮风月谈	“商定”文豪
659	5	1933	淮风月谈	青年与老子

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

660	7	1933	集外集	选本
661	7	1933	集外集	二十二年元旦
662	7	1933	集外集	题《彷徨》
663	7	1933	集外集	题三义塔
664	7	1933	集外集	悼丁君
665	7	1933	集外集	赠人二首
666	7	1933	集外集	阳郁达夫移家杭州
667	7	1933	集外集拾遗	英译本《短篇小说选集》自序
668	7	1933	集外集拾遗	《不走正路的安得伦》小引
669	7	1933	集外集拾遗	译本高尔基《一月九日》小引
670	7	1933	集外集拾遗	《解放了的堂·吉珂德》后记
671	7	1933	集外集拾遗	《北平浅语》序
672	7	1933	集外集拾遗	上海所感
673	7	1933	集外集拾遗	赠画师
674	7	1933	集外集拾遗	题《呐喊》
675	7	1933	集外集拾遗	悼杨铨
676	7	1933	集外集拾遗	无题
677	7	1933	集外集拾遗	无题
678	7	1933	集外集拾遗	无题
679	7	1933	集外集拾遗	《文艺连丛》

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

680	8	1933	集外集补编	文粹秘訣十条
681	8	1933	集外集补编	向小林同志之死
682	8	1933	集外集补编	通信（复魏猛克）
683	8	1933	集外集补编	我的种痘
684	8	1933	集外集补编	辩“文人无行”
685	8	1933	集外集补编	娘儿们也不行
686	2	1934	故事新编	非攻
687	5	1934	淮风月谈	前记
688	5	1934	淮风月谈	后记
689	5	1934	花边文学	未来的光荣
690	5	1934	花边文学	女人未必多说谎
691	5	1934	花边文学	批评家的批评家
692	5	1934	花边文学	漫骂
693	5	1934	花边文学	“京派”与“海派”
694	5	1934	花边文学	北人与南人
695	5	1934	花边文学	《如此广州》读后感
696	5	1934	花边文学	过年
697	5	1934	花边文学	运命
698	5	1934	花边文学	大小骗
699	5	1934	花边文学	“小童挡驾”

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

700	5	1934	花边文学	古人并不纯厚
701	5	1934	花边文学	法会和歌剧
702	5	1934	花边文学	洋服的没落
703	5	1934	花边文学	朋友
704	5	1934	花边文学	清明时节
705	5	1934	花边文学	小品文的生机
706	5	1934	花边文学	刀式辩
707	5	1934	花边文学	化名断法
708	5	1934	花边文学	读几本书
709	5	1934	花边文学	一思而行
710	5	1934	花边文学	唯己及人
711	5	1934	花边文学	偶感
712	5	1934	花边文学	论秦理高大人事
713	5	1934	花边文学	“……”“□□□□”论补
714	5	1934	花边文学	谁在没落？
715	5	1934	花边文学	倒提
716	5	1934	花边文学	玩具
717	5	1934	花边文学	零食
718	5	1934	花边文学	“此生或彼生”
719	5	1934	花边文学	正是时候



資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

720	5	1934	花边文学	再论重译
721	5	1934	花边文学	“彻底”的底子
722	5	1934	花边文学	知了世界
723	5	1934	花边文学	算账
724	5	1934	花边文学	水性
725	5	1934	花边文学	玩笑只当它玩笑（上）
726	5	1934	花边文学	玩笑只当它玩笑（下）
727	5	1934	花边文学	做文章
728	5	1934	花边文学	看书记
729	5	1934	花边文学	看书记（二）
730	5	1934	花边文学	趋时和复古
731	5	1934	花边文学	安贫乐道法
732	5	1934	花边文学	奇怪
733	5	1934	花边文学	奇怪（二）
734	5	1934	花边文学	迎神和咬人
735	5	1934	花边文学	看书记（三）
736	5	1934	花边文学	“大雪纷飞”
737	5	1934	花边文学	汉字和拉丁化
738	5	1934	花边文学	“莎士比亚”
739	5	1934	花边文学	商贾的批评

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

740	5	1934	花边文学	中秋二愿
741	5	1934	花边文学	考场三丑
742	5	1934	花边文学	又是“莎士比亚”
743	5	1934	花边文学	点句的难
744	5	1934	花边文学	奇怪（三）
745	5	1934	花边文学	略论梅兰芳及其他（上）
746	5	1934	花边文学	略论梅兰芳及其他（下）
747	5	1934	花边文学	骂杀与捧杀
748	5	1934	花边文学	读书忌
749	6	1934	且介亭杂文	关于中国的两件事
750	6	1934	且介亭杂文	答国际文学社问
751	6	1934	且介亭杂文	《草鞋脚》小引
752	6	1934	且介亭杂文	论“旧形式”的采用”
753	6	1934	且介亭杂文	连环图画谈话
754	6	1934	且介亭杂文	儒术
755	6	1934	且介亭杂文	《看图识字》
756	6	1934	且介亭杂文	拿来主义
757	6	1934	且介亭杂文	隔膜
758	6	1934	且介亭杂文	《木刻纪程》小引
759	6	1934	且介亭杂文	难行和不信

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、『魯迅全集』参照。

760	6	1934	且介亭杂文	买《小学大全》记
761	6	1934	且介亭杂文	韦素园墓记
762	6	1934	且介亭杂文	忆韦素园君
763	6	1934	且介亭杂文	忆刘半农军
764	6	1934	且介亭杂文	答曹聚仁先生信
765	6	1934	且介亭杂文	从孩子的照相说起
766	6	1934	且介亭杂文	门外文谈
767	6	1934	且介亭杂文	不知肉味和不知水味
768	6	1934	且介亭杂文	中国语文的新生
769	6	1934	且介亭杂文	中国人失掉自信力了吗
770	6	1934	且介亭杂文	“以眼还眼”
771	6	1934	且介亭杂文	说“面子”
772	6	1934	且介亭杂文	运命
773	6	1934	且介亭杂文	脸谱臆测
774	6	1934	且介亭杂文	随便翻翻
775	6	1934	且介亭杂文	拿破仑与高那
776	6	1934	且介亭杂文	答《戏》周刊编者信
777	6	1934	且介亭杂文	寄《戏》周刊编者信
778	6	1934	且介亭杂文	中国文坛上的鬼魅
779	6	1934	且介亭杂文	关于新文字

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、『魯迅全集』参照。

780	6	1934	且介亭杂文	病后杂谈
781	6	1934	且介亭杂文	病后杂谈之余
782	6	1934	且介亭杂文	河南卢氏曹先生教泽碑文
783	6	1934	且介亭杂文	阿金
784	6	1934	且介亭杂文	论俗人应避雅人
785	7	1934	集外集	序言
786	7	1934	集外集拾遗	《引玉集》后记
787	7	1934	集外集拾遗	报载患脑炎戏作
788	7	1934	集外集拾遗	无题
789	7	1934	集外集拾遗	秋夜有感
790	8	1934	集外集补编	白传
791	8	1934	集外集补编	《无名木刻集》序
792	8	1934	集外集补编	《玄武湖怪人》按语
793	8	1934	集外集补编	《〈母亲〉木刻十四幅》序
794	8	1934	集外集补编	题《淞隐漫录》
795	8	1934	集外集补编	题《淞隐续录》残本
796	8	1934	集外集补编	题《漫游随录图记》残本
797	8	1934	集外集补编	题《风筝误》
798	8	1934	集外集补编	《译文》创刊号前记
799	8	1934	集外集补编	做“杂文”也不易

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

800	8	1934	集外集补编	題《芥子園畫譜三集》贈許介平
801	8	1934	集外集补编	勢所必至，理有固然
802	8	1934	集外集补编	更正
803	8	1934	集外集补编	《引玉集》
804	8	1934	集外集补编	《木刻纪程》告白
805	8	1934	集外集补编	给《戏》周刊编者的订正信
806	8	1934	集外集补编	《十竹斋笺谱》翻印说明
807	2	1935	故事新编	序言
808	2	1935	故事新编	理水
809	2	1935	故事新编	采薇
810	2	1935	故事新编	出关
811	2	1935	故事新编	起死
812	5	1935	花边文学	序言
813	6	1935	且介亭杂文	序言
814	6	1935	且介亭杂文	附记
815	6	1935	且介亭杂文二集	序言
816	6	1935	且介亭杂文二集	叶紫作《丰收》序
817	6	1935	且介亭杂文二集	隐士
818	6	1935	且介亭杂文二集	“招贴即扯”
819	6	1935	且介亭杂文二集	书的还魂和赶造

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

820	6	1935	且介亭杂文二集	漫谈“漫画”
821	6	1935	且介亭杂文二集	漫画而又漫画
822	6	1935	且介亭杂文二集	《中国新文学大系》小说二集序
823	6	1935	且介亭杂文二集	内山完造作《活中国的姿态》序
824	6	1935	且介亭杂文二集	“寻开心”
825	6	1935	且介亭杂文二集	非有复译不可
826	6	1935	且介亭杂文二集	论取闹
827	6	1935	且介亭杂文二集	从“别字”说开去
828	6	1935	且介亭杂文二集	田军作《八月的乡村》序
829	6	1935	且介亭杂文二集	徐懋庸作《打杂集》序
830	6	1935	且介亭杂文二集	人生识字胡涂始
831	6	1935	且介亭杂文二集	“文人相轻”
832	6	1935	且介亭杂文二集	“京派”和“海派”
833	6	1935	且介亭杂文二集	瞿山诚一幕记
834	6	1935	且介亭杂文二集	弄堂生忌古今谈
835	6	1935	且介亭杂文二集	不应该那么写
836	6	1935	且介亭杂文二集	在现代中国的孔夫子
837	6	1935	且介亭杂文二集	六朝小说和唐代传奇文有怎样的区别？
838	6	1935	且介亭杂文二集	什么是“讽刺”？
839	6	1935	且介亭杂文二集	论“人言可畏”

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

840	6	1935	且介亭杂文二集	再论“文人相轻”
841	6	1935	且介亭杂文二集	《全国木刻联合展览会专辑》序
842	6	1935	且介亭杂文二集	文坛三卢
843	6	1935	且介亭杂文二集	从帮忙到扯淡
844	6	1935	且介亭杂文二集	《中国小说史略》日本译本序
845	6	1935	且介亭杂文二集	“题未定”草（一至三）
846	6	1935	且介亭杂文二集	名人和名言
847	6	1935	且介亭杂文二集	“靠天吃饭”
848	6	1935	且介亭杂文二集	几乎无事的悲剧
849	6	1935	且介亭杂文二集	三论“文人相轻”
850	6	1935	且介亭杂文二集	四论“文人相轻”
851	6	1935	且介亭杂文二集	五论“文人相轻”——明末
852	6	1935	且介亭杂文二集	“题未定”草（五）
853	6	1935	且介亭杂文二集	论毛笔之类
854	6	1935	且介亭杂文二集	逃名
855	6	1935	且介亭杂文二集	六论“文人相轻”——二卖
856	6	1935	且介亭杂文二集	七论“文人相轻”——两伤
857	6	1935	且介亭杂文二集	萧红作《生死场》序
858	6	1935	且介亭杂文二集	陀思妥夫斯基的事
859	6	1935	且介亭杂文二集	孔另境编《当代文人尺牍钞》序

445

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅著作作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

860	6	1935	且介亭杂文二集	杂谈小品文
861	6	1935	且介亭杂文二集	“题未定”草（六至九）
862	6	1935	且介亭杂文二集	论新文字
863	6	1935	且介亭杂文二集	《死魂灵门图》小引
864	6	1935	且介亭杂文二集	后记
865	7	1935	集外集拾遗	亥年残败偶作
866	7	1935	集外集拾遗	《译文》终刊号前记
867	8	1935	集外集补编	《中国新文学大系》小说二集编选感想
868	8	1935	集外集补编	“骗月亮”
869	8	1935	集外集补编	“某”字的第四义
870	8	1935	集外集补编	“天生蛮性”
871	8	1935	集外集补编	死所
872	8	1935	集外集补编	中国的科学资料
873	8	1935	集外集补编	“有不为高”
874	8	1935	集外集补编	内利“黄帝子孙”
875	8	1935	集外集补编	黎“珍”
876	8	1935	集外集补编	《俄罗斯的童话》
877	8	1935	集外集补编	给《译文》编者订正的信
878	6	1936	且介亭杂文末篇	《凯绥·珂勒惠支版画选集》序
879	6	1936	且介亭杂文末篇	记苏联版画展览会

446

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

880	6	1936	且介亭杂文末编	我要骗人
881	6	1936	且介亭杂文末编	《译文》复刊词
882	6	1936	且介亭杂文末编	白莽作《孩儿塔》序
883	6	1936	且介亭杂文末编	续记
884	6	1936	且介亭杂文末编	写丁深夜里
885	6	1936	且介亭杂文末编	三月的租界
886	6	1936	且介亭杂文末编	《出关》的“关”
887	6	1936	且介亭杂文末编	《呐喊》捷克译本序言
888	6	1936	且介亭杂文末编	答徐懋庸关于抗日统一战线问题
889	6	1936	且介亭杂文末编	关于太炎先生二三事
890	6	1936	且介亭杂文末编	曹靖华译《苏联作家七人集》序
891	6	1936	且介亭杂文末编	因太炎先生而想起的“三事”
892	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	文人比较学
893	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	大小奇迹
894	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	难答的问题
895	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	等错的文章
896	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	《海上述林》上卷序言
897	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	我的第一个师父
898	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	《海上述林》下卷序言
899	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	答托洛斯基派的信

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、《魯迅全集》参照。

900	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	论现在我们的文学运动
901	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	《苏联版画集》序
902	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	半夏小集
903	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	“这也是生活”
904	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	“立此存照”（一）
905	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	“立此存照”（二）
906	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	死
907	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	女吊
908	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	“立此存照”（三）
909	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	“立此存照”（四）
910	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	“立此存照”（五）
911	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	“立此存照”（六）
912	6	1936	且介亭杂文末编（附集）	“立此存照”（七）
913	7	1936	集外集拾遗	《城与年》插图本小引
914	7	1936	集外集拾遗	绍介《海上述林》上卷
915	8	1936	集外集补编	《远方》接语
916	8	1936	集外集补编	题曹白所刻像
917	8	1936	集外集补编	“中国杰作小说”小引
918	8	1936	集外集补编	题《凯绥·珂勒惠支版画选集》赠季市
919	8	1936	集外集补编	答世界社信

資料⑦  
第2章：調査に使用した魯迅著作品目録（創作年順）  
出典は、『魯迅全集』参照。

920	8	1936	集外集補編	关于许绍康叶朔中黄萍荪
921	8	1936	集外集補編	“三十年集”编日二种
922	8	1936	集外集補編	《死魂灵白图》广告
923	8	1936	集外集補編	《凯绥·珂勒惠支版画选集》出版说明
924	8	1936	集外集補編	《海上述林》上卷插图正误
925	6	1937	且介亭杂文未编（附集）	后记（许广平）

449

資料⑧  
第2章：調査に使用した魯迅翻訳作品目録（創作年順）  
出典は、『魯迅訳文全集』参照。  
〈斯巴達之魂〉〈説鉛〉(1903)は『魯迅全集』参照。

初出年は基本的に『魯迅訳文全集』による。初出年不明のものは、呉鈞『魯迅翻訳文学研究』(2009)、齊魯出版社による。その他、使用した文献に関しては、参考文献目録に参照。年を跨いだ作品は、一番新しい年に合わせる。

番号	訳文 巻 数	訳文 初出 年	収録	翻訳タイトル	原題・邦題	原作者	備考
1	7	1903	集外集（『魯迅全集』）	斯巴達之魂			
2	7	1903	集外集（『魯迅全集』）	説鉛			
3	①	1903	月界旅行		De la Terre à la Lune	ジュール・ヴェルヌ (Jules Verne) [仏]	非上巻『ル十七時二十分 間月世界旅行』（1880） からの重訳。
4	①	1903	地底旅行		Voyage au centre de la terre	ジュール・ヴェルヌ (Jules Verne) [仏]	二本愛華・高須墨浦『地 底旅行』 (1885) からの重訳。
5	⑧	1903	译文補編	哀生		グイクトルニコマリール・ユエゴール (Victor-Marie Hugo) [仏]	森田忠軒の日本語訳「フ ハンテイーン Fantine のも と（千八百四十一年）」 『国民之友』326号（「隨筆 録」『ユエゴール小品』 1898、民友社収録）の重訳 か。（『魯迅全集』（日本 語）訳参照）
6	⑧	1905	译文補編	造人术	An Unscientific Story	ルイ・ストロング (Louise J. Strong) [米]	

501

## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

7	⑧	1907	译文补编	《红星伏史》译诗		ヘンリー・ライダー・ハガード/アンドルー・ラング (H Rider Haggard/ Andrew Lang) [英]	
8	⑧	1908	译文补编	裴家飞诗论		エミール・ライヒ (Emil Reich)	周遐寿曰く、オーストリア・ハンガリーの人、エミール・ライヒが英文で書いた『ハンガリー文学論』の第27章を俄が口頭訳し、魯迅が文章化したものとのこと。(「『ヘンライ詩論』訳者付記」『魯迅全集』参照)
9	①	1909	域外小说集	四日	четыре дня	フセヴォロド・ミハイコヴィチ・ガルシン (Vsevolod Mikhajlovich Garshin) [露]	ドイツ語訳からの重訳、一葉亭の日本語訳も参照。
10	①	1909	域外小说集	黙	Молчанье	レオニード・ニコライヴィツチ・アンドレーエフ (Leonid Nikolaevich Andreev) [露]	ドイツ語訳からの重訳。
11	①	1909	域外小说集	漫	Ложь	レオニード・ニコライヴィツチ・アンドレーエフ (Leonid Nikolaevich Andreev) [露]	ドイツ語訳からの重訳。
12	⑧	1913	译文补编	社会教育与趣味	「(講話)趣味の社会的教化」『心理研究』1912.3、第1巻第3号と一部一致。	上野陽一[口]	上野の講話の節訳か。
13	⑧	1913	译文补编	儿童之好奇心		上野陽一[日]	

502

## 資料④

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

14	⑧	1913	译文补编	艺术玩赏之教育	「藝術鑑賞の教育附新定画帖について」『心理研究』1919.1	上野陽一[日]	論文結論部分を約1頁割愛。
15	⑧	1914	译文补编	Heine的诗		ハイネ (Heine) [独]	岡作人作《艺文杂话》から引いたもの。
16	⑧	1915	译文补编	儿童观念界之研究		高島平三[口]	
17	⑧	1918	译文补编	察罗塔斯德罗绪言		フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ (Friedrich Wilhelm Nietzsche) [独]	《察罗塔斯德罗如是说》第1-3節よりとあり。
18	①	1919	一个青年的梦		或る青年の夢	武者小路実篤 [日]	
19	①	1920	T.人緩惠略夫			ミハイル・ペトロヴィチ・アルツイバシエフ (Mikhail Artsybashev) [露]	S. Bugov und André Villard. "Revolutionsgeschichten" ドイツ語からの重訳。
20	①	1920	现代小说译丛(第一集)	幸福	幸福	ミハイル・ペトロヴィチ・アルツイバシエフ (Mikhail Artsybashev) [露]	
21	⑧	1920	译文补编	察拉图斯特拉的序言		フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ (Friedrich Wilhelm Nietzsche) [独]	
22	①	1921	爱罗先珂童话集	鱼的悲哀	魚の悲しみ	ヴァシリイ・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko) [露]	『夜明けの前の歌』(1921.7.17、編者秋田雨雀、巖文閣)より転訳。

503

## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(説鉛)(1903)は《魯迅全集》参照。

23	①	1921	愛羅先珂童話集	古怪的猫	変わり猫	ヴァシリリー・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko)[露]	『夜明けの前の歌』 (1921.7.17, 編者秋田雨 雀, 叢文閣)より翻訳。
24	①	1921	愛羅先珂童話集	春夜の夢	春の夜の夢	ヴァシリリー・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko)[露]	『夜明けの前の歌』 (1921.7.17, 編者秋田雨 雀, 叢文閣)より翻訳。
25	①	1921	愛羅先珂童話集	池边	沼のほとり	ヴァシリリー・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko)[露]	『夜明けの前の歌』 (1921.7.17, 編者秋田雨 雀, 叢文閣)より翻訳。
26	①	1921	愛羅先珂童話集	狹的羞	狭い羞	ヴァシリリー・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko)[露]	『夜明けの前の歌』 (1921.7.17, 編者秋田雨 雀, 叢文閣)より翻訳。
27	①	1921	愛羅先珂童話集	鴉的心	鴉の心	ヴァシリリー・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko)[露]	『夜明けの前の歌』 (1921.7.17, 編者秋田雨 雀, 叢文閣)より翻訳。
28	①	1921	現代小説译丛(第一 集)	医生	Doktor	ミハイル・ペトロヴィチ・アルツィバシエフ (Mikhail Artstbashev)[露]	
29	①	1921	現代小説译丛(第一 集)	书籍		レオニード・ニコライヴィツチ・アンドレーエフ (Leonid Nikolaevich Andreev) [露]	
30	①	1921	現代小説译丛(第一 集)	省会		Evgeni Tshirkov[露]	

504

## 資料④

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(説鉛)(1903)は《魯迅全集》参照。

31	①	1921	現代小説译丛(第一 集)	父亲在亚美利加		Arktio[芬]	E. Bräusewetter編。 "Finnland im Bilde Seiner Dichtung und Seine Dichter", ドイツ語訳から の重訳。
32	①	1921	現代小説译丛(第一 集)	逃避		Evgeni Tshirkov[露]	
33	①	1921	現代小説译丛(第一 集)	战争中的威尔河		イワン・バレーゾフ(Ivan Minchov Varov) [物]	「礼典斯加《勃爾格利亞 女子與其他小説》とあ り。」ドイツ語からの重 訳。
34	①	1921	現代小説译丛(第一 集)	疯姑娘		ミンナ・カント (Minna Canth) [芬]	
35	①	1921	現代小説译丛(第一 集)	黯然的烟霞里	霧の中へ	レオニード・ニコライヴィツチ・アンドレーエフ (Leonid Nikolaevich Andreev)[露]	
36	②	1921	現代日本小説集	三浦右衛門的最后	三浦右衛門の最後	菊池寛[日]	
37	②	1921	現代日本小説集	鼻子	鼻	芥川龍之介[日]	
38	②	1921	現代日本小説集	罗生门	羅生門	芥川龍之介[日]	
39	②	1921	現代日本小説集	沉默之塔	沈黙の塔	森鴎外[日]	
40	⑤	1921	译文补编	近代捷克文学概观	"Slavische Literaturgeschichte"(Von dr. Josef Karáček, Leipzig, G. J. Göschen, 1906, 2v.) 『スラヴ文学史』第11- 12節, 19節の一部。	カラーク (Josef Karáček) [チェコ]	

505



## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(説鉛)(1903)は《魯迅全集》参照。

41	⑧	1921	译文补编	小俄罗斯文学略説	"Literarisches Wanderbuch, Neue Folge: Slawische Wanderungen, 2. Aufl., Berlin, Allgemeiner Verein für Deutsche Literatur"(1905)のことか。	カール・バルルス (G Karpelles) [独]	『文学通史』より訳出との記述あり。
42	⑧	1921	译文补编	言诗人最近市的踪迹	「言诗人最近の足跡」『読売新聞』1921.10.9	中根弘[川]	
43	①	1922	爰罗先珂童话集	为人类	人類のために	ヴァスィイリー・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko)[露]	雑誌『現代』(1921年7月、大日本雄弁会義講談社編集)からか。
44	①	1922	爰罗先珂童话集	时光老人	時のお爺さん	ヴァスィイリー・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko)[露]	
45	①	1922	爰罗先珂童话集	小鸡的悲剧	ひよこの悲劇	ヴァスィイリー・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko)[露]	
46	①	1922	爰罗先珂童话集	世界的火災	世界の火災	ヴァスィイリー・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko)[露]	原稿より翻訳。
47	①	1922	爰罗先珂童话集	两个小小尚死	二つの小さな死	ヴァスィイリー・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko)[露]	『最後の消息』(1921.12, 義文閣)
48	⑧	1922	译文补编	一篇很短的传奇	『ごく短い小説』	ガルシン(Vsevolod Michailovitch Garshin)[露]	
49	⑧	1922	译文补编	俄国的豪杰			

506

## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(説鉛)(1903)は《魯迅全集》参照。

50	⑧	1922	译文补编	忆爰罗先珂华希理君	「エロシエンコ・ワシリーを憶ふ」『読売新聞』1921.6.17, 18, 20	江口渙[口]	
51	①	1923	爰罗先珂童话集	爰字的疮	愛という字の傷	ヴァスィイリー・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko)[露]	
52	①	1923	爰罗先珂童话集	红的花	赤い花	ヴァスィイリー・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko)[露]	
53	②	1923	现代日本小说集	阿木的死	お木之死	有島武郎[日]	
54	②	1923	现代日本小说集	掛幅	懸物	夏目漱石[日]	
55	②	1923	现代日本小说集	克莱摩先生	クレイグ先生	夏目漱石[日]	
56	②	1923	现代日本小说集	复讐的话	ある敵打の話	菊池寛[口]	
57	②	1923	现代日本小说集	游戏	あそび	森鷗外[口]	
58	②	1923	现代日本小说集	峡谷的夜	峡谷の夜	江口渙[口]	
59	②	1923	现代日本小说集	与幼小者	小さき者へ	有島武郎[口]	
60	⑧	1923	译文补编	颯北京大学学生演剧和燕京女校学生演剧前记		ヴァスィイリー・ヤコヴレヴィチ・エロシエンコ (Vasily Yakovlevich Eroshenko)[露]	

507

## 資料③

## 第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(説鉛)(1903)は《魯迅全集》参照。

61	②	1924	苦悶の象征			苦悶の象徴	厨川白村[口]	
62	⑧	1924	译文补编	高尚生活			Multatuli[蘭]	原文はIdconよりの訳出。
63	⑧	1924	译文补编	无礼与非礼			ムルタトゥーリ (Multatuli) [蘭]	原文はIdconよりの訳出。 ムルタトゥーリはエドワード・アルト・ダウエス・デックル (Eduard Douwes Dekker) の筆名。
64	②	1925	出了象牙之塔	出了象牙之塔	出了象牙之塔	象牙の塔を出でて	厨川白村[日]	
65	②	1925	出了象牙之塔	描写劳动问题的文学	描写劳动问题的文学	労働問題を描ける文學	厨川白村[日]	
66	②	1925	出了象牙之塔	从灵肉肉和从肉向灵	从灵肉肉和从肉向灵	靈より肉へ、肉より靈へ	厨川白村[日]	
67	②	1925	出了象牙之塔	从艺术到社会改造	从艺术到社会改造	藝術より社會改造へ (詩人モリスの研究)	厨川白村[日]	
68	②	1925	出了象牙之塔	游戏论	游戏论	遊戯論	厨川白村[日]	
69	②	1925	出了象牙之塔	为艺术的漫画	为艺术的漫画	藝術としての漫畫	厨川白村[日]	
70	②	1925	出了象牙之塔	现代文学之主潮	现代文学之主潮	現代文學の主潮	厨川白村[日]	
71	②	1925	出了象牙之塔	艺术的表现	艺术的表现	藝術の表現	厨川白村[日]	
72	②	1925	出了象牙之塔	观照享乐的生活	观照享乐的生活	觀照享樂の生活	厨川白村[口]	
73	④	1925	壁下译丛	思索的悟性	思索的悟性		片山孤村[口]	
74	④	1925	壁下译丛	自然主义的理论及技巧	自然主义的理论及技巧		片山孤村[日]	

## 資料③

## 第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(説鉛)(1903)は《魯迅全集》参照。

75	④	1925	壁下译丛	小说的观览和选择			ラファエル・フォン・ケーベル (Raphael von Koeber) [露]	
76	①	1925	壁下译丛	新时代与文艺			金子筑水[日]	
77	④	1925	壁下译丛	西班牙剧坛的将星			厨川白村[日]	
78	①	1925	壁下译丛	从浅草来(摘译)			島崎藤村[日]	
79	⑤	1925	译文补编	A.Petőfi的诗			ペテーフイ・シャーンドル (Petőfi Sándor) [洪]	
80	⑤	1925	译文补编	我独自行走			伊東幹夫[日]	
81	⑤	1925	译文补编	圣野猪		『眞美はかく作る』より	長谷川如是閑[日]	
82	③	1926	小约翰			De Kleine Johannes	Frederik Willem van Eeden[蘭]	
83	④	1926	壁下译丛	以生命写成的文章			有岛武郎[日]	
84	④	1926	壁下译丛	在一切艺术			武者小路实篤[口]	
85	④	1926	壁下译丛	生艺术的胎			有岛武郎[日]	

## 資料③

## 第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

86	④	1926	壁下译丛	东西之自然诗观		厨川白村[口]		
87	④	1926	壁下译丛	凡有艺术品		武者小路実篤[日]		
88	④	1926	壁下译丛	论诗		武者小路実篤[日]		
89	⑧	1926	译文补编	小儿的睡相	『芸術と生活』1926年から	有島武郎[口]		
90	⑧	1926	译文补编	巴什庚之死	「バシキンの死」『アルツイバーシエフ著作集』13	ミハイル・ペトローヴィチ・アルツイバーシエフ(Mikhail Artsybashev)[露]		島崎哲也の『作者の感想』(1924.11、随筆社発行)より重訳。
91	⑥	1926	译文补编	亚历山大・勃洛克		レフ・トロツキー・(Lev Davidovich Trotsky)[露]		
92	⑧	1926	译文补编	岁首		長谷川如是閑[日]		
93	⑥	1926	译文补编	罗曼罗兰的英勇主义	「ロマン・ロオランの英勇主義」『近代思想十六講』1915.12、新潮社、末尾一篇	中澤臨川/生田長江[日]		
94	④	1927	壁下译丛	文学者的一生		武者小路実篤[口]		
95	⑧	1927	译文补编	信州杂记	『日本印象記—日本の大勝の根帯』より	ボリス・ピリニヤーク (Boris Pilnyak)[露]		井田孝平・小島修一共訳の『日本印象記—日本の大勝の根帯』(1927.11、原始社発行)の重訳。
96	⑧	1927	译文补编	运用口語的政詞		鈴木虎雄[日]		

## 資料③

## 第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

97	③	1928	近代美术史潮论		民族的色彩を主とする近代美術史潮論	板垣應徳[口]		
98	③	1928	思想・山水・人物	往訪的心	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]		
99	③	1928	思想・山水・人物	旧遊之地	思想・山水・人物	鶴見祐輔[口]		
100	③	1928	思想・山水・人物	指導底地位的白然化	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]		
101	③	1928	思想・山水・人物	白以為是	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]		
102	③	1928	思想・山水・人物	所谓怀疑主义者	思想・山水・人物	鶴見祐輔[口]		
103	③	1928	思想・山水・人物	人生的转向	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]		
104	③	1928	思想・山水・人物	善政和恶政	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]		
105	③	1928	思想・山水・人物	断想	思想・山水・人物	鶴見祐輔[口]		
106	③	1928	思想・山水・人物	徒然的笃学	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]		
107	③	1928	思想・山水・人物	北京的魅力	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]		
108	③	1928	思想・山水・人物	专门以外的工作	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]		
109	③	1928	思想・山水・人物	书斋生活与其危险	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]		
110	③	1928	思想・山水・人物	纽约的美术村	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]		
111	③	1928	思想・山水・人物	论办事法	思想・山水・人物	鶴見祐輔[口]		
112	③	1928	思想・山水・人物	说自由主义	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]		

## 資料③

## 第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

113	③	1928	思想・山水・人物	说幽默	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]	
114	③	1928	思想・山水・人物	说旅行	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]	
115	③	1928	思想・山水・人物	读的文章和听的文字	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]	
116	③	1928	思想・山水・人物	读书的方法	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]	
117	③	1928	思想・山水・人物	闲谈	思想・山水・人物	鶴見祐輔[日]	
118	④	1928	文艺与批评	托尔斯泰与马克思		アナトリー・ワシリエヴィチ・ルナチヤルスキー (Anatoly Vasilyevich Lunacharsky) [露]	金田常三郎の日本語訳から重訳。
119	④	1928	壁下译丛	"否定"の文学		片山伸[日]	
120	④	1928	壁下译丛	伊孛生的工作态度		有島武郎[日]	
121	④	1928	壁下译丛	阶级艺术的问题		片山伸[日]	
122	④	1928	壁下译丛	现代文学的十大缺陷		青野季吉[日]	
123	④	1928	壁下译丛	最近の文理基		岸曙夢[日]	
124	④	1928	壁下译丛	宣言一篇		有島武郎[日]	
125	④	1928	壁下译丛	表现主义		片山孤村[日]	

## 資料③

## 第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

126	④	1928	壁下译丛	北欧文学的原理		片山伸[日]	
127	④	1928	壁下译丛	卢勃克和伊里納的后来		有島武郎[日]	
128	④	1928	壁下译丛	艺术的革命与革命的艺术		青野季吉[日]	
129	④	1928	壁下译丛	关于知識阶级		青野季吉[日]	
130	④	1928	壁下译丛	关于艺术的感想		有島武郎[日]	
131	④	1928	现代新兴文学的诸问题		無産階級文学の諸問題	片山伸[日]	
132	⑤	1928	文艺政策	观念形态战线和文学-一九二五年一月第一回无产阶级作家全联代表大会的决议-		滝藤	藏原惟人・外村史郎編訳本『イデオロギー-戦線と文學』『ロシア共産党の文芸政策』から重訳。

## 資料⑧

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

133	⑤	1928	文艺政策	关于对文艺的党的政策・一九二四年五月九日关于文艺政策的评议会的议事速记录-			ウオロンスキー(Aleksandr Konstantinovich Voronsky)ほか[譯]	藤原惟人・外村史郎編訳 本「文藝に於ける黨の政策に就いて」『ロシア共產黨の文芸政策』から重訳。
134	⑥	1928	钢琴	果樹園			コンスタンティン・フェーデイン (Konstantin Aleksandrovich Fedin) [譯]	米川正夫『労働露西亜小説集』から重訳。
135	⑥	1928	钢琴	在沙漠上			レフ・ルンツ (Lev Lunz) [譯]	米川正夫「砂漠の中に」『労働露西亜小説集』から重訳。
136	⑧	1928	译文补编	《雄鸡和孔雀》抄	Le Coq et L'artequin		ジャン・コクトー (Jean Cocteau) [仏]	大川黒元の日本語訳『雄鶏とアルルカン』(1928, 第一書房出版)からの重訳、抄訳。
137	⑧	1928	译文补编	LEOV TOLSTOI			リボフ・ロガチャスキー (Lvov-Rogachevski) [露]	『最新ロシア文学』の一章。日本語からの重訳。
138	⑧	1928	译文补编	LEOV TOLSTOI			Maitski[露]	ソ連日本大使館代理人使 Maiskiが1928年9月15日東京で行われたトルストイ誕生百年記念会行った講演。

514

## 資料⑨

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

139	⑧	1928	译文补编	食人人種の話	食人人種の話		シャルル=ルイ・フィリップ (Charles-Louis Philippe) [仏]	『獅子狩』『食人人種の話』は堀口大学の『フィリップ短編集』から重訳。
140	⑧	1928	译文补编	生活的演劇化			Nikolai Evreinov[露]	
141	⑧	1928	译文补编	坦波林之歌	タンボリンの唄『虹児画譜』第2集「悲しき微笑」より。		落合町尻[日]	
142	⑧	1928	译文补编	跳蚤			ギヨーム・アポリネール (Guillaume Apollinaire) [仏]	日本語訳『動物詩集』から重訳。
143	⑧	1928	译文补编	捕獅	獅子狩		シャルル=ルイ・フィリップ (Charles-Louis Philippe) [仏]	『獅子狩』『食人人種の話』は堀口大学の『フィリップ短編集』から重訳。
144	⑧	1928	译文补编	关于剧本的考察			Nikolai Evreinov[露]	
145	⑧	1928	译文补编	关于罗蒙诺索夫及其代表作《饥饿》			黒田辰男[日]	
146	⑧	1928	译文补编	农夫	「百姓」『新興文学全集』第24巻(「露西亜篇Ⅲ」1928.8, 平凡社)		ヤー・コヴレフ (Alexandr Iakovlev) [露]	岡沢秀虎の「百姓」『新興文学全集』第24巻(「露西亜篇Ⅲ」1928.8, 平凡社)から重訳。

515

## 資料⑧

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)  
 出典は、《魯迅訳文全集》参照。  
 〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

147	⑧	1928	译文补编	亦维埃耶耶从Maxim Gorky期待着什么?		ニコライ・イワノヴィッチ・ブハーリン (Nikolai Ivanovich Bukharin) [露]	ブハーリンがゴーリキーの誕生60周年を祝って書いたもの。本文は日本語『第三国際通信』より重訳。
148	⑧	1928	译文补编	革命后的托尔斯泰故乡记		藤原惟人[H]	1926年ロシア10月革命後のトルストイの故郷を訪れた時の思い出を書いた文章。
149	⑧	1928	译文补编	贵家妇女	『文学のロシアヤ』より	ミハイル・ミハイロヴィチ・ゾシチェンコ (Mikhail Zoshchenko) [露]	尾瀬敬止編訳の「貴族の女」『藝術戦線』(V.リーチン『文学のロシアヤ』を底本とする。1926.6, 実業之日本社出版部)より重訳。
150	④	1929	文艺与批评	今日的艺术与明日的艺术		アナトリー・ワシリエヴィチ・ルナチヤルスキー (Anatoly Vasilyevich Lunacharsky) [露]	茂森唯止『新藝術論』から重訳。
151	④	1929	文艺与批评	苏维埃国家与艺术		アナトリー・ワシリエヴィチ・ルナチヤルスキー (Anatoly Vasilyevich Lunacharsky) [露]	茂森唯止『新藝術論』から重訳。
152	④	1929	文艺与批评	托尔斯泰之死与少年欧罗巴		アナトリー・ワシリエヴィチ・ルナチヤルスキー (Anatoly Vasilyevich Lunacharsky) [露]	『馬克斯主義者之所見の托爾斯泰』中の杉本長吉の訳文から重訳とあり。
153	④	1929	文艺与批评	为批评家的卢那卡尔斯基		尾瀬敬止[H]	『革命ロシアの藝術』(1925.9, 実業之日本社出版部)から。

516

## 資料⑨

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)  
 出典は、《魯迅訳文全集》参照。  
 〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

154	④	1929	文艺与批评	艺术是怎么地发生的		アナトリー・ワシリエヴィチ・ルナチヤルスキー (Anatoly Vasilyevich Lunacharsky) [露]	金出常三訳『トルストイとマルクス』の付録から重訳。
155	④	1929	文艺与批评	关于马克斯主义文艺批评之任务的提要		アナトリー・ワシリエヴィチ・ルナチヤルスキー (Anatoly Vasilyevich Lunacharsky) [露]	磯原惟人の『戦旗』に載せた日本語訳から重訳。
156	④	1929	艺术论	美学是什么		昇曙夢の日本語訳本から重訳。	昇曙夢の日本語訳本からの重訳。
157	④	1929	艺术论	美及其种类		アナトリー・ワシリエヴィチ・ルナチヤルスキー (Anatoly Vasilyevich Lunacharsky) [露]	昇曙夢の日本語訳本からの重訳。
158	④	1929	艺术论	艺术与社会主义		アナトリー・ワシリエヴィチ・ルナチヤルスキー (Anatoly Vasilyevich Lunacharsky) [露]	昇曙夢の日本語訳本からの重訳。
159	④	1929	艺术论	艺术与生活		アナトリー・ワシリエヴィチ・ルナチヤルスキー (Anatoly Vasilyevich Lunacharsky) [露]	昇曙夢の日本語訳本からの重訳。
160	④	1929	艺术论	艺术与产业		アナトリー・ワシリエヴィチ・ルナチヤルスキー (Anatoly Vasilyevich Lunacharsky) [露]	昇曙夢の日本語訳本からの重訳。
161	④	1929	艺术论	艺术与阶级		アナトリー・ワシリエヴィチ・ルナチヤルスキー (Anatoly Vasilyevich Lunacharsky) [露]	昇曙夢の日本語訳本からの重訳。
162	⑤	1929	小彼得			ヘルミニア・ツール・ミューレン (Hermynia Zur Mühlen)[独(独)]	林房雄『小さいペーター』(1927, 暁星閣)日本語訳からの重訳。

517

## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(説鉛)(1903)は《魯迅全集》参照。

163	⑤	1929	文艺政策	附录 以理论为中心的 俄国无产阶级文学发 达史		岡澤秀虎[日]		蔵原惟人・外村史郎編訳 本「文藝の領域に於ける 黨の政策に就く」『ロシ ア共産党の文芸政策』か ら重訳。
164	⑤	1929	文艺政策	关于文艺领域上的党 的政策一・九二五年 七月一日《真理报》 所載一		決議		
165	⑤	1929	烽火	第一部-第二部		アレクサンデル・フアデーエフ (Aleksandr Alexandrovich Fadeev) [露]		蔵原惟人の日本語訳から の重訳。ドイツ語、英語 も参照。
166	⑤	1929	艺术论	原始民族的艺术		ゲオルギー・ヴァレンチノヴィチ・プレハノーフ (Georgij Valentinovich Plekhanov) [露]		外村史郎の日本語訳から の重訳。
167	⑤	1929	艺术论	再论原始民族的艺术		ゲオルギー・ヴァレンチノヴィチ・プレハノーフ (Georgij Valentinovich Plekhanov) [露]		外村史郎の日本語訳から の重訳。
168	⑤	1929	艺术论	论文集(二十年間) 第三版序		ゲオルギー・ヴァレンチノヴィチ・プレハノーフ (Georgij Valentinovich Plekhanov) [露]		外村史郎の日本語訳から の重訳。
169	⑤	1929	艺术论	论艺术		ゲオルギー・ヴァレンチノヴィチ・プレハノーフ (Georgij Valentinovich Plekhanov) [露]		外村史郎の日本語訳から の重訳。
170	⑥	1929	十月			アレクサンデル・ステパノヴィチ・ヤコブレフ (Aleksandr Stepanovich Yakovlev) [露]		井出孝平による日本語訳 からの重訳。原本は日本 語訳本で巻のタイトルが ない時、巻を分けるとき 参照にした程度とのこ と。

518

## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(説鉛)(1903)は《魯迅全集》参照。

171	⑥	1929	钢琴	钢琴		Vladimir Lidin[露]		日本語訳本『新魯迅文学全 集』第24?より重訳。
172	⑧	1929	译文补编	VLG. 理论自传	VLG. リーヂン自伝	ウラジミール・ゲルマノビッチ・リージン (Vladimir Germanovich Lidin) [露]		尾瀬政止編訳『藝術戦 線』1926, 実業之日本社 (1926, 「ウラヂミ ール・リーヂン」編集の 『文芸のロジヤ』を翻訳 したもの)より重訳。
173	⑧	1929	译文补编	一九二八年世界文艺 界概観		千葉亀雄[日]		
174	⑧	1929	译文补编	岸呀、柳呀		落谷町児[H]		
175	⑧	1929	译文补编	契诃夫与新文艺		リボフロガチエフスキー (Lvov-Rogachevski) [露]		
176	⑧	1929	译文补编	新时代的预感	「新時代の予感」『文 学評論』(片山伸, 1926.11, 新潮社)	片山伸[日]		

519

## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

177	⑤	1929	译文补编	人性的天才——迦尔洵	人間の天才——ガルシン	リボフロガチエフスキー (Lvov-Rogachevski) [露]	井田孝平の日本語訳「人間の天才、ウエ・エム・ガルシン」(1855-1888)、『最新ロシア文学研究』第2編第2章(1926, 紫芳閣社)より重訳。
178	⑧	1929	译文补编	吉湖记游(选载)		厄克拉・西木努易 (Lazarevの筆名) [露]	
179	⑧	1929	译文补编	波兰姑娘		ミハイル・ミハイロヴィチ・ゾーシチエニコ (Mikhail Zoshchenko) [露]	
180	⑥	1929	译文补编	表现主义的诸相		山岸光宣[日]	『印象より表現へ』(1924.6, 玄文社)より。
181	⑧	1929	译文补编	露谷虹児的诗		露谷虹児[日]	『露谷虹児画選』中の詩。
182	⑧	1929	译文补编	前包店时代	パン屋の時代	ピオ・パローハ (Pio Baroja y Nessi) [西]	岡田忠一の日本語訳『パン屋の時代』『一革命家の人生・社会観』第11章の重訳。
183	⑥	1929	译文补编	爱尔兰文学之回顾		野口米次郎[日]	随筆集『愛蘭情調』より。

520

## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

184	⑤	1930	毁灭	作者自传		アレクサンドル・ファデーエフ (Aleksandr Alexandrovich Fadeev) [露]	蔵原惟人『破壊』からの重訳。R. D. Charquesの英訳本及びVerlag für Literatur und Politikのドイツ語訳本参照。重訳。英訳本はドイツ語訳本からの重訳か。
185	⑤	1930	毁灭	代序		V.Fritche [露]	蔵原惟人の日本語訳からの重訳。ドイツ語、英語も参照。
186	⑤	1930	毁灭	著作目录			蔵原惟人の日本語訳からの重訳。ドイツ語、英語も参照。
187	⑤	1930	毁灭	关于《毁灭》		蔵原惟人 [日]	蔵原惟人の日本語訳からの重訳。ドイツ語、英語も参照。
188	⑤	1930	毁灭	第三部		アレクサンドル・ファデーエフ (Aleksandr Alexandrovich Fadeev) [露]	
189	⑥	1930	天的工作	苦蓬		ボリス・アンドレーエヴィチ・ピリニャーク (Boris Pitniak) [露]	平岡雅英「彼等が生活の一年」『海外文学新選』36』からの重訳。
190	⑧	1930	译文补编	《浮士德与城》作者小传		尾瀬敬山[日]	『藝術戦線』(1926)より一部訳。

521



## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)  
出典は、《魯迅訳文全集》参照。  
(「斯巴達之魂」説鉛)(1903)は《魯迅全集》参照。

191	⑤	1930	译文补编	无产阶级革命文学论		Andor Gábor[ハンガリー]		川木正良の日本語訳『ゴーリキー全集』第7冊から重訳。
192	⑤	1930	译文补编	悪魔		マクシム・ゴーリキー (Maxim Gorky) [露]		
193	⑤	1930	译文补编	现代电影与有产阶级	宣伝・扇動手段としての映画	岩崎昶[日]		
194	⑤	1930	译文补编	艺术与哲学・伦理		本庄可宥[日]		
195	⑤	1930	译文补编	车勒西级未斯基的文学观		ゲオルギー・ヴァレンチノヴィチ・プレハノフ (Georgij Valentinovich Plekhanov) [露]		
196	⑥	1931	一天的工作	肥料		Lidia Nikolayevna Scifullina [露]		富士辰馬『新興文学全集』第23巻、日本語訳からの重訳。
197	⑥	1931	竖琴	洞窟		エヴゲニー・イワノヴ・ヴィチ・ザミヤーチン (Yevgeniy Ivanovich Zamyatin)[露]		米川正夫『勞働露西亜小説集』から重訳。尾浜敬止『藝術叢書』中の訳本も参照。

522

## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)  
出典は、《魯迅訳文全集》参照。  
(「斯巴達之魂」説鉛)(1903)は《魯迅全集》参照。

198	⑥	1931	竖琴	亚克与人性		Efim Sosulica[露]		Erwin Honig (「荷短克」と表記)、『DREISSIG NEUE ERZÄHLER DES NEUEINRUSSLAND』(『新訳新小説家二十人集』と表記)(1929)ドイツ訳本より重訳。
199	⑤	1931	译文补编	《静静的顿河》作者小传				ドイツ語文獻(『新訳小説三十人集』と表記)の付録から翻訳したとの記述あり。
200	⑤	1931	译文补编	中国起了火		「翰斯・迈伊尔」とあり[奥]		
201	⑤	1931	译文补编	梅令格的《关于文学史》	メーリングの『文学史について』	Brain[独]		
202	⑤	1931	译文补编	被解放的堂・吉河徳	解放されたドンニキホーテ	アナトリー・ワシリエヴィチ・ルナチヤルスキー (Anatoly Vasilyevich Lunacharsky) [露]		
203	⑤	1931	译文补编	对于中国白色恐怖及帝国主义干涉的抗议		「路特威錫・梭」とあり[独]		

523

## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)  
 出典は、《魯迅訳文全集》参照。  
 〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

204	⑥	1932	竖琴	拉拉的利益		ヴェーラ・ミハイロヴナ・インベル (Vera Mikhaylovna Inber) [露]	Elena Frank (「弗兰克」と表記) "DREISSIG NEUE ERZÄHLER DES NEUEN RUSSLAND" (『新俄新小説家三十人集』と表記) (1929) ドイツ訳本より重訳。
205	⑧	1932	译文补编	《十敏士》代序		П.С.Коран[露]	黒田辰男及び、山内封介の日本語訳より重訳。
206	⑧	1932	译文补编	苏联文学理论及文学批评的现状		上田進[日]	
207	⑥	1933	一天的工作	我要活		アレクサンドル・セルゲーエヴィチ・ネヴエーロフ (Alexandr Sergeevich Neverov) [露]	Maria Einsteinによるドイツ語訳からの重訳。"Das Antlitz des Lebens" 小説集より。
208	⑥	1933	一天的工作	革命的英雄们		Dmitry Andreyevich Furmanov	A. Vidéusによるドイツ語訳、"Die roten Itziden" (1928) からの重訳。
209	⑥	1933	一天的工作	精煤, 人们和耐火砖		Fedor Ivanovich Panferov/ V. Ilienkov [露]	ソヴェート事情研究会の日本語訳書『ソヴェート同盟社会主義建設叢書』第1編『衝撃隊』(1931)から重訳。

524

## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)  
 出典は、《魯迅訳文全集》参照。  
 〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

210	⑥	1933	一天的工作	工人		セルゲイ・イワノビッチ・マラーシキン (Sergey Ivanovich Malashkin) [露]	日本語訳本からの重訳 (大田信夫『右側の月』?)
211	⑥	1933	一天的工作	父亲		ミハイル・アレクサンドロヴィチ・シヨローホフ (Mikhail Aleksandrovich Sholokhov) [露]	Nadja Strasser (「新式拉斐尔」と表記) "DREISSIG NEUE ERZÄHLER DES NEUEN RUSSLAND" (『新俄新小説家三十人集』と表記) (1929) ドイツ訳本より重訳。
212	⑥	1933	一天的工作	铁的静寂		Nikolai Liashko[露]	外村史郎『芳澤露西亜短編集』日本語訳からの重訳。
213	⑥	1933	竖琴	穷苦的人们		アレクサンドル・ステパノーヴィッチ・ヤコブレフ (Aleksandr Stepanovitch Yakovlev) [露]	『近代短編小説集』収録、八住利雄の訳本からの重訳。
214	⑧	1933	译文补编	海纳与革命	ハイネと革命		高田暢造の日本語訳『ハイネ研究』(1933.6, 隆章閣出版)より重訳
215	⑦	1934	坏孩子和别的奇闻	那是她		アントン・チエーホフ (Anton Pavlovich Chekhov) [露]	ドイツ語からの重訳。
216	⑦	1934	坏孩子和别的奇闻	笔记课副手日记抄		アントン・チエーホフ (Anton Pavlovich Chekhov) [露]	ドイツ語からの重訳。

525

## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

217	⑦	1934	坏孩子和别的奇闻	假病人		アントン・チェーホフ (Anton Pavlovich Chekhov) [露]	ドイツ語からの重訳。
218	⑧	1934	译文补编	果戈理私观	「ゴーゴリ私観」『文学評論』第1巻第2号(1934.4)	立野信之[日]	
219	⑧	1934	译文补编	我的文学修养		マクシム・ゴーリキー (Maxim Gorky) [露]	匹屋彦の日本語訳『文学評論』第1巻第5号(1934.7, NANKA社)より重訳。
220	⑧	1934	译文补编	鼻子		ニコライ・ヴァシリーエヴィチ・ゴーゴリ (Nikolai Vasilievich Gogol) [ウクライナ(露)]	『ゴゴリ全集』第4巻『短編小説集』(1934, ナウカ出版)の八住利雄訳より重訳。
221	⑧	1934	译文补编	描写自己		アンドレ・ポール・ギヨーム・ジッド (André Paul Guillaume Gide) [仏]	石川涌による日本語訳の重訳か?
222	⑧	1934	译文补编	艺术都会的巴黎	Paris als Kunststadt: Die Kunst ist in Gefahr	ジョージ・グロツス (George Grosz) [独]	麻生義「芸術都市としてのの巴里」『芸術の危機』(1926, 金星堂)
223	⑧	1934	译文补编	就述自己的纪徳		石川涌[日]	
224	⑧	1934	译文补编	贈《新語林》詩及致《新語林》读者辞		「莉莉・珂貝」とあり オーストリア	

526

## 資料④

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

225	⑧	1934	译文补编	饥饿		サルトルウイコフ (Mikhail Yevgratovich Saltykov-Shchedrin) [露]	八杉貞利による日本語訳「飢饉」『詩人』(『海外文学新選:第20編』1924.11, 新潮社)より重訳。
226	⑥	1935	俄羅斯的童话			マクシム・ゴーリキー (Maxim Gorky) [露]	高橋晩成による日本語訳からの重訳。
227	⑥	1935	表		Часы (金時計)	シ・パンダグレーエフ (L. Pantel'ev)[露]	Maria Einsteinによるドイツ語訳(1930)からの重訳。横木楠部『金時計』日本語からの翻訳参照。
228	⑦	1935	死魂灵			ニコライ・ヴァシリーエヴィチ・ゴーゴリ (Nikolai Vasilievich Gogol) [ウクライナ(露)]	ドイツ語訳本からの重訳。日本語訳本『死せる魂』, 英訳本も参照。
229	⑦	1935	坏孩子和别的奇闻	阴谋		アントン・チェーホフ (Anton Pavlovich Chekhov) [露]	ドイツ語からの重訳。
230	⑦	1935	坏孩子和别的奇闻	难解的性格		アントン・チェーホフ (Anton Pavlovich Chekhov) [露]	ドイツ語からの重訳。
231	⑦	1935	坏孩子和别的奇闻	波斯劫章		アントン・チェーホフ (Anton Pavlovich Chekhov) [露]	ドイツ語からの重訳。
232	⑦	1935	坏孩子和别的奇闻	暴睡人		アントン・チェーホフ (Anton Pavlovich Chekhov) [露]	ドイツ語からの重訳。

527

## 資料③

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

233	㊦	1935	坏孩子和别的奇闻	坏孩子		アントン・チェーホフ (Anton Pavlovich Chekhov) [露]	ドイツ語からの重訳。
234	㊦	1935	译文补编	村妇	ブルガリアの女	イヴァン・ヴァーゾフ (Ivan Vazov) [物]	シャターンスカ (Marya Jonas von Szajnska) によるドイツ語訳「ブルガリアの女及びその他の小説」『レクラム世界文庫』からの重訳。
235	㊦	1935	译文补编	恋歌		ミハイル・サドヴァース (Mihail sadoveanu) [ルーマニア]	ボルチア (Eleonora Borcia) によるドイツ語選集"Das Liebeslied und andere Erzählungen"からの重訳。
236	㊦	1936	死魂灵	第二部残稿		ニコライ・ヴァシリーエヴィチ・ゴゴリ (Nikolai Vasilievich Gogol) [ウクライナ (露) ]	
237	㊦	1936	死魂灵	序言		N.Kotrialevsky	ドイツ語訳本からの重訳。日本語訳本『死せる魂』, 英訳本も参照。
238	㊦	1936	药用植物			刈米達夫[口]	日本刈米達夫の抄訳。
239	㊦	1938	山民牧唱	山民牧唱		ピオ・パローハ (Pio Baroja y Nessi) [西]	笠井鏡夫・永田寛定の日本文語訳(1928-1934)からの重訳。

528

## 資料④

第2章:調査に使用した魯迅翻訳作品目録(創作年順)

出典は、《魯迅訳文全集》参照。

〈斯巴達之魂〉(1903)は《魯迅全集》参照。

240	㊦	1938	山民牧唱	序文		ピオ・パローハ (Pio Baroja y Nessi) [西]	笠井鏡夫・永田寛定の日本文語訳(1928-1934)からの重訳。
241	㊦	1938	山民牧唱	少年別		ピオ・パローハ (Pio Baroja y Nessi) [西]	笠井鏡夫・永田寛定の日本文語訳(1928-1934)からの重訳。
242	㊦	1938	山民牧唱	促狭鬼菜格羌台奇		ピオ・パローハ (Pio Baroja y Nessi) [西]	笠井鏡夫・永田寛定の日本文語訳(1928-1934)からの重訳。
243	㊦	1938	山民牧唱	放浪者伊利沙辟台		ピオ・パローハ (Pio Baroja y Nessi) [西]	笠井鏡夫・永田寛定の日本文語訳(1928-1934)からの重訳。
244	㊦	1938	山民牧唱	会友		ピオ・パローハ (Pio Baroja y Nessi) [西]	笠井鏡夫・永田寛定の日本文語訳(1928-1934)からの重訳。
245	㊦	1938	山民牧唱	緩司向族の人們		ピオ・パローハ (Pio Baroja y Nessi) [西]	笠井鏡夫・永田寛定の日本文語訳(1928-1934)からの重訳。
246	㊦	1938	死魂灵	附录 德國沃多・培克編			

529

資料⑨  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文1  
「連体修飾語+人称代詞」→他の構造  
日本語原作出典は、「参考文献目録」参照。

通し番号	翻訳発表年	翻訳タイトル	収録	翻訳者	翻訳頁数	原作初出年	原作タイトル	著者	原文頁数	中国語訳	原文	修飾語の性質(日本語)
1	1906	美人煙草	東方雜誌 第3年第7期	吳禱	p.45	1905	美人真	廣津柳浪	p.112	你是他的丈夫。他也瞞着不說。……愁地時。可是他叔母借給學費與你麼。	夫と頼んでる君にも秘して居たと……では、叔母と云ふ人が、君に給する學資を借して居たのか。	動詞性
2	1906	美人煙草	東方雜誌 第3年第7期	吳禱	p.46	1905	美人真	廣津柳浪	p.112	這件事延地草率疏忽。實不想似你深遠慮的占且義久。	平生思慮の深い君にも似合んぢやないか、其位な所に注意けなかつたと云ふのは。	形容詞性
3	1913	俠女郎	小説月報 第3巻第10号	吳禱	p.13	1911	女俠姫	押川春浪	p.87	便是幽靈城當真有什麼怪異。須也有個怪異的原因。斷不能無端憑空出現的。如此一想。他便恣然紳住。心驚難熬。道不得是羅說欲語。要恐動破那個怪異的原因。前文已經再三表明。便是 <u>天性好奇之人</u> 。看官們早已知道著。他既起了這個情苗。發了這顆心願。	彼の幽靈城に果たして不思議な事があれば、必ず不思議の原因があるに相違ない、ヨシ其原因を看破つて遣らうと思つたので、天性好奇な私は大も怖も感らず、	形容詞性
4	1913	俠女郎	小説月報 第3巻第10号	吳禱	p.15	1911	女俠姫	押川春浪	p.92	我原是日本人。如此說來。孟五也是日本人了。	獺うです、私は日本人です、左様云ふ貴方も日本人ですう、	形容詞性
5	1913	俠女郎	小説月報 第3巻第10号	吳禱	p.2	1911	女俠姫	押川春浪	p.64	意思很誠懇。恰好遇到個剛剛是個好奇之人。想俺並沒有要緊事件。何須急為動身。因對探役說道。既然如此。俺便停解一日。前去看來。當下就命僕人趕快喚一輛馬車坐了。向跑馬場快馳而去。	斯く云はれては、云來好奇な私の事として、何も急ぎ旅では無いし、『そんなら見物して行かう。』と、早速車馬を命じて競馬場へと急がせた。	形容詞性

531

資料⑩  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文1  
「連体修飾語+人称代詞」→他の構造  
日本語原作出典は、「参考文献目録」参照。

通し番号	翻訳発表年	翻訳タイトル	収録	翻訳者	翻訳頁数	原作初出年	原作タイトル	著者	原文頁数	中国語訳	原文	修飾語の性質(日本語)
6	1913	俠女郎	小説月報 第3巻第11号	吳禱	p.32	1911	女俠姫	押川春浪	p.131	却見迴廊左邊一間涼子的門開了。一半。打不裏露出來。半面紅微微的光來。不知什麼原因。映照在迴廊壁之上。似似幽靈般形。儘不覺暗地好笑。	何んでも、廊下の左方の一室の扉が半ば開いて、其處から覗れ出る青い様な赤い様な微かな光と、何かの作用で幽靈の様な形となり、廊下の一方の壁に赤くと映つて居るのであると分つた。私は少し可笑しくなり、	動詞性
1	1913	大復讐	小説月報 第3巻第12号	吳禱	p.19	1911	英雄小説 大復讐	押川春浪	p.39	但他們奪了我祖先家宅。謀了我自己財產。將我冷自孤立的少年。恩做到賊。剝奪我的體面。毀壞我的聲明。	彼等悪人は、僕の先祖が建てし家を奪ひ、自ら僕の財産を盗みながら、却つて憐れむべき少年になりし儘を盗人の如く罵り、此面を藏つたのである、此顔を踏んだのである、	名詞性
2	1918	小小的一個人	新青年第5巻第6号	周作人	p.623	1917	小さい一人	江馬修	p.263	但是這孩子怎麼會向我一個面生的入，這般馴熟呢？	しかしこの子はどうしてこんな風に狎々しく人なつつかい風に出るのだからう、まるで知りもしない他人の自分だに！	名詞性
3	1920	一個青年的夢	新青年第7巻第2号	魯迅	p.80	1916	或る青年の夢	武者小路實篤	p.264	只是我現在真心後悔，願你明白就好。	しかし心から私の時の自分を後悔してゐることだけは御承知下さい。	名詞性(時間)
4	1921	女靴	小説月報 第12巻第12号	夏巧尊	p.9	1903	女難	國木田獨步	p.92	盲人就是不言，也不會認識我的；他暫時向着我，繼而又吹起來了。	されど盲人なる彼社の盲目ならずとも自分を見知るべくもあらざ、暫時自分の方を向いて居たが、やがて又吹き初めた。	名詞性
5	1921	女靴	小説月報 第12巻第12号	夏巧尊	p.9	1903	女難	國木田獨步	p.94	要哭嗎，悲哀沒有要哭的這樣地淺，吹的人難道沒有何種的感着嗎？	泣かんか、泣くには餘に悲哀深し、吹く人は抑も何の感ずることなきか。	動詞性

532

6	1923	其夫婦	小説月報 第18巻第 11号	周作人	p.5	1921	或る天 婦	武者小路實 篤	p.432	以前、他熱心於教授，覺得很直 趣味的，現在變成不熱心了，不 能安靜了，對於學生的質問，也 不能屢次不對的回答。	今まで熱心に教へることに興味 を失つてゐた彼は急に不熱心に なつた。おちつたなくなつた。 學生の質問に、とんちんかんの 返辭をすること多かつた。	動詞性
7	1927	龍	小説月報 第18巻第 9号	胡可章	p.87	1919	龍	芥川龍之介	p.63	這太客氣，說把我們這種粗賤人 說的話，拿來一記在書裏—— 只這個，在我只是惶恐萬分。	形容詞性	
8	1927	影	小説月報 第18巻第 9号	顧壽白	p.76	1920	影	芥川龍之介	p.51	一點鐘以後，陳彩發見了他自己 像賊一樣把耳耷貼在他們夫妻倆 的臥室的門上，在那里靜悄悄地 偵察的樣子。	動詞性	
9	1927	影	小説月報 第18巻第 9号	顧壽白	p.77	1920	影	芥川龍之介	p.53	陳彩快若要罵起擾着羅惑的己來 了。	動詞性	
10	1927	開化的 殺人	小説月報 第18巻第 9号	鄭心 南・梁 希杰	p.66	1918	開化的 殺人	芥川龍之介	p.67	你們讀了我的遺書之後，如果仍 能記憶你們的故人而泫然動者憐 憫之情，那是我的望外的大幸！	名詞性	
11	1927	開化的 殺人	小説月報 第18巻第 9号	鄭心 南・梁 希杰	p.66	1918	開化的 殺人	芥川龍之介	p.69	這如畫的幾分鐘的吐止，至今還 使我不能忘懷。	名詞性 (時間)	

12	1927	開化的 殺人	小説月報 第18巻第 9号	鄭心 南・梁 希杰	p.67	1918	開化的 殺人	芥川龍之介	p.70	或は又予がバルマルの御調を歩 自身を顧みしか、それは茲に敘説 するの要なる可し。	名詞性
13	1927	開化的 殺人	小説月報 第18巻第 9号	鄭心 南・梁 希杰	p.67	1918	開化的 殺人	芥川龍之介	p.71	舊時の子が心算を以てすれば、 實に明子なききの日本は、故國に 以て残酷にあらず。	名詞性 (時間)
14	1927	開通的 丈夫	小説月報 第18巻第 9号	周燦久	p.91	1919	開化的 良人	芥川龍之介	p.89	が、近づきになつて聞もない私 も、子爵の交際嫌ひな性質は、 以前からよよく承知してゐたか ら、申張の間、側へ行つて挨拶 したものでどうかを決しかね た。	形容詞性
15	1927	開通的 丈夫	小説月報 第18巻第 9号	周燦久	p.93	1919	開化的 良人	芥川龍之介	p.96	「三浦の親は何でも下谷あたり の大地主で、彼が仏蘭西へ渡る の同時、二人とも前後して歿 したつたとか云ふ事でしたか ら、その一人息子だつた彼は、 當時もう相當な資産家になつて ゐたのでせう。	名詞性
16	1927	開通的 丈夫	小説月報 第18巻第 9号	周燦久	p.94	1919	開化的 良人	芥川龍之介	p.101	が、友だちはそれぞれで黙つてゐて も、親戚の身になつて見ると、萬一 元來恭順な彼ではあるし、萬一 血縁を絶やしてはと云ふ心配も なくはないので、	形容詞性

資料⑨  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文1  
「連体修飾語+人称代詞」→他の構造  
日本語原作出典は、「参考文献目録」参照。

17	1927	開通の 丈夫	小説月報 第18巻第 9号	周焯久	p.95	1919	開化の 良人	芥川龍之介	p.103	不遇三浦向來以出門，必定要穿他在巴黎做的洋服，隨便什麼地方，藉以開通一個平常的男子的却是這裏一個平常的男子的。在我接到他的通知當時，已經忍不住要笑了出來。現在既知道了詳細情形，更覺按捺不下。	動詞性
18	1927	開通の 丈夫	小説月報 第18巻第 9号	周焯久	p.96	1919	開化の 良人	芥川龍之介	p.105	他聽見我回來，特為到新橋車站來接我，我一個和他握手，就覺得他成了這個狀況。	動詞性
19	1927	開通の 丈夫	小説月報 第18巻第 9号	周焯久	p.99	1919	開化の 良人	芥川龍之介	p.119	聽見這位女勸人家的醜聞，業已難受，後來好不容易纔隨着他們兩人起身，走到生輝的大門口來，正要想坐上包車回家，忽然看見右一輛兩人同坐的黃包車，車蓬上的雨點，映着燈光，特別明亮，一直推進了大門來。	動詞性
20	1927	開通の 丈夫	小説月報 第18巻第 9号	周焯久	p.99	1919	開化の 良人	芥川龍之介	p.120	我一面獨了煩惱悶着，一面對於我自己不敢等待天明，就倉卒驟進車篷內去的那種膽小，不由自己也生起氣來。	動詞性
21	1927	開通の 丈夫	小説月報 第18巻第 9号	周焯久	p.101	1919	開化の 良人	芥川龍之介	p.125	當時我所肯定的，是想像上描寫出來的他們的關係。	名詞性 (時間)

535

資料⑩  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文1  
「連体修飾語+人称代詞」→他の構造  
日本語原作出典は、「参考文献目録」参照。

22	1927	開通の 丈夫	小説月報 第18巻第 9号	周焯久	p.101	1919	開化の 良人	芥川龍之介	p.125	所以自從我們結婚以後，我察覺出我們兩人間的愛情不能認為純粹的那個時候起，我一方面對於我自己輕輕變動，非常的不後悔，同時對於在勢非和盛同居不可的內人，又覺到異常可憐。	形容詞性
23	1927	開通の 丈夫	小説月報 第18巻第 9号	周焯久	p.101	1919	開化の 良人	芥川龍之介	p.127	我深信她的表弟的愛情雖然是虛偽的，而她本身的愛情卻是純粹的。——所以替內人自己的幸福着想，我非得出來參與他們的這種關係不可。	動詞性
24	1927	湖南的 扇子	小説月報 第18巻第 9号	夏巧尊	p.110	1926	湖南の 扇	芥川龍之介	p.12	這些在旅行者的我的眼中，都是中國小說裏恰好的女主人公的名字。	名詞性
25	1928	愛人故 事	小説月報 第19巻第 1号	湖六逸 湖六逸	p.53	1919	愛人物 語	加藤武雄	p.24	晃了跟在我的後面走進店頭的門首，阿嫂就說——「呀，小紅，小花，來得正好呢，來接我的麼？誰只來過兩三次，就很記得到這裏來的路呢！」說時，交互的撫投牠們的背。	動詞性

536

資料⑨  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文1  
「連体修飾語+人称代詞」→他の構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

26	1928	富美子の脚	小説月報 第19巻第 3号	沈端先	p.419	1919	富美子の足	谷崎潤一郎	p.382	直到最近，我方從從一本書上知道有這種瘋狂在心理上崇拜異性的足を崇拜する拜物教徒——Foot-Fetichistの名を以て呼ばるべき人々が、僕以外にも無数にあると云ふ事實を、ついで近頃になつて或る聖物から學んだ際には、それ以來自分の仲間が何處かに一人くらくらゐる居さうなものだと、内々氣を附けて扱つて居たのでした。	動詞性
27	1928	富美子の脚	小説月報 第19巻第 3号	沈端先	p.420	1919	富美子の足	谷崎潤一郎	p.385	從現在想起來，當時我的心裡，不僅是單爲着要知道他人的秘密的簡單的好奇，在深奧的胸臆裏面，或許還潛伏着一種不能自己的慾念。	名詞性 (時間)
28	1928	富美子の脚	小説月報 第19巻第 3号	沈端先	p.422	1919	富美子の足	谷崎潤一郎	p.389	此の事實を知つて居る物は、當の相手、——美しい足的所有者たるお富美さんと、かく云ふ儘だと、それからお定と、三人だけ	形容詞性
29	1928	富美子の脚	小説月報 第19巻第 3号	沈端先	p.422	1919	富美子の足	谷崎潤一郎	p.390	あの上をお富美さんの足が僕の上に踏んでくれた時の心持ち、——あの時の躰は踏まれて居る自分の方が、それに見惚れて居る體言よりもたしかに幸福だと思ひました。	名詞性 (時間)

資料⑩  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文1  
「連体修飾語+人称代詞」→他の構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

30	1928	實驗室	小説月報 第19巻第 11号	金源片	p.1311	1917	實驗室	有島武郎	p.168	今朝、妻を解剖する可否を凡と論じながら、彼れが自信と興味とに心ををどらして、残りもななく弊働したマイクロトーム、染色素、その外のものゝまきんど一つの机の上にならされた枯枝のやうに全積み重みふられた枯枝のやうに全の底には見えた。	名詞性 (時間)
----	------	-----	----------------------	-----	--------	------	-----	------	-------	---	-------------



資料⑩  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文2  
他の構造→“定語+人称代詞”構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

通し番号	翻訳発表年	翻訳タイトル	収録	翻訳者	翻訳頁数	原作初出年	原文タイトル	著者	原文頁数	中国語訳	原文	修飾語の性質(中国語)
1	1920	一個青年の夢	新青年第7巻第4号	魯迅	p.15	1916	或る青年の夢	武者小路實篤	p.416	而且說，其中的我，還要被殘酷的虐殺哩。	そしてわたしは山でも殘虐な殺され方をすると云はれた。	名詞性
2	1921	女難	小説月報第12巻第12号	夏丐尊	p.21	1903	女難	國木田獨步	p.133	那時候的我呢，也並非真如長屋所稱贊的誠實，不足水石以上，心情也當然覺得異樣了。	そして其時の私の心持を言ひますと、決して長屋の者が信じて居たほどの堅固なものでなかつたので、木や石でない限り、欠張り妙な心持がしたのでいいます。	名詞性(時間)
3	1922	湯原通信	小説月報第13巻第2号	美子	p.38	1902	湯ヶ原より	國木田獨步	p.221	我感謝上帝不創造依着批評家所希望的我和人類。	僕は批評家の御注文に應ずべく神様が僕及び人類を造つて呉れなかつたことを感謝する。	動詞性
4	1922	湯原通信	小説月報第13巻第2号	美子	p.38	1902	湯ヶ原より	國木田獨步	p.222	父母兄弟都沒有的，這晚上很不舒服。	誰も兄妹もない僕の身には、こんな恥は願ふ感心しないので、	動詞性

539

資料⑩  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文2  
他の構造→“定語+人称代詞”構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

5	1922	湯原通信	小説月報第13巻第2号	美子	p.41	1902	湯ヶ原より	國木田獨步	p.232	看到帶着死人般的臉龐的我返回來，宿舍裏的人將怎樣驚惶呀！——這天姐妹倆剛到水但下午便回娘家去了；這事的我底驚惶，却比這驚惶更甚。	死人のやうな顔をして僕の歸つて來たのを見て、宿の者は如何に驚いたらう。其驚よりも僕の驚いたのは此日お絹が來たが、午後又實家に歸つたとの事である。	動詞性
6	1927	龍	小説月報第18巻第9号	胡可章	p.86	1919	龍	芥川龍之介	p.62	所以打算自今日起，浦路上往來出休吧，將古今的故事，每人說一個給我聽，把來編入冊子裏。	就いては今日から往來のその方どもに、今は昔の物語を一つづつ聞かせて貰うて、それを及紙に編みなさうと思ふ。	動詞性
7	1927	開通的丈夫	小説月報第18巻第9号	周頌久	p.93	1919	開化の良人	芥川龍之介	p.94	總令沒有這個介紹，那個時候的我，也早已已被予留的懷古談所感動，	又、それが無いにしても、その時にはもう私も、何時か予留の懷古的な談話に釣ひこまれて、	名詞性(時間)
8	1927	地獄變相	小説月報第18巻第9号	江鍊百	p.59	1918	地獄變	芥川龍之介	p.315	這個女子是良秀的女兒，也不必特別的表明了，但是在那夜的舞，與平常簡直像兩個人的樣了，是分明明明的看在我的眼裏。	それが良秀の娘だつたことは、何もわざ／＼申し上げるまでもございませぬまい。が、その晩のあの女は、まるで人間が變つたやうに、生々と私の眼に映りました。	名詞性(時間)
9	1927	地獄變相	小説月報第18巻第9号	江鍊百	p.65	1918	地獄變	芥川龍之介	p.339	讓獨生女兒先走了晝眠路的他，大概是難以優遊活命在世上了啊。	一人娘を先立たせたあの男は、恐らく妾附として生きながらへるのに堪へなかつたのでございませう。	動詞性

540

資料⑩  
 第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文2  
 他の構造→“定語+人称代詞”構造  
 日本語原作出典は、「参考文献目録」参照。

10	1928	富美子の 脚	小説月報 第19巻第3 号	沈滄先	p.408	1919	富美子の 足	谷崎潤一郎	p.357	假使不是你先生，——不是我平 逆差理着的你，這個故事裏面的 主人公的可憐而奇怪的心理，是 沒有人能夠理解的。	先生でなければ、僕が蓋に蓋裡 して居る先生でなければ、此の氣 物語の中に出て来る主人公の氣 の着な不思議な心理を、理解し て下さる方はありさうにもな い。	動詞性
11	1928	實驗室	小説月報 第19巻第 11号	金洪若	p.1303	1917	實驗室	有島武郎	p.155	既然有了因緣做了我的弟媳的 她，無論如何我是覺得不能只任 那些像你一樣用冷冰的心腸好像 對付物品似的對付她的人們處置 的。	假にも縁があつて妹となつてく れたものを、お前はじめめ冷やや かな心で品物でも取扱ふやうに 取扱ふ人達に任せて置く氣には どうしてもなれないんだ。	動詞性
12	1928	實驗室	小説月報 第19巻第 11号	金洪若	p.1304	1917	實驗室	有島武郎	p.156	有的悠閑地在吸着紙煙，有的無 聊地在空內閑踱着，但是——看見 了進來的他，都向他打了招呼。	あるものどかに煙草を薫ら し、あるものは所在なげに室の 中を歩にまはつてゐたが、這人 つて來た彼れの姿を見ると一寸 改つて挨拶した。	動詞性

資料⑪  
 第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文3  
 「連体修飾語+人称代詞」→“定語+人称代詞”構造  
 日本語原作出典は、「参考文献目録」参照。

通し 番号	翻訳 発表 年	翻訳タイ トル	収録	翻訳者	翻訳 頁数	原作 初出 年	原作タ イトル	著者	原文 頁数	中国語訳	原文	修飾語 の性質 (中国 語)	修飾語 の性質 (日本 語)
1	1920	一個青 年の夢	新青年第 7巻第2号	魯迅	p.78	1916	或る青 年の夢	武者小 路實篤	p.260	但看不連對手的我們，却只做看凱 旋時的夢，並且單空想着在兄時的 喜歡。	しかし相手をあなどつてゐた私達 は凱旋を夢みてゐました。又逢ふ 時の歡びを空想してゐました。	動詞性	動詞性
2	1920	一個青 年の夢	新青年第 7巻第2号	魯迅	p.80	1916	或る青 年の夢	武者小 路實篤	p.263	但自以為數了你們的我，可是很覺 得對不起人，覺得傷了男子的體 面。	しかしあなた（ママ）達を生命の 恩人のやうに思つてゐた私は大變 すまない事をしたやうな氣がした のです。男の意地を傷つけられた 氣もしたのです。	動詞性	動詞性
3	1920	一個青 年の夢	新青年第 7巻第2号	魯迅	p.82	1916	或る青 年の夢	武者小 路實篤	p.269	自己的生命以上の東西，並沒有切 實抓住的我，對於自己死在戰爭裏 的事，是萬想不到。	自己の生命以上のものをしつかり つかんでゐなかつた私は日は自分が戦 争で死ぬなぞとは考へもつかない ことでした。	形容詞 性	形容詞 性
4	1920	一個青 年の夢	新青年第 7巻第2号	魯迅	p.87	1916	或る青 年の夢	武者小 路實篤	p.278	還不能做到無抵抗主義的我，但深 知戰爭的可怕和無意味的我，要不 提倡連自己都能做到的或・程度的 平和論，實在覺得不能。	少くも無抵抗主義者になり切れな い私は、そして戦死の恐ろしさ、 無意味さを腹の底から知つた私 は、自分でも實行の出来る程度の 平和論をもち出さなないではゐられ ないのです。	形容詞 性	形容詞 性



## 資料①

第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文3  
「連体修飾語+人称代詞」→“定語+人称代詞”構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

15	1921	女難	小説月報 第12巻第 12号	夏巧尊	p.12	1903	女難	國木田 獨歩	p.103	那時母親全是爲我活着的；對於過 了的，我，一味地愛憎，	母は全然私のために生きて居ました ので、二人の私をたゞ無情と可愛 がりました。	名詞 (所 屬)	名詞性
16	1921	女難	小説月報 第12巻第 12号	夏巧尊	p.19	1903	女難	國木田 獨歩	p.126	祇愛過「不要被女人欺騙」的我， 不覺反欺騙了無罪的女人；要想逃 避女難，捨了女人同時已經早受了 大女難；這是那時的我所不曉得 的。	女に欺されてはならぬとばかり教 へられた私が何時か罪もない女を 積りで女を捨た時には最早大女難 にかゝつて居たので、其時の私に はそれが解らなかつたのでいま す。	動詞性	動詞性
17	1921	女難	小説月報 第12巻第 12号	夏巧尊	p.19	1903	女難	國木田 獨歩	p.126	祇愛過「不要被女人欺騙」的我， 不覺反欺騙了無罪的女人；要想逃 避女難，捨了女人同時已經早受了 大女難；這是那時的我所不曉得 的。	女に欺されてはならぬとばかり教 へられた私が何時か罪もない女を 積りで女を捨た時には最早大女難 にかゝつて居たので、其時の私に はそれが解らなかつたのでいま す。	名詞性 (時 間)	名詞性 (時 間)
18	1922	湯原通 信	小説月報 第13巻第 2号	美子	p.40	1902	湯ヶ原 より	國木田 獨歩	p.227	但已經疎得姐妹之後的我，那姐妹 不在着的地方，實成了不愉快的地 方了。	然し既にお絹を却つた後の僕に は、お絹の居ないことは寧ろ不愉 快の場所となつてしまつたのであ る。	名詞性 (時 間)	名詞性 (時 間)

546

## 資料①

第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文3  
「連体修飾語+人称代詞」→“定語+人称代詞”構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

19	1923	其夫婦	小説月報 第14巻第 11号	局作人	p.6	1921	或る夫 婦	武者小 路實篤	p.44	我已經不是以前的我，沒有忍耐的 力氣了。	もう俺は昔の俺ではない、もう辛 抱する勇氣はない。	名詞性 (時 間)	名詞性 (時 間)
20	1927	山鴨	小説月報 第18巻第 2号	湯鶴逸	p.1	1921	山鴨	芥川龍 之介	p.305	屠格涅夫微笑着，但今日的他，已 不是往日的他，對托爾 斯泰的言辭，當感着兒童似的感 動，今則自亦不覺，每容易出以調 侃。	トゥルゲネフは微笑した。今の彼 は昔の彼ではない。昔の彼はトル ストイの言葉に、子どもらしい感 激を感じると、我知らずに皮肉に 出勝ちだつた。	名詞性 (時 間)	名詞性 (時 間)
21	1927	山鴨	小説月報 第18巻第 2号	湯鶴逸	p.1	1921	山鴨	芥川龍 之介	p.305	屠格涅夫微笑着，但今日的他，已 不是往日的他，對托爾 斯泰的言辭，當感着兒童似的感 動，今則自亦不覺，每容易出以調 侃。	トゥルゲネフは微笑した。今の彼 は昔の彼ではない。昔の彼はトル ストイの言葉に、子どもらしい感 激を感じると、我知らずに皮肉に 出勝ちだつた。	名詞性 (時 間)	名詞性 (時 間)
22	1927	山鴨	小説月報 第18巻第 2号	湯鶴逸	p.1	1921	山鴨	芥川龍 之介	p.305	屠格涅夫微笑着，但今日的他，已 不是往日的他，對托爾 斯泰的言辭，當感着兒童似的感 動，今則自亦不覺，每容易出以調 侃。	トゥルゲネフは微笑した。今の彼 は昔の彼ではない。昔の彼はトル ストイの言葉に、子どもらしい感 激を感じると、我知らずに皮肉に 出勝ちだつた。	名詞性 (時 間)	名詞性 (時 間)
23	1927	河童	小説月報 第18巻第 9号	黎烈文	p.122	1927	河童	芥川龍 之介	p.11	不，還不止他們兩人，無論誰都對 於這「特別保護住民」的我，有着 一種好奇心，	いや、彼等ばかりではありませ ん。特別保護住民だつた僕に誰も 皆好奇心を持つてゐましたから、	名詞 (所 屬)	名詞性

547

資料①  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文3  
「連体修飾語+人称代詞」→“定語+人称代詞”構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

24	1927	河童	小説月報 第18巻第 9号	黎烈文	p.131	1927	河童	芥川龍 之介	p.44	「總之我是滿足着。不過這也只能 在你面前——非河童的你的面前才 能夠這樣無所顧忌地談說啦。」	形容詞 性
25	1927	龍	小説月報 第18巻第 9号	胡可亭	p.86	1919	龍	芥川龍 之介	p.62	如此，雖只在野裏跑來跑去的我， 也一定也可以從四方八面聚集劍 刺，戴甲裝那麼多的逸事奇聞。	動詞性
26	1927	開化的 殺人	小説月報 第18巻第 9号	鄭心 南・梁 希杰	p.66	1918	開化的 殺人	芥川龍 之介	p.70	我那嚴肅的家庭都不肯給我以對明 子表示愛情的機會，而受了儒教主 義的教養的我，也懷著桑間濮上的 譏議；終於抱著無限的難愁負了孤 笈飄然向東京而去。	動詞性
27	1927	開化的 殺人	小説月報 第18巻第 9号	鄭心 南・梁 希杰	p.67	1918	開化的 殺人	芥川龍 之介	p.71	你們如要知道當時我的傷心到怎麼 程度，	名詞性 (時 間)
28	1927	開化的 殺人	小説月報 第18巻第 9号	鄭心 南・梁 希杰	p.67	1918	開化的 殺人	芥川龍 之介	p.73	因此劇團後並聽著明子去妻的消息 和蛇蝎一般的我，到此時已經因著 骨肉的愛情，竟希望著進而和他們 接近了。	形容詞 性

資料①  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文3  
「連体修飾語+人称代詞」→“定語+人称代詞”構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

29	1927	開化的 殺人	小説月報 第18巻第 9号	鄭心 南・梁 希杰	p.70	1918	開化的 殺人	芥川龍 之介	p.85	我——自慙自慙的我，很愉快地蒙 受著你們的憐慈和憐憫	動詞性
30	1927	開通的 丈夫	小説月報 第18巻第 9号	周頌久	p.95	1919	開化的 良人	芥川龍 之介	p.105	正在聚精會神聽他說話的我，見他 這樣傷感，還以為或許當子藉由朝 鮮回來的時候，三浦業已死了，不 知不覺滿眼現出不安。	動詞性
31	1927	奇譚	小説月報 第18巻第 9号	夏颯玉	p.103	1921	妙な話	芥川龍 之介	p.163	何しろ千枝子は結婚後まだ半年と 経たない内に、夫と別れてしまつ たのだから、その手紙を舞しみに してゐた事は、遠慮のない舞さへ ひやかすのは、殘酷な氣がする位 だつた。	形容詞 性
32	1927	湖南的 扇子	小説月報 第18巻第 9号	夏巧尊	p.107	1926	湖南の 扇	芥川龍 之介	p.4	それは長江を遡って來た僕には決 して珍しい見ものではなかつた。	動詞性
33	1927	湖南的 扇子	小説月報 第18巻第 9号	夏巧尊	p.111	1926	湖南の 扇	芥川龍 之介	p.14	けれども皿に變わらない僕はこの 時もやばい一つもの通りの、唯二人 の顔色を見比べてゐるより外はな かつた。	動詞性

資料①  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文3  
「連体修飾語+人称代詞」→“定語+人称代詞”構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

34	1927	湖南的 廟子	小説月報 第18巻第 9号	夏巧尊	p.112	1926	湖南の 廟	芥川龍 之介	p.16	又舉起一手指着對面的我，冷芳略 躊躇了一會，浮了微笑仍靠椅子坐 下。	のみみならずしまひには片手を疊 あげ、正面の廟を指さしたりした。も 舎芳はちよつとためらつた後、も う一度やつと微笑を浮かべ、アエ ブルの前に膝を下した。	名詞 (方 位)	名詞性
35	1927	地獄變 相	小説月報 第18巻第 9号	江練百	p.48	1918	地獄變	芥川龍 之介	p.271	何況在差差底底的我們，個個嚇得魂 不附體，更不消說了。	まして御廟に仕へてゐた私ども が、魂も消えるばかりに思つたの は、申し上げるまでもございませ ん。	動詞性	動詞性
36	1927	地獄變 相	小説月報 第18巻第 9号	江練百	p.59	1918	地獄變	芥川龍 之介	p.316	生來就蠢笨的我，只有極其明白的 事纔能夠曉得，此外甚麼事，偏偏 一點也懂不了。	此得愚な私には、分かりすぎてゐ る程分つてゐる事の外は、左摺何 一つ呑みこめません。	形容詞 性	形容詞 性
37	1927	地獄變 相	小説月報 第18巻第 9号	江練百	p.63	1918	地獄變	芥川龍 之介	p.332	先前幾乎去聲喊叫的我，到了這 時，也就完全失魂落魄，只神志然 的張着口，老望着這種可怕的景象 罷了。	前に危く叫ばうとした私も、今は 全く魂を消して、唯茫然と口を開 きながら、この恐ろしい光景を見 守るより外はございませんでし た。	動詞性	動詞性
38	1927	南京的 基督	小説月報 第18巻第 9号	鄭心南	p.115	1920	南京の 基督	芥川龍 之介	p.141	然而現在的我，如果不能照舊將生意做去。 人，便不能照舊將生意做去。	けれども唯合の私は、御客にこの 病を移さない限り、今までのやう な商賣を致して參る事は出来ませ ん。	名詞性 (時 間)	名詞性 (時 間)

資料①  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文3  
「連体修飾語+人称代詞」→“定語+人称代詞”構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

39	1927	南京的 基督	小説月報 第18巻第 9号	鄭心南	p.118	1920	南京の 基督	芥川龍 之介	p.156	可是意思不到除卻蓋着氈的她以 外，不消說醋肖十字架上的耶穌的 他，連人影也不曾見了。	しかし其處には恐ひもよらず、毛 布に蔽はれた彼女の外は、十字架 の耶穌に似た彼は勿論、人の影さ へも見えなかつた。	動詞性	動詞性
40	1927	南京的 基督	小説月報 第18巻第 9号	鄭心南	p.118	1920	南京の 基督	芥川龍 之介	p.156	可是意思不到除卻蓋着氈的她以 外，不消說醋肖十字架上的耶穌的 他，連人影也不曾見了。	しかし其處には恐ひもよらず、毛 布に蔽はれた彼女の外は、十字架 の耶穌に似た彼は勿論、人の影さ へも見えなかつた。	動詞性	動詞性
41	1927	南京的 基督	小説月報 第18巻第 9号	鄭心南	p.119	1920	南京の 基督	芥川龍 之介	p.157	然而那壁和她愛好的他，一聲也不 別而去，與其說不可信，無寧不忍 相信。	しかしあれ程彼女を愛撫した彼 が、一言も別れを惜まらずに、行つ てしまつたと云ふ事は、信じられ ないと云ふより、寧ろ信じるに 忍びなかつた。	動詞性	動詞性
42	1927	尾生的 信；芥 川龍之 介小品 四種	小説月報 第18巻第 9号	謝六逸	p.134	1920	尾生の 信	芥川龍 之介	p.82	那就是宿於這般的我的魂了。	それがかう云ふ私に宿つてゐる魂 なのである。	形容詞 性	形容詞 性
43	1927	荷語 集；芥 川龍之 介雜著 兩種	小説月報 第18巻第 9号	宏徒	p.142	1923- 1925、 1927	俳儔の 言葉	芥川龍 之介	p.72	可是先請放心吧，至少壽喜諸君 的，藝術是絕對的不可能的。壽喜 不理解三千年來藝術的魔力的諸 君？——	しかしまづ安心し給へ。少くとも 諸君を毒することは絶対に藝術に は不可能である。三千年來藝術の 魅力を理解せぬ諸君を毒すること は。	動詞性	動詞性

資料①  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文3  
「連体修飾語+人称代詞」→“定語+人称代詞”構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

44	1927	接吻	小説月報 第18巻第 12号	謝六逸 p.36	1920	接吻	加藤武 雄	p.21	真的，奪了母親的命而生出來的 我，又是侵蝕着阿媽的青春而成長 的我了。	本當に、母の命を奪つて生れた私 は、姉の若さを蝕みつゝ生ひ立つ た様な私なのでした。	動詞性	動詞性	動詞性
45	1927	接吻	小説月報 第18巻第 12号	謝六逸 p.36	1920	接吻	加藤武 雄	p.21	真的，奪了母親的命而生出來的 我，又是侵蝕着阿媽的青春而成長 的我了。	本當に、母の命を奪つて生れた私 は、姉の若さを蝕みつゝ生ひ立つ た様な私なのでした。	形容詞 性	動詞性	形容詞 性
46	1928	愛犬故 事	小説月報 第19巻第 1号	謝六逸 p.46	1919	愛犬物 語	加藤武 雄	p.4	鹽柱怕鼠生人的我，也井不到外面 去尋求女伴。	凶氣な人見知りをする私は外へ出 て仲間を求めようとしなかつた。	形容詞 性	動詞性	動詞性
47	1928	愛犬故 事	小説月報 第19巻第 1号	謝六逸 p.46	1919	愛犬物 語	加藤武 雄	p.5	比我早生出來頭三年的牠們，總說 已經是很老的大也行的，而且充分 的只有老大般的威容和智慧。	私より、三年前に生れたといふ彼 等は、もうなかなか老犬といつて立 かつた。而して十分に老犬らしい 威容と知恵とを具備して居た。	動詞性	動詞性	動詞性
48	1928	愛犬故 事	小説月報 第19巻第 1号	謝六逸 p.48	1919	愛犬物 語	加藤武 雄	p.9	羞澀的我，到了親親熱熱地叫着阿 媽的地步，雖是實了時日，可是只 要一見着阿嫂含着微笑的和諧的眼 睛，在我的心中便要歌唱出什麼來 了。	はにかみやの私が、親しげに姉さ んと呼びかける迄にはは入分の時が いつたが、義姉の微笑を含んだ優 しげな眼さへ見れば、私の心の中で は何かか歌をうたひ出した。	形容詞 性	動詞性	名詞性

資料①  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文3  
「連体修飾語+人称代詞」→“定語+人称代詞”構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

49	1928	愛犬故 事	小説月報 第19巻第 1号	謝六逸 p.50	1919	愛犬物 語	加藤武 雄	p.14	無論怎樣說，阿媽是不放她回去 的，我不放她回去！聽着了這一廬 話的我，一個人在那裏這樣的叫 了。	誰が何と云つたつて義姉さんは歸 さない。俺が歸さない！と、丕 れを聞いた私は一人で、腹の中に かう叫んだのである。	動詞性	動詞性	動詞性
50	1928	愛犬故 事	小説月報 第19巻第 1号	謝六逸 p.51	1919	愛犬物 語	加藤武 雄	p.16	同阿嫂並排着倦然地坐在入口的階 段上的我，因為這突然的光亮和熱 鬧，茫然無所措了。	義姉と並んで上り框のところへぐ つたりと腰をおろした私は、だし ぬげの明るさと賑やかさとで、一 寸の間はうつとする。	動詞性	動詞性	動詞性
51	1928	愛犬故 事	小説月報 第19巻第 1号	謝六逸 p.54	1919	愛犬物 語	加藤武 雄	p.25	牠們，確乎的，只有牠們來迎的樣 子。不知在什麼時候臨臨來的他， 在片前的大門口，靦腆的拜齊前 腳，「呀！我來迎接了，請回去 吧！」好像在這樣說了。	たしかにもう彼等丈で迎ひに來れ る様になつたに違ひ無い。いつの 理にかやつて來た彼等は片先の正 明に、行儀よく前脚を揃へて 「さあ、お迎へにまゐりました。 歸りませう。」といふ風をする。	動詞性	動詞性	動詞性
52	1928	富美子 的脚	小説月報 第19巻第 3号	沈端先 p.408	1919	富美子 の足	谷崎潤 一郎	p.357	和先生一直不相識的一封青年學生 的 <u>我</u> ，突然寫這樣的一封信給你， 請你寬罪！	先生に一面識もない青年生の儀 が、突然か云ふ手紙を差し上げ る失禮を御免下さい。	名詞性	名詞性	名詞性
53	1928	富美子 的脚	小説月報 第19巻第 3号	沈端先 p.409	1919	富美子 の足	谷崎潤 一郎	p.359	這篇故事的主人公，是已述的封 翁，此外就是女主人公的富美子和 稍稍在故事裏纏繞着的 <u>我自己</u> 。	で、此の物語の主人公は隠居であ るとは云ふやうなものゝ、その外 に女主人公たる妾の富美子と、そ れから却て云ふ隱居自身も、幾分か は話の中に纏繞して居るものと思 つて頂きたうございます。	動詞性	動詞性	形容詞 性

資料①  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文3  
「連体修飾語+人称代詞」→“定語+人称代詞”構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

54	1928	富美子の脚	小説月報 第19巻第 3号	沈端先	p.409	1919	富美子の足	谷崎潤 一郎	p.359	生長於山形縣的森郷的直在的我和封翁，不論在趣味上，在智識上，在全體性質上，都是全沒有共同點的。	山形縣の片田舎に育つた青年の僕と、舊幕時代の江戸の下町に生れた老人の隠片とは、趣味から云つても知識から云つても人間全體の肌合から云つても、全然共通の點はなかつたのです。	名詞性	名詞性
55	1928	富美子の脚	小説月報 第19巻第 3号	沈端先	p.417	1919	富美子の足	谷崎潤 一郎	p.377	對於封翁的眼光發生了懷疑的我，很快的就想像到在這種姿勢的中间一定有些什麼特別地引動他老人家的新的地方。	あの隱居の「眼つき」に動いて或る疑ひを抱き始めた僕は、此のボオズの川に、何か老人の心を惹くものが潜んで居るに違ひなからうと、早くもそんな想像を廻らししました。	動詞性	動詞性
56	1928	富美子の脚	小説月報 第19巻第 3号	沈端先	p.419	1919	富美子の足	谷崎潤 一郎	p.382	最初、對於老人的行動已經覺得不尋常的我，對於他不時偷偷摸摸地狂笑着富美子的胸的眼光，發生了奇怪的感覺。	最初から老人の素振りには、何となく尋常でないものが潜んで居る事に氣が付いて居た僕は、彼がをりをり徐むやうにしてお富美さんの足の恰好を捉へ居る眼つきを、いかにも怪しいと感じたので、	動詞性	動詞性
57	1928	富美子の脚	小説月報 第19巻第 3号	沈端先	p.422	1919	富美子の足	谷崎潤 一郎	p.380	所以頑固的他，對於我的存在，也許和富美子的存在同樣的必要。	病床にある彼に取つては、僕の存在はお富美さんと同じ程度に必要であつたとも、云はれないことはいありますまい。	動詞性	動詞性

資料①  
第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文3  
「連体修飾語+人称代詞」→“定語+人称代詞”構造  
日本語原作出典は、「参考文獻目録」参照。

58	1928	富美子の脚	小説月報 第19巻第 3号	沈端先	p.422	1919	富美子の足	谷崎潤 一郎	p.390	在悲鬱的我自己，也和封翁同樣地感到刺激，和曾到同樣愉快的利那。	が、同時に木の眞似をさせられて居る僕自身も、隠居と同じ脚跡を受け、同じ快感の利那を味はむ得たのです。	動詞性	動詞性
59	1928	富美子の脚	小説月報 第19巻第 3号	沈端先	p.422	1919	富美子の足	谷崎潤 一郎	p.390	那，富美子の脚踏在我頭上的時候的心理，——那時候被踏着的我，似乎是的確比旁觀者封翁更幸福些。	あの、お富美さんの足が僕の額の上を踏んでくれた時の心持は、一分一毫の時の僕は踏まれて居る自分の方が、それに見惚れて居る隠居よりもたしかに幸福だと思ひました。	動詞性	動詞性
60	1928	實驗室	小説月報 第19巻第 11号	金溪若	p.130 4	1917	實驗室	有島武 郎	p.155	意志坚强的他，感着那是不愉快的。	意志の強い彼はそれを不愉快に思つた。	形容詞性	形容詞性
61	1928	實驗室	小説月報 第19巻第 11号	金溪若	p.130 4	1917	實驗室	有島武 郎	p.156	在他的背後，能聽到替立在亡妻並值也表着同情，突然Hysteric的爆發起來的兩個看護婦的啜泣的聲音。	死んだ妻の前に立つて彼れを思ひやつて、急にヒステリックにむせび出した二人の看護婦の泣き聲が後ろで聞えた。	動詞性	動詞性
62	1928	實驗室	小説月報 第19巻第 11号	金溪若	p.130 5	1917	實驗室	有島武 郎	p.158	無論怎樣說，纔只到了三日前後的他，對於那些材料有許多經驗，至少能誇後他們的老練的反对意見，是不得不感着自己是在受着他們的壓迫。	何と云つても未だ漸やく三十の彼れは、少くとも老練と云ふ事を誇り得るまでに多くの經驗を積んだ反對意見の人々の壓迫を感じない譯に行かなかつた。	動詞性	名詞性



## 資料①

第3章例文：“定語+人称代詞”構造例文3  
「連体修飾語+人称代詞」→“定語+人称代詞”構造  
日本語原作出典は、「参考文献目録」参照。

63	1928	實驗室	小説月報 第19巻第 11号	金原岩 0	1917	實驗室	有島武 郎	p.165	<p>坐在一個，雖然悲嘆着她的不幸， 還有餘暇來想到爲了這個憔悴折工 自己的研究而感覺到可憐的他。看 了這個情景，一而在懷悼自己在想 着這樣念頭的薄情，同時感着勃然 湧起了真摯的同情。</p>	<p>踵の方に坐つて彼女の不幸を悲し みながら、その痛氣のためには 分の研究の中断したのを残念に思 ふ程の餘裕を有つてゐた彼は、 この有様を見て、そんな事を考へ てゐた薄情さを極むと共に、ほん とに真剣な同情が勃然として湧き 起るのを感じた。</p>	動詞性	動詞性
64	1928	實驗室	小説月報 第19巻第 11号	金原若 1	1917	實驗室	有島武 郎	p.168	<p>把膝下來的手術衣拋在地板上面， 秋后回睡花一樣，並心的緊張已經 弛放了的他，好像已經死了一樣把 身體投倒於椅子裏面。</p>	<p>手術衣を脱いで床になげ捨て、紐 のやうに疲れ果て、放心した彼は は、死んだものゝやうに椅子に身 をなげかけた。</p>	動詞性	動詞性
65	1928	實驗室	小説月報 第19巻第 11号	金原岩 2	1917	實驗室	有島武 郎	p.170	<p>沉於深切的絕望裏的他，就好像持 若追求一樣的心，把那四個箱子拿 來頂在自己的額上。</p>	<p>深い絶望に沈んだ彼れは、ずがるや うな心になつてその瓶を四つとも 取上げて自分の額にあてた。</p>	動詞性	動詞性